FUJITSU

FUJITSU Server
PRIMEQUEST 1000 シリーズ
運用管理ツールリファレンス

C122-E110-10

はじめに

本書は、MMB、PSA、UEFI の機能の詳細など、運用のさいに必要な操作や設定方法について説明しています。本書は、システム管理者を対象に書かれています。
なお、各種基準、規格への適合状況や安全上のご注意などは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 安全にご使用いただくために』 (C122-E115) を参照してください。

マニュアルに関する訂正および追記事項
マニュアルに関する訂正および追記事項は『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 訂正・追記事項』 (C122-E119) に記載しています。マニュアルを参照するさいは、あわせて『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 訂正・追記事項』 (C122-E119) をよく読んでください。

安全な使用のために

このマニュアルの取扱いについて

このマニュアルには本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。本製品を使用する前に、このマニュアルを熟読し理解したうえで当製品を使用してください。また、このマニュアルは大切に保管してください。
富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用するさいは、マニュアルの説明に従ってください。

本製品について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

添付品の保管について

添付品はサーバの運用上必要になりますので、大切に保管してください。

本書の構成と表記

ここでは、以下の項目について説明しています。

- 本書の構成と内容
- PRIMEQUEST 1000 シリーズのマニュアル体系
- 関連するマニュアル
- 略称
- 表記上の規則
- CLI（コマンドラインインターフェース）の表記
- 表記に関する注意事項
- 警告表示
- 製品の使用環境

- 商標一覧

本書の構成と内容

本書の構成は以下のとおりです。

第 1 章 MMB の Web-UI (Web ユーザーインターフェース) 操作
MMB の Web-UI を使って PRIMEQUEST 1000 シリーズを管理／運用するためのメニューの一覧と、操作方法について説明しています。

第 2 章 MMB の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作
MMB が提供する CLI (Command Line Interface) について説明しています。

第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作
MMB Web-UI を使って PSA を操作する場合の、メニュー一覧および画面と操作について説明しています。

第 4 章 PSA の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作
CLI を使って PSA を操作する場合のコマンドについて説明しています。

第 5 章 UEFI のメニュー操作
UEFI のメニュー操作について説明します。

第 6 章 UEFI のコマンド操作
UEFI のコマンド操作について説明します。

第 7 章 sadump 環境の設定
sadump 環境の設定方法について説明します。

付録 A 設定項目の一覧
各画面の設定項目の一覧を示しています。

索引
読者が本書から必要事項を探し出せるように、キーワードと参照ページとの対応を示しています。

PRIMEQUEST 1000 シリーズのマニュアル体系

PRIMEQUEST 1000 シリーズをご利用いただくためのマニュアルとして、以下のマニュアルが用意されています。
マニュアルは以下のサイトから閲覧できます。
日本語版マニュアル：http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/manual/
英語版マニュアル　：http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/manual-e/

タイトル	説明	マニュアルコード
PRIMEQUEST 1000 シリーズ はじめにお読みください	PRIMEQUEST 1000 シリーズの開梱後、参照すべきマニュアルおよび重要な情報へのアクセス方法について説明しています。(製品添付マニュアル)	C122-E114
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 安全にご使用いただくために	PRIMEQUEST 1000 シリーズを安全にご使用いただくための重要な情報について説明しています。	C122-E115

タイトル	説明	マニュアルコード
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 訂正・追記事項	PRIMEQUEST 1000 シリーズマニュアルに対する訂正・追記事項を説明しています。随時、更新されます。	C122-E119
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 製品概説	PRIMEQUEST 1000 シリーズの機能や特長について説明しています。	C122-B022
SPARC M10 システム/ SPARC Enterprise/ PRIMEQUEST 共通設置計画マニュアル	SPARC M10 システム/SPARC Enterprise および PRIMEQUEST を設置するための、設置計画および設備計画に必要な事項や考え方を説明しています。	C120-H007
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 設置マニュアル	PRIMEQUEST 1000 シリーズを設置するための仕様や設置場所の要件について説明しています。	C122-H004
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 導入マニュアル	導入のための準備や初期設定、ソフトウェアのインストールなど、PRIMEQUEST 1000 シリーズのセットアップについて説明しています。	C122-E107
PRIMEQUEST 1000 シリーズ ユーザーインターフェース操作説明書	PRIMEQUEST 1000 シリーズを適切に運用するための Web-UI および UEFI の操作方法について説明しています。	C122-E109
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル	システムを運用・管理するさいに必要なツール・ソフトウェアの利用方法、および保守 (コンポーネントの交換、異常通知) の方法について説明しています。	C122-E108
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス	MMB、PSA、UEFI の機能の詳細など、運用のさいに必要な操作や設定方法について説明しています。	C122-E110
PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス	運用中にトラブルが発生したときのメッセージとその対処方法について説明しています。	C122-E111
PRIMEQUEST 1000 シリーズ REMCS サービス導入マニュアル	REMCS サービスの導入と操作について説明しています。	C122-E120
PRIMEQUEST 1000 シリーズ 用語集・略語集	PRIMEQUEST 1000 シリーズに関する用語および略語について説明しています。	C122-E116
PRIMEQUEST 1000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル	『PRIMEQUEST 1000 シリーズ導入マニュアル』(C122-E107) の「付録 D SAN ブート環境の構築」の改版です。SAN ブート環境の導入の手順および設計上の留意事項の最新情報を掲載しています。	C122-E155

関連するマニュアル

PRIMEQUEST 1000 シリーズに関連するマニュアルとして、以下のマニュアルが用意されています。

関連するマニュアルは以下のサイトから閲覧できます。
http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/
最新の ServerView Suite マニュアルは以下のサイトから閲覧できます。
http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/catalog/manual/svs/

タイトル	説明	マニュアルコード
Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 5 編	Red Hat 社から公開されている RHEL5 向けマニュアルを補足するマニュアルです。RHEL5 システムの設計、導入、運用、保守に関する技術情報および参考となる考え方を提供します。	J2UL-1207
Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 5 編 (SupportDesk サービスご契約者様向け)	『Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 5 編』に SupportDesk サービスで提供されるツールの導入、運用情報を加えたマニュアルです。SupportDesk サービスを契約されたお客様に提供されます。	J2UL-1206
Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 6 編	Red Hat 社から公開されている RHEL6 向けマニュアルを補足するマニュアルです。RHEL6 システムの設計、導入、運用、保守に関する技術情報および参考となる考え方を提供します。	J2UL-1337
Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 6 編 (SupportDesk サービスご契約者様向け)	『Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 6 編』に SupportDesk サービスで提供されるツールの導入、運用情報を加えたマニュアルです。SupportDesk サービスを契約されたお客様に提供されます。	J2UL-1336
ServerView Suite ServerView Operations Manager Quick Installation (Windows)	Windows 環境での ServerView Operations Manager のインストールと起動方法について説明しています。	なし
ServerView Suite ServerView Operations Manager Quick Installation (Linux)	Linux 環境での ServerView Operations Manager のインストールと起動方法について説明しています。	なし
ServerView Suite ServerView Installation Manager	ServerView Installation Manager を使ったインストールについて説明しています。	なし
ServerView Suite ServerView Operations Manager Server Management	ServerView Operations Manager によるサーバ監視の概要と、ServerView Operations Manager のユーザーインターフェースについて説明しています。	なし

タイトル	説明	マニュアルコード
ServerView Suite ServerView RAID Management User Manual	ServerView RAID Manager による RAID 管理について説明しています。	なし
ServerView Suite Basic Concepts	ServerView Suite の基本的な概念について説明しています。	なし
ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Linux	ServerView Linux エージェントのインストール、および ServerView Linux エージェントのアップデートインストールについて記載しています。	なし
ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Windows	ServerView Windows エージェントのインストール、および ServerView Windows エージェントのアップデートインストールについて記載しています。	なし
ServerView Mission Critical Option ユーザマニュアル	PRIMEQUEST 固有に必要な機能 (MMB 経由の通報、活性交換コマンド) をサポートするにあたって、必要な ServerView Mission Critical Option (SVmco) について説明しています。 また、VMware vSphere 5 のサーバ監視に必要な ServerView Mission Critical Option for VM (SVmcovm) に関する説明も含まれています。 ServerView Suite マニュアルのサイト (http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/catalog/manual/svs/)	なし
ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 5 インストールガイド	VMware vSphere ESXi 5 サーバで、ServerView RAID Manager を使用するためのインストールと設定について説明しています。	なし
MegaRAID SAS ユーザーズガイド	アレイコントローラー （RAID Ctrl SAS 6G 5/6 512MB (D2616) 、RAID Ctrl SAS 6G 0/1 (D2607) 、MegaRAID SAS 9280-8e） を使用するための技術情報を提供します。 PRIMERGY サイト (http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual.html)	B7FY-2751

略称

本書では、製品名を以下のように表記しています。

正式名	略 称
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5 (for Intel64)	Linux RHEL5, RHEL
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5 (for x86)	
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 6 (for Intel64)	Linux RHEL6, RHEL
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 6 (for x86)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	Windows Windows Server 2003
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard	Windows Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter	Windows Windows Server 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard	
VMware vSphere(R) 4	VMware, vSphere 4.x, VMware 4.x
VMware vSphere(R) 5	VMware, vSphere 5.x, VMware 5.x
VMware(R) ESX(R) 4	ESX, ESX 4.x
VMware(R) ESXi(TM) 5	ESXi, ESXi 5.x

表記上の規則

本書では、以下のような字体や記号を特別な意味をもつものとして使用しています。

字体または記号	意 味	記述例
『 』	参照するマニュアルの書名を示します。	『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 導入マニュアル』(C122-E107) を参照してください。
「 」	参照する章、節、項を示します。	「1.4.1 [User List] 画面」を参照してください。
[ ]	画面名、画面のボタン名、タブ名、ドロップダウンメニューを示すときに使います。	[OK]ボタンをクリックしてください。

CLI（コマンドラインインターフェース）の表記

コマンドの記載形式は以下のとおりです。

■入力形式

コマンドの入力形式は以下のように記載しています。

- 値を入力する変数は < >で囲んで記載
- 省略可能な要素は [ ]で囲んで記載
- 省略可能なキーワードの選択肢は、まとめて [ ]で囲み、|で区切り記載
- 定義が必須なキーワードの選択肢は、まとめて { }で囲み、|で区切り記載

なお、コマンドの入力形式は枠内に記載しています。

備考

PDF 形式のマニュアルでは、コマンド出力（例を含む）において、改行を表す記号（行末の¥）以外の箇所でも改行されている箇所があります。

表記に関する注意事項

- 本書では、「マネジメントボード (Management Board)」および「MMB ファームウェア」を、「MMB」と表記しています。
- 本書では、IOB と GSPB (パーティション内の LIOB/LGSPB) を合わせて「IO ユニット」と表記しています。
- 本書に掲載している画面は、実際の装置の画面と一部異なることがあります。
- 本書の画面の IP アドレス、構成情報等は表示例であり、実際の運用では異なります。

警告表示

このマニュアルでは、使用者や周囲の方の身体や財産に損害を与えないために以下の警告表示をしています。

	「警告」とは、正しく使用しない場合、死亡する、または重傷を負うことがあり得ることを示しています。
	「注意」とは、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

重　要	「重要」とは、効果的な使い方など、使用者にとって価値のある情報であることを示しています。

■本文中の警告表示の仕方

警告レベルの記号の後ろに警告文が続きます。警告文は、通常の記述と区別するため、行端を変えています。さらに、通常の記述行からは、前後 1 行ずつ空けています。

⚠警告 本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いします。感電・負傷・発火のおそれがあります。

- 各装置の新規設置と移設
- 前面、後面と側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け／取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜差し
- メンテナンス（修理と定期的な診断と保守）

また、重要な警告表示は「重要警告事項の一覧」としてまとめて記載しています。

製品の使用環境

本製品は電子計算機室での使用を前提とした電子計算機です。なお、使用環境の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。
『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 設置マニュアル』（C122-H004）

■お願い

- 本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明瞭な部分がございましたら、下記ウェブサイトに具体的な内容を記入のうえ送付してください。
  http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/
- 本書は、予告なしに変更されることがあります。
- 本書 PDF は、Adobe(R) Reader(R)で「100%表示」「単一ページ」で表示することを前提として作成しています。
- 本書 PDF では、見出しと本文の間に改ページが入ることがありますが、本書 HTML では正しく表示されます。

商標一覧

- Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の登録商標です。
- Red Hat は米国およびそのほかの国において登録された Red Hat, Inc. の商標です。
- Intel、Xeon は、米国インテル社の登録商標および商標です。
- Ethernet は、富士ゼロックス社、および米国その他の国におけるゼロックス社の登録商標です。
- VMware は VMware, Inc.の米国および各国での登録商標または商標です。
- Xen は米国およびその他の国における Citrix Systems, Inc. またはその子会社の登録商標または商標です。
- その他、会社名と製品名はそれぞれ各社の商標、または登録商標です。

- 本資料に掲載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示（TM、（R））を付記しておりません。

安全上の注意事項

重要警告事項の一覧

本マニュアル中に記載している重要な警告事項は以下のとおりです。

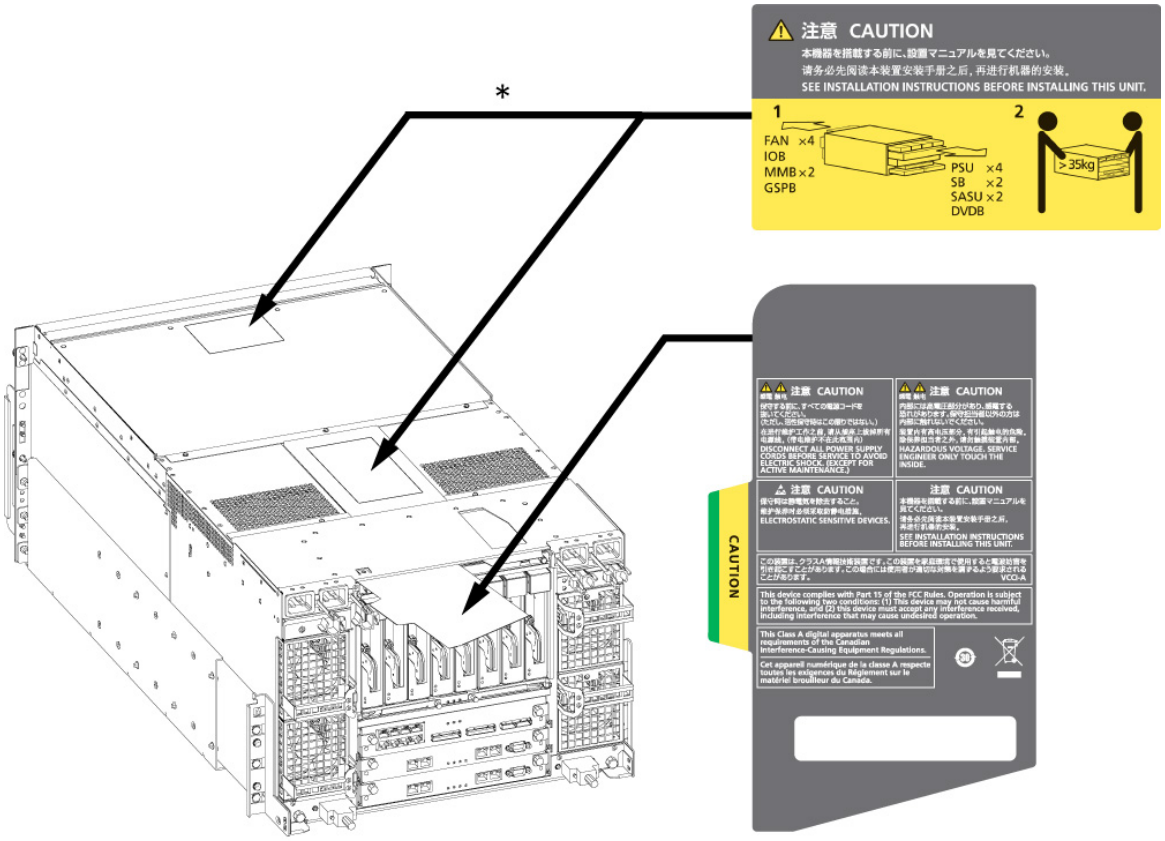
正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の障害を負うことがあり得ることと、当該製品自身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

作業区分	警告事項	記載箇所
通常操作	(データ破壊) ダンプデバイスを選択するさい、ディスクの選択が正しいか、再確認してください。選択を誤ったまま実行すると、データが破壊されます。	7.6 ダンプデバイス選択メニュー

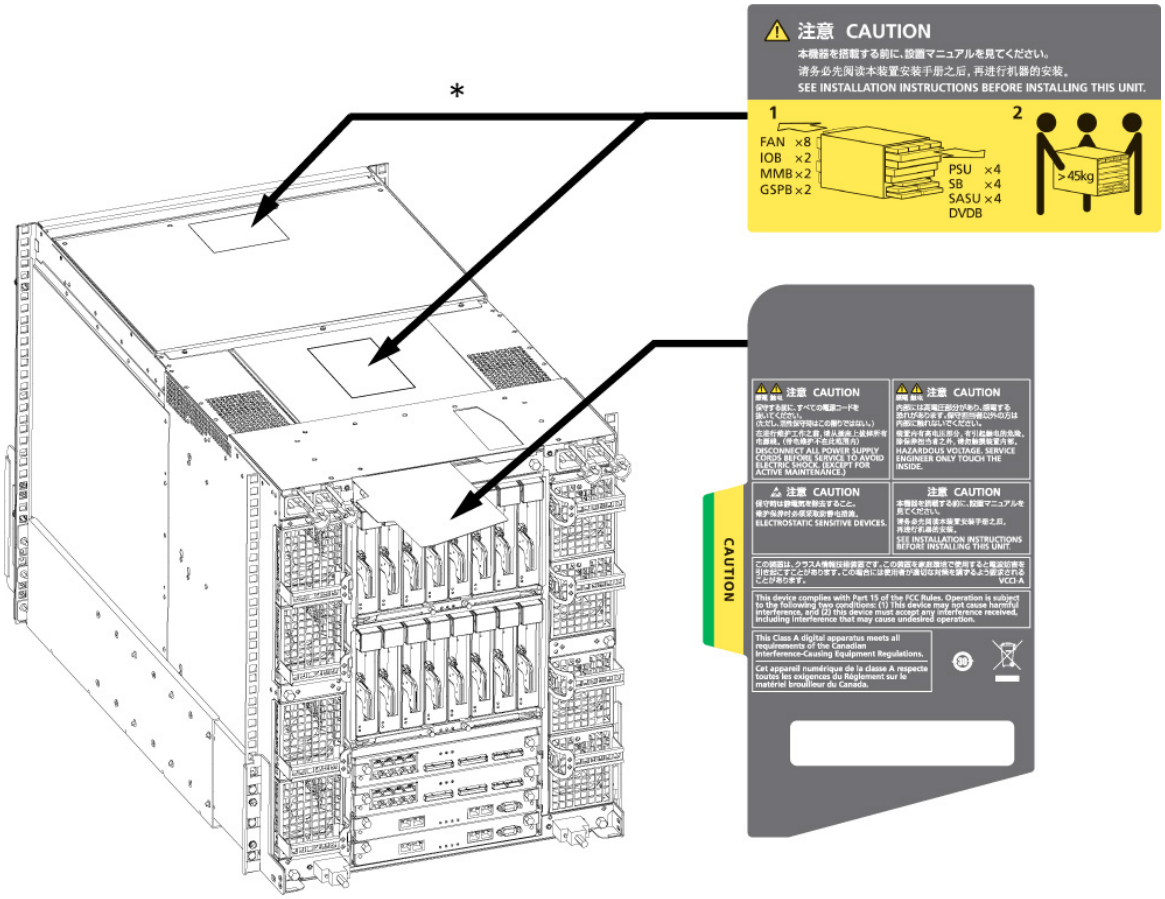
警告ラベル

当製品には以下のようにラベルが貼付してあります。以下のラベルは当製品の使用者を対象としています。

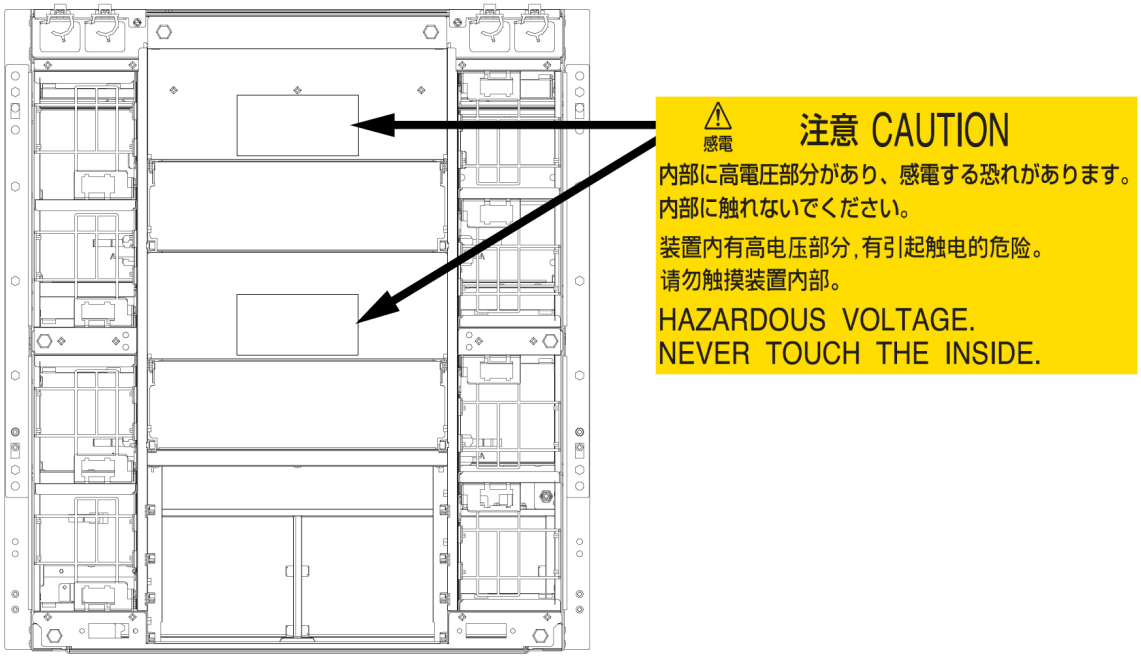
ラベルは絶対にはがさないでください。



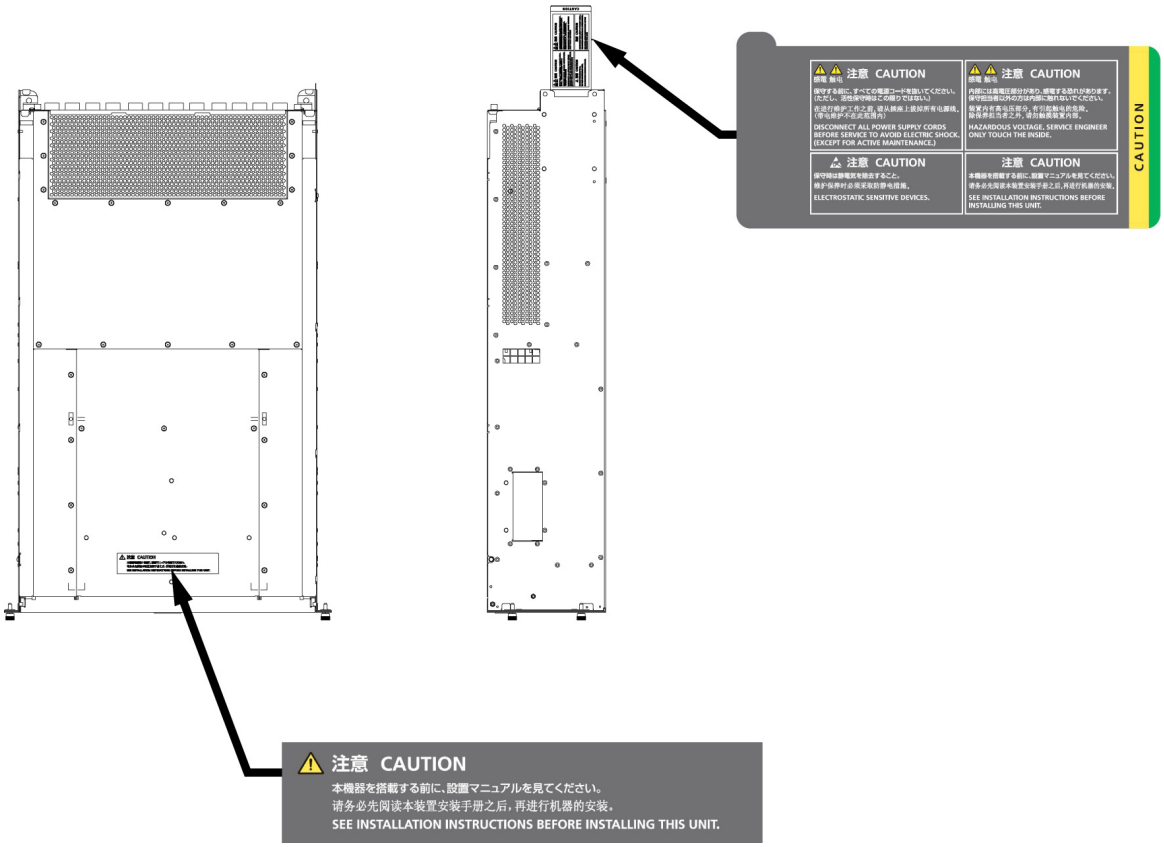
*：いずれか一方に貼付
警告ラベル位置 (PRIMEQUEST 1400S2 / 1400S 背面)



*：いずれか一方に貼付
警告ラベル位置 (PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L 背面)



警告ラベル位置 (PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L 背面 (IOB を抜いた状態))



警告ラベル位置(PCI ボックス)

製品取扱い上の注意事項

オプション製品の増設

PRIMEQUEST 1000 シリーズを安定してご使用いただくために、オプション製品の増設時には 弊社指定のオプション製品をご使用ください。
弊社指定以外のオプション製品をご使用いただく場合、PRIMEQUEST 1000 シリーズの動作保証は一切いたしかねますので、ご注意ください。

メンテナンス

⚠警告 本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いします。感電・負傷・発火のおそれがあります。

- 各装置の新規設置と移設
- 前面、後面と側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け／取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜差し
- メンテナンス（修理と定期的な診断と保守）

本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようにお願いします。故障の原因となるおそれがあります。

- お客様のお手元に届いたオプションアダプターなどの開梱

本製品の改造／再生

本製品に改造を加えたり、本製品の中古品を富士通に無断でオーバーホールなどによって再生したりして使用する場合、使用者や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じるおそれがあります。

ご不要になったときの廃棄・リサイクル

- 法人、企業のお客様へ
  当社では、法人のお客様から排出される富士通製 ICT 製品を回収・リサイクル (有償) し、資源の有効利用に積極的に取り組んでいます。詳細は、当社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」 (http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html) をご覧ください。

廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

本機器を使用していた状態のまま廃棄・譲渡すると、ハードディスク内のデータを第三者に読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。機密情報や重要なデータの流出を防ぐためには、本機器を廃棄・譲渡するさいに、ハードディスク上のすべてのデータを消去することが必要となります。

ところが、ハードディスク上のデータを消去するというのは、それほど容易なことではありません。ハードディスクを初期化（フォーマット）したり、OS 上からファイルを削除したりする操作をしただけでは、一見データが消去されたように見えますが、ただ単に OS 上でそれらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけあり、悪意を持った第三者によってデータが復元されるおそれがあります。

従って、お客様の機密情報や重要なデータをハードディスク上に保存していた場合には、上に挙げるような操作をするだけでなく、データ消去のサービスを利用するなどして、これらのデータを完全に消去し、復元されないようにすることをお勧めします。

お客様が、廃棄・譲渡等を行うさいに、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。

なお、ソフトウェア使用許諾（ライセンス）契約により、ソフトウェア（OS やアプリケーション・ソフトウェア）の第三者への譲渡が制限されている場合、ハードディスク上のソフトウェアを削除することなくサーバなどを譲渡すると、契約違反となる可能性があるため、そうした観点からも十分な確認を行う必要があります。

弊社では、お客様の機密情報や重要なデータの漏洩を防止するため、お客様が本機器を廃棄・譲渡するさいにハードディスク上のデータやソフトウェアを消去するサービスを提供しておりますので、是非ご利用ください。

- データ消去サービス
  弊社の専門スタッフがお客様のもとにお伺いし、短時間で、磁気ディスクおよび磁気テープ媒体上のデータなどを消去するサービスです。

詳しくは、データ消去サービス（http://fenics.fujitsu.com/outsourcingservice/lcm/h_elimination/）をご覧ください。

サポート&サービス

■SupportDesk について（有償）

システムの安定稼動に向け、保守・運用支援サービス「SupportDesk」のご契約をお勧めします。ご契約により、ハードウェア障害時の当日訪問修理対応、定期点検、障害予兆／異常情報のリモート通報、電話によるハードウェア／ ソフトウェアの問題解決支援、お客様専用ホームページでの運用支援情報提供などのサービスが利用できます。詳しくは、SupportDesk 紹介ページ「製品サポート」 (http://jp.fujitsu.com/solutions/support/sdk/index.html) を参照してください。

■製品・サービスに関するお問い合わせ

製品の使用方法や技術的なお問い合わせ、ご相談については、製品を購入されたさいの販売会社、または弊社担当営業員・システムエンジニア（SE） にご連絡ください。PRIMEQUEST 1000 シリーズに関するお問い合わせ先がご不明なときやお困りのときには、「富士通コンタクトライン」にご相談ください。

■富士通コンタクトライン

- 電話によるお問い合わせ
  電話： 0120-933-200 （通話料無料）
  ご利用時間： 9:00 ～ 17:30 （土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く）
  富士通コンタクトラインでは、お問い合わせ内容の正確な把握、およびお客様サービス向上のため、お客様との会話を記録・録音させていただいておりますので、あらかじめご了承ください。

- Web によるお問い合わせ
  Web によるお問い合わせも承っております。詳細については、富士通ホームページをご覧ください。
  http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/contact/

■保証について

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書に記載の内容に基づき無償修理いたします。詳細については、保証書をご覧ください。

■修理ご依頼の前に

本装置に異常が発生した場合は、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「11.2 トラブル対応」を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、修理相談窓口または担当営業員に連絡してください。ご連絡のさいは、本装置前面部右側にある貼付ラベルに記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。また、事前に『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「11.2 トラブル対応」をご覧いただき、必要事項を確認してください。お客様が退避したシステム設定情報は、保守時に使用します。

改版履歴表

版数	日付	変更箇所 (変更種別) (注)	変更内容
01	2010-02-09	―	―
02	2010-03-12	全体	訂正・追記事項 (C122-E119-01) の差分取込み
03	2010-08-20	全体	訂正・追記事項 (C122-E119-02 ～ 10) の差分取込み
04	2011-04-28	全体	・ PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 の記事を追加 ・ 訂正・追記事項 (C122-E119-11 ～ 18) の差分取込み
05	2011-05-31	全体	訂正・追記事項 (C122-E119-19) の差分取込み
06	2011-12-20	全体	訂正・追記事項 (C122-E119-20 ～ 24) の差分取込み
07	2012-03-19	5 章	SR-IOV の記載を追加
08	2013-01-25	全体	・ 訂正・追記事項 (C122-E119-27 ～ 30) の差分取込み ・ Windows Server 2012 関連の記載を追加
09	2013-07-02	5 章	・ [Configure Memory] メニューの記載を更新 ・「■GSPB 交換後のブートオーダー」を追加
10	2013-11-19	1 章	「[Schedule List] 画面の表示・設定項目」の Term の記載を更新

注： 変更箇所は、最新版の項番を示している。ただし、アスタリスク (*) の付いている項番は、旧版の項番を示す。

本書を無断で複製・転載しないようにお願いします。
Copyright 2010 - 2013 FUJITSU LIMITED

目　次

第 1 章 MMB の Web-UI (Web ユーザーインターフェース) 操作 1
1.1 Web-UI のメニュー一覧 2
1.1.1 Web-UI のメニュー一覧 (Administrator) 2
1.1.2 Web-UI のメニュー一覧 (Operator) 8
1.1.3 Web-UI のメニュー一覧 (Partition Operator) 14
1.1.4 Web-UI のメニュー一覧 (User) 21
1.1.5 Web-UI のメニュー一覧 (CE) 27
1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー 33
1.1.7 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Administrator) 34
1.1.8 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Operator) 37
1.1.9 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator) 41
1.1.10 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (User) 44
1.1.11 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (CE) 47
1.1.12 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (保守者) 50
1.2 System メニュー 55
1.2.1 [System Status] 画面 55
1.2.2 [System Event Log] 画面 57
1.2.3 [Operation Log] 画面 63
1.2.4 [Partition Event Log] 画面 66
1.2.5 [System Information] 画面 70
1.2.6 [Firmware Information] 画面 72
1.2.7 [System Setup] 画面 74
1.2.8 [System Power Control] 画面 77
1.2.9 [LEDs] 画面 79
1.2.10 [Power Supply] 画面 81
1.2.11 [Fans] 画面 83
1.2.12 [Temperature] 画面 85
1.2.13 [SB] メニュー 86
1.2.14 [IOB] メニュー 95
1.2.15 [GSPB] メニュー 99
1.2.16 [SASU] メニュー 102
1.2.17 [PCI_Box] メニュー 105
1.2.18 [Other Boards] メニュー 111
1.2.19 [MMB] メニュー 113
1.3 [Partition] メニュー 116
1.3.1 [Power Control] 画面 116
1.3.2 [Schedule] メニュー 121
1.3.3 [DVD Switch] 画面 128
1.3.4 [Partition Configuration] 画面 130
1.3.5 [Reserved SB Configuration] 画面 138
1.3.6 [Console Redirection Setup] 画面 140
1.3.7 [Partition#x] メニュー 144
1.4 [User Administration] メニュー 153
1.4.1 [User List] 画面 153
1.4.2 [Change Password] 画面 158
1.4.3 [Who] 画面 159
1.5 [Network Configuration]メニュー 161
1.5.1 [Date/Time] 画面 161
1.5.2 [Network Interface] 画面 164
1.5.3 [Management LAN Port Configuration] 画面 172
1.5.4 [Network Protocols] 画面 174
1.5.5 [Refresh Rate] 画面 177
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー 179
1.5.7 [SSL] メニュー 186
1.5.8 [SSH] メニュー 193

1.5.9 [Remote Server Management] 画面 195
1.5.10 [Access Control] 画面 198
1.5.11 [Alarm E-Mail] 画面 203
1.6 [Maintenance] メニュー 209
1.6.1 [Firmware Update] メニュー 209
1.6.2 [Backup/Restore Configuration] メニュー 210
1.6.3 [Maintenance Wizard] 画面 215
1.6.4 [REMCS] メニュー 215

第 2 章 MMB の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作 216
2.1 CLI の基本操作 217
2.1.1 シリアルインターフェース経由でのアクセス 217
2.1.2 管理 LAN インターフェース経由でのアクセス 217
2.1.3 CLI のコマンド一覧 217
2.2 設定用コマンド 232
2.2.1 add partition 232
2.2.2 clear access_control 234
2.2.3 clear ssh_key 234
2.2.4 download ssh_key 235
2.2.5 power off 236
2.2.6 power on 237
2.2.7 sadump 238
2.2.8 reset 239
2.2.9 nmi 240
2.2.10 remove partition 241
2.2.11 set active_mmb 243
2.2.12 set date 243
2.2.13 set gateway 244
2.2.14 set gateway_ipv6 245
2.2.15 set hostname 246
2.2.16 set http 246
2.2.17 set http_port 247
2.2.18 set https 248
2.2.19 set https_port 248
2.2.20 set ip 249
2.2.21 set ipv6 249
2.2.22 set maintenance_ip 250
2.2.23 set partition home 251
2.2.24 set partition mirror_mode 252
2.2.25 set partition name 254
2.2.26 set ssh 255
2.2.27 set ssh_port 256
2.2.28 set telnet 256
2.2.29 set telnet_port 257
2.2.30 set timezone 257
2.3 表示用コマンド 259
2.3.1 show access_control 259
2.3.2 show active_mmb 260
2.3.3 show date 260
2.3.4 show exit_code 261
2.3.5 show partition configuration 261
2.3.6 show partition home 263
2.3.7 show partition name 264
2.3.8 show partition mirror_mode 265
2.3.9 show timezone 265
2.3.10 show gateway 266
2.3.11 show gateway_ipv6 266
2.3.12 show http 267

2.3.13 show http_port 267
2.3.14 show https 268
2.3.15 show https_port 268
2.3.16 show ip 268
2.3.17 show ipv6 269
2.3.18 show hostname 269
2.3.19 show maintenance_ip 270
2.3.20 show ssh 270
2.3.21 show ssh_port 271
2.3.22 show telnet 271
2.3.23 show telnet_port 272
2.3.24 show network 272
2.3.25 show ntpq 273
2.3.26 who 275
2.3.27 help 276
2.3.28 netck traceroute 280
2.3.29 netck arptbl 281
2.3.30 netck arping 282
2.3.31 netck ifconfig 282
2.3.32 netck stat 283
2.4 アップデート用コマンド 285
2.4.1 update ALL 285
2.4.2 show update_status 286
2.5 その他のコマンド 288
2.5.1 exit 288
2.5.2 passwd 288
2.5.3 ping 289

第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作 291
3.1 PSA の基本操作 292
3.2 PSA の Web-UI メニュー一覧 294
3.2.1 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Administrator) 294
3.2.2 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Operator) 295
3.2.3 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator) 297
3.2.4 PSA の Web-UI メニュー一覧 (User) 298
3.2.5 PSA の Web-UI メニュー一覧 (CE) 299
3.3 [Partition Information] 画面 302
3.4 [CPUs] 画面 305
3.5 [DIMMs] 画面 306
3.6 [PCI Devices] 画面 307
3.6.1 [Ethernet Controller] 画面 308
3.6.2 [Storage Controller] 画面 314
3.6.3 [RAID Controller] 画面 318
3.6.4 [Fibre Channel] 画面 321
3.7 [Network] メニュー 326
3.7.1 [IPv4 Interfaces] 画面 326
3.7.2 [IPv6 Interfaces] 画面 328
3.8 [Hard Disks] 画面 332
3.9 [Hardware Inventory] 画面 334
3.10 [Agent Log] 画面 336
3.10.1 [Agent Log Filtering Condition] 画面 338
3.11 [Export List] 画面 342
3.11.1 [Export] 画面 344
3.12 [PSA Logs Download] 画面 347
3.12.1 [PSA Logs Download] 画面 348
3.12.2 [PSA Logs Download－Status－] 画面 349
3.12.3 [PSA Logs Download－Result－] 画面 351

第 4 章 PSA の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作 353
4.1 CLI の基本操作 354
4.1.1 CLI のコマンド一覧 354
4.2 ディスク操作コマンド (diskctrl) 356
4.3 PSA 起動／停止コマンド (y30FJSVpsa) 361
4.4 PSA 調査資料収集コマンド (getopsa) 363
4.5 フィルタ定義更新コマンド (fltcpy,fltupdate) 364
4.6 自パーティション番号取得コマンド (getpartid) 367
4.7 シリアル番号取得コマンド (getserialno) 368
4.8 SNMP セキュリティ設定コマンド (setsnmpsec) 369
4.9 ファームウェア情報取得コマンド (getfwinfo) 370
4.10 PCI カード操作コマンド(fjpciswap) 372
4.11 管理 LAN 用インターフェース向けファイアーウォール設定コマンド (setmlanfw.sh) 375
4.12 PSA-MMB 通信 LAN 設定コマンド (setpsalan) 379

第 5 章 UEFI のメニュー操作 380
5.1 画面遷移（Boot Manager フロントページ以降） 381
5.2 Boot Manager フロントページ 386
5.2.1 画面領域 386
5.3 [Continue] メニュー 389
5.4 [Boot Manager] メニュー 390
5.4.1 ブートオプション 390
5.4.2 UEFI のブート仕様について 392
5.4.3 レガシー BIOS のブート仕様について 398
5.4.4 ブート処理 403
5.5 [Device Manager] メニュー 409
5.5.1 [Configure I/O Space Assignment] メニュー 411
5.5.2 [Configure LAN Remote Boot] メニュー 415
5.5.3 [Configure CPU] メニュー 423
5.5.4 [Configure PCI Bus Padding] メニュー 428
5.5.5 [iSCSI Configuration] メニュー 433
5.5.6 [Configure Memory] メニュー 440
5.5.7 [Configure SR-IOV] メニュー 445
5.6 [Boot Maintenance Manager] メニュー 451
5.6.1 [Boot Options] メニュー 452
5.6.2 [Boot From File] メニュー 505
5.6.3 [Set Boot Delay Time] メニュー 509
5.7 デバイスパス 515
5.7.1 デバイスパスのパラメーター 515
5.7.2 デバイスパスの識別 516

第 6 章 UEFI のコマンド操作 522
6.1 UEFI シェルと UEFI コマンド 523
6.1.1 自動起動ファイル 523
6.1.2 UEFI シェルのコマンドシンタックス 523
6.1.3 出力リダイレクション 524
6.1.4 UEFI シェルコマンド一覧 525

第 7 章 sadump 環境の設定 527
7.1 sadump 環境設定のメニュー構成 528
7.1.1 画面構成 531
7.2 メインメニュー 532
7.3 sadump セットアップメニュー 533
7.4 ダンプデバイスメンテナンスメニュー 535
7.5 ダンプデバイス構築メニュー 537
7.6 ダンプデバイス選択メニュー 539
7.7 ダンプデバイス設定メニュー 541
7.8 ダンプデバイス一覧メニュー 543

7.9 破棄ダンプデバイス選択メニュー 545
7.10 マルチダンプデバイス選択メニュー 547
7.11 マルチダンプデバイス確認メニュー 549

付録 A 設定項目の一覧 551
A.1 MMB Web-UI の設定項目 552
A.1.1 [System Event Log Filtering Condition] 画面の設定項目 552
A.1.2 [Operation Log Filtering Condition] 画面の設定項目 553
A.1.3 [System Information] 画面の設定項目 554
A.1.4 [System Setup] 画面の設定項目 554
A.1.5 [System Power Control] 画面の設定項目 555
A.1.6 [Power Control] 画面の設定項目 555
A.1.7 [Schedule Control] 画面の設定項目 556
A.1.8 [Add Schedule]／[Edit Schedule] 画面の設定項目 556
A.1.9 [Partition Configuration] 画面の設定項目 557
A.1.10 [Console Redirection Setup] 画面の設定項目 557
A.1.11 [ASR Control] 画面の設定項目 558
A.1.12 [Console Redirection] 画面の設定項目 558
A.1.13 [Mode] 画面の設定項目 559
A.1.14 [Add User]／[Edit User] 画面の設定項目 559
A.1.15 [Date/Time] 画面の設定項目 560
A.1.16 [Network Interface] 画面の設定項目 560
A.1.17 [Management LAN Port Configuration] 画面の設定項目 562
A.1.18 [Network Protocols] 画面の設定項目 563
A.1.19 [Refresh Rate] 画面の設定項目 564
A.1.20 [SNMP Community] 画面の設定項目 564
A.1.21 [SNMP Trap] 画面の設定項目 565
A.1.22 [SNMP v3 Configuration] 画面の設定項目 566
A.1.23 [Create CSR] 画面の設定項目 566
A.1.24 [Create Selfsigned Certificate] 画面の設定項目 567
A.1.25 [Edit User] 画面の設定項目 567
A.1.26 [Add Filter]／[Edit Filter] 画面の設定項目 568
A.1.27 [Alarm E-Mail] 画面の設定項目 568
A.1.28 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の設定項目 569
A.2 PSA の設定項目 570
A.2.1 [Agent Log Filtering Condition] 画面の設定項目 570
A.3 UEFI の設定項目 571
A.3.1 [Configure I/O Space Assignment] 画面の設定項目 571
A.3.2 [Configure LAN Remote Boot] 画面の設定項目 571
A.3.3 [Configure CPU] 画面の設定項目 571
A.4 BMC の設定項目 573
A.4.1 [Languages] 画面の設定項目 573
A.4.2 [Preferences] 画面の設定項目 573

索引 575

図　目　次

警告ラベル位置 (PRIMEQUEST 1400S2 / 1400S 背面) x
警告ラベル位置 (PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L 背面) xi
警告ラベル位置 (PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L 背面 (IOB を抜いた状態)) xi
警告ラベル位置(PCI ボックス) xii
図 1.1 [System Status] 画面 55
図 1.2 [System Event Log] 画面 57
図 1.3 [System Event Log (Collect)] 画面 60
図 1.4 [System Event Log Filtering Condition] 画面 61
図 1.5 [Operation Log] 画面 63
図 1.6 [Operation Log Filtering Condition] 画面 65
図 1.7 [Partition Event Log] 画面 67
図 1.8 [Partition Event Log Filtering Condition] 画面 69
図 1.9 [System Information] 画面 71
図 1.10 [Firmware Information] 画面 73
図 1.11 [System Setup] 画面 75
図 1.12 [System Power Control] 画面 78
図 1.13 [LEDs] 画面 80
図 1.14 [Power Supply] 画面 81
図 1.15 [Fans] 画面 83
図 1.16 [Temperature] 画面 85
図 1.17 [SB#x] 画面 (1) 86
図 1.18 [SB#x] 画面 (2) 87
図 1.19 [SB#x] 画面 (3) 88
図 1.20 [SB#x Status Clear] 画面 (メッセージ表示) 94
図 1.21 [SB#x] 画面 (CPU/DIMM なしの場合) 95
図 1.22 [IOB#x] 画面 (1) 96
図 1.23 [IOB#x] 画面 (2) 96
図 1.24 [GSPB#x] 画面 (1) 99
図 1.25 [GSPB#x] 画面 (2) 100
図 1.26 [SASU#x] 画面 103
図 1.27 [PCI_Box#x] 画面 (1) 106
図 1.28 [PCI_Box#x] 画面 (2) 106
図 1.29 [PCI_Box#x] 画面 (3) 107
図 1.30 [DVDB] 画面 111
図 1.31 [MMB#x] 画面 113
図 1.32 [Power Control] 画面 116
図 1.33 [Power Control] 画面 (グレーアウト表示) 117
図 1.34 [Power Control] 画面のエラー表示 120
図 1.35 [Schedule Control] 画面 122
図 1.36 [Schedule List] 画面 123
図 1.37 [Add Schedule] 画面 126
図 1.38 [DVD Switch] 画面 128
図 1.39 [Partition Configuration] 画面 131
図 1.40 [Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面 133
図 1.41 [Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面 135
図 1.42 [Partition Home] 画面 137
図 1.43 [Reserved SB Configuration] 画面 138
図 1.44 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面 141
図 1.45 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面 143
図 1.46 [Information] 画面 145
図 1.47 [ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面 147
図 1.48 [Console Redirection] 画面 149
図 1.49 [Mode] 画面 150
図 1.50 [User List] 画面 153

図 1.51 [Add User] 画面 155
図 1.52 [Edit User] 画面 156
図 1.53 [Change Password] 画面 158
図 1.54 [Who] 画面 159
図 1.55 [Date/Time] 画面 161
図 1.56 [IPv4 Interface] 画面 (1) 165
図 1.57 [IPv4 Interface] 画面 (2) 165
図 1.58 [IPv6 Interface] 画面 (1) 169
図 1.59 [IPv6 Interface] 画面 (2) 170
図 1.60 [Management LAN Port Configuration] 画面 173
図 1.61 [Network Protocols] 画面 175
図 1.62 [Refresh Rate] 画面 178
図 1.63 [SNMP Community] 画面 180
図 1.64 [SNMP Trap] 画面 182
図 1.65 [SNMP v3 Configuration] 画面 185
図 1.66 [Create CSR] 画面 187
図 1.67 確認ダイアログボックス 188
図 1.68 [Export Key/CSR] 画面 189
図 1.69 [Import Certificate] 画面 191
図 1.70 [Create Selfsigned Certificate] 画面 192
図 1.71 [Create SSH Server Key] 画面 194
図 1.72 [Remote Server Management] 画面 195
図 1.73 [Edit User] 画面 197
図 1.74 [Access Control] 画面 199
図 1.75 [Add Filter] 画面 201
図 1.76 [Alarm E-Mail] 画面 204
図 1.77 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面 207
図 1.78 [Unified Firmware Update] 画面 209
図 1.79 [Backup/Restore MMB Configuration] 画面 211
図 1.80 [Backup BIOS Configuration] 画面 212
図 1.81 [Restore BIOS Configuration] 画面 (1) 213
図 1.82 [Restore BIOS Configuration] 画面 (2) 214
図 3.1 [Partition Information] 画面 (Linux) 302
図 3.2 [Partition Information] 画面 (Windows) 303
図 3.3 [CPUs] 画面 305
図 3.4 [DIMMs] 画面 306
図 3.5 [PCI Devices] 画面 307
図 3.6 [Ethernet Controller] 画面 309
図 3.7 [Ethernet Controller] 画面 (プログレスバー表示) 310
図 3.8 [Storage Controller] 画面 315
図 3.9 [RAID Controller] 画面 319
図 3.10 [Fibre Channel] 画面 322
図 3.11 [IPv4 Interfaces] 画面 326
図 3.12 [IPv4 Interfaces] 画面 (プログレスバー表示) 327
図 3.13 [IPv6 Interfaces] 画面 329
図 3.14 [IPv6 Interfaces] 画面 (プログレスバー表示) 330
図 3.15 [Hard Disks] 画面 333
図 3.16 [Hardware Inventory] 画面 334
図 3.17 [Agent Log] 画面 336
図 3.18 [Agent Log Filtering Condition] 画面 339
図 3.19 [Export List] 画面 342
図 3.20 [Export] 画面 345
図 3.21 [PSA Logs Download] 画面（Linux） 348
図 3.22 [PSA Logs Download] 画面（Windows） 349
図 3.23 [PSA Logs Download－Status－] 画面（Linux） 350
図 3.24 [PSA Logs Download－Result－] 画面（Linux） 351
図 4.1 出力ファイル形式 371

図 5.1 Boot Manager フロントページからの遷移 381
図 5.2 [Boot Maintenance Manager] メニューからの遷移 382
図 5.3 [Boot Options] メニューからの遷移 (1/3) 383
図 5.4 [Boot Options] メニューからの遷移 (2/3) 384
図 5.5 [Boot Options] メニューからの遷移 (3/3) 385
図 5.6 Boot Manager フロントページ表示例 386
図 5.7 Boot Manager フロントページの画面領域 387
図 5.8 [Boot Manager] メニューの表示例 390
図 5.9 Boot Manager のブートオプション 393
図 5.10 ブートオーダー変更後の Boot Manager 394
図 5.11 ブートオプション追加後の Boot Manager 395
図 5.12 ブートオプション削除後の Boot Manager 396
図 5.13 GSPB 交換前のブートオーダー 397
図 5.14 GSPB 交換後のブートオーダー 398
図 5.15 Legacy Boot オプションの実行 399
図 5.16 [Change Legacy Boot Order] メニューの表示例 400
図 5.17 [Change Legacy HDD Boot Priority] メニューの表示例 401
図 5.18 [Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニューの表示例 402
図 5.19 [Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例 403
図 5.20 [Boot Manager] メニューの表示例 407
図 5.21 [Device Manager] メニューの表示例 409
図 5.22 [Configure I/O Assignment] メニューの表示例 411
図 5.23 I/O 空間の割当て操作画面(1) 413
図 5.24 I/O 空間の割当て操作画面(2) 414
図 5.25 I/O 空間の割当て操作画面(3) 415
図 5.26 [Configure LAN Remote Boot] メニューの表示例 416
図 5.27 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (1) 418
図 5.28 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (2) 419
図 5.29 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (3) 420
図 5.30 [Boot Manager] メニューの表示例 421
図 5.31 [iSCSI Configuration] の表示例 422
図 5.32 [Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例 423
図 5.33 [Configure CPU] メニューの表示例 424
図 5.34 [Configure PCI Bus Padding] メニューの表示例 429
図 5.35 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (1) 431
図 5.36 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (2) 432
図 5.37 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (3) 433
図 5.38 [iSCSI Configuration] メニュー画面表示例 434
図 5.39 iSCSI 環境設定 操作画面 (1) 436
図 5.40 iSCSI 環境設定 操作画面 (2) 437
図 5.41 [Configure Memory] メニュー画面表示例 441
図 5.42 DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (1) 443
図 5.43 DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (2) 444
図 5.44 DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (3) 445
図 5.45 [Configure SR-IOV] メニュー画面表示例 446
図 5.46 SR-IOV の設定操作画面 (1) 448
図 5.47 SR-IOV の設定操作画面 (2) 449
図 5.48 SR-IOV の設定操作画面 (3) 450
図 5.49 [Boot Maintenance Manager] メニュー 451
図 5.50 [Boot Options] メニュー 453
図 5.51 [Boot Manager] メニューの表示例 455
図 5.52 [Add Boot Option] メニューの表示例 456
図 5.53 デバイス一覧 457
図 5.54 ファイル選択画面の表示例 458
図 5.55 Windows Server 2008 インストール済みディスクの画面 459
図 5.56 ブートオプション名称変更画面の表示例(1) 460
図 5.57 ブートオプション名称変更画面の表示例(2) 461

図 5.58 ブートオプション名称変更画面の表示例(3) 462
図 5.59 ブートオプション名称変更画面の表示例(4) 463
図 5.60 [Boot Manager] メニューの表示例 464
図 5.61 入力文字数が少ない場合の画面 465
図 5.62 [Delete Boot Option] メニューの表示例 466
図 5.63 ブートオプションの削除画面(1) 467
図 5.64 ブートオプションの削除画面(2) 468
図 5.65 ブートオプションの削除画面(3) 469
図 5.66 ブートオプションの削除画面(4) 470
図 5.67 ブートオプションの削除画面(5) 471
図 5.68 [Change Boot Order] メニュー 472
図 5.69 優先順位の変更画面(Change Boot Order) (1) 474
図 5.70 優先順位の変更画面(Change Boot Order) (2) 475
図 5.71 優先順位の設定変更後の画面(Change Boot Order) 476
図 5.72 [Change Legacy Boot Order] メニューの表示例 477
図 5.73 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (1) 479
図 5.74 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (2) 480
図 5.75 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (3) 481
図 5.76 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (4) 482
図 5.77 設定変更後の画面表示例(Change Legacy Boot Order) 483
図 5.78 [Change Legacy HDD Boot Priority] メニューの表示例 484
図 5.79 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (1) 486
図 5.80 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (2) 487
図 5.81 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (3) 488
図 5.82 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (4) 489
図 5.83 設定変更後の画面表示例(Change Legacy HDD Boot Priority) 490
図 5.84 [Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニューの表示例 492
図 5.85 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (1) 494
図 5.86 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (2) 495
図 5.87 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (3) 496
図 5.88 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (4) 497
図 5.89 設定変更後の画面表示例(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) 498
図 5.90 [Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例 499
図 5.91 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (1) 501
図 5.92 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (2) 502
図 5.93 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (3) 503
図 5.94 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (4) 504
図 5.95 設定変更後の画面表示例(Change Legacy PXE Boot Priority) 505
図 5.96 [Boot From File] メニューの表示例 506
図 5.97 ブートファイルの指定 (1) 507
図 5.98 ブートファイルの指定 (2) 508
図 5.99 ブートファイルの指定 (3) 509
図 5.100 ロゴ画面 510
図 5.101 [Set Boot Delay Time] メニュー表示例 511
図 5.102 ロゴ表示時間の変更(1) 513
図 5.103 ロゴ表示時間の変更(2) 514
図 5.104 SAS ディスクの特定 516
図 5.105 IOH ～ SAS ディスク接続関係 516
図 5.106 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (1) 517
図 5.107 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (2) 517
図 5.108 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (3) 518
図 5.109 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (4) 518
図 5.110 Fibre カードからのディスクの特定 519
図 5.111 IOH ～ Fibre カード接続関係 519
図 5.112 デバイスパスと接続図の関係(Fibre カード) 520
図 5.113 GigaLAN の特定 520
図 5.114 IOH ～ GigaLAN 接続関係 520

図 5.115 デバイスパスと接続図の関係 (GigaLAN) 521
図 6.1 UEFI Shell 起動直後の画面表示例 523
図 7.1 sadump 環境設定のメニュー構成 (1) 528
図 7.2 sadump 環境設定のメニュー構成 (2) 529
図 7.3 sadump 環境設定のメニュー構成 (3) 530
図 7.4 sadump 環境設定の画面構成 531
図 7.5 メインメニュー 532
図 7.6 sadump セットアップメニュー 533
図 7.7 ダンプデバイスメンテナンスメニュー 535
図 7.8 ダンプデバイス構築メニュー 537
図 7.9 ダンプデバイス選択メニュー 539
図 7.10 ダンプデバイス設定メニュー 541
図 7.11 ダンプデバイス一覧メニュー 543
図 7.12 破棄ダンプデバイス選択メニュー 545
図 7.13 マルチダンプデバイス選択メニュー 547
図 7.14 マルチダンプデバイス確認メニュー 549

表　目　次

表 1.1 ユーザー権限 2
表 1.2 Web-UI のメニュー一覧 (Administrator) 3
表 1.3 Web-UI のメニュー一覧 (Operator) 9
表 1.4 Web-UI のメニュー一覧 (Partition Operator) 15
表 1.5 Web-UI のメニュー一覧 (User) 22
表 1.6 Web-UI のメニュー一覧 (CE) 28
表 1.7 保守モードの種類 34
表 1.8 保守モード時の Web-UI のメニュー一覧 (Administrator) 35
表 1.9 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Operator) 38
表 1.10 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator) 41
表 1.11 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (User) 45
表 1.12 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (CE) 48
表 1.13 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (保守者) 51
表 1.14 ユニットの状態とアイコン 56
表 1.15 [System Status] 画面の表示項目 56
表 1.16 [System Event Log] 画面の表示項目 58
表 1.17 [System Event Log] 画面のボタン 58
表 1.18 [System Event Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目 61
表 1.19 [System Event Log Filtering Condition] 画面のボタン 62
表 1.20 [Operation Log] 画面の表示項目 64
表 1.21 [Operation Log] 画面のボタン 64
表 1.22 [Operation Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目 65
表 1.23 [Operation Log Filtering Condition] 画面のボタン 66
表 1.24 [Partition Event Log] 画面の表示項目 67
表 1.25 [Partition Event Log] 画面のボタン 68
表 1.26 [Partition Event Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目 69
表 1.27 [Partition Event Log Filtering Condition] 画面のボタン 70
表 1.28 [System Information] 画面の表示・設定項目 71
表 1.29 [System Information] 画面のボタン 72
表 1.30 [Firmware Information] 画面の表示項目 73
表 1.31 [System Setup] 画面の表示・設定項目 75
表 1.32 [System Setup] 画面のボタン 76
表 1.33 [System Power Control] 画面の表示・設定項目 78
表 1.34 [System Power Control] 画面のボタン 78
表 1.35 [LEDs] 画面の表示・設定項目 80
表 1.36 [LEDs] 画面のボタン 80
表 1.37 [Power Supply] 画面の表示項目 81
表 1.38 [Power Supply] 画面のボタン 82
表 1.39 [Fans] 画面の表示項目 83
表 1.40 [Fans] 画面のボタン 84
表 1.41 [Temperature] 画面の表示項目 85
表 1.42 [SB#x] 画面の表示・設定項目 88
表 1.43 [SB#x] 画面のボタン 93
表 1.44 [IOB#x] 画面の表示・設定項目 97
表 1.45 [IOB#x] 画面のボタン 98
表 1.46 [GSPB#x] 画面の表示・設定項目 100
表 1.47 [GSPB#x] 画面のボタン 102
表 1.48 [SASU#x] 画面の表示・設定項目 103
表 1.49 [SASU#x] 画面のボタン 104
表 1.50 [PCI_Box#x] 画面の表示項目 107
表 1.51 [PCI_Box#x] 画面のボタン 110
表 1.52 [DVDB] 画面の表示項目 112
表 1.53 [DVDB] 画面のボタン 112
表 1.54 [MMB#x] 画面の表示・設定項目 113
表 1.55 [MMB#x] 画面のボタン 115

表 1.56 [Power Control] 画面の表示・設定項目 117
表 1.57 [Power Control] 画面のボタン 119
表 1.58 [Schedule Control] 画面の表示・設定項目 122
表 1.59 [Schedule Control] 画面のボタン 123
表 1.60 [Schedule List] 画面の表示・設定項目 124
表 1.61 [Schedule List] 画面のボタン 125
表 1.62 [Add Schedule] 画面の表示・設定項目 126
表 1.63 [Add Schedule] 画面のボタン 127
表 1.64 [DVD Switch] 画面の表示・設定項目 128
表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示 129
表 1.66 [DVD Switch] 画面のボタン 130
表 1.67 [Partition Configuration] 画面の表示・設定項目 131
表 1.68 [Partition Configuration] 画面のボタン 132
表 1.69 [Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面の表示・設定項目 134
表 1.70 [Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面の表示・設定項目 135
表 1.71 [Reserved SB Configuration] 画面の表示・設定項目 139
表 1.72 [Reserved SB Configuration] 画面のボタン 139
表 1.73 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面の表示・設定項目 141
表 1.74 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面のボタン 142
表 1.75 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面の表示・設定項目 143
表 1.76 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面のボタン 144
表 1.77 [Information] 画面の表示項目 145
表 1.78 [ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面の表示・設定項目 147
表 1.79 [ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面のボタン 148
表 1.80 [Console Redirection] 画面の表示・設定項目 149
表 1.81 [Mode] 画面の表示・設定項目 150
表 1.82 [User List] 画面の表示項目 153
表 1.83 [User List] 画面のボタン 154
表 1.84 [Add User]／[Edit User] 画面の表示・設定項目 156
表 1.85 [Add User]／[Edit User] 画面のボタン 157
表 1.86 [Change Password] 画面のボタン 158
表 1.87 [Who] 画面の表示項目 159
表 1.88 [Date/Time] 画面の表示・設定項目 161
表 1.89 [Date/Time] 画面のボタン 162
表 1.90 [IPv4 Interface] 画面の表示・設定項目 166
表 1.91 [IPv4 Interface] 画面のボタン 168
表 1.92 [IPv6 Interface] 画面の表示・設定項目 170
表 1.93 [IPv6 Interface] 画面のボタン 172
表 1.94 [Management LAN Port Configuration] 画面の表示・設定項目 173
表 1.95 [Management LAN Port Configuration] 画面のボタン 174
表 1.96 [Network Protocols] 画面の表示・設定項目 175
表 1.97 [Network Protocols] 画面のボタン 176
表 1.98 [Refresh Rate] 画面の表示・設定項目 178
表 1.99 [Refresh Rate] 画面のボタン 178
表 1.100 [SNMP Community] 画面の表示・設定項目 180
表 1.101 [SNMP Community] 画面のボタン 181
表 1.102 [SNMP Trap] 画面の表示・設定項目 183
表 1.103 [SNMP Trap] 画面のボタン 183
表 1.104 [SNMP v3 Configuration] 画面の表示・設定項目 185
表 1.105 [SNMP v3 Configuration] 画面のボタン 185
表 1.106 [Create CSR] 画面の表示・設定項目 187
表 1.107 [Create CSR] 画面のボタン 188
表 1.108 [Export Key/CSR] 画面のボタン 190
表 1.109 [Import Certificate] 画面のボタン 191
表 1.110 [Create Selfsigned Certificate] 画面の表示項目 192
表 1.111 [Create Selfsigned Certificate] 画面のボタン 193
表 1.112 [Create SSH Server Key] 画面のボタン 194

表 1.113 [Remote Server Management] 画面の表示・設定項目 196
表 1.114 [Remote Server Management] 画面のボタン 196
表 1.115 [Edit User] 画面の表示・設定項目 197
表 1.116 [Edit User] 画面のボタン 198
表 1.117 [Access Control] 画面の表示・設定項目 199
表 1.118 [Access Control] 画面のボタン 200
表 1.119 [Add Filter] 画面の表示・設定項目 202
表 1.120 [Add Filter] 画面のボタン 202
表 1.121 [Alarm E-Mail] 画面の表示・設定項目 204
表 1.122 [Alarm E-Mail] 画面のボタン 205
表 1.123 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の表示・設定項目 207
表 1.124 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面のボタン 208
表 1.125 [Backup BIOS Configuration] 画面のボタン 212
表 1.126 [Restore BIOS Configuration] 画面 (2) の表示・設定項目 214
表 1.127 [Restore BIOS Configuration] 画面 (2) のボタン 214
表 2.1 ターミナルソフトウェアの設定値 217
表 2.2 MMB CLI コマンド一覧 (Administrator) 218
表 2.3 MMB CLI コマンド一覧 (Operator) 220
表 2.4 MMB CLI コマンド一覧 (Partition Operator) 223
表 2.5 MMB CLI コマンド一覧 (User) 225
表 2.6 MMB CLI コマンド一覧 (CE) 228
表 2.7 パラメーターの指定範囲 231
表 2.8 show ntpq の出力項目 274
表 3.1 コンポーネントの状態と背景色 292
表 3.2 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Administrator) 294
表 3.3 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Operator) 295
表 3.4 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator) 297
表 3.5 PSA の Web-UI メニュー一覧 (User) 298
表 3.6 PSA の Web-UI メニュー一覧 (CE) 300
表 3.7 [Partition Information] 画面の表示項目 303
表 3.8 [CPUs] 画面の表示項目 305
表 3.9 [DIMMs] 画面の表示項目 306
表 3.10 [PCI Devices] 画面の表示項目 307
表 3.11 [Ethernet Controller] 画面の表示・設定項目 310
表 3.12 [Ethernet Controller] 画面のボタン 313
表 3.13 [Storage Controller] 画面の表示・設定項目 315
表 3.14 [Storage Controller] 画面のボタン 317
表 3.15 [RAID Controller] 画面の表示・設定項目 319
表 3.16 [RAID Controller] 画面のボタン 320
表 3.17 [Fibre Channel] 画面の表示・設定項目 322
表 3.18 [Fibre Channel] 画面のボタン 324
表 3.19 [IPv4 Interfaces] 画面の表示項目 327
表 3.20 [IPv6 Interfaces] 画面の表示項目 330
表 3.21 [Hard Disks] 画面の表示項目 333
表 3.22 [Hardware Inventory] 画面の表示項目 334
表 3.23 [Hardware Inventory] 画面の項目に表示される内容 334
表 3.24 [Agent Log] 画面の表示・設定項目 337
表 3.25 [Agent Log] 画面のボタン 337
表 3.26 [Agent Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目 339
表 3.27 [Agent Log Filtering Condition] 画面のボタン 340
表 3.28 [Export List] 画面の表示・設定項目 342
表 3.29 [Export List] 画面のボタン 343
表 3.30 [Export] 画面の表示・設定項目 345
表 3.31 [Export] 画面のボタン 345
表 3.32 収集されるログ情報 347
表 3.33 [PSA Logs Download] 画面のボタン 349
表 3.34 [PSA Logs Download－Status－] 画面の表示項目 350

表 3.35 [PSA Logs Download－Status－] 画面のボタン 351
表 4.1 コマンド一覧 354
表 4.2 SGPIO コントローラーとスロットの状態 (Linux) 358
表 4.3 SGPIO コントローラーとスロットの状態 (Windows) 359
表 4.4 fjpciswap コマンド中断時の現象 372
表 5.1 メニュー選択部の表示内容 387
表 5.2 メニュー選択ヘルプ表示の内容 388
表 5.3 操作ヘルプ表示部の表示内容 388
表 5.4 ブートオプションの種類 390
表 5.5 ブートオーダーの初期状態 391
表 5.6 UEFI のブート仕様とレガシー BIOS のブート仕様での起動の流れ 403
表 5.7 Windows Server 2008 のブート成功 404
表 5.8 Windows Server 2008 のブート失敗 (DVD/CD 0 の UEFI ブート成功) 404
表 5.9 Windows Boot Manager, UEFI: Embedded DVD/CD, UEFI: DVD/CD 0 のブートに失敗し、レガシーの HDD からのブートに成功した場合 405
表 5.10 レガシー OS ブートに失敗し、UEFI Shell 起動に成功した場合 405
表 5.11 操作ヘルプ表示部の表示内容 408
表 5.12 メニュー選択部の表示内容 410
表 5.13 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 410
表 5.14 操作ヘルプ表示部の表示内容 410
表 5.15 メニュー選択部の表示内容 412
表 5.16 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 412
表 5.17 操作ヘルプ表示部の表示内容 413
表 5.18 [Configure LAN Remote Boot] メニューの反映 415
表 5.19 メニュー選択部の表示内容 417
表 5.20 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 417
表 5.21 操作ヘルプ表示部の表示内容 417
表 5.22 メニュー選択部の表示内容 424
表 5.23 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 427
表 5.24 操作ヘルプ表示部の表示内容 428
表 5.25 メニュー選択部の表示内容 429
表 5.26 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 429
表 5.27 操作ヘルプ表示部の表示内容 430
表 5.28 メニュー選択部の表示内容 434
表 5.29 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 435
表 5.30 操作ヘルプ表示部の表示内容 435
表 5.31 メニュー選択部の表示内容 437
表 5.32 メニュー選択部の表示内容 441
表 5.33 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 442
表 5.34 操作ヘルプ表示部の表示内容 442
表 5.35 メニュー選択部の表示内容 446
表 5.36 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 447
表 5.37 操作ヘルプ表示部の表示内容 447
表 5.38 メニュー選択部の表示内容 451
表 5.39 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 452
表 5.40 操作ヘルプ表示部の表示内容 452
表 5.41 メニュー選択部の表示内容 453
表 5.42 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 454
表 5.43 操作ヘルプ表示部の表示内容 454
表 5.44 操作ヘルプ表示部の表示内容 456
表 5.45 入力できる文字数、文字種 464
表 5.46 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 466
表 5.47 操作ヘルプ表示部の表示内容 467
表 5.48 メニュー選択部の表示内容 472
表 5.49 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 473
表 5.50 操作ヘルプ表示部の表示内容 473
表 5.51 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容 473

表 5.52 メニュー選択部の表示内容 477
表 5.53 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 478
表 5.54 操作ヘルプ表示部の表示内容 478
表 5.55 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容 478
表 5.56 メニュー選択部の表示内容 484
表 5.57 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 485
表 5.58 操作ヘルプ表示部の表示内容 485
表 5.59 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容 485
表 5.60 HDD の表示文字列 490
表 5.61 メニュー選択部の表示内容 492
表 5.62 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 493
表 5.63 操作ヘルプ表示部の表示内容 493
表 5.64 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容 493
表 5.65 メニュー選択部の表示内容 499
表 5.66 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 500
表 5.67 操作ヘルプ表示部の表示内容 500
表 5.68 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容 500
表 5.69 操作ヘルプ表示部の表示内容 506
表 5.70 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容 511
表 5.71 操作ヘルプ表示部の表示内容 512
表 5.72 Change Boot Order で使用するキーの表示内容 512
表 5.73 デバイスパスのパラメーター 515
表 6.1 UEFI シェルのワイルドカード 524
表 6.2 出力リダイレクション 524
表 6.3 UEFI シェルコマンド一覧 525
表 7.1 メインメニューのメニュー項目 532
表 7.2 メインメニューの操作ヘルプ 532
表 7.3 sadump セットアップメニューのメニュー項目 533
表 7.4 sadump セットアップメニューの操作ヘルプ 534
表 7.5 ダンプデバイスメンテナンスメニューのメニュー項目 535
表 7.6 ダンプデバイスメンテナンスメニューの操作ヘルプ 535
表 7.7 ダンプデバイス構築メニューのメニュー項目 537
表 7.8 ダンプデバイス構築メニューの操作ヘルプ 538
表 7.9 ダンプデバイス選択メニューのメニュー項目 539
表 7.10 ダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ 540
表 7.11 ダンプデバイス設定メニューのメニュー項目 541
表 7.12 ダンプデバイス設定メニューの操作ヘルプ 542
表 7.13 ダンプデバイス一覧メニューのメニュー項目 543
表 7.14 ダンプデバイス一覧メニューの操作ヘルプ 543
表 7.15 破棄ダンプデバイス選択メニューのメニュー項目 545
表 7.16 破棄ダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ 545
表 7.17 マルチダンプデバイス選択メニューのメニュー項目 547
表 7.18 マルチダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ 547
表 7.19 マルチダンプデバイス確認メニューのメニュー項目 549
表 7.20 マルチダンプデバイス確認メニューの操作ヘルプ 549
表 A.1 [System Event Log Filtering Condition] 画面の設定項目 552
表 A.2 [Operation Log Filtering Condition] 画面の設定項目 553
表 A.3 [System Information] 画面の設定項目 554
表 A.4 [System Setup] 画面の設定項目 554
表 A.5 [System Power Control] 画面の設定項目 555
表 A.6 [Power Control] 画面の設定項目 556
表 A.7 [Schedule Control] 画面の設定項目 556
表 A.8 [Add Schedule]／[Edit User] 画面の設定項目 556
表 A.9 [Partition Configuration] 画面の設定項目 557
表 A.10 [Console Redirection Setup] 画面の設定項目 557
表 A.11 [ASR Control] 画面の設定項目 558
表 A.12 [Console Redirection] 画面の設定項目 558

表 A.13 [Mode] 画面の設定項目 559
表 A.14 [Add User]／[Edit User] 画面の設定項目 559
表 A.15 [Date/Time] 画面の設定項目 560
表 A.16 [Network Interface] 画面の設定項目 561
表 A.17 [Management LAN Port Configuration] 画面の設定項目 562
表 A.18 [Network Protocols] 画面の設定項目 563
表 A.19 [Refresh Rate] 画面の設定項目 564
表 A.20 [SNMP Community] 画面の設定項目 564
表 A.21 [SNMP Trap] 画面の設定項目 565
表 A.22 [SNMP v3 Configuration] 画面の設定項目 566
表 A.23 [Create CSR] 画面の設定項目 566
表 A.24 [Create Selfsigned Certificate] 画面の設定項目 567
表 A.25 [Edit User] 画面の設定項目 568
表 A.26 [Add Filter]／[Edit Filter] 画面の設定項目 568
表 A.27 [Alarm E-Mail] 画面の設定項目 569
表 A.28 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の設定項目 569
表 A.29 [Agent Log Filtering Condition] 画面の設定項目 570
表 A.30 [Configure I/O Space Assignment] 画面の設定項目 571
表 A.31 [Configure LAN Remote Boot] 画面の設定項目 571
表 A.32 [Configure CPU] 画面の設定項目 571
表 A.33 [Languages] 画面の設定項目 573
表 A.34 [Preferences] 画面の設定項目 573

第 1 章　MMB の Web-UI (Web ユーザーインターフェース) 操作

本章では、MMB の Web-UI を使って PRIMEQUEST 1000 シリーズを管理／運用するためのメニューの一覧と、操作方法について説明します。

1.1 Web-UI のメニュー一覧 2
1.2 System メニュー 55
1.3 [Partition] メニュー 116
1.4 [User Administration] メニュー 153
1.5 [Network Configuration]メニュー 161
1.6 [Maintenance] メニュー 209

1.1 Web-UI のメニュー一覧

MMB Web-UI では、ユーザー権限によって使用できるメニューが異なります。MMB Web-UI メニューを参照／操作するためのユーザー権限を「表 1.1 ユーザー権限」に示します。

表 1.1 ユーザー権限

権限レベル	説明
Administrator	すべての操作と参照が許可される。
Operator	PRIMEQUEST 1000 シリーズの状態の参照、および設定が許可される。 ユーザー管理やネットワークの設定変更はできない。 以下の操作ができない。 ・ [System Power Control] 画面からの電源操作 ・ ファンおよび PSU の Status の変更 ・ パーティションの構成変更 ・ Reserved SB の設定
Partition Operator	Operator の権限を、特定のパーティションだけに制限したアカウント。システムの状態参照は Operator と同様に可能。 Operator では可能な SB/IOB のステータスクリアなどの操作はできない。
User	PRIMEQUEST 1000 シリーズの状態の参照だけが許可される。 システム構成情報の設定や、パーティションの電源のオン／オフはできない。
CE	PRIMEQUEST 1000 シリーズの状態の参照が許可される。 電源操作は可能。

Web-UI のメニュー一覧を、ユーザー権限ごとに示します。

- 1.1.1 Web-UI のメニュー一覧 (Administrator)
- 1.1.2 Web-UI のメニュー一覧 (Operator)
- 1.1.3 Web-UI のメニュー一覧 (Partition Operator)
- 1.1.4 Web-UI のメニュー一覧 (User)
- 1.1.5 Web-UI のメニュー一覧 (CE)

1.1.1 Web-UI のメニュー一覧 (Administrator)

Administrator 権限で使用できる Web-UI のメニューを示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象メニューの参照および設定、制御が可能。
- RO：対象メニューの参照のみ可能。
- N/A：対象メニュー自体、およびサブメニューが表示されない。

表 1.2 Web-UI のメニュー一覧 (Administrator)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
System					
	System Status			RW	システム全体の状態表示
	System Event Log			RW	System Event Log の表示
	Operation Log			RW	Web-UI、CLI の操作を表示
	Partition Event Log			RW	PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 の場合のみ、PRIMEQUEST パーティションの REMCS 通報メッセージを表示
	System Information			RW	システム名、製品名などのシステム情報の表示
	Firmware Information			RO	ファームウェアのバージョン情報の表示
	System Setup			RW	システムのコンフィグレーション設定
	System Power Control			RW	電源制御
	LEDs			RW	LED の状態表示
	Power Supply			RW	電源の状態表示
	Fans			RW	ファンの状態表示
	Temperature			RW	PRIMEQUEST 1000 シリーズのシステム内温度センサーを表示
	SB				
		SB#0		RW	SB の状態表示。搭載されていない SB のメニューは表示しない。
		SB#1		RW	
		SB#2		RW	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		SB#3		RW	
	IOB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は IOB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、IOB の状態を表示する。
		IOB#0		RW	IOB の状態表示。搭載されていない IOB のメニューは表示しない。
		IOB#1		RW	
	GSPB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は GSPB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、GSPB の状態を表示する。
		GSPB#0		RW	GSPB の状態表示。搭載されていない GSPB のメニューは表示しない。
		GSPB#1		RW	
	SASU				
		SASU#0		RW	SAS ディスクユニットの状態表示。搭載されていない SAS ディスクユニットのメニューは表示しない。
		SASU#1		RW	
		SASU#2		RW	
		SASU#3		RW	
	PCI_Box				PCI ボックスが 1 台も接続されていない場合は本メニューを表示しない。 PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は PCI ボックス搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、PCI ボックスの状態を表示する。
		PCI_Box#0		RW	PCI ボックスの状態表示。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		PCI_Box#1		RW	搭載されていない PCI ボックスのメニューは表示しない。
	Other Boards				
		DVDB		RW	DVDB の状態表示と制御
	MMB				
		MMB#0		RW	MMB に関する情報の表示、LED の設定
		MMB#1		RW	
Partition					
	Power Control			RW	パーティションの電源制御をする。
	Schedule				
		Schedule Control		RW	スケジュール運転の設定をする。
		Schedule List		RW	電源オン／オフのスケジュールを設定する。
	DVD Switch			RW	DVD を切り替える。
	Partition Configuration			RW	パーティションの構成変更
	Reserved SB Configuration			RW	Reserved SB を定義する。
	Console Redirection Setup				
		IPv4 Console Redirection Setup		RW	Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
		IPv6 Console Redirection Setup		RW	Prefix Length、Video Redirection、Remote Storage 、Text Console Redirection の設定
	Partition#0				パーティションに属するボードが 1 枚も存在しない場

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
					合は本サブメニューを表示しない。
		Information		RW	パーティションのステータス、各種情報の表示
		ASR Control		RW	パーティションの自動再起動条件の設定
		Console Redirection		RW	パーティションのコンソール出力を表示
		Mode		RW	パーティションの Mode を設定する。
		PSA		RW	「第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作」参照。 [PSA] メニューは、PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L のみ表示する。
	Partition#1				Partition#0 と同様
	Partition#2				
	Partition#3				
User Administration					
	User List			RW	登録されているユーザーアカウントの一覧表示、編集、削除をする。
	Change Password			RW	自アカウントのパスワード変更
	Who			RO	MMB にログインしているユーザーを表示する。
Network Configuration					
	Date/Time			RW	
	Network Interface				

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		IPv4 Interface		RW	IPv4 用の IP Address などを設定する。
		IPv6 Interface		RW	IPv6 用の IP Address などを設定する。
	Management LAN Port Configuration			RW	MMB HUB の Port VLAN を設定する。
	Network Protocols			RW	
	Refresh Rate			RW	Web-UI 画面の Refresh Rate を設定する。
	SNMP Configuration			RW	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Community		RW	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Trap		RW	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		SNMPv3 Configuration		RW	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
	SSL				
		Create CSR		RW	秘密鍵と CSR を作成する。
		Export Key/CSR		RW	秘密鍵/CSR の取出し
		Import Security Certificate		RW	証明書をインストールする。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		Create Selfsigned Certificate		RW	自己署名した証明書を作成する。
	SSH				
		SSH Server Key		RW	SSH サーバのプライベートキーを作成する。
	Remote Server Management			RW	
	Access Control			RW	接続を許可する IP フィルタリングの設定をする。
	Alarm E-mail			RW	
Maintenance					
	Firmware Update				
		Unified Firmware Update		RW	一括アップデート
	Backup/Restore Configuration				設定情報の退避／復元をする。
		Backup/Restore MMB Configuration		RW	
		Backup EFI Configuration		RW	
		Restore EFI Configuration		RW	
	Maintenance Wizard			RW	ウィザード形式で保守をする。
	REMCS				
		REMCS		RW	
		Detailed Setup		RW	

1.1.2 Web-UI のメニュー一覧 (Operator)

Operator 権限で使用できる Web-UI のメニューを示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象メニューの参照および設定、制御が可能。
- RO：対象メニューの参照のみ可能。
- N/A：対象メニュー自体、およびサブメニューが表示されない。

表 1.3 Web-UI のメニュー一覧 (Operator)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
System					
	System Status			RO	システム全体の状態表示
	System Event Log			RO	System Event Log の表示
	Operation Log			RO	Web-UI、CLI の操作を表示
	Partition Event Log			RO	PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 の場合のみ、PRIMEQUEST パーティションの REMCS 通報メッセージを表示
	System Information			RO	システム名、製品名などのシステム情報の表示
	Firmware Information			RO	ファームウェアのバージョン情報の表示
	System Setup			RO	システムのコンフィグレーション設定
	System Power Control			RO	電源制御
	LEDs			RW	LED の状態表示
	Power Supply			RO	電源の状態表示
	Fans			RO	ファンの状態表示
	Temperature			RO	PRIMEQUEST 1000 シリーズのシステム内温度センサーを表示
	SB				
		SB#0		RW	SB の状態表示。
		SB#1		RW	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		SB#2		RW	搭載されていない SB のメニューは表示しない。
		SB#3		RW	
	IOB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は IOB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、IOB の状態を表示する。
		IOB#0		RW	IOB の状態表示。搭載されていない IOB のメニューは表示しない。
		IOB#1		RW	
	GSPB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は GSPB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、GSPB の状態を表示する。
		GSPB#0		RW	GSPB の状態表示。搭載されていない GSPB のメニューは表示しない。
		GSPB#1		RW	
	SASU				
		SASU#0		RW	SAS ディスクユニットの状態表示。搭載されていない SAS ディスクユニットのメニューは表示しない。
		SASU#1		RW	
		SASU#2		RW	
		SASU#3		RW	
	PCI_Box				PCI ボックスが 1 台も接続されていない場合は本メニューを表示しない。 PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は PCI ボックス搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、PCI ボックスの状態を表示する。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		PCI_Box#0		RW	PCI ボックスの状態表示。 搭載されていない PCI ボックスのメニューは表示しない。
		PCI_Box#1		RW	
	Other Boards				
		DVDB		RW	DVDB の状態表示と制御
	MMB				
		MMB#0		RW	MMB に関する情報の表示、LED の設定
		MMB#1		RW	
Partition					
	Power Control			RW	パーティションの電源制御をする。
	Schedule				
		Schedule Control		RW	スケジュール運転の設定をする。
		Schedule List		RW	電源オン／オフのスケジュールを設定する。
	DVD Switch			RW	DVD を切り替える。
	Partition Configuration			RO	パーティションの構成変更
	Reserved SB Configuration			RO	Reserved SB を定義する。
	Console Redirection Setup				
		IPv4 Console Redirection Setup		RO	Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
		IPv6 Console Redirection Setup		RO	Prefix Length、Video Redirection、Remote Storage 、Text Console Redirection の設定

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
	Partition#0				パーティションに属するボードが 1 枚も存在しない場合は本サブメニューを表示しない。
		Information		RO	パーティションのステータス、各種情報の表示
		ASR Control		RO	パーティションの自動再起動条件の設定
		Console Redirection		RW	パーティションのコンソール出力を表示
		Mode		RW	パーティションの Mode を設定する。
		PSA		RW	「第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作」参照。 [PSA] メニューは、PRIMEQUEST 1400S/1400E/ 1400L/1800E/1800L のみ表示する。
	Partition#1				Partition#0 と同様
	Partition#2				
	Partition#3				
User Administration					
	User List			N/A	登録されているユーザーアカウントの一覧表示、編集、削除をする。
	Change Password			RW	自アカウントのパスワード変更
	Who			RO	MMB にログインしているユーザーを表示する。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
Network Configuration					
	Date/Time			RO	
	Network Interface				
		IPv4 Interface		RO	IPv4 用の IP Address などを設定する
		IPv6 Interface		RO	IPv6 用の IP Address などを設定する
	Management LAN Port Configuration			N/A	MMB HUB の Port VLAN を設定する。
	Network Protocols			RO	
	Refresh Rate			RW	Web-UI 画面の Refresh Rate を設定する。
	SNMP Configuration			N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Community		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Trap		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		SNMPv3 Configuration		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
	SSL				
		Create CSR		N/A	秘密鍵と CSR を作成する。
		Export Key/CSR		N/A	秘密鍵/CSR の取出し

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		Import Security Certificate		N/A	証明書をインストールする。
		Create Selfsigned Certificate		N/A	自己署名した証明書を作成する。
	SSH				
		SSH Server Key		N/A	SSH サーバのプライベートキーを作成する。
	Remote Server Management			N/A	
	Access Control			N/A	接続を許可する IP フィルタリングの設定をする。
	Alarm E-mail			N/A	
Maintenance					
	Firmware Update				
		Unified Firmware Update		N/A	一括アップデート
	Backup/Restore Configuration				設定情報の退避／復元をする。
		Backup/Restore MMB Configuration		N/A	
		Backup EFI Configuration		N/A	
		Restore EFI Configuration		N/A	
	Maintenance Wizard			N/A	ウィザード形式で保守をする。
	REMCS				
		REMCS		N/A	
		Detailed Setup		N/A	

1.1.3 Web-UI のメニュー一覧 (Partition Operator)

Partition Operator 権限で使用できる Web-UI のメニューを示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象メニューの参照および設定、制御が可能。

- RO：対象メニューの参照のみ可能。
- N/A：対象メニュー自体、およびサブメニューが表示されない。

表 1.4 Web-UI のメニュー一覧 (Partition Operator)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
System						
	System Status			RO	RO	システム全体の状態表示
	System Event Log			RO	RO	System Event Log の表示
	Operation Log			RO	RO	Web-UI、CLI の操作を表示
	Partition Event Log			RO	RO	PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 の場合のみ、PRIMEQUEST パーティションの REMCS 通報メッセージを表示
	System Information			RO	RO	システム名、製品名などのシステム情報の表示
	Firmware Information			RO	RO	ファームウェアのバージョン情報の表示
	System Setup			RO	RO	システムのコンフィグレーション設定
	System Power Control			RO	RO	電源制御
	LEDs			RW	RW	LED の状態表示
	Power Supply			RO	RO	電源の状態表示
	Fans			RO	RO	ファンの状態表示
	Temperature			RO	RO	PRIMEQUEST 1000 シリーズのシステム内温度センサーを表示

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
	SB					
		SB#0		RO	RO	SB の状態表示。搭載されていない SB のメニューは表示しない。
		SB#1		RO	RO	
		SB#2		RO	RO	
		SB#3		RO	RO	
	IOB					PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は IOB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、IOB の状態を表示する。
		IOB#0		RO	RO	IOB の状態表示。搭載されていない IOB のメニューは表示しない。
		IOB#1		RO	RO	
	GSPB					PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は GSPB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、GSPB の状態を表示する。
		GSPB#0		RO	RO	GSPB の状態表示。搭載されていない GSPB のメニューは表示しない。
		GSPB#1		RO	RO	
	SASU					
		SASU#0		RO	RO	SAS ディスクユニットの状態表示。搭載されていない SAS ディスクユニットのメニューは表示しない。
		SASU#1		RO	RO	
		SASU#2		RO	RO	
		SASU#3		RO	RO	
	PCI_Box					PCI ボックスが 1 台も接続されていない場合は本メ

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
						ニューを表示しない。 PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は PCI ボックス搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、PCI ボックスの状態を表示する。
		PCI_Box#0		RO	RO	PCI ボックスの状態表示。 搭載されていない PCI ボックスのメニューは表示しない。
		PCI_Box#1		RO	RO	
	Other Boards					
		DVDB		RO	RO	DVDB の状態表示と制御
	MMB					
		MMB#0		RO	RO	MMB に関する情報の表示、LED の設定
		MMB#1		RO	RO	
Partition						
	Power Control			RW	RO	パーティションの電源制御をする。
	Schedule					
		Schedule Control		RW	RO	スケジュール運転の設定をする。
		Schedule List		RW	RO	電源オン／オフのスケジュールを設定する。
	DVD Switch			RW	RO	DVD を切り替える。
	Partition Configuration			RO	RO	パーティションの構成変更

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
	Reserved SB Configuration			RO	RO	Reserved SB を定義する。
	Console Redirection Setup					
		IPv4 Console Redirection Setup		RO	RO	Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
		IPv6 Console Redirection Setup		RO	RO	Prefix Length、Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
	Partition#0					パーティションに属するボードが 1 枚も存在しない場合は本サブメニューを表示しない。
		Information		RO	N/A	パーティションのステータス、各種情報の表示
		ASR Control		RW	N/A	パーティションの自動再起動条件の設定
		Console Redirection		RW	N/A	パーティションのコンソール出力を表示
		Mode		RW	N/A	パーティションの Mode を設定する。
		PSA		RW	N/A	「第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインター

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
						フェース) 操作」参照。 [PSA] メニューは、PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L シリーズのみ表示する。
	Partition#1					Partition#0 と同様
	Partition#2					
	Partition#3					
User Administration						
	User List			N/A	N/A	登録されているユーザーアカウントの一覧表示、編集、削除をする。
	Change Password			RW	N/A	自アカウントのパスワード変更
	Who			RO	RO	MMB にログインしているユーザーを表示する。
Network Configuration						
	Date/Time			RO	RO	
	Network Interface					
		IPv4 Interface		RO	RO	IPv4 用の IP Address などを設定する。
		IPv6 Interface		RO	RO	IPv6 用の IP Address などを設定する。
	Management LAN Port Configuration			N/A	N/A	MMB HUB の Port VLAN を設定する。
	Network Protocols			RO	RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
	Refresh Rate			RW	RW	Web-UI 画面の Refresh Rate を設定する。
	SNMP Configuration			N/A	N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Community		N/A	N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Trap		N/A	N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		SNMPv3 Configuration		N/A	N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
	SSL					
		Create CSR		N/A	N/A	秘密鍵と CSR を作成する。
		Export Key/CSR		N/A	N/A	秘密鍵/CSR の取出し
		Import Security Certificate		N/A	N/A	証明書をインストールする。
		Create Selfsigned Certificate		N/A	N/A	自己署名した証明書を作成する。
	SSH					
		SSH Server Key		N/A	N/A	SSH サーバのプライベートキーを作成する。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
	Remote Server Management			N/A	N/A	
	Access Control			N/A	N/A	接続を許可する IP フィルタリングの設定をする。
	Alarm E-mail			N/A	N/A	
Maintenance						
	Firmware Update					
		Unified Firmware Update		N/A	N/A	一括アップデート
	Backup/Restore Configuration					設定情報の退避／復元をする。
		Backup/Restore MMB Configuration		N/A	N/A	
		Backup EFI Configuration		N/A	N/A	
		Restore EFI Configuration		N/A	N/A	
	Maintenance Wizard			N/A	N/A	ウィザード形式で保守をする。
	REMCS					
		REMCS		N/A	N/A	
		Detailed Setup		N/A	N/A	

1.1.4 Web-UI のメニュー一覧 (User)

User 権限で使用できる Web-UI のメニューを示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象メニューの参照および設定、制御が可能。
- RO：対象メニューの参照のみ可能。
- N/A：対象メニュー自体、およびサブメニューが表示されない。

表 1.5 Web-UI のメニュー一覧 (User)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
System					
	System Status			RO	システム全体の状態表示
	System Event Log			RO	System Event Log の表示
	Operation Log			RO	Web-UI、CLI の操作を表示
	Partition Event Log			RO	PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 の場合のみ、PRIMEQUEST パーティションの REMCS 通報メッセージを表示
	System Information			RO	システム名、製品名などのシステム情報の表示
	Firmware Information			RO	ファームウェアのバージョン情報の表示
	System Setup			RO	システムのコンフィグレーション設定
	System Power Control			RO	電源制御
	LEDs			RW	LED の状態表示
	Power Supply			RO	電源の状態表示
	Fans			RO	ファンの状態表示
	Temperature			RO	PRIMEQUEST 1000 シリーズのシステム内温度センサーを表示
	SB				
		SB#0		RO	SB の状態表示。搭載されていない SB のメニューは表示しない。
		SB#1		RO	
		SB#2		RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		SB#3		RO	
	IOB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は IOB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、IOB の状態を表示する。
		IOB#0		RO	IOB の状態表示。搭載されていない IOB のメニューは表示しない。
		IOB#1		RO	
	GSPB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は GSPB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、GSPB の状態を表示する。
		GSPB#0		RO	GSPB の状態表示。搭載されていない GSPB のメニューは表示しない。
		GSPB#1		RO	
	SASU				
		SASU#0		RO	SAS ディスクユニットの状態表示。搭載されていない SAS ディスクユニットのメニューは表示しない。
		SASU#1		RO	
		SASU#2		RO	
		SASU#3		RO	
	PCI_Box				PCI ボックスが 1 台も接続されていない場合は本メニューを表示しない。 PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は PCI ボックス搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、PCI ボックスの状態を表示する。
		PCI_Box#0		RO	PCI ボックスの状態表示。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		PCI_Box#1		RO	搭載されていない PCI ボックスのメニューは表示しない。
	Other Boards				
		DVDB		RO	DVDB の状態表示と制御
	MMB				
		MMB#0		RO	MMB に関する情報の表示、LED の設定
		MMB#1		RO	
Partition					
	Power Control			RO	パーティションの電源制御をする。
	Schedule				
		Schedule Control		RO	スケジュール運転の設定をする。
		Schedule List		RO	電源オン／オフのスケジュールを設定する。
	DVD Switch			RO	DVD を切り替える。
	Partition Configuration			RO	パーティションの構成変更
	Reserved SB Configuration			RO	Reserved SB を定義する。
	Console Redirection Setup				
		IPv4 Console Redirection Setup		RO	Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
		IPv6 Console Redirection Setup		RO	Prefix Length、Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
	Partition#0				パーティションに属するボードが 1

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
					枚も存在しない場合は本サブメニューを表示しない。
		Information		RO	パーティションのステータス、各種情報の表示
		ASR Control		RO	パーティションの自動再起動条件の設定
		Console Redirection		N/A	パーティションのコンソール出力を表示
		Mode		RO	パーティションの Mode を設定する。
		PSA		RO	「第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作」参照。 [PSA] メニューは、PRIMEQUEST 1400S/1400E/ 1400L/1800E/1800L のみ表示する。
	Partition#1				Partition#0 と同様
	Partition#2				
	Partition#3				
User Administration					
	User List			N/A	登録されているユーザーアカウントの一覧表示、編集、削除をする。
	Change Password			RW	自アカウントのパスワード変更
	Who			RO	MMB にログインしているユーザーを表示する。
Network Configuration					
	Date/Time			RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
	Network Interface				
		IPv4 Interface		RO	IPv4用の IP Address などを設定する。
		IPv6 Interface		RO	IPv6用の IP Address などを設定する。
	Management LAN Port Configuration			N/A	MMB HUB の Port VLAN を設定する。
	Network Protocols			RO	
	Refresh Rate			RW	Web-UI 画面の Refresh Rate を設定する。
	SNMP Configuration			N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Community		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Trap		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		SNMPv3 Configuration		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
	SSL				
		Create CSR		N/A	秘密鍵と CSR を作成する。
		Export Key/CSR		N/A	秘密鍵/CSR の取出し
		Import Security Certificate		N/A	証明書をインストールする。
		Create Selfsigned Certificate		N/A	自己署名した証明書を作成する。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
	SSH				
		SSH Server Key		N/A	SSH サーバのプライベートキーを作成する。
	Remote Server Management			N/A	
	Access Control			N/A	接続を許可する IP フィルタリングの設定をする。
	Alarm E-mail			N/A	
Maintenance					
	Firmware Update				
		Unified Firmware Update		N/A	一括アップデート
	Backup/Restore Configuration				設定情報の退避／復元をする。
		Backup/Restore MMB Configuration		N/A	
		Backup EFI Configuration		N/A	
		Restore EFI Configuration		N/A	
	Maintenance Wizard			N/A	ウィザード形式で保守をする。
	REMCS				
		REMCS		N/A	
		Detailed Setup		N/A	

1.1.5 Web-UI のメニュー一覧 (CE)

CE 権限で使用できる Web-UI のメニューを示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象メニューの参照および設定、制御が可能。
- RO：対象メニューの参照のみ可能。
- N/A：対象メニュー自体、およびサブメニューが表示されない。

表 1.6 Web-UI のメニュー一覧 (CE)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
System					
	System Status			RO	システム全体の状態表示
	System Event Log			RO	System Event Log の表示
	Operation Log			RO	Web-UI、CLI の操作を表示
	Partition Event Log			RO	PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 の場合のみ、PRIMEQUEST パーティションの REMCS 通報メッセージを表示
	System Information			RO	システム名、製品名などのシステム情報の表示
	Firmware Information			RO	ファームウェアのバージョン情報の表示
	System Setup			RW	システムのコンフィグレーション設定
	System Power Control			RO	電源制御
	LEDs			RW	LED の状態表示
	Power Supply			RW	電源の状態表示
	Fans			RW	ファンの状態表示
	Temperature			RW	PRIMEQUEST 1000 シリーズのシステム内温度センサーを表示
	SB				
		SB#0		RW	SB の状態表示。搭載されていない SB のメニューは表示しない。
		SB#1		RW	
		SB#2		RW	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		SB#3		RW	
	IOB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は IOB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、IOB の状態を表示する。
		IOB#0		RW	IOB の状態表示。搭載されていない IOB のメニューは表示しない。
		IOB#1		RW	
	GSPB				PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は GSPB 搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、GSPB の状態を表示する。
		GSPB#0		RW	GSPB の状態表示。搭載されていない GSPB のメニューは表示しない。
		GSPB#1		RW	
	SASU				
		SASU#0		RW	SAS ディスクユニットの状態表示。搭載されていない SAS ディスクユニットのメニューは表示しない。
		SASU#1		RW	
		SASU#2		RW	
		SASU#3		RW	
	PCI_Box				PCI ボックスが 1 台も接続されていない場合は本メニューを表示しない。 PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は PCI ボックス搭載数 1 のため、第 2 階層は表示せず、PCI ボックスの状態を表示する。
		PCI_Box#0		RW	PCI ボックスの状態表示。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
		PCI_Box#1		RW	搭載されていない PCI ボックスのメニューは表示しない。
	Other Boards				
		DVDB		RW	DVDB の状態表示と制御
	MMB				
		MMB#0		RW	MMB に関する情報の表示、LED の設定
		MMB#1		RW	
Partition					
	Power Control			RO	パーティションの電源制御をする。
	Schedule				
		Schedule Control		RO	スケジュール運転の設定をする。
		Schedule List		RO	電源オン／オフのスケジュールを設定する。
	DVD Switch			RW	DVD を切り替える。
	Partition Configuration			RO	パーティションの構成変更
	Reserved SB Configuration			RO	Reserved SB を定義する。
	Console Redirection Setup				
		IPv4 Console Redirection Setup		RO	Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
		IPv6 Console Redirection Setup		RO	Prefix Length、Video Redirection、Remote Storage、Text Console Redirection の設定
	Partition#0				パーティションに属するボードが 1

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
					枚も存在しない場合は本サブメニューを表示しない。
		Information		RO	パーティションのステータス、各種情報の表示
		ASR Control		RO	パーティションの自動再起動条件の設定
		Console Redirection		RO	パーティションのコンソール出力を表示
		Mode		RO	パーティションの Mode を設定する。
		PSA		RO	「第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作」参照。 [PSA] メニューは、PRIMEQUEST 1400S/1400E/ 1400L/1800E/1800L のみ表示する。
	Partition#1				Partition#0 と同様
	Partition#2				
	Partition#3				
User Administration					
	User List			N/A	登録されているユーザーアカウントの一覧表示、編集、削除をする。
	Change Password			RW	自アカウントのパスワード変更
	Who			RO	MMB にログインしているユーザーを表示する。
Network Configuration					
	Date/Time			RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
	Network Interface				
		IPv4 Interface		RO	IPv4用の IP Address などを設定する。
		IPv6 Interface		RO	IPv6用の IP Address などを設定する。
	Management LAN Port Configuration			N/A	MMB HUB の Port VLAN を設定する。
	Network Protocols			RO	
	Refresh Rate			RW	Web-UI 画面の Refresh Rate を設定する。
	SNMP Configuration			N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Community		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		Trap		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
		SNMPv3 Configuration		N/A	Network Protocols において SNMP が Enable に設定されている場合に表示される。
	SSL				
		Create CSR		N/A	秘密鍵と CSR を作成する。
		Export Key/CSR		N/A	秘密鍵/CSR の取出し
		Import Security Certificate		N/A	証明書をインストールする。
		Create Selfsigned Certificate		N/A	自己署名した証明書を作成する。

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	権限	備考
	SSH				
		SSH Server Key		N/A	SSH サーバのプライベートキーを作成する。
	Remote Server Management			N/A	
	Access Control			N/A	接続を許可する IP フィルタリングの設定をする。
	Alarm E-mail			N/A	
Maintenance					
	Firmware Update				
		Unified Firmware Update		RW	一括アップデート
	Backup/Restore Configuration				設定情報の退避／復元をする。
		Backup/Restore MMB Configuration		RW	
		Backup EFI Configuration		RW	
		Restore EFI Configuration		RW	
	Maintenance Wizard			RW	ウィザード形式で保守をする。
	REMCS				
		REMCS		RW	
		Detailed Setup		RW	

1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー

保守モードが設定されている場合、保守モードを設定したユーザー (以降、保守者と記述) とそれ以外のユーザー (以降、非保守者と記述) に操作制限が生じる画面があります。
以下に、保守モード時の Web-UI 画面について、保守者と非保守者それぞれの制限を示します。

保守モードには、以下の 5 種類があります。

表 1.7 保守モードの種類

保守モード	説明
Hot System Maintenance (Target unit not included in a partition) 活性作業 (システム)	業務を停止することなく実施する、パーティション構成物以外の保守操作。
Hot Partition Maintenance (Target unit in a running partition) 活性作業 (パーティション)	業務を停止することなく実施する、保守対象のパーティションが動作中の保守操作。
Warm System Maintenance (Target unit in a powered off partition) パーティション停止作業	保守の対象パーティション、または保守対象となるユニットが含まれるパーティションの業務を停止して実施する保守操作。 保守の対象外となるパーティションの業務は、停止する必要はない。
Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker on) 停止作業 (スタンバイ)	システムを停止して実施する保守操作。すべての業務が停止する。
Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker off) 停止作業 (AC オフ)	システムを停止し、さらに AC 電源の切断(MMB 電源切断) をともなう保守操作。すべての業務が停止する。

以下に保守モード時の Web-UI のメニュー一覧を、ユーザー権限ごとに表示します。

- 1.1.7 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Administrator)
- 1.1.8 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Operator)
- 1.1.9 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator)
- 1.1.10 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (User)
- 1.1.11 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (CE)
- 1.1.12 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (保守者)

1.1.7 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Administrator)

Administrator 権限の保守モード時の Web-UI メニューを、以下に示します。

保守モード欄は、以下を示します。保守モードについて詳しくは、「1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー」を参照してください。

- Hot System：Hot System Maintenance (Target unit not included in a partition)
- Hot Partition：Hot Partition Maintenance (Target unit in a running partition)
- Warm System：Warm System Maintenance (Target unit in a powered off partition)
- Cold System：Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker on) および Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker off)

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。
RW：対象画面の参照および設定が可能
RO：対象画面の参照のみ可能
N/A：対象メニューおよびサブメニューは表示されない

*1：対象画面の保守モードパーティション以外を操作可能
*2：対象画面の保守モードパーティションのみ操作可能
*3：「対象 SB は Home SB、Reserved SB でもない」または、「対象 SB は Home SB で、Power Off 状態、属しているパーティションは Standby 状態」
*4：「対象パーティションは Standby 状態」

表 1.8 保守モード時の Web-UI のメニュー一覧 (Administrator)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
System						
	System Power Control			Hot System	RW	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	MMB					
		MMB#0		Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
		MMB#1			MMB#0 と同じ	
Partition						
	Power Control			Hot System	RW	
				Hot Partition	RW (*1)	
				Warm System	RW (*1)	
				Cold System	RO	
	DVD Switch			Hot System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Hot Partition	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
				Warm System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Cold System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
	Partition Configuration			Hot System	RW	Free ユニットは交換対象ユニットである可能性があるので、Add は抑止する。
				Hot Partition	RW (*1)	
				Warm System	RW (*1)	
				Cold System	RO	
		Add SB / IOB/ GSPB to Partition			Partition Configuration と同じ	
		Remove SB / IOB/GSPB from Partition			Partition Configuration と同じ	
		Partition Home			Partition Configuration と同じ	
	Reserved SB Configuration			Hot System	RW	
				Hot Partition	RW (*1)	
				Warm System	RW (*1)	
				Cold System	RO	
	Console Redirection			Hot System	RW	
				Hot Partition	RW (*1)	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
				Warm System	RW (*1)	
				Cold System	RO	
Network Configuration						
	Network Interface			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
Maintenance Wizard						
	Firmware Update					
		Unified Firm ware Update		Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	Backup/ Restore Configuration					
		Backup/ Restore MMB Configuration			RW	[Backup MMB] 保守モードには影響されない。
						[Restore MMB] 保守者のみ操作可能
	Maintenance Wizard			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	

1.1.8 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Operator)

Operator 権限の保守モード時の Web-UI メニューを、以下に示します。

保守モード欄は、以下を示します。保守モードについて詳しくは、「1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー」を参照してください。

- Hot System：Hot System Maintenance (Target unit not included in a partition)
- Hot Partition：Hot Partition Maintenance (Target unit in a running partition)

- Warm System：Warm System Maintenance (Target unit in a powered off partition)
- Cold System：Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker on) および Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker off)

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。
RW：対象画面の参照および設定が可能
RO：対象画面の参照のみ可能
N/A：対象メニューおよびサブメニューは表示されない
*1：対象画面の保守モードパーティション以外を操作可能
*2：対象画面の保守モードパーティションのみ操作可能
*3：「対象 SB は Home SB、Reserved SB でもない」または、「対象 SB は Home SB で、Power Off 状態、属しているパーティションは Standby 状態」
*4：「対象パーティションは Standby 状態」

表 1.9 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Operator)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
System						
	System Power Control			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	MMB					
		MMB#0		Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
		MMB#1			MMB#0 と同じ	
Partition						
	Power Control			Hot System	RW	
				Hot Partition	RW (*1)	
				Warm System	RW (*1)	
				Cold System	RO	
	DVD Switch			Hot System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージ

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
						の表示・非表示」参照)
				Hot Partition	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Warm System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Cold System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
	Partition Configuration			Hot System	RO	Free ユニットは交換対象ユニットである可能性があるので、Add は抑止する。
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
		Add SB / IOB/ GSPB to Partition			Partition Configuration と同じ	
		Remove SB / IOB/GSPB from Partition			Partition Configuration と同じ	
		Partition Home			Partition Configuration と同じ	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
	Reserved SB Configuration			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	Console Redirection			Hot System	RW	
				Hot Partition	RW (*1)	
				Warm System	RW (*1)	
				Cold System	RO	
Network Configuration						
	Network Interface			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
Maintenance Wizard						
	Firmware Update					
		Unified Firm ware Update		Hot System	N/A	
				Hot Partition	N/A	
				Warm System	N/A	
				Cold System	N/A	
	Backup/ Restore Configuration					
		Backup/ Restore MMB Configuration			N/A	[Backup MMB] 保守モードには影響されない。
						[Restore MMB] 保守者のみ操作可能
	Maintenance Wizard			Hot System	N/A	
				Hot Partition	N/A	
				Warm System	N/A	
				Cold System	N/A	

1.1.9 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator)

Partition Operator 権限の保守モード時の Web-UI メニューを、以下に示します。

保守モード欄は、以下を示します。保守モードについて詳しくは、「1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー」を参照してください。

- Hot System：Hot System Maintenance (Target unit not included in a partition)
- Hot Partition：Hot Partition Maintenance (Target unit in a running partition)
- Warm System：Warm System Maintenance (Target unit in a powered off partition)
- Cold System：Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker on) および Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker off)

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。
RW：対象画面の参照および設定が可能
RO：対象画面の参照のみ可能
N/A：対象メニューおよびサブメニューは表示されない
*1：対象画面の保守モードパーティション以外を操作可能
*2：対象画面の保守モードパーティションのみ操作可能
*3：「対象 SB は Home SB、Reserved SB でもない」または、「対象 SB は Home SB で、Power Off 状態、属しているパーティションは Standby 状態」
*4：「対象パーティションは Standby 状態」

表 1.10 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
System							
	System Power Control			Hot System	RO	RO	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RO	RO	
	MMB						
		MMB#0		Hot System	RO	RO	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RO	RO	
		MMB#1			MMB#0 と同じ		
Partition							
	Power Control			Hot System	RW	RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
				Hot Partition	RW (*1)	RO	
				Warm System	RW (*1)	RO	
				Cold System	RO	RO	
	DVD Switch			Hot System	RW	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Hot Partition	RW	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Warm System	RW	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Cold System	RW	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
	Partition Configuration			Hot System	RO	RO	Free ユニットは交換対象ユニットである可能性があるので、Add は抑止する。
				Hot Partition	RO	RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RO	RO	
		Add SB / IOB/GSPB to Partition			Partition Configuration と同じ		
		Remove SB / IOB/GSPB from Partition			Partition Configuration と同じ		
		Partition Home			Partition Configuration と同じ		
	Reserved SB Configuration			Hot System	RO	RO	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RO	RO	
	Console Redirection			Hot System	RW	N/A	
				Hot Partition	RW (*1)	N/A	
				Warm System	RW (*1)	N/A	
				Cold System	RO	N/A	
Network Configuration							
	Network Interface			Hot System	RO	RO	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RO	RO	
Maintenance Wizard							
	Firmware Update						
		Unified Firmware Update		Hot System	N/A	N/A	
				Hot Partition	N/A	N/A	
				Warm System	N/A	N/A	
				Cold System	N/A	N/A	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (自パーティション)	権限 (他パーティション)	備考
	Backup/ Restore Configuration						
		Backup/ Restore MMB Configuration			N/A	N/A	[Backup MMB] 保守モードには影響されない。
							[Restore MMB] 保守者のみ操作可能
	Maintenance Wizard			Hot System	N/A	N/A	
				Hot Partition	N/A	N/A	
				Warm System	N/A	N/A	
				Cold System	N/A	N/A	

1.1.10 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (User)

User 権限の保守モード時の Web-UI メニューを、以下に示します。

保守モード欄は、以下を示します。保守モードについて詳しくは、「1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー」を参照してください。

- Hot System：Hot System Maintenance (Target unit not included in a partition)
- Hot Partition：Hot Partition Maintenance (Target unit in a running partition)
- Warm System：Warm System Maintenance (Target unit in a powered off partition)
- Cold System：Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker on) および Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker off)

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。
RW：対象画面の参照および設定が可能
RO：対象画面の参照のみ可能
N/A：対象メニューおよびサブメニューは表示されない
*1：対象画面の保守モードパーティション以外を操作可能
*2：対象画面の保守モードパーティションのみ操作可能
*3：「対象 SB は Home SB、Reserved SB でもない」または、「対象 SB は Home SB で、Power Off 状態、属しているパーティションは Standby 状態」
*4：「対象パーティションは Standby 状態」

表 1.11 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (User)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
System						
	System Power Control			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	MMB					
		MMB#0		Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
		MMB#1			MMB#0 と同じ	
Partition						
	Power Control			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	DVD Switch			Hot System	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Hot Partition	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Warm System	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
				Cold System	RO	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
	Partition Configuration			Hot System	RO	Free ユニットは交換対象ユニットである可能性があるので、Add は抑止する。
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
		Add SB / IOB/ GSPB to Partition			Partition Configuration と同じ	
		Remove SB / IOB/GSPB from Partition			Partition Configuration と同じ	
		Partition Home			Partition Configuration と同じ	
	Reserved SB Configuration			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	Console Redirection			Hot System	N/A	
				Hot Partition	N/A	
				Warm System	N/A	
				Cold System	N/A	
Network Configuration						
	Network Interface			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
Maintenance Wizard						
	Firmware Update					
		Unified Firm ware Update		Hot System	N/A	
				Hot Partition	N/A	
				Warm System	N/A	
				Cold System	N/A	
	Backup/ Restore Configuration					
		Backup/ Restore MMB Configuration			N/A	[Backup MMB] 保守モードには影響されない。
						[Restore MMB] 保守者のみ操作可能
	Maintenance Wizard			Hot System	N/A	
				Hot Partition	N/A	
				Warm System	N/A	
				Cold System	N/A	

1.1.11 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (CE)

CE 権限の保守モード時の Web-UI メニューを、以下に示します。

保守モード欄は、以下を示します。保守モードについて詳しくは、「1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー」を参照してください。

- Hot System：Hot System Maintenance (Target unit not included in a partition)
- Hot Partition：Hot Partition Maintenance (Target unit in a running partition)
- Warm System：Warm System Maintenance (Target unit in a powered off partition)
- Cold System：Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker on) および Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker off)

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。
RW：対象画面の参照および設定が可能
RO：対象画面の参照のみ可能

N/A：対象メニューおよびサブメニューは表示されない
*1：対象画面の保守モードパーティション以外を操作可能
*2：対象画面の保守モードパーティションのみ操作可能
*3：「対象 SB は Home SB、Reserved SB でもない」または、「対象 SB は Home SB で、Power Off 状態、属しているパーティションは Standby 状態」
*4：「対象パーティションは Standby 状態」

表 1.12 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (CE)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
System						
	System Power Control			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	MMB					
		MMB#0		Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
		MMB#1			MMB#0 と同じ	
Partition						
	Power Control			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	DVD Switch			Hot System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Hot Partition	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
				Warm System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Cold System	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
	Partition Configuration			Hot System	RO	Free ユニットは交換対象ユニットである可能性があるので、Add は抑止する。
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
		Add SB / IOB/ GSPB to Partition			Partition Configuration と同じ	
		Remove SB / IOB/GSPB from Partition			Partition Configuration と同じ	
		Partition Home			Partition Configuration と同じ	
	Reserved SB Configuration			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	Console Redirection			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限	備考
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
Network Configuration						
	Network Interface			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
Maintenance Wizard						
	Firmware Update					
		Unified Firm ware Update		Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	
	Backup/ Restore Configuration					
		Backup/ Restore MMB Configuration			RW	[Backup MMB] 保守モードには影響されない。
						[Restore MMB] 保守者のみ操作可能
	Maintenance Wizard			Hot System	RO	
				Hot Partition	RO	
				Warm System	RO	
				Cold System	RO	

1.1.12 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (保守者)

保守者 (Administrator 権限または CE 権限) の保守モード時の Web-UI メニューを、以下に示します。

保守モード欄は、以下を示します。保守モードについて詳しくは、「1.1.6 保守モード時の Web-UI メニュー」を参照してください。

- Hot System：Hot System Maintenance (Target unit not included in a partition)
- Hot Partition：Hot Partition Maintenance (Target unit in a running partition)

- Warm System：Warm System Maintenance (Target unit in a powered off partition)
- Cold System：Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker on) および Cold System Maintenance (All partitions powered off, breaker off)

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。
RW：対象画面の参照および設定が可能
RO：対象画面の参照のみ可能
N/A：対象メニューおよびサブメニューは表示されない
*1：対象画面の保守モードパーティション以外を操作可能
*2：対象画面の保守モードパーティションのみ操作可能
*3：「対象 SB は Home SB、Reserved SB でもない」または、「対象 SB は Home SB で、Power Off 状態、属しているパーティションは Standby 状態」
*4：「対象パーティションは Standby 状態」

表 1.13 保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (保守者)

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (Administrator)	権限 (CE)	備考
System							
	System Power Control			Hot System	RW	RO	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RW	RW	
	MMB						
		MMB#0		Hot System	RW	RW	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RW	RW	
		MMB#1			MMB#0 と同じ		
Partition							
	Power Control			Hot System	RW	RO	
				Hot Partition	RW (*1)	RO	
				Warm System	RW	RW (*2)	
				Cold System	RW	RW	
	DVD Switch			Hot System	RW	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (Administrator)	権限 (CE)	備考
							表示・非表示」参照)
				Hot Partition	RW	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Warm System	RW	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
				Cold System	RW	RW	条件によりメッセージ出力 (「表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示」参照)
	Partition Configuration			Hot System	RW	RO	Free ユニットは交換対象ユニットである可能性があるので、Add は抑止する。
				Hot Partition	RW	RO	
				Warm System	RW	RO	
				Cold System	RW	RO	
		Add SB / IOB/GSPB to Partition			Partition Configuration と同じ		
		Remove SB / IOB/GSPB from Partition			Partition Configuration と同じ		

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (Administrator)	権限 (CE)	備考
		Partition Home			Partition Configuration と同じ		
	Reserved SB Configuration			Hot System	RW	RO	
				Hot Partition	RW	RO	
				Warm System	RW	RO	
				Cold System	RW	RO	
	Console Redirection			Hot System	RW	RO	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RW	RW	
Network Configuration							
	Network Interface			Hot System	RO	RO	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RO	RO	
Maintenance Wizard							
	Firmware Update						
		Unified Firmware Update		Hot System	RW	RW	
				Hot Partition	RO	RO	
				Warm System	RO	RO	
				Cold System	RW	RW	
	Backup/ Restore Configuration						
		Backup/ Restore MMB Configuration			RW	RW	[Backup MMB] 保守モードには影響されない。 [Restore MMB] 保守者のみ操作可能
	Maintenance Wizard			Hot System	RW	RW	

Navigation Bar	第 1 階層	第 2 階層	第 3 階層	保守モード	権限 (Administrator)	権限 (CE)	備考
				Hot Partition	RW	RW	
				Warm System	RW	RW	
				Cold System	RW	RW	

1.2 System メニュー

System メニューでは、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム全体のハードウェアコンポーネントの状態表示や設定ができます。

備考

MMB Web-UI (コンテンツ領域、インフォメーション領域) 上の [Part Number]、[Serial Number] に「Read Error」が表示されたら、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「11.2 トラブル対応」を参照して、内容を確認してください。それでも解決できない異常については、担当営業員または修理相談窓口に連絡してください。
ご連絡のさいは、本体装置に貼付のラベルで記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。

1.2.1 [System Status] 画面

[System Status] 画面には、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム全体の状態が表示されます。装置構成によって表示内容が異なる場合があります。
各ユニットの表示枠 (リンク表示) をクリックすると、各ユニットの詳細状態を表す画面が表示されます。

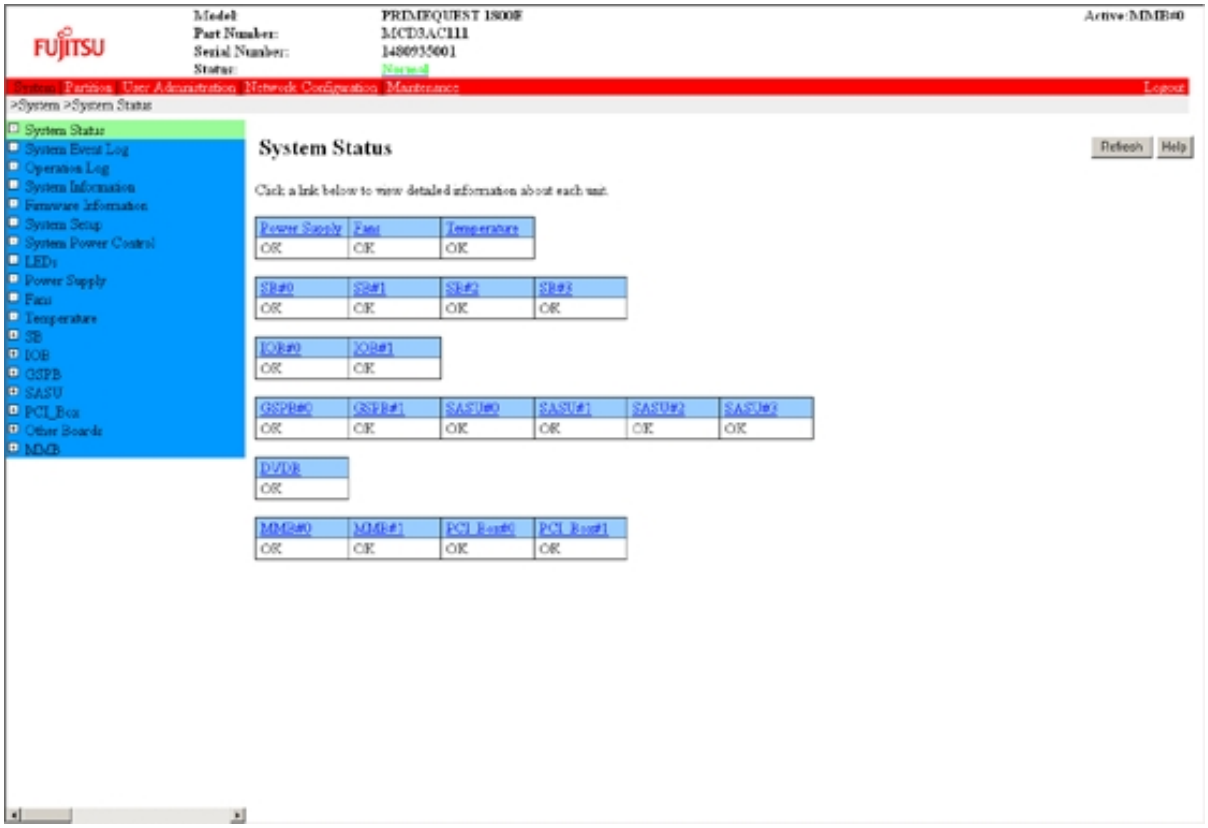


図 1.1 [System Status] 画面

ユニットの状態として表示される内容は、以下のとおりです。
[OK]：障害がなく、正常に動作している状態のユニットです。
[Not-present]：未搭載のユニットです。背景色が灰色で表示されます。

[Warning]：重大ではないが、将来問題が発生するおそれがある状態のユニットです。「 」アイコンで表示されています。

[Failed]：障害が発生しており切離しが必要な状態のユニットです。「 」アイコンで表示されています。
[Degraded]：ユニット内のコンポーネントに障害が発生していても、障害のコンポーネントを切り離して動作ができる状態のユニットです。「 」アイコンで表示されています。

表 1.14 ユニットの状態とアイコン

状態	表示色	アイコン
Normal (通常状態)	緑色	なし
Warning、Degraded	黄色	黄色三角内に黒色！マーク
Failed	赤色	赤色丸内に白色×マーク

各ユニットは、詳細状態表示画面へリンクしています。ただし、搭載されていないユニットは詳細画面がないため、リンクになっていません。

PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は、IOB、GSPB、PCI ボックスの最大搭載数は 1 個です。そのため、「IOB#0」、「GSPB#0」、「PCI_Box#0」のような番号表示はされず、「IOB」、「GSPB」、「PCI_Box」のように表示されます。

表 1.15 [System Status] 画面の表示項目

項目	説明
Power Supply	PSU の状態が表示される。
Fans	ファンの状態が表示される。
Temperature	温度センサーの状態が表示される。
SB#0 ～ SB#3	システムボードの状態が表示される。
IOB#0 ～ IOB#1	IOB の状態が表示される。
GSPB#0 ～ GSPB#1	GSPB の状態が表示される。
SASU#0 ～ SASU#3	SAS ディスクユニットの状態が表示される。
DVDB	DVDB の状態が表示される。
MMB#0 ～ MMB#1	MMB の状態が表示される。
PCI_Box#0 ～ PCI_Box#1	接続されている PCI ボックスの状態が表示される。

(1) メニュー操作
[System] - [System Status]

(2) 画面操作

1. ユニットの詳細状態を確認する場合、該当する各ユニットのリンクをクリックします。
   各ユニットの詳細状態を表示する画面が表示されます。

備考

詳細状態の表示は、直接、[System] のサブメニューから対象ユニットのメニューを選択することもできます。操作について詳しくは、「1.2.9 [LEDs] 画面」～「1.2.17 [PCI_Box] メニュー」を参照してください。

1.2.2 [System Event Log] 画面

[System Event Log] 画面には、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム内で発生したイベントのうち、現在 MMB のシステムイベントログに保管されている MMB および BMC のイベントが時系列で表示されます。

システムイベントログには最大 32000 のイベントを保管できます。システムイベントログのエントリーがいっぱいになった場合、最も古いイベントログが削除されて、新たに発生したイベントログがシステムイベントログに保管されます。

図 1.2 [System Event Log] 画面

[System Event Log] 画面では、表のタイトルはスクロールせず、表の内容のみがスクロールします。

表示するイベントが 1 つもない場合は、表の代わりに「There are no Event Logs.」のメッセージが表示されます。

表 1.16 [System Event Log] 画面の表示項目

項目	説明
Severity	イベント、エラーの重大度が表示される。 ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題 ・ Warning：必ずしも重大ではないが、将来問題になりそうなイベント ・ Info：パーティションの電源オンなど、情報としてのイベント
Date/Time	イベント、エラーが発生した時間がローカルタイムで表示される。 フォーマット：YYYY-MM-DD HH:MM:SS
Source	イベント、エラーが発生したセンサーの名前が表示される。
Unit	イベント、エラーが発生したセンサーを所有するユニットが表示される。 たとえば、SB#0 の CPU#0 でエラーが発生した場合は、[SB#0] と表示される。 ユニットの特定は、センサーの Entity ID から本センサーを保有する FRU を検索し、Entity Association Record から親 Entity を検索する。親エントリーの FRU Record 内に記述されている Board/Unit Name を表示する。 各ユニット詳細状態を表示する画面 (各ユニットのパーツ番号、シリアル番号が参照できる画面) へのリンクがある。
Part Number	システムイベントログに格納されているパーツ番号を表示する。 格納されていない場合は「－」を表示する。
Event ID	Event の内容を識別するための ID (16 進で 8 桁表示) を表示する。 Event ID の割当てについて詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) の「第 2 章　MMB のメッセージ」を参照。
Description	イベント、エラーの内容が表示される。 Event Data に Trig Offset 以外が記されているセンサーは、イベントデータが表示される。たとえば、R、T と記されているセンサーについては、イベント発生時の Reading Value、Threshold Value が表示される。 **備考** ボードの抜差しに関するイベントについては、ボードのパーツ番号、シリアル番号が表示される。

表 1.17 [System Event Log] 画面のボタン

ボタン	説明
Clear All Events	[Clear All Events] ボタンをクリックすると、システムイベントログに保存されているすべてのイベントがクリアされる。担当保守員から指示があった場合にのみ使用する。
Download	確認メッセージ表示後、[System Event Log (Collect)] 画面が表示される。

ボタン	説明
Filter	[Filter] ボタンをクリックすると、フィルタ条件を入力するための [System Event Log Filtering Condition] 画面が表示される。
Detail	[Detail] ボタンをクリックすると、対応するイベントの詳細が、[System Event Log(Detail)] 画面に表示される。

(1) メニュー操作
[System] - [System Event Log]

(2) 画面操作

- システムイベントログに保存されているイベントデータをダウンロードする場合 (事前に採取されたシステムイベントログが存在しない場合)
  1. [Download] ボタンをクリックすると [I_00417 Are you sure?] メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。
  2. システムイベントログ情報の採取が自動的に開始し、[Progress] 画面が表示されます。
  3. [System Event Log (Collect)] 画面が表示され、採取したイベントデータに対するリンクが日付情報つきで表示されます。リンクをクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。ファイル名、パスを指定し、Web-UI を表示している PC にイベントデータをダウンロードします。

- システムイベントログに保存されているイベントデータをダウンロードする場合 (事前に採取されたシステムイベントログが存在する場合)
  1. [Download] ボタンをクリックすると [I_00417 Are you sure?] メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。
  2. [System Event Log (Collect)] 画面が表示され、事前に採取されたシステムイベントログ情報へのリンクが表示されます。
  3. 最新のシステムイベントログを取得するためには [Collect] ボタンをクリックします。[I_00417 Are you sure?] メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。システムイベントログ情報採取中は [Progress] 画面が表示されます。
  4. [System Event Log (Collect)] 画面が表示され、採取したイベントデータに対するリンクが日付情報つきで表示されます。リンクをクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。ファイル名、パスを指定し、Web-UI を表示している PC にイベントデータをダウンロードします。

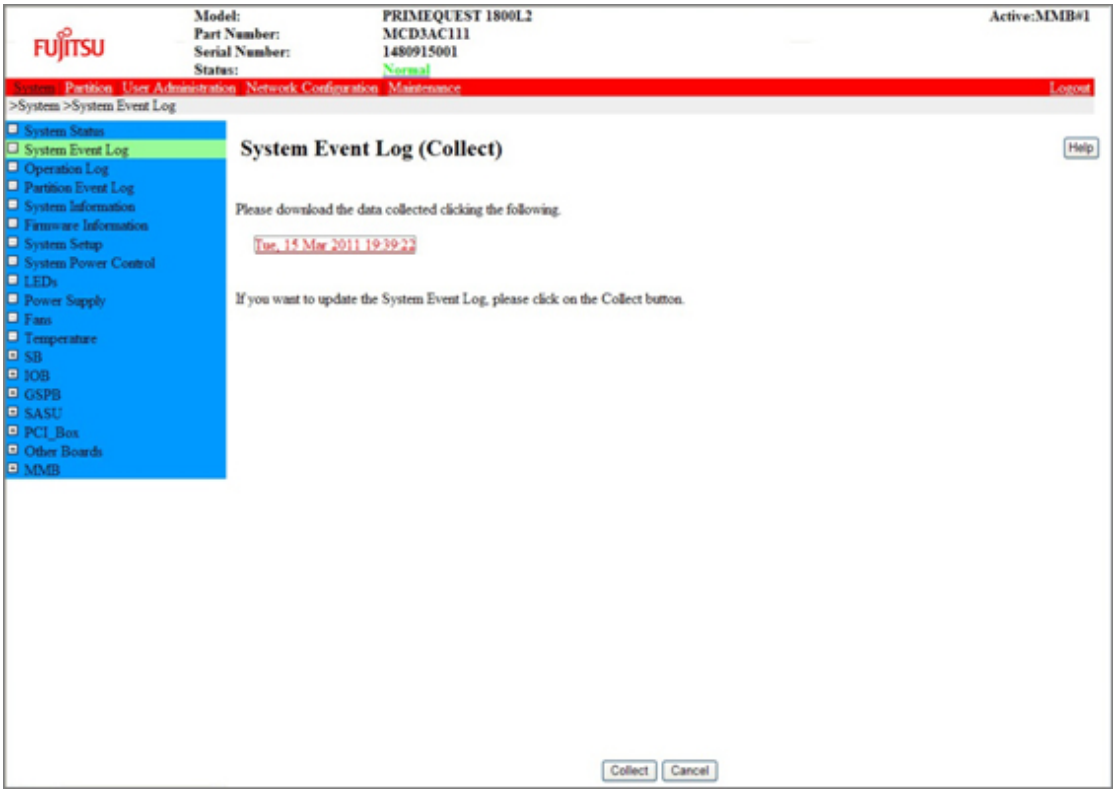


図 1.3 [System Event Log (Collect)] 画面

・ 画面に表示されているイベントを絞り込む場合

1. [Filter] ボタンをクリックします。
   フィルタ条件を入力するための [System Event Log Filtering Condition] 画面が表示されます。
2. [System Event Log Filtering Condition] 画面で条件を入力し、[Apply] ボタンをクリックします。
   [System Event Log] 画面に戻り、指定した条件を満たすイベントが表示されます。

・ 画面に表示されているイベントの詳細を表示する場合

1. [Detail] ボタンをクリックします。
   イベントの詳細を示す [System Event Log (Detail)] 画面が表示されます。

■[System Event Log Filtering Condition] 画面

[System Event Log] 画面で[Filter] ボタンをクリックすると、フィルタ条件を入力するための [System Event Log Filtering Condition] 画面が表示されます。

[System Event Log Filtering Condition] 画面では、[System Event Log] 画面に表示するイベントのフィルタ条件を設定できます。

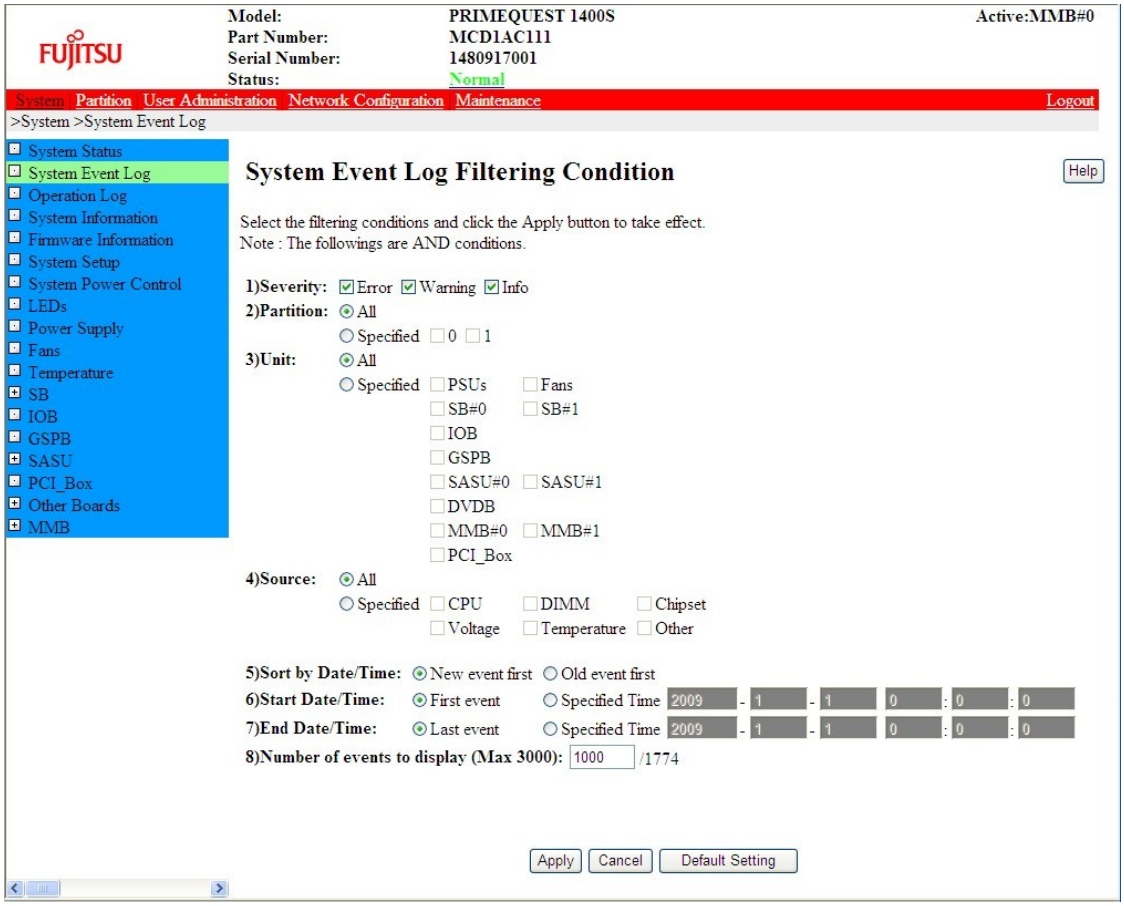


図 1.4 [System Event Log Filtering Condition] 画面

表 1.18 [System Event Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Severity	チェックボックスから表示する Severity を選択する。複数選択可。 ・ Error ・ Warning ・ Info ・ Monitor デフォルトはすべてオン。 **注意** [Monitor] チェックボックスは CE 権限でログインしている場合のみ表示される。
Partition	表示するパーティションを選択する。 ラジオボタンで [All] か [Specified] かを選択する。 ・ All：Partition によるフィルタリングをしない。 ・ Specified：パーティション単位のフィルタリングが設定可能となる。表示するパーティションをオンにする。 Partition Operator の場合、[All] はグレーアウトされ、選択できない。またパーティションのフィルタリングは、管理対象のパーティションのみ選択可能となる。

項目	内容
	デフォルトは Partition Operator 権限でない場合、All、Partition Operator 権限の場合 Specified で、管理対象のパーティションがオン。
Source	表示する対象 Source を選択する。 ラジオボタンで [All] か [Specified] かを選択する。 ・ All：Source によるフィルタリングをしない。 ・ Specified：Source 単位のフィルタリングが設定可能となる。表示する Source をオンにする。 デフォルトは All。
Unit	表示する対象ユニットを選択する。 ラジオボタンで [All] か [Specified] かを選択する。 ・ All：ユニットによるフィルタリングをしない。 ・ Specified：ユニット単位のフィルタリングが設定可能となる。表示する Source をオンにする。 デフォルトは All。
Sort by Date/Time	新しい順で表示するか、古い順で表示するかをラジオボタンで指定する。 ・ New event first ・ Old event first デフォルトは New event first。
Start Date/Time	最初のイベントから表示するか、時間を指定するかをラジオボタンで指定する。 ・ First event：最初のイベントにする ・ Specified Time：時間指定にする 時間指定の場合は、開始時刻の年月日時分を入力する。 デフォルトは First event。
End Date/Time	最後のイベントまで表示するか、時間を指定するかをラジオボタンで指定する。 ・ Last event：最後のイベントにする ・ Specified Time：時間指定にする時間指定の場合は、終了時刻の年月日時分を入力する。 デフォルトは Last event。
Number of events to display	表示するログの数を指定する。分母部分は、ログされているイベントの総数が表示される。指定最大値は 3000 件。 デフォルトは 100 件。

表 1.19 [System Event Log Filtering Condition] 画面のボタン

ボタン	説明
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、指定した条件に合致するログが [System Event Log] 画面に一覧表示される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、[System Event Log] 画面に戻る。

ボタン	説明
Default Setting	選択値をデフォルト値に戻す。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
W_00413	Nothing is selected.
W_00414	Invalid Date Format
W_00434	Invalid Time Format
W_00441	Range over error.
I_00417	Are you sure?
I_00468	Are you sure you want to clear the SEL?

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.3 [Operation Log] 画面

[Operation Log] 画面には、Web-UI および CLI の設定や操作に関するログを表示します。
各操作ログには、操作元のログイン情報 (Web-UI/CLI、IP アドレス、アカウント) が含まれます。

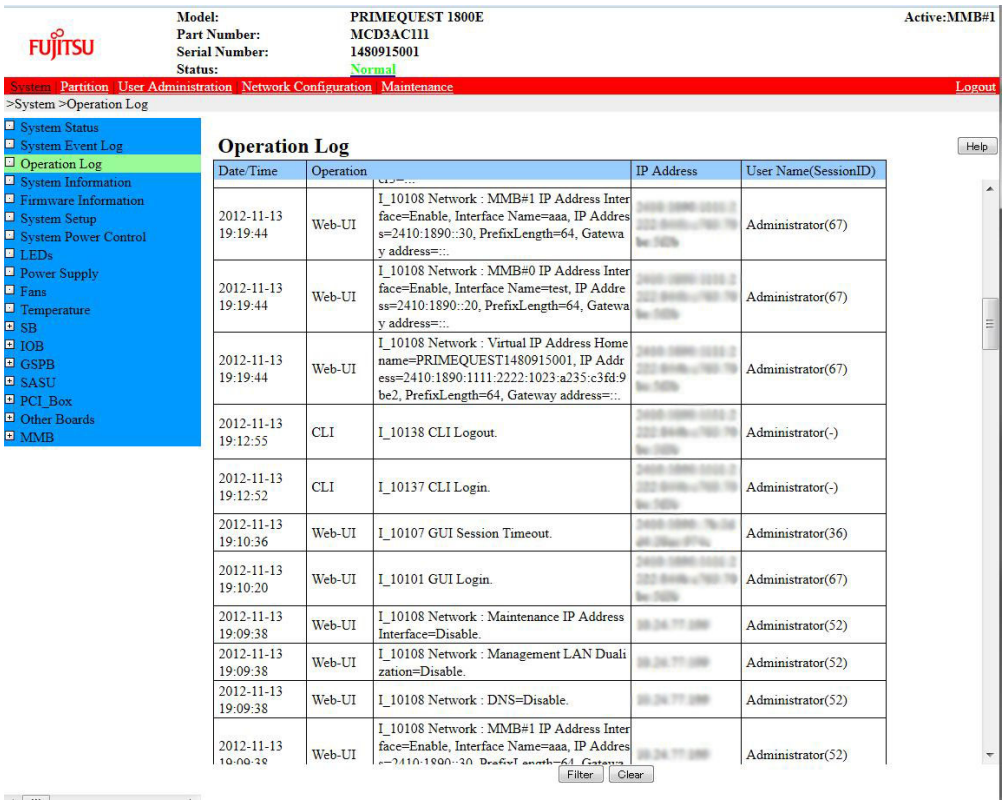


図 1.5 [Operation Log] 画面

[Operation Log] 画面では、表のタイトルはスクロールせず、表の内容のみがスクロールします。

表 1.20 [Operation Log] 画面の表示項目

項目	説明
Date/Time	イベント、エラーが発生した時間を Local Time で表示する。 フォーマット： YYYY-MM-DD HH:MM:SS
Operation	操作元 (Web-UI または CLI) および操作内容を表示する。
IP Address	操作元の IP アドレス (IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス) を表示する。 シリアルで接続されたコンソール上での CLI 操作の場合は、[Console] と表示される。 ログイン時に MMB に設定されている DNS からホスト名がわかる場合は、ホスト名が表示される。ホスト名がわからない場合は IP アドレスが表示される。 Web-UI の場合は、DNS を使用していても IP アドレスのみの表示となる。 IPv6 アドレス接続の場合は、DNS を使用していても IP アドレスのみの表示となる。
User Name (Session ID)	操作者および Web-UI 操作の場合の Session ID を表示する。 CLI 操作時の Session ID は「－」で表示される。

表 1.21 [Operation Log] 画面のボタン

ボタン	説明
Filter	[Filter] ボタンをクリックすると、フィルタ条件を入力するための [Operation Log Filtering Condition] 画面が表示される。
Clear	[Clear] ボタンをクリックすると、操作ログがすべてクリアされる。

(1) メニュー操作
[System] ‐ [Operation Log]

(2) 画面操作
- 操作ログをすべてクリアする場合
  1. [Clear] ボタンをクリックします。
     確認用のダイアログボックスが表示されます。
  2. 操作ログをクリアする場合は、[OK] ボタンをクリックします。
     操作ログをクリアしない場合は、[Cancel] ボタンをクリックします。

- 画面に表示されている操作ログを絞り込む場合
  1. [Filter] ボタンをクリックします。
     フィルタ条件を入力するための [Operation Log Filtering Condition] 画面が表示されます。
  2. [Operation Log Filtering Condition] 画面で条件を入力し、[Apply] ボタンをクリックします。
     [Operation Log] 画面に戻り、指定した条件を満たすログが表示されます。

■[Operation Log FilteringCondition] 画面

[Operation Log] 画面で [Filter] ボタンをクリックすると、フィルタ条件を入力するための[Operation LogFiltering Condition] 画面が表示されます。
[Operation Log Filtering Condition] 画面では、[Operation Log] 画面に表示するイベントのフィルタ条件を設定できます。

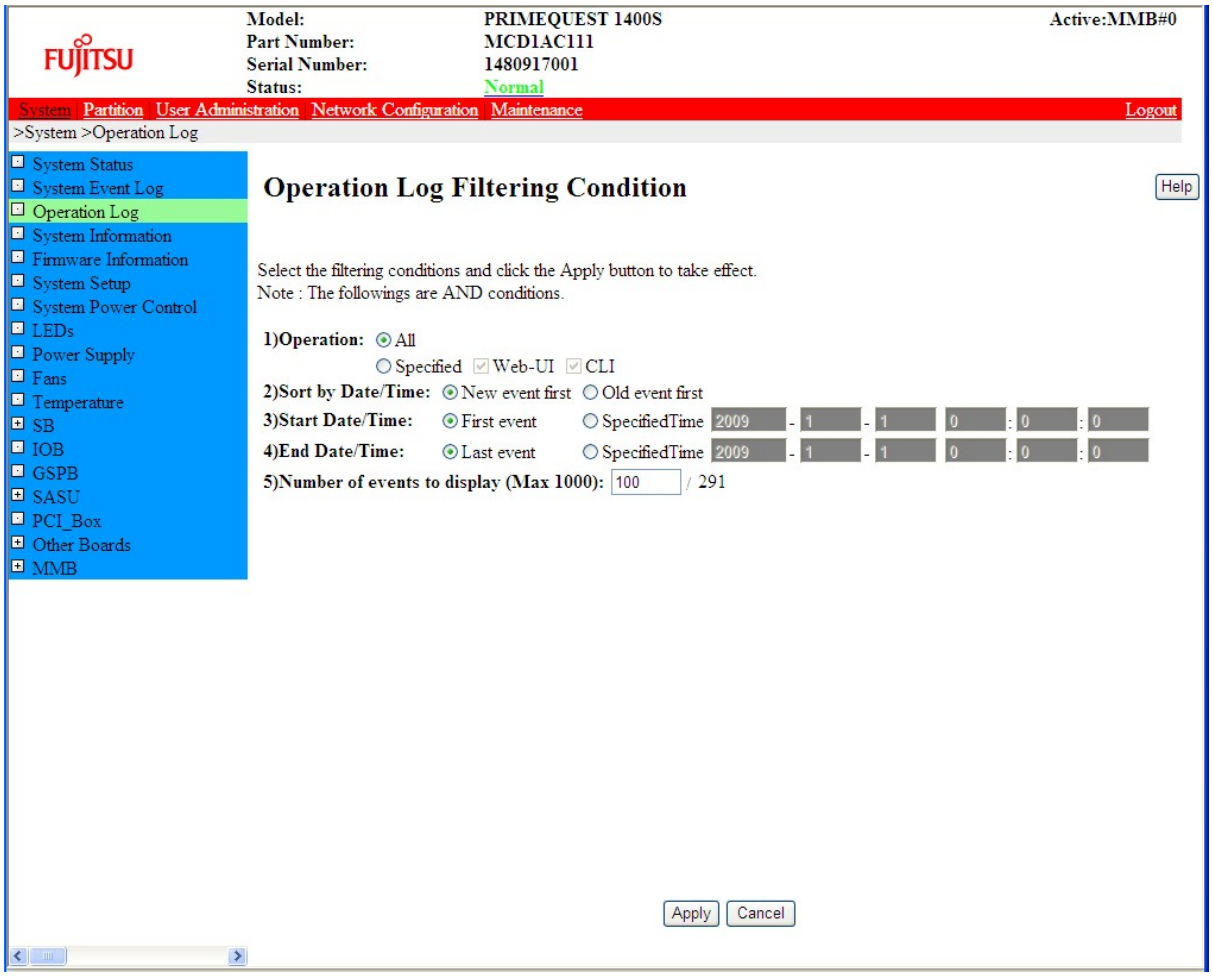


図 1.6 [Operation Log Filtering Condition] 画面

表 1.22 [Operation Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目

項目	説明
Operation	表示する Operation を選択する。 ラジオボタンで [All] か [Specified] かを選択する。 ・ All：Operation によるフィルタリングをしない。 ・ Specified：Operation のフィルタリングが設定可能となる。表示する Operation をオンにする。 デフォルトは All。
Sort by Date/Time	新しい順で表示するか、古い順で表示するかをラジオボタンで指定する。 ・ New event first ・ Old event first デフォルトは New event first。
Start Date/Time	最初のイベントから表示するか、時間を指定するかをラジオボタンで指定する。

項目	説明
	・ First event：最初のイベントにする ・ Specified Time：時間指定にする 時間指定の場合は、開始時刻の年月日時分を入力する。 デフォルトは First event。
End Date/Time	最後のイベントまで表示するか、時間を指定するかをラジオボタンで指定する。 ・ Last event：最後のイベントにする ・ Specified Time：時間指定にする 時間指定の場合は、終了時刻の年月日時分を入力する。 デフォルトは Last event。
Number of events to display	表示するログの数を指定する。 分母部分は、ログされているイベントの総数が表示される。 指定最大値は 1000 件。 デフォルトは 100 件。

表 1.23 [Operation Log Filtering Condition] 画面のボタン

ボタン	説明
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、指定した条件に合致するログが [Operation Log] 画面に一覧表示される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、[Operation Log] 画面に戻る。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
W_00413	Nothing is selected.
W_00414	Invalid Date Format
W_00434	Invalid Time Format
I_00417	Are you sure?
W_00426	Invalid values specified.
W_00441	Range over error.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.4 [Partition Event Log] 画面

この画面は、PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 で表示されます。
[Partition Event Log] 画面には、ハード異常情報 (REMCS 通報対象メッセージ) が表示されます。
最大 1000 のイベントを保管できます。エントリーがいっぱいになった場合、最も古いイベントログが削除されて、新たに発生したイベントログが保管されます。

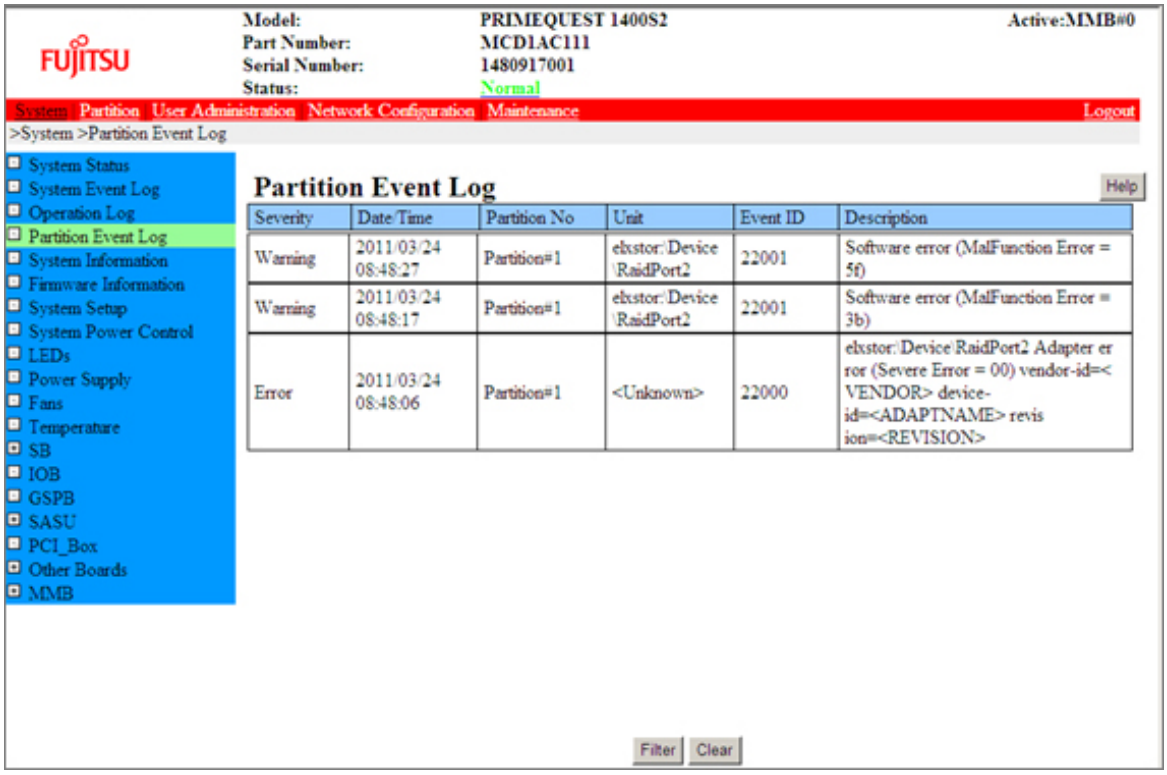


図 1.7 [Partition Event Log] 画面

[Partition Event Log] 画面では、表のタイトルはスクロールせず、表の内容のみがスクロールします。表示するイベントが 1 つもない場合は、表の代わりに「There are no Event Logs.」のメッセージが表示されます。

表 1.24 [Partition Event Log] 画面の表示項目

項目	内容
Severity	イベント、エラーの重大度が表示される。 ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題 ・ Warning：必ずしも重大ではないが、将来問題になりそうなイベント ・ information：パーティションの電源オンなど、情報としてのイベント
Date/Time	イベント、エラーが発生した時間が表示される。 フォーマット：YYYY-MM-DD HH:MM:SS
Partition No	パーティション番号が表示される。
Unit	イベント、エラーが発生したセンサーを所有するユニットが表示される。
Event ID	Event の内容を識別するための ID (16 進で 8 桁表示) が表示される。Event ID の割当てについて詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) の「第 2 章 MMB のメッセージ」を参照。
Description	イベント、エラーの内容が表示される。

表 1.25 [Partition Event Log] 画面のボタン

ボタン	説明
Filter	[Filter] ボタンをクリックすると、フィルタ条件を入力するための [Partition Event Log Filtering Condition] 画面が表示される。
Clear	[Clear] ボタンをクリックすると、パーティションイベントログをすべて削除してよいか、確認メッセージが表示されます。

(1) メニュー操作
[System] - [Partition Event Log]

(2) 画面操作
- 画面に表示されているイベントを絞り込む場合
  1. [Filter] ボタンをクリックします。
     フィルタ条件を入力するための [Partition Event Log Filtering Condition] 画面が表示されます。
  2. [Partition Event Log Filtering Condition] 画面で条件を入力し、[Apply] ボタンをクリックします。
     [Partition Event Log] 画面に戻ります。指定した条件を満たすイベントが表示されます。

- パーティションイベントログをすべてクリアする場合
  1. [Clear] ボタンをクリックします。
     確認用のダイアログボックスが表示されます。
  2. パーティションイベントログをクリアする場合は、[OK] ボタンをクリックします。
     クリアしない場合は、[Cancel] ボタンをクリックします。

■[Partition Event Log Filtering Condition] 画面

[Partition Event Log] 画面で [Filter] ボタンをクリックすると、フィルタ条件を入力するための [Partition Event Log Filtering Condition] 画面が表示されます。
[Partition Event Log Filtering Condition] 画面では、[Partition Event Log] 画面に表示するイベントのフィルタ条件を設定できます。

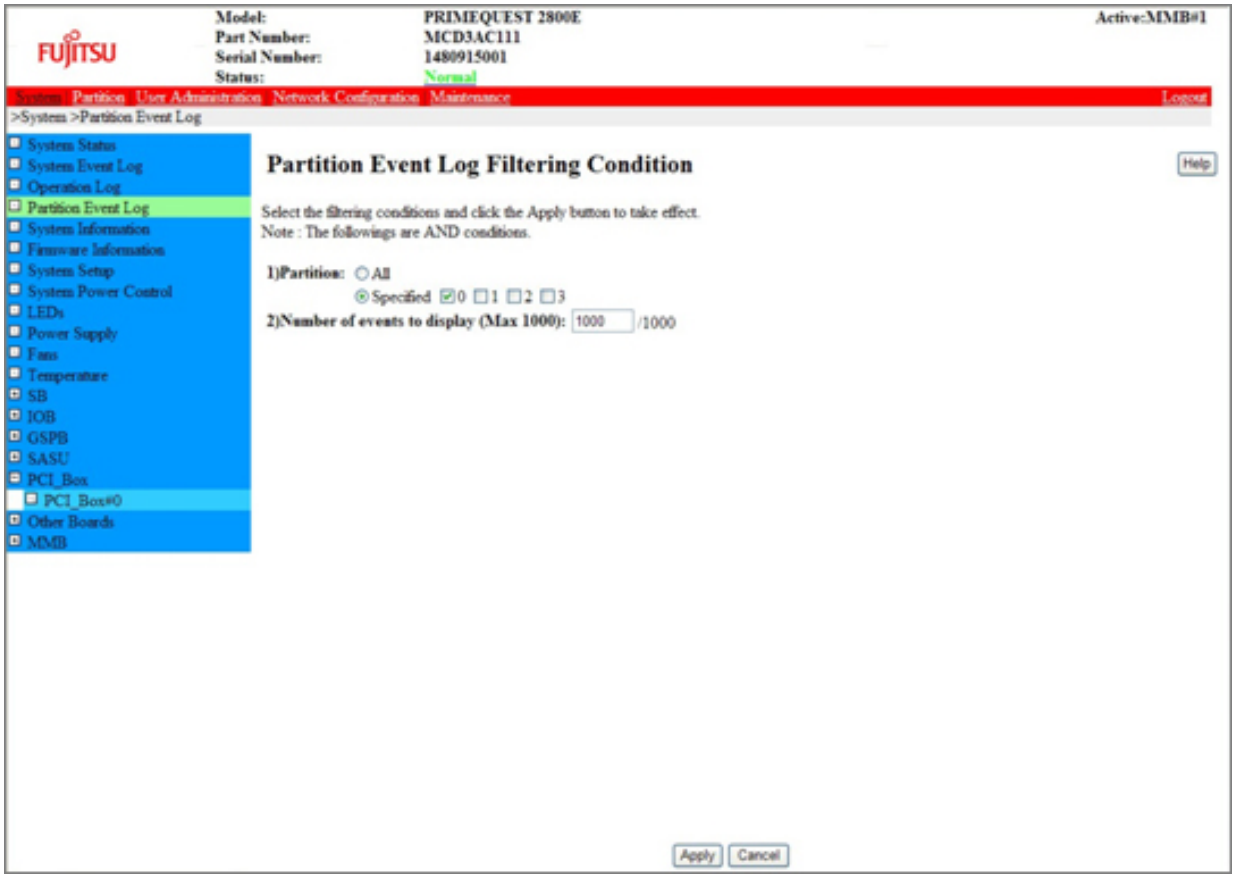


図 1.8 [Partition Event Log Filtering Condition] 画面

表 1.26 [Partition Event Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Partition	表示するパーティションを選択する。 ラジオボタンで [All] か [Specified] を選択する。 ・ All：Partition によるフィルタリングをしない。 ・ Specified：パーティション単位のフィルタリングが設定可能となる。表示するパーティションをオンにする。 Partition Operator の場合、[All] はグレーアウトされ、選択できない。また、パーティションのフィルタリングは、管理対象のパーティションのみ選択可能となる。 デフォルトは Partition Operator 権限でない場合[All]、Partition Operator 権限の場合 [Specified] で、管理対象のパーティションがオンとなる。
Number of events to display	表示するログの数を指定する。 分母部分は、ログされているイベントの総数が表示される。 指定最大値は 1000 件。 デフォルトは 100 件。

表 1.27 [Partition Event Log Filtering Condition] 画面のボタン

ボタン	説明
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、指定した条件に合致するログが [Partition Event Log] 画面に一覧表示される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、[Partition Event Log] 画面に戻る。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
W_00413	Nothing is selected.
W_00414	Invalid Date Format
W_00426	Invalid values specified.
W_00434	Invalid Time Format
W_00441	Range over error.
I_00417	Are you sure?
I_00531	Are you sure you want to clear the Partition Event Log?
E_00100	Failed to set the Partition Event Log Clear

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.5 [System Information] 画面

[System Information] 画面には、システムの名前や製品の名前などの PRIMEQUEST 1000 シリーズシステムに関する情報が表示されます。
また、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム (筐体) に対する名前の設定、および、Asset Tag (財産管理番号) の設定ができます。

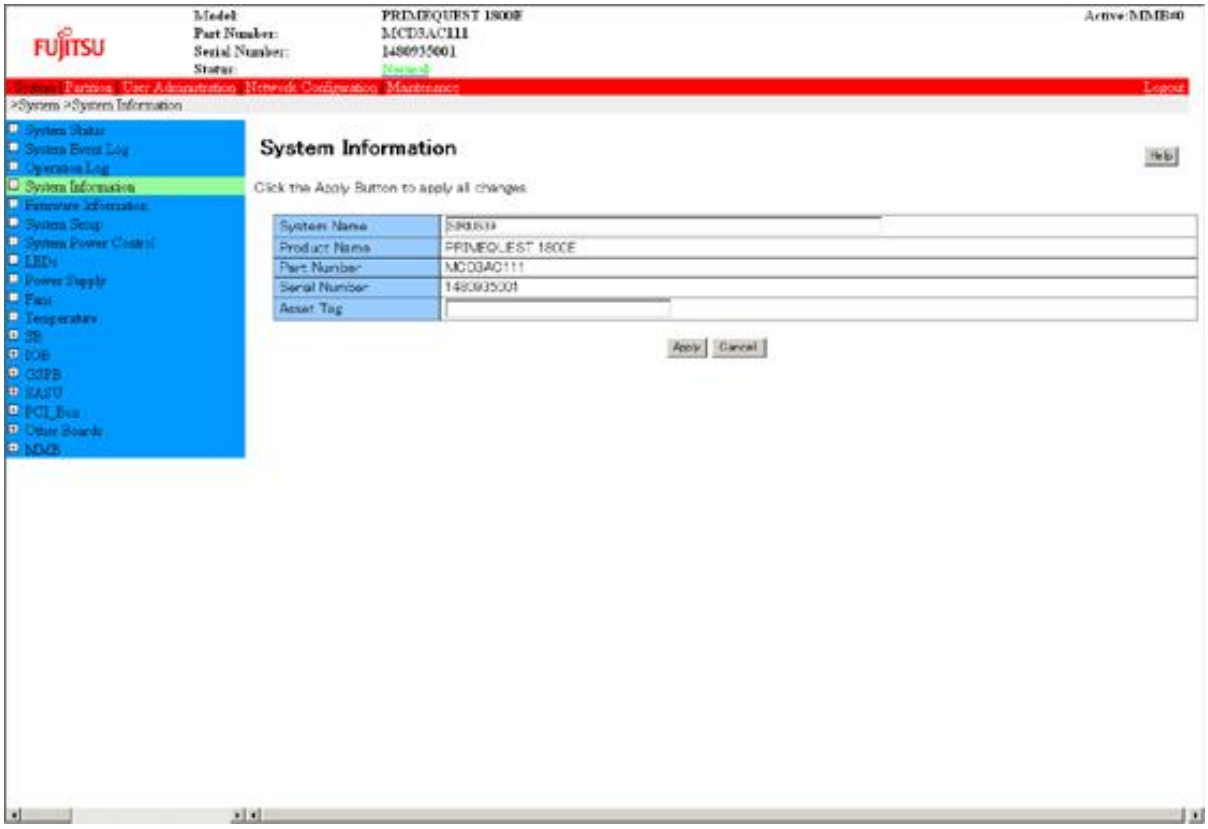


図 1.9 [System Information] 画面

表 1.28 [System Information] 画面の表示・設定項目

項目	説明
System Name	PRIMEQUEST 1000 シリーズのシステム名が表示される。 Administrator 権限のユーザーはシステム名を変更できる。最大 64 文字まで入力が可能。 **備考** ・ 入力可能な文字は、英数字、半角スペースと以下の文字である。 ! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : ; * + ? < > . / _ | ただし、以下の制限がある。 ・ #と半角スペースは、先頭文字として使用できない。 ・ 半角スペースは、最後の文字として使用できない。 デフォルトは、<PRIMEQUEST ＋製品シリアル番号>。[System Name] を空欄にした場合は、デフォルトのシステム名となる。
Product Name	PRIMEQUEST 1000 シリーズシステムの製品名が表示される。
Part Number	PRIMEQUEST 1000 シリーズシステムの装置型名が表示される。
Serial Number	PRIMEQUEST 1000 シリーズシステムのシリアル番号が表示される。
Asset Tag	財産管理情報 (Asset Tag) が表示される。 Administrator 権限のユーザーは、Asset Tag 情報を変更できる。最大 32 文字まで入力が可能。 デフォルトは値なし。

表 1.29 [System Information] 画面のボタン

ボタン	説明
Apply	[System Name] や [Asset Tag] の項目に文字を入力し、[Apply] ボタンをクリックすると、入力した情報が設定される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、[System Name] や [Asset Tag] に入力した情報は設定されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作

[System] - [System Information]

(2) 画面操作

1. [System Name] や [Asset Tag] の項目を変更して、[Apply] ボタンをクリックします。
   それぞれの情報が設定されます。

【メッセージ】

本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
W_00431	Invalid character included.
W_00407	Input characters are too long.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.6 [Firmware Information] 画面

[Firmware Information] 画面では、適用されているファームウェアの最新総合版数、システム内で稼動しているファームウェアのバージョン情報、およびバックアップされているファームウェアのバージョン情報が表示されます。

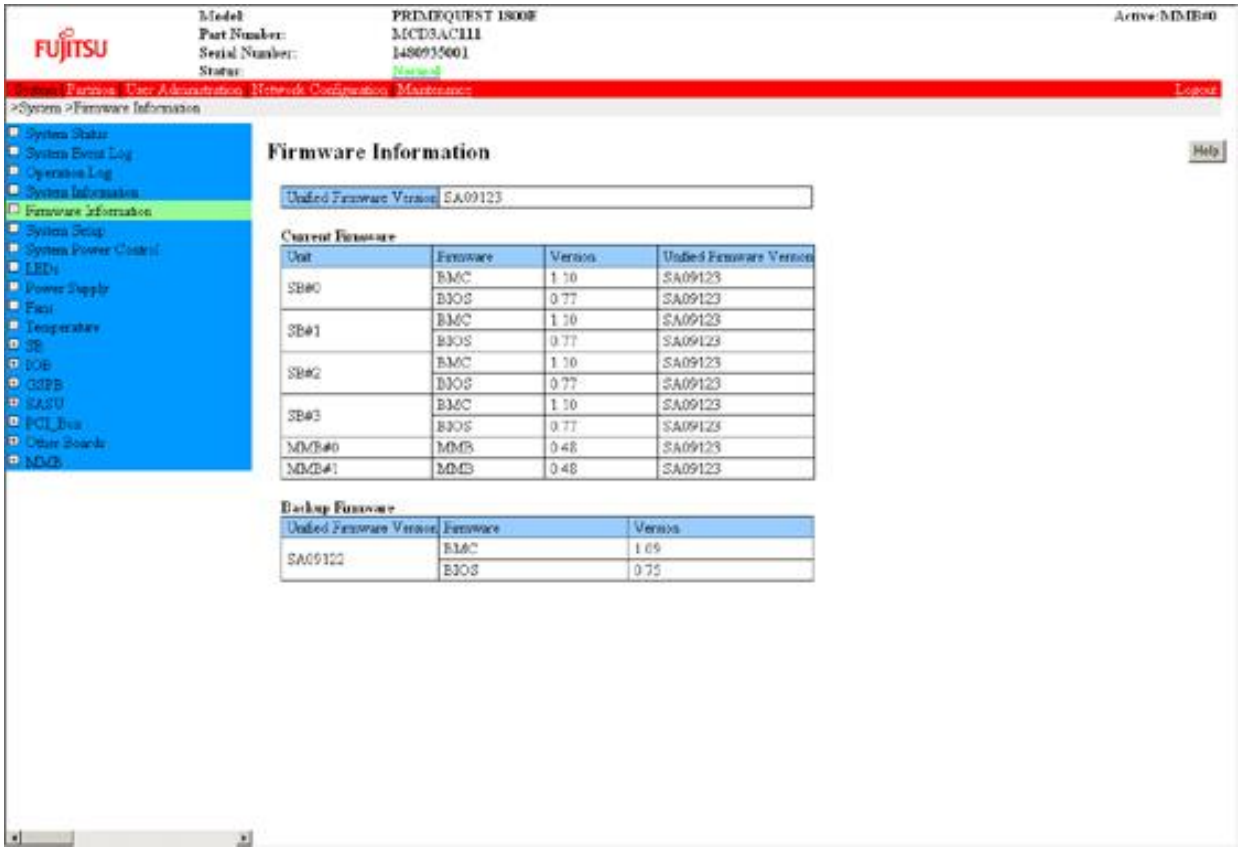


図 1.10 [Firmware Information] 画面

表 1.30 [Firmware Information] 画面の表示項目

項目	内容
Unified Firmware Version	適用されている最新のファーム総合版数。
Current Firmware	
Unit	ファームウェアを搭載している対象ユニットが表示される。 ・ SB#n ・ MMB#0 ・ MMB#1
Firmware	ファームウェアの種類および現状版 (Active) が表示される。 ・ BMC ・ BIOS ・ MMB ・ Not-present：ユニットが搭載されていないことを示す。背景色が灰色で表示されます。
Version	ファームウェアのバージョンが表示される。 【バージョン表示形式】 ファームウェアは、バージョン情報を以下の形式で保持している。 ・ Major Version= 1 バイトデータ (Binary 形式) ・ Minor Version= 1 バイトデータ (BCD 形式) このデータを以下のように表示する。

項目	内容
	X.YY X は Major Version を 10 進数表示 (0 ～ 255) Y は Minor Version を BCD 形式 (2 進化 10 進数) でそのまま 2 桁表示する (00 ～ 99)。
Unified Firmware Version	対象ユニットの総合版数が表示される。 ファームウェアは、バージョン情報を以下の形式で保持している。 ・ モデル識別 XX =1 バイトデータ(01h=SA) ・ 西暦下 2 桁 YY =1 バイトデータ(BCD 形式) 09-99 ・ 月 MM =1 バイトデータ(BCD 形式) 01-12 ・ 追番 N =1 バイトデータ(Binary 形式) 1-9 このデータを以下のように表示する。 XXYYMMN 例：SA09121 総合版数が不明の場合は「-」と表示される。
Backup Firmware	
Unified Firmware Version	MMB でバックアップされている SB 上のファームウェアセットが表示される。
Firmware	バックアップされているファームウェアが表示される。 ・ BMC ・ BIOS
Version	バックアップされているファームウェアのバージョンを表示する。

書き込まれた最新のファームウェアは、システム管理者またはパーティション管理者によってパーティションの起動／再起動を実行した後に反映されます。

備考

ファームウェアアップデートの実施後は、速やかにパーティションの起動／再起動をし、ファームウェアに反映させることを推奨します。

(1) メニュー操作

[System] - [Firmware Information]

(2) 画面操作

なし

1.2.7 [System Setup] 画面

[System Setup] 画面では、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステムの受電モードや、復電時のアクションなどが設定できます。

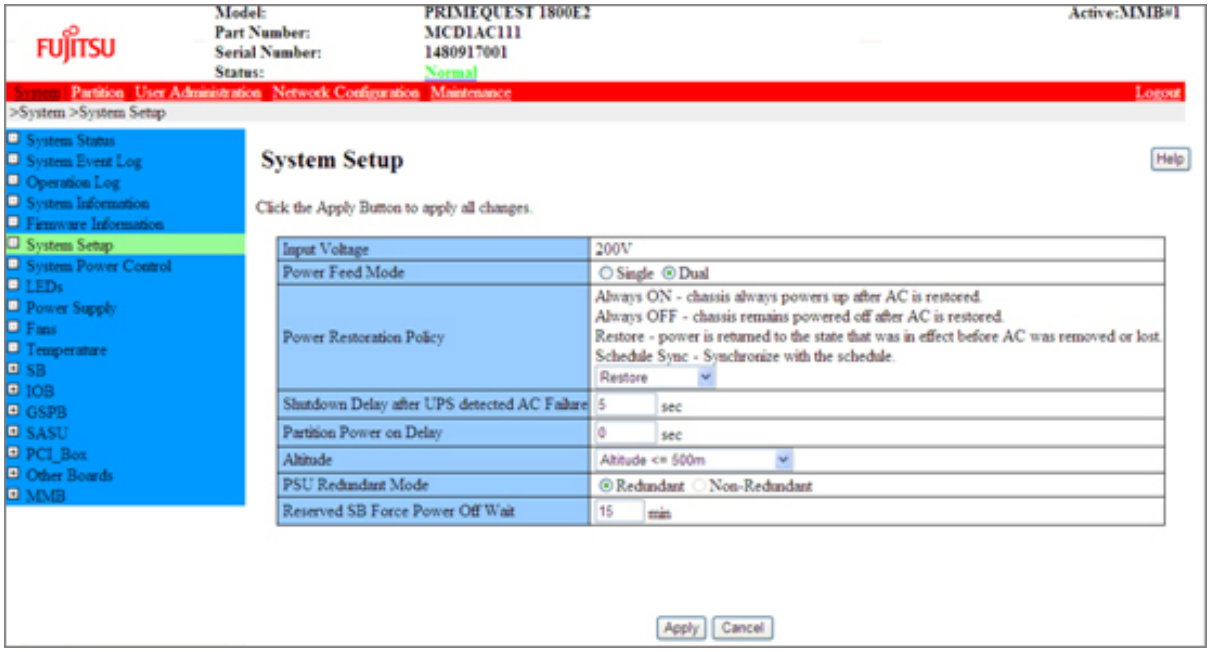


図 1.11 [System Setup] 画面

表 1.31 [System Setup] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Input Voltage	入力電圧を表示する。 ・ 100V ・ 200V 情報を取得できなかった場合は、200V と表示される。
Power Feed Mode	PRIMEQUEST 1000 シリーズシステムの電源を一系統受電モードで構成するか、二系統受電モードで構成するかを設定する。 ・ Single：一系統受電モード ・ Dual：二系統受電モード デフォルトは Single。
Power Restoration Policy	停電後、復電したときのアクションの表示設定をする。 ・ Always off：復電後、電源オフの状態を維持する。 ・ Always on：停電したときの状態にかかわらず、復電後はパーティションの電源オンを行う。 ・ Restore：停電した時の状態に戻す。停電時にパーティションが電源オンの状態であった場合はパーティションの電源オンを行い、パーティションが電源オフの状態であった場合は、パーティションの電源オフの状態を維持する。 ・ Schedule Sync：復電時にスケジュール運転設定による運用時間帯であれば自動的にパーティションの電源オンを行う。 デフォルトは Restore。
Shutdown Delay after UPS detects AC Failure	UPC インターフェースで停電を検出してから、パーティションの電源オフを開始するまでの待機時間を設定する。この時間内に電力が復旧した場合は、パーティションの電源オフを行わない。0 ～ 9999 秒の範囲で指定する。

項目	内容
	デフォルト値は 5 秒。
Partition Power On Delay	UPC インターフェースで復電を検出した場合、または AC 電源投入後 (復電時も含む) に設定した復電ポリシーに従ってパーティションの電源オンを指示するまでの待機時間を設定する。0 ～ 9999 秒の範囲で指定する。 デフォルト値は 0 秒。
Altitude	PRIMEQUEST 1000 シリーズシステムが設置されている高度を設定する。 ・ Altitude ＜= 500 m ・ 500 m ＜ Altitude ＜= 1000 m ・ 1000 m ＜ Altitude ＜= 1500 m ・ 1500 m ＜ Altitude デフォルト値は、Altitude ＜= 500 m。 高度条件の設定誤差は±100m まで可能。
PSU Redundant Mode	PSU を冗長で動作させるかどうかを設定する。 ・ Redundant ・ Non-redundant Power Feed Mode が Single の場合、デフォルトは Non-redundant。 Power Feed Mode が Dual の場合、Redundant 固定。
Reserved SB Force Power Off Wait	Reserved SB へ切り替えるときに、該当 SB を含むパーティションの強制電源オフを開始するまでの最大待機時間を設定する。0 ～ 99 分の範囲で指定する。 デフォルトは 10 分。

表 1.32 [System Setup] 画面のボタン

ボタン	説明
Apply	[Power Feed Mode] や [Power Restore Policy] などの項目を指定し、[Apply] ボタンをクリックすると、情報が設定される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、変更または入力された項目が設定されずに元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[System] - [System Setup]

(2) 画面操作
1. [Power Feed Mode] や [Power Restoration Policy] などの項目を指定し、[Apply] ボタンをクリックします。
   それぞれの情報が設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
E_00100	Failed to set the System Setup
W_00426	Invalid values specified.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.8 [System Power Control] 画面

[System Power Control] 画面では、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム全体の電源制御ができます。

備考

- Windows がインストールされているパーティションは、必ず OS のシャットダウンを実行してください。システムの応答がないなどの緊急時には MMB の Power Off (Force Power Off) で電源を切断してください。
- 以下のような状態の場合は、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「11.2　トラブル対応」を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、担当営業員または修理相談窓口に連絡してください。
  ご連絡のさいは、本体装置に貼付のラベルで記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。また、障害が復旧するまでの間、パーティションの [Reset]、[Force Power Off] をしないでください。
  - パーティションの [Power off]、[Reset]、[Force Power Off]、および OS からシャットダウンした場合、長時間たっても処理が終了しない状態で MMB Web-UI 画面で各コンポーネントの状態を表示させると、Part Number、Serial Number が「Read Error」と表示されます。

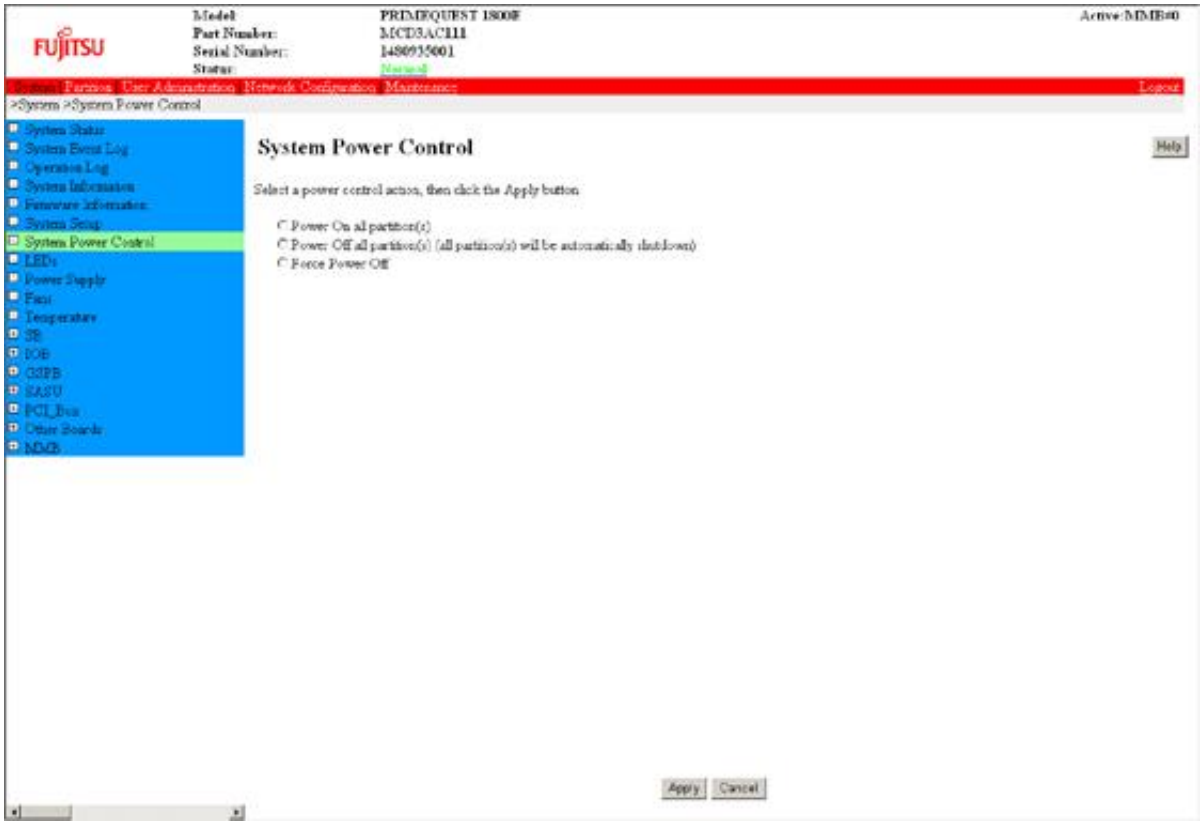


図 1.12 [System Power Control] 画面

表 1.33 [System Power Control] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Power On all partition(s)	すべてのパーティションの電源がオンになる。 筐体の電源のみオンになっている状態で選択すると、すべてのパーティションの電源がオンになる。
Power Off all partition(s) (all partition(s) will be automatically shutdown)	すべてのパーティションをシャットダウンし、筐体の電源がオフになる。
Force Power Off	パーティション上で動作している OS がシャットダウンされずに電源がオフになる。

表 1.34 [System Power Control] 画面のボタン

ボタン	説明
Apply	ラジオボタンで制御項目を選択し[Apply] ボタンをクリックすると、選択された情報により電源が制御される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、電源は制御されずに元の状態に戻る。

(1) メニュー操作

[System] - [System Power Control]

(2) 画面操作

1. ラジオボタンで電源の制御項目を選択し、[Apply] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. [OK] ボタンをクリックします。
   選択された情報により電源が制御されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
E_00069	Can't control system power under maintenance. Release maintenance mode.
E_00077	Partition#xx cannot execute Power On.
E_00078	Partition#xx cannot execute Power Off.
E_00100	Failed to set the System Power Control
E_00101	Unable to power on the partition#%aa due to CPU mismatch between SBs.
E_00107	Unable to power on the chassis.
E_00108	Unable to power off the chassis.
E_00109	Unable to force power off.
I_00212	System Power Control cannot be executed because the system is under maintenance.
E_00422	Unable to power on the partition#%aa due to CPU composition abnormal.
E_00482	Unable to power on the partition#%aa due to DIMM composition abnormal.
E_00491	Unable to power on the partition#%aa due to DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
E_00517	Unable to power on the partition#%d due to abnormal SB composition.
E_00522	Unable to power on the partition#%d due to abnormal VRM composition.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。
複数のエラーが発生した場合は、警告ダイアログボックスに複数のエラーメッセージが表示されます。

1.2.9 [LEDs] 画面

[LEDs] 画面には、システム内の LED 状態が表示されます。

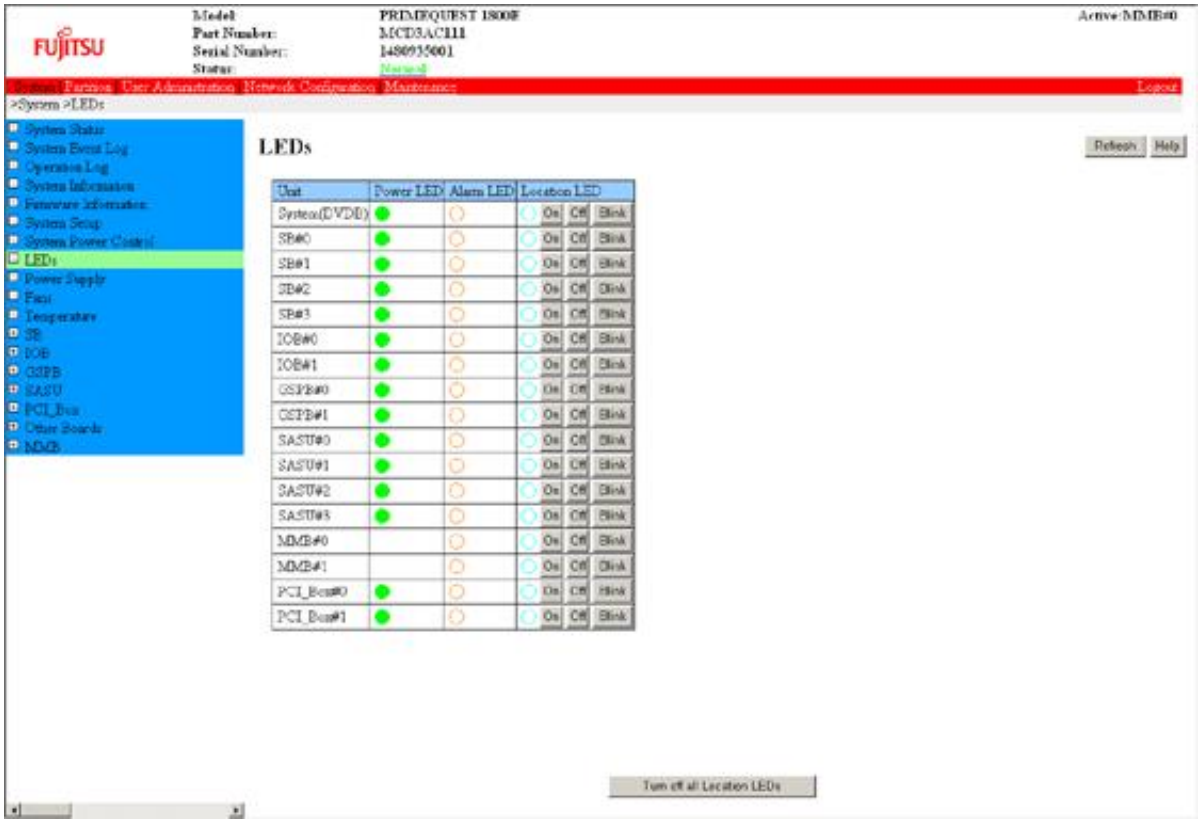


図 1.13 [LEDs] 画面

搭載されていないユニットに対しては、Not-present と表示され、その行は背景色が灰色で表示されます。

表 1.35 [LEDs] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Unit	ユニット名が表示される。
Power LED	電源状態が表示される。
Alarm LED	ユニットが正常か異常かが表示される。
Location LED	ユニットの Location LED の状態を表示／設定する。

表 1.36 [LEDs] 画面のボタン

ボタン	内容
On	[On] ボタンをクリックすると、Location LED が点灯される。
Off	[Off] ボタンをクリックすると、Location LED が消灯される。
Blink	[Blink] ボタンをクリックすると、Location LED が点滅する。
Turn off all Location LEDs	[Turn off all Location LEDs] ボタンをクリックすると、システム内のすべての [Location LED] が消灯される。

(1) メニュー操作
[System] - [LEDs]

(2) 画面操作
1. [Turn off all Location LEDs] ボタンをクリックします。
   システム内のすべての [Location LED] が消灯されます。

1.2.10 [Power Supply] 画面

[Power Supply] 画面では、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム内の PSU の状態が表示されます。
各 PSU の Status はいったん異常を検出すると、PSU を交換するか、[Status Clear] ボタンをクリックして異常状態をクリアするまで異常状態が保持されます。

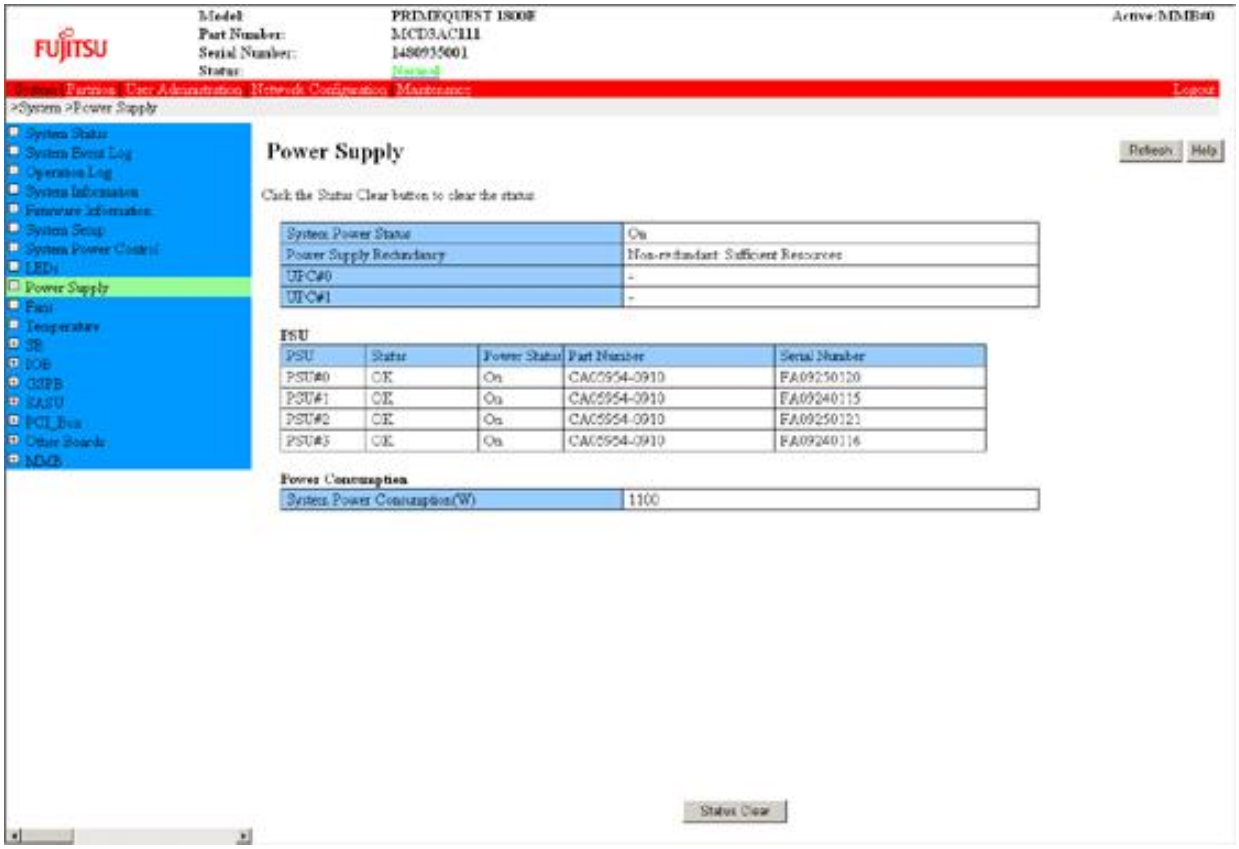


図 1.14 [Power Supply] 画面

表 1.37 [Power Supply] 画面の表示項目

項目	内容
System Power Status	PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム (筐体) の電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
Power Supply Redundancy	PSU の冗長状態について表示する。 ・ Redundant：PSU が冗長である場合。 ・ Non-redundant: Sufficient Resources：PSU の冗長性が失われても、システムを運用するために必要な PSU はある場合。

項目	内容
	・ Non-redundant: Insufficient Resources：冗長性を失い、かつ、システムを運用するのに PSU が不足している場合。
UPC#x	UPC インターフェースで検出される UPS の状態を表示する。 ・ AC Lost ・ Battery Lost ・ Failed ・ - **備考** UPC インターフェースでは、UPS が接続されているかどうか判別できないため、エラー未検出時は「－」表示とする。
PSU Status	PSU の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed ・ A/C Lost ・ Configuration error
PSU Power Status	PSU の電源状態オン／オフを表示する。
Part Number	PSU のパーツ番号を表示する
Serial Number	PSU のシリアル番号を表示する。
Power Consumption	消費電力量を表示する。

表 1.38 [Power Supply] 画面のボタン

ボタン	内容
Status Clear	PSU のエラー状態をクリアする。

(1) メニュー操作
[System] - [Power Supply]

(2) 画面操作
1. [Status Clear] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. PSU の状態をクリアする場合には [OK] ボタンを、クリアしない場合には [Cancel] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.

メッセージ番号	メッセージ文
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.11 [Fans] 画面

[Fans] 画面では、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム内のファンの状態表示とファン状態のクリア設定をします。

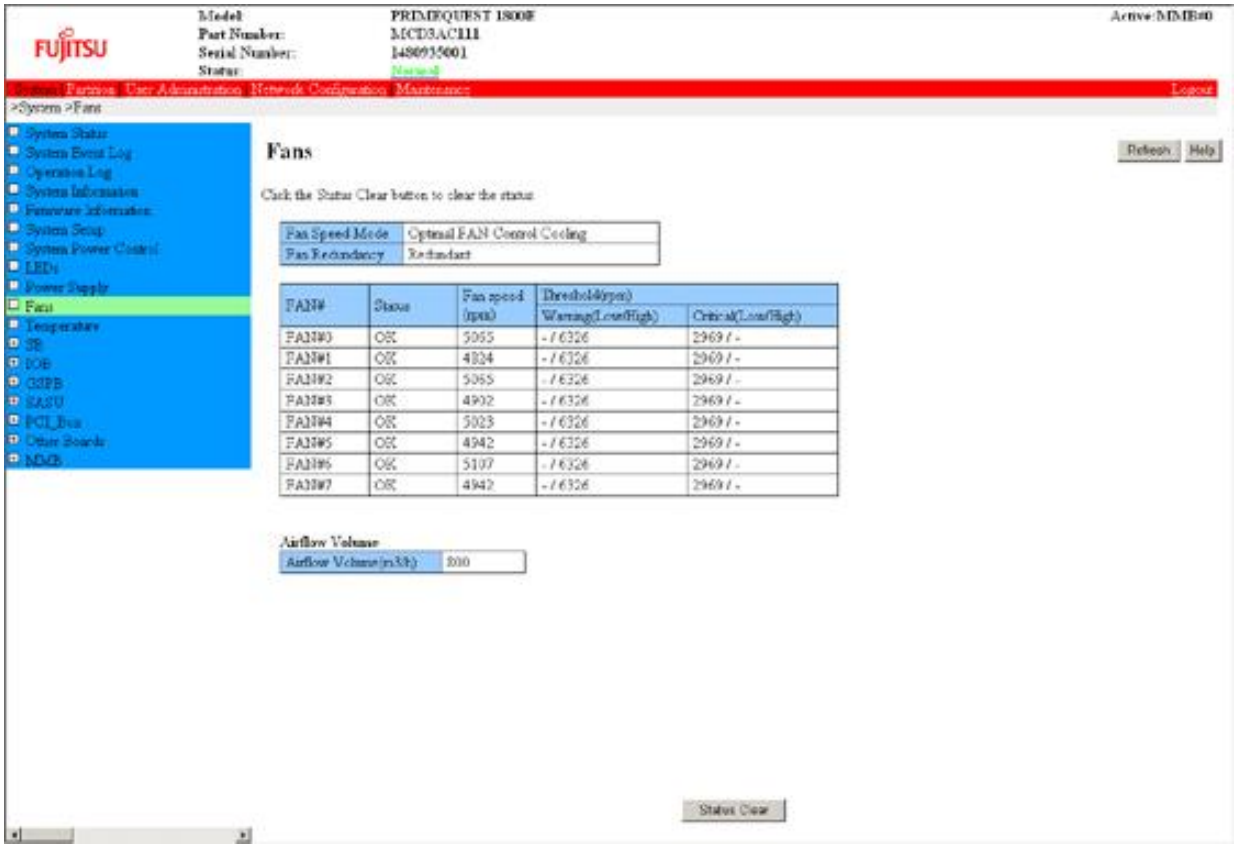


図 1.15 [Fans] 画面

各ファンの Status はいったん異常を検出すると、ファンを交換するか、[Status Clear] ボタンをクリックして異常状態をクリアするまで異常状態が保持されます。

備考

[Status Clear] して再度ファンの回転数異常が検出されると、[Failed] 状態に遷移します。そのため、もともとファン回転数が異常であるファンのステータスをクリアしても、状態は [Failed] のまま変化しない場合があります。

表 1.39 [Fans] 画面の表示項目

項目	内容
Fan Speed Mode	ファンのスピードモードが表示される。

項目	内容
	・ FULL ・ High (温度異常または冗長でなくなったことにより、高速回転モードに遷移) ・ Normal ・ Low ・ Optimal FAN Control Cooling
Fan Redundancy	ファンの冗長状態が表示される。 ・ Redundant：ファンが冗長 ・ Non-redundant: Sufficient Resource：ファンの冗長性は失われたが、システムの運転を継続するのに十分なファンがある ・ Non-redundant: Insufficient Resource：ファンが冗長でなくなり、システムの運転を継続するために十分なファンがない
Status	各ファンの状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed
Fan Speed	各ファンの回転数 (rpm) を表示する。
Threshold	各ファンの回転数の下限値を表示する。 (この回転数より低くなると異常)
Airflow Volume	風量を表示する。

表 1.40 [Fans] 画面のボタン

ボタン	内容
Status Clear	ファンの状態をクリアする。

(1) メニュー操作
[System] - [Fans]

(2) 画面操作
1. [Status Clear] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. ファンの状態をクリアする場合には [OK] ボタンを、クリアしない場合には [Cancel] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.12 [Temperature] 画面

[Temperature] 画面では、PRIMEQUEST 1000 シリーズシステム内の温度センサーの温度が表示されます。

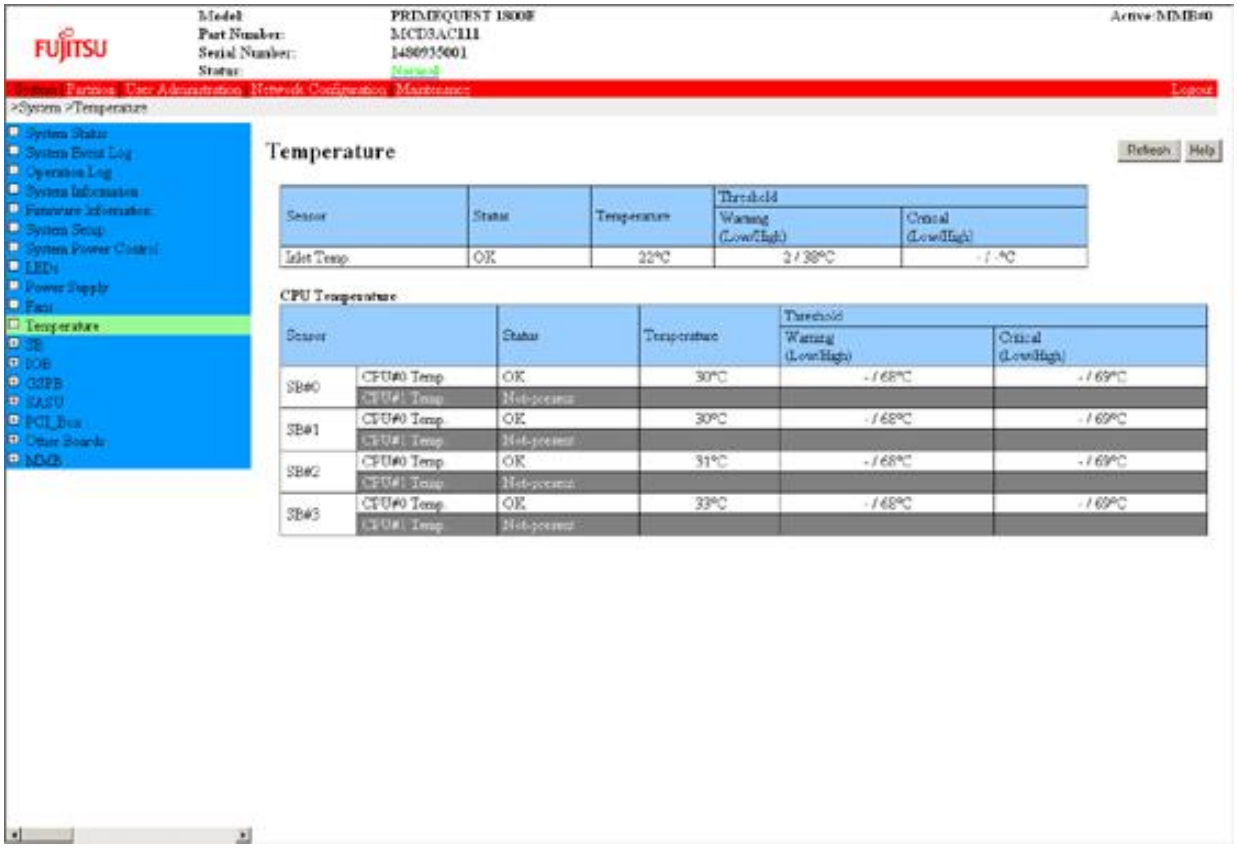


図 1.16 [Temperature] 画面

表 1.41 [Temperature] 画面の表示項目

項目	内容
Status	各温度センサーの状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Warning ・ Critical
Temperature	各温度センサーの温度を表示する。
Threshold	各温度センサーが保持する閾値を表示する。 ・ Warning: Low/High ・ Critical: Low/High

(1) メニュー操作

[System] - [Temperature]

(2) 画面操作
なし

1.2.13 [SB] メニュー

[SB] メニューには、SB のユニットごとにメニューがあります。
搭載されていない SB のメニューは表示されません。
画面の形式と操作方法は各メニューとも同じなので、ここでは 1 つのメニューについて説明します。

■[SB#x] 画面

[SB#x] 画面では、SB#x ボードの状態の表示および設定ができます。

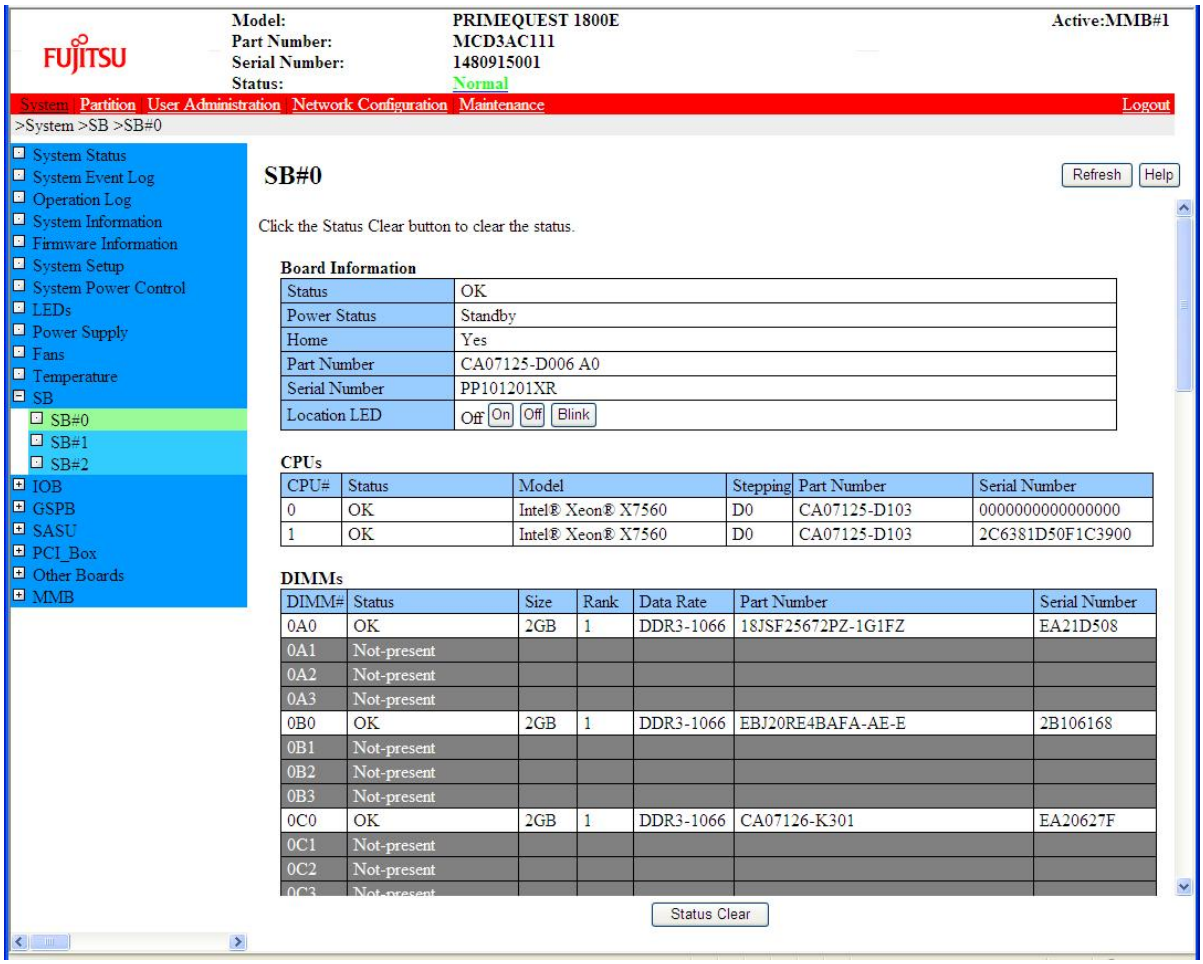


図 1.17 [SB#x] 画面 (1)

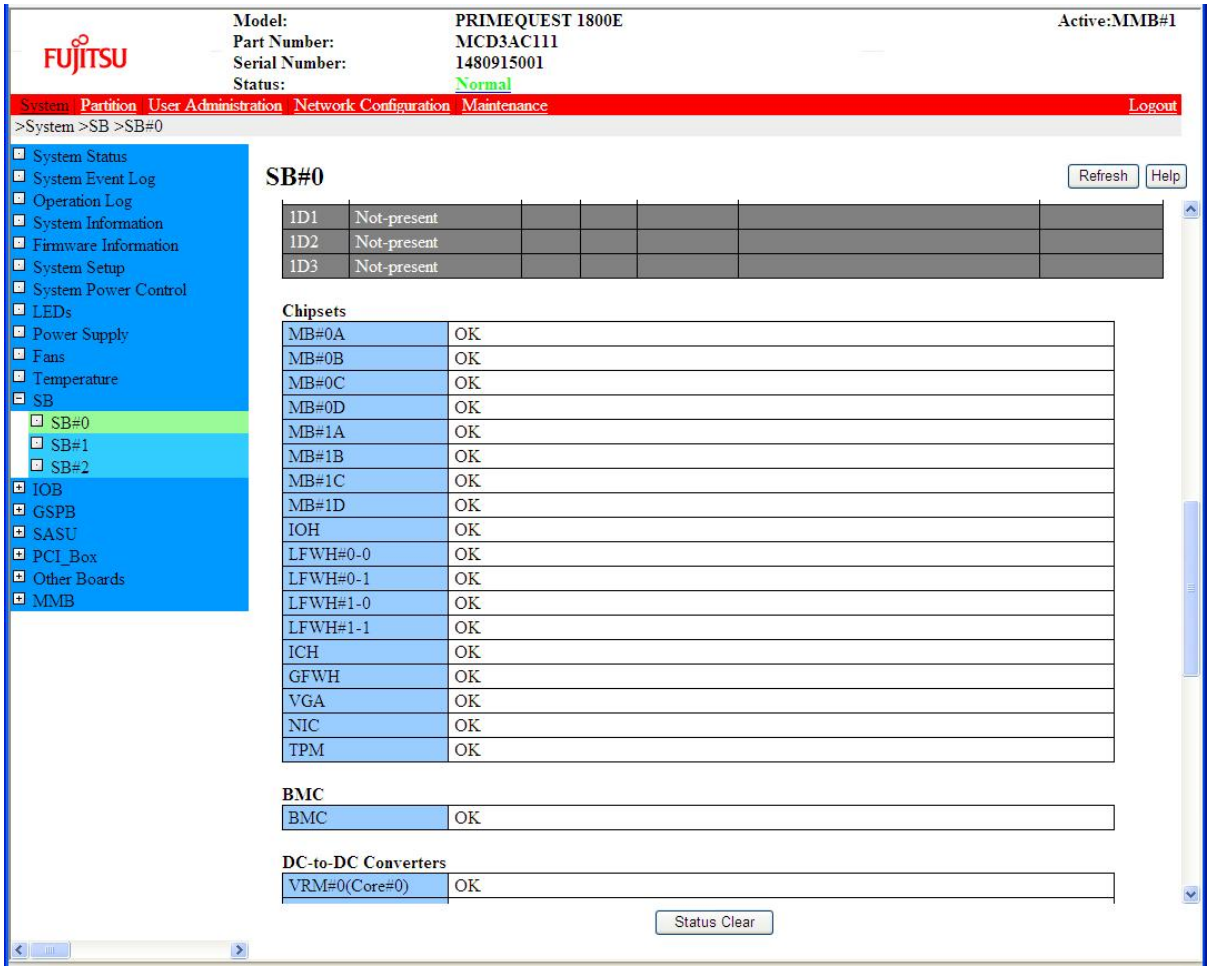

FUJITSU
Model: PRIMEQUEST 1800E
Part Number: MCD3AC111
Serial Number: 1480915001
Status: Normal
Active:MMB#1
System | Partition | User Administration | Network Configuration | Maintenance
Logout
>System >SB >SB#0
System Status
System Event Log
Operation Log
System Information
Firmware Information
System Setup
System Power Control
LEDs
Power Supply
Fans
Temperature
SB
SB#0
SB#1
SB#2
IOB
GSPB
SASU
PCI_Box
Other Boards
MMB
SB#0
Refresh
Help
1D1 Not-present
1D2 Not-present
1D3 Not-present
Chipsets
MB#0A OK
MB#0B OK
MB#0C OK
MB#0D OK
MB#1A OK
MB#1B OK
MB#1C OK
MB#1D OK
IOH OK
LFWH#0-0 OK
LFWH#0-1 OK
LFWH#1-0 OK
LFWH#1-1 OK
ICH OK
GFWH OK
VGA OK
NIC OK
TPM OK
BMC
BMC OK
DC-to-DC Converters
VRM#0(Core#0) OK
Status Clear

図 1.18 [SB#x] 画面 (2)

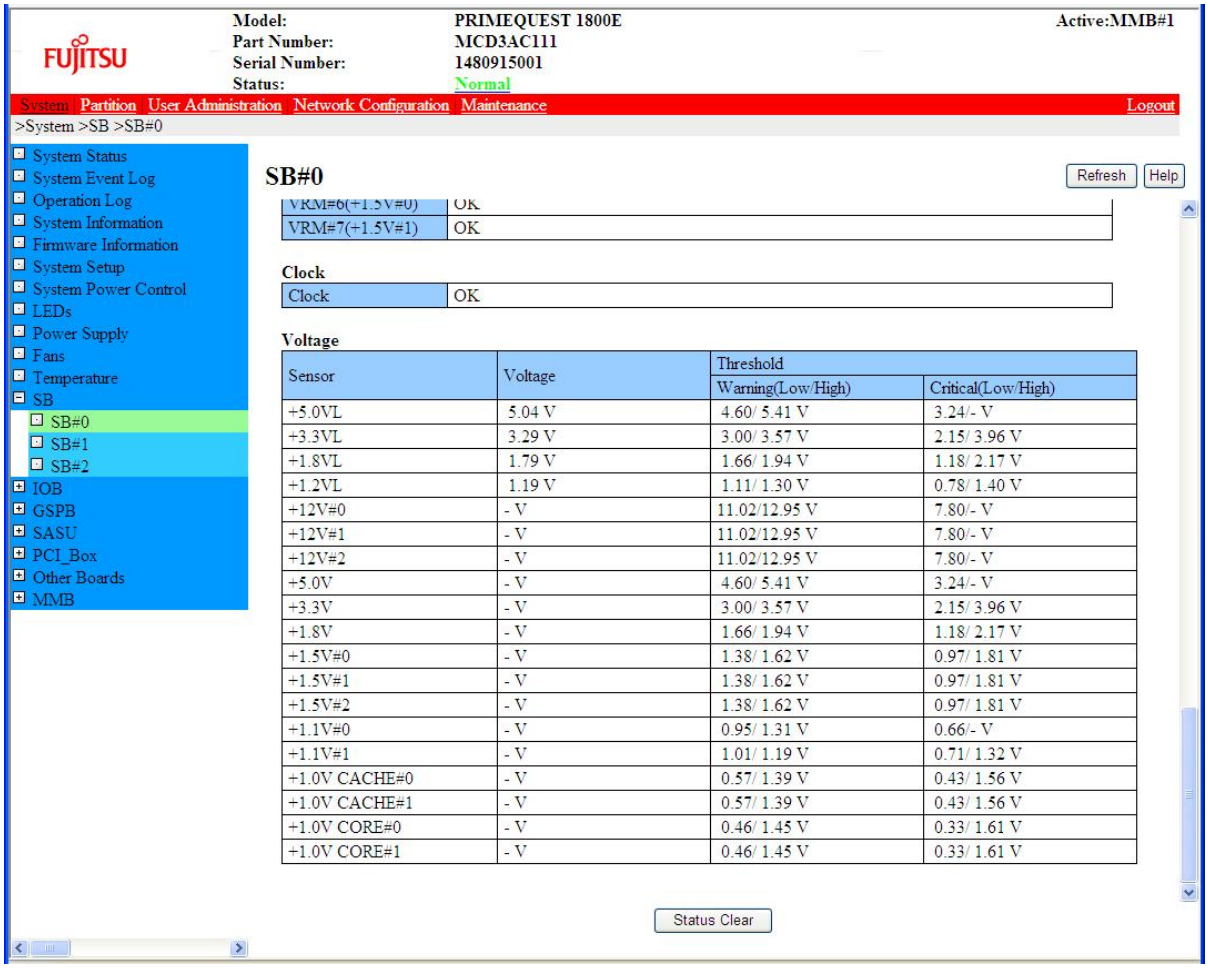


図 1.19 [SB#x] 画面 (3)

搭載されていない CPU、DIMM の行は、背景色が灰色で表示されます。
設定権限のないユーザーには、[Status Clear] ボタンおよび「Click the Status Clear Button to clear the status.」のメッセージは表示されません。

表 1.42 [SB#x] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Board Information	
Status	SB の状態を表示する。 ・ OK：SB 上に障害がない。 ・ Not-present：SB が搭載されていない。 ・ Warning：SB 上の電圧センサーなどで Warning を検出した。 ・ Degraded：SB 上のコンポーネントに障害が発生している。しかし、SB としては障害コンポーネントを切り離して動作できる。 ・ Failed：SB に障害が発生し SB の切離しが必要、または、切り離されている。 ・ Unsupported：MMB がサポートしていない SB である場合。
Power Status	SB の電源状態を表示する。

項目		内容
		・ On：オン状態 ・ Standby：スタンバイ状態
Home		SB が Home であるかどうかを表示する。 ・ Yes：Home である ・ No：Home ではない
Part Number		SB のパーツ番号を表示する。
Serial Number		SB のシリアル番号を表示する。
Location LED		Location LED の表示状態を示す。 表示状態には、以下の 3 つがある。 ・ On：点灯中 ・ Off：消灯中 ・ Blink：点滅中 [On]、[Off]、[Blink] ボタンをクリックすることによって Location LED の点灯／消灯／点滅を制御できる。
CPUs		
CPU#0 CPU#1	Status	CPU の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Disabled ・ Warning ・ Failed ・ Configuration error ・ Unknown
	Model	CPU の製品名を表示する。
	Stepping	CPU の版数を表示する。
	Part Number	CPU のパーツ番号を表示する。
	Serial Number	CPU のシリアル番号を表示する。 **備考** ここで表示するシリアル番号は CPU Package に刻印されているシリアル番号とは異なる。
DIMMs		
DIMM#0A0 ～ DIMM#1D3	Status	DIMM の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Warning ・ Uncorrectable error

項目	内容	
		・ Disabled ・ Configuration error ・ Degraded Configuration ・ Not supported ・ Unknown
	Size	DIMM のサイズを表示する。 ・ 2GB ・ 4GB ・ 8GB ・ 16GB DIMM Status が Not-present、Not-supported、Unknown の場合は、何も表示しない。
	Rank	DIMM の Rank 数 (1 または 2) を表示する。 DIMM Status が Not-present、Not-supported、Unknown の場合は、何も表示しない。
	Data Rate	DIMM の Data Rate を表示する。 ・ DDR3-1066 DIMM Status が Not-present、Not-supported、Unknown の場合は、何も表示しない。
	Part Number	DIMM のパーツ番号を表示する。 DIMM Status が Not-present、Not-supported、Unknown の場合は、何も表示しない。
	Serial Number	DIMM のシリアル番号を表示する。 DIMM Status が Not-present、Not-supported、Unknown の場合は、何も表示しない。
Chipset		
MB#0A ～ MB#1D	MB の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed	
IOH	IOH の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed	
LFWH#0-0	Local FWH の 0-0 面の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed	
LFWH#0-1	Local FWH の 0-1 面の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning	

項目	内容
	・ Failed
LFWH#1-0	Local FWH の 1-0 面の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed
LFWH#1-1	Local FWH の 1-1 面の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed
ICH	ICH の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed
GFWH#0	Global FWH の 0 面の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed 8GB DIMM 対応以降の SB の場合、"GFWH"として表示される。
GFWH#1	Global FWH の 1 面の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed 8GB DIMM 対応以降の SB の場合は、表示されない。
VGA	VGA の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed
NIC	Private LAN の NIC 状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed
TPM	TPM の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed **注意** SB が without TPM mode である場合、本フィールドは表示されない。 **備考** TPM は、PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 では表示されません。

項目	内容
BMC	
BMC	BMC の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed
DC-to-DC Converters	
VRM#0(Core#0)	DDCON の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Configuration error ・ High temperature ・ Failed
VRM#1(Cache#0)	
VRM#2(Core#1)	
VRM#3(Cache#1)	
VRM#4(VIO)	
VRM#5(+1.1V)	
VRM#6(+1.5V#0)	
VRM#7(+1.5V#1)	
Clock	
Clock	System Clock の状態を表示する。 ・ OK ・ Failed
Voltage	
+5.0VL	現在の電圧、および以下の閾値を表示する。 ・ Warning (Low/High) ・ Critical (Low/High) 閾値が設定されていない場合は「－」を表示する。 電圧は小数点以下 2 桁で表示する。 *：8GB DIMM 対応以降の SB の場合、表示されることがあります。
+3.3VL	
+1.8VL	
+1.2VL	
+12V#0	
+12V#1	
+12V#2 (*)	
+5.0V	
+3.3V	
+1.8V	
+1.5V#0	
+1.5V#1	
+1.5V#2	
+1.1V#0	
+1.1V#1	
+1.0V CACHE#0	

項目	内容
+1.0V CACHE#1	
+1.0V CORE#0	
+1.0V CORE#1	

表 1.43 [SB#x] 画面のボタン

ボタン	内容
On	[On] ボタンをクリックすると、Location LED が点灯される。
Off	[Off] ボタンをクリックすると、Location LED が消灯される。
Blink	[Blink] ボタンをクリックすると、Location LED が点滅する。
Status Clear	ファンの状態をクリアする。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.
E_00048	The specified unit is not installed.
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[SB#x Status Clear] 画面

[SB#x] 画面で [Status Clear] ボタンをクリックすると、どのコンポーネントのエラー状態をクリアするかを指定できます。
SB 上で異常が検出されているコンポーネントのエラー状態を解除し、次のリブート時に再度、当該コンポーネントを使用するように指示できます。リブート時に再度エラーが検出され場合は、そのコンポーネントのエラー状態が再び記録されます。

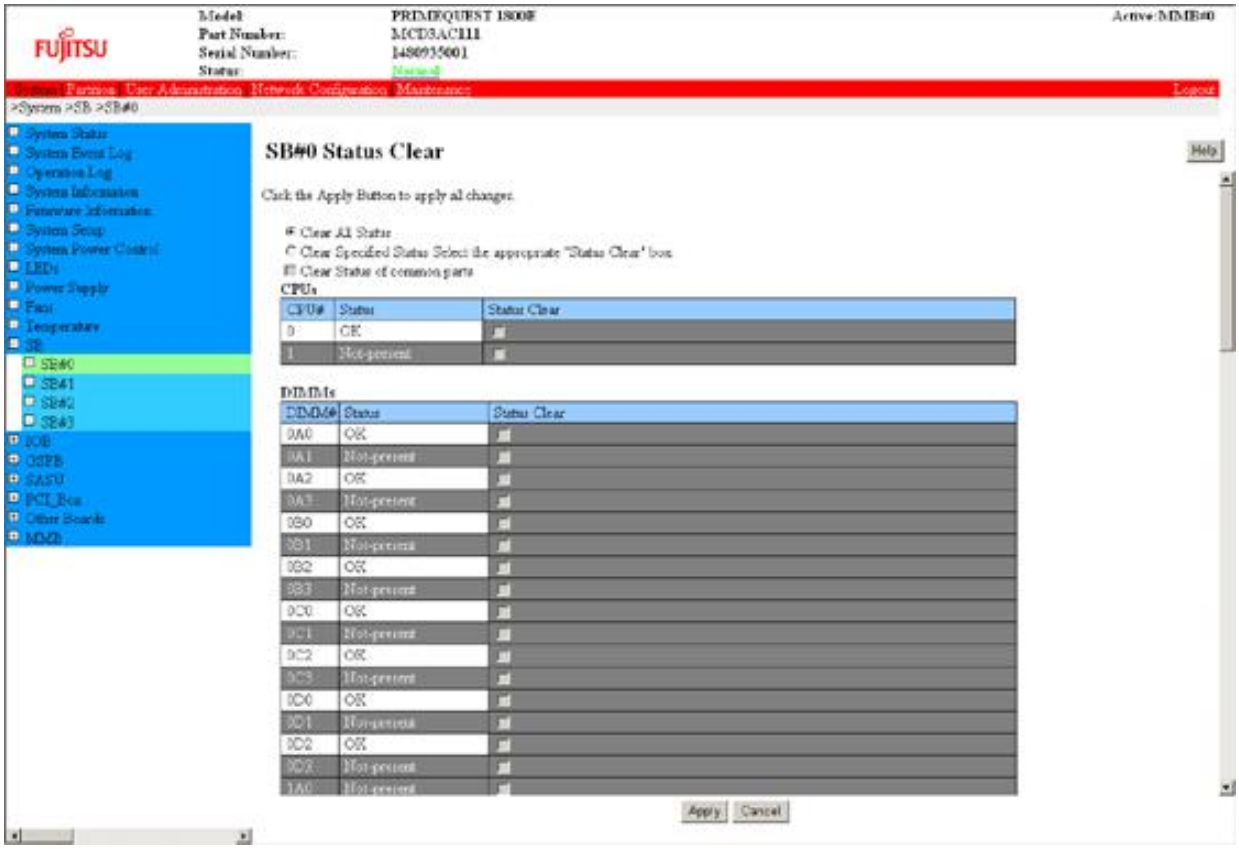


図 1.20 [SB#x Status Clear] 画面 (メッセージ表示)

(1) メニュー操作
[System] - [SB] - [SB#x] - [Status Clear] ボタン

(2) 画面操作
1. クリアするコンポーネントを以下のように指定します。
   - すべてのコンポーネントをクリアする場合は、[Clear All Status] をオンにします。
   - コンポーネントのエラー状態を個別にクリアする場合は、[Clear Specified Status] をオンにし、エラー状態をクリアするコンポーネントの [Status Clear] チェックボックスをオンにします。
   - 共通部分をクリアする場合は、[Clear Status of common parts] チェックボックスをオンにします。
2. [Apply] ボタンをクリックします。
   指定されたコンポーネントがクリア設定されます。

■CPU／DIMM が 1 つも搭載されていないときの表示

CPU または DIMM が 1 つも搭載されていない場合は、SB はパーティションから縮退されます。
このとき、ユーザーが CPU、DIMM の搭載ミスに気づきやすいように、[SB Status] は [Failed] と表示されます。また、CPU または DIMM が 1 つも搭載されていないことを認識しやすくするため、異常条件に該当する場合は、以下のように CPU または DIMM の構成表示の表の上に表示されます。

"*It is necessary to install at least one CPU in SB#x."　(CPU の場合)
"*It is necessary to install at least one DIMM set in SB#x."　(DIMM の場合)

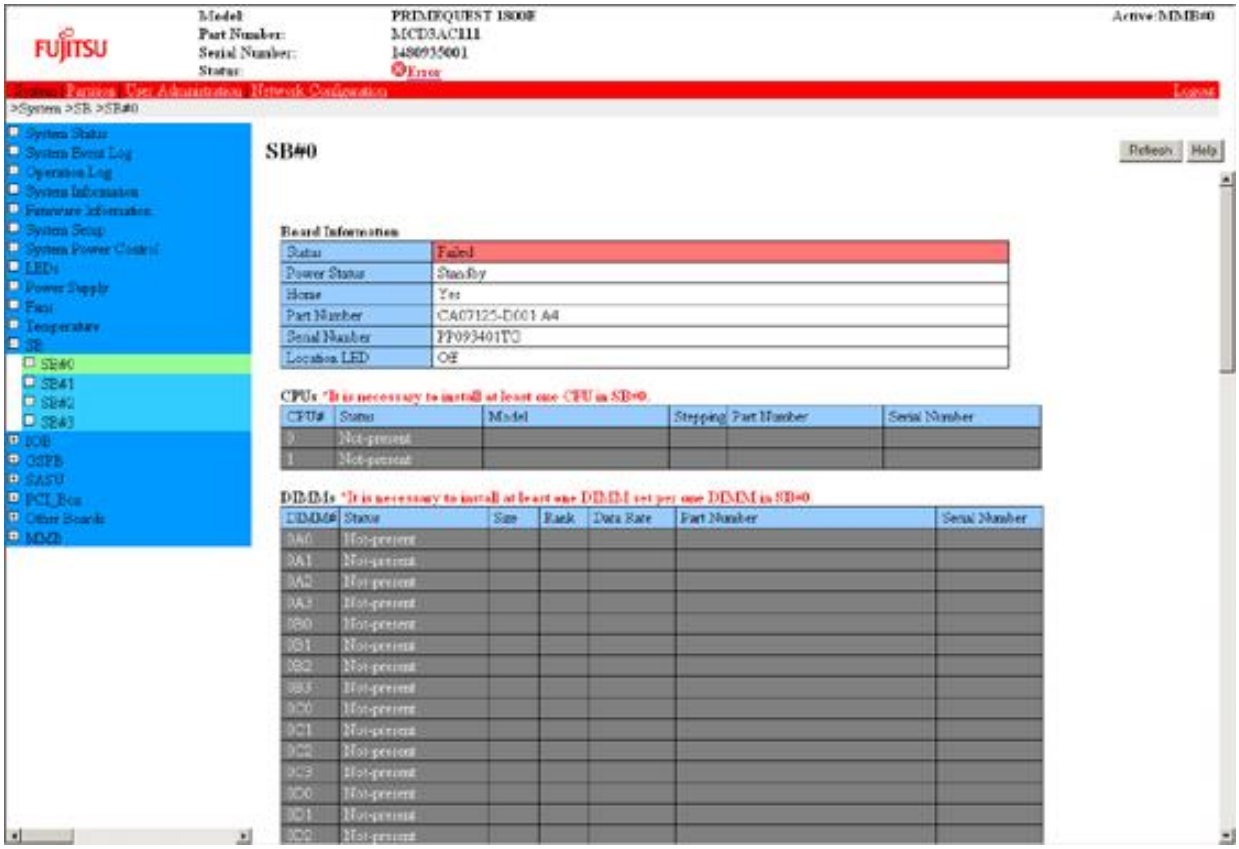


図 1.21 [SB#x] 画面 (CPU/DIMM なしの場合)

1.2.14 [IOB] メニュー

[IOB] メニューには、IOB ごとに以下のメニューがあります。

- [IOB#0] ～ [IOB#1]

搭載されていない IOB のメニューは表示されません。
画面と操作方法は各メニューとも同じなので、ここでは 1 つのメニューについて説明します。

■[IOB#x] 画面

[IOB#x] 画面では、IOB#x スロットに搭載されている IOB の状態を表示します。また、IOB の設定ができます。

PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は、IOB の最大搭載数は 1 個です。そのため、「IOB#x」のような番号表示はされず、「IOB」のように表示されます。

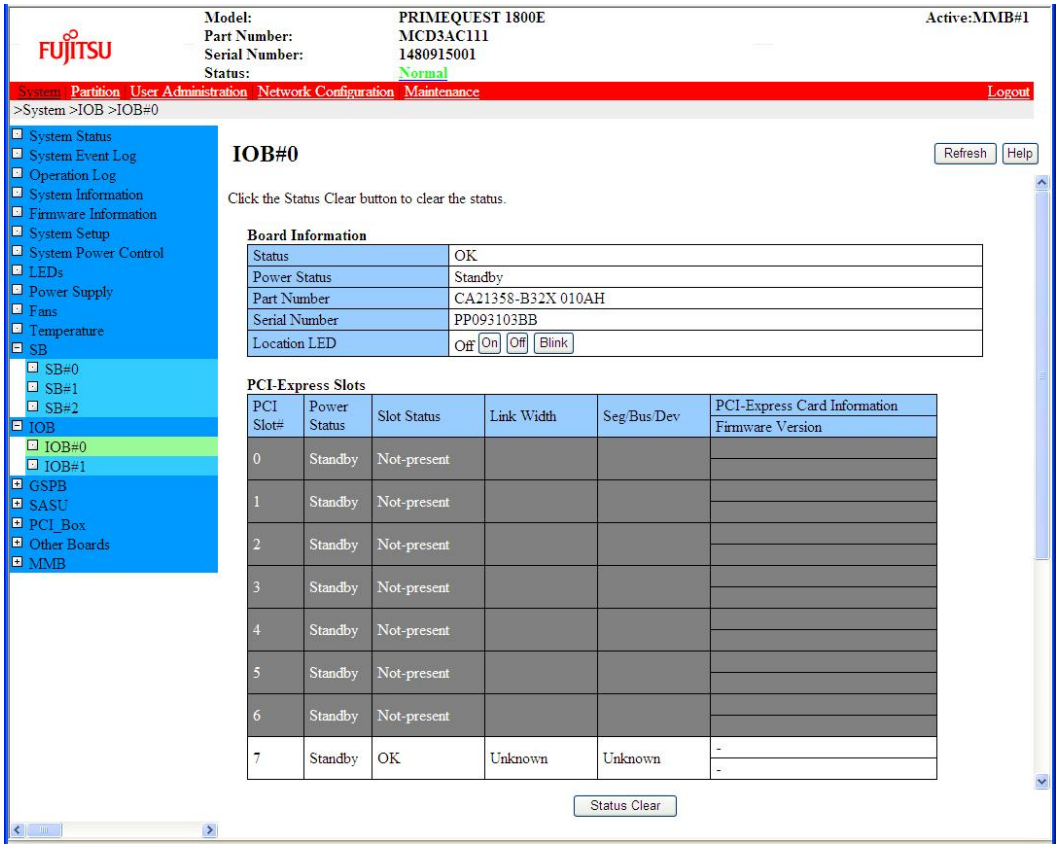


図 1.22 [IOB#x] 画面 (1)

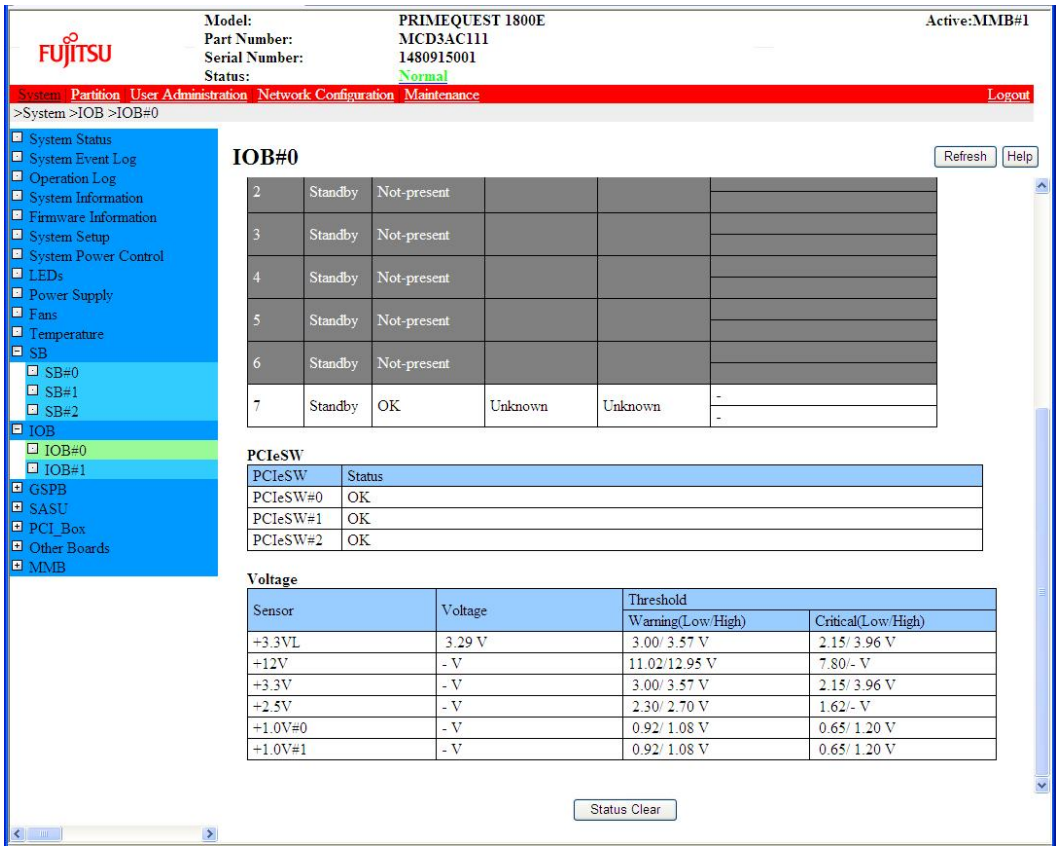


図 1.23 [IOB#x] 画面 (2)

表 1.44 [IOB#x] 画面の表示・設定項目

項目		内容
Board Information		
Status		IOB の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Warning ・ Degraded ・ Failed
Power Status		IOB の電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
Part Number		IOB のパーツ番号を表示する。
Serial Number		IOB のシリアル番号を表示する。
Location LED		Location LED の表示状態を示す。 表示状態には、以下の 3 つがある。 ・ On：点灯中 ・ Off：消灯中 ・ Blink：点滅中 また、[On]、[Off]、[Blink] ボタンをクリックすることによって Location LED の点灯／消灯／点滅を制御できる。
PCI-Express Slots		
PCI Slot#0 PCI Slot#1 PCI Slot#2 PCI Slot#3 PCI Slot#4 PCI Slot#5 PCI Slot#6 PCI Slot#7	Power Status	PCI-Express Slot の電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
	Slot Status	PCI-Express Slot の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed ・ Disabled
	Link Width	PCI-Express Slot 形式の Link Width を表示する。 ・ x1 ・ x2 ・ x4 ・ x8
	Seg/Bus/Dev	PCI Device の Segment#、Bus#、Device#を表示する。
	PCI Card Info	PCI-Express カードの情報を表示する (64 バイト ASCII) 。 デバイス情報が取得失敗の場合、"-"を表示する。
	Firmware Version	PCI-Express カードのファームウェア版数を表示する (64 バイト ASCII)。 FC/FCoE カードまたは RAID カードの場合のみ表示。

項目	内容	
		デバイス情報が取得失敗の場合、"-"を表示する。
PCIeSW		
PCIeSW#0	PCIeSW の状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed	
PCIeSW#1		
PCIeSW#2		
PCIeSW#3		
Voltage		
+3.3VL	現在の電圧、および閾値を表示する。 ・ Warning (Low/High) ・ Critical (Low/High) 閾値が設定されていない場合は「ー」を表示する。	
+12V		
+3.3V		
+2.5V		
+1.0V#0		
+1.0v#1		

表 1.45 [IOB#x] 画面のボタン

ボタン	内容
On	[On] ボタンをクリックすると、Location LED が点灯される。
Off	[Off]ボタンをクリックすると、Location LED が消灯される。
Blink	[Blink]ボタンをクリックすると、Location LED が点滅する。
Status Clear	IOB#x のエラー状態をクリアする。

[Status Clear] ボタンをクリックすると、IOB のエラー状態をクリアし、次のリブート時に再度 IOB を使用するように指示できます。リブート時に再度エラーが検出されると、再度 IOB のエラー状態が記録されます。

(1) メニュー操作
[System] - [IOB] - [IOB#x]

(2) 画面操作
1. [Status Clear] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. IOB のエラー状態をクリアする場合には [OK] ボタンを、クリアしない場合には [Cancel] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.15 [GSPB] メニュー

[GSPB#x] 画面では、PRIMEQUEST 1000 シリーズに搭載されている GSPB#x ボードの状態の表示、ボード状態の制御、および Location LED の設定ができます。

PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合、GSPB の搭載数は 1 のため、「GSPB#x」のように番号表示はされず、「GSPB」と表示されます。
また、PRIMEQUEST 1400S2/1400S は PCI ボックスの最大搭載数が 1 個のため、PCI_Box connection 項の表示がほかのモデルと異なります。

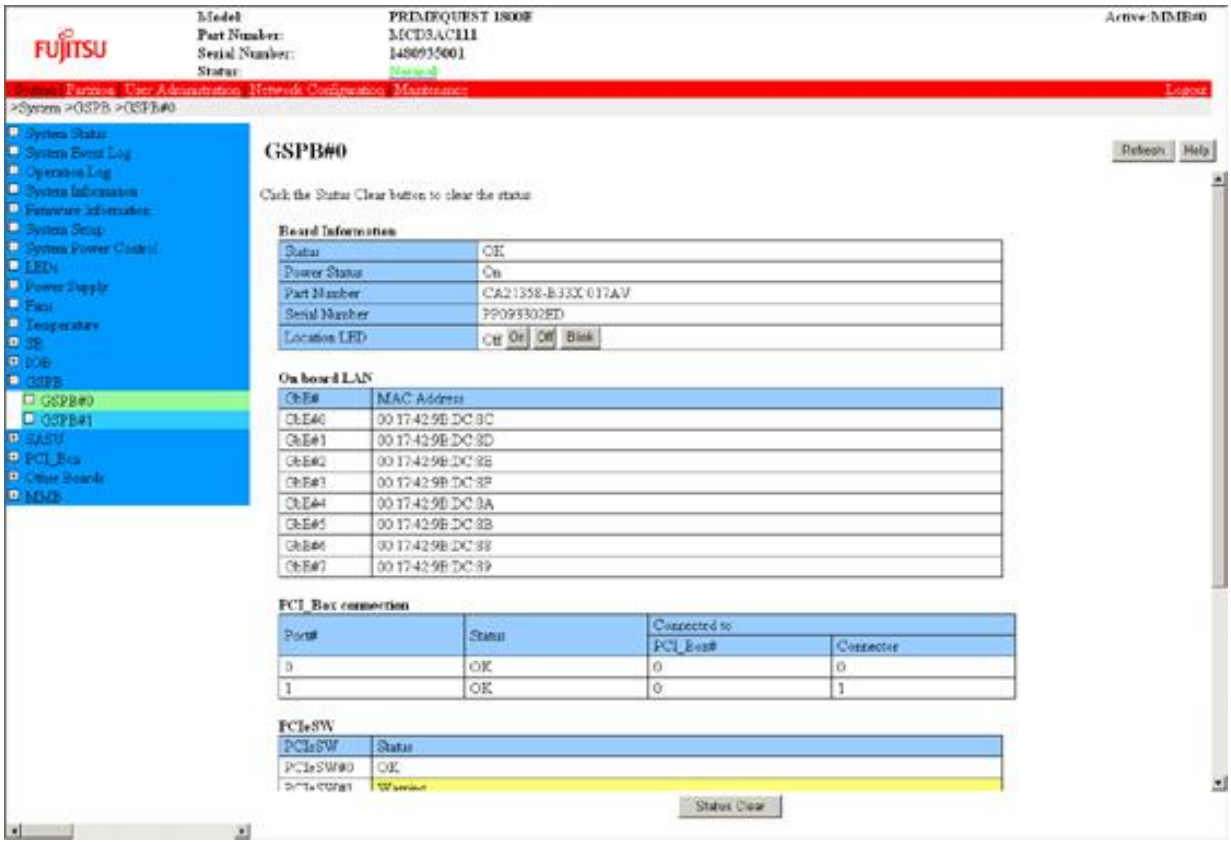


図 1.24 [GSPB#x] 画面 (1)

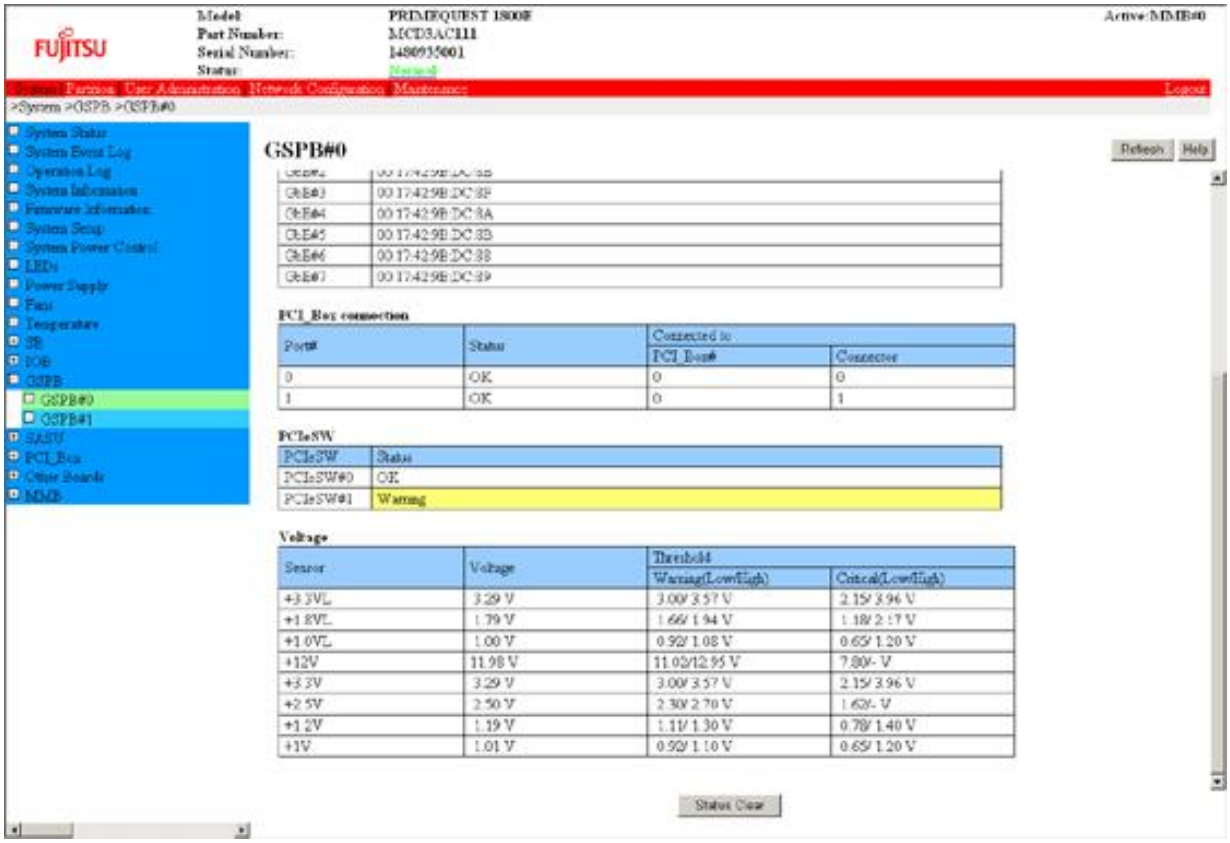


図 1.25 [GSPB#x] 画面 (2)

設定権限のないユーザーには、[Status Clear] ボタンおよび「Click the Status Clear button to clear the status.」のメッセージは表示されません。

表 1.46 [GSPB#x] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Board Information	
Status	GSPB の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Warning ・ Degraded ・ Failed
Power Status	GSPB の電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
GSPB Part Number	GSPB のパーツ番号を表示する。
GSPB Serial Number	GSPB のシリアル番号を表示する。
Location LED	Location LED の表示状態を示す。 表示状態には、以下の 3 つがある。 ・ On：点灯中

項目		内容
		・ Off：消灯中 ・ Blink：点滅中 [On]、[Off]、[Blink] ボタンをクリックすることによって Location LED の点灯／消灯／点滅を制御できる。
On board LAN		
GbE#		GbE の番号を表示する。
MAC Address		GSPB 上に搭載している GbE に対する MAC Address を表示する。 MAC Address が不明の場合は [Unknown] を表示する。
PCI_Box connection		
Port#		GSPB 上の PCI ボックス接続用 Port#を表示する。
Status		PCI ボックスとの接続状態を表示する。 ・ OK ・ Not-connected ・ Incorrect connection
Connected to	PCI_Box#	接続先 PCI_Box#を表示する。 未接続の場合はグレーアウト表示される。 PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L の場合に表示する。
	Connector	PEXU の接続先 Connector 番号を表示する。 未接続の場合はグレーアウト表示される。 PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L の場合に表示する。
Connector		PEXU の接続先 Connector 番号を表示する。 未接続の場合はグレーアウト表示される。 本項目は、PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合のみ表示される。
PCIeSW		
PCIeSW#0		PCIe SW の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed ・ Disabled
PCIeSW#1		
Voltage		
+3.3VL		現在の電圧、および閾値を表示する。 ・ Warning (Low/High) ・ Critical (Low/High) 閾値が設定されていない場合は「－」を表示する。
+1.8VL		
+1.0VL		
+12V		
+3.3V		
+2.5V		

項目	内容
+1.2V	
+1V	

表 1.47 [GSPB#x] 画面のボタン

ボタン	内容
On	[On] ボタンをクリックすると、Location LED が点灯される。
Off	[Off]ボタンをクリックすると、Location LED が消灯される。
Blink	[Blink]ボタンをクリックすると、Location LED が点滅する。
Status Clear	GSPB のエラー状態をクリアする。

[Status Clear] ボタンをクリックすると、GSPB のエラー状態をクリアし、次のリブート時に再度 GSPB を使用するように指示できます。リブート時に再度エラーが検出される場合は、再度 GSPB のエラー状態が記録されます。

(1) メニュー操作
[System] - [GSPB] - [GSPB#x]

(2) 画面操作
1. [Status Clear] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. GSPB のエラー状態をクリアする場合には [OK] ボタンを、クリアしない場合には [Cancel] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.16 [SASU] メニュー

[SASU#x] 画面では、PRIMEQUEST 1000 シリーズに搭載されている SAS ディスクユニット#x の状態の表示と、ボード状態の制御ができます。

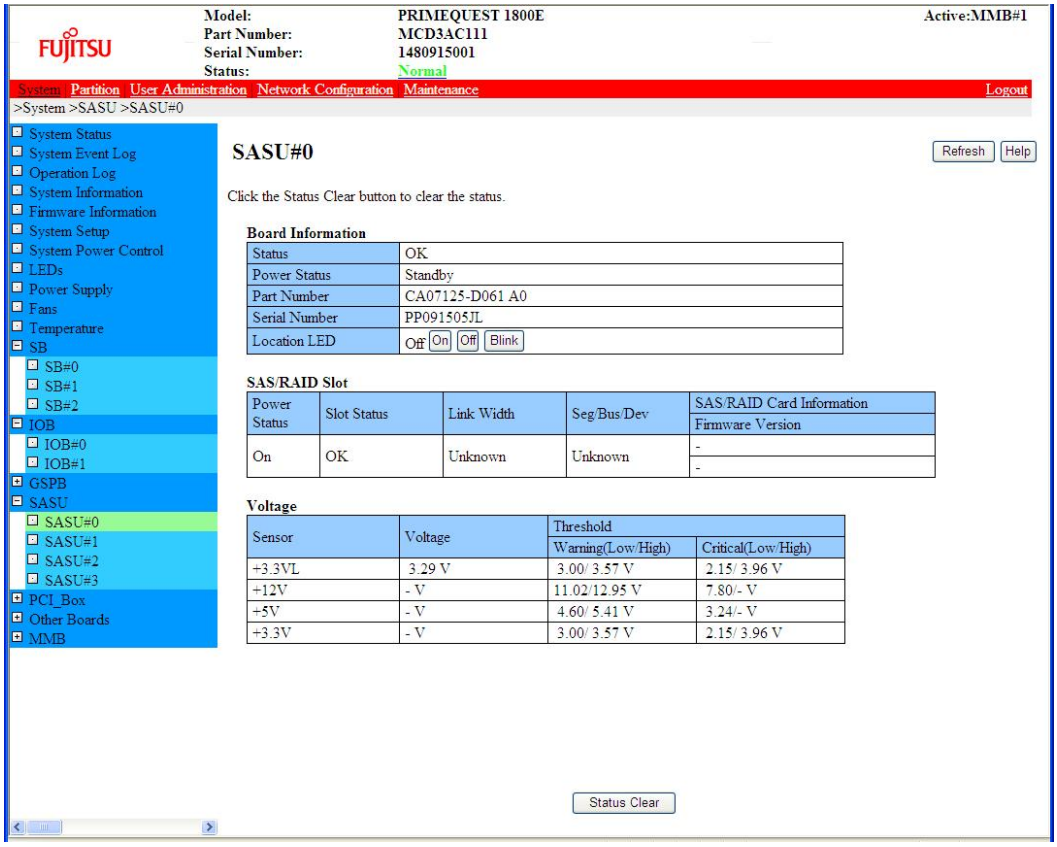


図 1.26 [SASU#x] 画面

設定権限のないユーザーには、[Status Clear] ボタンおよび「Click the Status Clear button to clear the status.」のメッセージは表示されません。

表 1.48 [SASU#x] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Board Information	
Status	SAS ディスクユニットの状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Warning ・ Degraded ・ Failed
Power Status	SAS ディスクユニットの電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
SASU Part Number	SAS ディスクユニットのパーツ番号を表示する。
SASU Serial Number	SAS ディスクユニットのシリアル番号を表示する。
Location LED	Location LED の表示状態を示す。 表示状態には、以下の 3 つがある。 ・ On：点灯中

項目	内容
	・ Off：消灯中 ・ Blink：点滅中 [On]、[Off]、[Blink] ボタンをクリックすることによって Location LED の点灯／消灯／点滅を制御できる。
SAS/RAID Slot	
Power Status	SAS/RAID Slot の電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
Slot Status	SAS/RAID Slot の状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed ・ Degraded
Link Width	SAS/RAID Slot 形式の Link Width を表示する。 ・ x1 ・ x2 ・ x4 ・ x8
Seg/Bus/Dev	SAS/RAID Device の Segment#、Bus#、Device#を表示する。
SAS/RAID Card Information	SAS アレイコントローラーカードの情報を表示する（64 バイト ASCII)。 デバイス情報が取得失敗の場合、"-"を表示する。
Firmware Version	SAS アレイコントローラーカードのファームウェア版数を表示する (64 バイト ASCII)。 FC カードまたは RAID カード場合のみ表示。 デバイス情報が取得失敗の場合、"-"を表示する。
Voltage	
+3.3VL	現在の電圧、および閾値を表示する。 ・ Warning (Low/High) ・ Critical (Low/High) 閾値が設定されていない場合は「ー」を表示する。
+12V	
+5V	
+3.3V	

表 1.49 [SASU#x] 画面のボタン

ボタン	内容
On	[On] ボタンをクリックすると、Location LED が点灯される。
Off	[Off] ボタンをクリックすると、Location LED が消灯される。
Blink	[Blink] ボタンをクリックすると、Location LED が点滅する。
Status Clear	SAS ディスクユニットのエラー状態をクリアする。

[Status Clear] ボタンをクリックすると、SAS ディスクユニットのエラー状態をクリアし、次のリブート時に再度 SAS ディスクユニットを使用するように指示できます。リブート時に再度エラーが検出される場合は、再度 SAS ディスクユニットのエラー状態が記録されます。

(1) メニュー操作
[System] - [SASU] - [SASU#x]

(2) 画面操作
1. [Status Clear] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. SAS ディスクユニットのエラー状態をクリアする場合には [OK] ボタンを、クリアしない場合には [Cancel] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.17 [PCI_Box] メニュー

[PCI_Box#x] 画面には、PRIMEQUEST 1000 シリーズに接続している PCI ボックスの状態が表示されます。
PRIMEQUEST 1400S2/1400S では PCI ボックス搭載数が 1 のため、「PCI_Box#0」のような番号表示はされず、「PCI_Box」と表示されます。

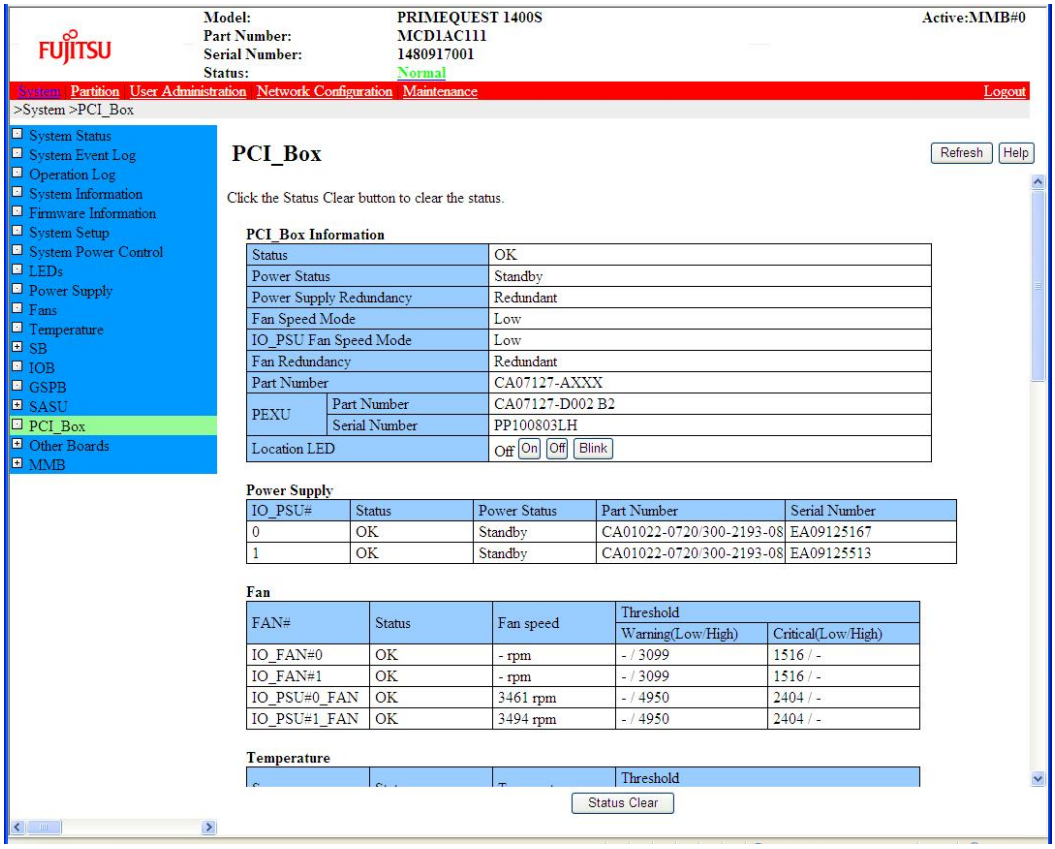


図 1.27 [PCI_Box#x] 画面 (1)

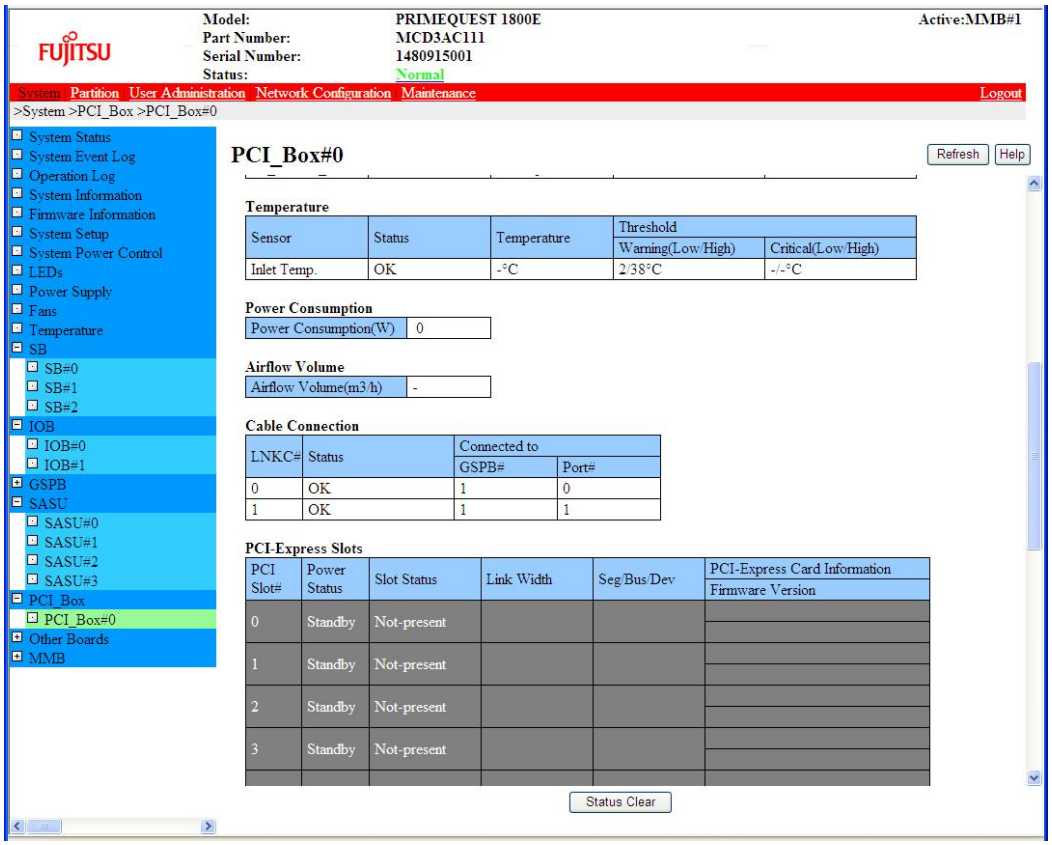


図 1.28 [PCI_Box#x] 画面 (2)

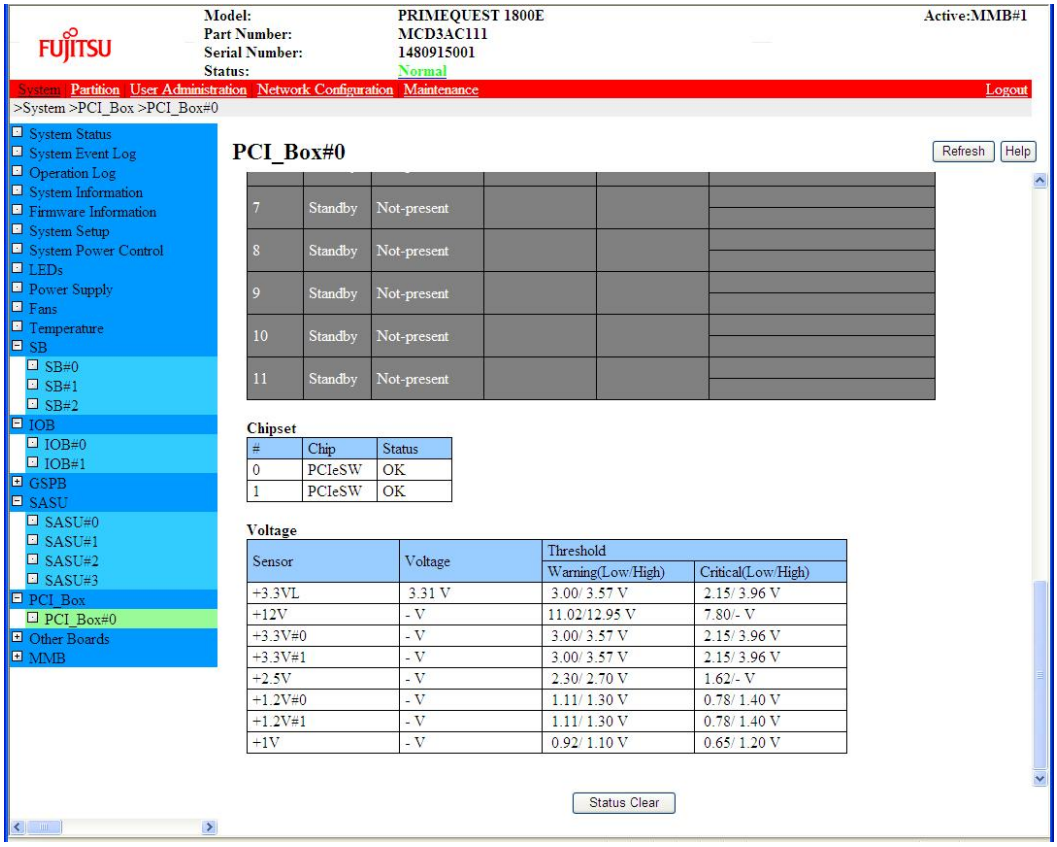


図 1.29 [PCI_Box#x] 画面 (3)

表 1.50 [PCI_Box#x] 画面の表示項目

項目	内容
PCI_Box Information	
Status	PCI ボックスの状態が表示される。 ・ OK ・ Not-present ・ Warning ・ Degraded ・ Failed
Power Status	PCI ボックスの電源状態が表示される。 ・ On ・ Standby
Power Supply Redundancy	IO_PSU の冗長状態が表示される。 ・ Redundant ・ Non-redundant: Sufficient Resources
Fan Speed Mode	ファンの回転数の状態が表示される。 ・ Low ・ Normal ・ High ・ Full

項目		内容
IO_PSU Fan Speed Mode		IO_PSU Fan Speed Mode が表示される。 ・ Low ・ Normal ・ High ・ Full
Fan Redundancy		ファンの冗長状態が表示される。 ・ Redundant ・ Non-Redundant: Sufficient Resources
Part Number		PCI ボックスのパーツ番号を表示する
PEXU	Part Number	PEXU のパーツ番号を表示する。
	Serial Number	PEXU のシリアル番号を表示する。
Location LED		Location LED の 表示状態を示す。 表示状態には、以下の 3 つがある。 ・ On：点灯中 ・ Off：消灯中 ・ Blink：点滅中 [On]、[Off]、[Blink]ボタンをクリックすることで、Location LED の点灯／消灯／点滅を制御できる。
Power Supply		
IO_PSU#		IO_PSU 番号を表示する。
Status		IO_PSU の表示状態を示す。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed ・ A/C Lost ・ Configuration error
Power Status		IO_PSU の電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
Part Number		IO_PSU のパーツ番号を表示する。
Serial Number		IO_PSU のシリアル番号を表示する。
Fan		
Fan#		ファン番号を表示する。
Status		ファンの状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed
Speed		ファンの回転数を表示する。

項目		内容
Threshold		ファンの閾値を表示する。
Temperature		
Sensor		温度センサーの識別名を表示する。
Status		温度センサーの状態を表示する。
Temperature		現在の温度を表示する。
Threshold		各温度センサーが保持する閾値を表示する。 ・ Warning: Low/High ・ Critical: Low/High
Power Consumption		
Power Consumption		消費電力を表示する。
Airflow Volume		
Airflow Volume		風量を表示する。
Cable Connection		
LNKC#		Link Card 番号を表示する。
Status		ケーブルの接続状態を表示する。 ・ OK ・ Not-connected ・ Incorrect connection
Connect to	GSPB#	接続先 GSPB#を表示する。 接続していない場合はグレーアウト表示される。 PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L の場合に表示する。
	Port#	接続先 GSPB の Port#を表示する。 接続していない場合はグレーアウト表示される。 PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1800E2/1800L2/1400E/1400L/1800E/1800L の場合に表示する。
PCI -Express Slots		
PCI Slot#		PCI-Express スロット番号を表示する。
Power Status		PCI-Express スロットの電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
Slot Status		PCI-Express スロットの状態を表示する。 ・ OK ・ Not-present ・ Failed ・ Disabled
Link Width		PCI-Express スロット形式の Link Width を表示する。 ・ x1

項目	内容
	・ x2 ・ x4 ・ x8
Seg/Bus/Dev	PCI-Express スロットの Segment#、Bus#、Device#を表示する。
PCI-Express Card Information	PCI-Express Card の情報を表示する (64 バイト ASCII)。 デバイス情報が取得失敗の場合、"-"を表示する。
Firmware Version	PCI-Express Card のファームウェア版数を表示する (64 バイト ASCII)。 FC/FCoE カードまたは RAID カード場合のみ表示。 デバイス情報が取得失敗の場合、"-"を表示する。
Chipset	
Chip	Chip 名を表示する。 ・ PCIeSW
Status	状態を表示する。 ・ OK ・ Warning ・ Failed
Voltage	
+3.3VL	現在の電圧、および閾値を表示する。 ・ Warning (Low/High) ・ Critical (Low/High) 閾値が設定されていない場合は「ー」を表示する。
+12V	
+3.3V#0	
+3.3V#1	
+2.5V	
+1.2V#0	
+1.2V#1	
+1V	

表 1.51 [PCI_Box#x] 画面のボタン

ボタン	内容
On	[On] ボタンをクリックすると、Location LED が点灯される。
Off	[Off] ボタンをクリックすると、Location LED が消灯される。
Blink	[Blink] ボタンをクリックすると、Location LED が点滅する。
Status Clear	PCI ボックスのエラー状態をクリアする。

(1) メニュー操作

[System] - [PCI_Box] - [PCI_Box#x]

(2) 画面操作

1. [Status Clear] ボタンをクリックします。
   PCI ボックスのエラー状態がクリアされます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.2.18 [Other Boards] メニュー

[Other Boards] メニューには、以下の画面があります。

- [DVDB] 画面

■[DVDB] 画面

[DVDB] 画面では、DVDB (DVD ボード) の状態が表示されます。

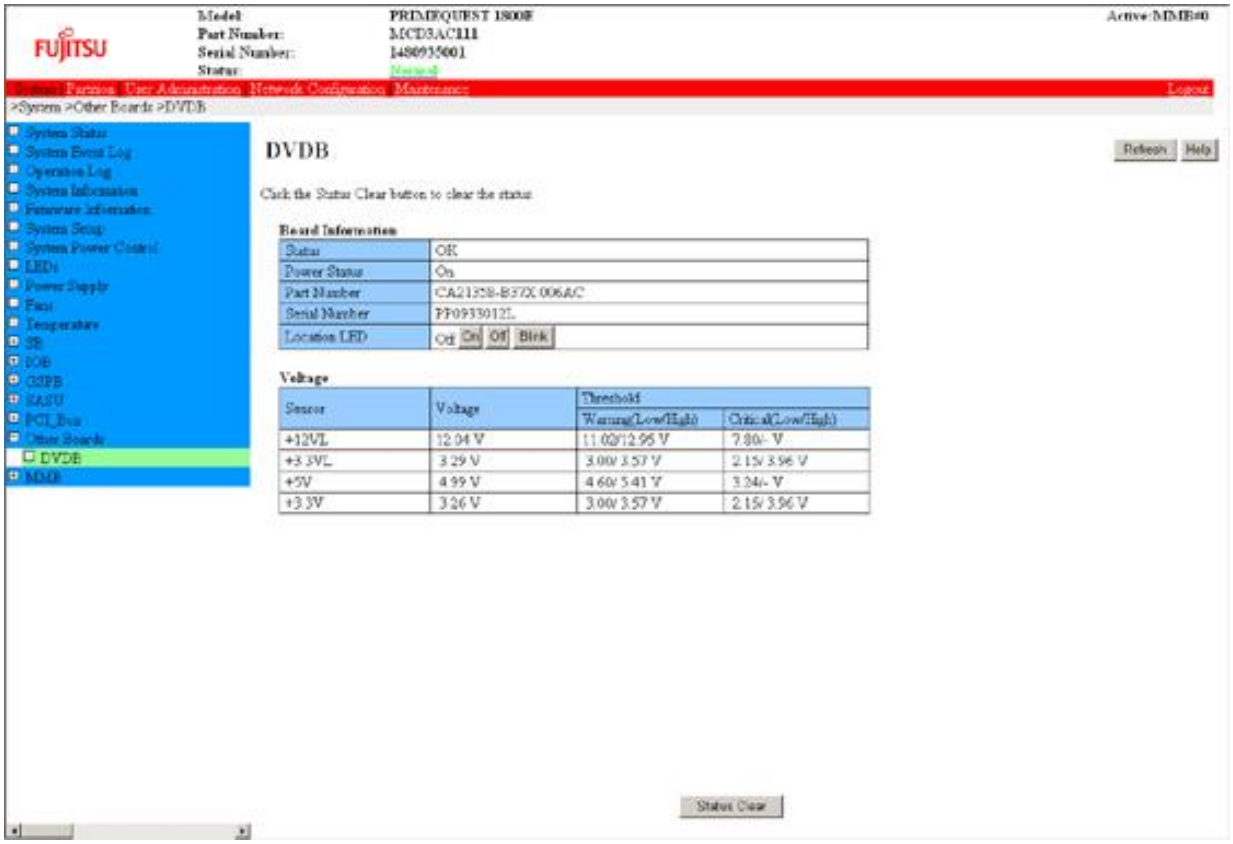


図 1.30 [DVDB] 画面

設定権限のないユーザーには、[Status Clear] ボタンおよび「Click the Status Clear button to clear the status.」のメッセージは表示されません。

表 1.52 [DVDB] 画面の表示項目

項目	内容
Status	DVDB の状態が表示される。 ・ OK ・ Not-present ・ Degraded ・ Failed
Power Status	DVDB の電源状態が表示される。 ・ On ・ Standby
Location LED	Location LED の表示状態を示す。 表示状態には、以下の 3 つがある。 ・ On：点灯中 ・ Off：消灯中 ・ Blink：点滅中 [On]、[Off]、[Blink] ボタンをクリックすることによって Location LED の点灯／消灯／点滅を制御できる。
Part Number	DVDB のパーツ番号を表示する。
Serial Number	DVDB のシリアル番号を表示する
Voltage	
+12VL	現在の電圧、および閾値を表示する。 ・ Warning (Low/High) ・ Critical (Low/High) 閾値が設定されていない場合は「－」を表示する。
+3.3VL	
+5V	
+3.3V	

表 1.53 [DVDB] 画面のボタン

ボタン	内容
Status Clear	DVDB のエラー状態をクリアする。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00029	Status Clear completed.
E_00123	Failed to clear the status.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

(1) メニュー操作

[System] - [Other Boards] - [DVDB]

(2) 画面操作

1. [Status Clear] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. DVDB のエラー状態をクリアする場合には [OK] ボタンを、クリアしない場合には [Cancel] ボタンをクリックします。

1.2.19 [MMB] メニュー

[MMB] メニューには、MMB のユニットごとにメニューがあります。

- [MMB#0] ～ [MMB#1]

画面と操作方法は各メニューとも同じなので、ここでは 1 つのメニューについて説明します。

■[MMB#x] 画面

[MMB#x] 画面では、MMB に関する情報の表示、および Location LED の設定ができます。

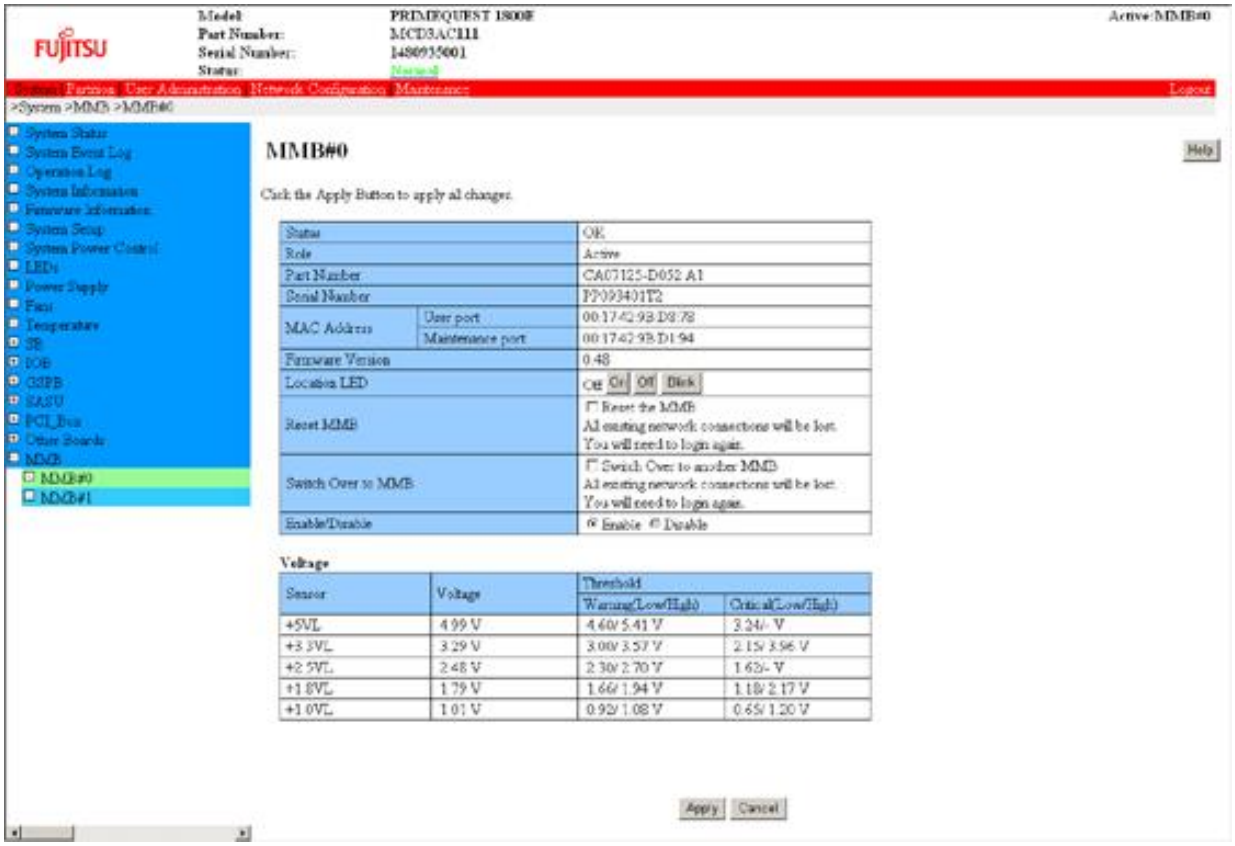


図 1.31 [MMB#x] 画面

表 1.54 [MMB#x] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Board Information	

項目		内容
Status		MMB の状態が表示される。 ・ OK ・ Not-present ・ Warning ・ Degraded ・ Failed
Role		MMB の動作状態が表示される。 ・ Active ・ Standby ・ Disabled
Part Number		MMB のパーツ番号が表示される。
Serial Number		MMB のシリアル番号が表示される。
MAC address	User port	MMB 管理ポートの MAC アドレスが表示される。 00:00:00:00:00:00
	Maintenance port	MMB ポートの MAC アドレスが表示される。 00:00:00:00:00:00
Firmware Version		MMB ファームウェアのバージョンが表示される。
Location LED		Location LED の表示状態を示す。 表示状態には、以下の 3 つがある。 ・ On：点灯中 ・ Off：消灯中 ・ Blink：点滅中 また、[On]、[Off]、[Blink] ボタンをクリックすることによって Location LED の点灯／消灯／点滅を制御できる。
Reset MMB		MMB をリセットする場合、本チェックボックスをオンにする。 本チェックボックスをオンにした場合、以下の [Switch Over to MMB] は設定できなくなる。
Switch Over to MMB		MMB の Active/Standby を切り替えるときに、本チェックボックスをオンにする。 本チェックボックスをオンにした場合、上記の [Reset MMB] は設定できなくなる。 **備考** MMB が 2 枚搭載されていない場合、本チェックボックスは表示されない。
Enable/Disable MMB		MMB の Enable/Disable を制御する。 MMB が後から PRIMEQUEST 1000 シリーズに搭載された場合、追加した MMB の状態は Disable 状態となる。すでに動作している MMB はアクティブ状態である。この追加した MMB を Standby 状態にする場合は、追加した MMB を [Enable] にする必要がある。
Voltage		

項目	内容
+5VL	現在の電圧、および閾値を表示する。 ・ Warning (Low/High) ・ Critical (Low/High) 閾値が設定されていない場合は「－」を表示する。
+3.3VL	
+2.5VL	
+1.8VL	
+1.0VL	

表 1.55 [MMB#x] 画面のボタン

ボタン	内容
On	[On] ボタンをクリックすると、Location LED が点灯される。
Off	[Off] ボタンをクリックすると、Location LED が消灯される。
Blink	[Blink] ボタンをクリックすると、Location LED が点滅する。
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、制御情報が設定される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、情報は設定されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[System] - [MMB] - [MMB#x]

(2) 画面操作
1. MMB の状態を変える情報を指定し、[Apply] ボタンをクリックします。
   MMB の状態を変更する情報が設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
I_00052	MMB switch processing has started.
I_00095	The standby MMB is rebooting now. Please wait several minutes.
E_00100	Failed to set the LED
E_00125	Failed to cancel request
I_00213	%aa cannot be executed because the system is under maintenance.
I_00467	The reboot is done. Login after a while.
W_00413	Nothing is selected.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.3 [Partition] メニュー

[Partition] メニューでは、PRIMEQUEST 1000 シリーズのパーティションの状態表示、設定ができます。

1.3.1 [Power Control] 画面

[Power Control] 画面では、パーティションの電源制御をします。
この画面では、SB または IOB、GSPB を持つパーティションのみ表示されます。
正確には、以下の条件のどれかを満たすパーティションが表示されます。

- 1SB 以上を含むパーティション、または
- 1LIOB または 1LGSPB のいずれかを含むパーティション

備考

Windows がインストールされているパーティションは、MMB Web-UI からシャットダウンを実行してもシャットダウンされない場合があります。電源を切断する場合は Windows のシャットダウン機能で切断してください。Windows のシャットダウンについて詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「9.6 リモートシャットダウン (Windows)」を参照してください。

図 1.32 [Power Control] 画面

- Partition Operator 権限の場合 (管理対象 Partition#0 の場合)
  管理対象のパーティションに対してのみ、操作可能です。
  管理対象でない場合は、プルダウンメニューと設定項目はグレーアウト表示されます。

図 1.33 [Power Control] 画面 (グレーアウト表示)

1. [Power Control] のプルダウンメニューからパーティションに対して行う処理を選択し、 [Apply] ボタンをクリックします。
   確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. 処理を実行する場合は [OK] ボタンをクリックします。
   キャンセルする場合は [Cancel] ボタンをクリックします。
   パーティションが Power On 中、または Power Off 中のため、指定した制御が失敗した場合は、警告ダイアログが表示されます。

パーティションの Power On を指示したときに、パーティション内の SB 間で搭載している CPU が不一致の場合は、警告ダイアログボックスが表示され、Power On 操作はエラーになります。

表 1.56 [Power Control] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。 ただし、SB、IOB または GSPB が登録されているパーティションのみ表示する。
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
Power Status	パーティションの電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
System Progress	パーティションの進行状況が表示される。 ・ Power Off：パーティションは電源が切断されている状態である。

項目	内容
	・ Power On In Progress：パーティション電源投入の進行中である。 ・ Reset：パーティションのリセット開始から OS ブートが完了するまでの状態である。 ・ OS Running：OS 稼動状態である。 ・ OS Shutdown：OS シャットダウン中である。 ・ Panic：パニック中である(RHEL のみ)。 ・ Power Off In Progress：パーティションの電源切断の進行中である。 ・ Fatal：停止中である。 ・ Initiate soft-shutdown：Web-UI からパーティションに電源オフを指示すると、[System Progress] の状態表示が [Initiate soft-shutdown] に変更され、強制電源オフのカウントダウンが開始される。 ・ Dumping：ダンプ出力中である。 ・ Halt：Halt 中である。 ・ Stop Error：ストップエラーである (Windows のみ)。 **備考** ・ パーティションに PSA (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) または SVmco (PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2) がインストールされていない場合、実際に OS が動作していても「OS Running」に表示が切り替わらない。 また、PSA (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) または SVmco (PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2) が指示する「OS Shutdown」、「Panic」、「Stop Error」についても PSA (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) または SVmco (PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2) がインストールされていない場合は表示されない。 ・ Linux の Panic 通知のみ、fefpcl が必要。 ・ Windows Sever 2003 の場合、「OS Shutdown」に表示が切り替わらないことがある。
Power Control	パーティションに対して指示する電源制御を選択する。 ただし、すでに電源オンの状態であるパーティションに対しては、[Power On] メニューは表示されない。逆にすでに電源オフの状態であるパーティションの場合は、[Power Off]、[Reset]、[NMI]、[Power Cycle] 、[Force Power Off]、[sadump] は表示されない。 ・ Power On：パーティションの電源をオンにする。 ・ Power Off：パーティションの電源をオフにする。 OS から見た場合、装置の電源ボタンがオフされた場合と同様に見える。そのため、OS が ACPI 対応していれば、OS をシャットダウンした後、電源を切断することも可能である。詳細は OS の電源仕様 (ACPI) を参照。 OS が ACPI 対応していない場合は、OS をシャットダウンせずに電源が切断される。 ・ Power Cycle：パーティションの電源を強制的にオフした後、再度電源をオンにする。

項目	内容
	・ Reset：パーティションをリセットする。 ・ NMI：パーティションに対して NMI 割込みをあげる。 ・ Force Power Off：強制的に電源をオフにする。 ・ sadump：パーティションに対して SADUMP を指示する。 ・ (Not specified)：このパーティションに対して何も指示しない。
Force Power Off Delay	[Power Off] でパーティション上の OS に対するシャットダウン指示がうまく動作せずに電源オフが実行されない場合に、強制電源断をするかどうかを指定する。強制電源断をする指定にした場合は、指定時間 (1 ～ 9 分) が設定可能となる。この指定時間が経過すると強制的にパーティションの電源を切断する。 デフォルトは、チェックボックスがオフ。
Boot Selector	BIOS の Boot Manager の設定を一時的に Override するブートデバイスを指定する。ブートするデバイスをプルダウンメニューから選択する。 ・ No Override：EFI Boot Manager の設定でブートする。 ・ Force boot into EFI Boot Manager：EFI Boot Manager で入力待ち状態となる。EFI Boot Manager でブートデバイスを選択してブートする。 ・ Force PXE：EFI Boot Manager の設定を Override し、強制的に PXE を試みる。 ・ Force boot from DVD：EFI Boot Manager の設定を Override し、強制的に System の DVD からブートを試みる。 デフォルトは No Override。 本設定は、設定直後の 1 回目のパーティションブート時のみに適用される。パーティションのブート後、本設定は自動的に「No Override」に戻る。そのため、パーティションのブートごとに設定する必要がある。定常的に設定する場合は、UEFI の Boot Manager で設定する。

表 1.57 [Power Control] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、電源制御項目の情報が設定される。 確認を促すダイアログボックスが表示されたら、設定内容を確認する。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、パーティションに対する電源制御項目の情報が設定されず元の状態に戻る。

備考

OS が ACPI に対応していれば、上記の電源オフ動作で OS をシャットダウンし、電源をオフにできます。ACPI に対応していない場合は、OS をシャットダウンせずに電源をオフにすることになります。また、OS が ACPI に対応していても OS で動作しているアプリケーションが対応していない場合は、電源をオフできない場合があります。これは OS、およびアプリケーションの仕様によるので、詳細については OS、またはアプリケーションのマニュアルを参照してください。

■「エラー表示」

ブート可能なパーティションが 1 つも構成されていない場合は、以下の画面が表示されます。

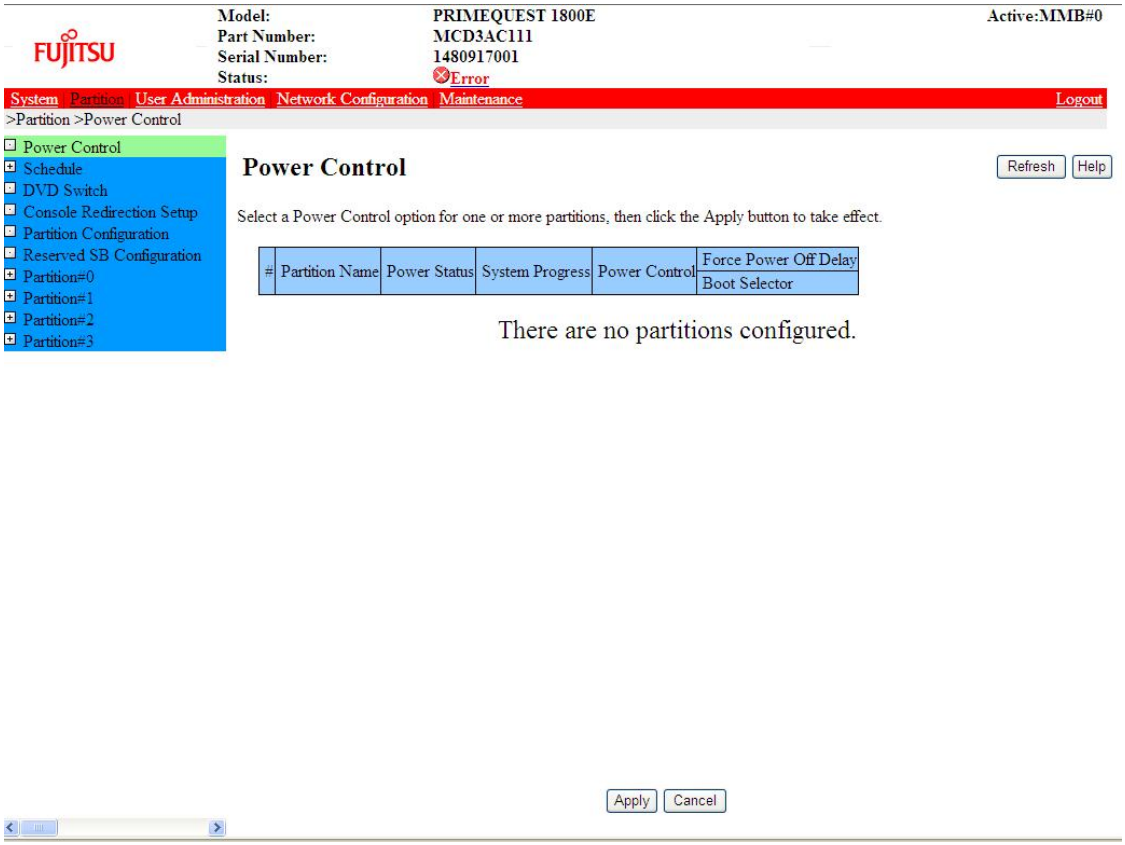


図 1.34 [Power Control] 画面のエラー表示

(1) メニュー操作

[Partition] - [Power Control]

(2) 画面操作

1. 各パーティションに対する電源制御項目を [Power Control] のプルダウンリストから選択し、[Apply] ボタンをクリックします。
   設定確認のためのダイアログボックスが表示されます。
2. 設定を実行する場合は [OK] ボタンをクリックします。

【メッセージ】

本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00075	Partition#%aa cannot execute sadump
E_00077	Partition#%aa cannot execute Power On.
E_00078	Partition#%aa cannot execute Power Off.
E_00079	Partition#%aa command failed.
E_00080	Partition#%aa cannot execute Power Cycle.
E_00081	Partition#%aa cannot execute Reset.
E_00082	Partition#%aa cannot execute NMI.

メッセージ番号	メッセージ文
E_00084	Partition#%aa cannot execute Force Power Off.
E_00091	Force Power Off Delay setting failed.
E_00101	Unable to power on the partition#%aa due to CPU mismatch between SBs.
I_00214	Unable to Power On the Partition#%aa because this Partition is under maintenance.
I_00222	Unable to %aa the Partition#%aa because this Partition is under maintenance.
E_00422	Unable to power on the partition#%aa due to CPU composition abnormal.
E_00154	Unable to power on due to mismatch between supply voltage and input voltage.
E_00482	Unable to power on the partition#%aa due to DIMM composition abnormal.
E_00491	Unable to power on the partition#%aa due to DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
W_00504	The Power On failed, because of switching the Home SB. Please execute it after a while again.
E_00517	Unable to power on the partition#%d due to abnormal SB composition.
E_00522	Unable to power on the partition#%d due to abnormal VRM composition.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.3.2 [Schedule] メニュー

[Schedule] メニューには、[Schedule Control]、[Schedule List] の画面があります。ここではこれらの画面と操作について説明します。

注意

以下のように、SEL に記録される時間は、スケジュール運転の予約時間より遅れる場合があります。

- 構成のチェックおよび起動の準備処理を行ったあと、パワーオンが開始するまで時間がかかることがあります。この場合、スケジュール運転の予約時間より、SEL 表示が 6 秒から 8 秒程度遅れます。
- MMB から OS へのシャットダウン指示は、設定時刻から数秒以内に実行されます。しかし、以下の時間が、設定および構成などさまざまな条件で変わることがあります。
  - MMB から OS に到達するまでの時間
  - OS がシャットダウンを開始し、MMB へシャットダウンの開始を SEL に通知するまでの時間
- [Power on Delay] を 0 秒にしても パワーオン実行開始からリセットまでに、30 秒から 70 秒程度かかることがあります。

■[Schedule Control] 画面

[Schedule Control] 画面では、各パーティションに対してスケジュールに関する設定ができます。

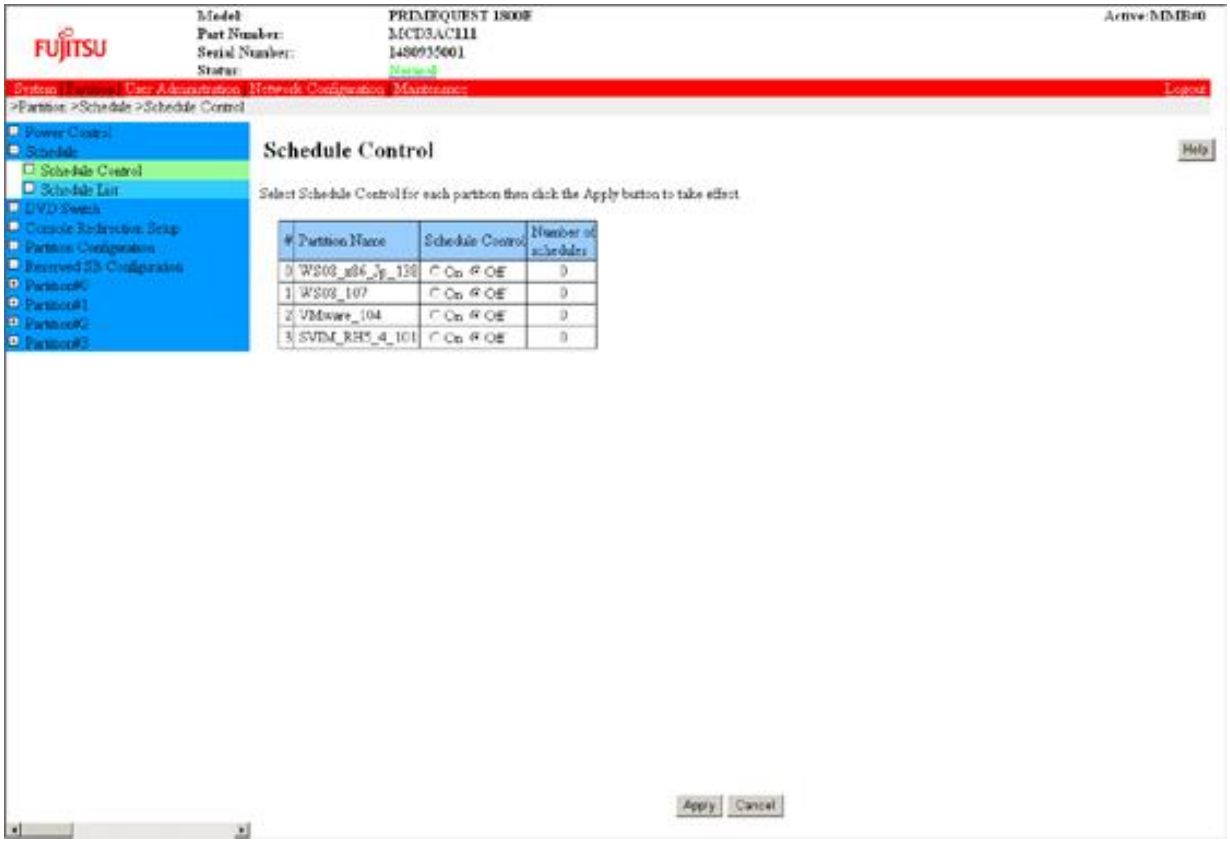


図 1.35 [Schedule Control] 画面

スケジュール実施時刻に対象パーティションの保守作業 (Hot Partition Maintenance、Warm System Maintenance、Cold System Maintenance のいずれか) が実施されていた場合には、スケジュールよるパーティションの電源操作はできません。

同一日にスケジュールが重複した場合、以下の優先順位に従って処理されます。
　Special > Monthly > Weekly > Daily
また、同時刻に Power On と Power Off の指定があった場合には、Power Off が優先されます。
Partition Operator の場合は、管理対象のパーティションのみ操作可能です。

表 1.58 [Schedule Control] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。 ただし、SB/IOB/GSPB が登録されているパーティションのみ表示する。
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
Schedule Control	各パーティションに対してスケジュール運転するかどうかを設定する。 ・ On ・ Off デフォルトは Off。
Number of schedules	設定されているスケジュールの数を表示する。

表 1.59 [Schedule Control] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、指定したパーティションに対するスケジュール運転の情報が設定される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、パーティションに対するスケジュール運転の情報は設定されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Schedule] - [Schedule Control]

(2) 画面操作
1. 各パーティションに対して、ラジオボタンでスケジュール運転をするかどうかを指定します。
2. [Apply] ボタンをクリックします。
   スケジュール運転の指定が適用されます。

■[Schedule List] 画面

[Schedule List] 画面では、各パーティションの電源オン／オフのスケジュールを 1000 件まで登録できます。

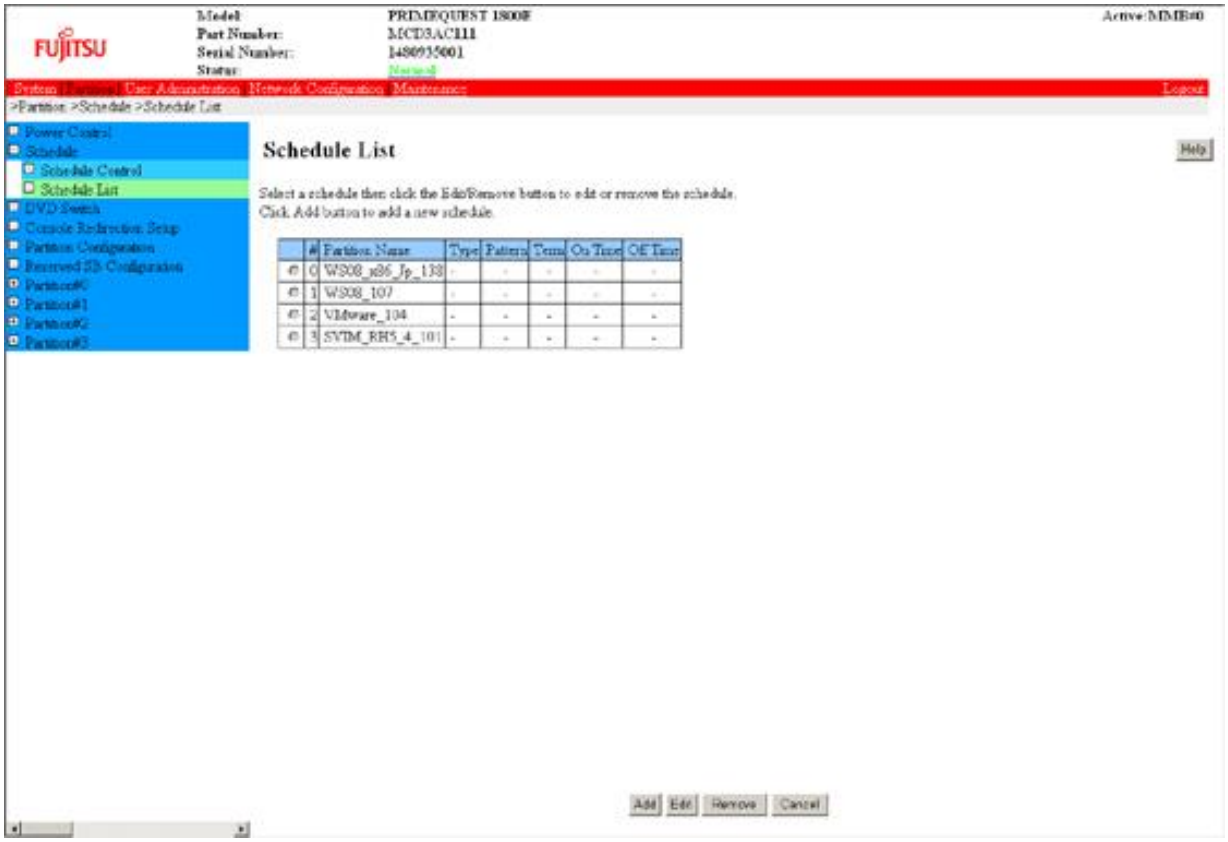


図 1.36 [Schedule List] 画面

スケジュールは、パーティション番号順に表示されます。
パーティション内は、期間の開始日の早い順に表示されます。
パーティションも開始月日も同一である場合は、スケジュールを登録した順に表示されます。

備考

Type が Weekly の場合は、開始日を「1 日」として扱います。

Partition Operator の場合は、管理対象のパーティションのみ操作可能です。

表 1.60 [Schedule List] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。 ただし、SB/IOB/GSPB が登録されているパーティションのみ表示する。
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
Type	パーティションに設定されているスケジュールの種類が表示される。 ・ Daily：毎日実行する場合に選択 ・ Weekly：毎週実行する場合に選択 ・ Monthly：毎月実行する場合に選択 ・ Special：毎年特定な日に実行する場合に選択 同一日にスケジュールが重複した場合、以下の優先順位に従って処理される。 Special > Monthly > Weekly > Daily
Pattern	スケジュールの種類に応じたスケジュールパターンが表示される。 ・ Weekly における曜日 (Sun ～ Sat) ・ Monthly における期間 ・ Special における指定月日
Term	スケジュールのタイプとパターンに応じたスケジュールの期間が表示される。 ・ Daily：開始月日と終了月日 ・ Weekly：開始月と終了月 ・ Monthly：開始月と終了月 デフォルトは以下のとおり。 ・ Daily：From：Jan / 1 To：Jan / 1 **備考** デフォルトのとおり設定した場合、1 月 1 日のみ実行される。 ・ Weekly：From：Jan To：Jan **備考** デフォルトのとおり設定した場合、1 月のみ実行される。 ・ Monthly：From：Jan To：Jan **備考** デフォルトのとおり設定した場合、1 月のみ実行される。
On Time	指定した実行日に電源オンの処理をする場合の時間を表示する。 時間は 24 時間表示。分は 00、10、20、30、40、50 の 10 分間隔で表示。
Off Time	指定した実行日に電源オフの処理をする場合時間を表示する。 時間は 24 時間指定。分は 00、10、20、30、40、50 の 10 分間隔で表示。

表 1.61 [Schedule List] 画面のボタン

ボタン	内容
Add	[Add]ボタンをクリックすると、[Add Schedule] 画面が表示され、スケジュールを追加できる。
Edit	[Edit] ボタンをクリックすると、[Edit Schedule] 画面が表示され、スケジュールを変更できる。
Remove	[Remove] ボタンをクリックすると、選択したスケジュールが削除される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、前の画面に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Schedule] - [Schedule List]

(2) 画面操作
- 新規にスケジュールを追加する場合
  1. [Add] ボタンをクリックします。
     [Add/Edit Schedule] 画面が表示されます。
  2. [Add/Edit Schedule] 画面で、新規スケジュールを追加します。

- スケジュールを変更する場合
  1. 既存スケジュールをラジオボタンで選択します。
  2. [Edit] ボタンをクリックします。
     [Add/Edit Schedule] 画面が表示されます。
  3. [Add/Edit Schedule] 画面で、既存スケジュールを変更します。

- スケジュールを削除する場合
  1. スケジュールをラジオボタンで選択します。
  2. [Remove] ボタンをクリックします。
     確認のダイアログボックスが表示されます。
  3. [OK] ボタンをクリックします。
     スケジュールが削除されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
E_00412	You need an empty entry.
W_00413	Nothing is selected.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Add Schedule] 画面／[Edit Schedule] 画面

[Add Schedule] 画面では、各パーティションの電源オン／オフのスケジュールの新規追加ができます。
[Edit Schedule] 画面では、既存スケジュールの変更ができます。
[Add Schedule] 画面と [Edit Schedule] 画面の画面項目は共通です。
ここでは、[Add Schedule] 画面を使って説明します。

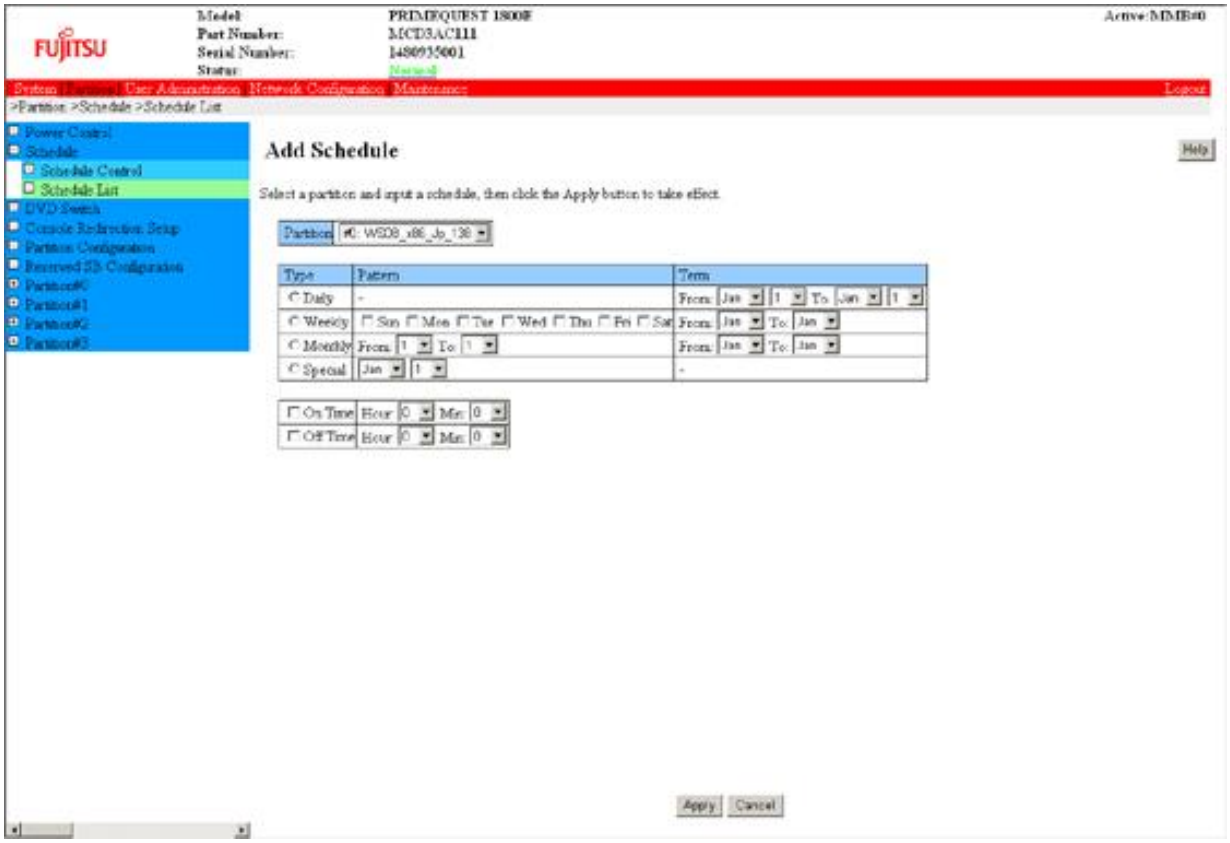


図 1.37 [Add Schedule] 画面

表 1.62 [Add Schedule] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Partition	スケジュールを追加、または編集するパーティションを選択する。 デフォルトは、定義されている最も小さい番号のパーティション。
Type	パーティションに設定するスケジュールの種類を選択する。 ・ Daily：毎日実行する場合に選択 ・ Weekly：毎週実行する場合に選択 ・ Monthly：毎月実行する場合に選択 ・ Special：毎年特定な日に実行する場合に選択 同一日にスケジュールが重複した場合、以下の優先順位に従って処理される。 Special > Monthly > Weekly > Daily デフォルトは未選択。
Pattern	スケジュールの種類に応じたスケジュールパターンを指定する。 ・ Weekly における曜日(Sun ～ Sat) ・ Monthly における期間

項目	内容
	・ Special における指定月日 デフォルトは以下のとおり。 ・ 曜日：未選択 ・ 期間：From：1　To：1 ・ 指定月日：Jan / 1
Term	スケジュールのタイプとパターンに応じたスケジュールの期間を指定する。 ・ Daily：開始月日と終了月日 ・ Weekly：開始月と終了月 ・ Monthly：開始月と終了月 デフォルトは以下のとおり。 ・ Daily：From：Jan / 1 To：Jan / 1 ・ Weekly：From：Jan To：Jan ・ Monthly：From：Jan To：Jan
On Time	指定した実行日に電源オンにするかどうかを設定する。電源オンにする場合は時刻を設定する。 時刻は 24 時間指定。分は 00、10、20、30、40、50 の 10 分間隔で指定。
Off Time	指定した実行日に電源オフにするかどうかを設定する。電源オフにする場合は時刻を設定する。 時刻は 24 時間指定。分は 00、10、20、30、40、50 の 10 分間隔で指定。

表 1.63 [Add Schedule] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、各項目に指定したスケジュール情報がパーティションに適用される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、各項目に指定したスケジュール情報は適用されず元に戻る。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
W_00414	Invalid Date Format
W_00415	The duplicate On/Off Time is found.
W_00416	Both On/Off Time are disabled.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.3.3 [DVD Switch] 画面

[DVD Switch] 画面では、DVD をどのパーティションに接続するかを設定できます。
この画面では、SB/IOB が割り当てられているパーティションだけが表示されます。

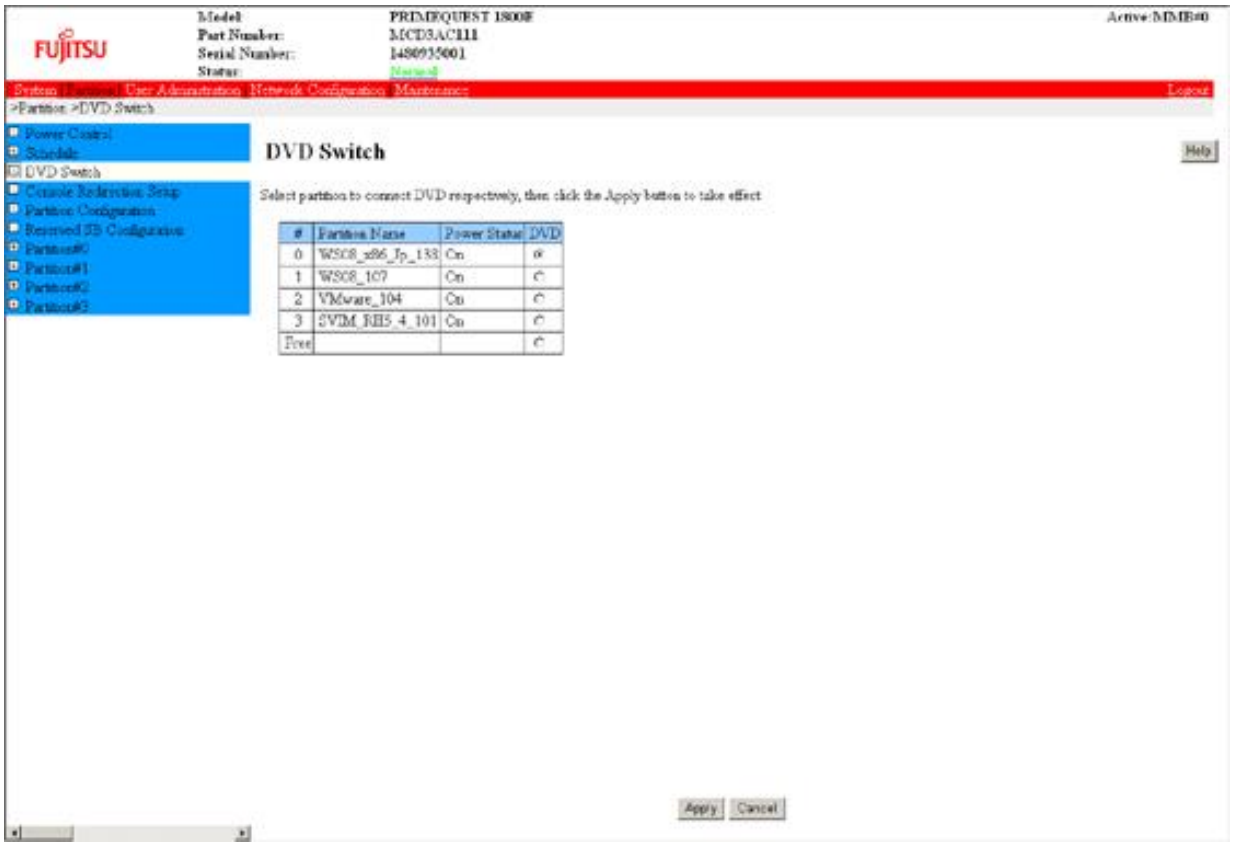


図 1.38 [DVD Switch] 画面

DVD に対して、接続するパーティションをラジオボタンで選択して [Apply] ボタンをクリックします。
Free 行のラジオボタンを選択することによって、どのパーティションにも接続しないように設定できます。

Partition Operator は、管理対象のパーティションへの DVD 割当てと解放のみが設定できます。管理外パーティションに割り当てられた DVD の変更と、管理外パーティションへの割当てはできません。
[DVD Switch] 画面のうち、管理対象パーティションと Free 行のラジオボタンが使用できます。管理外パーティションのラジオボタンはグレーアウト表示されます。
すでに管理外パーティションに DVD が割り当てられている場合は、メッセージが表示され、操作できません。

表 1.64 [DVD Switch] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。 ただし、SB/IOB/GSPB が登録されているパーティションのみ表示する。
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
Power Status	各パーティションの電源状態を表示する。

項目	内容
	・ On ・ Standby
DVD	内蔵 DVD を接続するパーティションをラジオボタンで選択する。 デフォルトは Free。

DVD が切り替えられたパーティション上の OS からは、それぞれ USB デバイスのケーブルが抜き差しされたときと同じように見えます。

[Hot System Maintenance] 以外の保守モードが設定されている場合は、以下のパターンで確認メッセージが表示されます。(本画面の操作は可能です。)

表 1.65 保守モード時の確認メッセージの表示・非表示

操作 From：から To：への割当て変更	Administrator	Operator	User	CE	Partition Operator	保守者 (Administrator)	保守者 (CE)
From：保守対象パーティション To：保守対象パーティション	表示	表示	N/A	表示	表示 (*)	非表示	非表示
From：保守対象外パーティション To：保守対象パーティション	表示	表示	N/A	表示	表示 (*)	表示	表示
From：保守対象パーティション To：保守対象外パーティション	表示	表示	N/A	表示	表示 (*)	表示	表示
From：保守対象外パーティション To：保守対象外パーティション	非表示	非表示	N/A	非表示	非表示 (*)	非表示	表示
From：保守対象パーティション To：Free	表示	表示	N/A	表示	表示 (*)	非表示	非表示
From：保守対象外パーティション To：Free	非表示	非表示	N/A	非表示	非表示 (*)	非表示	表示
From：Free To：保守対象パーティション	非表示	非表示	N/A	非表示	非表示 (*)	非表示	非表示
From：Free To：保守対象外パーティション	非表示	非表示	N/A	非表示	非表示 (*)	非表示	非表示

表示：確認メッセージを表示する。
非表示：確認メッセージは表示しない。
N/A：画面を表示しない
*：管理対象外パーティションが操作対象に含まれる場合は、このパターンに限らずメッセージが表示されます。

表 1.66 [DVD Switch] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	DVD の接続を設定する。
Cancel	接続は設定されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [DVD Switch]

(2) 画面操作
1. DVD を接続するパーティションをラジオボタンで選択し、 [Apply] ボタンをクリックします。
   接続が設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
I_00215	There is a possibility that other users are using this %aa. Are you sure?
W_00418	Unable to change the Partition#x's DVD connection because the DVD connection is already assigned to Partition#x.
E_00528	Unable to select the partition because of DVDB voltage abnormal.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.3.4 [Partition Configuration] 画面

[Partition Configuration] 画面では、パーティションを構成する SB、IOB、GSPB の設定ができます。

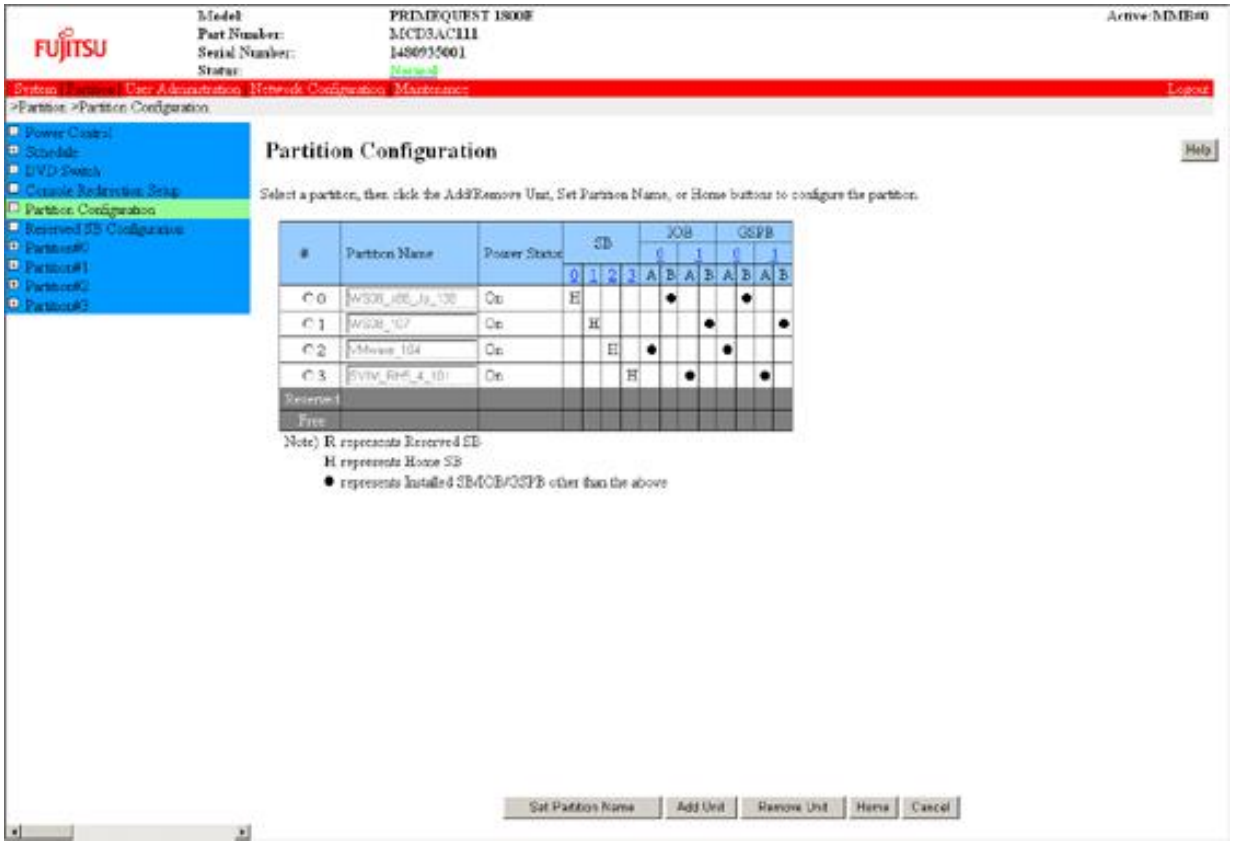


図 1.39 [Partition Configuration] 画面

PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は、IOB、GSPB の最大搭載数が 1 のため、IOB や GSPB の番号表示はされません。

搭載されていない SB、IOB、GSPB の列は、背景色が灰色で表示されます。
設定するパーティションを左側のラジオボタンで選択し、設定する処理に対応するボタンを [Add Unit]、[Remove Unit]、[Home] から選びます。
SB/IOB/GSPB のリンクをクリックすると、それぞれ [SB#x] 画面、[IOB#x] 画面、[GSPB#x] 画面が表示されます。

保守モード (Hot Partition Maintenance、Warm System Maintenance または Cold System Maintenance) が設定されている場合、保守モードを設定したユーザー (保守者、Administrator 権限) 自身だけが操作可能です。保守対象外のパーティションを選択すると、メッセージが表示され操作ができません。

表 1.67 [Partition Configuration] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。 パーティションに属さない SB/IOB/GSPB は、以下のように表示される。 ・ Reserved：Reserved SB ・ Free：Free SB/IOB/GSPB
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示、設定する。 名前は 16 文字まで入力可能。

項目	内容
	Partition Name には英数字、半角スペース、# (シャープ)、_ (アンダーライン)、- (ハイフン) を使用できる。 デフォルトは設定なし。
Power Status	パーティションの電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
SB	SB がどのパーティションに属しているかを表示する。
IOB	IOB がどのパーティションに属しているかを表示する。 左側が LIOB の A 側、右側が LIOB の B 側を示す。
GSPB	GSPB がどのパーティションに属しているかを表示する。 左側が LGSPB の A 側、右側が LGSPB の B 側を示す。

表 1.68 [Partition Configuration] 画面のボタン

ボタン	内容
Set Partition Name	パーティションに名前を設定する。
Add Unit	ユニットを組み込むための [Add Unit] 画面を表示する。
Remove Unit	ユニットを削除するための [Remove Unit] 画面を表示する。
Home	パーティションの Home 設定をするための [Partition Home] 画面を表示する。
Cancel	情報は設定されず、元の状態に戻る。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00217	Unable to set Partition Name of Partition#%aa because this partition is under maintenance.
I_00218	Unable to add SB/IOB/GSPB to Partition#%aa because this partition is under maintenance.
I_00219	Unable to remove SB/IOB/GSPB from Partition#%aa because this partition is under maintenance.
I_00220	Unable to set Home on Partition#%aa because this partition is under maintenance.
I_00427	Select a partition.
W_00428	Only the alphanumeric character can be input to Partition Name area.
I_00429	The partition is not defined.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

[Partition Configuration] 画面での操作方法を以下に説明します。

■[Set Partition Name] ボタン

[Partition Name] の各セルにパーティション名を入力して、[Set Partition Name] ボタンをクリックすると、各パーティションに対する名前が設定されます。

■[Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面

[Partition Configuration] 画面のラジオボタンでパーティションを選択して [Add Unit] ボタンをクリックすると、[Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面が表示されます。現在 Free 状態である SB、IOB、GSPB を選択し、指定されたパーティションに組み込めます。

PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は、IOB、GSPB の最大搭載数は 1 個です。そのため、「IOB#0A」、「GSPB#0B」のような番号表示はされず、「IOB-A」、「GSPB-B」のように表示されます。

図 1.40 [Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面

備考

1800E2/1800L2/1800E/1800L の場合、搭載 CPU 数が 1 個の SB は、2SB 以上のパーティションに組み込まれないようにチェックされます。

- 1SB で 1 パーティションを構成する場合に限り、1SB あたり 1CPU の搭載を許可する。
- 複数 SB で 1 つのパーティションを構成する場合は、1SB あたり 2CPU の搭載が必須となる。

保守モード (Hot Partition Maintenance、Warm System Maintenance、または Cold System Maintenance) が設定されている場合、保守モードを設定したユーザー (保守者、または Administrator 権限) 自身だけが操作可能です。
保守対象外のパーティションの場合は、メッセージが表示され、操作できません。

表 1.69 [Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Free SB/IOB/GSPB	フリーの状態 (どのパーティションにも属していない状態) の SB/IOB/GSPB を表示する。 パーティションに組み込む SB/IOB/GSPB をラジオボタンで選択する (同時に複数選択はできない)。
Status	SB/IOB/GSPB の状態を表示する。
Number of CPUs	SB に搭載されている CPU の数を表示する。
Memory	SB に搭載されているメモリ量を表示する。
Number of PCI-Express slots	IOB の PCI-Express スロット数を表示する。

(1)メニュー操作
[Partition] - [Partition Configuration] - [Add Unit] ボタン

(2) 画面操作
1. パーティションに組み込みたい SB、IOB または GSPB を選択し、[Apply] ボタンをクリックします。
   確認のダイアログボックスが表示されます。
2. [OK] ボタンをクリックします。
   SB、IOB または GSPB が組み込まれます。
3. [Apply] または [Cancel] ボタンをクリックします。
   [Partition Configuration] 画面に戻ります。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00045	Free node doesn't exist.
E_00110	Failed to add the SB、IOB or GSPB to the partition.
E_00112	Unable to add the specified SB#%aa to the partition due to CPU mismatch between SBs.
E_00424	Unable to add the specified SB to the partition due to CPU composition abnormal.
E_00425	Unable to add the specified SB to the partition due to DIMM composition abnormal.
E_00490	Unable to add the specified SB to the partition due to DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
W_00505	Unable to set configuration because the power on/off is processing. Please execute it after a while again.
E_00519	Unable to add the specified SB to the partition due to SB composition abnormal.
E_00524	Unable to add the specified SB to the partition due to VRM composition abnormal.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。
複数のエラーが検出された場合には、ダイアログボックス内に複数のエラーが表示されます。

■[Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面

[Partition Configuration] 画面のラジオボタンでパーティションを選択し、[Remove] ボタンをクリックすると [Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面が表示されます。指定されたパーティションから SB、IOB、GSPB を選択し、取り外せます。

PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合は、IOB、GSPB の最大搭載数は 1 個です。そのため、「IOB#0A」、「GSPB#0B」のように番号表示はされず、「IOB-A」、「GSPB-B」のように表示されます。

図 1.41 [Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面

保守モード (Hot Partition Maintenance、Warm System Maintenance、または Cold System Maintenance) が設定されている場合、保守モードを設定したユーザー (保守者、Administrator 権限) 自身だけが操作可能です。
保守対象外のパーティションの場合は、メッセージが表示され、操作できません。

表 1.70 [Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面の表示・設定項目

項目	内容
SB/IOB/GSPB	パーティションに属している SB/IOB/GSPB を表示する。 パーティションから取り外す SB/IOB/GSPB をラジオボタンで選択する (同時に複数選択はできない)。

項目	内容
Status	SB/IOB/GSPB の状態を表示する。
Note	(SB の場合) ・ Number of CPUs： SB に搭載されている CPU の数を表示する。 ・ Memory：SB に搭載されているメモリ量を表示する。 **備考** SB を抜き挿しした直後、「unknown」と表示される場合がある。この場合は、10 秒程度待ってから画面をリロードしてする。 (IOB の場合) ・ Number of PCI-Express slots：IOB の PCI-Express スロット数を表示する。

(1)メニュー操作
[Partition] - [Partition Configuration] - [Remove Unit] ボタン

(2) 画面操作
1. パーティションから取り外したい SB、IOB または GSPB を選択し、[Apply] ボタンをクリックします。
   確認のダイアログボックスが表示されます。
2. [OK] ボタンをクリックします。
   SB、IOB または GSPB が取り外されます。
3. [Apply] または [Cancel] ボタンをクリックします。
   [Partition Configuration] 画面に戻ります。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00022	The partition doesn't have a node.
E_00111	Failed to remove the SB, IOB or GSPB from the partition.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Partition Home] 画面

[Partition Configuration] 画面のラジオボタンでパーティションを選択して [Home] ボタンをクリックすると、[Partition Home] 画面が表示されます。

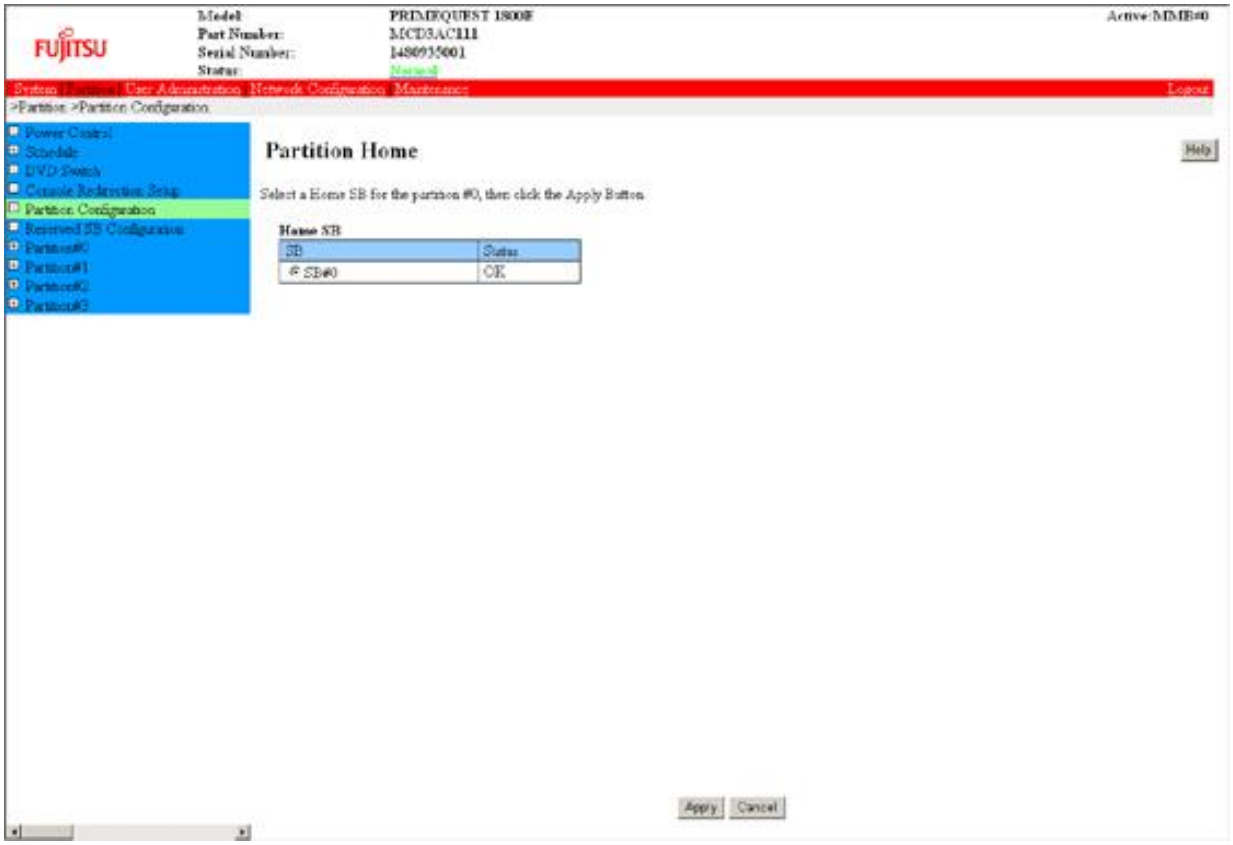


図 1.42 [Partition Home] 画面

1. Home SB にする SB をラジオボタンで選択します。
   Home 設定されている SB に限り、未実装の場合、背景色が灰色で表示されます。灰色で表示されている行のラジオボタンから灰色で表示されていない行のラジオボタンへの変更は可能ですが、いったん灰色で表示の行から選択が外れると、再度元のラジオボタンは選択できません。
   Home SB 未設定時は、デフォルトとしてパーティションに最初に組み込まれた SB が Home となります。ただし、Home SB が Remove されたり縮退した場合には、最も小さい番号の SB が Home SB になります。
2. [Apply] ボタンをクリックします。
   確認ダイアログボックスが表示されます。
3. 処理を継続する場合は [OK] ボタンをクリックします。
   キャンセルする場合は [Cancel] ボタンをクリックします。
4. [Apply] または [Cancel] ボタンをクリックします。
   [Partition Configuration] 画面に戻ります。
   [Apply] ボタンをクリックしたときに対象パーティションの電源がオンの場合は、[Home] の変更はできません。警告ダイアログボックスが表示されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00022	The partition doesn't have a node.
W_00423	The partition home cannot be changed while the partition is running. Please try to change the partition home after the partition is shutdown.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.3.5 [Reserved SB Configuration] 画面

[Reserved SB Configuration] 画面では、Free 状態またはパーティションの Reserved SB として定義されている SB に対して、どのパーティションの Reserved SB とするかを定義できます。
Reserved SB とは、パーティションに組み込まれている SB 内にハードウェア故障が発生してその SB を切り離した場合、切り離した SB の代わりに新たにパーティションに組み込まれる SB です。
搭載されていない SB は背景色が灰色で表示されます。

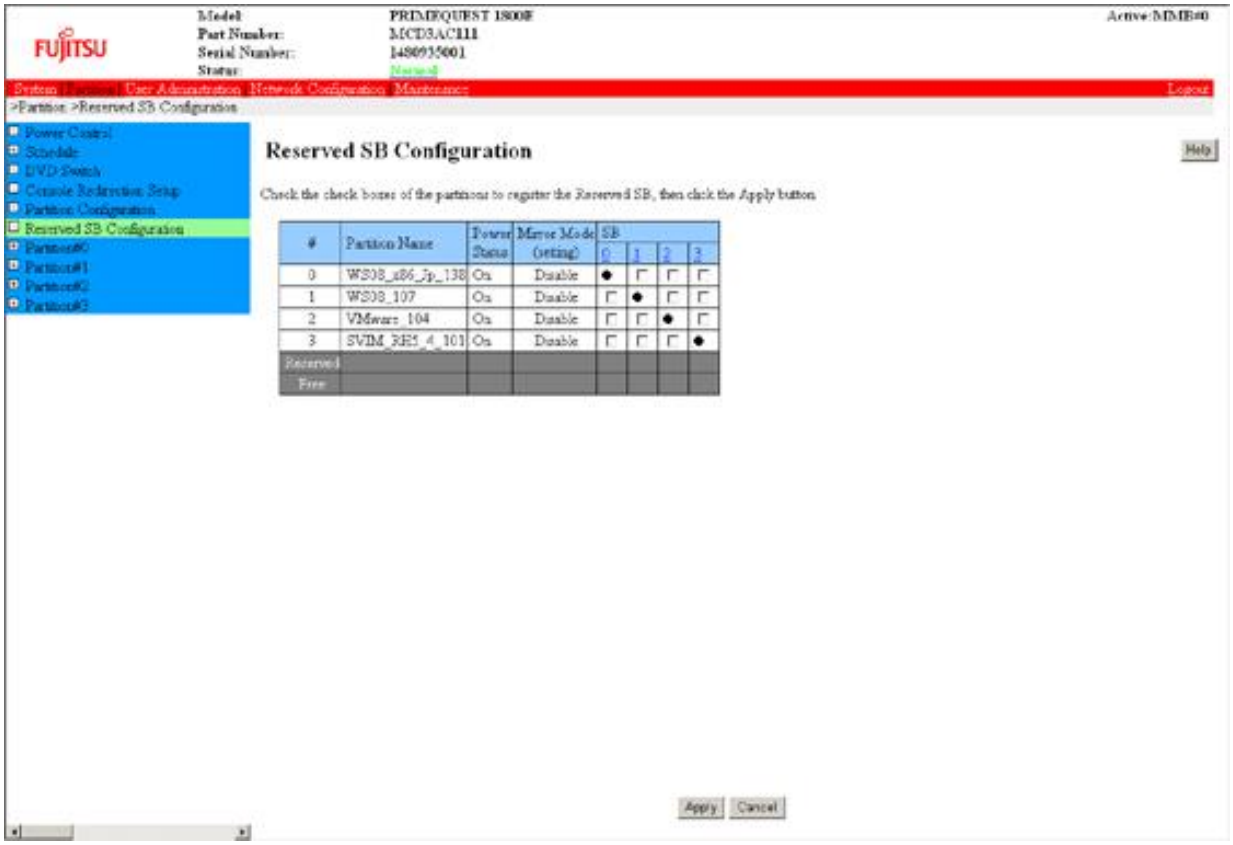


図 1.43 [Reserved SB Configuration] 画面

1800E2/1800L2/1800E/1800L の場合は、Reserved SB に設定するさい、指定したパーティションに組み込まれている SB の CPU 数を参照して、以下の搭載条件を確認します。

- 1SB で 1 パーティションを構成する場合に限り、1SB あたり 1CPU の搭載を許可する。
- 複数 SB で 1 つのパーティションを構成する場合は、1SB あたり 2CPU の搭載が必須。

搭載条件を満たさない場合はメッセージが表示され、Reserved SB 設定はできません。

Mirror Mode の要件を満たさない DIMM 構成の SB を、Mirror Mode に設定されているパーティションの Reserved SB に設定しようとした場合、確認のダイアログボックスが表示されます。確認のダイアログボックスには、Reserved SB に切り替わったときに Mirror Mode が解除される旨の警告メッセージが表示され、Reserved SB の設定を続けるかどうか確認されます。
1 つのパーティションに複数の Reserved SB が登録されている場合は、SB 番号の小さい順に Reserved SB として機能します。

表 1.71 [Reserved SB Configuration] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 〜 3)。 ・ Reserved：Reserved SB ・ Free：Free SB
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
Power Status	パーティションの電源状態が表示される。 ・ On ・ Standby
Mirror Mode(setting)	パーティションに対する Mirror Mode の設定値を表示する。 ・ Enable：Mirror Mode が設定されている ・ Disable：Mirror Mode が設定されていない
SB	SB がどのパーティションに属しているかが表示される。 Reserved SB または Free SB に対応するセルには、対応する行のパーティションにその SB を Reserved SB として登録するためのチェックボックスが表示される。

表 1.72 [Reserved SB Configuration] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると Reserved SB として定義される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、Reserved SB として定義されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Reserved SB Configuration]

(2) 画面操作
1. Reserved SB の対象とするパーティションのチェックボックスをオンにします。
2. [Apply] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00098	Failed to get the Replacement Condition
E_00100	Failed to set the Replacement Condition
E_00113	Unable to register the specified SB#%aa as a Reserved SB due to CPU mismatch between SBs.
E_00114	The specified SB#%aa cannot be registered as a Reserved SB.

メッセージ番号	メッセージ文
I_00223	Unable to change the specified SB(s) because the partition including the specified SB(s) is under maintenance.
E_00419	Unable to register the specified SB#%s as a Reserved SB due to unsupported CPU configuration.
E_00420	Unable to register the specified SB#%s as a Reserved SB because the DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
E_00421	No change.
E_00460	Unable to set the specified SB to the partition due to CPU composition abnormal.
W_00481	Unable to register the specified SB#%s as a Reserved SB due to the home SB is TPM enabled.
W_00492	Unable to register the specified SB#%d as a Reserved SB due to Partition is Fixed I/O Mode.
W_00493	Unable to register the specified SB#%d as a Reserved SB due to abnormal DIMM composition.
I_00494	The DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode. If you register the specified SB%s as a Reserved SB, Mirror Mode will be disabled when switching to specified SB. Are you sure to continue?
W_00505	Unable to set configuration because the power on/off is processing. Please execute it after a while again.
W_00520	Unable to register the specified SB#%d as a Reserved SB due to abnormal SB composition.
W_00525	Unable to register the specified SB#%d as a Reserved SB due to abnormal VRM composition.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。
複数のエラーが検出された場合には、ダイアログボックス内に複数のエラーが表示されます。

1.3.6 [Console Redirection Setup] 画面

[Console Redirection Setup] のメニューには、以下の画面があります。

■[IPv4 Console Redirection Setup] 画面
■[IPv6 Console Redirection Setup] 画面

■[IPv4 Console Redirection Setup] 画面

[IPv4 Console Redirection Setup] 画面では、IPv4 用の Console Redirection Setup へアクセスするための IP アドレスの設定、サブネットマスクの設定、ビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクション の有効／無効の設定をします。

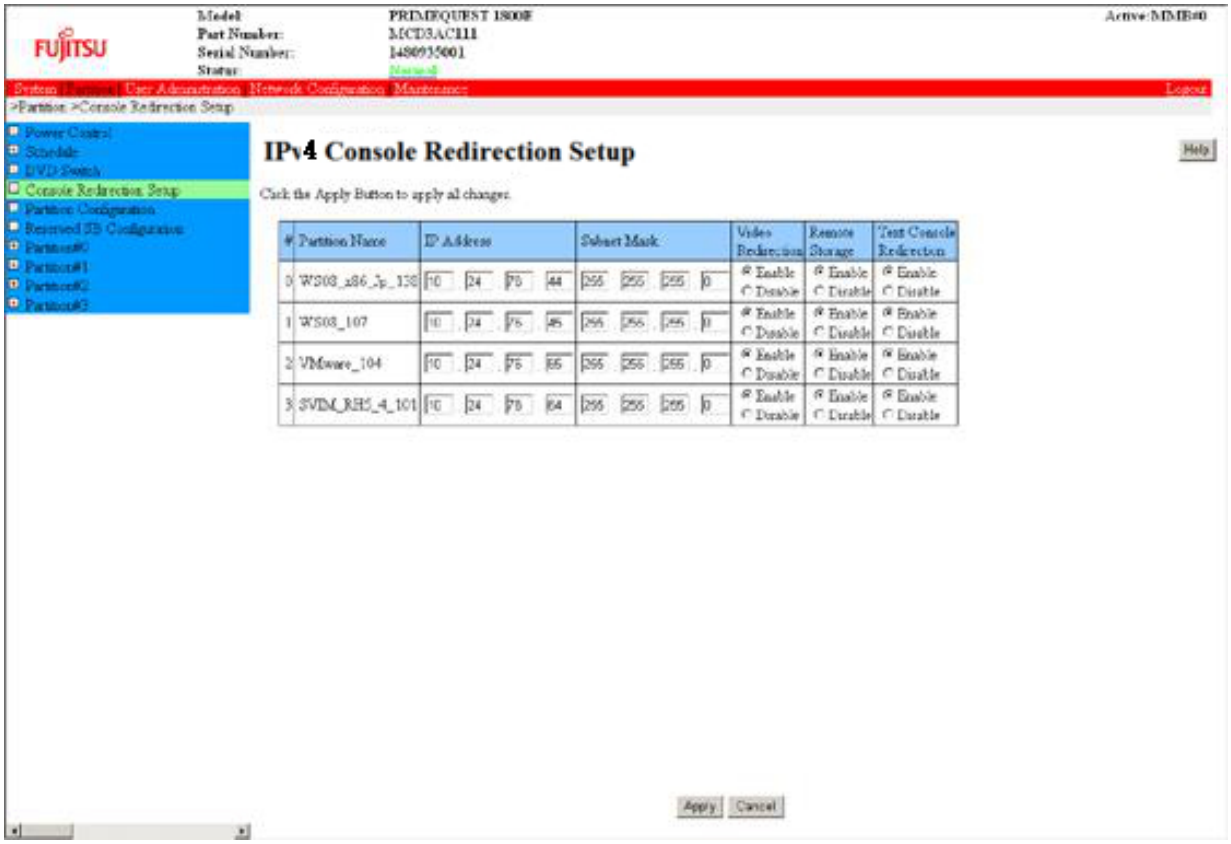


図 1.44 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面

表 1.73 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
IP Address	接続を許可するパーティション側の IP アドレスを入力する。MMB の Web-UI にアクセスするために使用する仮想 IP アドレス (「1.5.2 [Network Interface] 画面」参照) と同一セグメントで、異なる IP アドレスを指定する。 デフォルトは 0.0.0.0。
Subnet Mask	接続を許可する IP アドレスのサブネットマスクを入力する。 デフォルトは、255.255.255.255。
Video Redirection	ビデオリダイレクションが使用可能かどうかを設定する。 ・ Enable：ビデオリダイレクション を使用可能にする。 ・ Disable：ビデオリダイレクション を使用不可にする。 デフォルトは Disable。
Remote Storage	リモートストレージが使用可能かどうかを設定する。 ・ Enable：リモートストレージを使用可能にする。 ・ Disable：リモートストレージを使用不可にする。 デフォルトは Disable。

項目	内容
Text Console Redirection	テキストコンソールリダイレクションが使用可能かどうかを設定する。 ・ Enable：テキストコンソールリダイレクションを使用可能にする。 ・ Disable：テキストコンソールリダイレクションを使用不可にする。 デフォルトは Disable。

表 1.74 [IPv4 Console Redirection Setup] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると指定したパーティションのビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクションの設定が適用される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、ビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクションの設定は適用されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Console Redirection Setup] - [IPv4 Console Redirection Setup]

(2) 画面操作
1. IP アドレス、サブネットマスクを入力し、ビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクションを使用するかどうかを設定します。
2. [Apply] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
W_00432	Invalid IP Address specified.
W_00433	The duplicate IP address was found.
I_00417	Are you sure?

■[IPv6 Console Redirection Setup] 画面

[IPv6 Console Redirection Setup] 画面では、IPv6 用の Console Redirection LAN へアクセスするための IP アドレスの設定、プレフィックス長の設定、ビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクションの有効／無効の設定をします。
自動設定する場合は [Auto] ボタンをクリックし、IP アドレス、プレフィックス長を自動取得します。

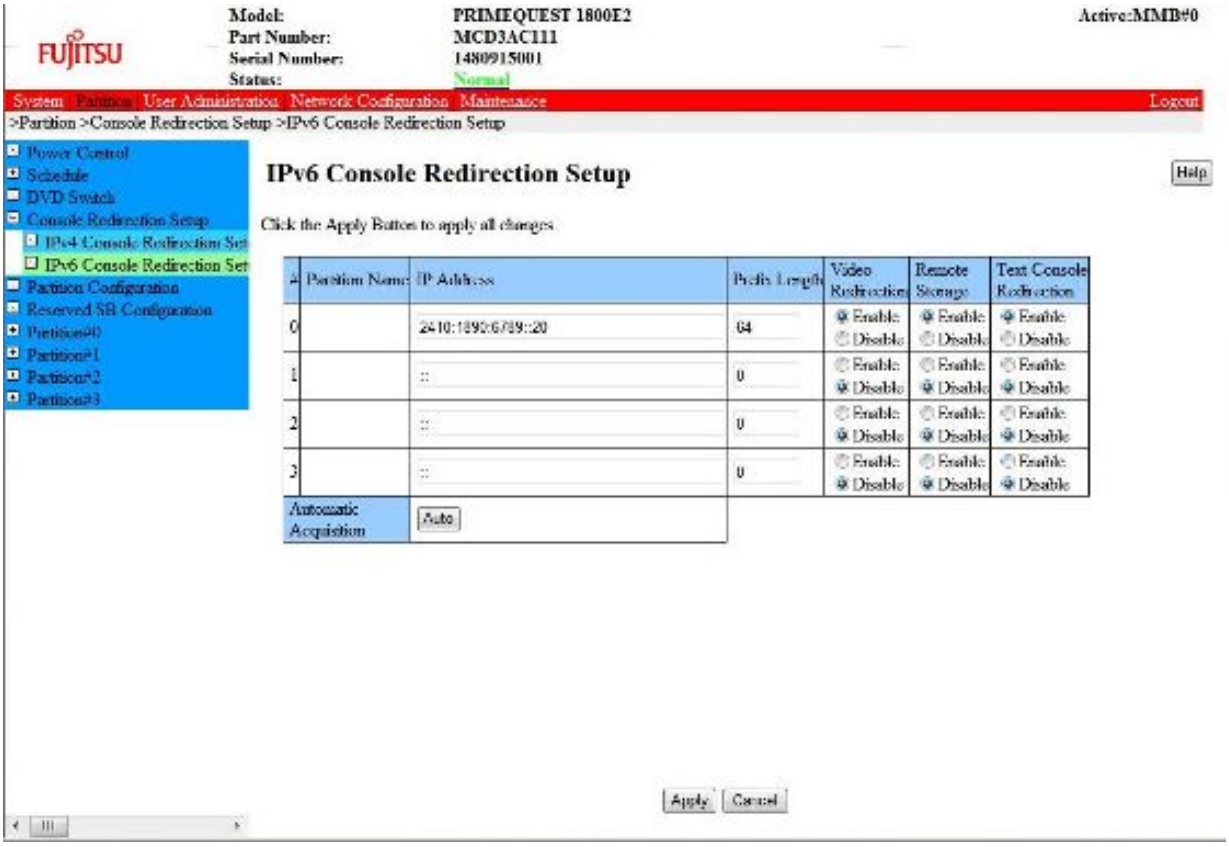


図 1.45 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面

表 1.75 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面の表示・設定項目

項目	内容
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
IP Address	接続を許可する IPv6 用のグローバルアドレスを入力する。 自動取得した場合は、取得された IP アドレスが表示される。
Prefix Length	IPv6 用のプレフィックス長を入力する。 自動取得した場合は、取得されたプレフィックス長が表示される。
Video Redirection	ビデオリダイレクションが使用可能かどうかを設定する。 ・ Enable：ビデオリダイレクション を使用可能にする。 ・ Disable：ビデオリダイレクション を使用不可にする。 デフォルトは Disable。
Remote Storage	リモートストレージが使用可能かどうかを設定する。 ・ Enable：リモートストレージを使用可能にする。 ・ Disable：リモートストレージを使用不可にする。 デフォルトは Disable。
Text Console Redirection	テキストコンソールリダイレクションが使用可能かどうかを設定する。 ・ Enable：テキストコンソールリダイレクションを使用可能にする。 ・ Disable：テキストコンソールリダイレクションを使用不可にする。

項目	内容
	デフォルトは Disable。
Automatic Acquisition	IPv6 アドレスの自動取得を行う場合、[Auto] ボタンをクリックする。IP アドレスおよびプレフィックス長が自動取得され、上書きされる。

表 1.76 [IPv6 Console Redirection Setup] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると指定したパーティションのビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクションの設定が適用される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、ビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクションの設定は適用されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Console Redirection Setup] - [IPv6 Console Redirection Setup]

(2) 画面操作
1. IP アドレス、プレフィックス長を入力し、ビデオリダイレクション、リモートストレージ、テキストコンソールリダイレクションを使用するかどうかを設定します。
2. [Apply] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
W_00432	Invalid IP Address specified.
W_00433	The duplicate IP address was found.
I_00417	Are you sure?

1.3.7 [Partition#x] メニュー

[Partition#x] メニューには、パーティションに対する以下の設定・表示ができます。
- ステータス表示
- ASR 条件設定
- 各種モード

■[Information] 画面

[Information] 画面には、パーティションのステータス、およびパーティションに関する各種情報が表示されます。

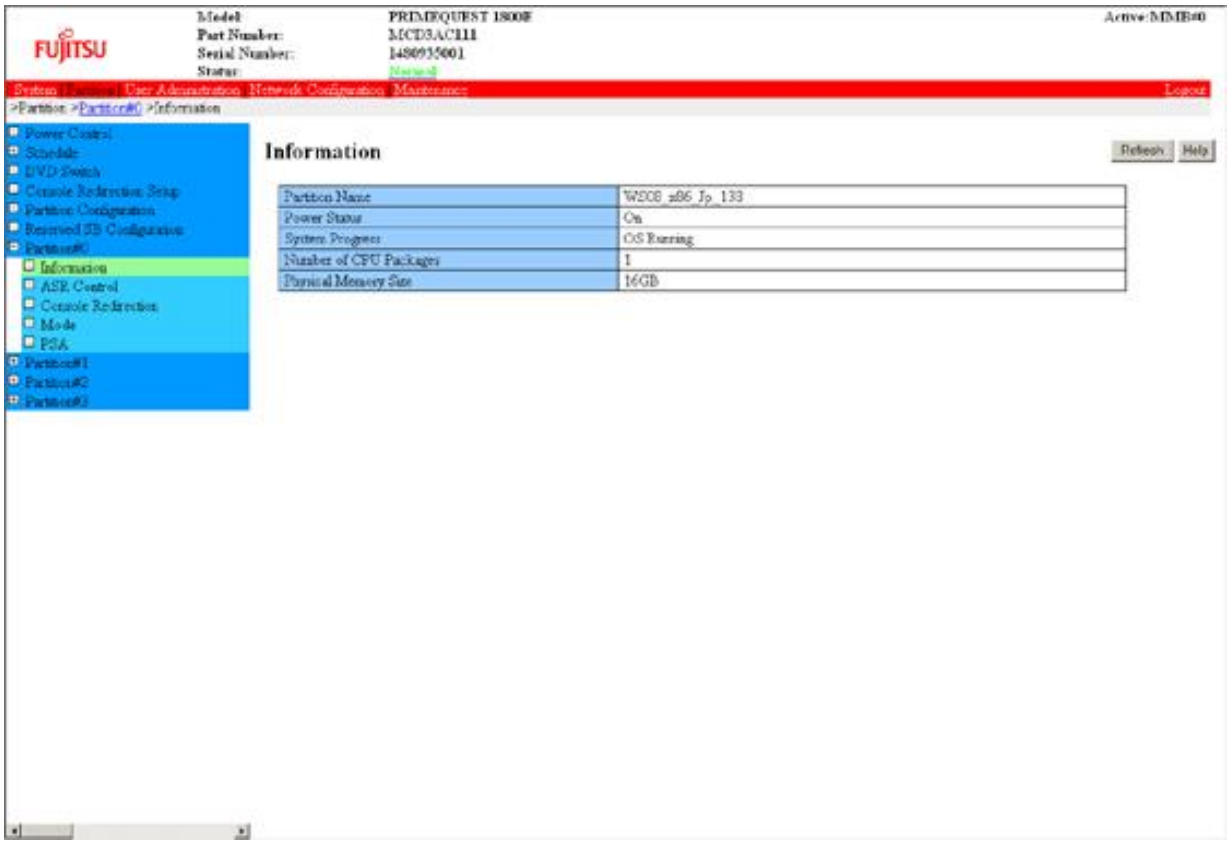


図 1.46 [Information] 画面

表 1.77 [Information] 画面の表示項目

項目	内容
Partition Name	パーティションの名前を表示する。
Power Status	パーティションの電源状態を表示する。 ・ On ・ Standby
System Progress	パーティションの進行状況を表示する。 ・ Power Off：パーティションは電源が切断されている状態である。 ・ Power On In Progress：パーティション電源投入の進行中である。 ・ Reset：パーティションのリセット中である。 ・ OS Running：OS 稼動状態である。 ・ OS Shutdown：OS シャットダウン中である。 ・ Panic：パニック中である (RHEL のみ)。 ・ Power Off In Progress：パーティションの電源切断の進行中である。 ・ Fatal：停止中である。 ・ Dumping：ダンプ出力中である。 ・ Halt：Halt 中である。 ・ Stop Error：ストップエラーである。 **備考**

項目	内容
	・ パーティションに PSA (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) または SVmco (PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2) がインストールされていない場合、実際に OS が動作していても「OS Running」に表示が切り替わらない。 また、PSA (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) または SVmco (PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2) が指示する「OS Shutdown」、「Panic」、「Stop Error」についても PSA (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) または SVmco (PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2) がインストールされていない場合は表示されない。 ・ Linux の Panic 通知のみ、fefpcl が必要。 ・ Windows Sever 2003 の場合、「OS Shutdown」に表示が切り替わらないことがある。
Number of CPU Packages	パーティションに含まれる CPU パッケージ (コア) 数を表示する。 **備考** 縮退している CPU は数に含まない。
Physical Memory Size	パーティションに含まれる物理メモリ量を表示する。 **備考** 表示される物理メモリ量は、実際に OS が使用できるメモリ量とは異なる。 縮退している DIMM はメモリ量に含まない。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [Information]

(2) 画面操作
なし

■[ASR Control] 画面

[ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面では、パーティションの自動再起動を実行する条件が設定できます。

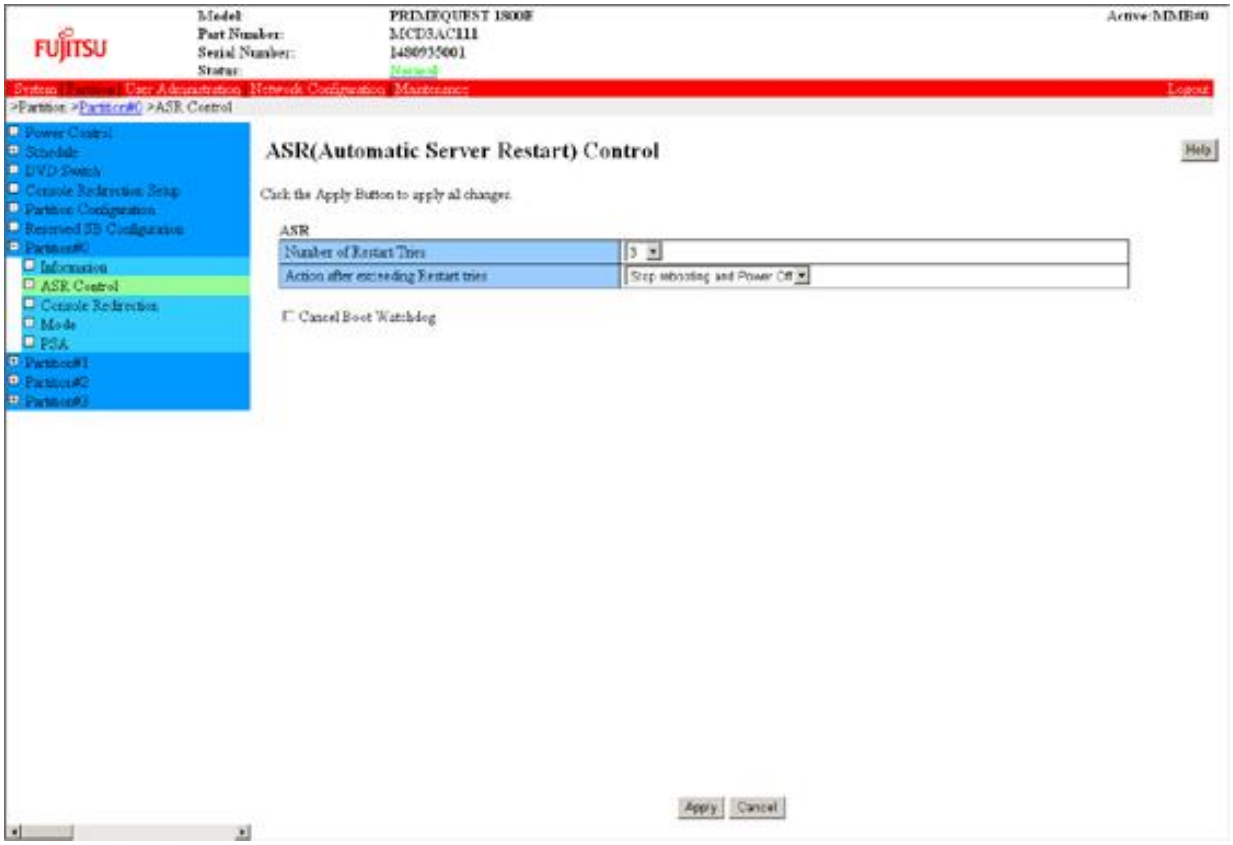


図 1.47 [ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面

表 1.78 [ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Number of Restart Tries	Boot Watchdog や、PSA または SVmco の Software Watchdog によってタイムアウトが発生した場合の OS をリスタートするリトライ回数を設定する。 回数は 0 ～ 10 回まで設定できる。0 が指定された場合は、リトライしない。 デフォルトは 5 回。
Action after exceeding Restart tries	Watchdog Timeout などでリスタートを繰り返し、上記のリトライ回数を超えた場合の動作を設定する。以下の動作がある。 ・ Stop rebooting and Power Off：リブート処理を止め、パーティションの電源を切断する。 ・ Stop rebooting：リブート処理を止め、パーティションを停止する。 ・ Diagnostic Interrupt assert：リブート処理を止め、パーティションに対して NMI 割込みを指示する。停止しているパーティションに対して、停止の原因調査のための調査資料 (ダンプ) 採取を試みる。 デフォルトは Stop rebooting and Power Off。
Cancel Boot Watchdog	OS Boot 監視を解除する。 OS Boot 監視は、ServerView の機能であり、ServerView の画面において、Boot Watchdog Timeout 時間を設定し監視を開始する。

項目	内容
	しかし、ServerView の画面で Boot Watchdog の Timeout 時間を誤って短く設定すると、タイマーを停止させる ServerView が起動する前にタイムアウトとなり、リブートを繰り返すという問題が発生する可能性がある。 この問題が発生した場合、ServerView が起動していないので、Boot Watchdog 機能を提供する ServerView の画面が表示されず、Boot Watchdog を解除できない。このチェックボックスをオンにすると、このような問題が発生した場合に Boot Watchdog を ServerView なしで解除できる。 **備考** Cancel Boot Watchdog 設定後は、ServerView での Boot Watchdog の再設定が必要となる。 デフォルトはオフ。 状態は保持せず、オンにして [Apply] ボタンをクリックしたときに Boot Watchdog が解除される。

表 1.79 [ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	・ [Number of Restart Tries] [Action after exceeding Restart tries] が指定されていると、これらの情報が設定される。 ・ [Cancel Boot Watchdog] チェックボックスがオンになっていると、Boot Watchdog が解除される。
Cancel	情報は設定されず元の状態に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [ASR Control]

(2) 画面操作
1. 各項目を設定します。
2. [Apply] ボタンをクリックします。
   指定された情報が設定されます。また、[Cancel Boot Watchdog] チェックボックスがオンになっていると、Boot Watchdog が解除されます。

■[Console Redirection] 画面

[Console Redirection] 画面で [Video Redirection] または [Text Console Redirection] を選択すると、別ウィンドウに BMC 側のビデオリダイレクション画面、またはテキストコンソールリダイレクション画面が表示されます。

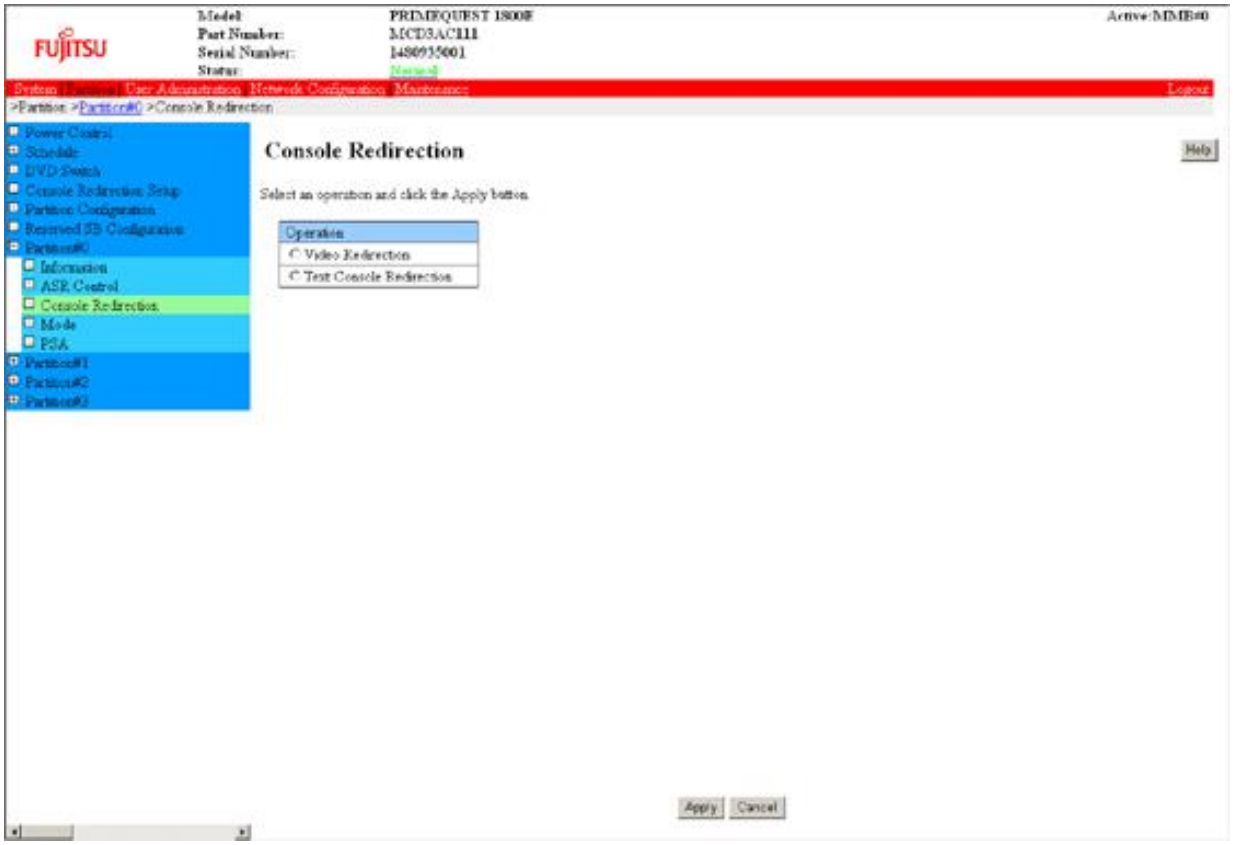


図 1.48 [Console Redirection] 画面

表 1.80 [Console Redirection] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Video Redirection	BMC 側のビデオリダイレクション画面が表示される。 [Console Redirection Setup] 画面で Enable の場合のみ選択可能。Disable の場合はラジオボタンの選択ができない。
Text Console Redirection	BMC 側のテキストコンソールリダイレクション画面が表示される。 [Console Redirection Setup] 画面で Enable の場合のみ選択可能。Disable の場合はラジオボタンの選択ができない。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [Console Redirection]

(2) 画面操作
なし

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00222	Unable to %aa the Partition#%aa because this Partition is under maintenance.
I_00417	Are you sure?

メッセージ番号	メッセージ文
W_00413	Nothing is selected.
W_00472	Unable to get the reserved WEB Session information due to WEB Session Max over.
W_00473	Unable to select the option due to both options are disabled.

■[Mode] 画面

[Mode] 画面では、パーティションに対する各種モードを設定できます。設定した値を反映するには、パーティションの電源をオフにした後、再度電源をオンにする必要があります。

図 1.49 [Mode] 画面

Partition の電源がオンのときに [Apply] ボタンをクリックすると、"W_00487 Unable to change the mode, because this partition is powered on." という警告ダイアログボックスが表示されます。
すでにパーティション電源がオフになっている場合は、このダイアログボックスは表示されず、設定が反映されます。

Mirror Mode の要件を満たさない DIMM 構成の SB が Reserved SB に設定されているパーティションに対して Mirror Mode を設定しようとした場合、確認のダイアログボックスが表示されます。確認のダイアログボックスには、Reserved SB に切り替わったときに Mirror Mode が解除される旨の警告メッセージが表示され、設定を続けるかどうか確認されます。

表 1.81 [Mode] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Mirror Mode	Mirror Mode が無効か有効かを表示する。 ・ Enabled：Mirror Mode が有効。

項目	内容
(current status)	・ Disabled：Mirror Mode が無効。
Mirror Mode (setting)	パーティションに対する Mirror Mode の有効／無効を設定する。 ・ Enable ・ Disable デフォルトは Disable。
TPM (current status)	TPM 機能 Disabled (無効) であることが表示されます。 **備考** TPM は、PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 では表示されない。
POST	POST (Power On Self Test) の内容をプルダウンメニューから選択する。 ・ Fast Boot：診断を最小限にして高速にブートする。 ・ Standard Diagnosis：標準的な診断を実行する。 ・ Full Diagnosis：診断項目をすべて実行する。 デフォルトは Standard Diagnosis。
Setting OS Installation Mode	OS インストール用のモード設定を行う。 Windows が行う電源管理処理で、I/O 装置が正式な手順を踏まずに off/on されたことによるブルースクリーン発生を抑止する。 **備考** ・ 本項目は OS インストール手順の 1 つとして行う。OS インストール以外の場合は設定しない。 ・ インストールする OS の種類によっては、インストール手順で複数回リセットされる場合がある。OS インストール手順内のリセットにより本項目は自動的に解除されるため、リセットのたびに、実施する必要がある。 ・ 本項目は排他であり、Mirror Mode/POST の設定とは別に行う必要がある。 ・ 本項目のみ、Partition Power On 中 (BIOS 起動後) に設定する。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [Mode]

(2) 画面操作
1. それぞれのモードを指定し、[Apply] ボタンをクリックします。
   確認ダイアログボックスが表示されます。
2. [OK] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00089	Mirror Mode setting failed.
E_00090	Power Control [Reset] setting failed.

メッセージ番号	メッセージ文
E_00461	Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because the DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
W_00487	Unable to change the mode, because this partition is powered on.
E_00497	Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because the CPU mismatch between SBs.
E_00498	Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because the unsupported CPU configuration.
E_00499	Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because of abnormal CPU composition.
E_00500	Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because of abnormal DIMM composition.
I_00501	The SB with DIMM that does not satisfy requirements of Mirror Mode is registered as a Reserved SB. If you register this partition as a Mirror Mode, Mirror Mode will be disabled when switching to Reserved SB. Are you sure to continue?
W_00506	Unable to set the OS Installation Mode because this partition is powered off.
W_00507	Unable to set the OS Installation Mode because Mirror Mode or POST setting is modified.
W_00508	Unable to set the OS Installation Mode.
E_00521	Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because of abnormal SB composition.
E_00526	Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because of abnormal VRM composition.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■Partition->Partition#x->PSA

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] 配下の画面については、「第 3 章 PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作」を参照してください。

PSA の Web-UI は、PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L のみ提供します。

1.4 [User Administration] メニュー

[User Administration] メニューでは、ユーザーアカウントの管理ができます。

1.4.1 [User List] 画面

[User List] 画面では、現在登録されているユーザーアカウントに対する情報が表示されます。この画面の表示は Administrator 権限のユーザーのみ可能です。

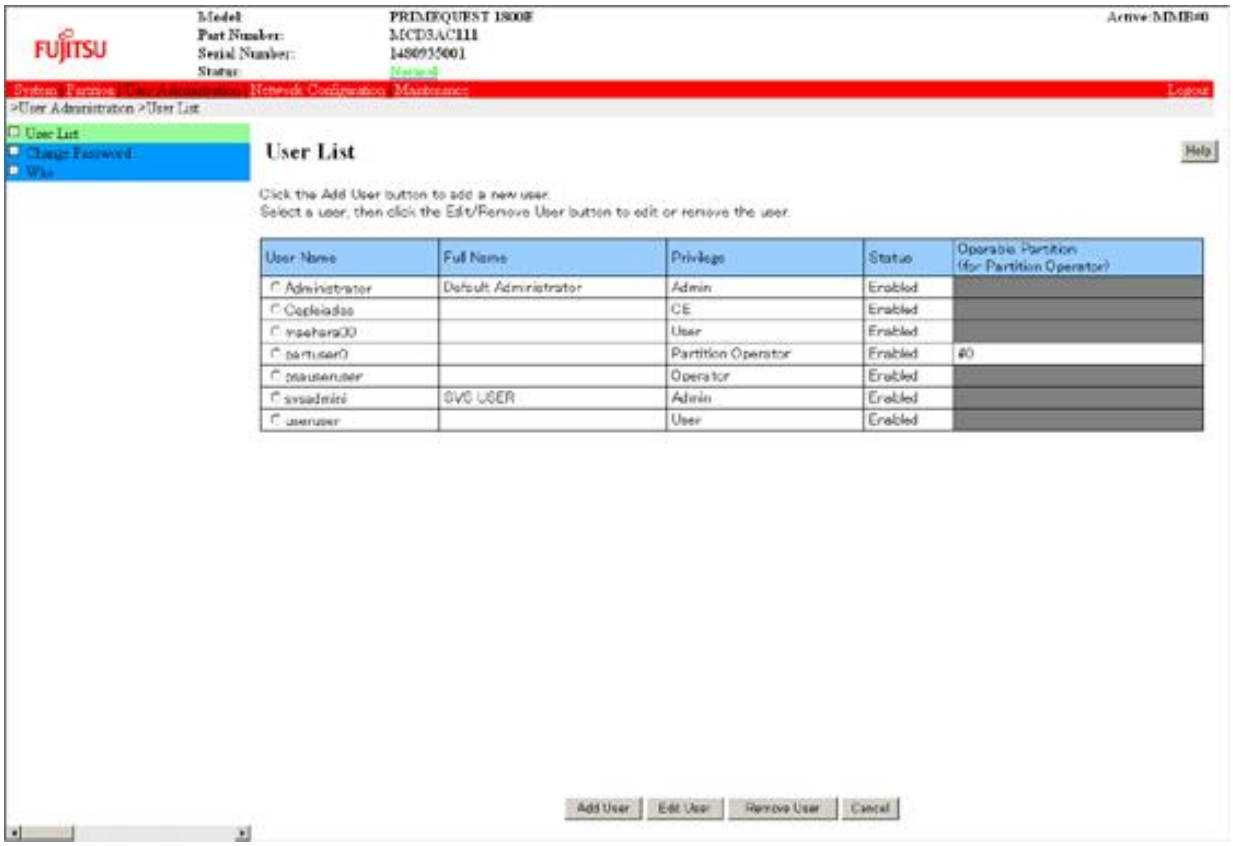


図 1.50 [User List] 画面

Disabled 設定されているユーザーは、灰色で表示されます。

表 1.82 [User List] 画面の表示項目

項目	内容
User Name	ユーザー名を表示する。 ユーザー名は 8 文字以上 32 文字以下とする。
Full Name	ユーザー名に関係する実際の名前などを入力するフィールドとして使用する。 32 文字以下。
Privilege	ユーザーアカウントの権限を表示する。
Status	現在のこのアカウントの状態を表示する。 ・ Enabled ・ Disabled
Operable Partition	ユーザーの操作可能なパーティションを表示する。

項目	内容
	Partition Operator 権限のユーザーアカウントの場合にのみ表示される。

表 1.83 [User List] 画面のボタン

ボタン	内容
Add User	[Add User] 画面が表示される。
Edit User	[Edit User] 画面が表示される。
Remove User	ユーザーを削除する。
Cancel	指定した情報が設定されず元に戻る。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00031	Same name already exists. User addition failed.
E_00032	No more User addition.
E_00034	Unable to change the status to Disable because the specified user is last Administrator.
E_00035	The user is logining. User deletion failed.
I_00041	User addition was completed
I_00042	User information editing was completed.
I_00043	User deletion was completed.
W_00463	Select a User Name.
I_00464	%aa will be removed. Are you sure?
W_00404	Password differs from the re-password.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Add User] 画面

[User List] 画面で [Add User] ボタンをクリックすると、[Add User] 画面が表示されます。
[Add User] 画面では、新規ユーザーを登録できます。

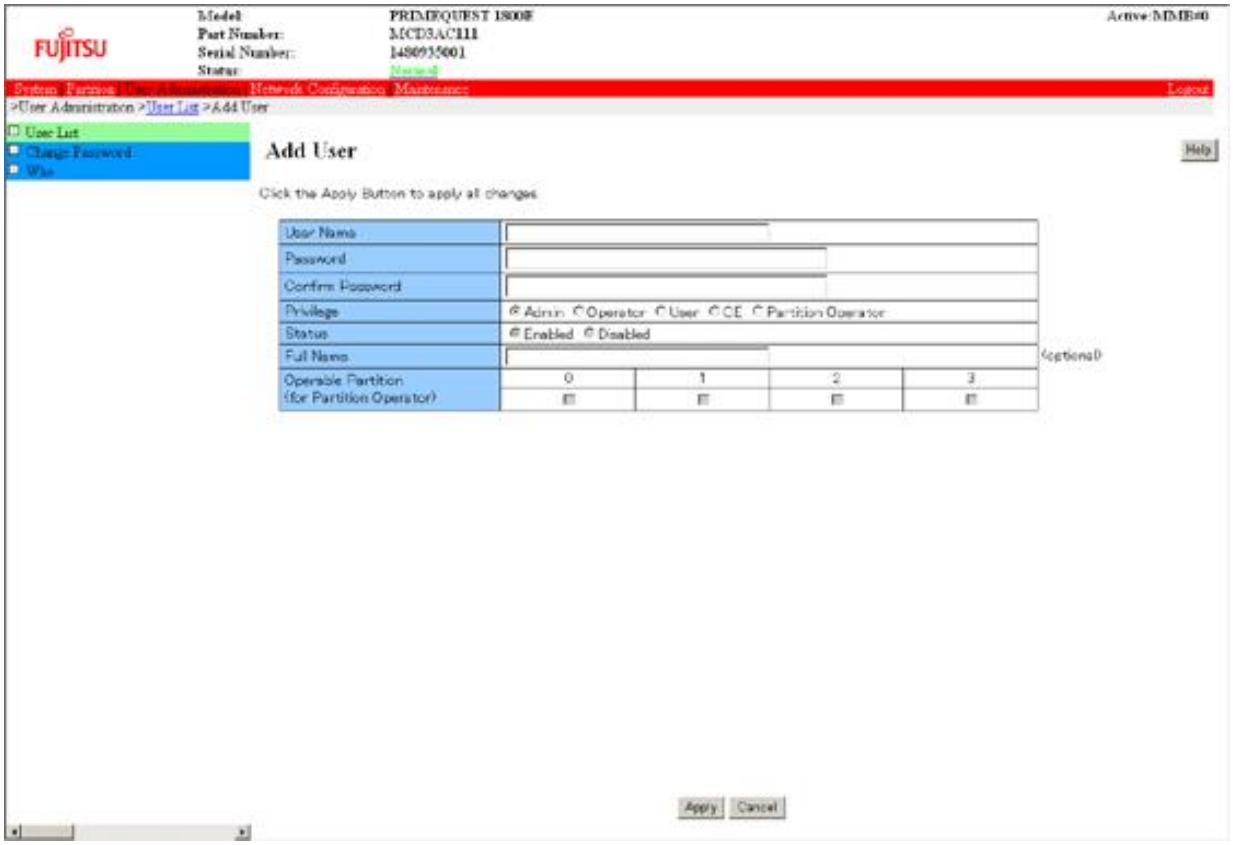


図 1.51 [Add User] 画面

[Add User] 画面の表示・設定項目については、「表 1.84 [Add User]／[Edit User] 画面の表示・設定項目」を参照してください。

■[Edit User] 画面

[User List] 画面でユーザーを選択し、[Edit User] ボタンをクリックすると、[Edit User] 画面が表示されます。

[Edit User] 画面では、ユーザーアカウントの管理情報を変更できます。

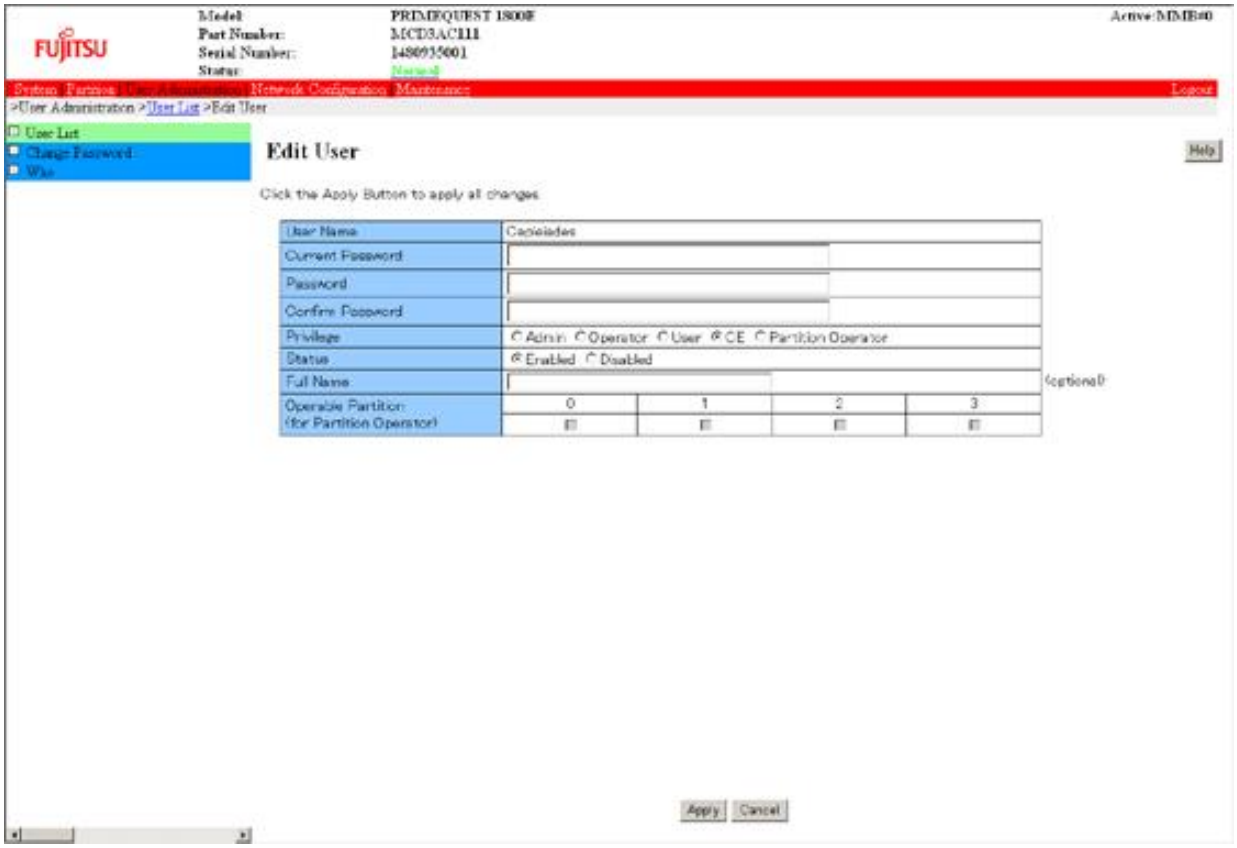


図 1.52 [Edit User] 画面

表 1.84 [Add User]／[Edit User] 画面の表示・設定項目

項目	内容
User Name	ユーザー名を設定する。 入力可能文字数は、8 文字以上 32 文字以下。 ユーザー名に指定できる文字は以下のとおり。 [0-9]、[a-z]、[A-Z]、「-」 (ハイフン) 「_」 (アンダーバー) ただし、最初の 1 文字は [a-z] [A-Z] であること。
Current Password	現在のパスワードを入力する。
Password	パスワードを設定する。 入力可能文字数は、8 文字以上 32 文字以下。 パスワードに使用できる文字は以下のとおり。 [0-9]、[a-z]、[A-Z]、 特殊文字：！ " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |
Confirm Password	確認のためパスワードをもう一度入力する。
Privilege	ユーザーアカウントの権限を設定する。
Status	現在のこのアカウントの状態を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled
Full Name	ユーザー名に関係する実際の名前などを入力するフィールドとして使用する。

項目	内容
	入力可能文字数は、32 文字以下。
Operable Partition (for Partition Operator)	ユーザーの操作可能なパーティションを設定する。 [Privilege] で [Partition Operator] を選択した場合にのみ、設定できる。 [Privilege] で [Partition Operator] 以外を選択した場合は、チェックボックスはグレーアウト表示される。

表 1.85 [Add User]／[Edit User] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	ユーザーアカウントが追加または更新され、[User List] 画面に戻る。
Cancel	ユーザーアカウントは追加または更新されずに、 [User List] 画面に戻る。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00410	%aa will be added. Are you sure?
E_00032	No more User addition.
E_00409	Unable to change the privilege because the specified user is last Administrator.
I_00411	%aa will be changed. Are you sure?
W_00401	Username is too short.
W_00402	Password is too short.
W_00406	Invalid character is included in UserName.
W_00403	Invalid character is included in Password.
W_00462	The specified password is invalid.
W_00405	Invalid character is included in FullName.
W_00407	Input characters are too long.
W_00408	Partitions are not selected. Please select at least one partition.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Remove User] ボタン

ユーザーアカウントを削除する場合は、[User List] 画面で [User] を選択し、[Remove User] ボタンをクリックします。削除を確認するためのダイアログボックスが表示されます。削除する場合は [OK] ボタンをクリックします。キャンセルする場合は [Cancel] ボタンをクリックします。

1.4.2 [Change Password] 画面

[Change Password] 画面では、現在ログインしているユーザーのパスワードの変更ができます。

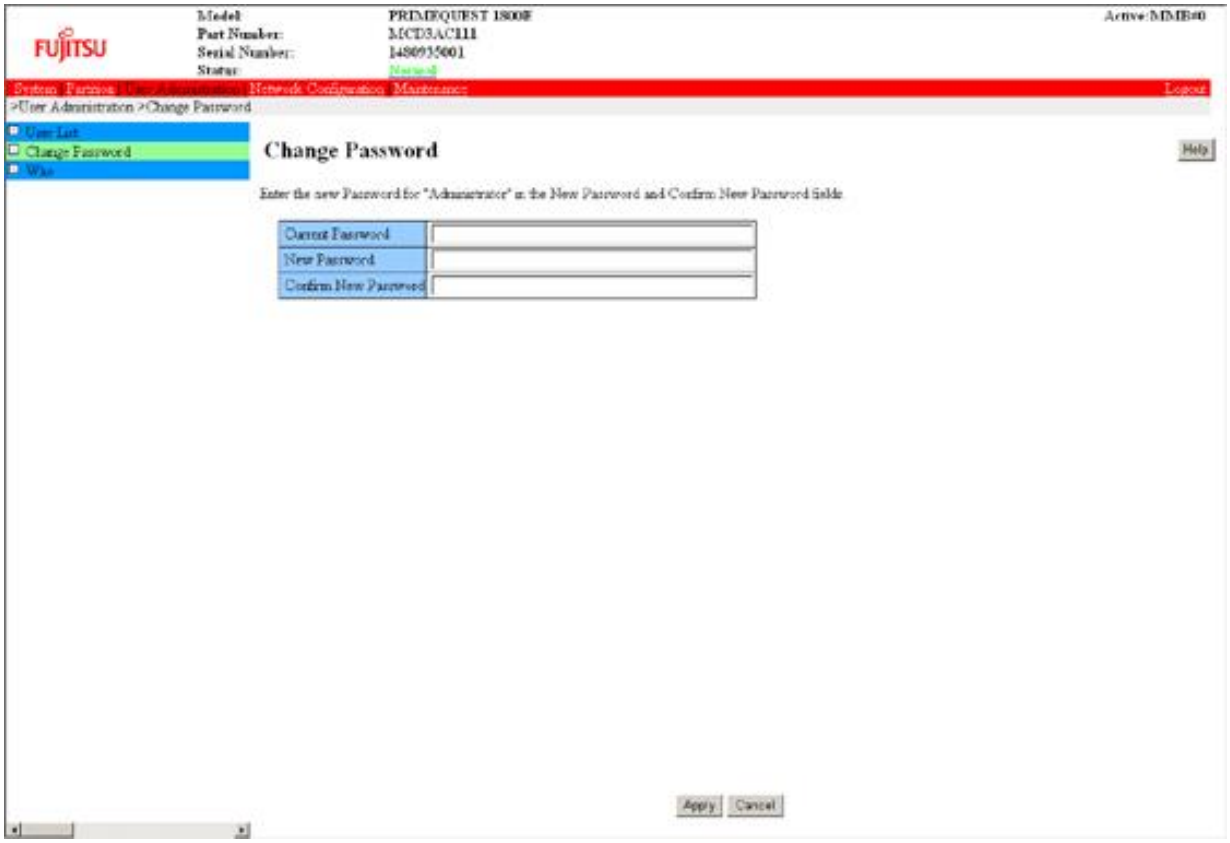


図 1.53 [Change Password] 画面

備考

パスワードは 8 文字以上を入力する必要があります。

表 1.86 [Change Password] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	変更したパスワードが登録される。
Cancel	パスワードは変更されず元の状態に戻る。

【メッセージ】

本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00036	Changing Password failed.
I_00037	Changing Password completed.
W_00404	Password differs from the re-password.
W_00402	Password is too short.

メッセージ番号	メッセージ文
W_00403	Invalid character is included in Password.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.4.3 [Who] 画面

[Who] 画面には、 MMB に Serial、Telnet/SSH および Web-UI で接続しているユーザーの一覧が表示できます。

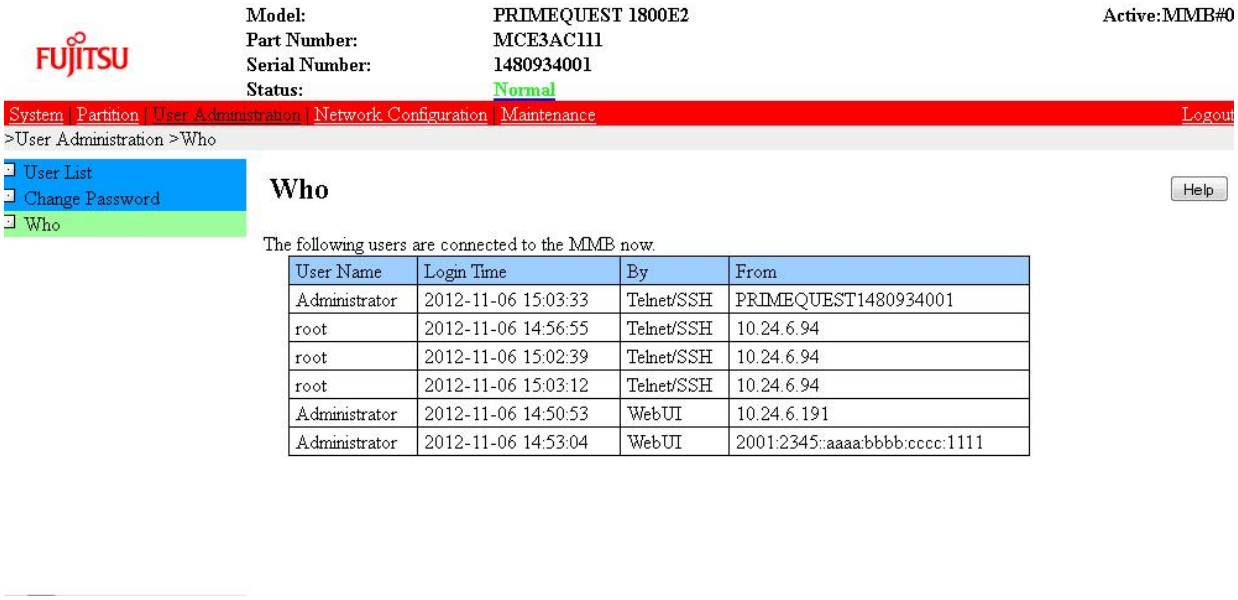


図 1.54 [Who] 画面

表 1.87 [Who] 画面の表示項目

項目	内容
User Name	Serial ポート、Telnet/SSH、または Web-UI で MMB にログインしているユーザー名を表示する。
Login Time	ログインした時間を表示する。
By	Web-UI または Telnet/SSH のどちらでログインしているのかを表示する。 Serial ポートからログインしている場合は「-」 (ハイフン)が 表示される。
From	リモートからログインしている場合にリモートホストのホスト名または IP アドレス (IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス) を表示する。 ログイン時に MMB に設定されている DNS からホスト名がわかる場合はホスト名が表示され、わからない場合は IP アドレスが表示される。 MMB の Serial ポートからログインしている場合は「-」 (ハイフン) が表示される。 Web-UI の場合は、DNS を使用していても IP アドレスのみの表示となる。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00098	Failed to get login user information

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5 [Network Configuration]メニュー

[Network Configuration] は、Administrator 権限を持つユーザーだけが使用できます。

1.5.1 [Date/Time] 画面

[Date/Time] 画面では、MMB の日付と時刻を設定します。

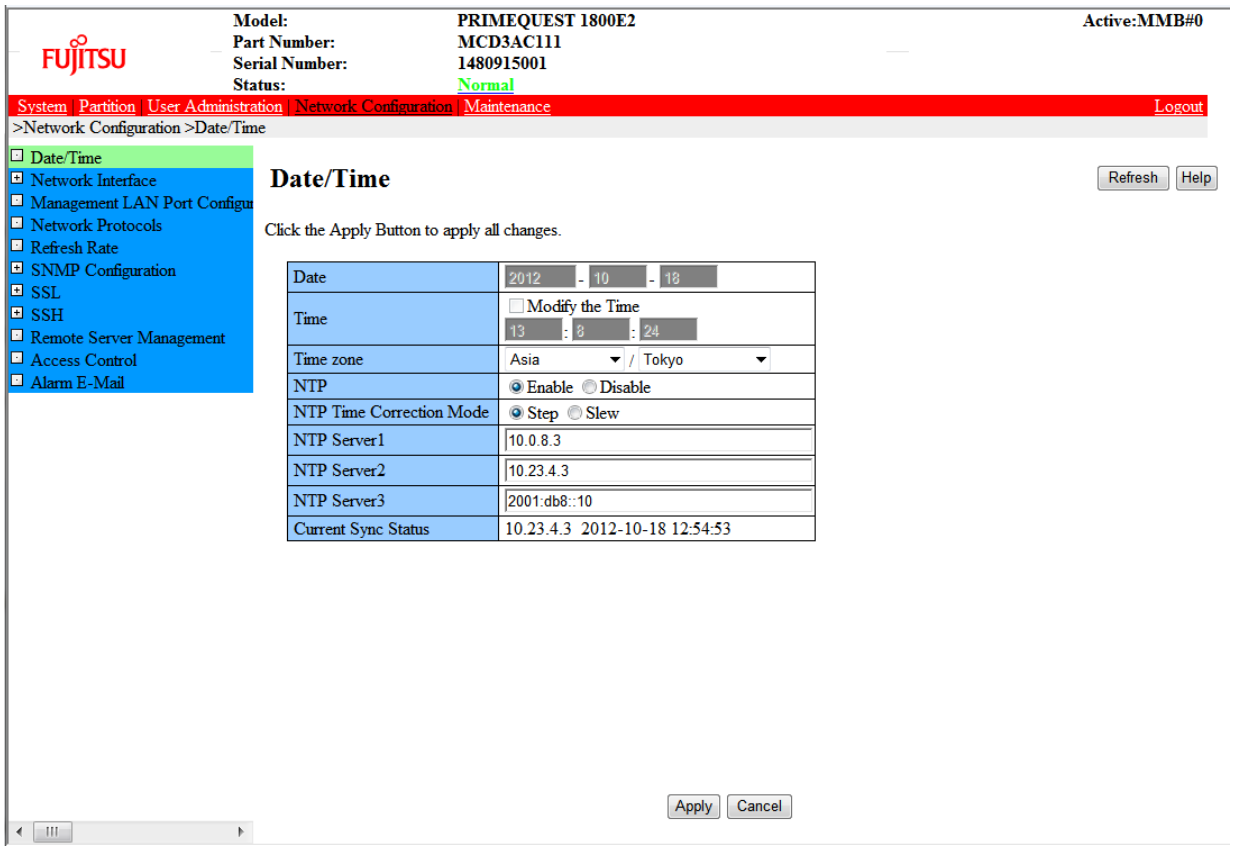


図 1.55 [Date/Time] 画面

表 1.88 [Date/Time] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Date	日付を表示/設定する。 日付だけを指定した場合 ([Modify the Time] チェックボックスがオフの場合)、[Apply] ボタンがクリックされた時点の時間が指定されたものとして、指定された日付と時間が設定される。 たとえば、サマータイム期間外 (1 月 1 日 13:00 現在) からサマータイム期間内 (8 月 1 日) に日付変更する場合、8 月 1 日 13:00 を指定されたものとして処理する。
Time	[Date/Time] 画面を表示した時点の時刻 (時：分：秒) を、24 時間形式で表示する。 表示を更新するためには、画面のリロードが必要。 また、自動更新を設定している場合は、画面更新時の現在時刻を表示する。

項目	内容
	時刻を設定する場合は、[Modify the Time] チェックボックスをオンにする。チェックボックスをオンにすると、時：分：秒のフィールドが入力可能となる。チェックしていない状態では、時：分：秒フィールドはグレーアウト表示される。
Time zone	タイムゾーンをプルダウンメニューから選択する。
NTP	NTP 機能の有効／無効を設定する。 ・ Enable ・ Disable [Enable] に設定すると、MMB は以下の NTP1 ～ NTP3 に設定されている NTP サーバと時刻を同期させる。 デフォルトは Disable。
NTP Time Correction Mode	NTP 時刻修正モードを設定する。 ([NTP] が [Enable] の場合に有効。[Disable] の場合はグレーアウト表示される。) ・ [Step] ： NTP サーバとの時刻の差が 128msec 未満の場合は、Slew モード (1 秒間に 0.0005 秒ずつ) で時刻を修正する。差が 128msec 以上の場合は、一度に時刻を修正する。 差が±1000 秒 (16 分 40 秒) 以上ある場合、NTP の機能が停止する。 ・ [Slew] NTP サーバとの時刻差により、以下の動作となる。 ・ ±600 秒 (10 分) 未満の場合、Slew 調整 (逆進せずに 1 秒間に最大 0.0005 秒ずつ補正) する。 ・ ±600 秒 (10 分) 以上、±1000 秒 (16 分 40 秒) 未満の場合、Step 調整する (この場合、逆進の可能性がある)。 ・ ±1000 秒 (16 分 40 秒) 以上の場合、NTP の機能が停止する。 デフォルトは Step。
NTP 1	IPv4 または IPv6 の Primary NTP サーバの IP アドレスを設定する。 ([NTP] が [Enable] の場合に有効。[Disable] の場合はグレーアウト表示される。)
NTP 2	IPv4 または IPv6 の Secondary NTP サーバの IP アドレスを設定する。 ([NTP] が [Enable] の場合に有効。[Disable] の場合はグレーアウト表示される。)
NTP 3	IPv4 または IPv6 の Third NTP サーバの IP アドレスを設定する。 ([NTP] が [Enable] の場合に有効。[Disable] の場合はグレーアウト表示される。)
Current Sync Status	現在の NTP サーバとの同期状態を表示する。 ・ 同期している場合：IP アドレスと最終同期時刻を以下の形式で表示する。 xxx.xxx.xxx.xxx yyyy-mm-dd -dd:mm:ss ・ 同期していない場合：「No Sync」と表示する。

表 1.89 [Date/Time] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した情報が設定される。

ボタン	内容
Cancel	指定した日付、タイムゾーンなどの情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Date/Time]

(2) 画面操作
1. 日付、タイムゾーンなどを指定して [Apply] ボタンをクリックします。
   日付、タイムゾーンなどが設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
E_00020	The IP address overlaps.
E_00100	Failed to set Date/Time information
W_00414	Invalid Date Format
W_00434	Invalid Time Format
W_00433	The duplicate IP address was found.
W_00432	Invalid IP Address specified.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

●NTP の時刻同期

NTP クライアントの時刻同期の動作仕様について説明します。

- 時刻同期開始時
  MMB の NTP クライアントは動作開始時に NTP サーバとの時刻差に関係なく時刻同期を行います。
  MMB の NTP クライアントは、以下のタイミングで動作開始します。
  - MMB の NTP サービスを有効にしたタイミング ([Network Configuration] - [Date/Time] 画面で [NTP] の [Enable] をオンにし、[Apply] ボタンをクリックしたタイミング)
  - MMB の NTP サービスが有効のまま、MMB の Reset、MMB の二重化切替え、AC 電源の OFF→ON を行ったタイミング

- 時刻同期中
  NTP の時刻調整方法は、NTP の動作モード (Step モード/ Slew モード) により異なります。
  Step モードの場合は、同期中の NTP サーバと MMB との時刻差が
  (1) ± 0.128 秒未満である場合、Slew 調整 (逆進せずに 1 秒間に最大 0.0005 秒ずつ補正) します。
  (2) ± 0.128 秒以上、± 1000 秒未満である場合、Step 調整します (この場合、逆進の可能性があります)。
  (3) ± 1000 秒以上である場合、NTP の機能が停止します。

Slew モードの場合は、 同期中の NTP サーバと MMB との時刻差が
(1) ± 600 秒 (10 分) 未満である場合、Slew 調整 (逆進せずに 1 秒間に最大 0.0005 秒ずつ補正) します。
(2) ± 600 秒 (10 分) 以上、± 1000 秒 (16 分 40 秒) 未満である場合、Step 調整します (この場合、逆進の可能性があります)。
(3) ± 1000 秒 (16 分 40 秒) 以上である場合、NTP の機能が停止します。

- 時刻同期の間隔
  64 秒~1024 秒の間隔で同期します。初期の同期間隔は 64 秒で、同期精度が安定するにしたがい、64 秒→128 秒→256 秒→512 秒→1024 秒と段階的に増加します。
  この同期間隔の増加アルゴリズムは RFC1305 に準拠しています。詳しくは、RFC1305 の 3.4.2 ~3.4.9 項を参照ください。

- MMB の NTP サーバの stratum
  MMB の NTP サーバの stratum は、同期している外部 NTP サーバの stratum+1 となります。外部 NTP サーバと同期していない場合は 5 となります。

- うるう秒の対応
  MMB の NTP にはうるう秒を挿入する機能はありません。そのため MMB の時刻をうるう秒に対応させるためには、うるう秒に対応した外部の NTP サーバと同期をとってください。
  MMB の NTP クライアントが Step モードに設定されている場合、うるう秒の調整に対して、外部の NTP サーバがゆっくりと時刻をずらしても 0.128 秒以上の時刻差が発生すると MMB の時刻が Step 調整されることがあります。うるう秒の調整で Step 調整させたくない場合は、Slew モードを使用してください。

1.5.2 [Network Interface] 画面

[Network Interface] のメニューには、以下の画面があります。

■[IPv4 Interface] 画面
■[IPv6 Interface] 画面

■[IPv4 Interface] 画面

[IPv4 Interface] 画面では、MMB にアクセスするための IPv4 用の IP アドレスなどが設定できます。

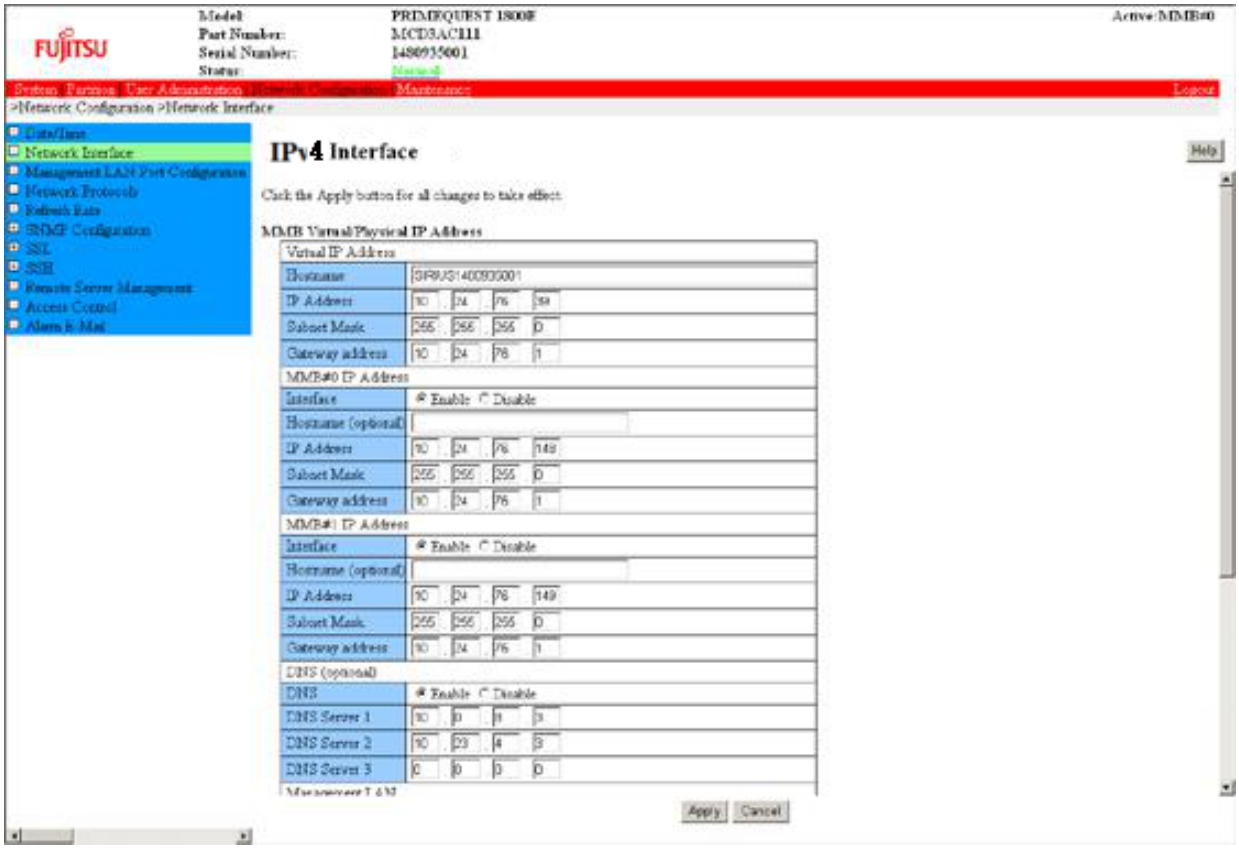


図 1.56 [IPv4 Interface] 画面 (1)

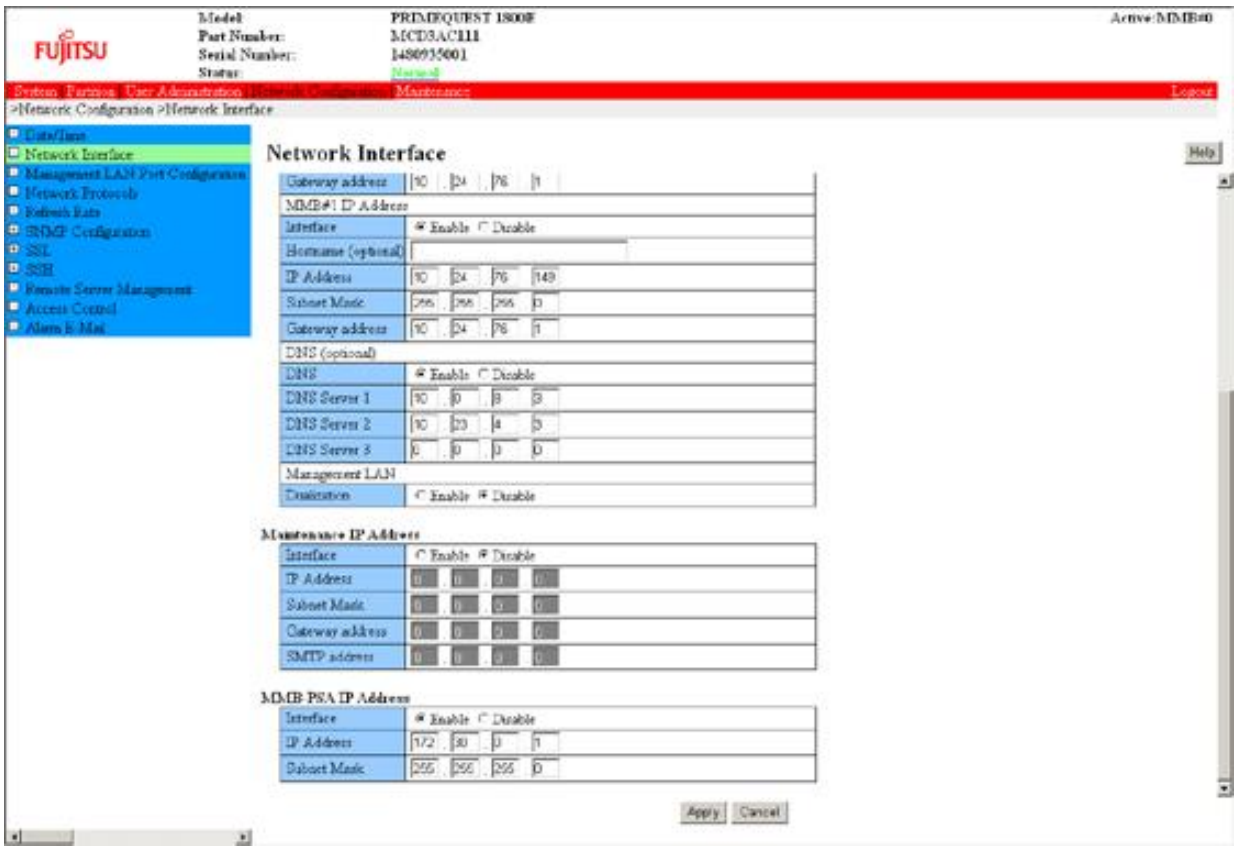


図 1.57 [IPv4 Interface] 画面 (2)

表 1.90 [IPv4 Interface] 画面の表示・設定項目

項目	内容説明
MMB Virtual / Physical IP Address	
Virtual IP Address	Web-UI にアクセスするために使用する IPv4 用の仮想 IP アドレスを指定する。 MMB が二重化されている場合、本仮想 IP アドレスは切り替わった MMB に引き継がれる。
Hostname	FQDN 形式でホスト名を設定する。 入力可能な文字は以下のとおり。 [a-z]、[A-Z]、[0-9]、「-」(ハイフン)、「.」(ドット) 上記以外の文字は指定できない。 また、以下の制約がある。 ・ 先頭文字は英字でなければならない。 ・ (ハイフン)、(ドット)を先頭文字、末尾文字として指定することはできない。 デフォルトは、"PRIMEQUEST" ＋ Product Serial Number とする。 たとえば、シリアル番号が 1020516004 の場合、"PRIMEQUEST1020516004" となる。 **備考** ドメインで運用していない場合は FQDN 形式での設定は必須ではない。
IP Address	IP アドレスを設定する。
Subnet Mask	サブネットマスクを設定する。
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
MMB#0 IP Address	MMB#0 のインターフェースに割り当てる物理 IP アドレスを指定する。 MMB#0 がシステムに存在するときに表示され設定が可能となる。 本インターフェースから Web-UI にはアクセスできない。 MMB#0 が搭載されていない場合、[MMB#0 IP Address] の表は表示されない。
Host Name (optional)	FQDN 形式でホスト名を設定する。 入力可能な文字は以下のとおり。 [a-z]、[A-Z]、[0-9]、「-」(ハイフン)、「.」(ドット) 上記以外の文字は指定できない。 また、以下の制約がある。 ・ 先頭文字は英字でなければならない。 ・ (ハイフン)、(ドット)を先頭文字、末尾文字として指定することはできない。 デフォルトは、"PRIMEQUEST" ＋ Product Serial Number とする。 たとえば、シリアル番号が 1020516004 の場合、"PRIMEQUEST1020516004" となる。 **備考** ドメインで運用していない場合は FQDN 形式での設定は必須ではない。
IP Address	IP アドレスを設定する。
Subnet Mask	サブネットマスクを設定する。

項目	内容説明
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
MMB#1 IP Address	MMB#1 のインターフェースに割り当てる物理 IP アドレスを指定する。 MMB#1 がシステムに存在するときに表示され設定が可能となる。 本インターフェースから Web-UI にはアクセスできない。 MMB#1 が搭載されていない場合、[MMB#1 IP Address] の表は表示されない。
Host Name (optional)	FQDN 形式でホスト名を設定する。 入力可能な文字は以下のとおり。 [a-z]、[A-Z]、[0-9]、「-」(ハイフン)、「.」(ドット) 上記以外の文字は指定できない。 また、以下の制約がある。 ・ 先頭文字は英字でなければならない。 ・ (ハイフン)、(ドット)を先頭文字、末尾文字として指定することはできない。 デフォルトは、"PRIMEQUEST" ＋ Product Serial Number とする。 たとえば、シリアル番号が 1020516004 の場合、"PRIMEQUEST1020516004" となる。 **備考** ドメインで運用していない場合は FQDN 形式での設定は必須ではない。
IP Address	IP アドレスを設定する。
Subnet Mask	サブネットマスクを設定する。
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS	DNS サーバを利用するかどうかを設定する。 DNS を利用する場合は Enable を選択する。 デフォルトは Disable。
DNS Server 1	Primary DNS サーバの IP アドレスを設定する。
DNS Server 2	Secondary DNS サーバの IP アドレスを設定する。
DNS Server 3	Third DNS サーバの IP アドレスを設定する。
Management LAN	
Dualization	管理 LAN の二重化設定を行う。 デフォルトは Disable。
Maintenance IP Address	
IP Address	IP アドレスを設定する。
Subnet Mask	サブネットマスクを設定する。
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
SMTP address	SMTP の IP アドレスを設定する。
MMB-PSA IP Address	
IP Address	MMB と PSA が通信するための IP アドレスを入力する。詳しくは 『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 導入マニュアル』(C122-E107) の「第 5 章 OS の

項目	内容説明
	インストール後に実施する作業 (PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2)」または「第 6 章 OS のインストール後に実施する作業 (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L)」を参照。
Subnet Mask	サブネットマスクを設定する。

表 1.91 [IPv4 Interface] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	入力した情報が設定される。
Cancel	IP アドレス、サブネットマスクなどの入力した情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Network Interface] - [IPv4 Interface]

(2) 画面操作
1. ネットワークインターフェース情報を設定するため、サブネットマスク、IP アドレスなどを選択／入力し、[Apply] ボタンをクリックします。
   指定した IP アドレス、サブネットマスクなどが設定されます。

■[IPv6 Interface] 画面
[IPv6 Interface] 画面では、MMB にアクセスするための IP アドレスなどが設定できます。

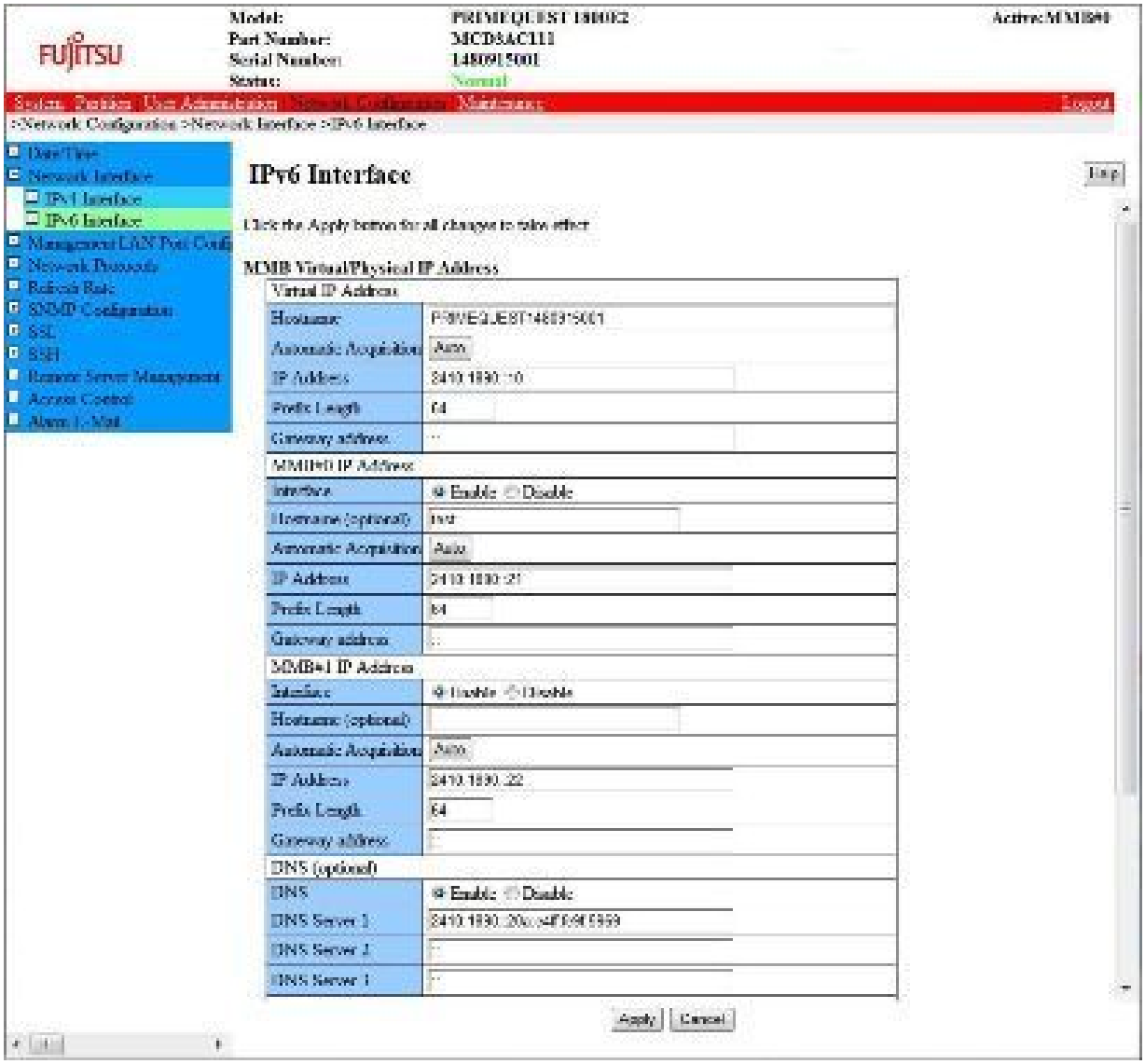


図 1.58 [IPv6 Interface] 画面 (1)

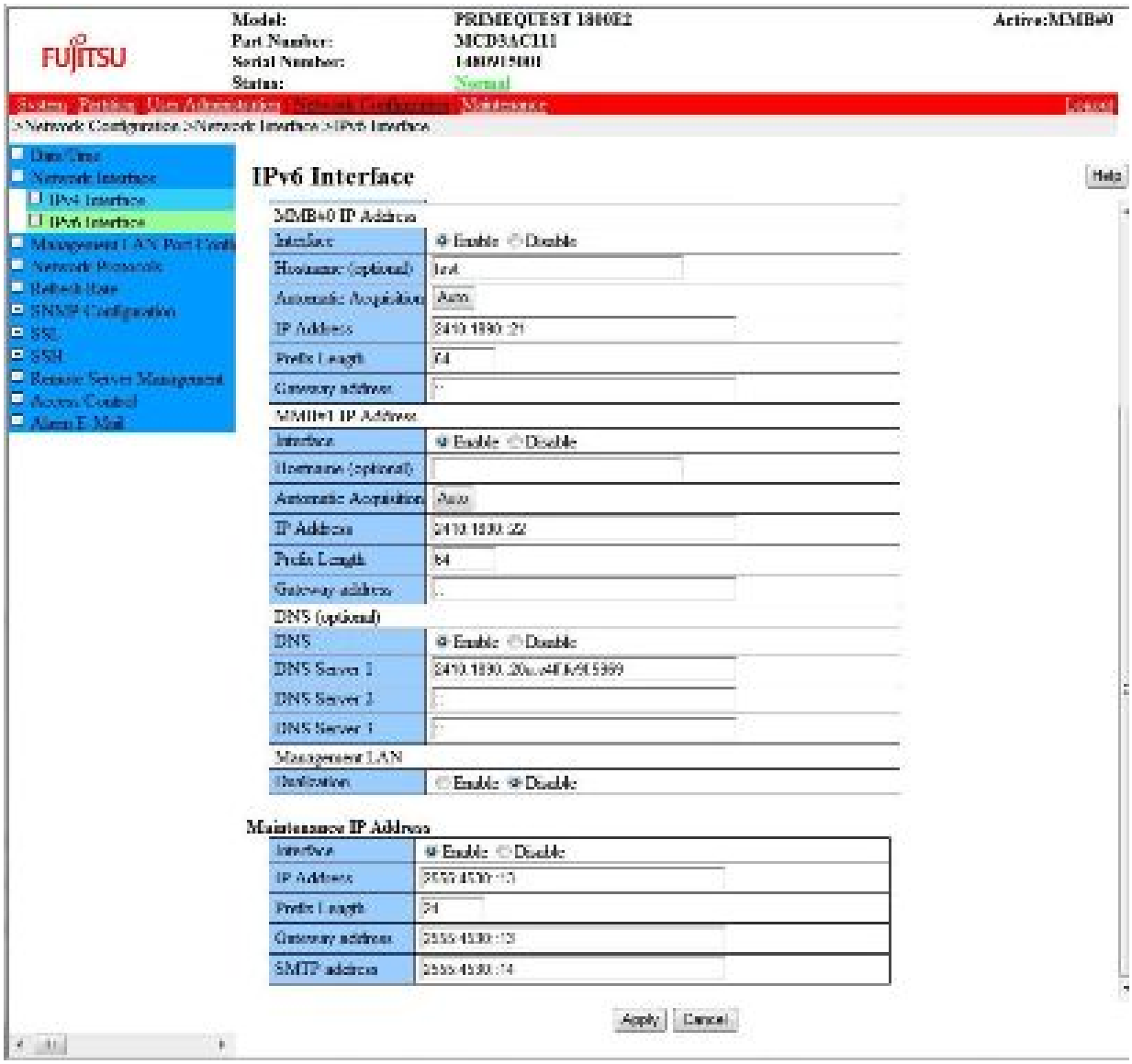


図 1.59 [IPv6 Interface] 画面 (2)

表 1.92 [IPv6 Interface] 画面の表示・設定項目

項目	内容説明
MMB Virtual / Physical IP Address	
Virtual IP Address	Web-UI にアクセスするために使用する IPv6 用の仮想 IP アドレスを指定する。 MMB が二重化されている場合、本仮想 IP アドレスは切り替わった MMB に引き継がれる。
Hostname	FQDN 形式でホスト名を設定する。 入力可能な文字は以下のとおり。 [a-z]、[A-Z]、[0-9]、「-」(ハイフン)、「.」(ドット) 上記以外の文字は指定できない。 また、以下の制約がある。 ・ 先頭文字は英字でなければならない。

項目	内容説明
	・ (ハイフン)、(ドット)を先頭文字、末尾文字として指定することはできない。 デフォルトは、"PRIMEQUEST" ＋ Product Serial Number とする。 たとえば、シリアル番号が 1020516004 の場合、"PRIMEQUEST1020516004" となる。 **備考** ドメインで運用していない場合は FQDN 形式での設定は必須ではない。
Automatic Acquisition	自動取得を行う場合、[Auto] ボタンをクリックする。グローバルアドレス、プレフィックス長およびゲートウェイの IP アドレスが自動取得され、上書きされる。
IP Address	グローバルアドレスを設定する。
Prefix Length	プレフィックス長を設定する。
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
MMB#0 IP Address	MMB#0 のインターフェースに割り当てる物理 IP アドレスを指定する。 MMB#0 がシステムに存在するときに表示され設定が可能となる。 本インターフェースから Web-UI にはアクセスできない。 MMB#0 が搭載されていない場合、[MMB#0 IP Address] の表は表示されない。
Automatic Acquisition	自動取得を行う場合、[Auto] ボタンをクリックする。グローバルアドレス、プレフィックス長およびゲートウェイの IP アドレスが自動取得され、上書きされる。
IP Address	グローバルアドレスを設定する。
Prefix Length	プレフィックス長を設定する。
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
MMB#1 IP Address	MMB#1 のインターフェースに割り当てる物理 IP アドレスを指定する。 MMB#1 がシステムに存在するときに表示され設定が可能となる。 本インターフェースから Web-UI にはアクセスできない。 MMB#1 が搭載されていない場合、[MMB#1 IP Address] の表は表示されない。
Automatic Acquisition	自動取得を行う場合、[Auto] ボタンをクリックする。グローバルアドレス、プレフィックス長およびゲートウェイの IP アドレスが自動取得され、上書きされる。
IP Address	グローバルアドレスを設定する。
Prefix Length	プレフィックス長を設定する。
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS	DNS サーバを利用するかどうかを設定する。 DNS を利用する場合は Enable を選択する。 デフォルトは Disable。
DNS Server 1	Primary DNS サーバの IP アドレスを設定する。
DNS Server 2	Secondary DNS サーバの IP アドレスを設定する。

項目	内容説明
DNS Server 3	Third DNS サーバの IP アドレスを設定する。
Management LAN	
Dualization	管理 LAN の二重化設定を行う。 デフォルトは Disable。
Maintenance IP Address	
Interface	CE/REMCS 用 LAN インターフェースの enable/disable を設定する。 デフォルトは Disable。
IP Address	グローバルアドレスを設定する。
Prefix Length	プレフィックス長を設定する。
Gateway address	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。
SMTP address	SMTP の IP アドレスを設定する。 REMCS 接続しない、または REMCS 接続を P-P で行う場合は設定を行わない。

表 1.93 [IPv6 Interface] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	入力した情報が設定される。
Cancel	IP アドレスなどの入力した情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Network Interface] - [IPv6 Interface]

(2) 画面操作
1. ネットワークインターフェース情報を設定するため、IP アドレスなどを選択／入力し、[Apply] ボタンをクリックします。
   指定した IP アドレスなどが設定されます。

1.5.3 [Management LAN Port Configuration] 画面

[Management LAN Port Configuration] 画面では、MMB ボード上の各ポートの Speed/Duplex の設定ができます。

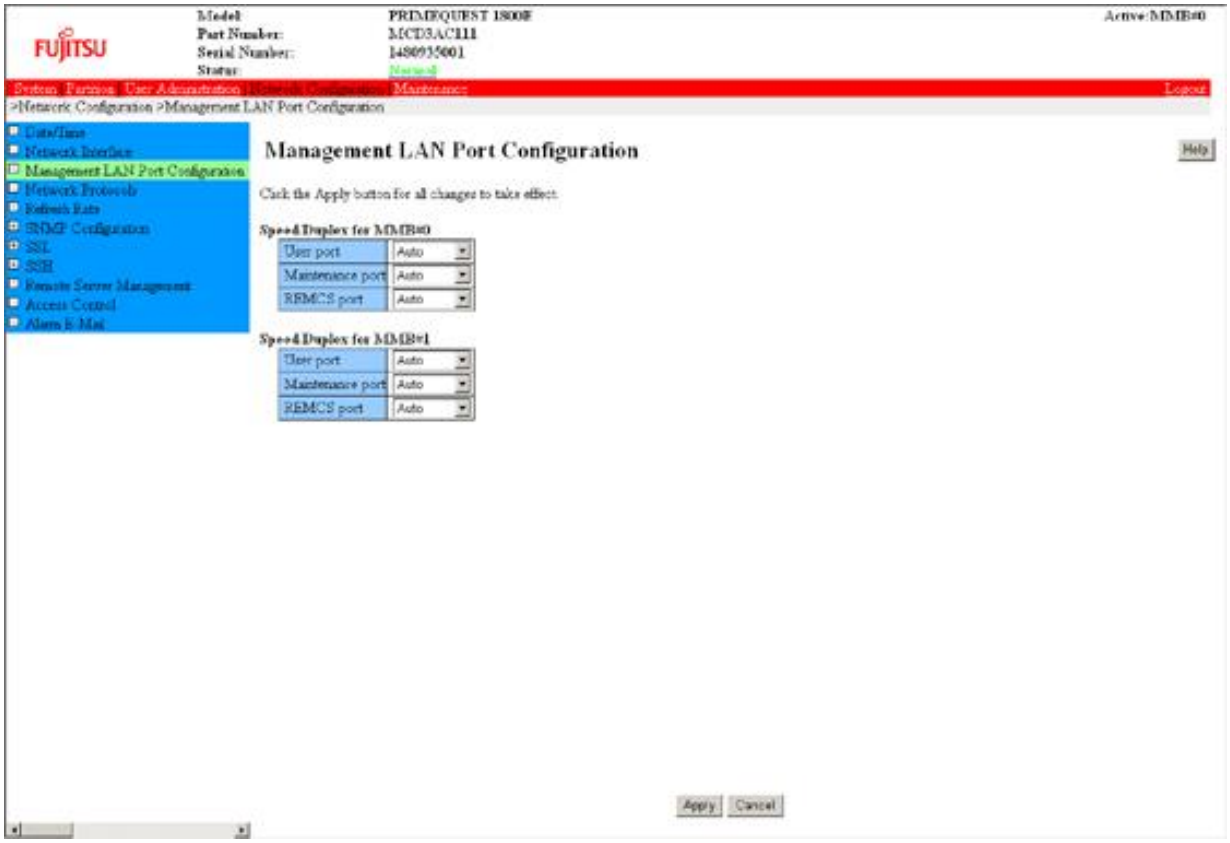


図 1.60 [Management LAN Port Configuration] 画面

表 1.94 [Management LAN Port Configuration] 画面の表示・設定項目

項目	内容説明
Speed/Duplex for MMB#0	MMB#0 Port の Speed/Duplex を設定する。 ・ Auto ・ 1G/Full ・ 100M/Full ・ 100M/Half ・ 10M/Full ・ 10M/Half デフォルトは、Auto。 **備考** MMB#0 が搭載されている場合のみ表示される。 1G/Full は User Port のみ設定が可能。
Speed/Duplex for MMB#1	MMB#1 Port の Speed/Duplex を設定する。 ・ Auto ・ 1G/Full ・ 100M/Full ・ 100M/Half ・ 10M/Full ・ 10M/Half

項目	内容説明
	デフォルトは Auto。 **備考** MMB#1 が搭載されている場合のみ表示される。 1G/Full は User Port のみ設定が可能。

表 1.95 [Management LAN Port Configuration] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	入力した情報が設定される。
Cancel	Speed/Duplex で指定した情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Management LAN Port Configuration]

(2) 画面操作
1. Speed/Duplex を指定して [Apply] ボタンをクリックします。
   Speed/Duplex が設定されます。

1.5.4 [Network Protocols] 画面

[Network Protocols] 画面では、MMB のネットワークプロトコルに関する設定をします。

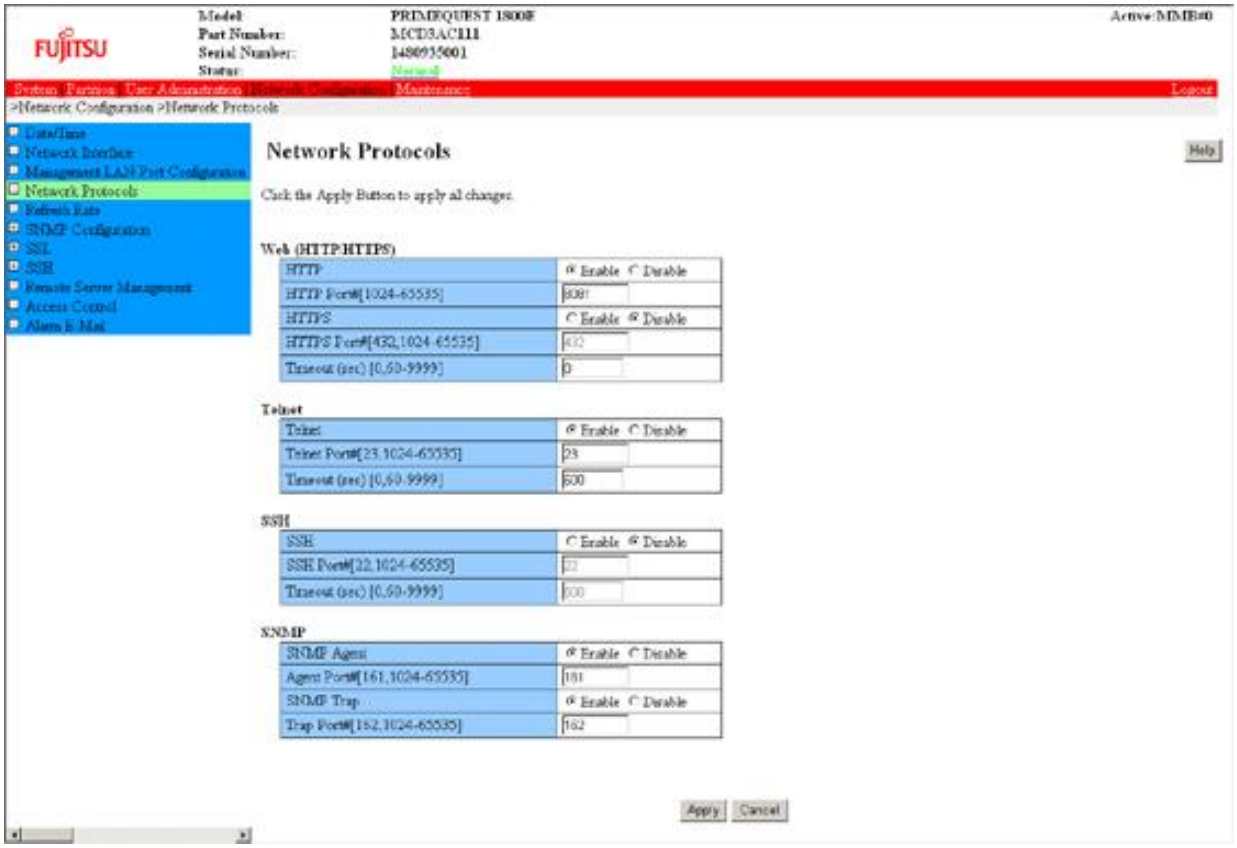


図 1.61 [Network Protocols] 画面

表 1.96 [Network Protocols] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Web (HTTP/HTTPS)	
HTTP	HTTP の Enable/Disable を設定する。 デフォルトは Disable。
HTTP Port#	HTTP に使用するポート番号を設定する。 デフォルトは 8081。
HTTPS	HTTPS の Enable/Disable を設定する。 デフォルトは Disable。
HTTPS Port#	HTTPS に使用するポート番号を設定する。 デフォルトは 432。
Timeout	HTTP/HTTPS 接続時に何も入力がない場合に、タイムアウトして接続を切断するまでの時間を設定する。 0、または 60 ～ 9999 の範囲で設定できる。 0 はタイムアウトなしを意味する。 デフォルトは 600 秒。
Telnet	
Telnet	Telnet の Enable/Disable を設定する。 デフォルトは Disable。

項目	内容
Telnet Port#	Telnet に使用するポート番号を設定する。 デフォルトは 23。
Timeout	Telnet 接続時に何も入力がない場合に、タイムアウトして接続を切断するまでの時間を設定する。 0、または 60 ～ 9999 の範囲で設定できる。 0 はタイムアウトなしを意味する。 デフォルトは 600 秒。
SSH	
SSH	SSH の Enable/Disable を設定する。 デフォルトは Disable。
SSH Port#	SSH に使用するポート番号を設定する。 デフォルトは 22。
Timeout	SSH 接続をタイムアウトするまでの時間を設定する。 0、または 60 ～ 9999 の範囲で設定できる。 0 はタイムアウトなしを意味する。 デフォルトは 600 秒。
SNMP	
SNMP Agent	SNMP Agent の Enable/Disable を設定する。 デフォルトは Disable。
Agent Port#	SNMP Agent に使用するポート番号を設定する。 設定可能なポート番号は、161、1024 ～ 65535。 デフォルトは 161。
SNMP Trap	SNMP Trap の Enable/Disable を設定する。 デフォルトは Disable。
Trap Port#	SNMP Trap に使用するポート番号を設定する。 設定可能なポート番号は、162、1024 ～ 65535。 デフォルトは 162。

備考

HTTPS を Enable にするには、有効な SSL 証明書が登録されている必要があります。
有効な SSL 証明書が登録されていない場合に、HTTPS を [Enable] にしようとしたときに、エラーが表示されます。

表 1.97 [Network Protocols] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した情報が設定される。
Cancel	ポート番号、タイムアウト時間などの指定した情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作

[Network Configuration] - [Network Protocols]

(2) 画面操作

1. プロトコルの情報を設定するため、ポート番号、タイムアウト時間などを指定し、[Apply] ボタンをクリックします。
   ポート番号、タイムアウト時間などが設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
E_00044	The Port number overlaps.
W_00435	Invalid Port number.
W_00436	Invalid Timeout value.
W_00437	The duplicate Port number was found.
W_00438	Timeout setting is invalid.
E_00439	SSL Server Certificate is not found.
I_00440	HTTP Connection will be lost. You will need to login again. Are you sure?

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5.5 [Refresh Rate] 画面

[Refresh Rate] 画面では、Web-UI 画面のうち、状態が変化する画面の自動更新を設定します。この設定は、ユーザー単位に設定・管理できます。

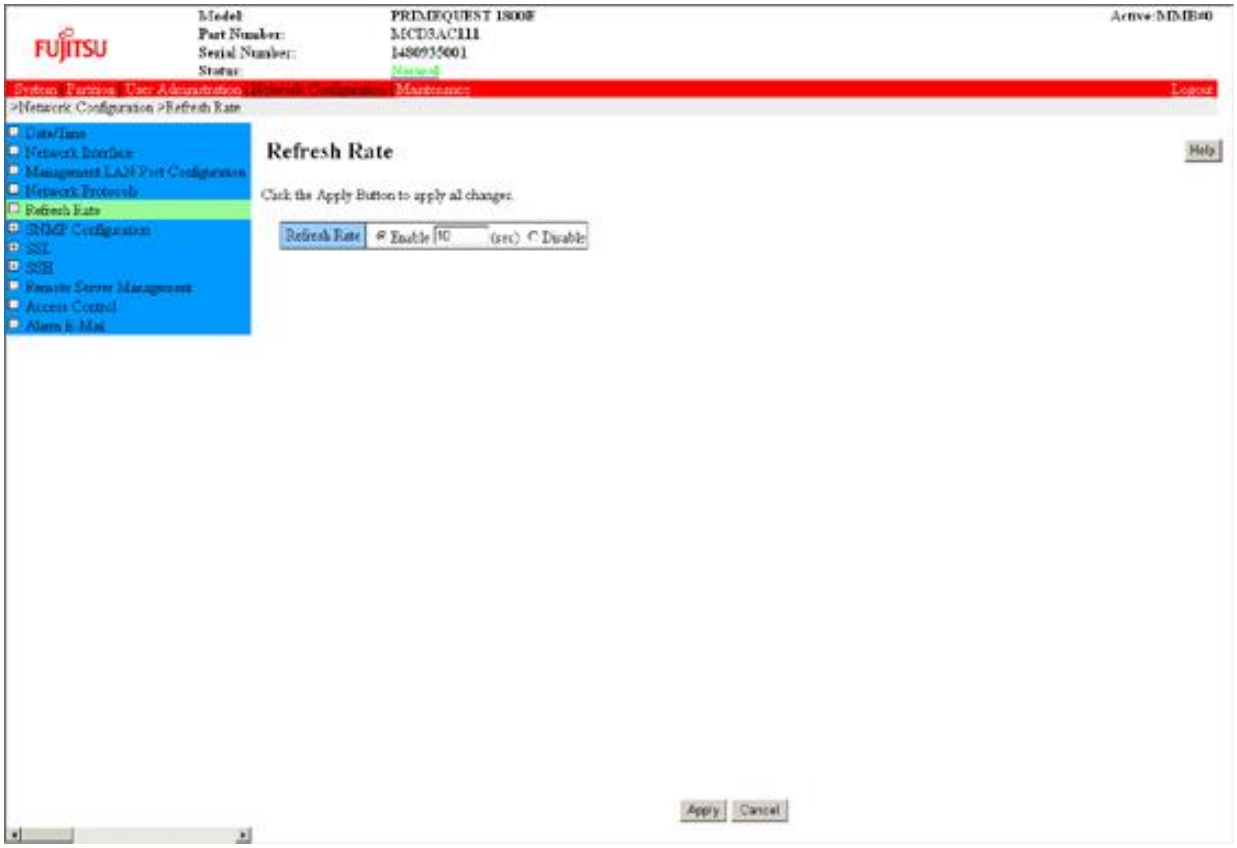


図 1.62 [Refresh Rate] 画面

表 1.98 [Refresh Rate] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Refresh Rate	表示内容が変化する Web-UI の画面を、自動的に更新するかどうかを設定する。 [Enable] を設定した場合は、自動更新の時間間隔を秒単位で設定できる。 指定可能な [Refresh Rate] の時間間隔は、5 ～ 999 秒。 デフォルトは、自動リフレッシュは Disable。

表 1.99 [Refresh Rate] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	リフレッシュの指定情報を設定する。
Cancel	リフレッシュの指定情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作

[Network Configuration] - [Refresh Rate]

(2) 画面操作

1. [Refresh Rate] の [Enable] または [Disable] を指定します。
   [Enable] の場合は、時間間隔を入力します。

2. [Apply] ボタンをクリックします。
   自動リフレッシュの情報が設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
W_00441	Range over error.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー

[SNMP Configuration] のメニューには、以下の画面があります。

■[SNMP Community] 画面
■[SNMP Trap] 画面
■[SNMP v3 Configuration] 画面

■[SNMP Community] 画面

[SNMP Community] 画面では、SNMP に関する設定ができます。
MMB では、最大 16 個の [Community/User] を設定できます。

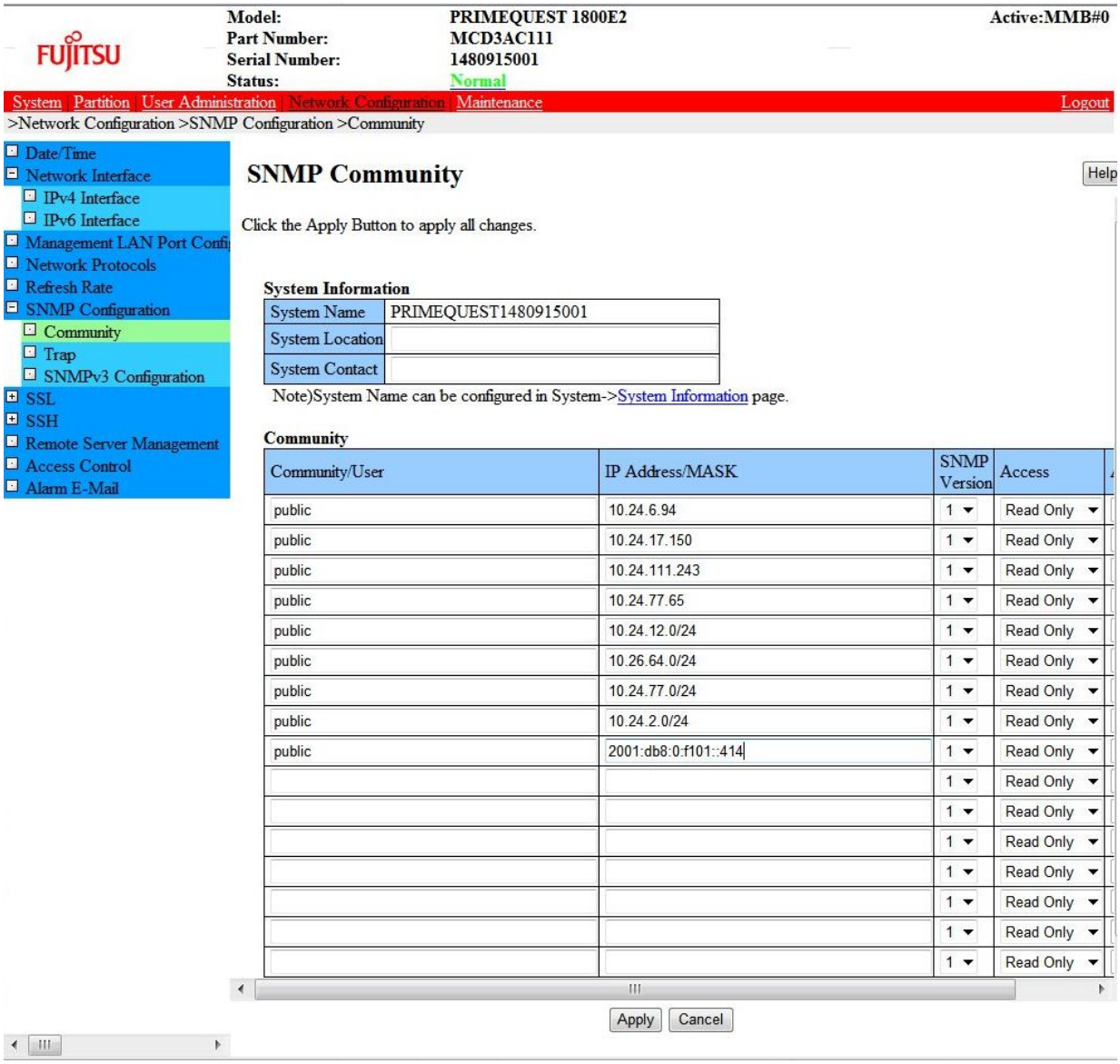


図 1.63 [SNMP Community] 画面

表 1.100 [SNMP Community] 画面の表示・設定項目

項目	内容
System Name	SNMP のシステム名を表示する。
System Location	SNMP の System Location を設定する。 英数字、半角スペースと以下の文字を使用できる。 ! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : ; * + ? < > . , / _ | ただし、以下の制限がある。 ・ #と半角スペースは先頭文字として使用できない。 ・ 半角スペースは最後の文字として使用できない。
System Contact	SNMP の System Contact を設定する。 System Contact に使用できる文字は [System Location] と同じ。

項目	内容
Community/User	SNMP v1、v2 の場合は SNMP Community ストリングを設定する。 SNMP v3 の場合は User 名を指定する。 英数字と以下の文字を使用できる。 ! " # $ % & '( ) * + , - . / @ [ ] ^_ ` { | } ~ ただし、「"」(ダブルクォーテーション)、「#」 (シャープ)、「'」(シングルクォーテーション)、「‘ 」 (バッククォーテーション) は先頭文字として使用できない。
IP Address/MASK	・IP アドレスを指定する場合：IP アドレスを指定する。 ・サブネットで指定する場合：サブネットおよびマスクを指定する。
SNMP Version	SNMP のバージョンを設定する。(1、2、3)
Access	読込みのみか、書込みも許可するのかを設定する。 ・ Read Only ・ Read Write
Auth	セキュリティレベルを設定する。 [SNMP Version] で [3] が選択された場合のみ設定可能となる。 ・ noauth：認証機能を利用しない。 ・ auth：認証機能を利用する。 ・ priv：認証機能および「プライバシー」機能 (データの暗号化) を利用する。 [SNMP Version] で [1] または [2] が選択されている場合は、本項目は設定できない (グレーアウト表示)。この場合のセキュリティレベルは、noauth のみ。

表 1.101 [SNMP Community] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した情報が設定される。
Cancel	コミュニティ、アクセスを許す IP アドレスなど、指定した情報は設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [SNMP Configuration] - [Community]

(2) 画面操作
- コミュニティなどの情報を設定する場合
  1. コミュニティ、アクセスを許す IP アドレス、SNMP バージョン、アクセス権限、認証などを入力し、[Apply] ボタンをクリックします。
     入力した情報が設定されます。

- コミュニティなどの情報を削除する場合
  1. コミュニティ、およびアクセスを許す IP アドレスをクリアし、[Apply] ボタンをクリックします。
     設定されていた情報がクリアされます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[SNMP Trap] 画面

[SNMP Trap] 画面では、SNMP トラップの送信先を設定します。
トラップ先は、最大 16 個まで設定できます。

図 1.64 [SNMP Trap] 画面

表 1.102 [SNMP Trap] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Community/User	SNMP v1、v2 の場合は SNMP Community ストリングを設定する。 SNMP v3 の場合は User 名を指定する。
IP Address	IPv4 または IPv6 の Trap 転送先の IP アドレスを設定する。
SNMP Version	SNMP のバージョンを設定する。(1、2、3)
Auth	セキュリティレベルを設定する。 [SNMP Version] で [3] が選択された場合のみ設定可能。 ・ noauth：認証機能を利用しない。 ・ auth：認証機能を利用する。 ・ priv：認証機能および「プライバシー」機能 (データの暗号化) を利用する。 [SNMP Version] で [1] または [2] に設定されている場合は、本項目は設定できない (グレーアウト表示)。この場合のセキュリティレベルは noauth のみ。
Auth Type	パスワードを暗号化するのに使用するハッシュ関数を指定する。 ・ MD5 ・ SHA [SNMP Version] で [3] が選択された場合のみ有効。[SNMP Version] で [1] または [2] に設定されている場合は、本項目は設定できない (グレーアウト表示)。
Auth passphrase	認証用のパスフレーズを設定する。 [SNMP Version] が [3]、かつ [Auth] に [auth]、または [priv] が設定されている場合のみ有効。
Priv passphrase	暗号化用のパスフレーズを設定する。 [SNMP Version] が [3]、かつ [Auth] に [priv] が設定されている場合のみ有効。

表 1.103 [SNMP Trap] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した情報が設定される。
Cancel	コミュニティまたはユーザー名、トラップ転送先の IP アドレスなどの指定した情報が設定されず元に戻る。
Test Trap	現在設定されているトラップディスティネーションに対してテスト用のトラップが送信される。

(1) メニュー操作

[Network Configuration] - [SNMP Configuration] - [SNMP Trap]

(2) 画面操作

・ SNMP トラップの情報を設定する場合

1. コミュニティまたはユーザー名、トラップ転送先の IP アドレス、SNMP バージョンおよび、認証レベルを入力して [Apply] ボタンをクリックします。
   入力した情報が設定されます。

・ テスト用のトラップを送信する場合

1. [Test Trap] ボタンをクリックします。
   テストトラップが送信されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[SNMP v3 Configuration] 画面

[SNMP v3 Configuration] 画面では、SNMP v3 に固有の Engine ID およびユーザーを設定します。
SNMPv3 ユーザーを最大 16 ユーザーまで登録できます。すでに登録されているユーザーは、名前が表示されます。

備考

Engine ID または IP アドレスを変更した場合、SNMP v3 アクセス用に設定したユーザーは最初からすべて設定しなおす必要があります。
設定したユーザーを有効にするためには、いったん SNMP サービスを停止させ再起動する必要があります。そのため、本画面で [Apply] ボタンをクリックした場合、一時的に SNMP サービスが停止され、自動で再起動されます。

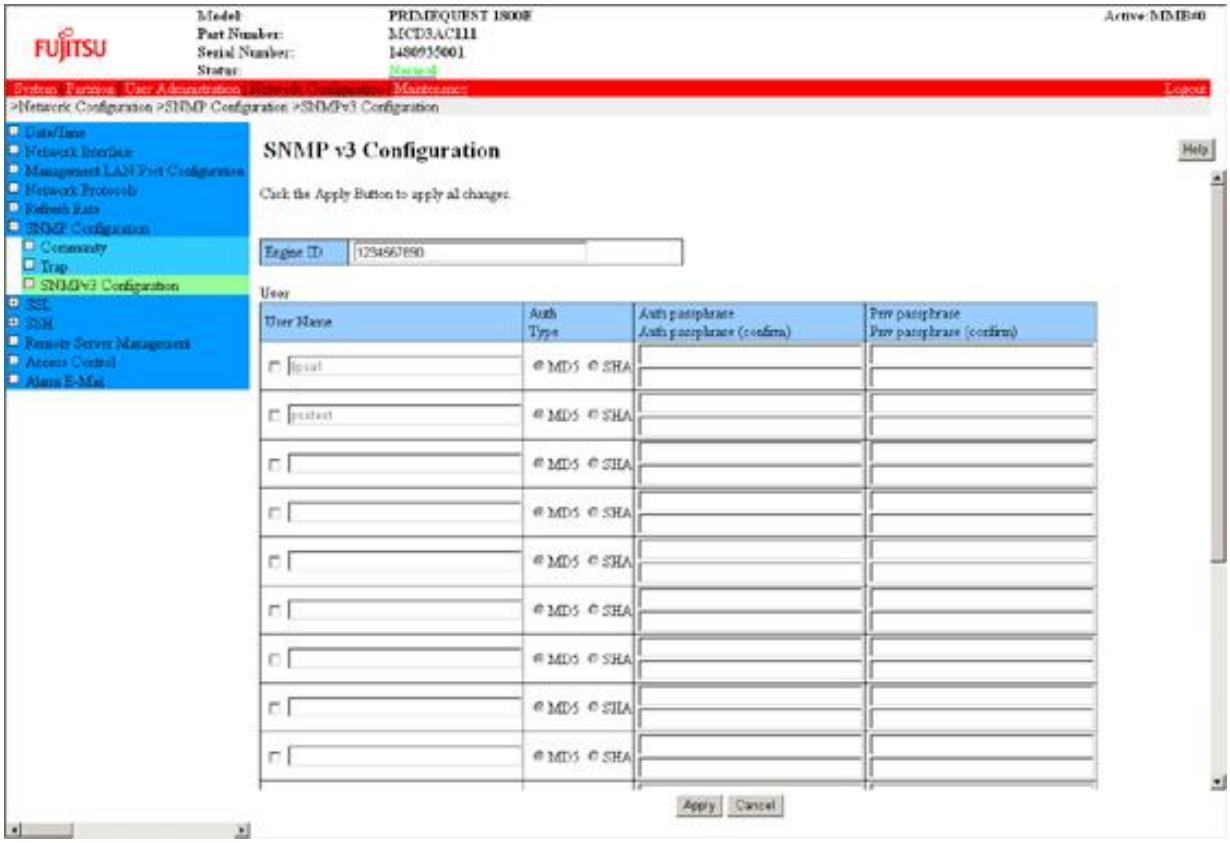


図 1.65 [SNMP v3 Configuration] 画面

表 1.104 [SNMP v3 Configuration] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Engine ID	Engine ID を設定する。 英数字、半角スペースと以下の文字を使用できる。 ! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : ; * + ? < > . , / _ | ただし、以下の制限がある。 ・ #と半角スペースは先頭文字として使用できない。 ・ 半角スペースは最後の文字として使用できない。

[Engine ID] 以外の表示・設定項目の説明は、「表 1.102 [SNMP Trap] 画面の表示・設定項目」を参照してください。

表 1.105 [SNMP v3 Configuration] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した情報を設定する。
Cancel	指定した情報は設定されず、元に戻る。

(1) メニュー操作

[Network Configuration] - [SNMP Configuration] - [SNMPv3 Configuration]

(2) 画面操作

・ 選択したユーザーの情報を修正する場合

1. ユーザーのチェックボックスをオンにし、必要な情報を入力して [Apply] ボタンをクリックします。
   選択したユーザーが反映されます。このとき、SNMP サービスはいったん停止され、再起動されます。

・ 選択したユーザーを無効にする場合

1. 無効にするユーザーのチェックボックスをオンにし、ユーザー名に何も入力せず、[Apply] ボタンをクリックします。
   選択したユーザーが無効になります。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5.7 [SSL] メニュー

[SSL] メニューには、 次の画面があります。

■[Create CSR] 画面
■[Export Key/CSR] 画面
■[Import Certificate] 画面
■[Create Selfsigned Certificate] 画面

■[Create CSR] 画面

[Create CSR] 画面では、秘密鍵と、それに対応する CSR (署名要求) を作成します。
下記の入力項目は認証局によって固有のガイドラインがあるため、送付先として選択した認証局のガイドラインに従って入力します。

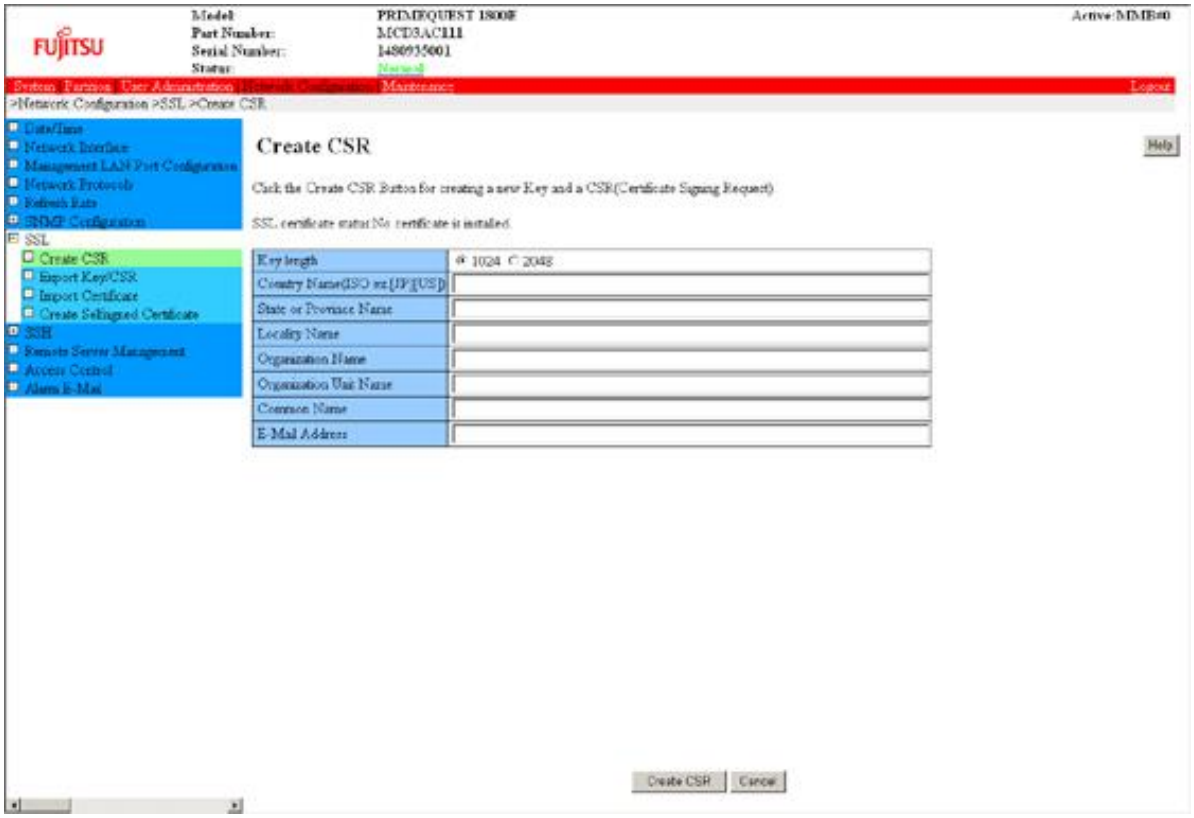


図 1.66 [Create CSR] 画面

表 1.106 [Create CSR] 画面の表示・設定項目

項目	内容
SSL certificate status	現在の SSL 証明書のインストール状況を表示する。 ・ No certificate is installed. ・ CSR has been generated. ・ A signed certificate is installed.
Key length	作成する秘密鍵の鍵長 (bit 数) を選択する。 ・ 1024 ・ 2048
Country Name	作成する CSR に設定される所有者の ISO 国コードを 2 文字の英字で設定する。 例： 日本「JP」、USA「US」
State or Province Name	作成する CSR に設定される所有者の都道府県名を 56 文字以内の指定可能文字で設定する。
Locality Name	作成する CSR に設定される所有者の都市名を 56 文字以内の指定可能文字で設定する。
Organization Name	作成する CSR に設定される所有者の組織名 (会社名) を 56 文字以内の指定可能文字で設定する。
Organization Unit Name	作成する CSR に設定される所有者の所属名を 56 文字以内の指定可能文字で設定する。

項目	内容
Common Name	作成する CSR に設定される所有者のサーバの FQDN を 56 文字以内の指定可能文字で設定する。たとえば、www.mycompany.com など。ブラウザは、この情報を使って Web サイトを確認する。ブラウザによっては、サーバ名と電子証明書に組み込まれている Common Name が一致しない場合、安全な接続の確立を拒否するものもある。Common Name には、プロトコル指定子 http:// やポート番号、パス名などを含めてはならない。また、"*"、"?" などのワイルドカードや IP アドレスの使用は禁止されている。
E-Mail Address	作成する CSR に設定される所有者の E-Mail アドレスを 40 文字以内の指定可能文字で設定する。

表 1.107 [Create CSR] 画面のボタン

ボタン	内容
Create CSR	秘密鍵と署名要求が作成される。
Cancel	指定した情報は設定されず、元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [SSL] - [Create CSR]

(2) 画面操作

1. 秘密鍵の長さ、所有者の ISO 国コードなどを指定して [Create CSR] ボタンをクリックします。
   新しい秘密鍵を作成すると以前の秘密鍵が使用できなくなる旨のダイアログボックスが表示されます。
2. ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
   新しい秘密鍵と署名要求が作成されます。作成時間が数分かかることがあり、作成が完了すると確認ダイアログボックスが表示されます。

図 1.67 確認ダイアログボックス

3. 新しい秘密鍵を設定する場合、確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
   作成した新しい秘密鍵が設定され、[Export Key/CSR] 画面が表示されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.

メッセージ番号	メッセージ文
W_00426	Invalid values specified.
I_00444	Previous private key will be overwritten with new private key. Are you sure?
I_00465	A new Key and a CSR are generated successfully. To use the new Key, click "OK" button.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Export Key/CSR] 画面

[Export Key/CSR] 画面では、MMB 内に格納されている秘密鍵または CSR (署名要求) を取り出せます。

注意

FireFox 4 以降を使用して [Export Key] ボタン／[Export CSR] ボタンをクリックすると、保存を確認するダイアログボックスが一瞬表示されて消えてしまいます。このため、秘密鍵がダウンロードできません。[Export Key/CSR] 画面を操作する場合は、Internet Explorer をお使いください。

備考

セキュリティ上、秘密鍵の保管には注意が必要です。
また、本秘密鍵に対して発行された電子証明書を使用するためには、この秘密鍵が必要となるため、秘密鍵を必ずバックアップしておくことを推奨します。

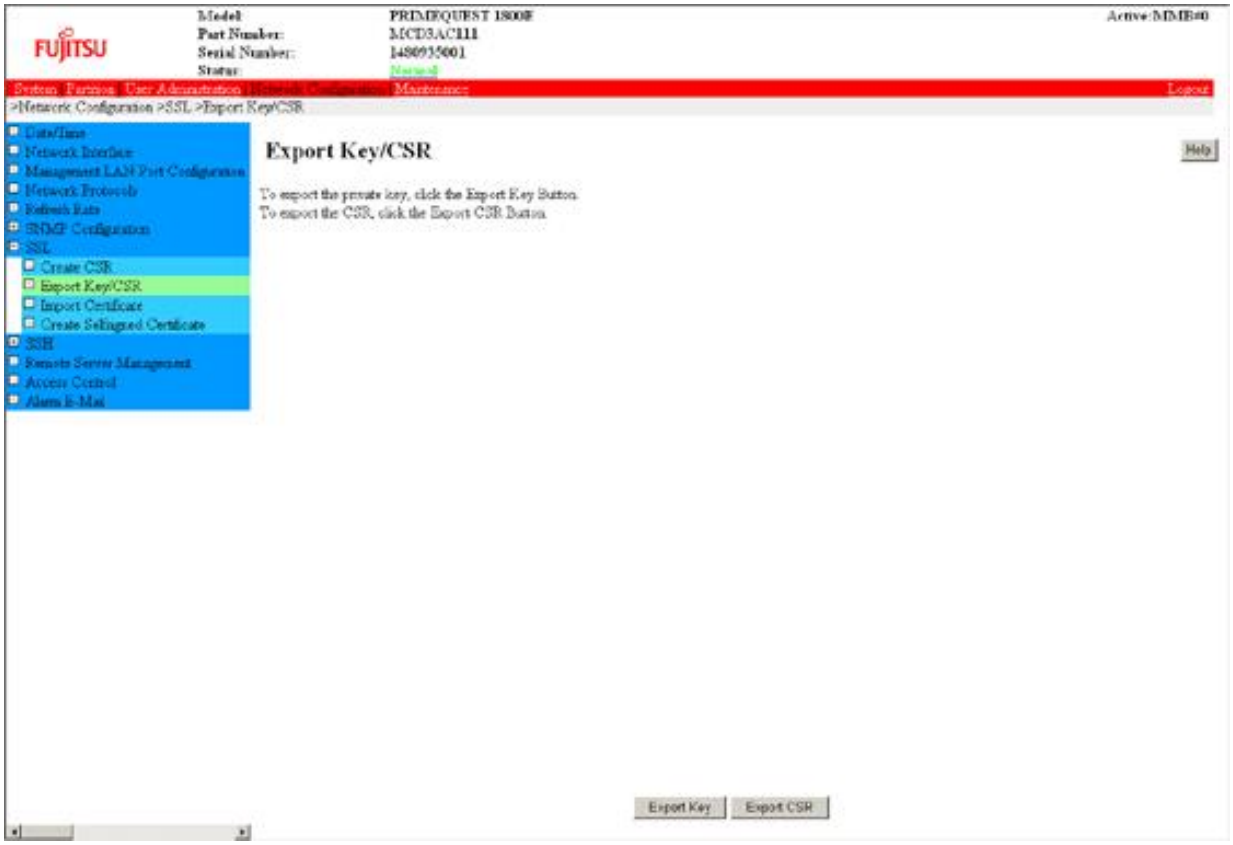


図 1.68 [Export Key/CSR] 画面

表 1.108 [Export Key/CSR] 画面のボタン

ボタン	内容
Export Key	秘密鍵が取り出される。
Export CSR	CSR が取り出される。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [SSL] - [Export Key/CSR]

(2) 画面操作
- 秘密鍵を取り出す場合
  1. [Export Key] ボタンをクリックします。
     ダイアログボックスが表示されます。
  2. 保存するパスを指定します。
     指定したパスに秘密鍵が保存されます。

- CSR を取り出す場合
  1. [Export CSR] ボタンをクリックします。
     ダイアログボックスが表示されます。
  2. 保存するパスを指定します。
     指定したパスに CSR が保存されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
I_00445	Private Key is exported. Are you sure?
I_00446	CSR is exported. Are you sure?
W_00447	Private Key doesn't exist.
W_00448	CSR doesn't exist.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Import Certificate] 画面

[Import Certificate] 画面では、認証局から送付されてきた署名済みの電子証明書を MMB にインポートできます。

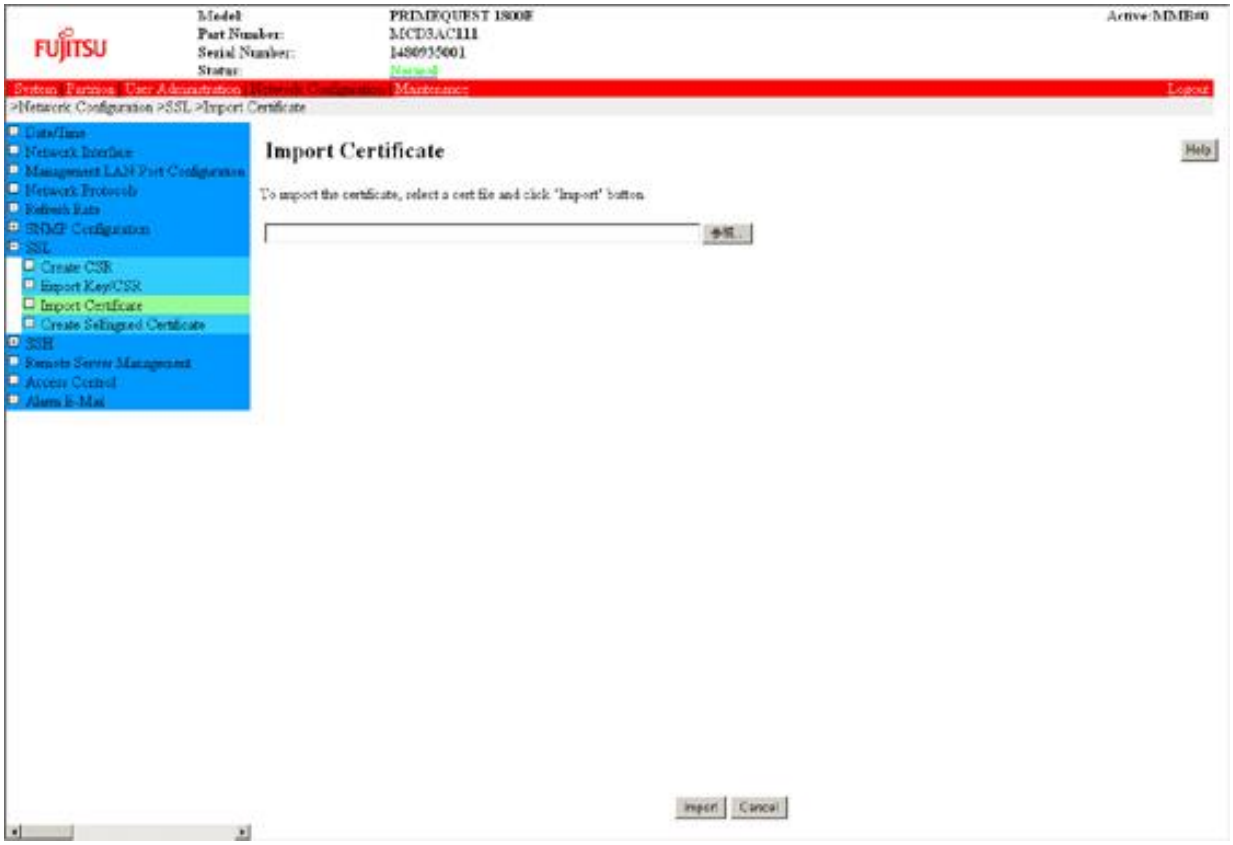


図 1.69 [Import Certificate] 画面

表 1.109 [Import Certificate] 画面のボタン

ボタン	内容
参照	インポートする電子証明書を選択する画面が表示される。
Import	電子証明書をインポートする。
Cancel	インポートを取り消す。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [SSL] - [Import certificate]

(2) 画面操作
1. [参照] ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択し、[Import] ボタンをクリックします。
   電子証明書がインポートされます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
I_00046	Importing has completed.

メッセージ番号	メッセージ文
E_00047	Importing failed.
W_00449	A certificate file is not selected yet.
I_00450	%aa is imported. Are you sure?

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Create Selfsigned Certificate] 画面

[Create Selfsigned Certificate] 画面では、自己署名した証明書が作成されます。

備考

自己署名証明書を作成する前に、[Network Protocols] 画面で HTTPS が [Disable] になっていることを確認してください。[Enable] の場合は、[Disable] に設定してから本画面の処理をします。

図 1.70 [Create Selfsigned Certificate] 画面

表 1.110 [Create Selfsigned Certificate] 画面の表示項目

項目	内容
Term	自己署名証明書の有効期限を日数で設定する。
その他の項目については、「■[Create CSR] 画面」を参照。	

表 1.111 [Create Selfsigned Certificate] 画面のボタン

ボタン	内容
Create Selfsigned Certificate	自己署名証明書が作成される。
Cancel	証明書の作成を中止する。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [SSL] - [Create Selfsigned Certificate]

(2) 画面操作
1. 自己署名証明書を作成する前に、[Network Protocols] 画面の項目の [HTTPS] が [Disable] になっていることを確認します。
2. 秘密鍵の長さ、所有者の ISO 国コードなどを指定して [Create Self-signed Certificate] ボタンをクリックします。
   確認のダイアログボックスが表示されます。
3. ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
   自己署名証明書が作成されます。作成には数分かかります。作成が完了すると画面が更新され、「SSL certificate status: A signed certificate is installed.」と自己署名証明書がインストールされたことが表示されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
W_00426	Invalid values specified.
I_00444	Previous private key will be overwritten with new private key. Are you sure?

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5.8 [SSH] メニュー

[SSH] メニューには、[Create SSH Server Key] 画面があります。

■[Create SSH Server Key] 画面

[Create SSH Server Key] 画面では、SSH サーバのプライベートキーを作成できます。

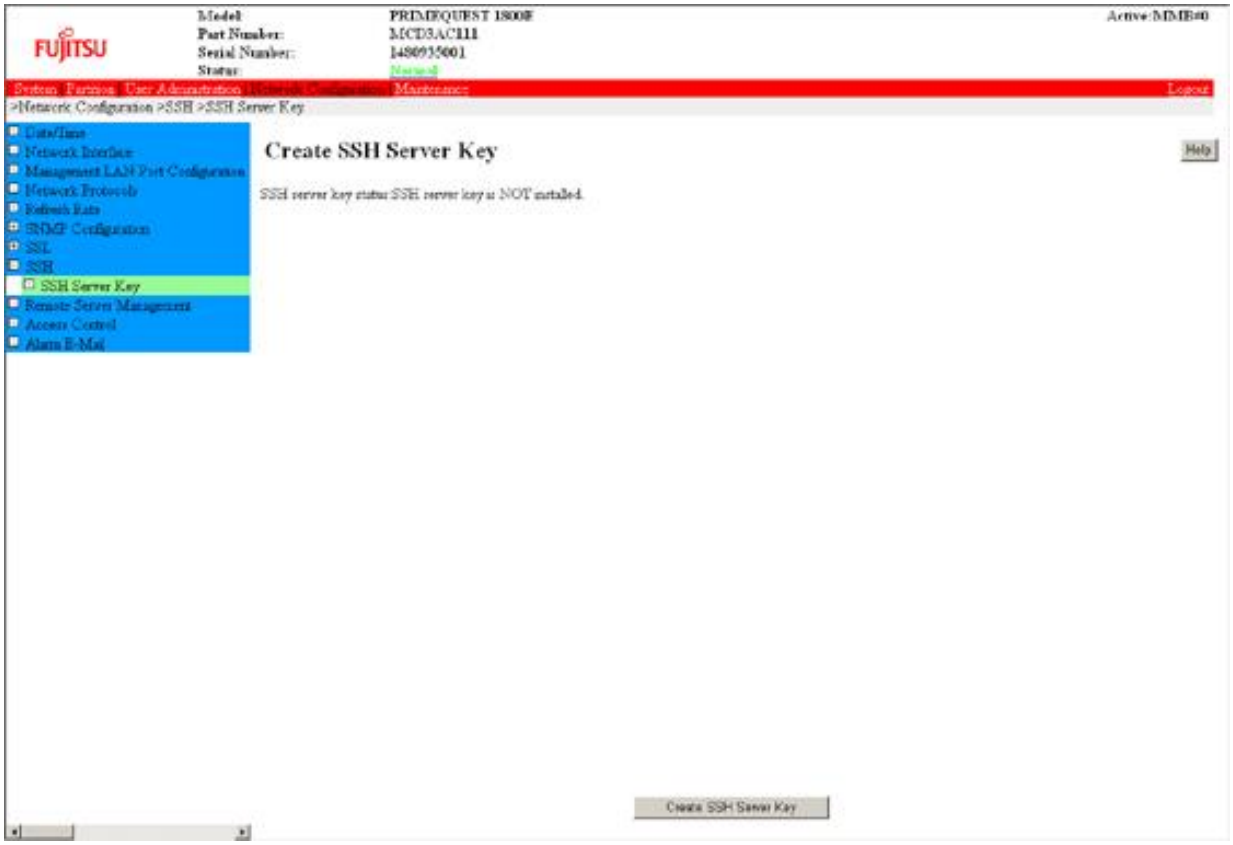


図 1.71 [Create SSH Server Key] 画面

表 1.112 [Create SSH Server Key] 画面のボタン

ボタン	内容
Create SSH Server Key	SSH サーバのプライベートキーが作成される。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [SSH] - [Create SSH Server Key]

(2) 画面操作
1. プライベートキーを作成する前に、[Network Protocols] 画面の項目の [SSH] が [Disable] になっていることを確認します。
2. [Create SSH Server Key] ボタンをクリックします。
   プライベートキーが作成されます。作成には数分かかることがあります。作成が完了すると確認ダイアログボックスが表示されます。
3. 新しく作成したプライベートキーを登録する場合、[OK] ボタンをクリックします。新しく作成したプライベートキーが登録されます。
   新しく作成したプライベートキーを登録しない場合、[Cancel] ボタンをクリックします。作成した新しいプライベートキーは破棄されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
I_00453	SSH Server Key is generated successfully. To install this new SSH Server Key click "OK" button.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5.9 [Remote Server Management] 画面

[Remote Server Management] 画面では、リモートから RMCP で MMB を制御するために必要なユーザーを設定します。
最大で 24 ユーザーまで登録できます。
デフォルトでは、すべてのユーザーは [Disabled] 状態かつ [No Access] に設定されています。また、デフォルトのユーザー名として [User1] から [User24] までそれぞれ名前が設定されています。
リモートから RMCP を使って MMB を制御する場合は、[User Name]、[Password]、[Privilege] を設定して、制御する MMB のユーザーを [Enabled] 状態にする必要があります。
[Enabled] 状態のユーザー名とパスワードを使って、リモートからのアクセスを認証します。

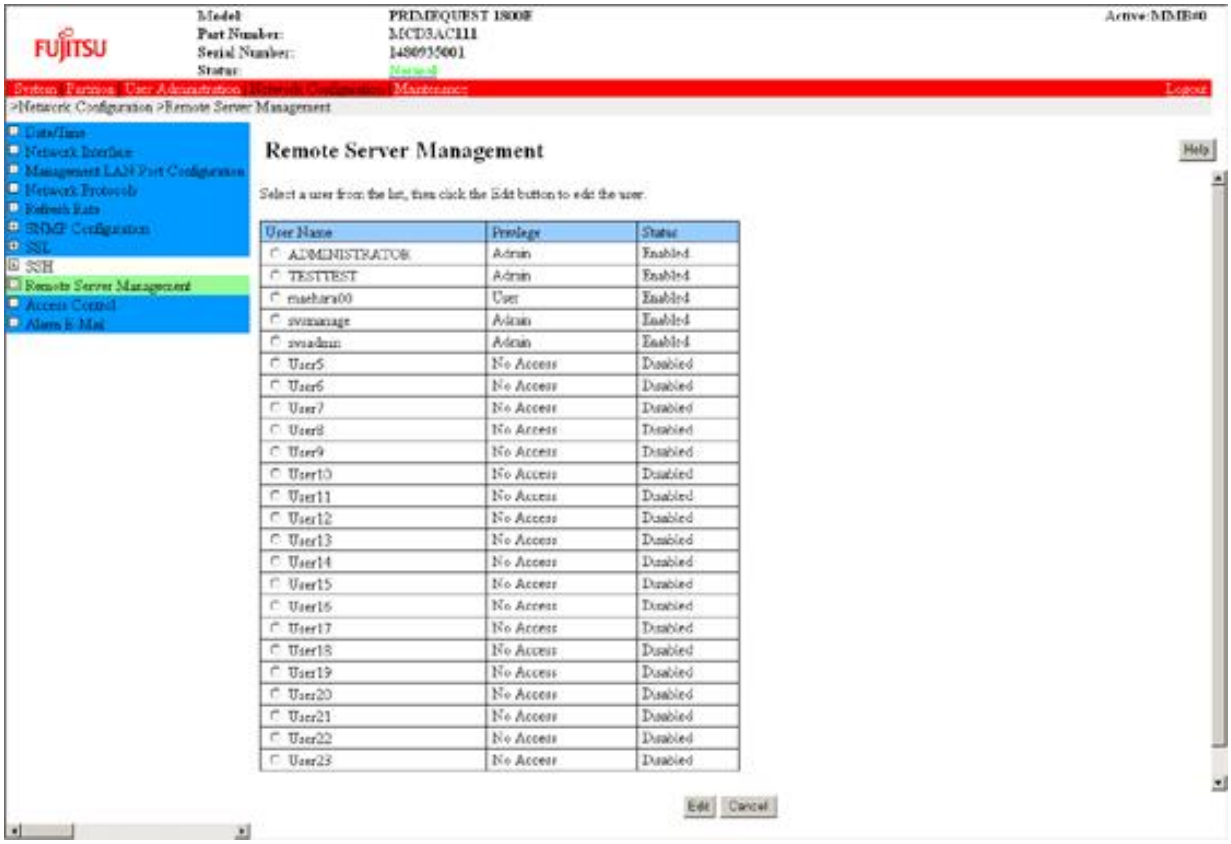


図 1.72 [Remote Server Management] 画面

表 1.113 [Remote Server Management] 画面の表示・設定項目

項目	内容
User Name	ユーザー名を設定する。 入力可能文字数は、8 文字以上 16 文字以下。
Privilege	ユーザーアカウント権限を設定する。 ・ Admin ・ Operator ・ User ・ CE ・ No Access (No Access を選択したユーザーは、リモートからアクセスすることはできない。)
Status	現在のアカウントの状態を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled

表 1.114 [Remote Server Management] 画面のボタン

ボタン	内容
Edit	[Edit User] 画面が表示される。
Cancel	選択したユーザーの管理情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Remote Server Management]

(2) 画面操作
1. 設定するユーザーのラジオボタンをオンにし、[Edit] ボタンをクリックします。
   [Edit User] 画面が表示されます。
2. [Edit User] 画面でユーザー管理情報を設定します。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00053	Failed to get user status. Retry 60 seconds later.
W_00413	Nothing is selected.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Edit User] 画面

[Edit User] 画面では、ユーザーの管理情報が変更できます。

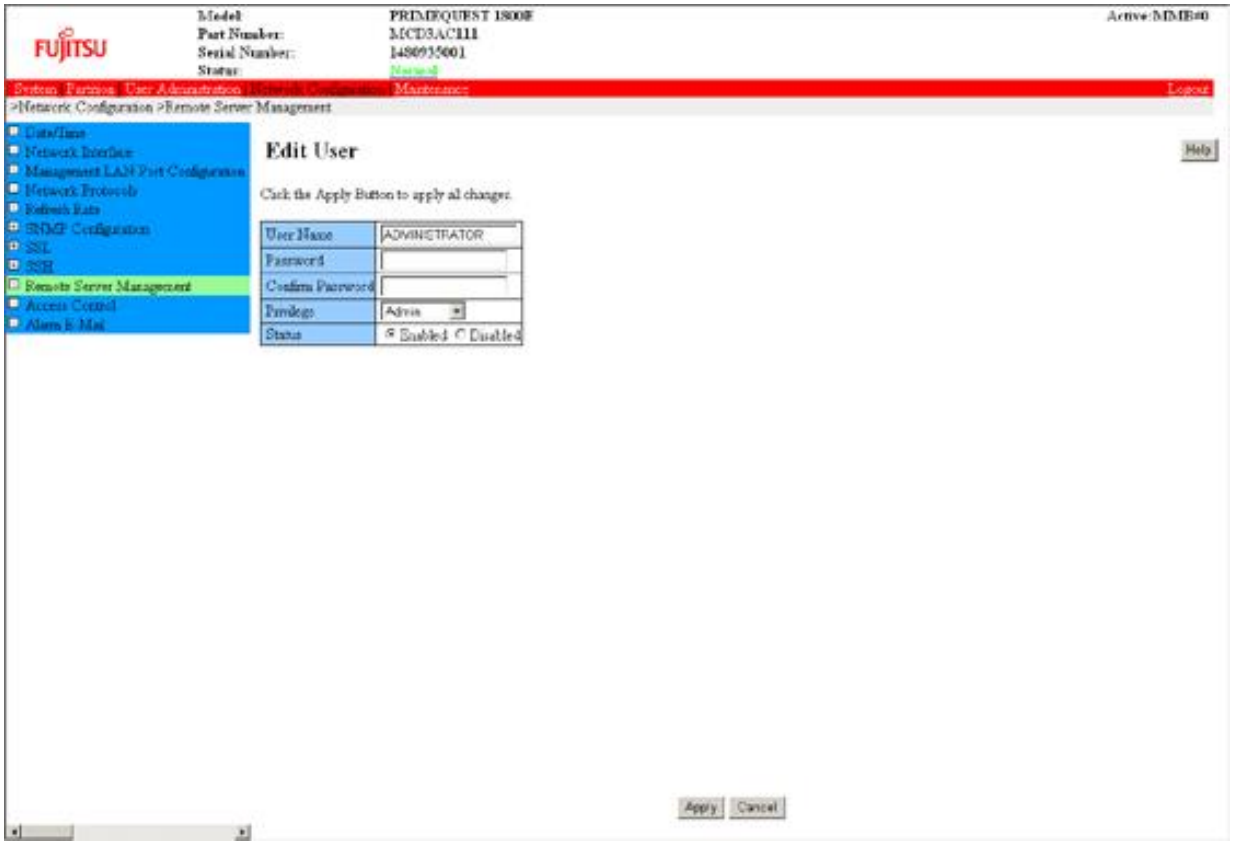


図 1.73 [Edit User] 画面

表 1.115 [Edit User] 画面の表示・設定項目

項目	内容
User Name	ユーザー名を設定する。 入力可能文字数は、8 文字以上 16 文字以下。 ユーザー名に使用できる文字は以下のとおり。 [0-9]、[a-z]、[A-Z] (英数字のみ)
Password	パスワードを設定する。 入力可能文字数は、8 文字以上 16 文字以下。 パスワードに使用できる文字は以下のとおり。 [0-9]、[a-z]、[A-Z] (英数字のみ)
Confirm Password	確認のためのパスワードをもう一度入力する。
Privilege	ユーザーアカウント権限を設定する。 ・ Admin ・ Operator ・ User ・ CE ・ No Access (No Access を選択したユーザーは、リモートからアクセスすることはできない。)
Status	現在のアカウントの状態を設定する。 ・ Enabled

項目	内容
	・ Disabled

表 1.116 [Edit User] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した管理情報が設定される。
Cancel	ユーザー名、パスワードなどの指定した情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Remote Server Management] - [Edit] ボタン

(2) 画面操作
1. ユーザー名、パスワードなどのユーザーの管理情報を指定し、[Apply] ボタンをクリックします。
   ユーザーの管理情報が設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
W_00401	Username is too short.
W_00402	Password is too short.
W_00454	%aa is duplicated.
W_00406	Invalid character is included in UserName.
W_00403	Invalid character is included in Password.
W_00455	Both passwords are mismatched. Please try again.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5.10 [Access Control] 画面

[Access Control] 画面では、MMB のセキュリティを確保するため、ネットワークプロトコルに対してアクセス制御ができます。
最大 64 個のフィルタを設定可能です。フィルタは、プロトコル名のアルファベット順に表示されます。

備考
アクセス制御のフィルタは、同じ設定内容で複数登録できますが、動作には問題ありません。

図 1.74 [Access Control] 画面

表 1.117 [Access Control] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Select	設定を変更するフィルタを選択する。
Protocol	IP フィルタリングの対象となるプロトコルを表示する。 ・ HTTP ・ HTTPS ・ Telnet ・ SSH ・ SNMP
Access Control	アクセス制御を行うかどうかを設定する。 ・ Enabled ・ Disabled
IP Address	接続を許可する IP アドレスを表示する。

項目	内容
Subnet Mask	IPv4 の場合、接続を許可する IP アドレスのサブネットマスクを表示する。 IPv6 の場合、プレフィックス長を表示する。

表 1.118 [Access Control] 画面のボタン

ボタン	内容
Add Filter	新規にフィルタを追加するための [Add Filter] 画面が表示される。
Edit Filter	フィルタを編集するための [Edit Filter] 画面が表示される。
Remove Filter	選択したフィルタが削除される。
Cancel	設定した情報が設定されずに、元に戻る。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Access Control]

(2) 画面操作
- 新規にフィルタを追加する場合
  1. [Add Filter] ボタンをクリックします。
     [Add Filter] 画面が表示されます。
  2. [Add Filter] 画面でフィルタを設定し、[Apply] ボタンをクリックします。
     新たなフィルタが追加されます。

- フィルタを編集する場合
  1. [Select] のラジオボタンで編集対象のフィルタをオンにし、[Edit Filter] ボタンをクリックします。
     [Edit Filter] 画面が表示されます。
  2. [Edit Filter] 画面でフィルタを編集し、[Apply] ボタンをクリックします。

- フィルタを削除する場合
  1. [Select] のラジオボタンで削除対象のフィルタをオンにし、[Remove Filter] ボタンをクリックします。
     削除を確認するダイアログボックスが表示されます。
  2. [OK] ボタンをクリックします。
     フィルタは削除され [Access Control] 画面に戻ります。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
E_00412	You need an empty entry.
W_00413	Nothing is selected.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Add Filter]/[Edit Filter] 画面

[Access Control] 画面で [Add Filter] ボタンまたは [Edit Filter] ボタンをクリックすると、[Add Filter] 画面または [Edit Filter] 画面が表示されます。
[Add Filter] 画面と [Edit Filter] 画面は、画面タイトルが異なるだけで、設定項目は共通です。ここでは、[Add Filter] 画面で説明します。

図 1.75 [Add Filter] 画面

表 1.119 [Add Filter] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Protocol	IP フィルタリングの対象となるプロトコルを設定する。プルダウンメニューから選択する。 ・ HTTP ・ HTTPS ・ Telnet ・ SSH ・ SNMP
Access Control	アクセス制御をするかどうかを設定する。 ・ Disable：[Protocol] で選択したプロトコルに対するアクセスがすべての IP に対して許可される。[IP Address]、[Subnet Mask] は入力禁止となる。 ・ Enable：[Protocol] で選択したプロトコルに対してアクセスを許可する [IP Address]、[Subnet Mask] を設定する。
IP Address	接続を許可する IP アドレス (IPv4 または IPv6) を入力する。 **備考** IPv4 の場合、あるサブネット内の特定 IP アドレスにだけ接続を許可するには、その IP アドレスを設定して、[Subnet Mask] には「255.255.255.255」を設定する。 IPv6 の場合、プレフィックス長を表示する。 例) 特定の IP をアクセス制御したい場合 (例：192.168.60.60/255.255.255.0) IP Address：192.168.60.60 Subnet Mask：255.255.255.0 (24bit マスクで使用してる IP のため) ・ 上記のように設定した場合は、192.168.60.60 の IP だけでなく、192.168.60.0/24 のサブネット内でアクセス制御が有効になる。
Subnet Mask	接続を許可する IP アドレスのサブネットマスクを入力する。

表 1.120 [Add Filter] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した情報が設定される。
Cancel	プロトコル、アクセスコントロールなどの指定した情報が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作

[Network Configuration] - [Access Control] - [Add Filter] ボタン/[Edit Filter] ボタン

(2) 画面操作

1. [Protocol]、[Access Control] を指定します。
2. [Access Control] を [Enable] に設定した場合は、[IP Address]、[Subnet Mask] を入力して、[Apply] ボタンをクリックします。

[Access Control] を [Disable] に設定した場合は、そのまま [Apply] ボタンをクリックします。
フィルタが追加または編集されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00013	Setting completed.
W_00432	Invalid IP Address specified.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.5.11 [Alarm E-Mail] 画面

[Alarm E-Mail] 画面は、PRIMEQUEST 1000 シリーズでイベントが発生したときに E-Mail で通知する設定をします。

図 1.76 [Alarm E-Mail] 画面

表 1.121 [Alarm E-Mail] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Alarm E-Mail	イベント発生時に Alarm E-Mail を送信するかどうかを設定する。 ・ Enable ・ Disable
From:	送信元の E-Mail アドレスを設定する。 [Use envelope "from" address] のチェックボックスをオンにすると、[From:] のアドレスを送信元の E-Mail アドレスとして設定し、メールを送信する。デフォルトはオフ。 メールサーバは Alarm E-Mail を受信すると、[From:] で設定されているアドレスをメールヘッダの Return-Path に設定する。また、メーリングリストの場合は、[From:] で設定されているアドレスの代わりにメーリングリストの管理者のアドレスを Return-Path に設定する。

項目	内容
	ただし、Return-Path の設定はメールサーバの設定に依存するため、Return-Path が設定されない場合もある。
To:	送信先の E-Mail アドレスを設定する。 複数設定する場合は、「,」 (カンマ) で区切る。
SMTP Server	SMTP サーバの IP アドレスまたは FQDN を設定する。 FQDN が設定できるのは、DNS を設定している場合のみ (DNS サーバは、[Network Configuration] - [Network Interface] から設定できる)。
Subject	メールの件名を設定する。

E-Mail アドレスは、"ユーザー名"@"ドメイン名"の形式です。"ユーザー名"、および、"ドメイン名" 部で使用可能な文字は、それぞれ RFC 2822、RFC 1034 に従います。

たとえば、

- "ユーザー名" には、英数字と ! # $ % & ' * + - / = ? ^ _ ` { | } ~ .が使用可能である。
- ただし、「.」は先頭文字と最後の文字には使用できない (詳細は、RFC 2822 参照)。

"ドメイン名" には、英数字と「-」のみが使用可能です。ただし、ドメイン名の先頭文字は英文字のみ、また、最後の文字は英数字のみという制約があります (詳細は、RFC 1034 参照)。
Subject には、英数字と ! # " $ % & ' ( ) * + - . / _ ~ とスペースが使用可能です。

表 1.122 [Alarm E-Mail] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	指定した情報を設定する。
Cancel	Alarm E-Mail 送信の可否、送信元の E-Mail アドレスなどの指定した情報が設定されず元に戻る。
Filter	Alarm E-Mail を送信するイベントの条件を設定するための [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面を表示する。
Test E-Mail	確認用の Alarm E-Mail を、設定した送信先に送信する。

(1) メニュー操作
[Network Configuration] - [Alarm E-Mail]

(2) 画面操作

1. Alarm E-Mail 送信の可否、送信元の E-Mail アドレスなどを指定します。
2. Alarm E-Mail を送信するイベントに対してフィルタを設定する場合、[Filter] ボタンをクリックします。
   [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面が表示されます。
3. [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面でフィルタを設定します。
4. Alarm E-Mail のテスト送信をする場合には、[Test E-Mail] ボタンをクリックします。
   確認用の Alarm E-Mail が、設定されている送信先に送信されます。
5. [Apply] ボタンをクリックします。

画面で指定した項目が設定されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
I_00001	Command Completed
I_00013	Setting completed.
W_00456	Invalid E-Mail address format.
W_00457	Invalid SMTP server address.
I_00458	Please check a Subject.
W_00459	Alarm E-Mail is disabled.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面

[Alarm E-Mail] 画面で [Filter] ボタンをクリックすると、[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面が表示されます。
[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面では、Alarm E-Mail を送信するイベントのフィルタ条件を設定できます。
各項目は AND 条件です。

PRIMEQUEST 1400S2/1400S の場合、IOB、GSPB、PCI ボックスの搭載数は 1 個のため、「IOB#x」のような番号表示はされず、「IOB」などと表示されます。

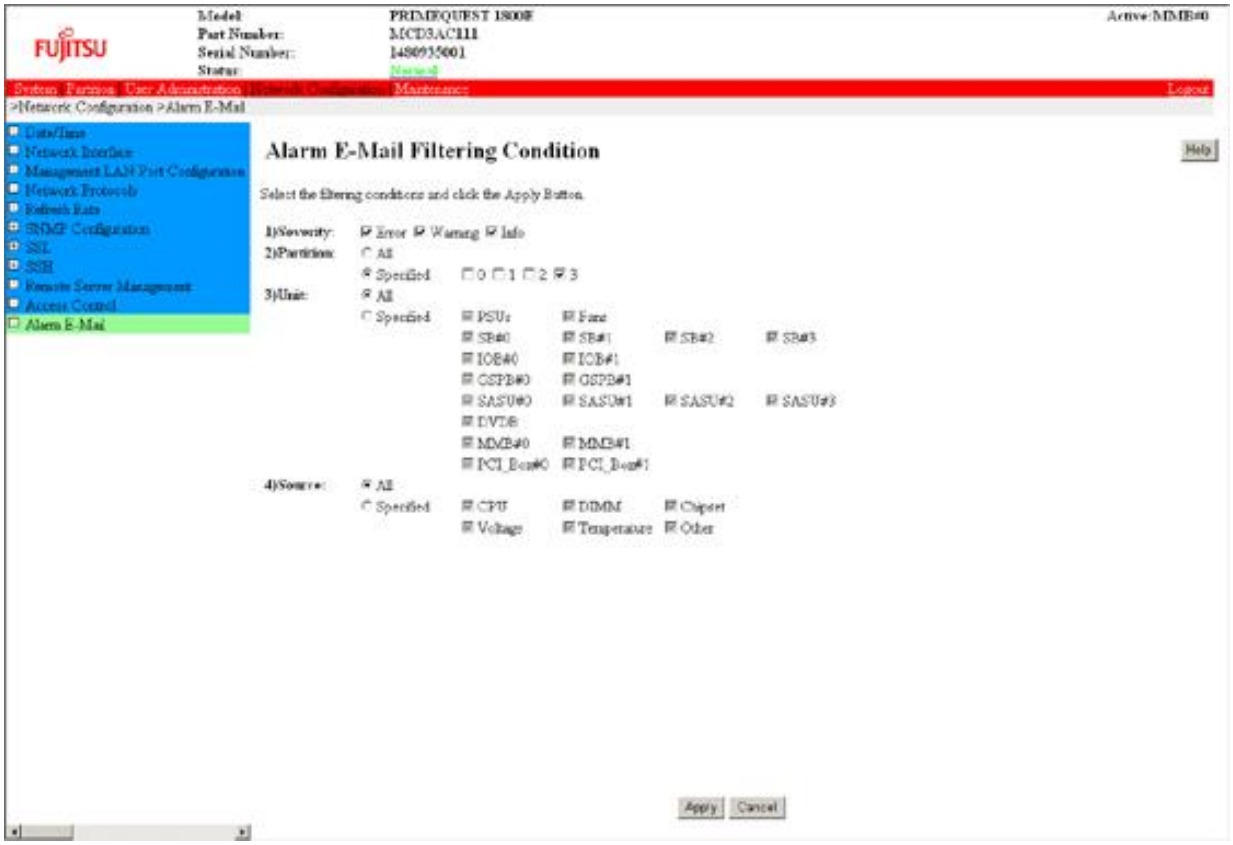


図 1.77 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面

表 1.123 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の表示・設定項目

項目	説明
Severity	表示する Severity を選択する。複数選択可。 ・ Error ・ Warning ・ Info デフォルトはすべてオン。
Partition	表示するパーティションを選択する。複数選択可。 デフォルトはすべてオン。
Unit	表示する対象ユニットを選択する。 ラジオボタンで[All] か[Specified] かを選択する。 All：ユニットによるフィルタリングをしない。 Specified：ユニット単位のフィルタリングが設定可能となる。表示するユニットのチェックボックスをオンにする。 デフォルトは All。
Source	表示対象の Source を選択する。 ラジオボタンで [All] か [Specified] かを選択する。 All：[Source] によるフィルタリングをしない。 Specified：Source 単位のフィルタリングが設定可能となる。表示する Source のチェックボックスをオンにする。

項目	説明
	デフォルトは All。

表 1.124 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	フィルタリング条件が設定される。
Cancel	[Severity]、[Partition]、[Unit] などの指定した条件が設定されず元に戻る。

(1) メニュー操作

[Network Configuration] - [Alarm E-Mail] - [Filter] ボタン

(2) 画面操作

1. [Severity]、[Partition]、[Unit] などを指定し、[Apply] ボタンをクリックします。
   指定したフィルタリング条件が設定されます。

1.6 [Maintenance] メニュー

[Maintenance] メニューでは、PRIMEQUEST 1000 シリーズのメンテナンスができます。

1.6.1 [Firmware Update] メニュー

[Firmware Update] メニューには、以下の画面があります。

■[Unified Firmware Update] 画面

■[Unified Firmware Update] 画面

[Unified Firmware Update] 画面では、ファームウェアアップデートを一括処理します。
ファームウェア一式が MMB にアップロードされ、新版および旧版の 2 世代のファームウェアが保持されます。
ファームウェアごとにバージョンを確認し、同一版数の場合はファームウェアのアップデート処理をせず、版数が違う場合にのみアップデート処理をします。

注意

MMB あるいは SB が故障している場合は、ファームウェアアップデートの前に保守を行ってください。故障した MMB あるいは SB が構成内に存在するときには、ファームウェアアップデートを実施しないでください。

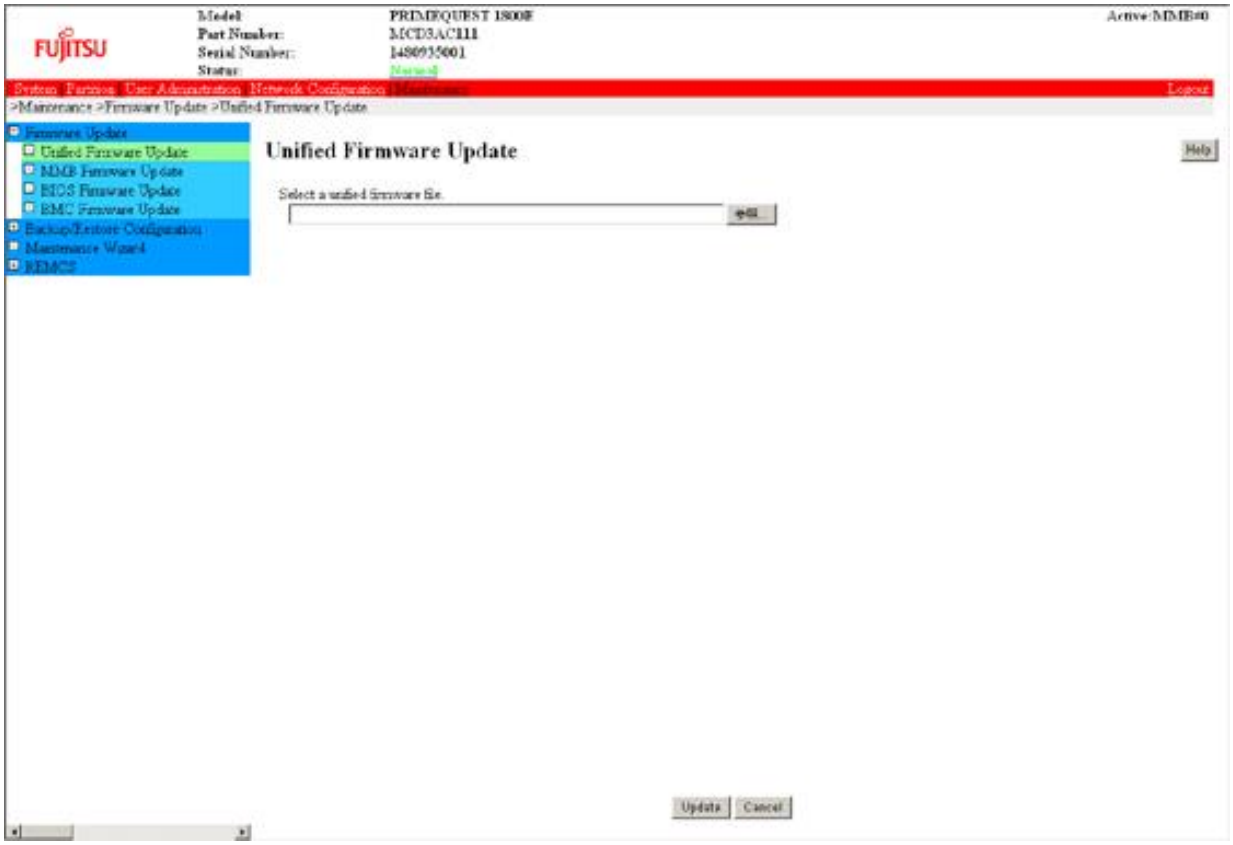


図 1.78 [Unified Firmware Update] 画面

(1) メニュー操作

[Maintenance] - [Firmware Update] - [Unified Firmware Update]

(2) 画面操作

1. [参照] ボタンをクリックし、一括ファームウェアアップデートファイルを選択します。
2. [Update] ボタンをクリックします。
   一括ファームウェアアップデートを行うバージョンを確認する画面が表示されます。
3. アップデートを行う場合は、[OK] ボタンをクリックします。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
W_00476	Unable to execute the online update. Please try the update after the system power off.
W_00477	Select the file of update.
W_00478	Unable to execute the update. Standby MMB is fault or disable.
W_00479	Unable to execute the update. TPM is effective.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.6.2 [Backup/Restore Configuration] メニュー

[Backup/Restore Configuration] メニューには、以下の画面があります。

■[Backup/Restore MMB Configuration] 画面
■[Backup BIOS Configuration] 画面
■[Restore BIOS Configuration] 画面

■[Backup/Restore MMB Configuration] 画面

[Backup/Restore MMB Configuration] 画面では、MMB のコンフィグレーション情報のバックアップ、リストアができます。

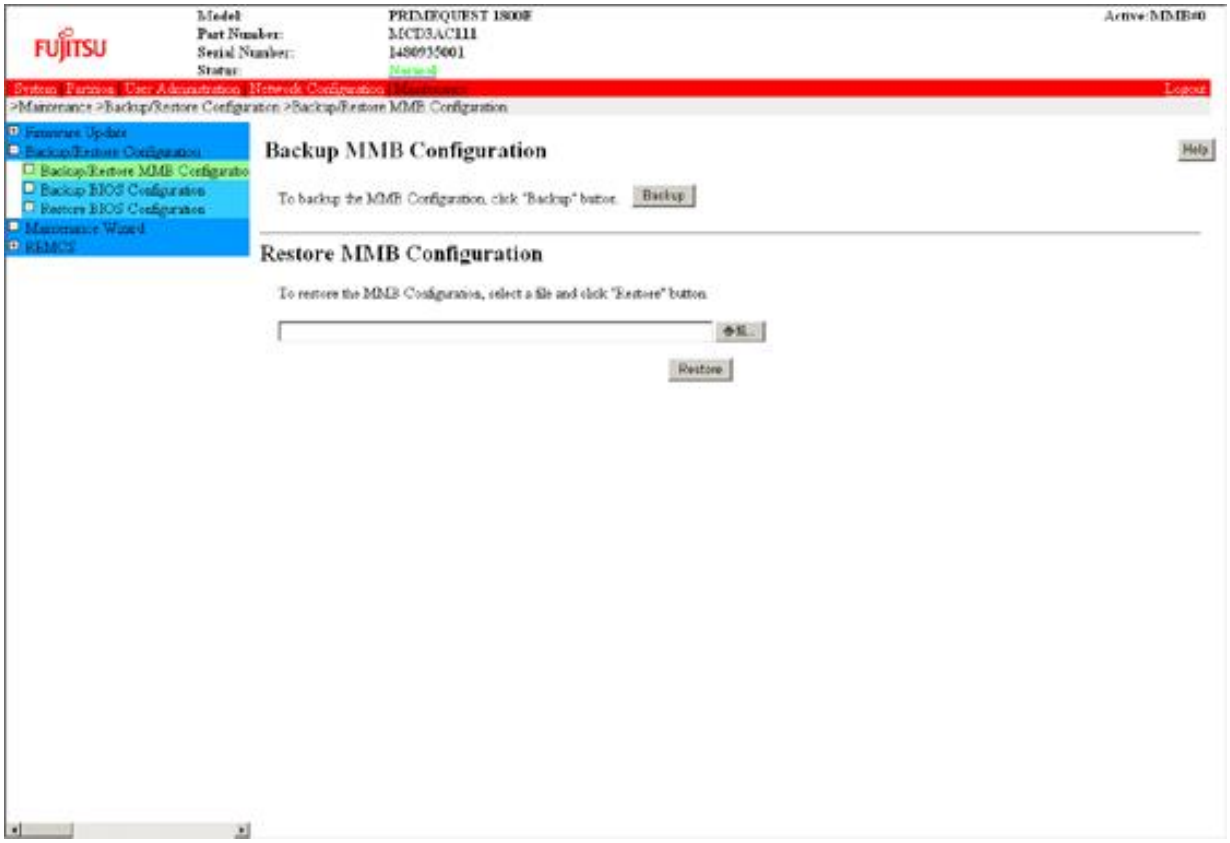


図 1.79 [Backup/Restore MMB Configuration] 画面

(1) メニュー操作

[Maintenance] - [Backup/Restore Configuration] - [Backup/Restore MMB Configuration]

(2) 画面操作

- MMB コンフィグレーション情報をバックアップする場合
  1. [Backup] ボタンをクリックします。
     ブラウザの格納先ダイアログボックスが表示されます。
  2. 格納先ダイアログボックスで格納パスを選択して、[OK] ボタンをクリックします。
     MMB のコンフィグレーションファイルがダウンロードされます。
     退避する MMB のコンフィグレーションファイルのデフォルト名は、以下のとおりです。
     MMB_(退避した日付)_(MMB バージョン).dat

- MMB コンフィグレーション情報をリストアする場合
  1. システムが全停止していることを確認します。
  2. [参照] ボタンをクリックし、バックアップされた MMB コンフィグレーションファイルを選択します。
  3. [Restore] ボタンをクリックします。
     MMB へファイルが転送され、リストアを確認するための [MMB Configuration File Information:] ダイアログボックスが表示されます。
  4. [MMB Configuration File Information:] ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックします。
     MMB コンフィグレーション情報がリストアされます。
  5. リストアしたデータを有効にするため、MMB がリブートされます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00055	Failed to restore the MMB Configuration.
E_00056	Failed to backup the MMB Configuration.
E_00057	Specified file can not restore.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Backup BIOS Configuration] 画面

[Backup BIOS Configuration] 画面では、BIOS のコンフィグレーション情報を、ブラウザが動作している PC 上に退避できます。

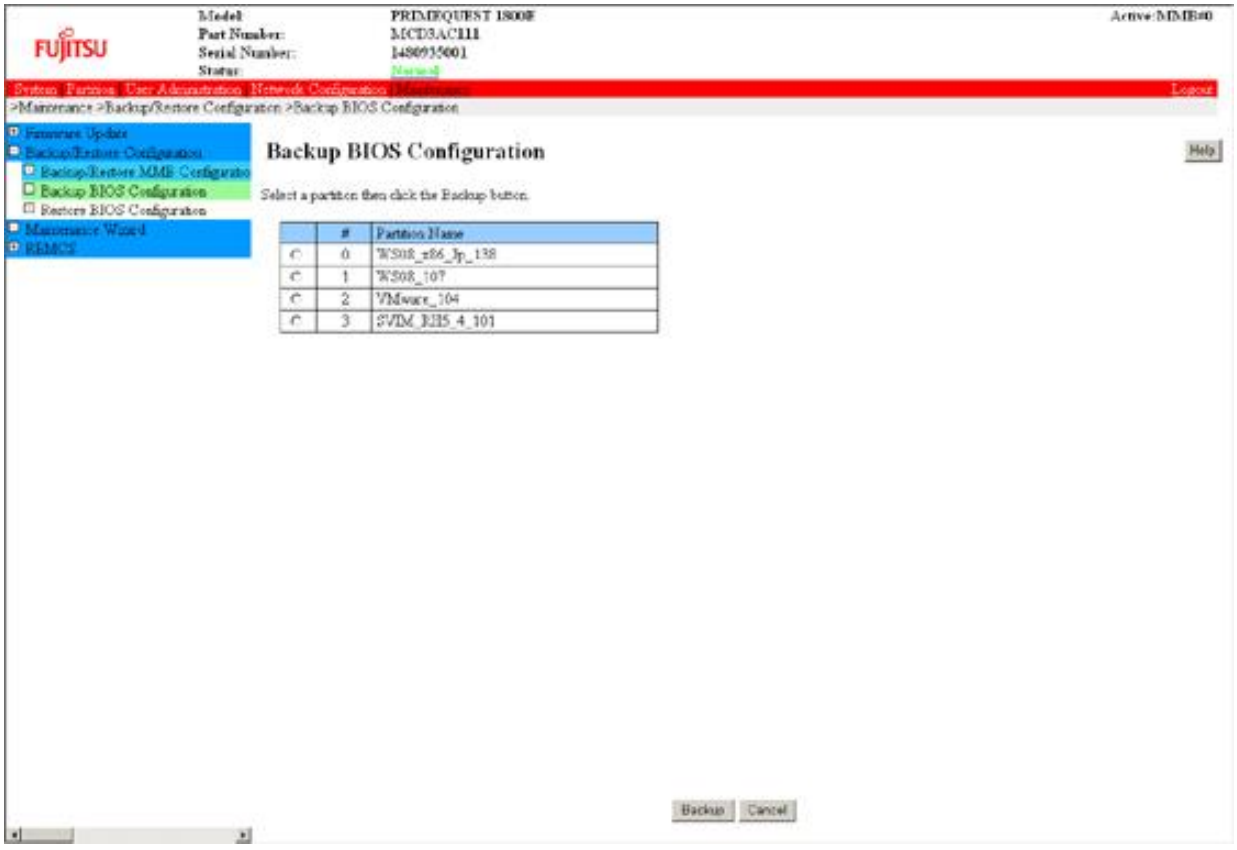


図 1.80 [Backup BIOS Configuration] 画面

表 1.125 [Backup BIOS Configuration] 画面のボタン

ボタン	内容
Backup	BIOS コンフィグレーション情報を退避する。
Cancel	BIOS コンフィグレーション情報の退避が中止される。

(1) メニュー操作

[Maintenance] - [Backup/Restore Configuration] - [Backup BIOS Configuration]

(2) 画面操作

1. BIOS コンフィグレーション情報を退避するパーティションをラジオボタンで選択し、[Backup] ボタンをクリックします。
   格納先ダイアログボックスが表示されます。
2. 格納先ダイアログボックスで格納パスを選択して、[OK] ボタンをクリックします。
   BIOS コンフィグレーション情報ファイルがダウンロードされます。
   退避する BIOS コンフィグレーションファイルのデフォルト名は、以下になります。
   (パーティション番号)_(退避した日付)_(BIOS バージョン).dat

■[Restore BIOS Configuration] 画面

[Restore BIOS Configuration] 画面では、BIOS のコンフィグレーション情報をリストアできます。

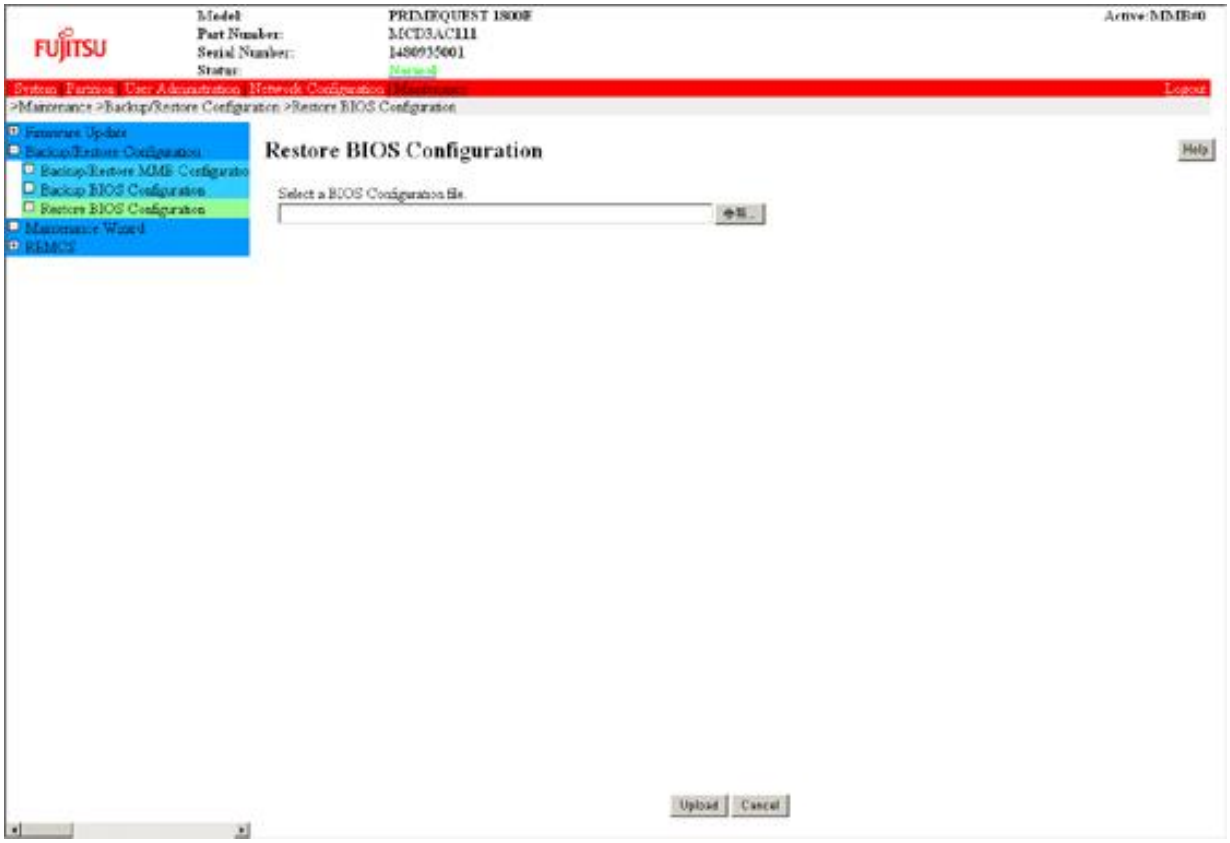


図 1.81 [Restore BIOS Configuration] 画面 (1)

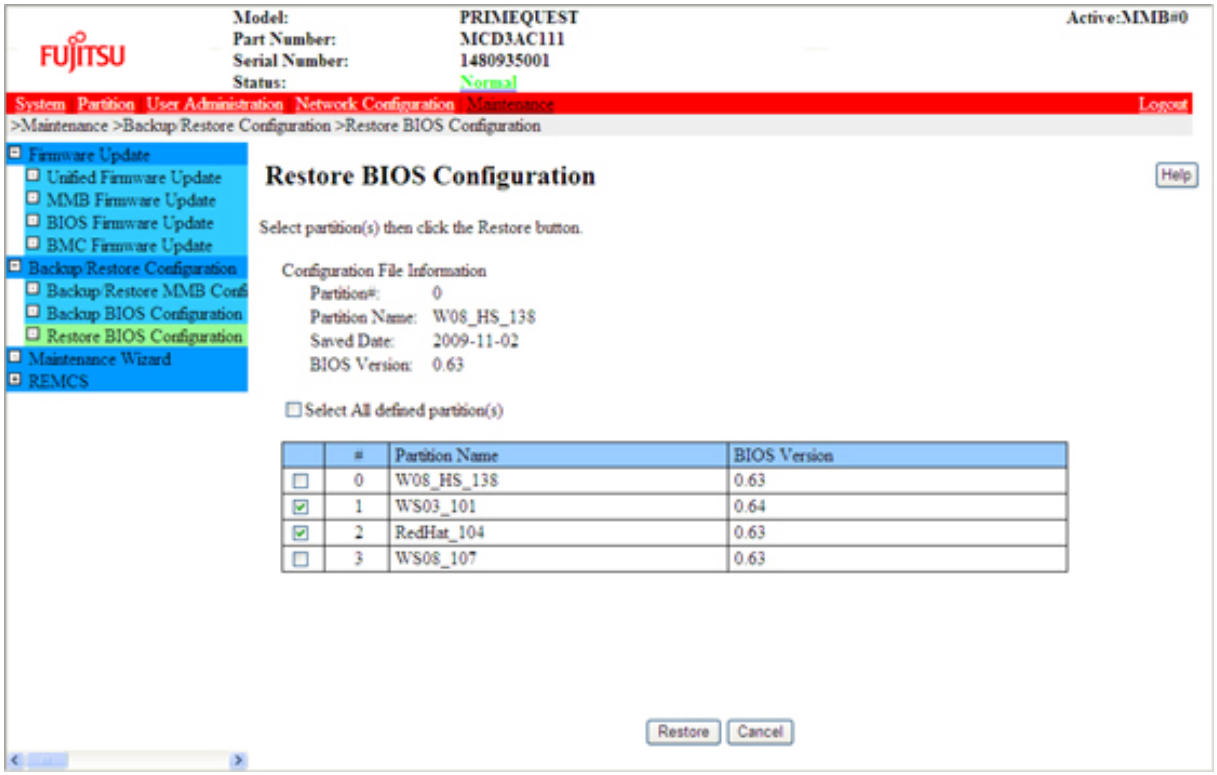


図 1.82 [Restore BIOS Configuration] 画面 (2)

表 1.126 [Restore BIOS Configuration] 画面 (2) の表示・設定項目

項目	説明
Select All defined partitions(s)	チェックボックスをオンにすると、すべてのパーティションの BIOS コンフィグレーション情報をリストアする。
#	パーティションを識別するための番号を表示する (0 ～ 3)。 リストア対象のパーティションは、左のチェックボックスをオンにして選択する。
Partition Name	パーティションに付けた名前を表示する。
BIOS Version	パーティションに現在インストールされている BIOS のバージョンが表示される。

表 1.127 [Restore BIOS Configuration] 画面 (2) のボタン

ボタン	内容
Restore	BIOS コンフィグレーション情報ファイルがリストアされる。
Cancel	BIOS コンフィグレーションファイルの復元が中止される。

(1) メニュー操作

[Maintenance] - [Backup/Restore Configuration] - [Restore BIOS Configuration]

(2) 画面操作

1. [Restore BIOS Configuration] 画面 (1) で [参照] ボタンをクリックし、リモート PC に格納されている退避した BIOS コンフィグレーションファイルを選択します。
2. [Upload] ボタンをクリックします。
   BIOS コンフィグレーションファイルが MMB へ転送され、[Restore BIOS Configuration] 画面 (2) が表示されます。
3. [Restore BIOS Configuration] 画面 (2) で復元するパーティションを選択して、[Restore] ボタンをクリックします。
   BIOS コンフィグレーション情報ファイルが復元されます。

【メッセージ】
本画面で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージ番号	メッセージ文
E_00057	Specified file can not restore.

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

1.6.3 [Maintenance Wizard] 画面

Maintenance Wizard 画面では、ウィザード形式でユニットの保守をサポートします。本画面を使用するユーザーは、担当保守員を想定しています。

(1) メニュー操作
[Maintenance] - [Maintenance Wizard]

1.6.4 [REMCS] メニュー

REMCS に関する操作や設定をするメニューです。
REMCS について詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ REMCS サービス導入マニュアル』(C122-E120) を参照してください。

第 2 章　MMB の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作

MMB が提供する CLI (Command Line Interface) について説明します。

2.1 CLI の基本操作 217
2.2 設定用コマンド 232
2.3 表示用コマンド 259
2.4 アップデート用コマンド 285
2.5 その他のコマンド 288

2.1 CLI の基本操作

CLI にアクセスするには、以下の 2 通りの方法があります。

- MMB のシリアルポート経由でアクセスする方法
- MMB の管理 LAN 経由でリモート PC からアクセスする方法

備考

GUI と同様に、CLI に同時にログインできるユーザー数の最大値は 16 です。

2.1.1 シリアルインターフェース経由でのアクセス

シリアルインターフェース経由で MMB の CLI にアクセスする手順は、以下のとおりです。

1. MMB と端末 (ノート PC など) を RS-232C クロスケーブルで接続します。
2. 端末でターミナルソフトウェア (Windows の HyperTerminal など) を起動し、ターミナルソフトウェアを以下のように設定します。

   表 2.1 ターミナルソフトウェアの設定値

設定項目	値
ビット/秒	19200
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100

3. ログインプロンプトが表示されます。ユーザー名、パスワードを入力し、ログインします。

2.1.2 管理 LAN インターフェース経由でのアクセス

管理 LAN インターフェース経由で MMB の CLI にアクセスする手順は、以下のとおりです。

1. MMB とリモート PC をストレート LAN ケーブルで接続します。
2. リモート PC 上で、Telnet または SSH クライアントを起動して、MMB の IP アドレス (IPv4 または IPv6) と、Telnet のポート番号または SSH のポート番号を指定して接続します。
3. アカウントとパスワードを入力してログインします。

備考

MMB では、SSH V2 プロトコルでの接続機能だけを提供します。
このため、MMB と SSH プロトコルで接続するには、SSH V2 対応の端末ソフトウェアを準備する必要があります。

2.1.3 CLI のコマンド一覧

CLI のコマンドとその内容について説明します。

- 設定用コマンド
- 表示用コマンド
- アップデート用コマンド
- その他のコマンド

各コマンドに必要なアカウント権限の一覧を以下に示します。
アカウント権限の欄の「可」は、そのアカウント権限でコマンドが使用できることを示しています。

- 表 2.2 MMB CLI コマンド一覧 (Administrator)
- 表 2.3 MMB CLI コマンド一覧 (Operator)
- 表 2.4 MMB CLI コマンド一覧 (Partition Operator)
- 表 2.5 MMB CLI コマンド一覧 (User)
- 表 2.6 MMB CLI コマンド一覧 (CE)

表 2.2 MMB CLI コマンド一覧 (Administrator)

コマンド	Administrator	概要
電源制御		
power off	可	電源オフ
power on	可	電源オン
sadump	可	sadump の指示
reset	可	Hard Reset の指示
nmi	可	NMI 割込みの指示
パーティション構築		
add partition	可	パーティション構成物追加
remove partition	可	パーティション構成物削除
show partition configuration	可	パーティション構成表示
set partition home	可	Home SB 設定
show partition home	可	Home SB 表示
set partition mirror_mode		ミラーモード設定
show partition mirror_mode	可	ミラーモード設定表示
set partition name	可	パーティション名設定
show partition name	可	パーティション名表示
時刻関係		
set date	可	日付、時刻設定
show date	可	日付、時刻表示
set timezone	可	タイムゾーン設定
show timezone	可	タイムゾーン表示

コマンド	Administrator	概要
ネットワーク関係		
set ip	可	管理 LAN アドレス設定
set ipv6	可	IPv6 用の管理 LAN アドレス設定
show ip	可	管理 LAN アドレス表示
set hostname	可	MMB ホスト名設定
show hostname	可	MMB ホスト名表示
set gateway	可	gateway アドレス設定
set gateway_ipv6	可	IPv6 用の gateway アドレス設定
show gateway	可	gateway アドレス表示
show network	可	管理 LAN インターフェース表示
set http	可	http サービスの有効化設定
set https	可	https サービスの有効化設定
set ssh	可	ssh サービスの有効化設定
set telnet	可	telnet サービスの有効化設定
show http	可	http サービスの有効化設定表示
show https	可	https サービスの有効化設定表示
show ssh	可	ssh サービスの有効化設定表示
show telnet	可	telnet サービスの有効化設定表示
set http_port	可	http ポート番号設定
set https_port	可	https ポート番号設定
set ssh_port	可	ssh ポート番号設定
set telnet_port	可	telnet ポート番号設定
show http_port	可	http ポート番号表示
show https_port	可	https ポート番号表示
show ssh_port	可	ssh ポート番号表示
show telnet_port	可	telnet ポート番号表示
clear access_control	可	Access Control 設定クリア
show access_control	可	Access Control 設定表示
clear ssh_key		SSH 公開鍵クリア
download ssh_key		SSH 公開鍵ダウンロード
ping	可	Ping
show ntpq	可	NTP 問い合わせ (ntpq -p の実行)
アカウント管理		

コマンド	Administrator	概要
passwd	可	パスワード変更
who	可	ログインユーザー表示
ファームウェア更新		
update ALL	可	ファームウェア一括更新(新規)
MMB 設定、その他		
set active_mmb	可	Active MMB 設定
show active_mmb	可	Active MMB 表示
exit	可	MMB ログアウト
help	可	ヘルプ
コマンド終了コード表示		
show exit_code	可	直前の実行コマンドの終了コード表示
ファームウェア更新状況／版数確認		
show update_status	可	一括ファームウェアアップデート進行状況表示
ネットワーク調査コマンド		
netck traceroute	可	ネットワーク経路の一覧表示
netck arptbl	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck arping	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck ifconfig	可	ネットワーク環境の設定状況表示
netck stat	可	使用しているポート番号の一覧表示
REMCS 関連コマンド		
set maintenance_ip	可	REMCS のネットワーク設定
show maintenance_ip	可	REMCS のネットワーク設定表示

表 2.3 MMB CLI コマンド一覧 (Operator)

コマンド	Operator	概要
電源制御		
power off		電源オフ
power on		電源オン
sadump		sadump の指示
reset		Hard Reset の指示
nmi		NMI 割込みの指示
パーティション構築		

コマンド	Operator	概要
add partition		パーティション構成物追加
remove partition		パーティション構成物削除
show partition configuration	可	パーティション構成表示
set partition home		Home SB 設定
show partition home	可	Home SB 表示
set partition mirror_mode	可	ミラーモード設定
show partition mirror_mode	可	ミラーモード設定表示
set partition name		パーティション名設定
show partition name	可	パーティション名表示
時刻関係		
set date		日付、時刻設定
show date	可	日付、時刻表示
set timezone		タイムゾーン設定
show timezone	可	タイムゾーン表示
ネットワーク関係		
set ip		管理 LAN アドレス設定
set ipv6		IPv6 用の管理 LAN アドレス設定
show ip	可	管理 LAN アドレス表示
set hostname		MMB ホスト名設定
show hostname	可	MMB ホスト名表示
set gateway		gateway アドレス設定
set gateway_ipv6		IPv6 用の gateway アドレス設定
show gateway		gateway アドレス表示
show network	可	管理 LAN インターフェース表示
set http		http サービスの有効化設定
set https		https サービスの有効化設定
set ssh		ssh サービスの有効化設定
set telnet		telnet サービスの有効化設定
show http	可	http サービスの有効化設定表示
show https	可	https サービスの有効化設定表示
show ssh	可	ssh サービスの有効化設定表示
show telnet	可	telnet サービスの有効化設定表示
set http_port		http ポート番号設定

コマンド	Operator	概要
set https_port		https ポート番号設定
set ssh_port		ssh ポート番号設定
set telnet_port		telnet ポート番号設定
show http_port	可	http ポート番号表示
show https_port	可	https ポート番号表示
show ssh_port	可	ssh ポート番号表示
show telnet_port	可	telnet ポート番号表示
clear access_control		Access Control 設定クリア
show access_control		Access Control 設定表示
clear ssh_key		SSH 公開鍵クリア
download ssh_key		SSH 公開鍵ダウンロード
ping	可	Ping
show ntpq	可	NTP 問い合わせ (ntpq -p の実行)
アカウント管理		
passwd	可	パスワード変更
who	可	ログインユーザー表示
ファームウェア更新		
update ALL		ファームウェア一括更新(新規)
MMB 設定、その他		
set active_mmb		Active MMB 設定
show active_mmb	可	Active MMB 表示
exit	可	MMB ログアウト
help	可	ヘルプ
コマンド終了コード表示		
show exit_code	可	直前の実行コマンドの終了コード表示
ファームウェア更新状況／版数確認		
show update_status		一括ファームウェアアップデート進行状況表示
ネットワーク調査コマンド		
netck traceroute	可	ネットワーク経路の一覧表示
netck arptbl	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck arping	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck ifconfig	可	ネットワーク環境の設定状況表示
netck stat	可	使用しているポート番号の一覧表示

コマンド	Operator	概要
REMCS 関連コマンド		
set maintenance_ip		REMCS のネットワーク設定
show maintenance_ip	可	REMCS のネットワーク設定表示

表 2.4 MMB CLI コマンド一覧 (Partition Operator)

コマンド	Partition Operator (*)（自パーティション）	Partition Operator (*)（他パーティション）	概要
電源制御			
power off	可		電源オフ
power on	可		電源オン
sadump	可		sadump の指示
reset	可		Hard Reset の指示
nmi	可		NMI 割込みの指示
パーティション構築			
add partition			パーティション構成物追加
remove partition			パーティション構成物削除
show partition configuration	可	可	パーティション構成表示
set partition home			Home SB 設定
show partition home	可	可	Home SB 表示
set partition mirror_mode	可		ミラーモード設定
show partition mirror_mode	可	可	ミラーモード設定表示
set partition name			パーティション名設定
show partition name	可	可	パーティション名表示
時刻関係			
set date			日付、時刻設定
show date	可	可	日付、時刻表示
set timezone			タイムゾーン設定
show timezone	可	可	タイムゾーン表示
ネットワーク関係			
set ip			管理 LAN アドレス設定
set ipv6			IPv6 用の管理 LAN アドレス設定

コマンド	Partition Operator (*)（自パーティション）	Partition Operator (*)（他パーティション）	概要
show ip	可	可	管理 LAN アドレス表示
set hostname			MMB ホスト名設定
show hostname	可	可	MMB ホスト名表示
set gateway			gateway アドレス設定
set gateway_ipv6			IPv6 用の gateway アドレス設定
show gateway			gateway アドレス表示
show network	可	可	管理 LAN インターフェース表示
set http			http サービスの有効化設定
set https			https サービスの有効化設定
set ssh			ssh サービスの有効化設定
set telnet			telnet サービスの有効化設定
show http	可	可	http サービスの有効化設定表示
show https	可	可	https サービスの有効化設定表示
show ssh	可	可	ssh サービスの有効化設定表示
show telnet	可	可	telnet サービスの有効化設定表示
set http_port			http ポート番号設定
set https_port			https ポート番号設定
set ssh_port			ssh ポート番号設定
set telnet_port			telnet ポート番号設定
show http_port	可	可	http ポート番号表示
show https_port	可	可	https ポート番号表示
show ssh_port	可	可	ssh ポート番号表示
show telnet_port	可	可	telnet ポート番号表示
clear access_control			Access Control 設定クリア
show access_control			Access Control 設定表示
clear ssh_key			SSH 公開鍵クリア
download ssh_key			SSH 公開鍵ダウンロード
ping	可	可	Ping
show ntpq	可	可	NTP 問い合わせ (ntpq -p の実行)
アカウント管理			

コマンド	Partition Operator (*)（自パーティション）	Partition Operator (*)（他パーティション）	概要
passwd	可	可	パスワード変更
who	可	可	ログインユーザー表示
ファームウェア更新			
update ALL			ファームウェア一括更新(新規)
MMB 設定、その他			
set active_mmb			Active MMB 設定
show active_mmb	可	可	Active MMB 表示
exit	可	可	MMB ログアウト
help	可	可	ヘルプ
コマンド終了コード表示			
show exit_code	可	可	直前の実行コマンドの終了コード表示
ファームウェア更新状況／版数確認			
show update_status			一括ファームウェアアップデート進行状況表示
ネットワーク調査コマンド			
netck traceroute	可	可	ネットワーク経路の一覧表示
netck arptbl	可	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck arping	可	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck ifconfig	可	可	ネットワーク環境の設定状況表示
netck stat	可	可	使用しているポート番号の一覧表示
REMCS 関連コマンド			
set maintenance_ip			REMCS のネットワーク設定
show maintenance_ip	可	可	REMCS のネットワーク設定表示

*：Partition Operator の「自」は許可されたパーティションの操作、「他」は許可されていないパーティションの操作を示す。

表 2.5 MMB CLI コマンド一覧 (User)

コマンド	User	概要
電源制御		
power off		電源オフ
power on		電源オン

コマンド	User	概要
sadump		sadump の指示
reset		Hard Reset の指示
nmi		NMI 割込みの指示
パーティション構築		
add partition		パーティション構成物追加
remove partition		パーティション構成物削除
show partition configuration	可	パーティション構成表示
set partition home		Home SB 設定
show partition home	可	Home SB 表示
set partition mirror_mode		ミラーモード設定
show partition mirror_mode	可	ミラーモード設定表示
set partition name		パーティション名設定
show partition name	可	パーティション名表示
時刻関係		
set date		日付、時刻設定
show date	可	日付、時刻表示
set timezone		タイムゾーン設定
show timezone	可	タイムゾーン表示
ネットワーク関係		
set ip		管理 LAN アドレス設定
set ipv6		IPv6 用の管理 LAN アドレス設定
show ip	可	管理 LAN アドレス表示
set hostname		MMB ホスト名設定
show hostname	可	MMB ホスト名表示
set gateway		gateway アドレス設定
set gateway_ipv6		IPv6 用の gateway アドレス設定
show gateway		gateway アドレス表示
show network	可	管理 LAN インターフェース表示
set http		http サービスの有効化設定
set https		https サービスの有効化設定
set ssh		ssh サービスの有効化設定
set telnet		telnet サービスの有効化設定
show http	可	http サービスの有効化設定表示

コマンド	User	概要
show https	可	https サービスの有効化設定表示
show ssh	可	ssh サービスの有効化設定表示
show telnet	可	telnet サービスの有効化設定表示
set http_port		http ポート番号設定
set https_port		https ポート番号設定
set ssh_port		ssh ポート番号設定
set telnet_port		telnet ポート番号設定
show http_port	可	http ポート番号表示
show https_port	可	https ポート番号表示
show ssh_port	可	ssh ポート番号表示
show telnet_port	可	telnet ポート番号表示
clear access_control		Access Control 設定クリア
show access_control		Access Control 設定表示
clear ssh_key	可	SSH 公開鍵クリア
download ssh_key	可	SSH 公開鍵ダウンロード
ping	可	Ping
show ntpq	可	NTP 問い合わせ (ntpq -p の実行)
アカウント管理		
passwd		パスワード変更
who		ログインユーザー表示
ファームウェア更新		
update ALL		ファームウェア一括更新(新規)
MMB 設定、その他		
set active_mmb		Active MMB 設定
show active_mmb	可	Active MMB 表示
exit	可	MMB ログアウト
help	可	ヘルプ
コマンド終了コード表示		
show exit_code	可	直前の実行コマンドの終了コード表示
ファームウェア更新状況／版数確認		
show update_status		一括ファームウェアアップデート進行状況表示
ネットワーク調査コマンド		
netck traceroute	可	ネットワーク経路の一覧表示

コマンド	User	概要
netck arptbl	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck arping	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck ifconfig	可	ネットワーク環境の設定状況表示
netck stat	可	使用しているポート番号の一覧表示
REMCS 関連コマンド		
set maintenance_ip		REMCS のネットワーク設定
show maintenance_ip	可	REMCS のネットワーク設定表示

表 2.6 MMB CLI コマンド一覧 (CE)

コマンド	CE	概要
電源制御		
power off		電源オフ
power on		電源オン
sadump		sadump の指示
reset		Hard Reset の指示
nmi		NMI 割込みの指示
パーティション構築		
add partition		パーティション構成物追加
remove partition		パーティション構成物削除
show partition configuration	可	パーティション構成表示
set partition home		Home SB 設定
show partition home	可	Home SB 表示
set partition mirror_mode		ミラーモード設定
show partition mirror_mode	可	ミラーモード設定表示
set partition name		パーティション名設定
show partition name	可	パーティション名表示
時刻関係		
set date		日付、時刻設定
show date	可	日付、時刻表示
set timezone		タイムゾーン設定
show timezone	可	タイムゾーン表示
ネットワーク関係		
set ip		管理 LAN アドレス設定

コマンド	CE	概要
set ipv6		IPv6 用の管理 LAN アドレス設定
show ip	可	管理 LAN アドレス表示
set hostname		MMB ホスト名設定
show hostname	可	MMB ホスト名表示
set gateway		gateway アドレス設定
set gateway_ipv6		IPv6 用の gateway アドレス設定
show gateway		gateway アドレス表示
show network	可	管理 LAN インターフェース表示
set http		http サービスの有効化設定
set https		https サービスの有効化設定
set ssh		ssh サービスの有効化設定
set telnet		telnet サービスの有効化設定
show http	可	http サービスの有効化設定表示
show https	可	https サービスの有効化設定表示
show ssh	可	ssh サービスの有効化設定表示
show telnet	可	telnet サービスの有効化設定表示
set http_port		http ポート番号設定
set https_port		https ポート番号設定
set ssh_port		ssh ポート番号設定
set telnet_port		telnet ポート番号設定
show http_port	可	http ポート番号表示
show https_port	可	https ポート番号表示
show ssh_port	可	ssh ポート番号表示
show telnet_port	可	telnet ポート番号表示
clear access_control		Access Control 設定クリア
show access_control		Access Control 設定表示
clear ssh_key		SSH 公開鍵クリア
download ssh_key		SSH 公開鍵ダウンロード
ping	可	Ping
show ntpq	可	NTP 問い合わせ (ntpq -p の実行)
アカウント管理		
passwd	可	パスワード変更
who	可	ログインユーザー表示

コマンド	CE	概要
ファームウェア更新		
update ALL	可	ファームウェア一括更新(新規)
MMB 設定、その他		
set active_mmb	可	Active MMB 設定
show active_mmb	可	Active MMB 表示
exit	可	MMB ログアウト
help	可	ヘルプ
コマンド終了コード表示		
show exit_code	可	直前の実行コマンドの終了コード表示
ファームウェア更新状況／版数確認		
show update_status	可	一括ファームウェアアップデート進行状況表示
ネットワーク調査コマンド		
netck traceroute	可	ネットワーク経路の一覧表示
netck arptbl	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck arping	可	Ethernet の物理アドレスの表示
netck ifconfig	可	ネットワーク環境の設定状況表示
netck stat	可	使用しているポート番号の一覧表示
REMCS 関連コマンド		
set maintenance_ip	可	REMCS のネットワーク設定
show maintenance_ip	可	REMCS のネットワーク設定表示

■コマンド書式内のパラメーター表記

- [ ] は、複数のパラメーターのうち、どれかを選択することを表します。
  たとえば、[A | B | C]の場合、A、B、C のうちの 1 つを選択して指定します。
- { } は、省略可能なパラメーターであることを表します。
  たとえば、{quiet}の場合、この quiet パラメーターは省略可能です。

■パラメーターの指定範囲

コマンド書式に出現する<partition#>、<SB#>、<IOB#>、<GSPB#>の各パラメーターは、以下の範囲の数値から指定します。モデルにより指定できる範囲は異なります。
各モデルの指定範囲は以下のとおりです。

表 2.7 パラメーターの指定範囲

	PRIMEQUEST 1400S2/1400S	PRIMEQUEST 1400E2/1400L2/1400E/ 1400L	PRIMEQUEST 1800E2/1800L2/1800E/ 1800L
<partition#>	0 〜 1	0 〜 1	0 〜 3
<SB#>	0 〜 1	0 〜 1	0 〜 3
<IOB#>	未サポート	0 〜 1 [A|B]	0 〜 1 [A|B]
<GSPB#>	未サポート	0 〜 1 [A|B]	0 〜 1 [A|B]

範囲外の値を指定した場合は、エラーメッセージが表示され、処理は行われません。

■メッセージ

以下に、各コマンド共通のメッセージを示します。

- CLI のパラメーター文字列として正しくないものが指定された場合には、以下のメッセージが表示されます。
  CLI のパラメーターは、「show」「set」「add」「remove」「clear」「power」「download」「update」のいずれかのコマンドに分類されます。これらの CLI に該当しないパラメーターが入力された場合も、このメッセージが表示されます。

  ```
  The specified parameter is invalid.
  ```

  「show」「set」「add」「remove」「clear」「power」「download」「update」のいずれかのコマンド名のみ入力された場合には、以下のメッセージが表示されます。

  ```
  Parameter missing
  ```

  入力されたコマンドが「show」「set」「add」「remove」「clear」「power」「download」「update」のいずれのコマンドにも分類されず、かつ「passwd」「ping」「who」「help」のいずれにも該当しない場合は、以下のメッセージが表示されます。

  ```
  No such file or directory
  ```

2.2 設定用コマンド

情報を設定するためのコマンドは、以下のとおりです。

- 2.2.1 add partition
- 2.2.2 clear access_control
- 2.2.3 clear ssh_key
- 2.2.4 download ssh_key
- 2.2.5 power off
- 2.2.6 power on
- 2.2.7 sadump
- 2.2.8 reset
- 2.2.9 nmi
- 2.2.10 remove partition
- 2.2.11 set active_mmb
- 2.2.12 set date
- 2.2.13 set gateway
- 2.2.14 set gateway_ipv6
- 2.2.15 set hostname
- 2.2.16 set http
- 2.2.17 set http_port
- 2.2.18 set https
- 2.2.19 set https_port
- 2.2.20 set ip
- 2.2.21 set ipv6
- 2.2.22 set maintenance_ip
- 2.2.23 set partition home
- 2.2.24 set partition mirror_mode
- 2.2.25 set partition name
- 2.2.26 set ssh
- 2.2.27 set ssh_port
- 2.2.28 set telnet
- 2.2.29 set telnet_port
- 2.2.30 set timezone

ここではこれらのコマンドの操作方法を説明します。

2.2.1 add partition

指定した SB、IOB または GSPB を、指定したパーティションに追加します。
指定した SB、IOB または GSPB が Free 状態でない場合は実行できません。

備考

IOB、GSPB を対象とする場合、A/B 指定がないときは本コマンドは実行できません。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
add partition <partition#> SB   <SB#x> {quiet}
add partition <partition#> IOB <IOB#x>[A|B] {quiet}
add partition <partition#> GSPB <GSPB#x>[A|B] {quiet}
```

(2) オプション
quiet：ユーザーに対するインタラクティブ動作なしで、コマンドを実行します。

(3) 使用例

- 例：PRIMEQUEST 1800E で SB#3 を Partition#2 に追加する場合

  # add partition 2 SB 3
  Are you sure to continue adding SB#3 to Partition#2? [Y/N] Y
  Adding SB#3 to Partition#2 has been completed successfully.
  #

- 例：PRIMEQUEST 1800E で IOB#1A を Partition#2 に追加する場合

  # add partition 2 IOB 1A
  Are you sure to continue adding IOB#1A to Partition#2? [Y/N] Y
  Adding IOB#1A to Partition#2 has been completed successfully.
  #

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Are you sure you want to add %s to Partition#%d? [Y/N]:
Adding %s to Partition#%d has been completed successfully.
The specified partition number is invalid.
The specified [SB|IOB|GSPB] number is invalid.
The specified [SB#x|IOB#x|IOB|GSPB#x|GSPB] is Not-present.
The specified [SB#x|IOB#x[A|B]|IOB-[A|B]|GSPB#x[A|B]|GSPB-[A|B]]is not free.
Unable to add the specified SB#x to the partition due to CPU mismatch between SBs.
Unable to add the specified [SB#x|IOB#x[A|B]|IOB-[A|B]|GSPB#x[A|B]|GSPB-[A|B]] to the partition because the specified [SB#x|IOB#x[A|B]|IOB-[A|B]|GSPB#x[A|B]|GSPB-[A|B]] status is failed.
Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Parameter missing
Failed to execute add partition command.
Failed to execute %s command.

The specified command is not supported.(error=[%s])
The parameter [IOB| GSPB] is not supported.
Unable to add the specified SB to the partition due to CPU composition abnormal.
Unable to add the specified SB to the partition due to DIMM composition abnormal.
Unable to add the specified SB to the partition due to DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
Unable to add the specified SB to the partition due to SB composition abnormal.
Unable to add the specified SB to the partition due to VRM composition abnormal.

2.2.2 clear access_control

Access Control の設定値をクリアします。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
clear access_control
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified parameter is invalid.

2.2.3 clear ssh_key

ログインしているユーザーに対して登録されている SSH 公開鍵認証用の公開鍵を削除します。

■権限：User

(1) 入力形式

```
clear ssh_key
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified parameter is invalid.

2.2.4 download ssh_key

ログインしているユーザーの SSH 公開鍵認証に使用する公開鍵を、指定されたサーバからダウンロードして登録します。
URL の入力形式は以下のとおりです。
http://host/path/file
ftp://host/path/file

■権限：User

(1) 入力形式

```
download ssh_key <URL>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
サーバが指定されなかった場合：以下のように URL の入力を促すメッセージが表示され、URL の入力待ちとなります。
例：
download ssh_key
 URL:

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.
Specified host does NOT respond.

2.2.5 power off

システム全体または、指定したパーティションの電源をオフします。
パラメーターで指定されたパーティションが構成されていない場合は、構成されていないパーティションは無視されます。
指定されたパーティションがすでに電源オフしている場合、そのパーティションに対しては何も処理しません。

Partition Operator は管理対象のパーティションのみ操作が可能です。
管理対象外のパーティションを含むパラメーターを指定した場合はエラーメッセージが表示され、指定されたパーティションに対する操作はできません。

■権限：Administrator、Operator、Partition Operator (管理対象パーティションのみ)

(1) 入力形式

```
power off {partition} [ all | <partition#> [, | -] <partition#>]
{force}
```

(2) オプション
Partition：パーティション番号を指定したパーティションの OS をシャットダウンし、パーティションの電源をオフにします。当パラメーターは省略可能です。
パラメーター省略時は partition パラメーターが指定されているものとして処理されます。このため、パーティションの指定は必須です。
パーティションは、以下のように指定します。

- all (定義されているすべてのパーティション) 指定
- パーティション番号をカンマで区切って指定
- パーティション番号範囲で指定

force：パーティションの OS をシャットダウンすることなしに、強制的に電源オフを指示します。

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.
The specified partition number is invalid.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Unable to power off the partition#%d.
Unable to force power off on the partition#%d.
Command Failed. Code=0x%04X, 0x%02X

Unable to power off the Partition#n because you have not authority to operate this partition.
Unable to execute this command on a standby MMB.
Unable to power off the partition(s) because the partition which does not have authority to you is included in the specified parameter.

2.2.6 power on

システム全体または、指定したパーティションの電源をオンにします。
パラメーターで指定したパーティションが構成されていない場合は、構成されていないパーティションは無視されます。
指定されたパーティションがすでに電源オンしている場合、そのパーティションに対しては何も処理しません。

Partition Operator は、管理対象のパーティションのみの操作が可能です。
管理対象外のパーティションを含むパラメーターを指定した場合はエラーメッセージが表示され、指定されたパーティションに対する操作はできません。

■権限：Administrator、Operator、Partition Operator (管理対象パーティションのみ)

(1) 入力形式

```
power on {partition} [ all | <partition#> [, | -] <partition#>]
```

(2) オプション
Partition：パーティション番号を指定したパーティションの電源をオンにします。
筐体の電源が入っていない場合は、パーティションの電源をオンにする前に筐体の電源をオンにしてから指定されたパーティションの電源をオンにします。
当パラメーターは省略可能です。パラメーター省略時は partition パラメーターが指定されているものとして処理されます。このため、パーティションの指定は必須です。
パーティションは、以下のように指定します。

- all (定義されているすべてのパーティション) 指定
- パーティション番号をカンマで区切って指定
- パーティション番号範囲で指定

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.
The specified partition number is invalid.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.

Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Unable to power on the partition#%d due to CPU mismatch between SBs.
Unable to power on the partition#%d.
Command Failed. Code=0x%04X, 0x%02X
Unable to power on the Partition#n because you have not authority to operate this partition.
Unable to execute this command on a standby MMB.
Unable to power on the partition(s) because the partition which does not have authority to you is included in the specified parameter.
Unable to power on the partition#%d due to DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
Unable to power on due to mismatch between supply voltage and input voltage.
Unable to power on the partition#%d due to abnormal DIMM composition.
Unable to power on the partition#%d due to abnormal SB composition.
Unable to power on the partition#%d due to abnormal VRM composition.

2.2.7 sadump

指定したパーティションに sadump を指示します。
パラメーターで指定されたパーティションが構成されていない場合は、構成されていないパーティションは無視されます。
指定されたパーティションが Power On 状態でない場合、そのパーティションに対しては NOP となります。
Partition Operator は管理対象のパーティションのみ操作が可能です。
管理対象外のパーティションを含むパラメーターを指定した場合は、エラーメッセージが表示され、指定されたパーティションに対する操作はできません。

■権限

Administrator、Operator、Partition Operator (管理対象パーティションのみ)

(1) 入力形式

```
sadump {partition} [<partition#> [, | -] <partition#>] {quiet}
```

(2) オプション
partition：Partition#を指定したパーティションに sadump を指示します。当パラメーターは省略可能です。
パラメーター省略時は partition パラメーターが指定されているものとして処理されます。このため、パーティションの指定は必須です。
パーティションは以下のように指定します。

- パーティション番号をカンマで区切って指定
- パーティション番号範囲で指定

quiet：ユーザーに対するインタラクティブ動作なしでコマンドを実行します。

(3) 使用例
例：Administrator 権限で Partition#1 に sadump を指示する場合

```
Administrator>sadump partition 1
Are you sure you want to sadump to Partition#1? [Y/N]: Y
Administrator>
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Are you sure you want to sadump to Partition#%d? [Y/N]:
The specified parameter is invalid.
The specified partition number is invalid.
Unable to sadump the partition#%d.
Command Failed. Code=0x%04X, 0x%02X
Unable to execute this command on a standby MMB.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Unable to sadump the Partition#n because you have not authority to operate this partition.
Unable to sadump the partition(s) because the partition which does not have authority to you is included in the specified parameter.

2.2.8 reset

指定したパーティションに Hard Reset を指示します。
パラメーターで指定されたパーティションが構成されていない場合は、構成されていないパーティションは無視されます。
指定されたパーティションが Power On 状態でない場合、そのパーティションに対しては NOP となります。
Partition Operator は管理対象のパーティションのみ操作が可能です。
管理対象外のパーティションを含むパラメーターを指定した場合は、エラーメッセージが表示され、指定されたパーティションに対する操作はできません。

■権限：Administrator、Operator、Partition Operator (管理対象パーティションのみ)

(1) 入力形式

```
reset {partition} [<partition#> [, | -] <partition#>] {quiet}
```

(2) オプション
partition：Partition#を指定したパーティションに Hard Reset を指示します。当パラメーターは省略可能です。

パラメーター省略時は partition パラメーターが指定されているものとして処理されます。このため、パーティション指定は必須です。
パーティションは、以下のように指定します。

- パーティション番号をカンマで区切って指定
- パーティション番号範囲で指定

quiet：ユーザーに対するインタラクティブ動作なしで、コマンドを実行します。

(3) 使用例
例：Administrator 権限で Partition#1 に Reset を指示する場合

```
Administrator>reset partition 1
Are you sure you want to Reset to Partition#1? [Y/N]: Y
Administrator>
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Are you sure you want to Reset to Partition#%d? [Y/N]:
The specified parameter is invalid.
The specified partition number is invalid.
Unable to Reset the partition#%d.
Command Failed. Code=0x%04X, 0x%02X
Unable to execute this command on a standby MMB.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Unable to Reset the Partition#n because you have not authority to operate this partition.
Unable to Reset the partition(s) because the partition which does not have authority to you is included in the specified parameter.

2.2.9 nmi

指定したパーティションに NMI 割込みを指示します。
パラメーターで指定されたパーティションが構成されていない場合は、構成されていないパーティションは無視されます。
指定されたパーティションが Power On 状態でない場合、そのパーティションに対しては NOP となります。
Partition Operator は管理対象のパーティションのみ操作が可能です。
管理対象外のパーティションを含むパラメーターを指定した場合は、エラーメッセージが表示され、指定されたパーティションに対する操作はできません。

■権限：Administrator、Operator、Partition Operator (管理対象パーティションのみ)

(1) 書式

```
nmi {partition} [<partition#> [, | -] <partition#>] {quiet}
```

(2) オプション
partition：Partition#を指定したパーティションに NMI 割込みを指示します。当パラメーターは省略可能です。
パラメーター省略時は partition パラメーターが指定されているものとして処理されます。このため、パーティションの指定は必須です。
パーティションは、以下のように指定します。

- パーティション番号をカンマで区切って指定
- パーティション番号範囲で指定

quiet：ユーザーに対するインタラクティブ動作なしでコマンドを実行します。

(3) 使用例
例：Administrator 権限で Partition#1 に NMI を指示する場合

Administrator>nmi partition 1
Are you sure you want to NMI to Partition#1? [Y/N]: Y
Administrator>

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Are you sure you want to NMI to Partition#%d? [Y/N]:
The specified parameter is invalid.
The specified partition number is invalid.
Unable to NMI the partition#%d.
Command Failed. Code=0x%04X, 0x%02X
Unable to execute this command on a standby MMB.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Unable to NMI the Partition#n because you have not authority to operate this partition.
Unable to NMI the partition(s) because the partition which does not have authority to you is included in the specified parameter.

2.2.10 remove partition

指定した SB、IOB または GSPB を、指定したパーティションから取り外します。
指定した SB、IOB が指定したパーティションに含まれていない場合は、実行できません。

備考
IOB、GSPB を対象とする場合、A/B 指定がないときは実行できません。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
remove partition <partition#> SB <SB#x> {quiet}
remove partition <partition#> IOB <IOB#x>[A|B] {quiet}
remove partition <partition#> GSPB <GSPB#x>[A|B] {quiet}
```

(2) オプション
quiet：User に対するインタラクティブ動作なしでコマンドを実行します。

(3) 使用例

- 例：PRIMEQUEST 1800E で SB#3 を Partition#2 から取り外す場合
  # remove partition 2 SB 3
  Are you sure to continue removing SB#3 from Partition#2? [Y/N] Y
  Removing SB#3 from Partition#2 has been completed successfully.
  #

- 例：PRIMEQUEST 1800E で IOB#1A を Partition#2 から取り外す場合
  # remove partition 2 IOB 1A
  Are you sure to continue removing IOB#1A from Partition#2? [Y/N] Y
  Removing IOB#1A from Partition#2 has been completed successfully.
  #

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Are you sure you want to remove %s from Partition#%d? [Y/N]:
Removing %s from Partition#%d has been completed successfully.
The specified partition number is invalid.
The specified [SB|IOB|GSPB] number is invalid.
Partition#x does not include the [SB#x|IOB#x[A|B]|IOB-[A|B]|GSPB#x[A|B]|GSPB-[A|B]].
Unable to remove the specified [SB#x|IOB#x[A|B]|IOB-[A|B]|GSPB#x[A|B]|GSPB-[A|B]] from the partition while the partition is running.
Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Parameter missing
Failed to execute remove partition command.
Failed to execute %s command.

The specified command is not supported.(error=[%s])
The parameter [IOB | GSPB] is not supported.

2.2.11 set active_mmb

Active MMB をリセットすることにより、Active MMB を切り替えます。
すでに Active MMB である MMB に対して本コマンドを発行した場合は、何も処理しません。
パラメーターなしで本コマンドを発行した場合、CLI 接続している MMB を Active MMB に指定したものとして処理されます。

備考

- 本コマンドは、Standby MMB に接続して発行できます。
- MMB Web-UI の Switch Over 機能とは異なります。

■権限：Administrator、CE

(1) 入力形式

```
set active_mmb {0 | 1} {quiet}
```

(2) オプション
0：MMB#0 を指定
1：MMB#1 を指定
quiet：User に対するインタラクティブ動作なしで MMB を切り替えます。

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified MMB#x is NOT present.
The specified MMB#x is disabled.
The specified parameter is invalid.
Are you sure to continue set active mmb? [y/n]:
set active_mmb failed.

2.2.12 set date

日付と時刻を設定します。
設定フォーマットは以下のとおりです。

- MM：月 (01 ～ 12)
- DD：日 (月内通算)
- hh：時 (00 ～ 23)
- mm：分 (00 ～ 59)
- CC：年の上 2 桁(オプション)
- YY：年の下 2 桁 (オプション)
- SSK：秒 (オプション)

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set date MMDDhhmm{{CC}YY}{,ss}
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified date is invalid.
Unable to set date because NTP is enabled.
Time synchronization was requested to Standby MMB.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.13 set gateway

デフォルトゲートウェイを設定します。
デフォルトの設定値は 0.0.0.0 です。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set gateway <ip address>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified gateway address is invalid.
The specified parameter is invalid.
The specified IP address is duplicated.
The specified IP address is loopback address.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.14 set gateway_ipv6

IPv6 のデフォルトゲートウェイを設定します。
自動設定を行う場合は、オプションに "auto" を指定します。

■権限：Administrator

(1) 入力形式
- 手動設定の場合

```
set gateway_ipv6 <ip address>
```

- 自動設定の場合

```
set gateway_ipv6 auto
```

(2) オプション
auto：IP アドレスを自動設定します。

(3) 使用例
- 手動設定の場合
  #set gateway_ipv6 fe80::1

- 自動設定の場合
  #set gateway_ipv6 auto
   fe80::beef
   Are you sure to continue?[Y/N]

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified gateway address is invalid.
The specified IP address is duplicated.
The specified IP address is loopback address.

2.2.15 set hostname

MMB のホスト名を FQDN 形式で指定します。
入力可能な文字は以下のとおり。
[a-z]、[A-Z]、[0-9]、「-」(ハイフン)、「.」(ドット)
また、以下の制約があります。

- 先頭文字は英字でなければならない。
- 「-」(ハイフン)、「.」(ドット) を先頭文字として指定することはできない。

デフォルトの設定値は "PRIMEQUEST" ＋ Product Serial Number。
例：
Serial Number が 1020516004 の場合
"PRIMEQUEST1020516004"

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set hostname <ホスト名>.<ドメイン名>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
set hostname hogehoge.fujitsu.com
#

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified hostname is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.16 set http

HTTP サーバの enable/disable を設定します。

デフォルトの設定値は disable (http は無効)。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set http [enable | disable]
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.17 set http_port

HTTP セッションを受け入れるポートを設定します。デフォルトは 8081。
<port>に指定可能なポート番号は、1024 ～ 65535.

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set http_port <port>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified port number is invalid.
The specified port number is duplicated.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.18 set https

HTTP サーバの enable/disable を設定します。
デフォルトの設定値は disable (https 無効) です。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set https [enable | disable]
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

```
Unable to execute this command on a standby MMB.
```

2.2.19 set https_port

HTTPS セッションを受け入れるポートを設定します。デフォルトは 432。
<port>に指定可能なポート番号は、432、1024 ～ 65535。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set https_port <port>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified port number is invalid.
The specified port number is duplicated.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.20 set ip

管理 LAN インターフェースに対して<IP address>、<netmask>を設定します。
Serial を接続している MMB の仮想 IP アドレスを設定します。
デフォルトの設定値は 0.0.0.0 です。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set ip <ip address> <netmask>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified IP address is invalid.
The specified netmask is invalid.
The specified IP address is duplicated.
The specified IP address is loopback address.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.21 set ipv6

管理 LAN インタフェースに対して IPv6 用のグローバルアドレス、プレフィックス長を設定します。
MMB の仮想 IP アドレスを設定します。
自動設定を行う場合は、オプションに "auto" を指定します。

■権限：Administrator

(1) 入力形式
- 手動設定の場合

```
set ipv6 <ip address/prefix>
```

- 自動設定の場合

```
set ipv6 auto
```

(2) オプション
auto：IP アドレスを自動設定します。

(3) 使用例
- 手動設定の場合
  #set ipv6 2001:db8:caaf:beef:206:29ff:fe1e:482e/48
  #

- 自動設定の場合
  GUID (装置 Serial 番号)："123456789abcdef0" の場合
  #set ipv6 auto
  2001:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:1234.5678.9abc.def0 /64
  Are you sure to continue?[Y/N]

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified IP address is invalid.
The specified netmask is invalid.
The specified IP address is duplicated.
The specified IP address is loopback address.

2.2.22 set maintenance_ip

備考
IPv4 のみサポート。

Maintenance ポートに IP アドレスを設定します。
デフォルトの設定値は、ip address、netmask、gateway address、smtp address 共通で、0.0.0.0 です。

- <ip address>： Maintenance ポートに設定する IP アドレス (0.0.0.0 を指定した場合は、設定のクリア)
- <subnet mask>： IP アドレスのサブネットマスク
- <gateway address>： ゲートウェイ

- <smtp address> ：REMCS 通知用メールサーバ

備考

- 本コマンドにより SMTP Address を変更した場合は、REMCS の環境設定画面での SMTP サーバの設定変更も必要となります。また、REMCS の初期設定をする前に、本コマンドにより Routing を設定しておく必要があります。
- P-P で REMCS 接続をする場合、<gateway address>および<SMTP address>の設定は不要です。この場合、<gateway address>および<SMTP address>には 0.0.0.0 を指定します。
- 本コマンドでの設定を無効にする場合は、<ip address>に 0.0.0.0 を指定します。そのほかのパラメーターは任意ですが、0.0.0.0 を推奨します。

■権限：Admin、CE

(1) 入力形式

```
set maintenance_ip <ip address> <netmask> <gateway address> ¥
<smtp address>
```

¥：改行しないことを表す。

(2) オプション
なし

(3) 使用例
例：以下の内容で Maintenance ポートに IP アドレスを設定

- IP アドレス：192.168.1.10
- サブネットマスク：255.255.255.0
- ゲートウェイ：192.168.1.1
- REMCS 通知用メールサーバ：172.128.1.2

set maintenance_ip 192.168.1.10 255.255.255.0 192.168.1.1 172.128.1.2

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified IP address is invalid.
The specified netmask is invalid.
The specified gateway address is invalid.
The specified smtp address is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.23 set partition home

指定したパーティションの Home SB を設定します。

Home に設定する SB 番号を指定します。 指定した SB が存在しない場合は処理は実行されません。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set partition home <partition#> SB <SB#>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
例：Partition3 に SB#2 を Home として設定する場合
set partition home 3 SB 2
#

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified partition number is invalid.
The specified SB number is invalid.
The specified SB#x is Not-present.
Unable to change the home SB while the partition is running. Please try to change the home SB after the partition is shutdown.
Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Succeed to set partition home command.
Failed to execute set partition home command.
Failed to execute %s command.
The specified command is not supported.(error=[%s])

2.2.24 set partition mirror_mode

指定したパーティションの Mirror Mode を設定します。
デフォルトの設定値は disable (Mirror Mode 無効)です。

すでに電源オンしているパーティションに対して本コマンドで設定を実行した場合、以下のメッセージが表示され、設定できません。

「Unable to change the mode while the partition is running. Please try to change the mode after the partition is shutdown.」

すでに電源オフしているパーティションに対して本コマンドで設定を変更した場合は、電源のオフ／オンの必要はありません。上記メッセージは表示されずに、即時に設定した値が反映されます。
また、現在値を同じ値に設定した場合も電源オフ／オンの必要はなく、上記メッセージは表示されません。

■権限：Operator、Partition Operator (管理対象パーティションのみ)

(1) 入力形式

```
set partition mirror_mode <partition#> [disable | enable] {quiet}
```

(2) オプション
quiet：メッセージを表示しない。

(3) 使用例

- 例：パーティション 3 の Mirror Mode を enable に設定する場合 (パーティションはすでに電源オンになっている)

  # set partition mirror_mode 3 enable
  The setting will become effective the next time the partition power off/on is performed
  #

Mirror Mode の要件を満たさない DIMM 構成の SB が Reserved SB に設定されているパーティションに対して Mirror Mode を設定しようとした場合、確認のダイアログボックスが表示されます。確認のダイアログボックスには、Reserved SB に切り替わったときに Mirror Mode が解除される旨の警告メッセージが表示され、設定を続けるかどうかが確認されます。

- 例：パーティション 1 の Mirror Mode を enable に設定する場合（パーティション 1 には Mirror Mode の要件を満たさない DIMM 構成の SB が Reserved SB として設定されている）

  # set partition mirror_mode 1 enable
  The SB with DIMM that does not satisfy requirements of Mirror Mode is
  registered as a Reserved SB.
  If you register this partition as a Mirror Mode,
  Mirror Mode will be disabled when switching to Reserved SB.
  Are you sure to continue?[Y/N] y
  #

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified partition number is invalid.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.

The setting will become effective the next time the partition power off/on is performed.
Unable to execute this command because you have not authority to operate this partition.
Unable to change the mode while the partition is running. Please try to change the mode after the partition is shutdown.
Failed to execute %s command.
Failed to execute set partition command.
The SB with DIMM that does not satisfy requirements of Mirror Mode is registered as a Reserved SB. If you register this partition as a Mirror Mode, Mirror Mode will be disabled when switching to Reserved SB. Are you sure to continue?[Y/N]
Unable to register the specified Partition#%d as Mirror Mode enable because the CPU mismatch between SBs.
Unable to register the specified Partition#%d as Mirror Mode enable because the DIMM does not satisfy requirements of Mirror Mode.
Unable to register the specified Partition#%d as Mirror Mode enable because the unsupported CPU configuration.
Unable to register the specified Partition#%d as Mirror Mode enable because of abnormal CPU composition.
Unable to register the specified Partition#%d as Mirror Mode enable because of abnormal DIMM composition.
Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because of abnormal SB composition.
Unable to register the specified Partition#%s as Mirror Mode enable because of abnormal VRM composition.

2.2.25 set partition name

指定したパーティションに名前を設定します。

パーティションの名前は 16 文字までです。16 文字を超える文字数の名前は設定できません。
名前にスペース (空白) を含む場合は、名前を " " で囲んで指定します。
指定可能な文字は、以下のとおりです。
[a-z]、[A-Z]、[0-9]、「_」(アンダーバー)、「-」(ハイフン)、「#」(シャープ)、「 」(空白)です。
デフォルトは、設定値なしです。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set partition name <partition#> <partition name>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
例：Partition3 に名前 "hogehoge" を設定する場合
set partition name 3 hogehoge
#

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified partition number is invalid.
The specified partition name is invalid.
Partition#x is not defined.
Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command because the system is under maintenance.
Unable to execute this command because the Partition#x is under maintenance.
Succeed to set partition name command.
Failed to execute set partition name command.
Failed to execute %s command.
The specified command is not supported.(error=[%s])

2.2.26 set ssh

SSH の enable/disable を設定します。
デフォルトの設定値は disable (SSH 無効)です。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set ssh [enable | disable]
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111)を参照してください。

Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.27 set ssh_port

SSH セッションを受け入れるポートを設定します。デフォルトは 22。
<port>に指定可能なポート番号は、22、1024 ～ 65535。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set ssh_port <port>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111)を参照してください。

The specified port number is invalid.
The specified port number is duplicated.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.28 set telnet

Telnet の enable/disable を設定します。
デフォルトの設定値は disable (Telnet 無効)です。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set telnet [enable | disable]
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.29 set telnet_port

Telnet 接続を受け入れるポートを設定します。デフォルトポートは 23 です。
<port>に指定可能なポート番号は、23、1024 ～ 65535。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set telnet_port <port>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified port number is invalid.
The specified port number is duplicated.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.2.30 set timezone

タイムゾーンを設定します。

備考
タイムゾーンを設定した後は、set date コマンドで日時を再設定する必要があります。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
set timezone <timezone>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified timezone is invalid.
Time synchronization was requested to Standby MMB.
Unable to execute this command on a standby MMB.

2.3 表示用コマンド

情報を表示させるためのコマンドは、以下のとおりです。

- 2.3.1 show access_control
- 2.3.2 show active_mmb
- 2.3.3 show date
- 2.3.4 show exit_code
- 2.3.5 show partition configuration
- 2.3.6 show partition home
- 2.3.7 show partition name
- 2.3.8 show partition mirror_mode
- 2.3.9 show timezone
- 2.3.10 show gateway
- 2.3.11 show gateway_ipv6
- 2.3.12 show http
- 2.3.13 show http_port
- 2.3.14 show https
- 2.3.15 show https_port
- 2.3.16 show ip
- 2.3.17 show ipv6
- 2.3.18 show hostname
- 2.3.19 show maintenance_ip
- 2.3.20 show ssh
- 2.3.21 show ssh_port
- 2.3.22 show telnet
- 2.3.23 show telnet_port
- 2.3.24 show network
- 2.3.25 show ntpq
- 2.3.26 who
- 2.3.27 help
- 2.3.28 netck traceroute
- 2.3.29 netck arptbl
- 2.3.30 netck arping
- 2.3.31 netck ifconfig
- 2.3.32 netck stat

ここではこれらのコマンドの操作方法を説明します。

2.3.1 show access_control

現在のアクセス制御の設定値を表示します。

■権限：Administrator

(1) 入力形式

```
show access_control
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
#Administrator > show access_control
SSH : All
Telnet : All
HTTP : All
HTTPS : IP Address:10.66.250.190 :Netmask:255.255.255.0
SNMP : All
#

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified command is invalid

2.3.2 show active_mmb

現在の Active MMB を表示します。

備考
本コマンドは Standby MMB から発行できます。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show active_mmb
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show active_mmb
Active MMB: 1

(4) メッセージ
なし

2.3.3 show date

現在の日付と時刻を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show date
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
#Administrator > show date
2009-11-30 11:14:21 JST
#

(4) メッセージ
なし

2.3.4 show exit_code

直前の実行コマンドの終了コードを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show exit_code
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
#power on all
#
#show exit_code
 0
#

(4) メッセージ
なし

2.3.5 show partition configuration

パーティションに含まれる SB、IOB、GSPB を表示します。

出力形式：
1 パーティションに関する情報が 1 行に表示されます。各列の表示内容は以下のとおりです。

第 1 列： パーティション番号
第 2 列： パーティション名
第 3 列： Home SB (SB#x の形式で表示)

第 4 列以降：対象パーティションに含まれる SB、IOB、GSPB を SB、IOB、GSPB 順に表示されます。
SB、IOB、GSPB 内では番号の小さい順に表示します。
Reserved SB は RSB#x のように SB#x の頭に「R」を付けて表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show partition configuration [all | free | <partition#> {[, | -] ¥
<partition#>}]
```

¥：改行しないことを表す。

(2) オプション
all：すべてのパーティションと、どのパーティションにも属していない SB/IOB/GSPB を表示。
free：どのパーティションにも属していない SB/IOB/GSPB を表示。
<partition#>：指定したパーティションを表示。

複数のパーティションを指定する場合の指定方法は、以下のとおり。
- パーティション番号をカンマで区切って指定
- パーティション番号範囲で指定

備考
カンマ区切りと番号範囲の指定は混在可能です。

(3) 使用例
- 例：PRIMEQUEST 1800E/1800L でパーティション番号 0 ～ 2 のパーティションの構成情報を表示する場合

  # show partition configuration 0-2

0	hogehoge	SB#0SB#0	RSB#3	IOB#0A	GSPB#0A
1	testserver	SB#1SB#1	IOB#0B	GSPB#0B	
2		SB#2SB#2	IOB#1A	GSPB#1A	

  #

- 例：上記と同じ構成に対して all 指定を使用した場合

  # show partition configuration all

0	hogehoge	SB#0SB#0	RSB#3	IOB#0A	GSPB#0A
1	testserver	SB#1SB#1	IOB#0B	GSPB#0B	
2		SB#2SB#2	IOB#1A	GSPB#1A	
3	＜何も登録されていないのでブランク表示＞				
free			IOB#1B		

```
#
```

・ 例：PRIMEQUEST 1400S でパーティション番号 0 のパーティションの構成情報を表示する場合

```
# show partition configuration 0

0       hogehoge        SB#0SB#0        IOB-A           GSPB-A
#
```

・ 例：上記と同じ構成に対して all 指定を使用した場合

```
# show partition configuration all

0       hogehoge        SB#0SB#0        IOB-A           GSPB-A
1       testserver      SB#1SB#1        IOB-B           GSPB-B
free            ＜ free な Unit が何もないのでブランク表示＞
#
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified partition number is invalid.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.
Failed to execute show partition configuration command.

2.3.6 show partition home

指定したパーティションの Home SB を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show partition home <partition#>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
パーティション 3 の Home SB を表示する場合
show partition home 3
SB#2
#

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified partition number is invalid.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.
Home SB is not set in Partition#x.
Partition#x is not defined.
Failed to execute show partition home command.

2.3.7 show partition name

指定したパーティションの名前を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show partition name <partition#>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
パーティション 3 の名前を表示する場合
show partition name 3
hogehoge
#

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified partition number is invalid.
The specified parameter is invalid.

Unable to execute this command on a standby MMB.
Failed to show partition name command.

2.3.8 show partition mirror_mode

指定したパーティションの Mirror Mode を表示します。

- disabled
- enabled

■権限：All

(1) 入力形式

```
show partition mirror_mode <partition#>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
パーティション 3 の Mirror Mode を表示する場合
show partition mirror_mode 3
current: disabled
setting: enabled
#

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified partition number is invalid.
The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.
Failed to execute %s command.
Failed to execute show partition command.

2.3.9 show timezone

タイムゾーンを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show timezone
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
#Administrator > show timezone
Timezone is set to Asia/Tokyo
#

(4) メッセージ
なし

2.3.10 show gateway

管理 LAN インターフェースに設定されているデフォルトゲートウェイの IP アドレスを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show gateway
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show gateway
Gateway Address: 10.1.2.1

(4) メッセージ
なし

2.3.11 show gateway_ipv6

管理 LAN インターフェースに設定されているデフォルトゲートウェイの IP アドレスを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show gateway_ipv6
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

show gateway_ipv6
Gateway Address: fe80:: 1234:f3ff:fe03:5666

(4) メッセージ
なし

2.3.12 show http

現在の HTTP サーバの状態 (enable/disable)を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show http
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show http
HTTP: disabled

(4) メッセージ
なし

2.3.13 show http_port

HTTP セッションが現在接続されているポートを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show http_port
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show http_port
HTTP Port Number: 8081

(4) メッセージ
なし

2.3.14 show https

現在の HTTPS サーバの状態 (enable/disable)を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show https
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show https
HTTPS: disabled

(4) メッセージ
なし

2.3.15 show https_port

HTTPS セッションが現在接続されているポートを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show https_port
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show https_port
HTTPS Port Number: 432

(4) メッセージ
なし

2.3.16 show ip

管理 LAN インターフェースに設定されている IP アドレス、ネットマスクを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show ip
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show ip
IP Address: 10.1.2.124
Netmask: 255.255.255.0

(4) メッセージ
なし

2.3.17 show ipv6

管理 LAN インターフェースに設定されている IPv6 用のグローバルアドレス、プレフィックス長を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show ipv6
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show ipv6
IP Address/Prefix: 2000:2002:2003:2004:2005:2006:2007:2008/64

(4) メッセージ
なし

2.3.18 show hostname

MMB のホスト名を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show hostname
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show hostname
hogehoge.fujitsu.com

(4) メッセージ
なし

2.3.19 show maintenance_ip

Maintenance ポートの IP アドレスを表示します。

備考
IPv4 のみサポート。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show maintenance_ip
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show maintenance_ip
IP Address： 192.168.1.10
NetMask： 255.255.255.0
Gateway Address： 192.168.1.1
SMTP Address： 172.128.1.2
#

(4) メッセージ
なし

2.3.20 show ssh

現在の SSH サーバの状態 (enable/disable)を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show ssh
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

show ssh
SSH: disabled

(4) メッセージ
なし

2.3.21 show ssh_port

SSH セッションが現在接続されているポートを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show ssh_port
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show ssh_port
SSH Port Number: 22

(4) メッセージ
なし

2.3.22 show telnet

現在の Telnet サーバの状態 (enable/disable)を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show telnet
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show telnet
Telnet: disabled

(4) メッセージ
なし

2.3.23 show telnet_port

Telnet セッションが現在接続されているポートを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show telnet_port
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
show telnet_port
Telnet Port Number: 23

(4) メッセージ
なし

2.3.24 show network

管理 LAN インターフェースに設定されているネットワーク設定を表示します。
以下の情報を表示します。

- Hostname
- IP Address
- Netmask
- Gateway Address
- IPv6 用 IP Address/プレフィックス長
- IPv6 用 Gateway Address
- MAC Address
- HTTP status
- HTTP Port Number
- HTTPS status
- HTTPS Port Number
- Telnet status
- Telnet Port Number
- SSH status
- SSH Port Number

■権限：All

(1) 入力形式

```
show network
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

```
# show network
Hostname:hogehoge.fujitsu.com
IP Address:10.1.2.124
Netmask:255.255.255.0
Gateway Address: 10.1.2.1
IPv6 IP Address/Prefix:  2000:2002:2003:2004:2005:2006:2007:2008/64
IPv6 Gateway Address:  fe80::1234:f3ff:fe03:5555
MAC Address:00:AA:00:12:34:55
HTTP:disabled
HTTP Port Number:8081
HTTPS:disabled
HTTPS Port Number:432
Telnet:disabled
Telnet Port Number:23
SSH:enabled
SSH Port Number:22
```

(4) メッセージ

なし

2.3.25 show ntpq

ntp の動作状況を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
show ntpq
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

```
# show ntpq
      remote    refid      st t when poll reach   delay   offset  jitter
==============================================================================
*10.23.4.3     10.0.50.32   4 u  882 1024  377    0.941   -0.154   0.284
10.49.51.3     .INIT.      16 u    - 1024    0    0.000    0.000   0.000
LOCAL(0)       .LOCL.       5 l  23h   64    0    0.000    0.000   0.000
#
```

表 2.8 show ntpq の出力項目

項目	説明
remote の先頭の記号	remote の先頭に表示される記号は以下の意味を示す。 空白: reject。要求が不到達、もしくは距離が遠い (サーバへの往復の通信時間が 16 秒以上) ために参照していない。 x: falsetick。MMB に登録している他の全 remote サーバから取得した時間が、2 台以上の remote と比較し時間がずれている (jitter の値をずれの許容範囲として、それ以上ずれている) ために参照リストから外された。すべての時計がずれている場合は falsetick は検出されない。 -: outlyer。現在同期中 remote の offset よりもこの remote の jitter の値が大きいために参照していない。 +: candidate。いつでも同期可能。 #: selected。同期可能ではあるが、距離が遠い (サーバへの往復の通信時間が 1 秒以上) のため candidate から外れている。 *: sys.peer。同期中。
remote	NTP Server (内部時計を ntp プロトコルにより他コンピュータに提供するサーバ) として参照しているホスト名 ("LOCAL"は MMB を示す)。
refid	remote がどこから時刻を同期しているかを表す。不明の場合は、0.0.0.0。
st	サーバの階層を示す番号。一般にこの番号が大きくなるほど、時間の信頼性が薄らぐ。
t	remote サーバの種別。 l:ローカルサーバ。MMB の内部時計を取得 (remote が LOCAL の時のみこのタイプになる)。 u:ユニキャストサーバ。MMB から remote に対して時刻要求を行い、送信されてきた時刻を取得する。
when	remote から最後にパケットを受け取ってからの経過時間 (単位：秒)。
poll	remote から時刻を取得する間隔 (単位：秒)。
reach	過去 8 回の時刻取得の成否のフラグ (8 進数表現)。 過去 8 回の時刻取得の成否結果を 8 ビット (0:失敗、1：成功) で表現し、それを 8 進数表示している。時間取得する毎にビットを左シフトさせ、一番右ビットが最新の取得結果となる。 例えば、この値が $356_{(8)}$=11,101,$110_{(2)}$である場合、過去 8 回の取得結果のうち最新の取得と、4 回前の取得が失敗している。次の時刻取得が成功すると、$335_{(8)}$= 11,011,$101_{(2)}$となる。
delay	remote との通信のためにネットワーク往復にかかる通信時間 (単位：ミリ秒)。
offset	remote の時計と内部時計との時刻のずれ (単位：ミリ秒)。
jitter	前回取得した時間に poll の間隔を足した時間と、実際に取得した最新の時間の誤差の値 (単位：ミリ秒)、互いの時計の精度、ネットワークの状況により誤差が発生する。

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズメッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.
Unable to execute this command on a standby MMB.
Failed to ntpq command.

2.3.26 who

現在 MMB ログインしているユーザーについて次の情報を表示します。

- ログイン名
- ログインした時間
- リモートホスト名 (または、リモートホストの IP アドレス)
  ログイン時点で MMB に設定されている DNS からリモートホスト名がわかる場合は、リモートホスト名を表示します。わからない場合は IP アドレスを表示します。また、シリアルポートからログインしている場合は「-」(ハイフン)が表示されます。
- Telnet/SSH で接続しているか、Web-UI で接続しているか、それとも、シリアルポートで接続しているか。
  Telnet/SSH でログインしている場合は「Telnet/SSH」と表示されます。
  Web-UI でログインしている場合は「WebUI」と表示されます。
  シリアルポートでログインしている場合は「-」(ハイフン)が表示されます。

■権限：All

(1) 入力形式

```
owh
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

```
# who
Suzuki    2012-11-08 10:35:51 Telnet/SSH10.24.6.94
takahashi 2012-11-08 10:38:02 Telnet/
SSH2001:2345::3dfb:dc43:4d75:5a71
tanaka    2012-11-08 10:34:26 WebUI10.24.6.191
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

```
Failed to get login information.
```

2.3.27 help

使用可能コマンドについてのヘルプを表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
help
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

- 例 1：Administrator 権限の場合

```
add  partition <partition#> [ SB <SB#> | IOB <IOB#>[A|B} | GSPB  <GSPB#>[A|B}] {quiet}
clear  access_control
power  [ off | on ]
  power off partition [ all |  <partition#>[,| -]<partition#>] {force}
  power on partition [ all |  <partition#>[,|-]<partition#>]
remove  partition <partition#> [ SB <SB#> | IOB <IOB#>[A|B] | GSPB  <GSPB#>[A|B}] {quiet}
set  active_mmb {0 | 1} {quiet}
set [  date | timezone | gateway | http | http_port | https | https_port |
     partition home | partition name |
     partition  mirror_mode | partition pci_express_mode |
     ssh | ssh_port | telnet | telnet_port |  ip | hostname | maintenance_ip |
sysconf power_feed_mode | sysconf power_restoration_policy |
sysconf power_on_delay | sysconf altitude | sysconf  psu_redundant_mode |
mmbcontrol reset | mmbcontrol switch_over | reserved_sb |
snmp sys_location | snmp sys_contact | snmp community |
snmp trap | snmp test_trap ]
  set date MMDDhhmm{{CC}YY}{,ss}
  set timezone <timezone>
  set gateway <ip address>
  set gateway_ipv6 {auto} <ip address>
  set [ http | https | ssh | telnet ] [  enable | disable ]
  set  [ http_port | https_port | ssh_port | telnet_port ] <port>
  set partition home <partition#> SB  <SB#>
  set partition name <partition#>  <partition name>
  set partition mirror_mode  <partition#> [disable | enable] {quiet}
  set partition pci_express_mode <partition#> [ flexible |  fixed ] {quiet}
  set ip <ip address> <netmask>
  set ipv6 {auto} <ip address/prefix>
  set hostname <hostname>.<domain  name>
```

```
  set maintenance_ip <ip address>  <netmask> <gateway address> <smtp address>
  set sysconf power_feed_mode [single |  dual] {quiet}
  set sysconf power_restoration_policy [on |  off | restore | sync] {quiet}
  set sysconf power_on_delay <time>  {quiet}
  set sysconf altitude <altitude>
    set sysconf psu_redundant_mode  [redundant | non_redundant] {quiet}
  set mmbcontrol reset [0 | 1] {quiet}
  set mmbcontrol switch_over {quiet}
  set reserved_sb <SB#>  <partition#> {quiet}
  set snmp sys_location <location>  {quiet}
  set snmp sys_contact <contact>  {quiet}
  set snmp community <community>  <ip or mask> [1 | 2] [ro | rw] {quiet}
  set snmp trap <community> <ip>  [1 | 2] {quiet}
  set snmp test_trap {quiet}
show  [ access_control | active_mmb | date |  timezone | gateway |
      http | http_port | https |  https_port |
      partition configuration | partition  home | partition name |
      partition mirror_mode | partition  pci_address_mode |
      ssh | ssh_port | telnet |  telnet_port | ip | hostname | network | maintenance_ip |
update_status | firmware_version | exit_code |
sysconf power_feed_mode | sysconf power_restoration_policy |
sysconf power_on_delay | sysconf altitude | sysconf  psu_redundant_mode |
sysconf input_voltage | reserved_sb | user_list |
snmp sys_location | snmp sys_contact | snmp community | snmp  trap |
 ipv6 | gateway_ipv6 ]
 show partition configuration [ all | free  | <partition#> {[, | -] <partition#>}]
 show partition home <partition#>
 show partition name <partition#>
 show partition mirror_mode  <partition#>
 show partition pci_express_mode  <partition#>
add  user <user name> <password> <confirm password> [admin |  operator | user | ce | partition_operator]
{all | <partition#> {[, | -]  <partition#>}} {quiet}
netck  [traceroute | arptbl | arping | ifconfig | stat]
 netck arping <ip address>
update  ALL <url> {force} {quiet}
exit
passwd  {USER}
ping  {-c <count>} [<ip address> | <server name>]
who
help
```

・ 例 2：CE 権限の場合

```
set  active_mmb {0 | 1} {quiet}
set  maintenance_ip <ip address> <netmask> <gateway address> <smtp  address>
set [  sysconf power_feed_mode | sysconf power_restoration_policy |
sysconf power_on_delay | sysconf altitude | sysconf psu_redundant_mode  |
```

```
show  [ active_mmb | date | timezone | gateway |  http | http_port |https | https_port |
        partition configuration | partition  home | partition name |
        partition mirror_mode | partition pci_address_mode |
        ssh | ssh_port | telnet |  telnet_port |
        ip | hostname | network | maintenance_ip |
sysconf power_feed_mode | sysconf power_restoration_policy |
sysconf power_on_delay | sysconf altitude | sysconf  psu_redundant_mode |
sysconf input_voltage | ipv6 | gateway_ipv6]
  show partition configuration [ all | free  | <partition#>{[, | -] <partition#>}]
  show partition home <partition#>
  show partition mirror_mode  <partition#>
  show partition name <partition#>
  show partition pci_express_mode  <partition#>

netck  [traceroute | arptbl | arping | ifconfig | stat]

update  ALL <url> {noverify} {quiet}

exit
passwd
ping  {-c <count>} [<ip address> | <server name>]
who
help
```

・ 例 3：Operator 権限の場合

```
power [ off | on ]
  power off partition [ all | <partition#>[,| -]<partition#>] {force}
  power on partition [ all | <partition#>[,|-]<partition#>]

set [  partition mirror_mode | partition pci_express_mode ]
  set partition mirror_mode  <partition#> [ enable | disable ] {quiet}
  set partition pci_ express_mode  <partition#> [flexible | fixed ] {quiet}

show  [ active_mmb | date | timezone | gateway |
 http | http_port | https  | https_port |
        partition configuration | partition  home | partition name |
partition mirror_mode | partition pci_address_mode |
        ssh | ssh_port | telnet |  telnet_port | ip | hostname | network | maintenance_ip |
sysconf power_feed_mode | sysconf power_restoration_policy |
sysconf power_on_delay | sysconf altitude | sysconf  psu_redundant_mode |
sysconf input_voltage | ipv6 | gateway_ipv6]
  show partition configuration [ all | free  | <partition#> {[, | -] <partition#>}]
  show partition home <partition#>
  show partition mirror_mode  <partition#>
  show partition name <partition#>
```

```
  show partition pci_ express_mode  <partition#>

netck  [traceroute | arptbl | arping | ifconfig | stat]

nmi {partition} [ <partition#> [, | -] <partition#>] {quiet}
reset {partition} [ <partition#> [, | -] <partition#>] {quiet}
sadump {partition} [ <partition#> [, | -] <partition#>] {quiet}

exit
passwd
ping  {-c <count>} [<ip address> | <server name>]
who
help
```

・ 例 4：User 権限の場合

```
clear  ssh_key
download  ssh_key <url>

show  [ active_mmb | date | timezone | gateway |
http | http_port | https | https_port |
      partition configuration | partition  home | partition name |
partition mirror_mode | partition pci_address_mode |
      ssh | ssh_port | telnet |  telnet_port | ip | hostname | network | maintenance_ip |
sysconf power_feed_mode | sysconf power_restoration_policy |
sysconf power_on_delay | sysconf altitude | sysconf  psu_redundant_mode |
sysconf input_voltage | ipv6 | gateway_ipv6]
  show partition configuration [ all | free  | <partition#> {[, | -] <partition#>}]
  show partition home <partition#>
  show partition name <partition#>
  show partition mirror_mode  <partition#>
  show partition pci_ express_mode  <partition#>

netck  [traceroute | arptbl | arping | ifconfig | stat]

exit
passwd
ping  {-c <count>} [<ip address> | <server name>]
who
help
```

・ 例 5：Partition Operator 権限の場合

```
power  [ off | on ]
  power off partition [ all |  <partition#>[,| -]<partition#>] {force}
  power on partition [ all |  <partition#>[,|-]<partition#>]

set [  partition mirror_mode | partition pci_express_mode ]
```

set partition mirror_mode <partition#> [enable | disable] {quiet}
set partition pci_express_mode <partition#> [flexible | fixed] {quiet}

show [active_mmb | date | timezone | gateway |
http | http_port | https | https_port |
partition configuration | partition home |
partition mirror_mode | partition name | partition pci_address_mode |
ssh | ssh_port | telnet | telnet_port | ip | hostname | network |
sysconf power_feed_mode | sysconf power_restoration_policy |
sysconf power_on_delay | sysconf altitude | sysconf psu_redundant_mode |
sysconf input_voltage | ipv6 | gateway_ipv6]
show partition configuration [all | free | <partition#> {[, | -] <partition#>}]
show partition home <partition#>
show partition mirror_mode <partition#>
show partition name <partition#>
show partition pci_express_mode <partition#>

netck [traceroute | arptbl | arping | ifconfig | stat]

exit
passwd
ping {-c <count>} [<ip address> | <server name>]
who
help

(4) メッセージ
なし

2.3.28 netck traceroute

指定した IP アドレスから目的のホストまでのネットワーク経路を一覧で表示します。

備考
IPv4 のみサポート。

■権限：All

(1) 入力形式

```
netck traceroute <ip>
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
netck traceroute 10.2.3.4
traceroute to 10.2.3.4 (10.2.3.4), 30 hops max, 40 byte packets

1 10.2.4.1 (10.2.4.1) 0.822 ms 5.142 ms 0.59 ms
2 10.2.5.1 (10.2.5.1) 0.923 ms 0.747 ms 0.679 ms
3 10.2.6.1 (10.2.6.1) 0.955 ms 0.736 ms 0.71 ms
4 10.3.2.1 (10.3.2.1) 1.023 ms 0.861 ms 0.837 ms
5 10.3.2.2 (10.3.2.2) 1.049 ms 0.939 ms 0.887 ms
6 10.2.3.5 (10.2.3.5) 1.285 ms 1.005 ms 0.997 ms
7 10.2.3.4 (10.2.3.4) 0.976 ms 0.828 ms 0.891 ms

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.

(5) 処理
"traceroute <ip>" を実行します。

2.3.29 netck arptbl

IP アドレスから Ethernet の物理アドレス (MAC アドレス) を表示する。

■権限：All

(1) 入力形式

```
netck arptbl
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
netchk arptbl
IP address HW type Flags HW address Mask Device
10.1.2.3 0x1 0x2 00:21:A1:1A:32:45 * bond0

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.

(5) 処理
cat /proc/net/arp の bond0 (管理 LAN) のみ表示させます。

2.3.30 netck arping

指定した IP アドレスから Ethernet の物理アドレス (MAC アドレス) を表示します。

備考

IPv4 のみサポート。

■権限：All

(1) 入力形式

```
netck arping <ip>
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

netck arping 10.1.2.3
ARPING to 10.1.2.3 from 10.1.2.33 via bond0
Unicast reply from 10.1.2.3 [0:21:a1:1a:32:45] 1.253ms
Sent 1 probes (1 broadcast(s))
Received 1 reply

(4) メッセージ

この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.

(5) 処理

arping -l bond0 -c 1 <ip>を実行します。

2.3.31 netck ifconfig

ネットワーク環境の設定状況 (IPv4 または IPv6) を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
netck ifconfig
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

```
#netck ifconfig
bond0 Link encap:Ethernet HWaddr 00:17:42:9B:D9:78
inet addr:10.24.77.80 Bcast:10.24.77.255 Mask:255.255.255.0
inet6 addr:2001:2345::10/64 Scope:Global
inet6 addr:fe80::217:42ff:fe9b:d978/64 Scope:Link
UP BROADCAST RUNNING MASTER MULTICAST MTU:1500 Metric:1
RX packets:4765 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
TX packets:3438 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 txqueuelen:0
RX bytes:637685 (622.7 KiB) TX bytes:1318710 (1.2 MiB)
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.

(5) 処理
"ifconfig bond0" を実行します。

2.3.32 netck stat

稼動中のプロセスが使用しているポート番号の一覧を表示します。

■権限：All

(1) 入力形式

```
netck stat
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

```
#netck stat
Active Internet connections (w/o servers)
Proto Recv-Q Send-Q Local Address Foreign Address State
tcp 0 0 PRIME123063:telnet 10.1.2.3:4015 TIME_WAIT
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.

(5) 処理

netstat -tuwn から Private-LAN などの内部情報を削除します。

2.4 アップデート用コマンド

アップデート用のコマンドは、以下のとおりです。

- 2.4.1 update ALL
- 2.4.2 show update_status

ここではこれらのコマンドの操作方法を説明します。

2.4.1 update ALL

指定した URL から一括してファームウェアをダウンロードし、MMB、BMC、BIOS をアップデートします。
URL は、以下のように指定します。
http://host/path/file
ftp://host/path/file

以下の順でアップデートを実施します。
(1) MMB Firmware Update (Standby)
(2) MMB Firmware Update (Active)
(3) BMC Firmware Update
(4) BIOS Firmware Update

進行状況は、show update_status コマンドで確認します。

注意
MMB あるいは SB が故障している場合は、ファームアップデートの前に保守を行ってください。故障した MMB あるいは SB が構成内に存在するときには、ファームアップデートを実施しないでください。

■権限：Administrator、CE

(1) 入力形式

```
update ALL <url> {force} {quiet}
```

(2) オプション
force：適用する総合ファームウェア版数で、強制的にアップデートを実行します。
quiet：ユーザーに対するインタラクティブ動作なしでアップデートします。

(3) 使用例
update ALL http://host/path/allfirm001
Downloading an unified firmware file.....
Extracting an unified firmware file.....

Current Unified Firmware Version: xxxxx
New Unified Firmware Version: yyyyy

```
Are you sure to continue Firmware Update? [Y|N]: Y
#
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Are you sure to continue Firmware Update? [Y|N]:
The specified parameter is invalid
Unable to execute this command on a standby MMB.
Failed to get the firmware version.
The checksum of the firmware file is invalid.
The size of the firmware file is invalid.
The CRC of the firmware file is invalid.
Specified file is NOT a Firmware file.
Specified host does NOT respond.
Unable to execute the update under maintenance.
Current firmware is newer version.
Unable to execute the online update. Please try the update after the system power off.
Unable to execute the update. TPM is effective.
Unable to execute the update. Standby MMB is fault or disable.
Unable to execute Firmware Update due to resource lock. Please retry after waiting a while.
The firmware is being updated now.

(5) 処理

- force オプションなしの場合
  適用する総合ファーム版数と動作中の総合ファームウェア版数を比較して、古い版数または同一版数の場合、ファームウェアアップデートを行わない。
  また、個別のファームウェアのファームウェア版数を確認し、同一版数の場合はファームウェアアップデートを行わず、版数が違う場合にのみファームウェアアップデートを行う。

- force オプション指定ありの場合
  適用する総合ファーム版数と動作中の総合ファーム版数は比較しないで、運用する総合ファーム版数で強制的にファームウェアアップデートを行う。

2.4.2 show update_status

一括ファームウェアアップデートのファームウェアのバージョンおよび進行状態を表示します。

ステータスを以下に示します。

- completed：正常終了
- failed：異常終了
- updating：ファームウェアアップデート中 (%表示)
- being updated：ファームウェアアップデート中 (ファームウェアダウンロード中)
- not executed：アップデート処理を実行していない状態

■権限：Administrator、CE

(1) 入力形式

```
show update_status
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例：

```
#show update_status
    All Firmware Version : 11223344, update status:updating  35%
    #
```

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Unified Firmware Version : XX, update status:completed
Unified Firmware Version : XX, update status:not executed
Unable to execute this command on a standby MMB.
Failed to execute show update_status command.
Unified Firmware Version : XX, update status:being updated
Unified Firmware Version : XX, update status:updating YY%
Unified Firmware Version : XX, update status:failed

2.5 その他のコマンド

情報設定・表示・アップデート以外のコマンドは以下のとおりです。

- 2.5.1 exit
- 2.5.2 passwd
- 2.5.3 ping

ここではこれらのコマンドの操作方法を説明します。

2.5.1 exit

ログアウトします。

■権限：All

(1) 入力形式

```
exit
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
なし

2.5.2 passwd

指定したユーザーのパスワードを変更します。Administrator 権限を持たないユーザーは、自分のパスワードしか変更できません。Administrator 権限を有するユーザーは、すべてのユーザーのパスワードを変更できます。
ユーザーを指定しなかった場合は、現在ログインしているユーザーのパスワードが変更されます。
入力可能な文字などの条件は、「表 1.84 [Add User]／[Edit User] 画面の表示・設定項目」を参照してください。

■権限：All

(1) 入力形式

```
passwd {USER}
```

(2) オプション
USER：パスワードを変更するユーザー名を指定します。

(3) 使用例
passwd

Current password: **********
New password: **********
Re-enter new password: **********
Password changed.

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Unable to execute this command on a standby MMB.
The specified parameter is invalid.
Password changed.
change passwd failed (code=0x%04x)
Could not set attributes
invalid passwd
password needs 8 characters at least
password needs 32 characters or less
Failed to the password authentication.
New password differs from Re-enter new password.

2.5.3 ping

<IP address> または <server name> で指定された宛先に対して、ICMP echo message を送信します。

備考
IPv4 のみサポート。

■権限：All

(1) 入力形式

```
ping {-c <count> } [<IP address>|<server name>]
```

(2) オプション
-c <count>：<count>で指定された数のパケットを送信後、終了します。
省略時のデフォルトは「1」。

(3) 使用例
なし

(4) メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

The specified parameter is invalid.

ICMP の ping を利用しているため、パラメーターの指定が正しくない場合には、ICMP ping のエラーメッセージが表示される場合があります。

第 3 章　PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作

本章では、MMB Web-UI を使って PSA を操作する場合の、メニュー一覧、および画面と操作について説明します。
PSA の Web-UI は、PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L のみ提供します。
PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 では、PSA による管理機能は SVmco によって提供されます。SVmco について詳しくは、SVmco のマニュアルを参照してください。

3.1 PSA の基本操作 292
3.2 PSA の Web-UI メニュー一覧 294
3.3 [Partition Information] 画面 302
3.4 [CPUs] 画面 305
3.5 [DIMMs] 画面 306
3.6 [PCI Devices] 画面 307
3.7 [Network] メニュー 326
3.8 [Hard Disks] 画面 332
3.9 [Hardware Inventory] 画面 334
3.10 [Agent Log] 画面 336
3.11 [Export List] 画面 342
3.12 [PSA Logs Download] 画面 347

3.1 PSA の基本操作

PSA は PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L の各パーティション上の OS で動作するシステム管理アプリケーションです。
ここでは、MMB Web-UI を使って PSA を操作する場合の、メニュー一覧、および画面と操作について説明します。
MMB Web-UI のナビゲーションバーで [Partition] - [Partition#x] - [PSA] メニューを選択すると、[Partition Information] 画面が表示されます。
以下に示す場合には、[Partition Information] 画面が表示されません。コンテンツ領域にパーティション、または PSA が動作していないことを伝えるメッセージが表示されます。

- パーティションに PSA がインストールされていない
- パーティション OS が起動されていない
- PSA が動作していない
- 管理 LAN の設定が正しくない場合

■コンポーネントの状態表示と背景色

PSA の画面では、パーティションに属する各種コンポーネントの状態が表示されます。コンポーネントの状態は、文字による表示のほか、識別しやすいように背景色によって状態が表示されます。
「表 3.1 コンポーネントの状態と背景色」に、コンポーネントの状態と表示色を示します。

表 3.1 コンポーネントの状態と背景色

状態	背景色
OK	白
Not-present	灰色
Error	赤
Warning	黄
Unknown	白

■値が得られない場合の項目表示

PSA の画面では、値が不明な項目は [n.a.] と表示されます。

備考

パーティションが高負荷状態の場合、下記の表示となる場合があります。

- 値の取得できなかった項目が [n.a.] 表示となる。
- E_33005 Communication Error. (01:XXXX)が表示される。
  XXXX：3301 または 3399 または 3400
  画面で表示されるメッセージについて詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

■[Refresh] ボタン

PSA の場合、表示内容に変化が発生する画面に対して [Refresh] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、新しい値が画面に反映され再表示されます。MMB の [Refresh Rate] 画面で [Enable] を設定しても自動リフレッシュはしません。新しい値は定期的 (30 分ごと) に収集した情報を蓄積して

表示するため、ボタンをクリックするタイミングによっては、最新の情報が画面に反映されないことがあります。画面表示時に最新の情報を取得する項目については、各画面の説明に記載します。

備考

PSA 起動中にタイムゾーンを変更した場合に、PSA 内部のローカル時刻は更新されません。更新する場合は、PSA の再起動をする必要があります。

PSA の設定画面で、設定完了時に表示された画面上でブラウザの更新ボタンや右クリックメニューのフレーム更新機能を使用すると、前回設定した内容が再設定されることがあります。この場合、実行確認のダイアログボックスを表示せずに設定するので注意してください。
設定完了時には、設定内容が反映された画面が表示されます。正しく設定されたかを確認するには、[Refresh] ボタンによって画面更新して表示させることを推奨します。[Refresh] ボタンがない場合は、再度同じメニューを選択して画面を表示させて確認します。

3.2 PSA の Web-UI メニュー一覧

PSA の Web-UI メニュー一覧を、ユーザー権限ごとに示します。

- 3.2.1 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Administrator)
- 3.2.2 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Operator)
- 3.2.3 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator)
- 3.2.4 PSA の Web-UI メニュー一覧 (User)
- 3.2.5 PSA の Web-UI メニュー一覧 (CE)

3.2.1 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Administrator)

Administrator 権限の Web-UI メニューの一覧を、以下に示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象画面の参照および設定が可能であることを示す (以降、設定権限ユーザーと呼ぶ)。
- RO：対象画面の参照のみ可能であることを示す (以降、参照権限ユーザーと呼ぶ)。
- N/A：対象画面およびサブメニューが表示されないことを示す。

表 3.2 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Administrator)

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
Partition						
	:					
	Partition#0					パーティションに属するボードが 1 枚以上ある場合に本メニューを表示
		:				
		PSA				
			Partition Information		RO	パーティション概要、OS 情報の表示 OS によって表示項目が異なる。
			CPUs		RO	CPU 情報の一覧表示
			DIMMs		RO	DIMM 情報の一覧表示
			PCI Devices		RW	PCI デバイス情報の表示

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
			Network			
				IPv4 Interfaces	RO	IPv4 ネットワーク情報の表示
				IPv6 Interfaces	RO	IPv6 ネットワーク情報の表示
			Hard Disks		RO	ハードディスク情報の一覧表示
			Hardware Inventory		RO	ハードウェア構成物の一覧表示
			Agent Log		RO	エージェントログの一覧表示
			Export List		RO	PSA 保持情報を CSV 形式で保存
			PSA Logs Download		RO	パーティションのログ情報を一括ダウンロード
	Partition#1				Partition#0 に同じ	
	:					

3.2.2 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Operator)

Operator 権限の Web-UI メニューの一覧を、以下に示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象画面の参照および設定が可能であることを示す (以降、設定権限ユーザーと呼ぶ)。
- RO：対象画面の参照のみ可能であることを示す (以降、参照権限ユーザーと呼ぶ)。
- N/A：対象画面およびサブメニューが表示されないことを示す。

表 3.3 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Operator)

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
Partition						
	:					

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
	Partition#0					パーティションに属するボードが 1 枚以上ある場合に本メニューを表示
		:				
		PSA				
			Partition Information		RO	パーティション概要、OS 情報の表示 OS によって表示項目が異なる。
			CPUs		RO	CPU 情報の一覧表示
			DIMMs		RO	DIMM 情報の一覧表示
			PCI Devices		RW	PCI デバイス情報の表示
			Network			
				IPv4 Interfaces	RO	IPv4 ネットワーク情報の表示
				IPv6 Interfaces	RO	IPv6 ネットワーク情報の表示
			Hard Disks		RO	ハードディスク情報の一覧表示
			Hardware Inventory		RO	ハードウェア構成物の一覧表示
			Agent Log		RO	エージェントログの一覧表示
			Export List		RO	PSA 保持情報を CSV 形式で保存
			PSA Logs Download		RO	パーティションのログ情報を一括ダウンロード
	Partition#1				Partition#0 に同じ	
	:					

3.2.3 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator)

Partition Operator 権限の Web-UI メニューの一覧を、以下に示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象画面の参照および設定が可能であることを示す (以降、設定権限ユーザーと呼ぶ) 。
- RO：対象画面の参照のみ可能であることを示す (以降、参照権限ユーザーと呼ぶ) 。
- N/A：対象画面およびサブメニューが表示されないことを示す。

表 3.4 PSA の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator)

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
Partition						
	:					
	Partition#0					パーティションに属するボードが 1 枚以上ある場合に本メニューを表示
		:				
		PSA				
			Partition Information		RO	パーティション概要、OS 情報の表示 OS によって表示項目が異なる。
			CPUs		RO	CPU 情報の一覧表示
			DIMMs		RO	DIMM 情報の一覧表示
			PCI Devices		RW	PCI デバイス情報の表示
			Network			
				IPv4 Interfaces	RO	IPv4 ネットワーク情報の表示
				IPv6 Interfaces	RO	IPv6 ネットワーク情報の表示
			Hard Disks		RO	ハードディスク情報の一覧表示

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
			Hardware Inventory		RO	ハードウェア構成物の一覧表示
			Agent Log		RO	エージェントログの一覧表示
			Export List		RO	PSA 保持情報を CSV 形式で保存
			PSA Logs Download		RO	パーティションのログ情報を一括ダウンロード
	Partition#1				Partition#0 に同じ	
	:					

3.2.4 PSA の Web-UI メニュー一覧 (User)

User 権限の Web-UI メニューの一覧を、以下に示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象画面の参照および設定が可能であることを示す (以降、設定権限ユーザーと呼ぶ)。
- RO：対象画面の参照のみ可能であることを示す (以降、参照権限ユーザーと呼ぶ)。
- N/A：対象画面およびサブメニューが表示されないことを示す。

表 3.5 PSA の Web-UI メニュー一覧 (User)

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
Partition						
	:					
	Partition#0					パーティションに属するボードが 1 枚以上ある場合に本メニューを表示
		:				
		PSA				

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
			Partition Information		RO	パーティション概要、OS 情報の表示 OS によって表示項目が異なる。
			CPUs		RO	CPU 情報の一覧表示
			DIMMs		RO	DIMM 情報の一覧表示
			PCI Devices		RO	PCI デバイス情報の表示
			Network			
				IPv4 Interfaces	RO	IPv4 ネットワーク情報の表示
				IPv6 Interfaces	RO	IPv6 ネットワーク情報の表示
			Hard Disks		RO	ハードディスク情報の一覧表示
			Hardware Inventory		RO	ハードウェア構成物の一覧表示
			Agent Log		RO	エージェントログの一覧表示
			Export List		RO	PSA 保持情報を CSV 形式で保存
			PSA Logs Download		N/A	パーティションのログ情報を一括ダウンロード
	Partition#1				Partition#0 に同じ	
	:					

3.2.5 PSA の Web-UI メニュー一覧 (CE)

CE 権限の Web-UI メニューの一覧を、以下に示します。

権限欄の記号の意味は、以下のとおりです。

- RW：対象画面の参照および設定が可能であることを示す (以降、設定権限ユーザーと呼ぶ) 。

- RO：対象画面の参照のみ可能であることを示す (以降、参照権限ユーザーと呼ぶ)。
- N/A：対象画面およびサブメニューが表示されないことを示す。

表 3.6 PSA の Web-UI メニュー一覧 (CE)

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
Partition						
	:					
	Partition#0					パーティションに属するボードが 1 枚以上ある場合に本メニューを表示
		:				
		PSA				
			Partition Information		RO	パーティション概要、OS 情報の表示 OS によって表示項目が異なる。
			CPUs		RO	CPU 情報の一覧表示
			DIMMs		RO	DIMM 情報の一覧表示
			PCI Devices		RW	PCI デバイス情報の表示
			Network			
				IPv4 Interfaces	RO	IPv4 ネットワーク情報の表示
				IPv6 Interfaces	RO	IPv6 ネットワーク情報の表示
			Hard Disks		RO	ハードディスク情報の一覧表示
			Hardware Inventory		RO	ハードウェア構成物の一覧表示
			Agent Log		RO	エージェントログの一覧表示

Navigation Bar	第 1 階層 (パーティション サブメニュー)	第 2 階層 (パーティション サブメニュー)	第 1 階層 (PSA サブメニュー)	第 2 階層 (PSA サブメニュー)	権限	備考
			Export List		RO	PSA 保持情報を CSV 形式で保存
			PSA Logs Download		RO	パーティションのログ情報を一括ダウンロード
	Partition#1				Partition#0 に同じ	
	:					

3.3 [Partition Information] 画面

[Partition Information] 画面には、パーティションの概要および OS 情報が表示されます。

備考

本画面は、パーティションにインストールされている OS によって表示される項目が異なります。

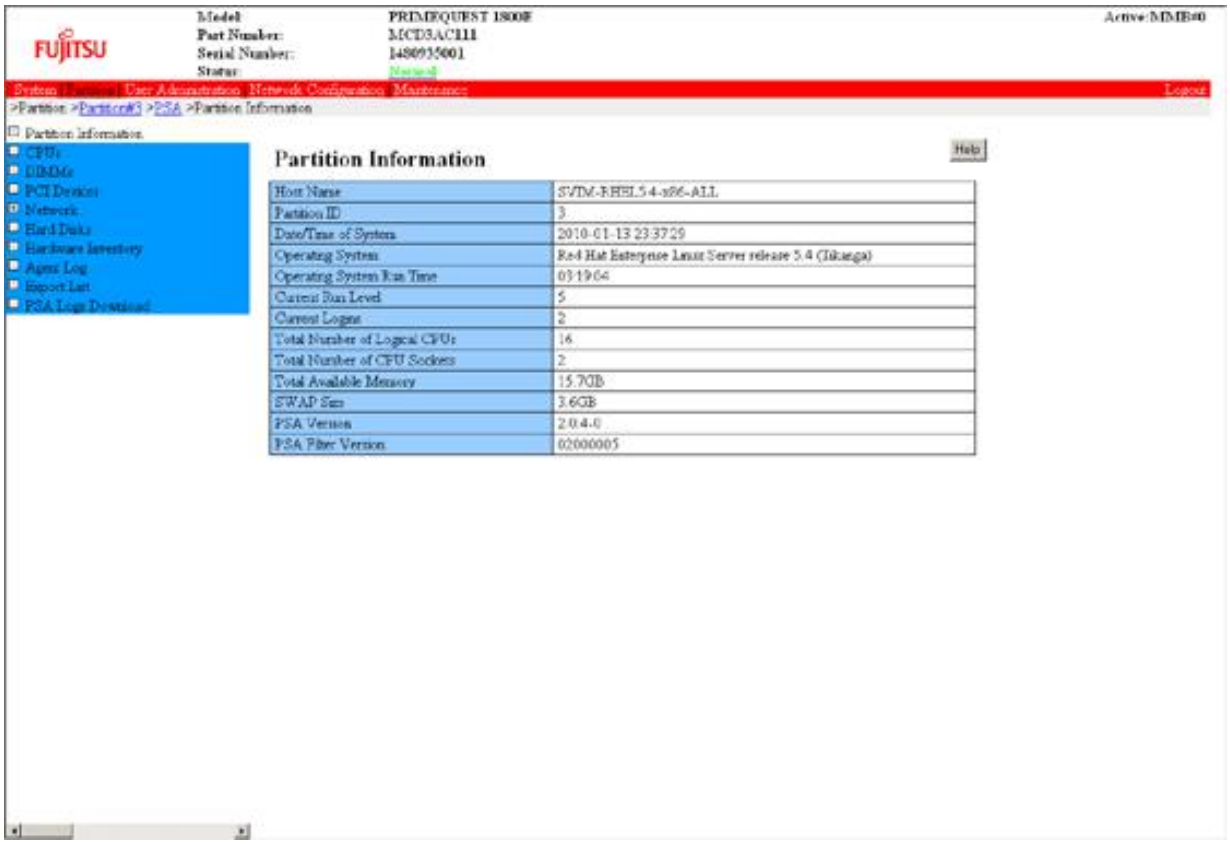


図 3.1 [Partition Information] 画面 (Linux)

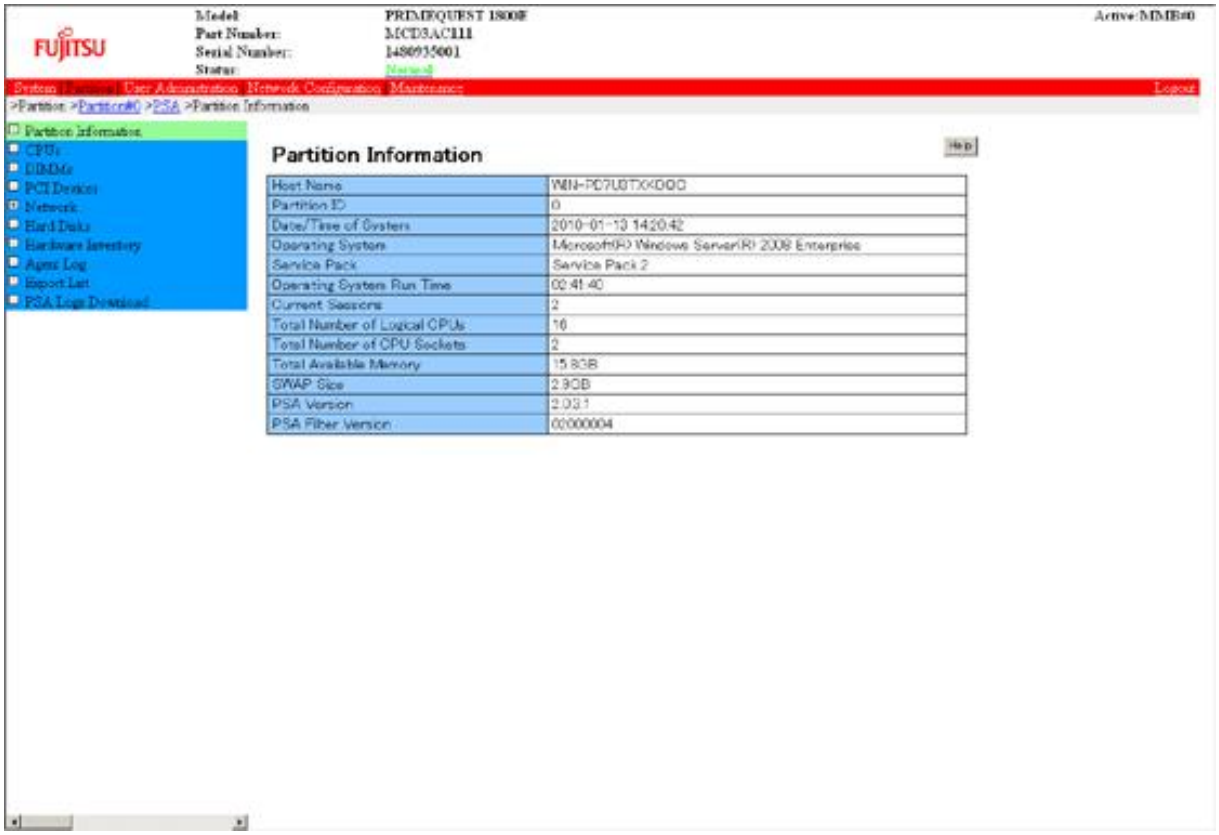


図 3.2 [Partition Information] 画面 (Windows)

表 3.7 [Partition Information] 画面の表示項目

項目	内容
Host Name	OS で設定したホスト名が表示される。
Partition ID	パーティション ID が表示される。
Date/Time of System	パーティション内システム時間 (ローカル時間) が表示される。 yyyy-MM-dd HH:mm:ss なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
Operating System	OS 名およびバージョンが表示される。
Service Pack *Windows のみサポート	OS サービスパックが表示される。
Operating System Run Time	OS の稼動時間が表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
Current Run Level *Linux のみサポート	OS のランレベル 1 ～ 5 が表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
Current Logins *Linux のみサポート	現在のログイン数が表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
Current Sessions *Windows のみサポート	現在のセッション数が表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。

項目	内容
Total Number of Logical CPUs	OS (VMware の場合は Console OS) で認識している論理的な CPU の数が表示される。
Total Number of CPU Sockets	物理的な CPU ソケット数が表示される。
Total Available Memory	OS (VMware の場合は Console OS) 上で有効な全 DIMM サイズが、GB 単位 (小数点以下 1 位まで 2 位以下切捨て) で表示される。
SWAP Size	パーティション (VMware の場合は Console OS) 内の SWAP サイズが、GB 単位 (小数点以下 1 位まで 2 位以下切捨て) で表示される。 Windows Server 2008 の場合で、仮想メモリのサイズを自動管理している場合は、- (ハイフン) が表示される。
PSA Version	PSA の版数が表示される。
PSA Filter Version	PSA のハードウェア異常監視機能のフィルタ定義版数が表示される。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Partition Information]

(2) 画面操作
なし

3.4 [CPUs] 画面

[CPUs] 画面では、パーティションに属する CPU 情報が一覧表示されます。

備考

CPU が未搭載の場合は、背景が 1 行灰色になります。

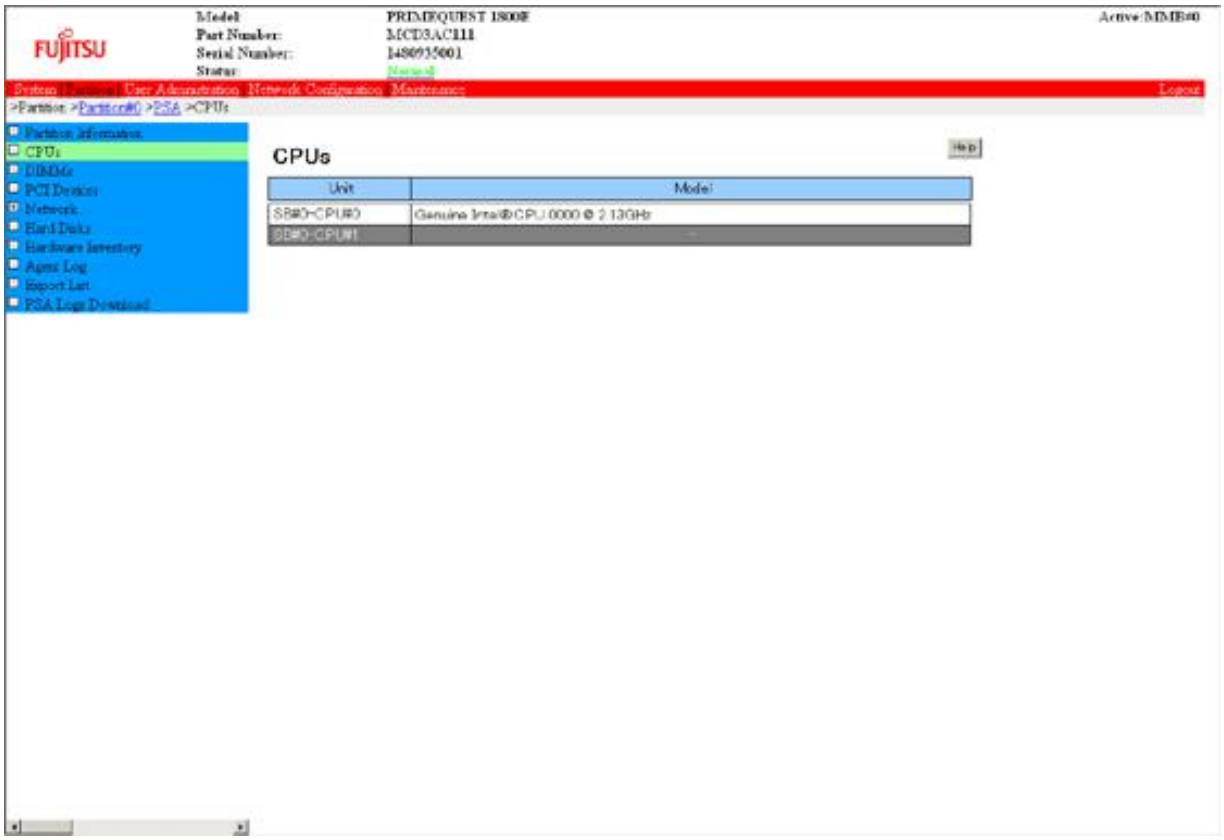


図 3.3 [CPUs] 画面

表 3.8 [CPUs] 画面の表示項目

項目	内容
Unit	CPU の識別名が表示される。
Model	CPU のモデルが表示される。 [CPU] が [Not-present] (未搭載) の場合は、- (ハイフン) が表示される。

(1) メニュー操作

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [CPUs]

(2) 画面操作

なし

3.5 [DIMMs] 画面

[DIMMs] 画面には、パーティションに属する DIMM 情報が一覧表示されます。

備考

DIMM が未搭載の場合は、背景が 1 行灰色になります。

図 3.4 [DIMMs] 画面

表 3.9 [DIMMs] 画面の表示項目

項目	内容
Unit	DIMM の識別名が表示される。
Size	DIMM のサイズが表示される。 [DIMM] が [Not-present] (未搭載) の場合は、- (ハイフン) が表示される。
Rank	DIMM のランク数が表示される。 [DIMM] が [Not-present] (未搭載) の場合は、- (ハイフン) が表示される。
Data Rate	DIMM のデータレートが表示される。 [DIMM] が [Not-present] (未搭載) の場合は、- (ハイフン) が表示される。

(1) メニュー操作

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [DIMMs]

(2) 画面操作

なし

3.6 [PCI Devices] 画面

[PCI Devices] 画面には、各パーティション内に接続されている PCI デバイス情報が表示されます。

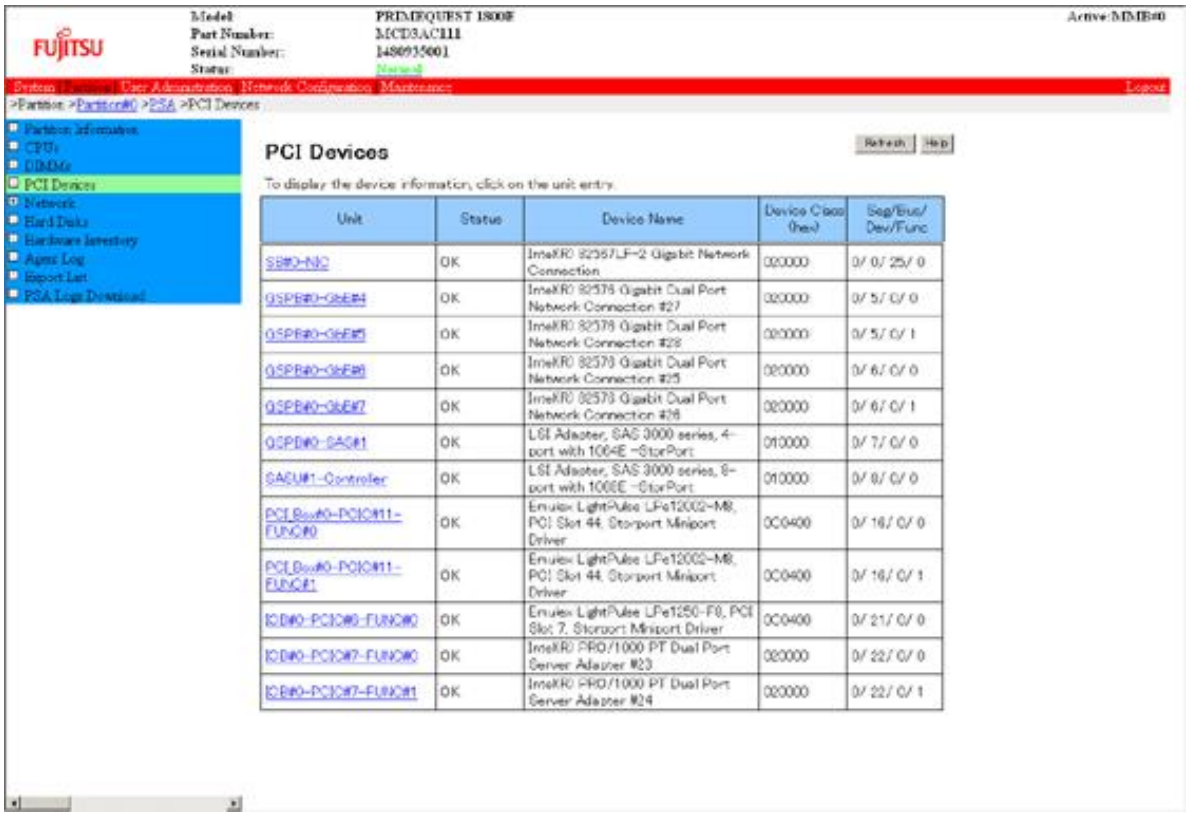


図 3.5 [PCI Devices] 画面

パーティション内の PCI デバイスの一覧が表示されます。[Unit] のリンクをクリックすると PCI カードのファンクション単位に詳細画面が表示されます。マルチファンクションの PCI カードの場合は、同一ユニットの情報が複数行表示されます。
PCI カードを増設または減設した場合、画面に反映されるには最大 3 分かかります。

表 3.10 [PCI Devices] 画面の表示項目

項目	内容
Unit	PCI デバイスの識別名が表示される。 [Unit] のリンクをクリックすると、詳細画面が表示される。
Status	PCI デバイスのハードウェアの状態、配下に接続されたデバイスの (予兆を含む) 状態、それぞれを統合した状態が表示される。 ・ OK：正常に動作している ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題がある ・ Warning：警告状態にある (将来問題が発生する可能性がある) ・ Unknown：不明
Device Name	デバイスの名前が、ベンダーとデバイス名を合わせた形で表示される。

項目	内容
	Windows の場合、ハードウェア構成の変更後、新たに追加されたデバイスは [SCSI Controller] などと表示され、約 30 分後に OS が認識したデバイス名に更新される。
Device Class	デバイスクラス ID が表示される (16 進表示) 。
Seg/Bus/Dev/Func	以下の番号が表示される。 ・ セグメント番号 ・ バス番号 ・ デバイス番号 ・ ファンクション番号

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [PCI Devices]

(2) 画面操作
1. [Unit] のリンクをクリックします。
   - DeviceClass=020000 の場合、[Ethernet Controller] 画面が表示されます。
   - DeviceClass=010000 の場合、[Storage Controller] 画面が表示されます。
   - DeviceClass=010400 の場合、[RAID Controller] 画面が表示されます。
   - DeviceClass=0C0400 の場合、[Fibre Channel] 画面が表示されます。
2. 表示された各画面の [Return] ボタンをクリックします。
   [PCI Devices] 画面に戻ります。

3.6.1 [Ethernet Controller] 画面

[PCI Devices] 画面の [Device Class] が [020000] (Ethernet Controller) のとき、詳細画面として [Ethernet Controller] 画面が表示されます。[Ethernet Controller] 画面には、イーサネットコントローラー情報が表示されます。
設定権限ユーザーは、[Status Clear] ボタンでステータスをクリアできます。

図 3.6 [Ethernet Controller] 画面

[Ethernet Controller] 画面を表示する場合、パーティション内のネットワークインターフェース数が多いとき (目安として情報取得に 20 秒以上かかるとき) は、プログレスバーが表示されます。

図 3.7 [Ethernet Controller] 画面 (プログレスバー表示)

表 3.11 [Ethernet Controller] 画面の表示・設定項目

項目	内容
PCI Device Information	
Unit	イーサネットコントローラーの識別名が表示される。
Status	イーサネットコントローラーの状態が表示される。 ・ OK：正常に動作している ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題がある ・ Warning：警告状態にある (将来問題が発生する可能性がある) ・ Unknown：不明 [Error] 状態または [Warning] の場合、チェックボックスが表示される。 なお、チェックボックスをオンにしてから [Status Clear] ボタンをクリックすると、ステータスがクリアされる。
Device Name	デバイスの名前が、ベンダーとデバイス名を合わせた形で表示される。 Windows の場合、ハードウェア構成の変更後、新たに追加されたデバイスは [Ethernet Controller] と表示され、約 30 分後に OS が認識したデバイス名に更新される。
Device Class (hex)	デバイスクラスの ID が表示される (16 進表示) 。
Seg/Bus/Dev/Func	以下の番号が表示される。 ・ セグメント番号 ・ バス番号

項目	内容
	・ デバイス番号 ・ ファンクション番号
Vendor ID (hex)	ベンダーの ID が表示される (16 進表示) 。
Device ID (hex)	デバイスの ID が表示される (16 進表示) 。
PCI Device Version (hex)	PCI デバイスの版数が表示される (16 進表示) 。
MAC Address	MAC アドレスが表示される。 PSA 内部情報更新中の場合に n.a.と表示されることがあるが、 [Refresh] ボタンによる再表示で正しく表示されるようになる。 PSA 起動時にドライバがロードされていない場合には n.a.と表示される。
Speed	ネットワークスピードが表示される。 PSA 内部情報更新中の場合に n.a.と表示されることがあるが、 [Refresh] ボタンによる再表示で正しく表示されるようになる。 PSA 起動時にドライバがロードされていない場合には n.a.と表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
IPv4 Interfaces **備考** ・ ネットワーク関連の情報は、OS やドライバの種類や状態により、情報が提供できない場合がある。このような場合には、- (ハイフン) が表示される。 ・ VMware の場合は、仮想スイッチのインターフェース (vswif) は表示されない。	
Interface Name	その NIC に割り当てられているインターフェース名がすべて表示される (仮想 IP 含む) 。
IP Address	各インターフェースの IPv4 アドレスが表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
IP Subnet Mask	各インターフェースのサブネットマスクが表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
IPv6 Interfaces IPv6 インターフェースが 1 つも割り当てられていない場合には、表示項目のタイトルとメッセージが表示される。 **備考** ・ ネットワーク関連の情報は、OS やドライバの種類や状態により、情報が提供できない場合がある。このような場合には、- (ハイフン) が表示される。 ・ VMware の場合は、仮想スイッチのインターフェース (vswif) は表示されない。	
Interface Name	その NIC に割り当てられているインターフェース名がすべて表示される (仮想 IP 含む) 。
IPv6 Address	各インターフェースの IPv6 アドレスと Prefix 長が表示される。 なお、表示内容については以下のとおりである。 ・ IPv6 アドレスまたは Prefix 長が取得できない場合、- (ハイフン) で表示される。 ・ 画面表示時に最新の情報を取得する。

項目	内容
Scope	各インターフェースの IPv6 アドレスのスコープが表示される。 ・ Global：グローバル ・ Loopback：ループバック ・ Link：リンクローカル ・ Site：サイトローカル ・ - (ハイフン)：スコープが取得できない場合 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
MAC Statistics (Transmit Statistics) は、画面表示時に最新の情報を取得する。 **備考** ・ ドライバによりサポートの状況が異なるため不定値が表示されることがある。サポートされない MAC 統計情報の項目は、0 固定で表示する。 ・ Windows でネットワーク接続を無効にしている場合は、MAC 統計情報は取得できず、すべての項目を 0 固定で表示する。 ・ PSA 起動時にドライバがロードされていない場合には、すべての項目を 0 固定で表示する。	
Total Packets	トランスポート層でのプロトコル(TCP、UDP など) による伝送のために IP に渡されたパケット数が表示される。単に転送されただけのパケットは含まれない。
Total Bytes	伝送したバイト数が表示される。
Deferred Xmits	回線がビジーなため最初の伝送試行で延期しなければならなかったパケット数が表示される。伝送遅延はネットワークの輻輳とともに発生する。
Single Collisions	正確に 1 回のコリジョンの後で伝送に成功したパケット数が表示される。[Single Collisions] はネットワーク輻輳が発生していることを示す。
Multiple Collisions	数回のコリジョンの後で伝送に成功したパケット数が表示される。[Single Collisions] ですでに記録されているパケットは含まれない。[Multiple Collisions] はネットワーク輻輳が発生していることを示す。
Excessive Collisions	許容させるコリジョンの最大数を超えたため伝送障害が発生したパケット数が表示される。原因は極端に激しいネットワーク輻輳である。
Carrier Sense Errors	キャリアセンス条件に違反した回数が表示される。
Late Collision Errors	512 ビットを超えるデータが伝送されるまでコリジョンが検出されなかったパケット数が表示される。伝送ルートが長すぎるため、信号伝播時間が長く重複することを示す。
SQE Test Errors	SQE テストエラーの発生した回数が表示される。
MAC Xmit Errors	MAC 層の内部エラーが原因で正しく伝送できなかったパケット数が表示される。ただし、[Late Collision Errors]、[Excessive Collisions]、[Carrier Sense Errors] ですでに記録されているパケットは含まれない。
MAC Statistics (Receive Statistics) は、画面表示時に最新の情報を取得する。 **備考** ・ ドライバによりサポートの状況が異なるため不定値が表示されることがある。サポートされない MAC 統計情報の項目は、0 固定で表示する。 ・ Windows でネットワーク接続を無効にしている場合は、MAC 統計情報は取得できず、すべての項目を 0 固定で表示する。	

項目	内容
・ PSA 起動時にドライバがロードされていない場合は、MAC 統計情報は取得できず、すべての項目を 0 固定で表示する。	
Total Packets	他のすべてのステーションから受信した IP データグラムの総数が表示される。エラーデータグラムの数も含まれる。
Total Bytes	受信バイト数が表示される。
FCS Errors	FCS テストでエラーが検出されたパケット数。原因は低い伝送品質である。
Alignment Errors	選択したインターフェースが受信し、バイト数が整数でないため長さが正しくないパケット数が表示される。原因は低い伝送品質である。
Frame Too Long	選択したインターフェースが受信し、長さが許容最大パケット長 (1,518 バイト) を超えるパケット数が表示される。
MAC Receive Errors	MAC 層での内部エラーが原因で正しく受信できなかったパケット数が表示される。

表 3.12 [Ethernet Controller] 画面のボタン

ボタン	内容
Status Clear	[Status Clear] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [PCI Device Information] 内の [Status] 項のチェックボックスをオンにして [Status Clear] ボタンをクリックすると、設定確認ダイアログボックスが表示される。設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックするとイーサネットコントローラーのステータスがクリアされる。 また、通知抑止機能によりメール/REMCS/SNMPtrap 通知が抑止されている場合は、通知抑止が解除される。
Return	[Return] ボタンをクリックすると、前画面に戻る。

(1) メニュー操作

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [PCI Devices] - [Unit]

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Network] - [IPv4 Interfaces] - [Unit]

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Network] - [IPv6 Interfaces] - [Unit]

(2) 画面操作

- イーサネットコントローラーのステータスをクリアする場合
  1. [Status] 項目のチェックボックスをオンにし [Status Clear] ボタンをクリックします。
     設定確認ダイアログボックスが表示されます。
  2. 設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
     イーサネットコントローラーのステータスがクリアされます。
  3. [Return] ボタンをクリックします。
     前画面に戻ります。

- イーサネットコントローラーのステータスをクリアしない場合
  1. [Return] ボタンをクリックします。

前画面に戻ります。

(3) エラーメッセージ
異常終了の場合は以下のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

```
Error: Status Clear Error :   ErrorCode=****
```

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

3.6.2 [Storage Controller] 画面

[PCI Devices] 画面の [Device Class] 項目が [010000] (SCSI storage controller)のとき、詳細画面として [Storage Controller] 画面が表示されます。[Storage Controller] 画面には、ストレージコントローラー情報が表示されます。

設定権限ユーザーは、[Status Clear] ボタンでステータスをクリアできます。
ストレージコントローラーに接続されたデバイスが増減した場合に、画面表示に反映されるまでには最大 3 分かかります。

備考
OS の稼動中に、GDS 管理下のディスクが追加または削除された場合、[Storage Controller] 画面の [Device Type]、[Disk Capacity] の表示内容は更新されません。
更新するには、PSA の再起動または PSA の以下のコマンド実行が必要となります。 (以下のコマンドは Linux 版 PSA のみ対応)

```
/opt/FJSVpsa/sh/force_search.sh -a
```

OS が Windows でディスクの電源断をした場合、[Storage Controller] 画面の対象ディスクの情報は表示されたまま更新されません。

図 3.8 [Storage Controller] 画面

表 3.13 [Storage Controller] 画面の表示・設定項目

項目	内容
PCI Device Information	
Unit	ストレージコントローラーの識別名が表示される。
Status	ストレージコントローラーのハードウェアの状態 (配下に接続されたデバイスの状態は含まない) が表示される。 ・ OK：正常に動作している ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題がある ・ Warning：警告状態にある (将来問題が発生する可能性がある) ・ Unknown：不明 [Error] 状態または [Warning] の場合、チェックボックスが表示される。 なお、チェックボックスをオンにしてから [Status Clear] ボタンをクリックすると、ステータスがクリアされる。
Device Name	デバイスの名前が、ベンダーとデバイス名を合わせた形で表示される。 Windows の場合、ハードウェア構成の変更後、新たに追加されたデバイスは [SCSI Controller] と表示され、約 30 分後に OS が認識したデバイス名に更新される。
Device Class (hex)	デバイスクラスの ID が表示される (16 進表示) 。
Seg/Bus/Dev/Func	以下の番号が表示される。

項目	内容
	・ セグメント番号 ・ バス番号 ・ デバイス番号 ・ ファンクション番号
Vendor ID (hex)	ベンダーの ID が表示される (16 進表示) 。
Device ID (hex)	デバイスの ID が表示される (16 進表示) 。
PCI Device Version (hex)	PCI デバイスの版数が表示される (16 進表示) 。
Information about devices connected to controller VMware の場合、またはデバイスが 1 つも接続されていない場合は、表示項目のタイトルと、デバイスが 1 つもないことを伝えるメッセージが表示される。	
Unit	ストレージコントローラーに接続されたデバイスの識別名が表示される。
Status	ストレージコントローラーに接続されたデバイスのハードウェア状態と予兆の状態を統合した状態が表示される。 以下の状態が表示される。 ・ OK：正常に動作している ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題がある ・ Warning：警告状態にある (将来問題が発生する可能性がある。S.M.A.R.T. 含む) ・ Unknown：不明 状態をクリアするときにはチェックボックスをオンにする。 なお、チェックボックスをオンにしてから [Status Clear] ボタンをクリックすると、ステータスがクリアされる。
Device Type	デバイスのタイプが表示される。 ・ Direct Access ・ Sequential Access ・ Printer ・ Processor ・ WORM ・ CD-ROM ・ Scanner ・ Optical Device ・ Medium Changer ・ Communications ・ Unknown ・ Enclosure ・ Direct Access (GDS) (Linux のみ) Linux の場合：上記以外のデバイスは n.a.と表示される。 Windows の場合：上記以外のデバイス (RBC/CardReader/Bridge/Other など) は Unknown と表示される。
Disk Name	ディスクのデバイス名が表示される。 デバイスがディスク (GDS 含む) でない場合は、- (ハイフン) が表示される。

項目	内容
Device Vendor	SATA の場合は ATA と表示される。 SAS の場合はベンダー名が表示される。
Revision	デバイスの版数が表示される。
Device Name	デバイスのモデル名が表示される。
Serial No	デバイスのシリアル番号が表示される。デバイスがディスク (GDS 含む) ではない場合は、- (ハイフン) が表示される。
Channel/TargetID/LUN	デバイスの SCSI チャネル、デバイスの SCSI ターゲット ID、デバイスの SCSI ロジカルユニット番号が表示される。
Disk Capacity	デバイスがディスクの場合、ディスク容量が表示される。単位は、GB 単位 (小数点以下 1 位まで 2 位以下切捨て) である。 ディスクでない場合と GDS の場合は、- (ハイフン) が表示される。ディスク容量は、1GB=1,024MB=1,024×1,024KB で表示されるため、カタログの数値より若干少ない値が表示される。

表 3.14 [Storage Controller] 画面のボタン

ボタン	内容
Status Clear	[Status Clear] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [PCI Device Information] または [Information about devices connected to controller] 内の [Status] 項のチェックボックスをオンにして [Status Clear] ボタンをクリックすると、設定確認ダイアログボックスが表示される。設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックすると、ストレージコントローラーのハードウェアステータス、またはストレージコントローラーに接続されたデバイスのハードウェアステータスがクリアされる。 また、通知抑止機能によりメール/REMCS/SNMPtrap 通知が抑止されている場合は、通知抑止が解除される。
Select All	[Select All] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [Select All] ボタンをクリックすると、すべてのチェックボックスがオンになる。
Release All	[Release All] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [Release All] ボタンをクリックすると、すべてのチェックボックスがオフになる。
Return	[Return] ボタンをクリックすると、前画面に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [PCI Devices] - [Unit]

(2) 画面操作
- ストレージコントローラーのハードウェアのステータスをクリアする場合
  1. [PCI Device Information] の [Status] 項のチェックボックスをオンにし、[Status Clear] ボタンをクリックします (下記の備考を参照)。
     設定確認ダイアログボックスが表示されます。

2. 設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
   ストレージコントローラーのハードウェアのステータスがクリアされます。
3. [Return] ボタンをクリックします。
   前画面に戻ります。

- ストレージコントローラーに接続されたデバイスの、ハードウェアのステータスをクリアする場合
  1. [Information about devices connected to controller] の [Status] のチェックボックスをオンにし、[Status Clear] ボタンをクリックします (下記の備考を参照)。
     設定確認ダイアログボックスが表示されます。
  2. 設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
     ストレージコントローラーに接続されたデバイスの、ハードウェアのステータスがクリアされます。
  3. [Return] ボタンをクリックします。
     前画面に戻ります。

- ストレージコントローラーのステータスをクリアしない場合
  1. [Return] ボタンをクリックします。
     前画面に戻ります。

備考

- [Select All] ボタンをクリックすると、チェックボックスがすべてオンになります。[Release All] ボタンをクリックすると、チェックボックスがすべてオフになります。
- 一度にクリアできるステータスは 500 件までです。500 件を超えて選択して [Status Clear] ボタンをクリックすると、最初の 500 件をクリアする確認ダイアログを表示してクリアします。

(3) エラーメッセージ
異常終了の場合は以下のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

Error: Status Clear Error :　ErrorCode=****

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

3.6.3 [RAID Controller] 画面

[Storage Controller] 画面の [PCI Devices Information] 内の [Device Class] が [010400] (RAID Controller)の場合、詳細画面として [RAID Controller] 画面が表示されます。本画面には、PCI デバイス情報が表示されます。
設定権限ユーザーは、[Status Clear] ボタンでステータスをクリアできます。

注意

RAID Controller 配下のディスクについての情報は、本画面には表示されません。
RAID Controller 配下のディスク情報は、ServerView RAID の情報を参照してください。ServerView RAID について詳しくは、『ServerView Suite ServerView RAID Management User Manual』を参照してください。

図 3.9 [RAID Controller] 画面

表 3.15 [RAID Controller] 画面の表示・設定項目

項目	内容
PCI Device Information	
Unit	PCI デバイスの識別名が表示される。
Status	PCI デバイスの状態が表示される。 ・ OK：正常に動作している ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題がある ・ Warning：警告状態にある (将来問題が発生する可能性がある) ・ Unknown：不明 [Error] 状態または [Warning] 状態になっている場合、その状態をクリアするときにチェックボックスをオンにする。 なお、チェックボックスをオンにしてから [Status Clear] ボタンをクリックするとステータスがクリアされる。
Device Name	デバイスの名前が、ベンダーとデバイス名を合わせた形で表示される。
Device Class (hex)	デバイスクラスの ID が表示される (16 進表示) 。
Seg/Bus/Dev/Func	以下の番号が表示される。 ・ セグメント番号 ・ バス番号 ・ デバイス番号 ・ ファンクション番号

項目	内容
Vendor ID (hex)	ベンダーの ID が表示される (16 進表示) 。
Device ID (hex)	デバイスの ID が表示される (16 進表示) 。
PCI Device Version (hex)	PCI デバイスの版数が表示される (16 進表示) 。

表 3.16 [RAID Controller] 画面のボタン

ボタン	内容
Status Clear	[Status Clear] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [PCI Device Information] 内の[Status] 項のチェックボックスをオンにして [Status Clear] ボタンをクリックすると、設定確認ダイアログボックスが表示される。設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックすると、PCI デバイスのステータスがクリアされる。 また、通知抑止機能によりメール/REMCS/SNMPtrap 通知が抑止されている場合は、通知抑止が解除される。
Return	[Return] ボタンをクリックすると、[PCI Devices] 画面に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [PCI Devices] - [Unit]

(2) 画面操作
- PCI デバイスのステータスをクリアする場合
  1. [Status] 項目のチェックボックスをオンにし [Status Clear] ボタンをクリックします。
     設定確認ダイアログボックスが表示されます。
  2. 設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
     PCI デバイスのステータスがクリアされます。
  3. [Return] ボタンをクリックします。
     [PCI Devices] 画面に戻ります。

- PCI デバイスのステータスをクリアしない場合
  1. [Return] ボタンをクリックします。
     [PCI Devices] 画面に戻ります。

(3) エラーメッセージ

Error: Status Clear Error : ErrorCode=****

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

3.6.4 [Fibre Channel] 画面

[PCI Devices] 画面の [Device Class] 項目が [0C0400] (Fibre Channel) のとき、詳細画面として [Fibre Channel] 画面が表示されます。[Fibre Channel] 画面には、ファイバーチャネル情報が表示されます。

設定権限ユーザーは、[Status Clear] ボタンでステータスをクリアできます。
ファイバーチャネルに接続されたデバイスが増減した場合、画面表示に反映されるまでには最大 3 分かかります。

備考

- ETERNUS マルチパスドライバ環境下のディスクについてはマルチパス化されている PCI デバイス配下 にそれぞれ表示されます。Windows の場合は、[Serial No.]、[Disk Capacity]、[Disk Name] が - (ハイフン) で表示されます。
- OS の稼動中に GDS 管理下のディスクが追加または削除された場合、[Fibre Channel] 画面の[Device Type]、[Disk Capacity] の表示内容は更新されません。更新する場合は PSA の再起動または手動で PSA の以下のコマンドを実行する必要があります (以下のコマンドは Linux 版 PSA のみ対応)。

```
/opt/FJSVpsa/sh/force_search.sh -a
```

- EMC の Power Path を使用している場合、[Disk Name]、[Serial No]、[Disk Capacity] が - (ハイフン) で表示される場合があります。
- 他社製ストレージ装置が接続されている場合、これらの装置に関連する仮想ディスクの情報は表示されません。
- ETERNUS などのストレージ装置とパーティションを電源連動で起動させた場合、[Disk Name]、[Serial No]、[Disk Capacity] が - (ハイフン) で表示される場合があります。このような場合は、以下のコマンドを実行してください (以下のコマンドは Linux 版 PSA のみ対応)。

```
/opt/FJSVpsa/sh/force_search.sh -a
```

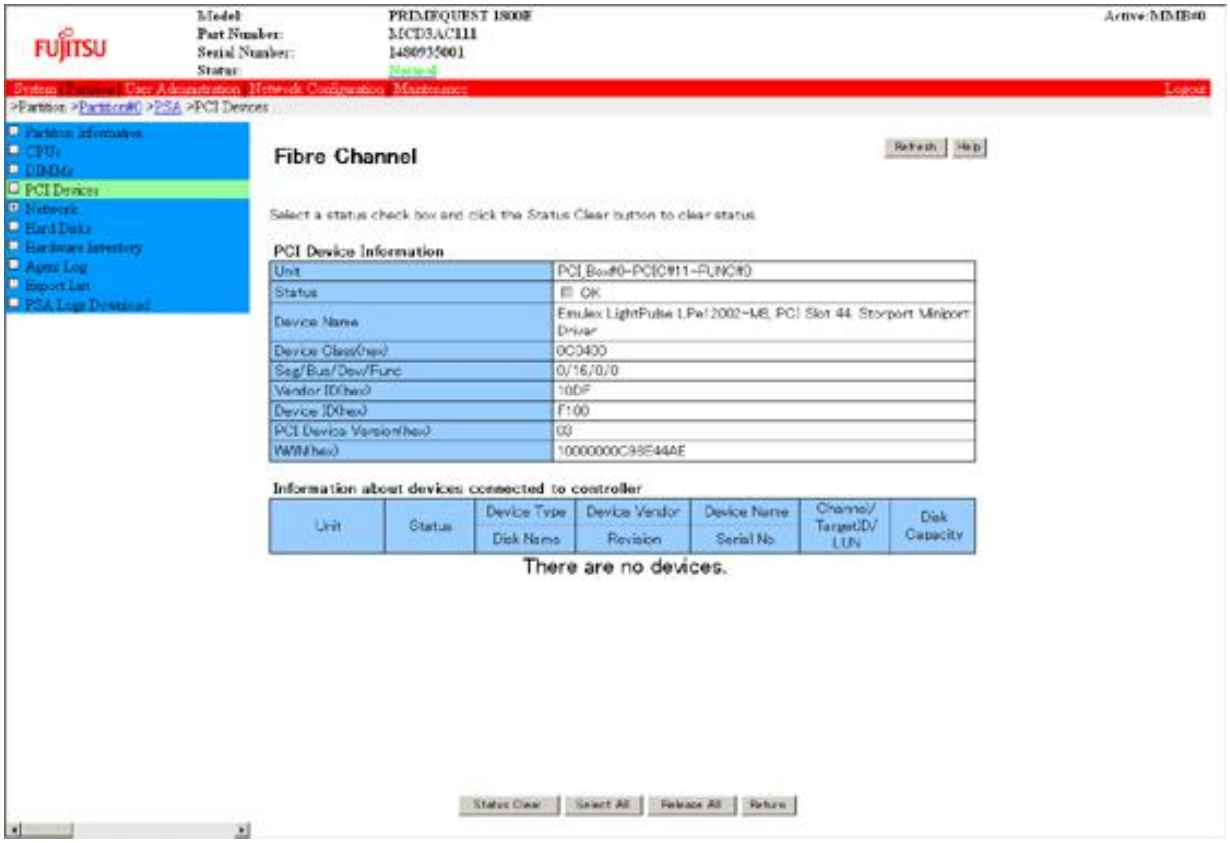


図 3.10 [Fibre Channel] 画面

表 3.17 [Fibre Channel] 画面の表示・設定項目

項目	内容
PCI Device Information	
Unit	ファイバーチャネルの識別名が表示される。
Status	ファイバーチャネルのハードウェアの状態 (配下に接続されたデバイスの状態は含まない) が表示される。 ・ OK：正常に動作している ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題がある ・ Warning：警告状態にある (将来問題が発生する可能性がある) ・ Unknown：不明 [Error] 状態または [Warning] 状態の場合、チェックボックスが表示される。 なお、チェックボックスをオンにしてから [Status Clear] ボタンをクリックするとステータスがクリアされる。
Device Name	デバイスの名前が、ベンダーとデバイス名を合わせた形で表示される。 Windows の場合、ハードウェア構成の変更後、新たに追加されたデバイスは「Fibre Channel」と表示され、約 30 分後に OS が認識されたデバイス名に更新される。
Device Class (hex)	デバイスクラスの ID が表示される (16 進表示) 。
Seg/Bus/Dev/Func	以下の番号が表示される。 ・ セグメント番号

項目	内容
	・ バス番号 ・ デバイス番号 ・ ファンクション番号
Vendor ID (hex)	ベンダーの ID が表示される (16 進表示) 。
Device ID (hex)	デバイスの ID が表示される (16 進表示) 。
PCI Device Version (hex)	PCI デバイスの版数が表示される (16 進表示) 。
WWN	World Wide Name の略 FC スイッチや HBA に固定的に割り当てられている 64 ビットのアドレス (16 進表示) 。
Information about devices connected to controller VMware の場合、またはデバイスが 1 つも接続されていない場合は、表示項目のタイトルと、デバイスが 1 つもないことを伝えるメッセージが表示される。	
Unit	ファイバーチャネルに接続されたデバイスの識別名が表示される。
Status	ファイバーチャネルに接続されたデバイスのハードウェア状態と予兆の状態を統合した状態が表示される。 状態が表示される。 ・ OK：正常に動作している ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題がある ・ Warning：警告状態にある (将来問題が発生する可能性がある。S.M.A.R.T. 含む) ・ Unknown：不明 状態をクリアするときにはチェックボックスをオンにする。 なお、チェックボックスをオンにしてから [Status Clear] ボタンをクリックするとステータスがクリアされる。
Device Type	デバイスのタイプが表示される。 ・ Direct Access ・ Sequential Access ・ Printer ・ Processor ・ WORM ・ CD-ROM ・ Scanner ・ Optical Device ・ Medium Changer ・ Communications ・ Unknown ・ Enclosure ・ Direct Access (GDS)（Linux のみ） Linux の場合：上記以外のデバイスは n.a.と表示される。 Windows の場合：上記以外のデバイス (RBC/CardReader/Bridge/Other など) は [Unknown]と表示される。

項目	内容
Disk Name	ディスクの名称が表示される。 デバイスがディスク (GDS 含む) でない場合は、- (ハイフン) が表示される。
Device Vendor	デバイスのベンダーが表示される。
Revision	デバイスの版数が表示される。
Device Name	デバイスのモデル名が表示される。
Serial No	デバイスのシリアル番号が表示される。デバイスがディスク (GDS 含む) ではない場合は、- (ハイフン) が表示される。
Channel/TargetID/LUN	デバイスの SCSI チャネル、デバイスの SCSI ターゲット ID、デバイスの SCSI ロジカルユニット番号が表示される。
Disk Capacity	デバイスがディスクの場合、ディスク容量が表示される。単位は、GB 単位 (小数点以下 1 位まで 2 位以下切捨て) である。 ディスクでない場合と GDS の場合は、- (ハイフン) が表示される。ディスク容量は、1GB=1,024MB=1,024×1,024KB で表示されるため、カタログの数値より若干少ない値が表示される。

表 3.18 [Fibre Channel] 画面のボタン

ボタン	内容
Status Clear	[Status Clear] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [PCI Device Information] または [Information about devices connected to controller] 内の [Status] 項のチェックボックスをオンにして [Status Clear] ボタンをクリックすると、設定確認ダイアログボックスが表示される。設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックすると、ファイバーチャネルのハードウェアステータス、またはファイバーチャネルに接続されたデバイスのハードウェアステータスがクリアされる。また、通知抑止機能によりメール/REMCS/SNMPtrap 通知が抑止されている場合は、通知抑止が解除される。
Select All	[Select All] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [Select All] ボタンをクリックすると、すべてのチェックボックスがオンになる。
Release All	[Release All] ボタンは設定権限ユーザーだけに表示される。 [Release All] ボタンをクリックすると、すべてのチェックボックスがオフになる。
Return	[Return] ボタンをクリックすると、[PCI Devices] 画面に戻る。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [PCI Devices] - [Unit]

(2) 画面操作
- ファイバーチャネルのハードウェアのステータスをクリアする場合

1. [PCI Device Information]の[Status]項のチェックボックスをオンにし、[Status Clear] ボタンをクリックします。(下記の備考を参照)
   設定確認ダイアログボックスが表示されます。
2. 設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
   ファイバーチャネルのハードウェアのステータスがクリアされます。
3. [Return] ボタンをクリックします。
   [PCI Devices] 画面に戻ります。

・ ファイバーチャネルのステータスをクリアしない場合

1. [Information about devices connected to controller] の [Status] チェックボックスをオンにし、[Status Clear] ボタンをクリックします。(下記の備考を参照)
   設定確認ダイアログボックスが表示されます。
2. 設定確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
   ファイバーチャネルに接続されたデバイスの、ハードウェアのステータスがクリアされます。
3. [Return] ボタンをクリックします。
   [PCI Devices] 画面に戻ります。

・ ストレージコントローラーのステータスをクリアしない場合

1. [Return] ボタンをクリックします。
   [PCI Devices] 画面に戻ります。

備考

・ [Select All] ボタンをクリックすると、チェックボックスがすべてオンになります。[Release All] ボタンをクリックすると、チェックボックスがすべてオフになります。
・ 一度にクリアできるステータスは 500 件までです。500 件を超えて選択して [Status Clear] ボタンをクリックすると、最初の 500 件をクリアする確認ダイアログを表示してクリアします。

(3) エラーメッセージ
異常終了の場合は以下のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

Error: Status Clear Error : ErrorCode=****

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

3.7 [Network] メニュー

[Network] メニューでは、パーティション内のネットワーク状態を表示できます。
このメニュー内には以下の画面があります。

- 3.7.1 [IPv4 Interfaces] 画面
- 3.7.2 [IPv6 Interfaces] 画面

3.7.1 [IPv4 Interfaces] 画面

[IPv4 Interfaces] 画面には、パーティション内の IPv4 関連情報が表示されます。
ネットワーク関連の情報は、OS やドライバの種類や状態により、情報が提供できない場合があります。
このような場合には、- (ハイフン) が表示されます。

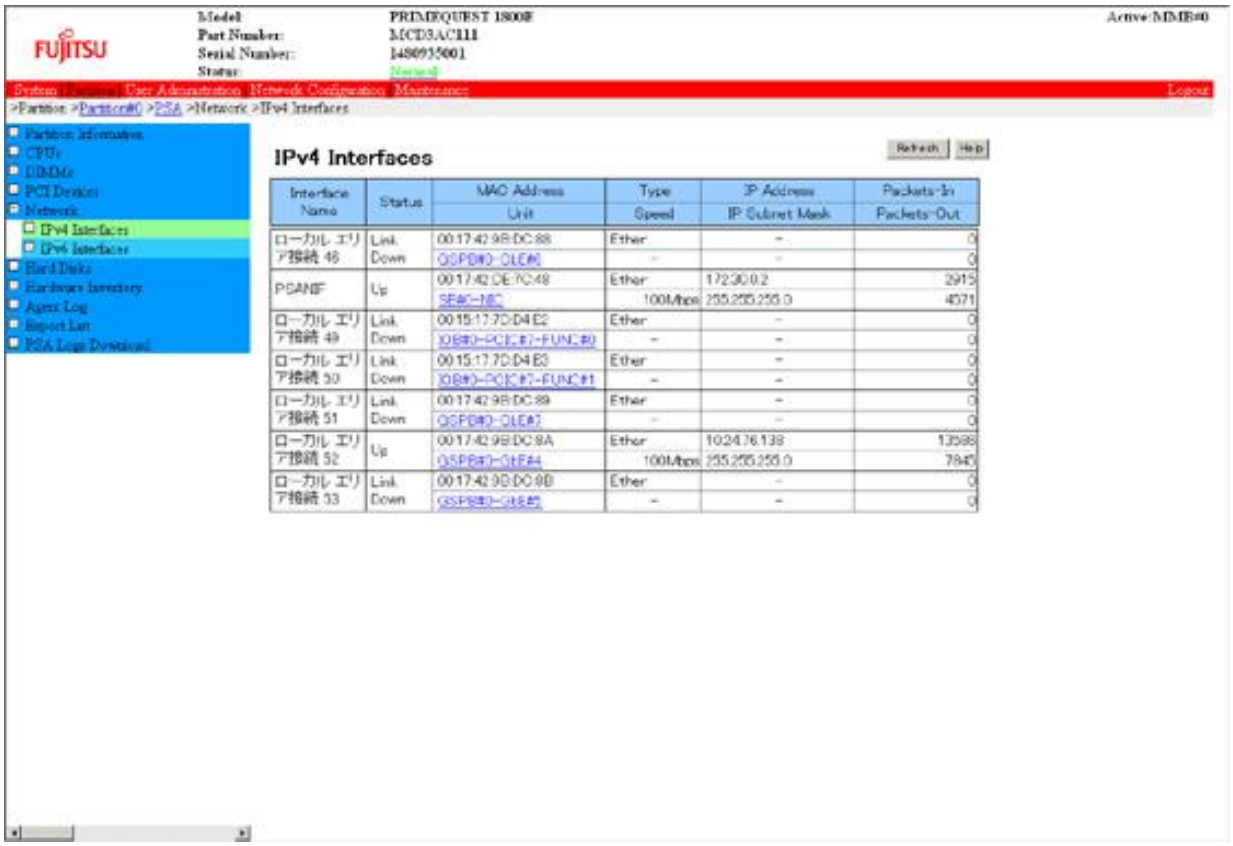


図 3.11 [IPv4 Interfaces] 画面

[Unit] にはインターフェースに対する PCI デバイスの識別名が表示されます。[Unit] のリンクをクリックすると、該当する PCI デバイスの詳細画面 ([Ethernet Controller] 画面) が表示されます。
PCI カードを増減設した場合、画面表示に反映されるまでには最大 3 分かかります。

[IPv4 Interfaces] 画面を表示する場合、パーティション内のネットワークインターフェース数が多いとき (目安として情報取得に 20 秒以上かかるとき) は、プログレスバーが表示されます。

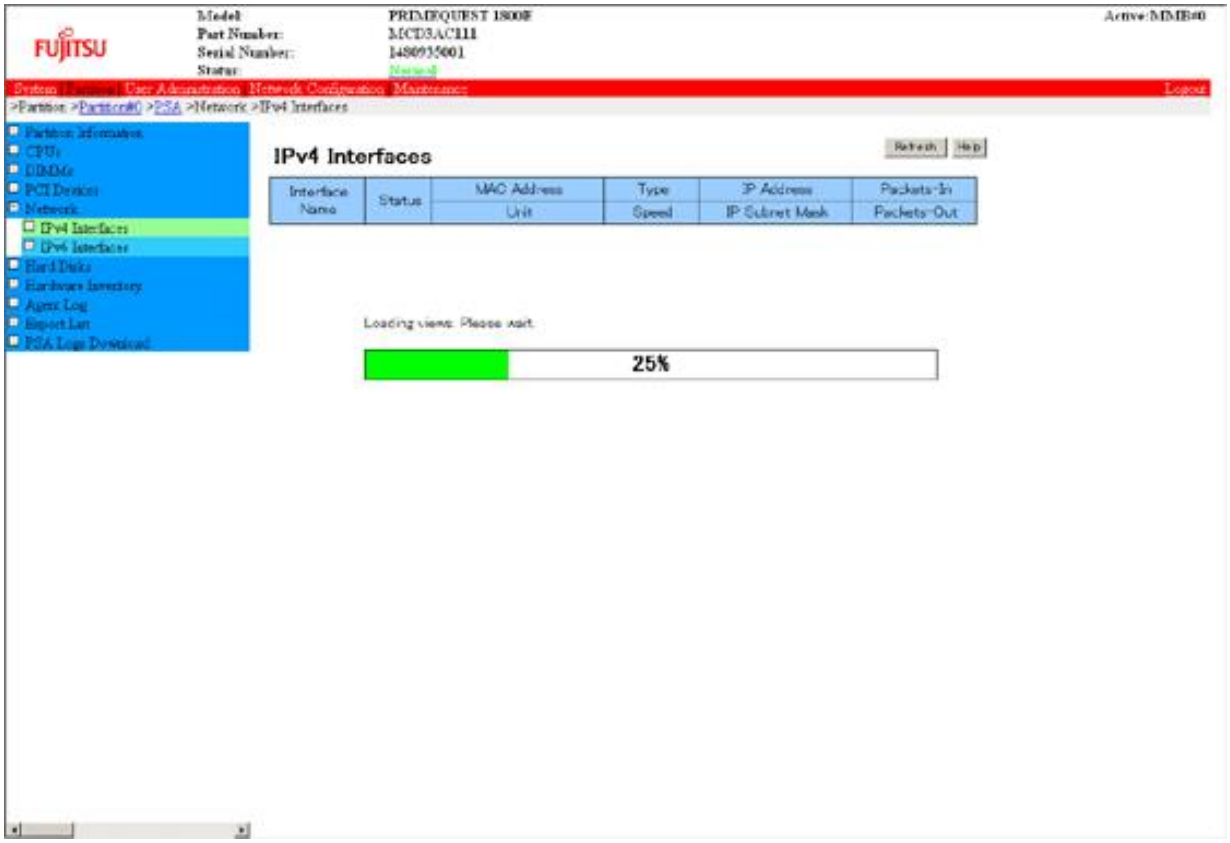


図 3.12 [IPv4 Interfaces] 画面 (プログレスバー表示)

表 3.19 [IPv4 Interfaces] 画面の表示項目

項目	内容
Interface Name	インターフェース名が表示される。
Status	画面表示時に最新の情報が取得され、LAN のカード状態とリンク状態が合わせて表示される。 ・ Up：活性状態 ・ Down：非活性状態 ・ Link Down：リンクダウン状態
MAC Address	物理アドレスが表示される。
Unit	インターフェースに対する PCI デバイスの識別名が表示される。 bonding/GLS/Teaming の場合には、識別名は表示されない。該当する Unit へのリンクもされない。 VMware の仮想スイッチのインターフェース (vswif) の場合は、識別名は表示されない。該当する Unit へのリンクもされない。
Type	ネットワークタイプ (ARP プロトコルで取り扱う上位のプロトコルの種別) が表示される。 ・ Ether：イーサネット、IEEE802.3 ・ Loopback：ループバック (折返し用インターフェース)（Linux のみ） ・ Unknown：不明（Linux のみ）
Speed	伝送速度の規定値が Mbps 単位で表示される。

項目	内容
	なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
IP Address	IP アドレスが表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
IP Subnet Mask	サブネットマスクが表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
Packets-In	各インターフェースが受信した IP パケット数が表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。 VMware の仮想スイッチのインターフェース (vswif) の場合は、常に 0 が表示される。
Packets-Out	各インターフェースが送信した IP パケット数が表示される。 なお、画面表示時に最新の情報を取得する。 VMware の仮想スイッチのインターフェース (vswif) の場合は、常に 0 が表示される。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Network] - [IPv4 Interfaces]

(2) 画面操作
なし

3.7.2 [IPv6 Interfaces] 画面

[IPv6 Interfaces] 画面には、パーティション内の IPv6 関連情報が表示されます。
IPv6 インターフェースが 1 つも割り当てられていない場合には、表示項目のタイトルとメッセージが表示されます。
ネットワーク関連の情報は、OS やドライバの種類や状態により、情報が提供できない場合があります。このような場合には、- (ハイフン) が表示されます。

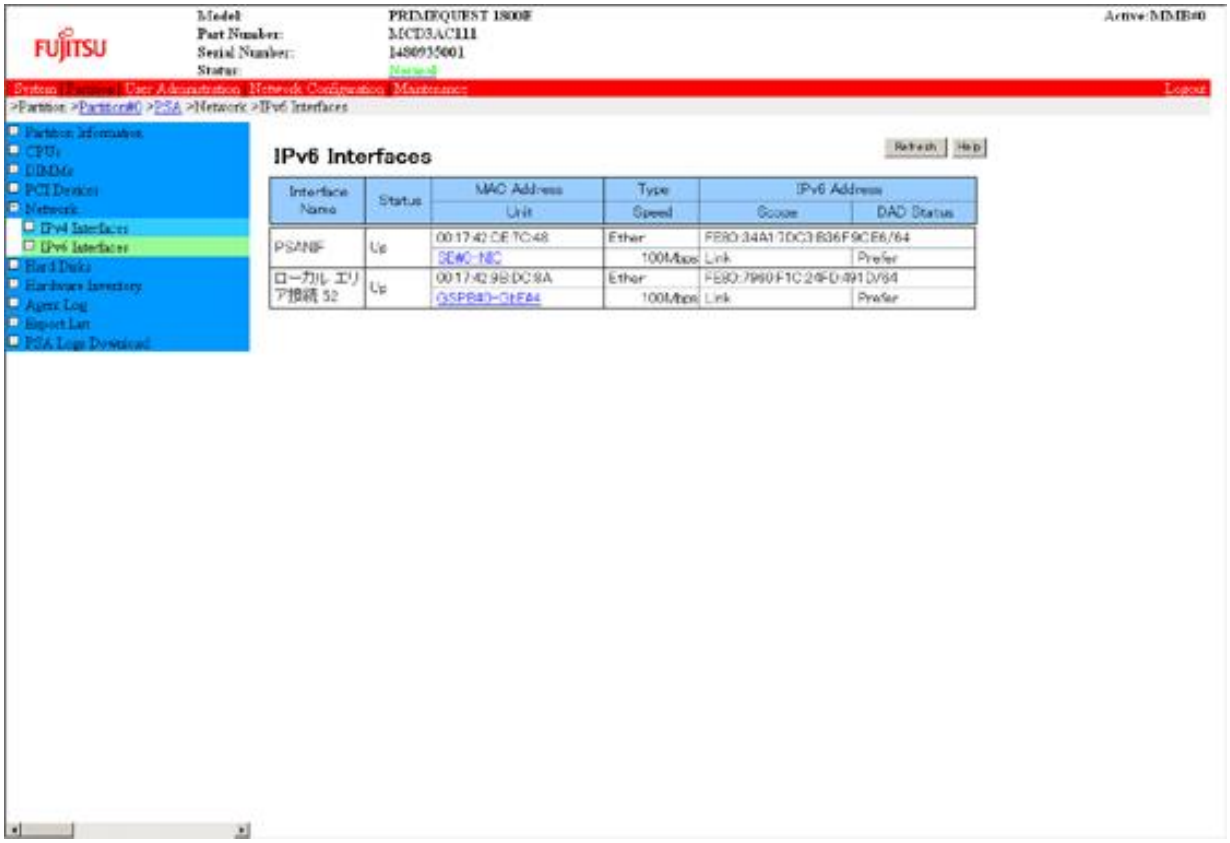


図 3.13 [IPv6 Interfaces] 画面

[Unit] にはインターフェースに対する PCI デバイスの識別名が表示されます。[Unit] のリンクをクリックすると、該当する PCI デバイスの詳細画面 ([Ethernet Controller] 画面) が表示されます。
PCI カードを増減設した場合に、画面表示に反映されるまでには最大 3 分かかります。

[IPv6 Interfaces] 画面を表示する場合、パーティション内のネットワークインターフェース数が多いとき (目安として情報取得に 20 秒以上かかるとき) は、プログレスバーが表示されます。

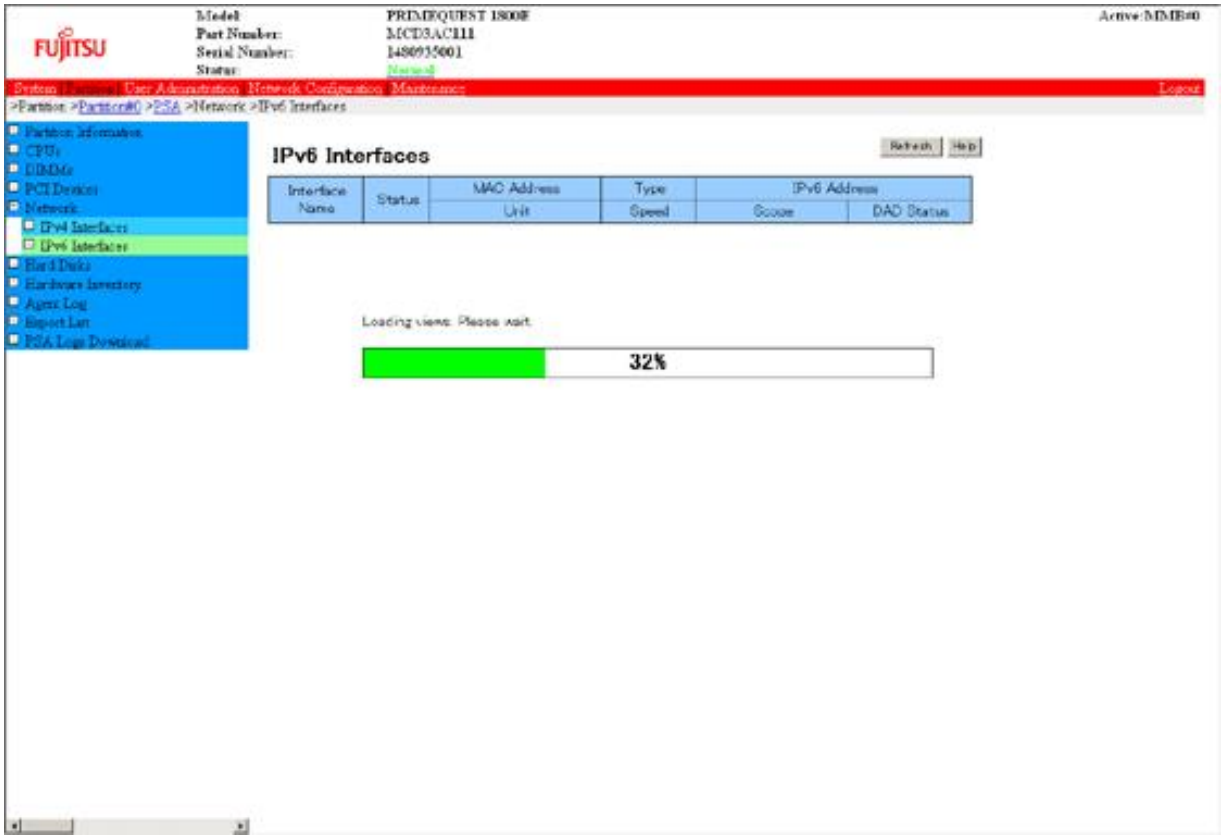


図 3.14 [IPv6 Interfaces] 画面 (プログレスバー表示)

表 3.20 [IPv6 Interfaces] 画面の表示項目

項目	内容
Interface Name	インターフェース名が表示される。
Status	画面表示時に最新の情報が取得され、LAN のカード状態とリンク状態が合わせて表示される。 ・ Up：活性状態 ・ Down：非活性状態 ・ Link Down：リンクダウン状態
MAC Address	物理アドレスが表示される。
Unit	インターフェースに対する PCI デバイスの識別名が表示される。 bonding/GLS/Teaming の場合には、識別名は表示されない。該当する Unit へのリンクもされない。 VMware の仮想スイッチのインターフェース (vswif) の場合は、識別名は表示されない。該当する Unit へのリンクもされない。
Type	ネットワークタイプ (ARP プロトコルで取り扱う上位のプロトコルの種別) が表示される。 Ether：イーサネット、IEEE802.3 Loopback：ループバック (折返し用インターフェース)（Linux のみ） Unknown：不明（Linux のみ）
Speed	伝送速度の規定値が Mbps 単位で表示される。

項目	内容
	なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
IPv6 Address	IPv6 アドレス/Prefix 長が表示される。 なお、表示内容については以下のとおりである。 ・ IPv6 アドレスまたは Prefix 長が取得できない場合、それぞれの箇所が - (ハイフン) で表示される。 ・ 画面表示時に最新の情報を取得する。
Scope	各 IPv6 アドレスのスコープが表示される。 ・ Global：グローバル ・ Loopback：ループバック ・ Link：リンクローカル ・ Site：サイトローカル なお、画面表示時に最新の情報を取得する。
DAD Status	IPv6 のアドレス重複チェックのステータスが表示される。 OS により表示されるステータスが異なる。 [Linux] ・ Tentative：ステータス確認中 ・ Deprecate：重複していない (非推奨アドレス) ・ Optimistic：限定的利用可能 ・ Prefer：重複していない (推奨アドレス) [Windows] ・ Invalid：ステータスがとれない ・ Tentative：ステータス確認中 ・ Duplicate：重複している ・ Deprecate：重複していない (非推奨アドレス) ・ Prefer：重複していない (推奨アドレス)

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Network] - [IPv6 Interfaces]

(2) 画面操作
なし

3.8 [Hard Disks] 画面

[Hard Disks] 画面には、パーティションに属するディスク情報が一覧表示されます。
ディスクが増減した場合に、画面表示に反映されるまでには最大 3 分かかります。

備考

- Windows の場合は、ETERNUS マルチパスドライバ環境下ではマルチパス化されているディスクは表示されません。
- OS の稼動中に GDS 管理下のディスクが追加または削除された場合、[Disk Capacity]の表示内容は更新されません。
  更新する場合には PSA の再起動または PSA の以下のコマンドを実行する必要があります (以下のコマンドは Linux 版 PSA のみ対応) 。

```
/opt/FJSVpsa/sh/force_search.sh -a
```

- EMC の Power Path を使用している場合、ディスクが表示されない場合があります。
- RAID Controller 配下のディスクは、一覧には表示されません。RAID Controller ([PCI Devices] 画面の [SASU#x-Controller] の Device Class が (010400)) 配下のディスク情報は、ServerView RAID の情報を参照してください。ServerView RAID について詳しくは、『ServerView Suite ServerView RAID Management User Manual』を参照してください。
- Windows がインストールされているディスクの電源を切断した場合、ディスクの情報は表示されたままで、更新されません。
- iSCSI を使用している場合は、ディスクが表示されません。
  この場合、Microsoft iSCSI Initiator (Windows) 、または vSphere Client (VMware) を使用して、確認してください。
- 他社製ストレージ装置が接続されている場合、これらの装置に関連する仮想ディスクの情報は表示されません。
- ETERNUS などのストレージ装置とパーティションを電源連動で起動させた場合、ディスクが表示されない場合があります。このような場合は、以下のコマンドを実行してください (以下のコマンドは Linux 版 PSA のみ対応) 。

```
/opt/FJSVpsa/sh/force_search.sh -a
```

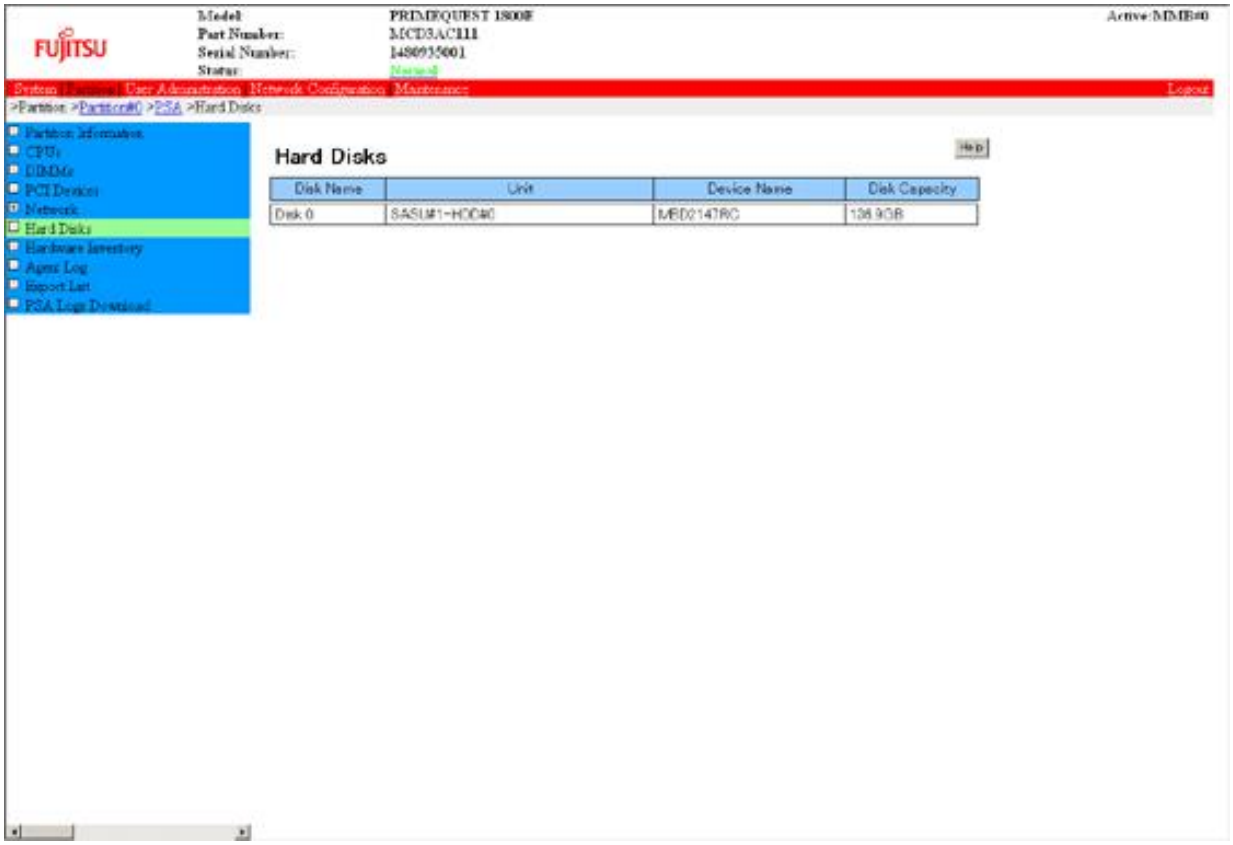


図 3.15 [Hard Disks] 画面

表 3.21 [Hard Disks] 画面の表示項目

項目	内容
Disk Name	ディスクの名称が表示される。
Unit	ディスクの搭載位置が表示される。
Device Name	ディスクのモデル名が表示される。
Disk Capacity	ディスク容量が表示される。単位は、GB 単位 (小数点以下 1 位まで 2 位以下切捨て) である。 GDS の場合は、- (ハイフン) が表示される。 ディスク容量は、1GB=1,024MB=1,024×1,024KB で表示されるため、カタログの数値より若干少ない値が表示される。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Hard Disks]

(2) 画面操作
なし

3.9 [Hardware Inventory] 画面

[Hardware Inventory] 画面では、パーティション内のハードウェア構成物 (SB、IOB、CPU、DIMM、PCI デバイス、GSPB、SAS ディスクユニット、PCI ボックス)の一覧が表示されます。

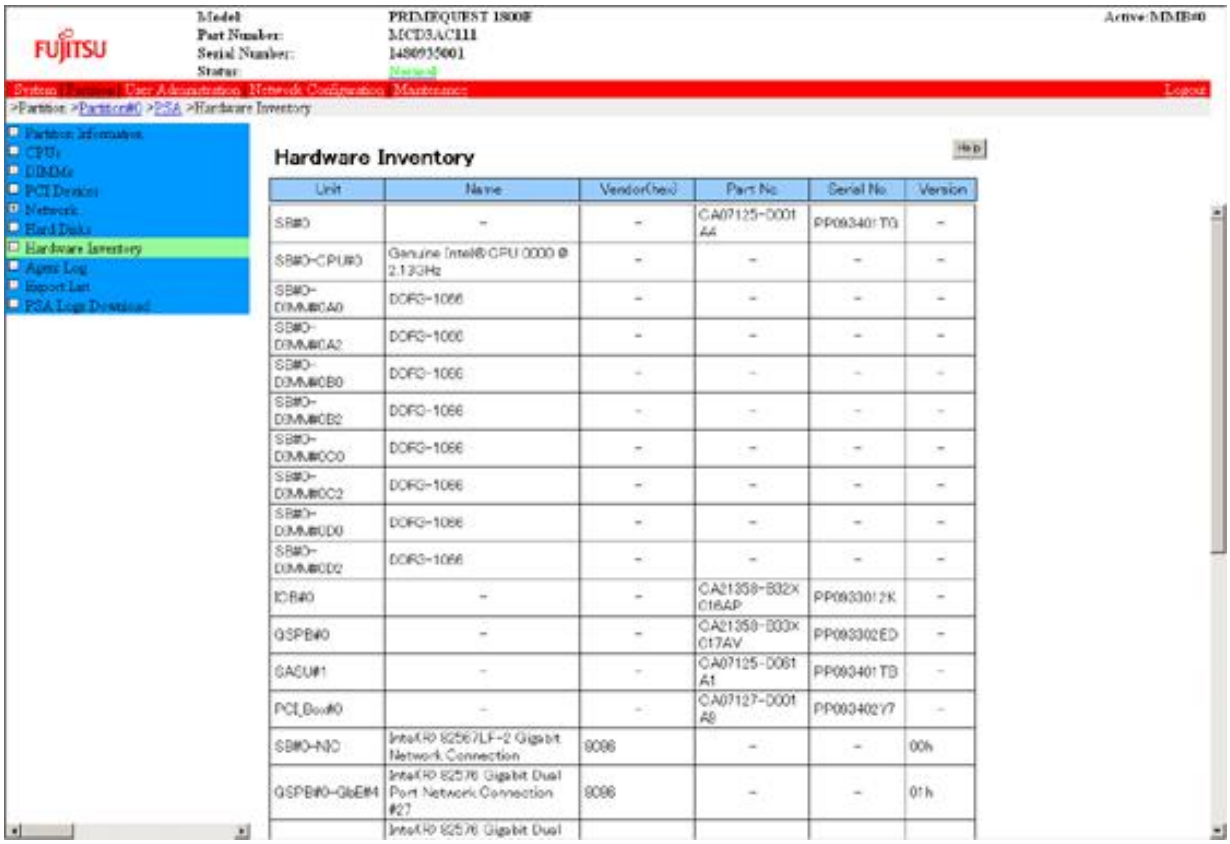


図 3.16 [Hardware Inventory] 画面

表 3.22 [Hardware Inventory] 画面の表示項目

項目	内容
Unit	識別名が表示される。
Name	名前が表示される。
Vendor (hex)	ベンダー ID が表示される。
Part No.	パーツ番号が表示される。
Serial No.	シリアル番号が表示される。
Version	版数が表示される。

各アイテムのフィールドに表示する内容は以下のとおりです。[－] の欄は常に [－] が表示されます。

表 3.23 [Hardware Inventory] 画面の項目に表示される内容

	Unit	Name	Vendor(hex)	PartNo.	SerialNo.	Version
SB	識別名	－	－	パーツ番号	シリアル番号	

	Unit	Name	Vendor(hex)	PartNo.	SerialNo.	Version
CPU	識別名	CPU モデル	－	－	－	－
DIMM	識別名	タイプ	－	－	－	－
IOB	識別名	－	－	パーツ番号	シリアル番号	－
GSPB	識別名	－	－	パーツ番号	シリアル番号	－
SASU	識別名	－	－	パーツ番号	シリアル番号	－
PCI_Box	識別名	－	－	パーツ番号	シリアル番号	－
PCI Device	識別名	デバイス名	ベンダー ID	－	－	版数

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Hardware Inventory]

(2) 画面操作
なし

3.10 [Agent Log] 画面

[Agent Log] 画面には、エージェントログが一覧表示されます。
エージェントログとは、PSA が実行した各種アクション (ログ出力、REMCS 送信、SNMP トラップ送信など) を起こした履歴を残したものです。
エージェントログは、最大 5,000 件がバイナリファイル形式で保管されます。最大件数まで保存されると、古いものから順に上書きされます。

図 3.17 [Agent Log] 画面

初期画面は、最新から 1,000 件のメッセージが時刻の降順に表示されます。[Agent Log Filtering Condition] 画面にて条件を指定すると、指定した条件に従って表示されます。
[Agent Log] 画面は、上下にフレーム分割され、上フレームに一覧を、下フレームに選択したメッセージの詳細が表示されます。なお、一覧初期表示時の下フレームは、空欄となります。
エージェントログがない場合、およびフィルタ条件設定に対して 1 件もヒットしなかった場合には、[Agent Log] 画面には、表示項目のタイトルと表示するログがないというメッセージが表示されます。

備考

- エージェントログの最大保有件数は 5,000 件ですが、画面の最大表示件数は 1,000 件です。表示されていないエージェントログを表示するには、フィルタ条件を設定します。
- PSA の画面表示では、ISO-8859-1 をサポートしています。このため、画面の表示内容にサポート対象外の文字が含まれている場合、[Agent Log] 画面の表示内容が正しく表示されないことがあります。この場合、表示対象の画面でブラウザの文字コードを適切に設定してください。

表 3.24 [Agent Log] 画面の表示・設定項目

項目	内容
エージェントログ 表示件数	PSA 内で保有しているエージェントログの件数、およびその中で一覧に表示している件数が表示される。 例：5,000 件中最新の 1,000 件を表示している場合 Results 1000 of 5000
No	エージェントログ通番が表示される。 詳細表示がある場合にはリンクの表示となる。
Date/Time	発生時刻が以下の形式で表示される。 yyyy-MM-dd HH:mm:ss
Severity	重要度レベルが表示される。 ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題 ・ Warning：警告 (必ずしも重大ではないが、将来問題になりそうなイベント) ・ Information：通知 (正常なイベント)
Unit	発生箇所の識別名が表示される。Unit 名が不明の場合は Unknown と表示される。 Unknown と表示されるのは、以下のいずれかの場合である。 ・ ドライバのメッセージに故障箇所を示す情報がない場合 ・ PSA 監視対象外のデバイス(USB デバイスなど)でエラーが発生した場合 ・ ホットプラグの過程で、OS がデバイスの認識処理中に異常が発生し、PSA がデバイスを認識していない状態でエラーが発生した場合 ・ ホットプラグの過程で、OS がデバイスを認識した後、PSA がそのデバイスを認識するまでの間にエラーが発生した場合
Event ID	イベント ID が表示される。
Description	メッセージが表示される。
詳細領域 (下フレームに表示)	メッセージ詳細情報。選択したログの詳細情報が表示される。メッセージに日本語文字コードが入ると文字化けが発生する場合がある。

表 3.25 [Agent Log] 画面のボタン

ボタン	内容
ログ通番 [No] 表示枠	詳細表示がある場合には [No] 枠の通番がリンクの表示となり、クリックすると、下フレームにエージェントログの詳細情報が表示される。
Download	[Download] ボタンをクリックすると、表示条件に関係なく、パーティション内で保有しているすべてのエージェントログが CSV ファイル形式でダウンロードされる。
Filter	[Filter] ボタンをクリックすると、メッセージの条件を絞り込むための [Agent Log Filtering Condition] 画面が表示される。

(1) メニュー操作

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Agent Log]

(2) 画面操作

- パーティション内で保有しているエージェントログをすべて CSV ファイル形式でダウンロードする場合
  1. [Download] ボタンをクリックします。
     [ファイルのダウンロード] 画面が表示されます。
  2. [ファイルのダウンロード] 画面で [保存] ボタンをクリックします。
     [名前を付けて保存] 画面が表示されます。
  3. [名前を付けて保存] 画面でファイル名を指定し、ファイルの種類を CSV ファイル (拡張子.csv) にして、[保存] ボタンをクリックします。
     指定した場所に CSV ファイルがダウンロードされ、[ダウンロードの完了] 画面が表示されます。
  4. [ダウンロードの完了] 画面で [閉じる] ボタンをクリックします。
     [Agent Log] 画面に戻ります。

- フィルタ条件を指定して抽出表示する場合
  1. [Filter] ボタンをクリックします。
     [Agent Log Filtering Condition] 画面が表示されます。
  2. 条件設定を進める場合、[Agent Log Filtering Condition] 画面で条件を指定して [Apply] ボタンをクリックします。
     条件が設定され、[Agent Log] 画面に戻ります。

備考

- フィルタ条件は、Agent Log が 1 件以上発生している場合に設定できます。
- 指定したフィルタ条件は、[Agent Log] 画面で操作中は保持されます。他の画面を表示したり、再度メニューから選択したりするとリセットされます。

3.10.1 [Agent Log Filtering Condition] 画面

[Agent Log Filtering Condition] 画面では、[Agent Log] 画面にログを一覧表示するためのフィルタ条件が設定できます。フィルタ条件の各項目の AND 条件で一覧が表示されます。

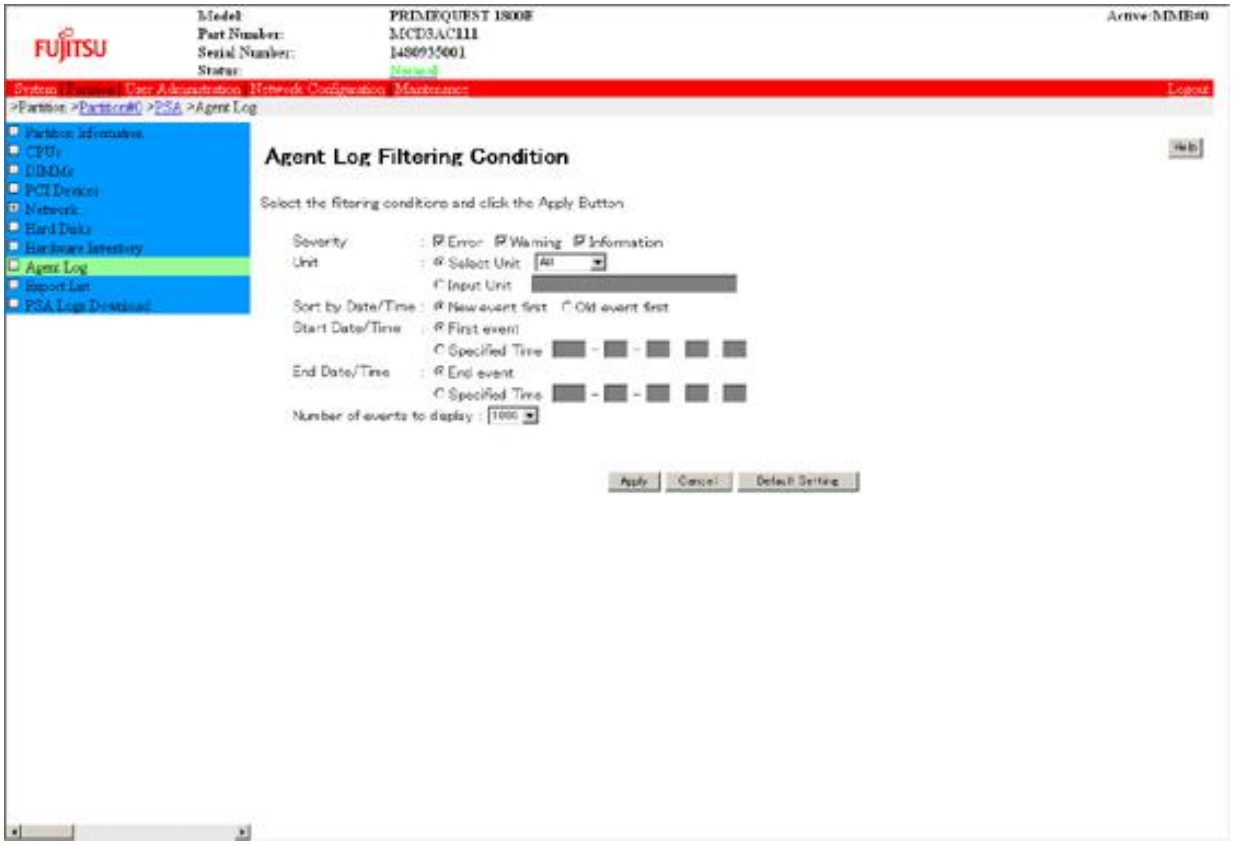


図 3.18 [Agent Log Filtering Condition] 画面

表 3.26 [Agent Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Severity	警告レベルをチェックボックスから選択する (複数選択可) 。 ・ Error：ハードウェア故障などの重大な問題 ・ Warning：必ずしも重大ではないが、将来問題になりそうなイベント ・ Information：パーティションの電源オンなど、正常なイベント デフォルトはすべてオン。
Unit	発生箇所をプルダウンリストから選択するか、Unit 名を直接入力するかをラジオボタンで選択する。 ・ Select Unit：Unit 種別をプルダウンから選択 発生箇所をプルダウンリストから選択する場合 (複数選択不可) 。 ・ All ・ PCI_Card ・ Disk ・ Software ・ Input Unit：Unit 名を直接入力 Unit 名を直接入力する場合。 入力可能文字：半角英数字、半角空白、半角記号で 64 文字以内。ただし、以下の記号は除く。 < > % & " , ¥ また、半角空白のみまたは未入力の場合は無効。

項目	内容
	文字列は前方部分一致で比較する。 例：SB#0 を指定すると配下の CPU、DIMM などすべての Unit が表示される。 デフォルトは All。
Sort by Date/Time	新しい順で表示するか古い順で表示するかをラジオボタンで指定する。 ・ New event first ・ Old event first デフォルトは New event first。
Start Date/Time	開始時刻を選択する。 ・ First event：最初のイベントにする ・ Specified Time：時間指定にする 時間指定の場合は、開始時刻の年月日時分を入力する。 デフォルトは [First event]。
End Date/Time	終了時刻を選択する。 ・ End event：最後のイベントにする ・ Specified Time：時間指定にする 時間指定の場合は、終了時刻の年月日時分を入力する。 デフォルトは End event。
Number of events to display	画面最大表示数をプルダウンリストで選択する。 ・ 100 ・ 200 ・ 300 ・ 400 ・ 500 ・ 1000 デフォルトは 1000。

表 3.27 [Agent Log Filtering Condition] 画面のボタン

ボタン	内容
Apply	[Apply] ボタンをクリックすると、指定した条件に合致するメッセージだけが [Agent Log] 画面に一覧表示される。 合致するメッセージが存在しなかった場合は、タイトルと表示するログがないことを伝えるメッセージが表示される。
Cancel	[Cancel] ボタンをクリックすると、前に表示していた一覧画面に戻る。
Default Setting	選択値をデフォルト値に戻す。

(1) メニュー操作

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Agent Log] - [Filter]

(2) 画面操作

- 指定したフィルタ条件で [Agent Log] 画面を表示する場合
  1. 条件を指定し、[Apply] ボタンをクリックします。
     [Agent Log] 画面に戻ります。[Agent Log] 画面には、指定した条件に合致するメッセージだけが一覧表示されます。合致するメッセージが存在しなかった場合は、タイトルと表示するログがないことを伝えるメッセージが表示されます。

- [Agent Log] 画面に戻る場合
  1. [Cancel] ボタンをクリックします。
     指定した選択を取り消し、[Agent Log] 画面に戻ります。

- 選択値をデフォルト値に戻す場合
  1. [Default Setting] ボタンをクリックします。
     全項目の条件をクリアし、デフォルト値に戻します。

3.11 [Export List] 画面

[Export List] 画面では、エクスポート機能により、PSA で保持している情報のスナップショットを CSV 形式でファイルに保存できます。
このデータは、PSA が OS で認識される PCI カードや HDD などの構成情報を管理している情報です。新規導入時、または PCI カードや HDD を交換、追加などした場合にハードウェア構成情報の記録として必ず採取し保存してください。このデータは、障害発生時や復旧時の情報として利用できますが、異常発生時の復旧に使用されるものではありません。

エクスポートデータは、100 件まで保存できます。100 件を超えると最も古いファイルが削除されて新しいファイルが保存されます。エクスポートデータは、最大件数を上回らない限りは、削除操作をしないと削除されません。ダウンロードは何度でもできます。
エクスポートデータは、CSV 形式で保存されるため、ダウンロードした後は、Excel などのアプリケーションを使用して参照できます。
PSA の設定情報は、設定変更時に必ずバックアップをとってください。

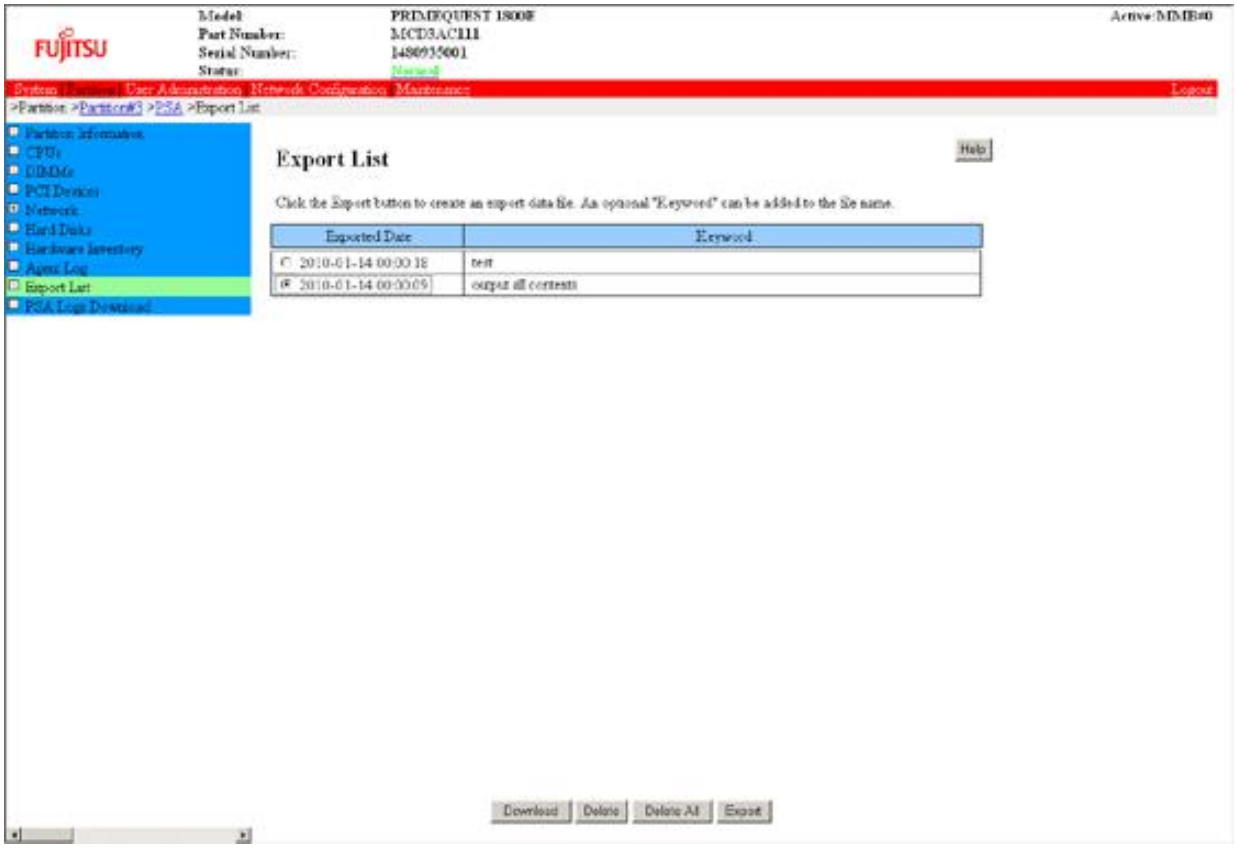


図 3.19 [Export List] 画面

エクスポートの初期画面では、現在エクスポートされているファイルの一覧が新しい順に表示されます。

表 3.28 [Export List] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Select File	ダウンロードまたは削除する対象ファイルをラジオボタンで選択する (複数選択不可) 。

項目	内容
Exported Date	エクスポートした日時が表示される。 例：2010-01-14 08:45:00 時刻はパーティション内ローカル時刻で付与される。
Keyword	エクスポート時に入力したキーワードが表示される。

表 3.29 [Export List] 画面のボタン

ボタン	内容
Download	[Download] ボタンをクリックすると、ダウンロード機能により、選択されているエクスポートファイルが端末側にダウンロードされる。
Delete	[Delete] ボタンをクリックすると、選択されているエクスポートファイルがパーティション内管理領域から削除される。
Delete All	[Delete All] ボタンをクリックすると、確認ダイアログボックスが表示される。確認ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックするとすべてのエクスポートファイルがパーティション内管理領域から削除される。
Export	[Export] ボタンをクリックすると、エクスポート指示画面が表示される。

(1) メニュー操作
[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Export List]

(2) 画面操作

- PSA にて保持している情報のスナップショットを、CSV 形式でファイルに保存する場合
  1. [Export] ボタンをクリックします。
     [Export] 画面が表示されます。
  2. [Export] 画面でコメントを入力し (任意) 、[Export] ボタンをクリックします。

     正常にエクスポートされると特定のディレクトリ配下に CSV ファイルが生成され、[Export List] 画面に戻ります。[Export List] 画面は最新の状態で表示されます。
     エクスポートに失敗すると [エクスポート失敗通知] ダイアログボックスが表示されます。
  3. [エクスポート失敗通知] ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
     [Export List] 画面に戻ります。

- エクスポートファイルを端末側にダウンロードする場合
  1. 対象ファイルのラジオボタンをオンにし (複数選択不可)、[Download] ボタンをクリックします。
     [ファイルのダウンロード] 画面が表示されます。
  2. [ファイルのダウンロード] 画面で [保存] ボタンをクリックします。
     [名前を付けて保存] 画面が表示されます。
  3. [名前を付けて保存] 画面でファイル名 (ファイルの種類は csv) を入力して、[保存] ボタンをクリックします。

指定した場所に CSV ファイルがダウンロードされ、[ダウンロードの完了] 画面が表示されます。

4. [ダウンロードの完了] 画面で、画面を閉じるためのボタンをクリックします
   [Export List] 画面に戻ります。[Export List] 画面は最新の状態で表示されます。

・ エクスポートファイルをパーティション内管理領域から削除する場合

1. [Delete All] ボタンをクリックするか、削除対象ファイルのラジオボタンをオンにして (複数選択不可)、[Delete] ボタンをクリックします。
   削除確認ダイアログボックスが表示されます。
2. 削除確認ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックします。
   正常に削除されると [Export List] 画面に戻ります。[Export List] 画面は最新の状態で表示されます。
   削除に失敗すると削除失敗のダイアログボックスが表示されます。
3. 削除失敗のダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックします。
   [Export List] 画面に戻ります。

備考

エクスポートファイルを端末側にダウンロードしようとしたときに、対象ファイルがすでに削除されていた場合、下記のメッセージが表示されます。

E_33005 Communication Error. (01:3378)

このような場合は、再度 Web-UI メニューから [Export List] を選択し、一覧を再表示してください。

(3) エラーメッセージ

異常終了の場合は以下のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

Error: Delete File Error : ErrorCode=****

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

3.11.1 [Export] 画面

[Export] 画面では、ファイルのエクスポートができます。このとき、エクスポートデータに対してキーワードを付与できます。キーワードはデータを区別するのに利用できます。省略することも可能です。

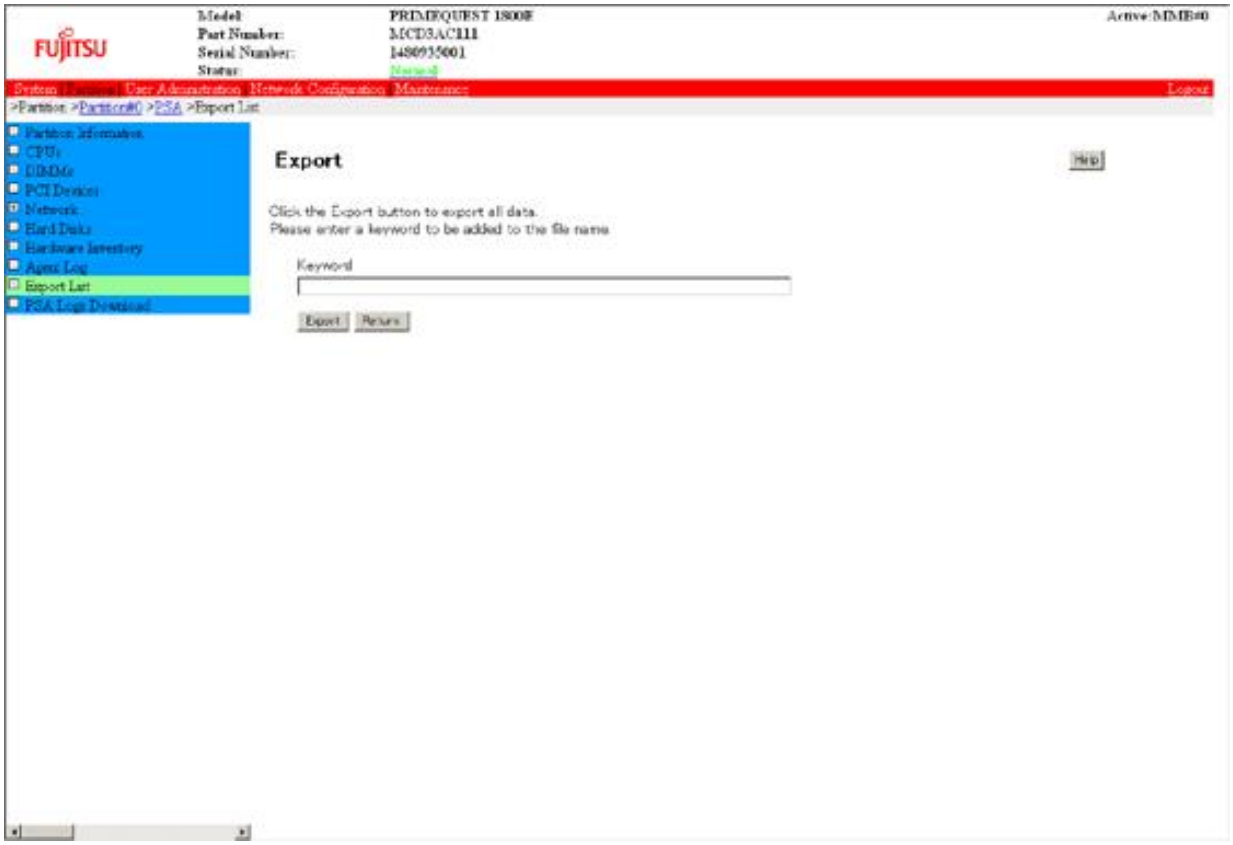


図 3.20 [Export] 画面

表 3.30 [Export] 画面の表示・設定項目

項目	内容
Keyword	エクスポートするデータに補足するキーワード (省略可能) をテキスト入力フィールドに入力する。入力可能文字は半角英数字と半角空白、半角記号で 50 文字以内である。ただし以下の記号は除く。 < > % & " , ¥ キーワードを省略する場合は空欄にする。

表 3.31 [Export] 画面のボタン

ボタン	内容
Export	[Export] ボタンをクリックすると、入力されたキーワードが正しいかをチェックし、その時点で PSA が保持している情報に基づいて特定のディレクトリ配下に CSV ファイルが生成される。正常にファイルが生成されると、[Export List] 画面が最新表示され、生成されたファイルが一番上に表示される。 エクスポートに失敗した場合は、[エクスポート失敗通知] ダイアログボックスが表示される。[OK] ボタンをクリックすると、[Export List] 画面に最新の一覧が表示される。
Return	[Return] ボタンをクリックすると、エクスポート処理が中止される。[Export List] 画面に最新の一覧が表示される。

(1) メニュー操作

[Partition] - [Partition#x] - [PSA] - [Export List] - [Export]

(2) 画面操作

1. キーワードを入力し、[Export] ボタンをクリックします。
   正常に CSV ファイルが生成されると、[Export List] 画面に戻ります。[Export List] 画面の一覧は最新状態になり、生成されたファイルが一番上に表示されます。
   エクスポートに失敗した場合は、[エクスポート失敗通知] ダイアログボックスが表示されます。
2. エクスポートに失敗した場合は、[エクスポート失敗通知] ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックします。
   [Export List] 画面に戻り、一覧には最新の状態が表示されます。

(3) エラーメッセージ

異常終了の場合は以下のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

Error: Export Error : ErrorCode=****

画面で表示されるメッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

3.12 [PSA Logs Download] 画面

[PSA Logs Download] 画面では、パーティションが保有しているログ情報 (エージェントログ、エクスポートデータ、PSA 内部ログ、システムログまたはイベントログなど) を一括ダウンロードできます。ダウンロードファイルは、Linux では Tgz 形式 (拡張子 tgz) 、Windows では cab 形式 (拡張子 cab) にて圧縮されます。下記に収集するログ情報の一覧を示します。

表 3.32 収集されるログ情報

ファイル	説明	ファイル形式	取得情報
エージェントログ	PSA が行った各種アクション (ログ出力、REMCS 送信、SNMPtrap 送信など) を起こした履歴。	CSV 形式	パーティションで保有しているすべてのエージェントログを保存。エージェントログ一覧表示画面で [Download] ボタンを押した場合と同じファイルを出力する。
エクスポートデータ	PSA で保持している構成情報のスナップショットを保存したもの。	CSV 形式	エクスポート一覧画面で [Download] ボタンを押した場合と同じファイルを出力する。本機能にてエクスポートデータをダウンロードした場合は Export 一覧には追加されない。
システムログ (Linux) (*)	Linux OS のログ	テキスト形式	OS が Linux の場合に OS のログを取得する。取得する／しないがユーザーにより選択できる。
イベントログ (Windows) (*)	Windows OS のログ	テキスト形式	OS が Windows の場合に OS のログを取得する。取得する／しないがユーザーにより選択できる。
PSA 内部ログ	PSA の内部ログ	テキスト形式	PSA の内部ログをすべて取得する。

*：システムログまたはイベントログを取得するかどうかは、以下のファイルで設定します。設定ファイルは PSA 起動時にのみ読み込むため、設定変更後、PSA の再起動が必要です。
ファイルパス：
Linux： /etc/opt/FJSVpsa/usr/dlsystemlog.conf
Windows： PSA インストールパス¥etc¥opt¥FJSVpsa¥usr¥dlsystemlog.conf
(PSA インストールパスは、環境変数：FJSVpsa_INSTALLPATH が指し示すフォルダです。)

GETSYSTEMLOG
1：取得する (デフォルト)
0：取得しない

```
[USRSET]
GETSYSTEMLOG        = 1
```

なお、定義されていない値が設定された場合は、システムログに警告を出力し、デフォルト値で動作する。

3.12.1 [PSA Logs Download] 画面

自パーティションのログ情報（エージェントログ、エクスポートデータ、システムログ (またはイベントログ)、PSA 内部ログ等）を一括ダウンロードするための画面です。

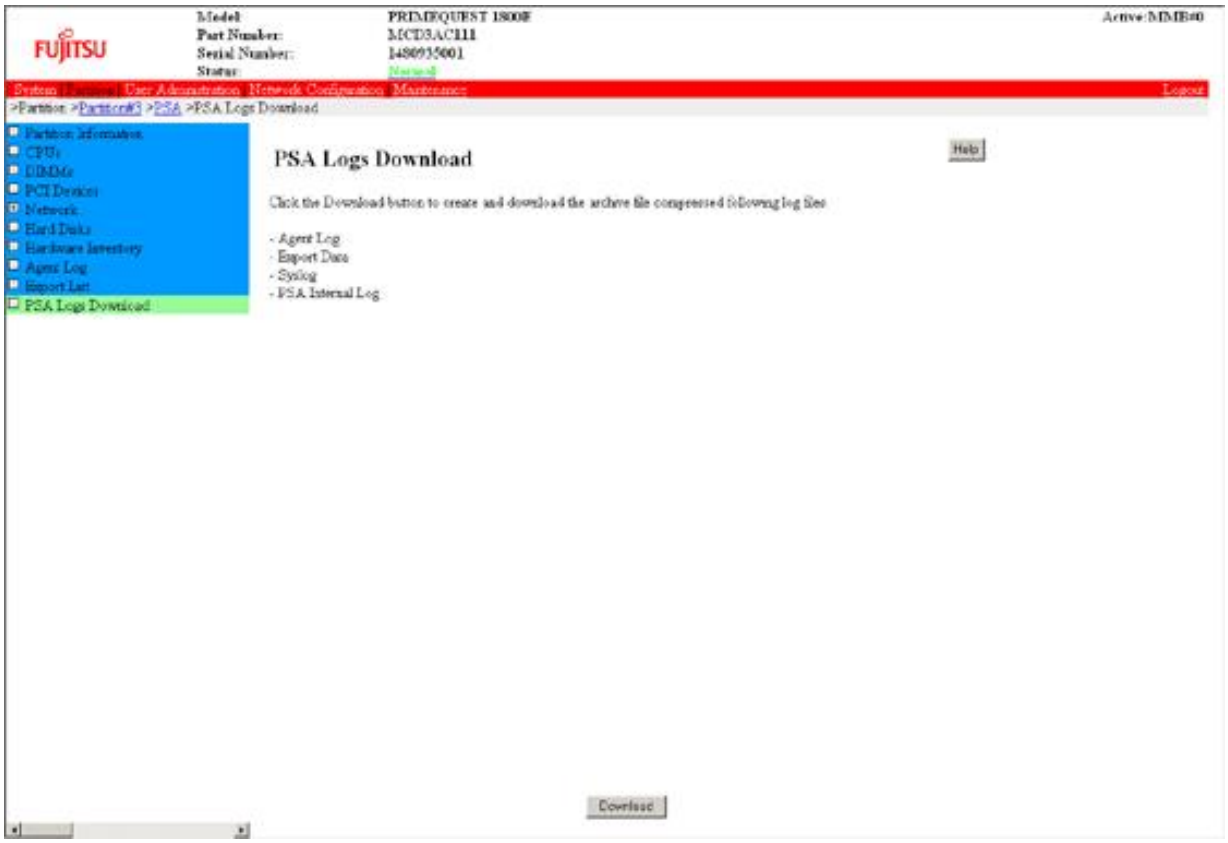


図 3.21 [PSA Logs Download] 画面（Linux）

備考

システムログを取得しない設定の場合、[Syslog] は表示されません。

図 3.22 [PSA Logs Download] 画面（Windows）

備考

イベントログを取得しない設定の場合、[Event Log] は表示されません。

表 3.33 [PSA Logs Download] 画面のボタン

項目	内容
Download	自パーティションのログ情報（エージェントログ、エクスポートデータ、システムログ(またはイベントログ)、PSA 内部ログ等）を収集し、ダウンロードファイルを作成する。ファイルの作成を開始すると、自動的に「3.12.2 [PSA Logs Download－Status－] 画面」に遷移する。

3.12.2 [PSA Logs Download－Status－] 画面

各ログ情報 (エージェントログ、エクスポートデータ、システムログ (またはイベントログ)、PSA 内部ログなど) を収集して、ファイルを作成する状況を表示します。

図 3.23 [PSA Logs Download－Status－] 画面（Linux）

表 3.34 [PSA Logs Download－Status－] 画面の表示項目

項目	内容
Done	正常終了
Error	異常終了（ファイルは収集されない）
Abort	処理中断（一部のファイルが収集されている場合がある）

注意

- ファイル作成中に Error や Abort となるファイルがあっても、ダウンロードは継続されます。
- ファイル作成中に下記の操作は行わないでください。
  - ブラウザを閉じる
  - MMB Web-UI のログアウト
  - MMB Web-UI の他メニューへの遷移

  上記の操作を行った場合は、約 10 分間ダウンロードが実施できなくなります。なお、10 分以内に再度ダウンロードを実施しようとすると、下記のメッセージが表示されます。

PSA Logs Download is locked now. Please retry after waiting a while.

  または

It is not possible to operate it now. Please select it form the menu again.

- [Download] ボタンを押してから、ファイルを保存するまでに 10 分以上経過した場合は、再度 [PSA Logs Download] 画面に戻り、操作をやり直してください。

備考

Windows 環境では「Syslog」ではなく「Event Log」と表示します。
システムログ (またはイベントログ) を取得しない設定のときは、[Syslog] (または [Event Log]) は表示されません。

表 3.35 [PSA Logs Download－Status－] 画面のボタン

項目	内容
Cancel	ダウンロードファイルの作成を中止する場合にクリックする。

3.12.3 [PSA Logs Download－Result－] 画面

ファイルのダウンロードを指示したさいに、ダウンロードダイアログの後方で、ダウンロードの結果を表示する画面です。

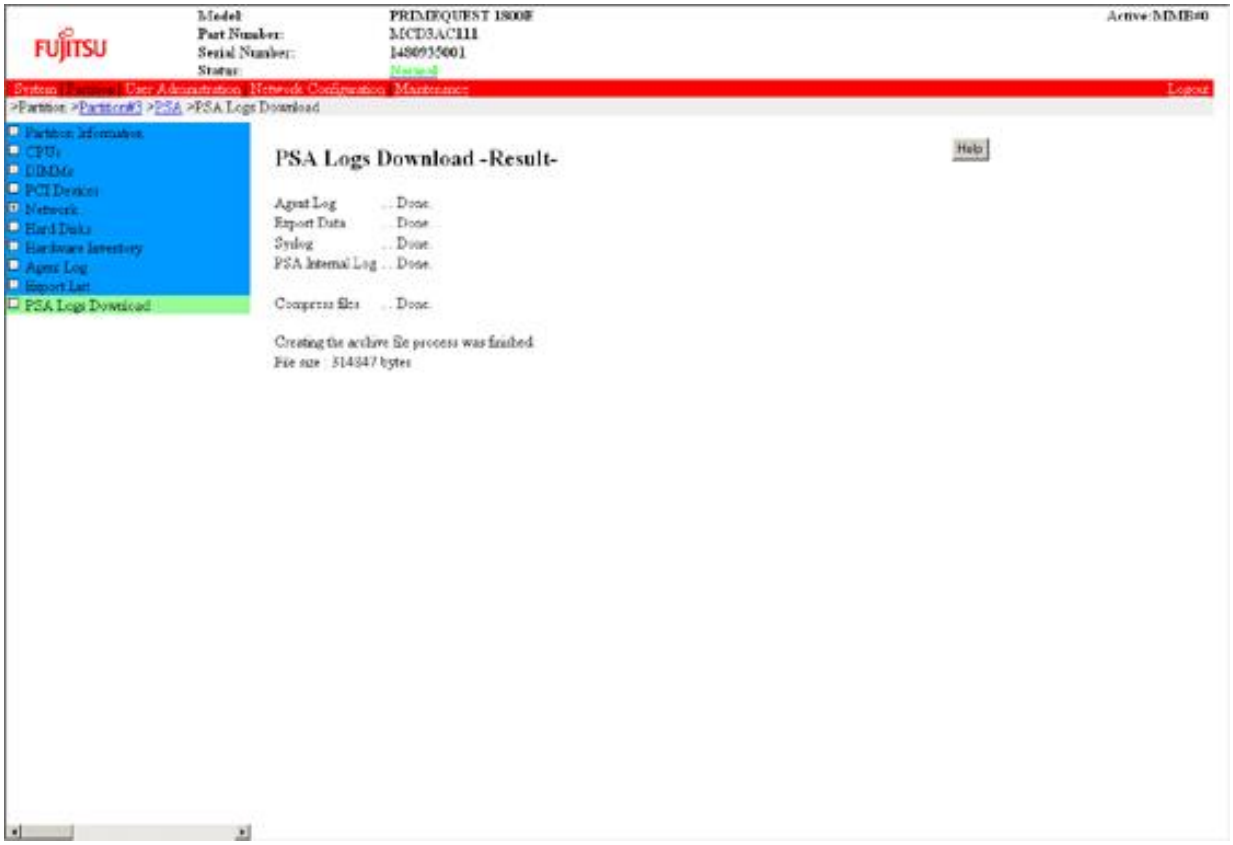


図 3.24 [PSA Logs Download－Result－] 画面（Linux）

注意

すべてのファイル作成に失敗した場合、またはファイル圧縮に失敗した場合には、最下行のファイルサイズ表示が「File size:0bytes」となり、ダウンロードできません。

備考

Windows 環境では [Syslog] ではなく [Event Log] と表示します。
システムログ (またはイベントログ) を取得しない設定のときは、[Syslog] (または [Event Log]) は表示されません。

(1) 画面操作

- 作成されたダウンロードファイルを保存する場合
  ダウンロードファイルの作成が完了すると、[ファイルのダウンロード] 画面が表示されます。
  1. [ファイルのダウンロード] 画面で [保存] ボタンをクリックします。
     [名前を付けて保存] 画面が表示されます。
  2. [名前を付けて保存] 画面で保存先を指定し、[保存] ボタンをクリックします。
     ファイルがダウンロードされ、[ダウンロードの完了] 画面が表示されます。
  3. [ダウンロードの完了] 画面で [閉じる] ボタンをクリックします。

  備考

  PSA Logs Download 機能は、筐体内で 1 ユーザーしか使用できません。また、[System Event Log] 画面からのログのダウンロード、[Firmware Update] メニューの使用についても同様に筐体内で 1 ユーザーしか使用できません。
  [PSA Logs Download] 画面からログをダウンロードする場合に、上記 3 つの機能をすでに使用しているときは、二重起動のメッセージが表示されます。

第 4 章　PSA の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作

本章では、CLI (Command Line Interface) を使って PSA を操作する場合のコマンドについて説明します。
PSA とは、PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L の各パーティション上の OS で動作するシステム管理アプリケーションです。
PSA は PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L のみ提供します。
PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 では、PSA による管理機能は SVmco によって提供します。SVmco の CLI について詳しくは、SVmco のマニュアルを参照してください。

4.1 CLI の基本操作 354
4.2 ディスク操作コマンド (diskctrl) 356
4.3 PSA 起動／停止コマンド (y30FJSVpsa) 361
4.4 PSA 調査資料収集コマンド (getopsa) 363
4.5 フィルタ定義更新コマンド (fltcpy,fltupdate) 364
4.6 自パーティション番号取得コマンド (getpartid) 367
4.7 シリアル番号取得コマンド (getserialno) 368
4.8 SNMP セキュリティ設定コマンド (setsnmpsec) 369
4.9 ファームウェア情報取得コマンド (getfwinfo) 370
4.10 PCI カード操作コマンド(fjpciswap) 372
4.11 管理 LAN 用インターフェース向けファイアーウォール設定コマンド (setmlanfw.sh) 375
4.12 PSA-MMB 通信 LAN 設定コマンド (setpsalan) 379

4.1 CLI の基本操作

OS のコマンドとして提供される CLI について説明します。
CLI は OS にログインして使用します。
ユーザー権限により使用できないコマンドもあります。「表 4.1 コマンド一覧」を参照してください。

4.1.1 CLI のコマンド一覧

PSA の CLI コマンドの一覧を示します。

表 4.1 コマンド一覧

No	コマンド名	権限	備考	コマンド		
				Linux	Windows	VMware
1	ディスク操作コマンド	root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	HDD の操作	あり	あり (*1)	なし
2	PSA 起動／停止コマンド	root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	PSA の起動または停止	あり	なし (*2)	あり
3	PSA 調査資料収集コマンド	root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	PSA 調査資料の収集	あり	あり	あり
4	フィルタ定義更新コマンド	root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	フィルタ定義を PSA の作業ディレクトリにコピー、更新	あり	あり	あり
5	自パーティション番号取得コマンド	一般ユーザーで操作可能	自パーティション番号を標準出力に表示	あり	あり	あり
6	シリアル番号取得コマンド	一般ユーザーで操作可能	シリアル番号を標準出力に表示	あり	あり	あり
7	SNMP セキュリティ設定コマンド	root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	SNMP パケットを受け付けるホストの設定	なし	あり	なし
8	ファームウェア情報取得コマンド	root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	ファームウェア情報の収集	あり	あり	あり
9	PCI カード操作コマンド	Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	PCI ホットプラグを行う	なし	あり	なし
10	管理 LAN 用インターフェース向けファイアーウォール設定コマンド	root (Linux) 権限	PRIMECLUSTER 連携を行うさいに、管理 LAN 用インターフェースに対するファイアーウォール	あり	なし	なし

No	コマンド名	権限	備考	コマンド		
				Linux	Windows	VMware
			設定をサポートするコマンド			
11	PSA-MMB 通信 LAN 設定コマンド	Admin (Windows) 権限が必要 (*3)	PSA-MMB 通信 LAN のネットワーク設定	なし	あり	なし

*1：本コマンドは、Linux と Windows でサポートするオプションが異なります。
*2：起動：[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス]の順にクリックし、「PRIMEQUEST PSA Environment Control Service」を起動します。「PRIMEQUEST Server Agent」と「PRIMEQUEST PEMCommand Service」が順次起動されます。
停止：[コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス]の順にクリックし、「PRIMEQUEST PSA Environment Control Service」、「PRIMEQUEST Server Agent」、「PRIMEQUEST PEMCommand Service」を選択して停止します。
*3：Windows の場合、OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。

4.2 ディスク操作コマンド (diskctrl)

diskctrl コマンドは、指定されたオプションに従って、HDD の一覧表示、HDD のディスク回転停止、HDD 搭載位置を示すロケーション LED を点灯／消灯します。

備考

- 本コマンドは、Linux と Windows でサポートするオプションが異なります。
- 本コマンドの実行には、root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要です。Windows の場合、OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。
- 予防交換などにより HDD の電源を切断する場合、以下の操作をする必要があります。
  - GDS でミラーリングをしている場合は、先に切り離してください。
  - GDS でミラーリングをしていない場合は、アンマウントしてください。

注意

- 本コマンドの操作手順について詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108-01) の「第 4 章 ハードディスクの活性交換」を参照してください。
- RAID 装置は操作対象外です。RAID 装置のハードディスクの交換については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「4.3 Hardware RAID 構成のハードディスク交換」を参照してください。
- VMware ではハードディスクの活性交換をサポートしていません。
- 本コマンドでハードディスクを交換する場合、ディスク実装操作のとき、以下のメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示されても、動作上の問題はありません。

```
kernel: mptscsih: ioc0: >>   Attempting bus reset! ¥
(sc=e000004082adc480)
kernel: mptbase: ioc0: IOCStatus(0x0048):   SCSI ¥
Task Terminated
```

¥：改行しないことを表す。

- ハードディスクを挿入後、誤って挿入したためにディスクを回転停止させる場合は、ディスク挿入後 60 秒程度の時間を空けてからディスクの回転停止操作をしてください。ディスク挿入操作により OS のホットプラグ処理が動作するため、挿入後すぐにディスクの停止操作をすると、以下のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

```
kernel: Device sdb not ready.
kernel: end_request: I/O error, dev sdb,   sector 204706
kernel: Buffer I/O error on device sdb1,   logical block
6396
```

- ディスク操作コマンド実行中に PSA を起動すると、PSA は正常に動作しません。コマンド終了後に起動してください。

- ディスク操作コマンドを同時に複数実行すると、異常終了する場合があります。実行中のディスク操作コマンドがないことを確認してから実行してください。

・ Linux で GDS のハードディスクの活性保守を実行した場合は、手動で PSA の以下のコマンドを実行してください。

```
/opt/FJSVpsa/sh/force_search.sh -a
```

(1) 入力形式

・ Linux の場合

```
/opt/FJSVpsa/bin/diskctrl {-l|-e|-i|-o|-c} {Devicename|
iocx/slotno}
```

・ Windows の場合

```
diskctrl {-l|-i|-o} {diskno| ¥¥device¥scsiportno¥slotno}
```

(2) オプション

{-l|-e|-i|-o|-c}

・ l：状態表示
OS で認識されている HDD の一覧を画面に表示する。
・ e：ディスク回転停止指示
[Devicename]で指定された HDD、または [iocx/slotno]で指定されたディスクの回転を停止し、Fault LED を点灯する。
・ i：ロケーション表示
[Devicename]で指定された HDD、または [iocx/slotno]で指定された SGPIO コントローラーのスロット位置の Fault LED を点滅する。
・ o：ロケーション消灯
[Devicename]で指定された HDD、または [iocx/slotno]で指定された SGPIO コントローラーのスロット位置の Fault LED を消灯する。
・ c：Fault LED 消灯指示
[iocx/slotno]で指定された SGPIO コントローラーのスロット位置の Fault LED を消灯する。

備考

・ Linux の指定方法
操作する HDD を論理装置名または SGPIO コントローラーのスロット番号で指定します。また、論理装置名を指定する場合は、状態表示(-l)で OS 上に存在するかを確認してください。
  ・ Devicename：OS の論理装置名を指定する。
  例．/dev/sda
  ・ iocx/slotno: SGPIO コントローラーの IOC 番号、およびディスクのスロット番号を指定する。
  例．ioc0 のスロット 1 の場合、ioc0/1

・ Windows の指定方法
操作する HDD を論理装置名または SGPIO コントローラーのスロット番号で指定します。また、指定する前に、状態表示(-l)で対象のデバイスが存在するかを確認してください。
  ・ diskno：ディスク番号を指定する。(ディスクアドミニストレーターで表示されるディスク番号)

例：Disk0 の場合、0

- ¥¥device¥scsiportno¥slotno: SGPIO コントローラーの SCSI 番号、およびディスクのスロット番号を指定する。
  例：SCSI 番号 1 のスロット 2 の場合、¥¥device¥scsiport1¥2

(3) 使用例

- Linux の場合
  OS に存在するすべての SGPIO コントローラーとそのスロットの状態一覧を表示する場合の例を、以下に示します。

```
# /opt/FJSVpsa/bin/diskctrl -l
```

表 4.2 SGPIO コントローラーとスロットの状態 (Linux)

表示例	状態説明
ioc0 0 /dev/sda Fault LED-Off 1 /dev/sdb Fault LED-Off 2 --mount Fault LED-Off 3 --mount Fault LED-On	 ←正常動作中 ←回転停止
ioc1 0 /dev/sdd Fault LED-Identify 1 none 2 none 3 none	 ←ロケーション表示中 ←空きスロット

備考

ioc の下に表示される数字は、スロット番号です。

- HDD の交換、取外しのためにディスクの回転を停止する

```
# /opt/FJSVpsa/bin/diskctrl -e ioc0/3
```

- HDD を増設するために搭載位置を確認する

```
# /opt/FJSVpsa/bin/diskctrl -i ioc0/3
```

- HDD の交換/増設のために点滅させていたロケーション表示の Fault LED を消灯する

```
# /opt/FJSVpsa/bin/diskctrl -o ioc0/3
```

- ディスク回転停止操作後、Fault LED を消灯する

```
# /opt/FJSVpsa/bin/diskctrl -c ioc0/3
```

・ Windows の場合
OS に存在するすべての SGPIO コントローラーとそのスロットの状態一覧を表示する場合の例を、以下に示します。

```
diskctrl -l
```

表 4.3 SGPIO コントローラーとスロットの状態 (Windows)

表示例	状態説明
¥¥device¥scsiport0	
0 Disk0 Fault LED-Off	←正常動作中
1 Disk1 Fault LED-Identify	←ロケーション表示中
2 none	←空きスロット
3 --mount Fault LED-On	←回転停止

備考
¥¥device¥scsiportx の下に表示される数字は、スロット番号です。

・ HDD の搭載位置を確認する

```
diskctrl -i 1
```

・ 点滅させていたロケーション表示の Fault LED を消灯する

```
diskctrl -o 1
```

(4) 出力メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

・ Linux の場合

FJSVpsa : W 02152 diskctrl no memory available
FJSVpsa : W 02158 diskctrl Cannot blinking location-LED
FJSVpsa : W 02159 diskctrl Cannot clear location-LED
FJSVpsa : W 02165 diskctrl Operation not permitted
FJSVpsa : W 02167 diskctrl Invalid option

・ Windows の場合

FJSVpsa : W 02152 diskctrl no memory available
FJSVpsa : W 02158 diskctrl Cannot blinking location-LED
FJSVpsa : W 02159 diskctrl Cannot clear location-LED
FJSVpsa : W 02165 diskctrl Operation not permitted
FJSVpsa : W 02167 diskctrl Invalid option
FJSVpsa : W 02169 diskctrl too few or more option
FJSVpsa : W 02170 diskctrl Cannot stop HDD
FJSVpsa : W 02171 diskctrl Cannot get device information(SCSI)
FJSVpsa : W 02172 diskctrl Cannot get device information(Registry)
FJSVpsa : W 02173 diskctrl Cannot get device
FJSVpsa : W 02174 diskctrl Device not found
FJSVpsa : W 02181 diskctrl Cannot get device information(Snmp)
FJSVpsa : W 02182 diskctrl Cannot get device information(WMI)
FJSVpsa : W 02187 diskctrl internal error
FJSVpsa : W 02189 diskctrl Target Device is not connected

*: 本製品に異常が発生した場合は『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「11.2　トラブル対応」を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、担当営業員または修理相談窓口に連絡してください。
ご連絡のさいは、本体装置に貼付のラベルで記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。

4.3 PSA 起動／停止コマンド (y30FJSVpsa)

y30FJSVpsa コマンドは、PSA の起動または停止をします。

備考

- 本コマンドは、Linux のみ使用可能です。
- 本コマンドの実行には root 権限が必要です。
- PSA はデーモンプログラムであるため、通常はブート時に自動起動されています。
- PSA を停止し起動することにより、PSA 内で管理されているステータス (例：[PCI Devices] 画面の [Status] 欄) はすべて初期値 (OK) になります。
- ディスク操作コマンド実行中に PSA を起動すると、PSA は正常に動作しません。コマンド終了後に起動してください。

(1) 入力形式

```
/sbin/service y30FJSVpsa {start | stop | status}
```

(2) オプション

start | stop | status

- start：PSA を起動する。
- stop：PSA を停止する。
- status：PSA の起動状態を確認する。

(3) 使用例

a. PSA を起動する場合の例

```
# /sbin/service y30FJSVpsa start
```

b. PSA を停止する場合の例

```
# /sbin/service y30FJSVpsa stop
```

c. PSA の起動状態を確認する場合の例

```
# /sbin/service y30FJSVpsa status
```

PSA がすでに起動している場合、以下のメッセージが出力されます。

```
PSA is already running
```

PSA が停止している場合、以下のメッセージが出力されます。

```
PSA is stopped(xxxx)
```

備考

(xxxx) には詳細情報が入ります。

(4) 終了ステータス
0：正常終了
>0：異常終了

(5) 注意事項
y30FJSVpsa コマンドによって PSA を起動したときに、以下のメッセージが表示されることがあります。
このメッセージが表示されても、動作上問題はありません。

```
/bin/mknod: `/dev/watchdog': ファイルが存在します。
```

4.4 PSA 調査資料収集コマンド (getopsa)

getopsa コマンドは、PSA の障害発生時の調査資料として、以下の情報を一括して 1 つの圧縮ファイルにまとめて出力します。

- アプリケーションパッケージのインストール状況
- ファイル／モジュール一覧情報
- 設定ファイル
- 内部ログ
- トレースファイルなど

備考

本コマンドの実行には、root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要です。Windows の場合、OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。

(1) 入力形式

output_filename には、圧縮した調査資料の出力先ファイルをフルパスで指定します。

- Linux または VMware の場合

```
/opt/FJSVpsa/sh/getopsa {output_filename}
```

- Windows の場合

```
getopsa output_filename
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

- Linux の場合

  調査資料が、/tmp/dump/psa_dump のパスのファイルに出力されます。

```
# /opt/FJSVpsa/sh/getopsa   /tmp/dump/psa_dump
```

- Windows の場合

  調査資料が、C:¥temp¥dump¥psa_dump のパスのファイルに出力されます。

```
> getopsa C:¥temp¥dump¥psa_dump
```

(4) 終了ステータス

0：正常終了

>0：異常終了

4.5 フィルタ定義更新コマンド (fltcpy,fltupdate)

フィルタ定義更新コマンドには、fltcpy と fltupdate のコマンドがあります。
fltcpy コマンドは、圧縮ファイルなどで提供されるフィルタ定義を展開した任意のディレクトリから、PSA のフィルタ更新作業用のディレクトリにコピーし更新します。
fltupdate コマンドは、PSA のフィルタ更新作業用ディレクトリから運用ディレクトリにフィルタ定義をコピーし更新します。

備考

- 本コマンドの実行には、root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要です。Windows の場合、OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。
- PSA 起動中にフィルタ定義は更新できません。

(1) 入力形式

- Linux または VMware の場合

```
/opt/FJSVpsa/sh/fltcpy [-f] [-d ディレクトリ名]
/opt/FJSVpsa/sh/fltupdate [-f]
```

- Windows の場合

```
fltcpy [-f] [-d ディレクトリ名]
fltupdate [-f]
```

(2) オプション

a. fltcpy

- [-f]
  作業用ディレクトリのフィルタ定義を強制的に更新する。古い版数のフィルタ定義に戻す場合は必須である。
  省略した場合は、更新しようとするフィルタ定義より新しい版数のフィルタ定義が作業用ディレクトリに存在した場合、更新をしない。

- [-d ディレクトリ名]
  更新用のフィルタ定義を展開したディレクトリを指定する。
  省略した場合は、カレントディレクトリと判断する。

b. fltupdate

- [-f]
  運用ディレクトリのフィルタ定義を強制的に更新する。古い版数のフィルタ定義に戻す場合は必須である。
  省略した場合は、更新しようとするフィルタ定義より新しい版数のフィルタ定義が運用ディレクトリに存在した場合、更新をしない。

(3) 使用例

- Linux の場合

・ 通常の更新手順
更新対象のフィルタ定義が展開されているディレクトリ /tmp/filter から、更新ファイルコピーコマンドを実行する場合の例です。PSA を停止し、/tmp/filter から fltcpy コマンドを実行して完了後、PSA を再起動します。

```
# /sbin/service y30FJSVpsa stop
# /opt/FJSVpsa/sh/fltcpy -d /tmp/filter
# /sbin/service y30FJSVpsa start (*)
```

*：fltcpy コマンド実行後に OS を再起動する場合は、PSA が自動起動されます。したがって、本操作は不要です。

・ 強制更新手順
フィルタ定義を古い版数 ([/tmp/filter]配下にあるフィルタ定義) に戻す場合の例です。

```
# /sbin/service y30FJSVpsa stop
# /opt/FJSVpsa/sh/fltcpy -f -d   /tmp/filter
# /opt/FJSVpsa/sh/fltupdate -f
# /sbin/service y30FJSVpsa start
```

・ Windows の場合
・ 通常更新手順
更新対象のフィルタ定義が展開されているディレクトリ C:¥temp¥filter から、fltcpy コマンドを実行する場合の例です。PSA を停止し、C:¥temp¥filter か fltcpy コマンドを実行して完了後、PSA を再起動します。

```
> net stop "PRIMEQUEST Server Agent"
> fltcpy  -d  C:¥temp¥filter
> net start "PRIMEQUEST Server Agent" (*)
```

*：fltcpy コマンド実行後に OS を再起動する場合は、PSA が自動起動されます。したがって、本操作は不要です。

・ 強制更新手順
フィルタ定義を古い版数 C:¥temp¥filter に戻す場合の例です。

```
> net stop "PRIMEQUEST Server Agent"
> fltcpy   -f   -d   C:¥temp¥filter
> fltupdate -f
> net start "PRIMEQUEST Server Agent"
```

(4) 出力メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

FJSVpsa: E 02700 fltupdate initialization failed
FJSVpsa: E 02701 fltupdate version file read error
FJSVpsa: E 02702 fltupdate version file format error
FJSVpsa: E 02703 fltupdate internal error
FJSVpsa: I 02704 fltupdate updating filter file
FJSVpsa: I 02705 fltupdate unnecessary to update filter file
FJSVpsa : E 02706 fltupdate directory doesn't exist
FJSVpsa: E 02707 fltupdate failed to update filter file
FJSVpsa: I 02708 fltupdate normally end
FJSVpsa: E 02709 fltupdate failed to update filter file
FJSVpsa: E 02710 fltout version file format error
FJSVpsa: E 02711 fltupdate fltout filter file open error
FJSVpsa: E 02712 fltout filter file read error
FJSVpsa: E 02713 fltout filter file format error
FJSVpsa: E 02714 fltout initialization failed
FJSVpsa: E 02716 fltupdate illegal version
FJSVpsa: E 02717 fltupdate illegal version
FJSVpsa: E 02718 fltupdate cannot update filter file

*： 本製品に異常が発生した場合は『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「11.2　トラブル対応」を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、担当営業員または修理相談窓口に連絡してください。
ご連絡のさいは、本体装置に貼付のラベルで記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。

4.6 自パーティション番号取得コマンド (getpartid)

getpartid コマンドは、自パーティション番号を標準出力に表示します。

(1) 入力形式

- Linux または VMware の場合

```
/opt/FJSVpsa/sh/getpartid
```

- Windows の場合

```
getpartid
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

- Linux の場合

```
$ /opt/FJSVpsa/sh/getpartid
1
```

- Windows の場合

```
> getpartid
1
```

(4) 終了ステータス

0：正常終了

>0：異常終了

4.7 シリアル番号取得コマンド (getserialno)

getserialno コマンドは、装置のシリアル番号を標準出力に表示します。2 行目は欧州向けシリアル番号となります。

(1) 入力形式

- Linux または VMware の場合

```
/opt/FJSVpsa/sh/getserialno
```

- Windows の場合

```
getserialno
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

- Linux の場合

```
$ /opt/FJSVpsa/sh/getserialno
xxxxxxxxxxx
yyyyyyyyyyy
```

- Windows の場合

```
> getserialno
  xxxxxxxxxx
  yyyyyyyyyy
```

(4) 終了ステータス

0：正常終了

>0：異常終了

4.8 SNMP セキュリティ設定コマンド (setsnmpsec)

setsnmpsec コマンドは、SNMP サービスのセキュリティ設定 (SNMP パケットを受け付けるホストの設定) をします。SNMP サービスのセキュリティ設定が「すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける」の場合には実行する必要はありません。
SNMP サービスのセキュリティ設定を「これらのホストから SNMP パケットを受け付ける」で運用中で、PSA インストール後に PSA-MMB 間通信 LAN の MMB の IP アドレスを変更した場合、SNMP サービスのセキュリティ設定を「すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける」から「これらのホストから SNMP パケットを受け付ける」に変更した場合に実行します。

備考

- 本コマンドは、Windows のみ使用可能です。
- 本コマンドの実行には、Admin 権限が必要です。OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。

(1) 入力形式

```
setsnmpsec
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

```
> setsnmpsec
```

(4) 出力メッセージ

- 正常終了時:
  FJSVpsa : I 04200 Security setting for SNMP Service was completed.
- 異常終了時:
  FJSVpsa : E 04201 An error occurred at the time of security setting for SNMP Service.

(5) 注意事項
本コマンドを実行した場合、SNMP Service の再起動が必要です。

4.9 ファームウェア情報取得コマンド (getfwinfo)

getfwinfo コマンドは、筐体の型名、シリアル番号およびファームウェア版数を収集し、テキスト形式のファイルとして出力します。収集するファームウェア版数は、筐体に搭載されている全 MMB、本コマンドを実行したパーティションの Home SB に搭載されている BIOS (運用面のみ)、BMC (運用面のみ)、および筐体総合版数となります。

備考

本コマンドの実行には、root (Linux) 権限または Admin (Windows) 権限が必要です。Windows の場合、OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。

(1) 入力形式

output_filename で、出力するファイル名を指定します。

- Linux または VMware の場合

```
/opt/FJSVpsa/sh/getfwinfo  {output_filename}
```

- Windows の場合

```
getfwinfo  {output_filename}
```

(2) オプション

なし

(3) 使用例

- Linux の場合

  ファームウェアの情報が /tmp/fwinfo.txt で出力されます。

```
#/opt/FJSVpsa/sh/getfwinfo  /tmp/fwinfo.txt
```

- Windows の場合

  ファームウェアの情報が C:¥tmp¥fwinfo.txt で出力されます。

```
> getfwinfo  C:¥tmp¥fwinfo.txt
```

(4)出力メッセージ

この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。

メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

No filename
Open failed : filename
firmver internal error

IPMI driver open error
IPMI access failed

またコマンドが正常終了した場合でも、以下のメッセージが標準出力に表示される場合があります。
必要に応じて対処を実施してください。
SNMP access failed

(5) 出力ファイル形式
以下の形式で出力されます。

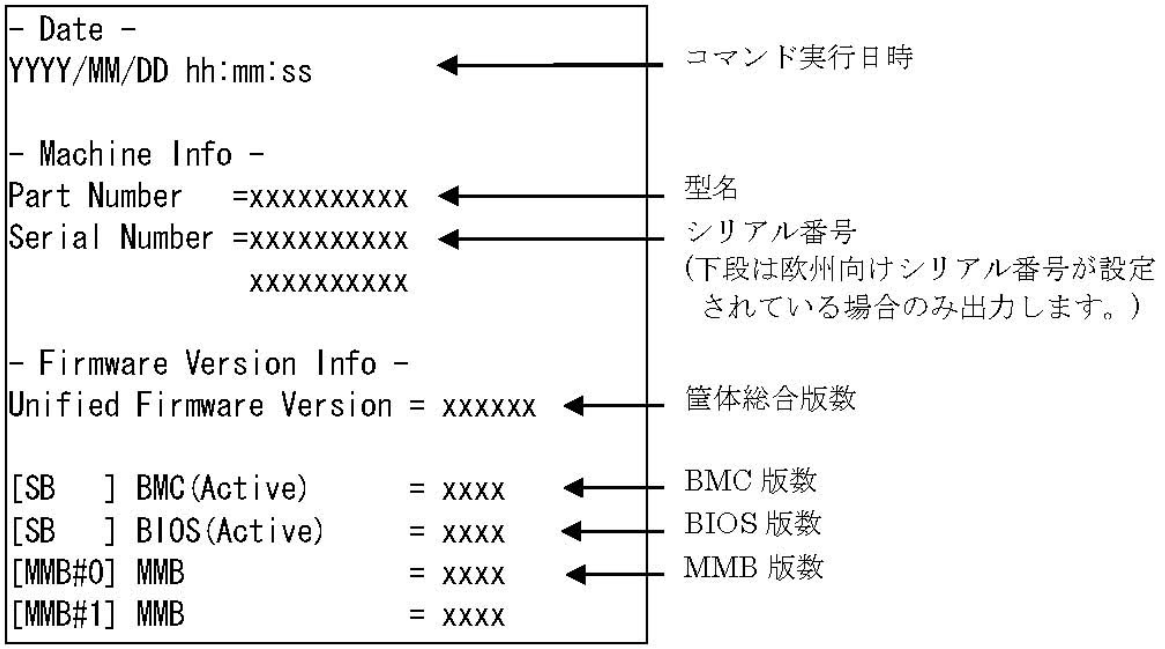


図 4.1 出力ファイル形式

(6) 終了ステータス
0：正常終了
>0：異常終了

(7) 注意事項
- 未実装の MMB は表示されません。
- 出力ファイル名にすでに存在するファイルを指定した場合、上書き出力されます。

4.10 PCI カード操作コマンド(fjpciswap)

fjpciswap コマンドは、PCI カードの物理位置情報（UnitName：識別名）の表示、DeviceName の表示を行います。これにより、交換を行いたい PCI カードの情報を確認できます。

注意

- 二重化ソフトなどを使用している場合は、そのソフトからの切り離しを行った上で本コマンドを使用してください。切り離しを行わない場合、OS が停止する可能性があります。
- コマンドを途中で停止しないでください。以下の現象が発生する可能性があります。

  表 4.4 fjpciswap コマンド中断時の現象

現象	対処
OS 上の資源が解放されずに残ってしまい、システム負荷が上がる	OS のリブートを行う
PSA での PCI カードの管理情報に矛盾が発生する	PSA サービスの再起動を行う
PCI カードが削除された状態となる	交換対象のカードを挿入後、PSA サービスの再起動を行う

- SAN ブート接続用の FC カードは、このコマンドの対象外です。
- カードの先に存在するディスク上に Pagefile や Dump の出力先がある FC カードは、このコマンドの対象外です。
- 交換対象の PCI カードに、接続されているデバイスがある場合は、PCI カードを交換できません。

備考

- 本コマンドは Windows Server 2008 のみ使用可能です。
- 本コマンドの実行には、Admin 権限が必要です。OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。
- 本コマンドは OS 起動 (PSA 起動) から 30 分以上経過後に使用してください。
- 本コマンドを実行するには PSA、SNMP サービスが正常に動作していることが条件となります。
- システム上で使用している PCI カードを交換する場合は、システム上での使用を停止し、デバイスマネージャー上で無効化した上で本コマンドを使用してください。
  デバイスマネージャー上での無効化の方法は、以下のとおりです。
  1. デバイスマネージャーを開きます。
  2. 該当のデバイスを右クリックし、無効化を選択します。

(1) 入力形式

```
>fjpciswap [-l|-r|-a] [UnitIdetificationName]
```

UnitIdentificationName (識別名スロット位置の指定)
指定する名前は大文字、小文字も区別されます。
例：IOB-PCIC#0、PCI_Box-PCIC#1、IOB#0-PCIC#1、PCI_Box#0-PCIC#1

(2) オプション
[-l|-r|-a]

-l ：表示

コマンドで交換可能な PCI カードの一覧を表示します。下記の項目を表示します。

UnitName ：

UnitName（識別名）を表示します。[PCI Devices] 画面の [Unit] に相当する情報

Func ：

Function 番号

Device Name ：

Device Name を表示します。[PCI Devices] 画面の [Device Name] に相当する情報

-r ：交換

[UnitIdetificationName]で指定した PCI カードの交換操作を行います。電源オフ操作、交換指示、交換後のデバイスの認識処理がすべて完了した時点でコマンドは終了します。

-a ：追加

[UnitIdetificationName]で指定した PCI カードの追加操作を行います。デバイスの追加処理がすべて完了した時点でコマンドは終了します。

(3) 使用例

[表示機能]を使用して一覧表示したときの例を示します。

【例 1】

```
C:¥>fjpciswap -l

Replaceable PCI cards are displayed
UnitName     Func   DeviceName
IOB#1-PCIC#5 FUNC#0 Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Server Adapter
IOB#1-PCIC#5 FUNC#1 Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Server Adapter #2

C:¥>
```

[交換機能] を使用して交換可のカードを指定した場合の例を示します。

【例 2】

```
C:¥>fjpciswap -r IOB#1-PCIC#5
Selected card name is
         Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Server Adapter
         Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Server Adapter #2

Please delete all settings about this card
Do you want to remove this card?(y/n)
y ←ユーザー入力
```

```
Removing the card....
The card has removed.
```

```
Please replace the card, and input "y" key.
```

上記のメッセージが表示されたら、PCI カードの交換作業を行います。

```
Please replace the card, and input "y" key.
y
Adding the card.............
The card has added.


C:¥>
```

(4) 出力メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを、以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

FJSVpsa ：E 08740 this command can not execute doubly :%s
FJSVpsa ：E 08741 this command needs Administrators privilege :%s
FJSVpsa : E 08742 invalid option :%s
FJSVpsa : E 08743 option num is invalid :%s
FJSVpsa : E 08744 no unit id :%s
FJSVpsa : E 08745 internal error :%s
FJSVpsa ：E 08746 can not make event file :%s
FJSVpsa : E 08748 no resource :%s
FJSVpsa ：E 08751 command timeout(WMI) :%s
FJSVpsa ：E 08752 configuration file error :%s
FJSVpsa ：E 08753 This card cannot be removed :%s
FJSVpsa ：E 08754 can not get snmp information :%s
FJSVpsa : E 08755 no card :%s
FJSVpsa : E 08756 internal error(ipmi) :%s
FJSVpsa ：E 08757 this command can not execute during refresh :%s
FJSVpsa ：E 08758 this unit is occupied :%s
FJSVpsa ：E 08759 command timeout(SNMP) :%s

4.11 管理 LAN 用インターフェース向けファイアーウォール設定コマンド (setmlanfw.sh)

setmlanfw.sh コマンドは、管理 LAN 用インターフェースに対しファイアーウォールが設定され、かつ管理 LAN ネットワークを通じて PRIMECLUSTER と連携を行う場合に、必要なポートの開放をサポートするツールです。
このコマンドにより、指定した IP アドレスに対して以下のポートを開放します。

- snmptrap ポート：udp/162
- rmcp+ポート：udp/7000 ～ 7100

注意
管理 LAN 用インターフェースの IP アドレスが変更されるなど、ファイアーウォール設定の変更が必要となった場合は、削除手順に従っていったん設定を削除した上で再度設定手順を実行してください。

備考
- 本コマンドは Linux のみ使用可能です。
- 本コマンドの実行には root 権限が必要です。
- 本コマンドの実行は、以下の手順どおりに行ってください。

(1) 入力形式
config_file で、ポートを開放する相手先 IP アドレスを記載した設定ファイルを指定します。

```
/opt/FJSVpsa/sh/setmlanfw.sh {config_file}
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例
config_file で、ポートを開放する相手先 IP アドレスを/tmp/config.txt に記載しておきます。

```
# /opt/FJSVpsa/shsetmlanfw.sh /tmp/config.txt
```

(4) 出力メッセージ
この CLI で表示されるメッセージを以下に示します。
メッセージの詳細については、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ メッセージリファレンス』(C122-E111) を参照してください。

Too few or more argument
Cannot read the file : %s
No IP setting or illegal IP format in /etc/opt/FJSVpsa/usr/ipsetup.conf
No IP setting in %s

Already set iptables
The setting was completed

備考
上記のほか、設定の内容を確認するメッセージも表示されます。

(5) 終了ステータス
0 : 正常終了
>0: 異常終了

(6) 設定手順
本コマンドを実行する場合、事前に管理 LAN インターフェースの設定が必要です。

1. PSA の動作設定ファイル (/etc/opt/FJSVpsa/usr/ipsetup.conf) に、管理 LAN 用インターフェースの IP アドレスを設定します。
   管理 LAN 用インターフェースの IP アドレスの設定について詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 導入マニュアル』(C122-E107) の「6.2.7 管理 LAN IP アドレスの設定」を参照してください。
   [設定例] /etc/opt/FJSVpsa/usr/ipsetup.conf

```
[NETWORK]
ManagementIP=192.168.0.1
```

2. ポートを開放する相手先 IP アドレスを記載した設定ファイルを準備します。
   設定ファイルには以下のように "[PCL]" とだけ記載した行に続き、PRIMECLUSTER で定義された全クラスタノードに属する MMB の物理 IP (MMB Physical IP Address <MMB#0/MMB#1>) または上記 MMB の物理 IP を含むネットワーク IP を、1 行 1 項目単位で記載してください。
   【設定例】/tmp/config.txt

```
[PCL]
192.168.0.0/24
192.168.1.5
```

   備考
   設定ファイルのサンプルは以下に配置してあります。
   /opt/FJSVpsa/sh/sample_conf_setmlanfw.txt

3. setmlanfw.sh に手順 2 で準備した設定ファイルを付与して実行します。
   実行すると、手順 1 および手順 2 で設定した内容について確認を求めるメッセージが出力されます。設定内容がなければ "Y"、再設定したい場合は "N" と入力し、
   処理を進めてください。
   [実行例] 手順 2 で準備した設定ファイルを指定します。

```
# /opt/FJSVpsa/sh/setmlanfw.sh /tmp/config.txt
Management LAN IP address:
192.168.0.1

Source IPs for PRIMECLUSTER Service:
192.168.0.0/24
192.168.1.5

Press "Y" to confirm above settings, "N" to cancel all settings
> Y
The setting was completed
```

4. iptables -L -n コマンドにより設定チェーン "MMLAN" が存在することを確認します。
   本コマンドを実行すると、設定チェーン "MMLAN" が作成され、INPUT チェーン、OUTPUT チェーンから参照されます。
   [実行例]

```
# iptables -L -n
Chain INPUT (policy DROP)
target   prot opt source          destination
MMLAN    all  --  0.0.0.0/0       0.0.0.0/0

Chain FORWARD (policy DROP)
target     prot opt source        destination

Chain OUTPUT (policy DROP)
target     prot opt source        destination
MMLAN     all  --  0.0.0.0/0      0.0.0.0/0

Chain MMLAN (2 references)
target   prot opt source          destination
ACCEPT   udp  --  192.168.0.0/24  192.168.0.1     udp dpts:
7000:7100
ACCEPT   udp  --  192.168.0.1     192.168.0.0/24  udp spts:
7000:7100
ACCEPT   udp  --  192.168.0.0/24  192.168.0.1     udp dpt:162
ACCEPT   udp  --  192.168.0.1     192.168.0.0/24  udp spt:162
ACCEPT   udp  --  192.168.1.5     192.168.0.1     udp dpts:
7000:7100
ACCEPT   udp  --  192.168.0.1     192.168.1.5     udp spts:
7000:7100
ACCEPT   udp  --  192.168.1.5     192.168.0.1     udp dpt:162
ACCEPT   udp  --  192.168.0.1     192.168.1.5     udp spt:162
```

(7) 設定削除手順

管理 LAN 用インターフェースの IP アドレスが変更となるなど、ファイアーウォール設定の変更が必要となった場合は、設定をいったん削除する必要があります。
削除した後、再度設定してください。

1. iptables -L -n を実行し、設定チェーン "MMLAN" が存在することを確認します。
   存在しない場合は、以下の手順は不要です。

2. INPUT/OUTPUT チェーンから MMLAN への参照を削除します。
   [実行例]

```
# iptables -D INPUT -j MMLAN
# iptables -D OUTPUT -j MMLAN
```

3. 設定チェーン "MMLAN" 内の設定を削除します。
   [実行例]

```
# iptables -F MMLAN
```

4. 設定チェーン "MMLAN" を削除します。
   [実行例]

```
# iptables -X MMLAN
```

4.12 PSA-MMB 通信 LAN 設定コマンド (setpsalan)

setpsalan コマンドは、PSA-MMB 通信 LAN のネットワーク設定を行います。
PSA のインストール後、本コマンドの実行が必要です。OS を再起動してから本コマンドを実行してください。

本コマンドを実行すると、以下のとおりに PSA-MMB 通信 LAN のネットワークが設定されます。

- IP アドレス
  172.30.0.<パーティション ID + 2>/24
  例) パーティション ID が 2 の場合
  172.30.0.4/24

- 通信設定
  Auto Negotiation：off
  Speed：100Mbps
  Duplex：full

備考

- 本コマンドは、Windows のみ使用可能です。
- 本コマンドの実行には、Admin 権限が必要です。OS 機能 (アクセス制御機能) により、Admin 権限以外で実行すると終了ステータスが不定になります。

(1) 入力形式

```
setpsalan
```

(2) オプション
なし

(3) 使用例

```
> setpsalan
```

(4) 終了ステータス
0：正常終了
>0：異常終了

(5) 注意事項
PSA インストール後、OS を再起動してから本コマンドを実行してください。

第 5 章　UEFI のメニュー操作

本章では、UEFI のメニュー操作について説明します。
Configure sadump について詳しくは、「第 7 章 sadump 環境の設定」を参照してください。

5.1 画面遷移（Boot Manager フロントページ以降） 381
5.2 Boot Manager フロントページ 386
5.3 [Continue] メニュー 389
5.4 [Boot Manager] メニュー 390
5.5 [Device Manager] メニュー 409
5.6 [Boot Maintenance Manager] メニュー 451
5.7 デバイスパス 515

5.1 画面遷移（Boot Manager フロントページ以降）

UEFI は、OS の選択ブートや、UEFI シェルの起動、ブートオプションの設定変更などを操作するメニューを持っています。これらの各機能は、Boot Manager フロントページを先頭にして、それぞれのメニューへ移行することによって実現されます。

「図 5.1 Boot Manager フロントページからの遷移」～「図 5.5 [Boot Options] メニューからの遷移 (3/3)」に、Boot Manager フロントページからの画面遷移を示します。

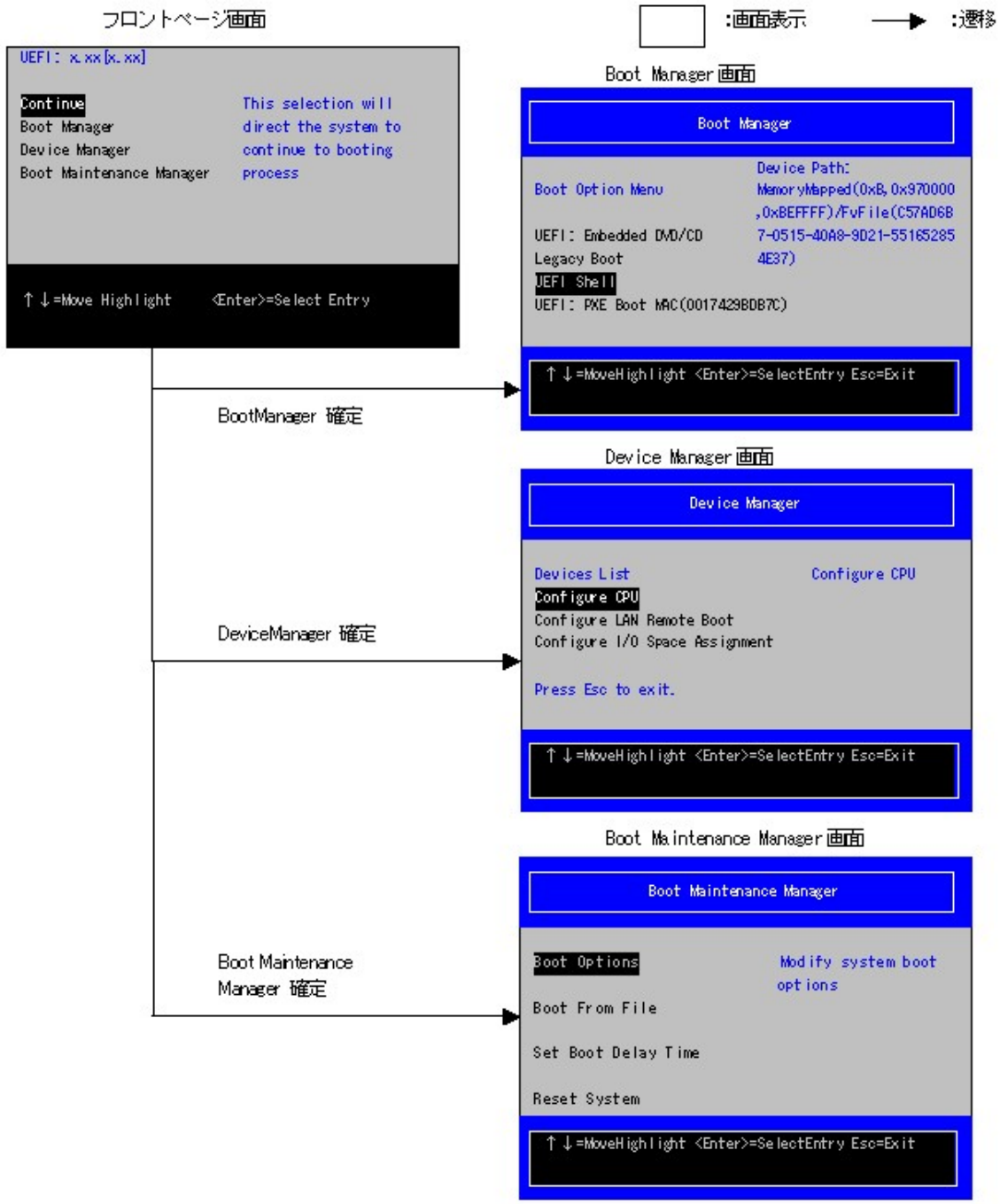


図 5.1 Boot Manager フロントページからの遷移

備考：

[Continue] を選択した場合は、画面遷移せずに動作します。[Continue] の動作について詳しくは、「表 5.1 メニュー選択部の表示内容」を参照してください。

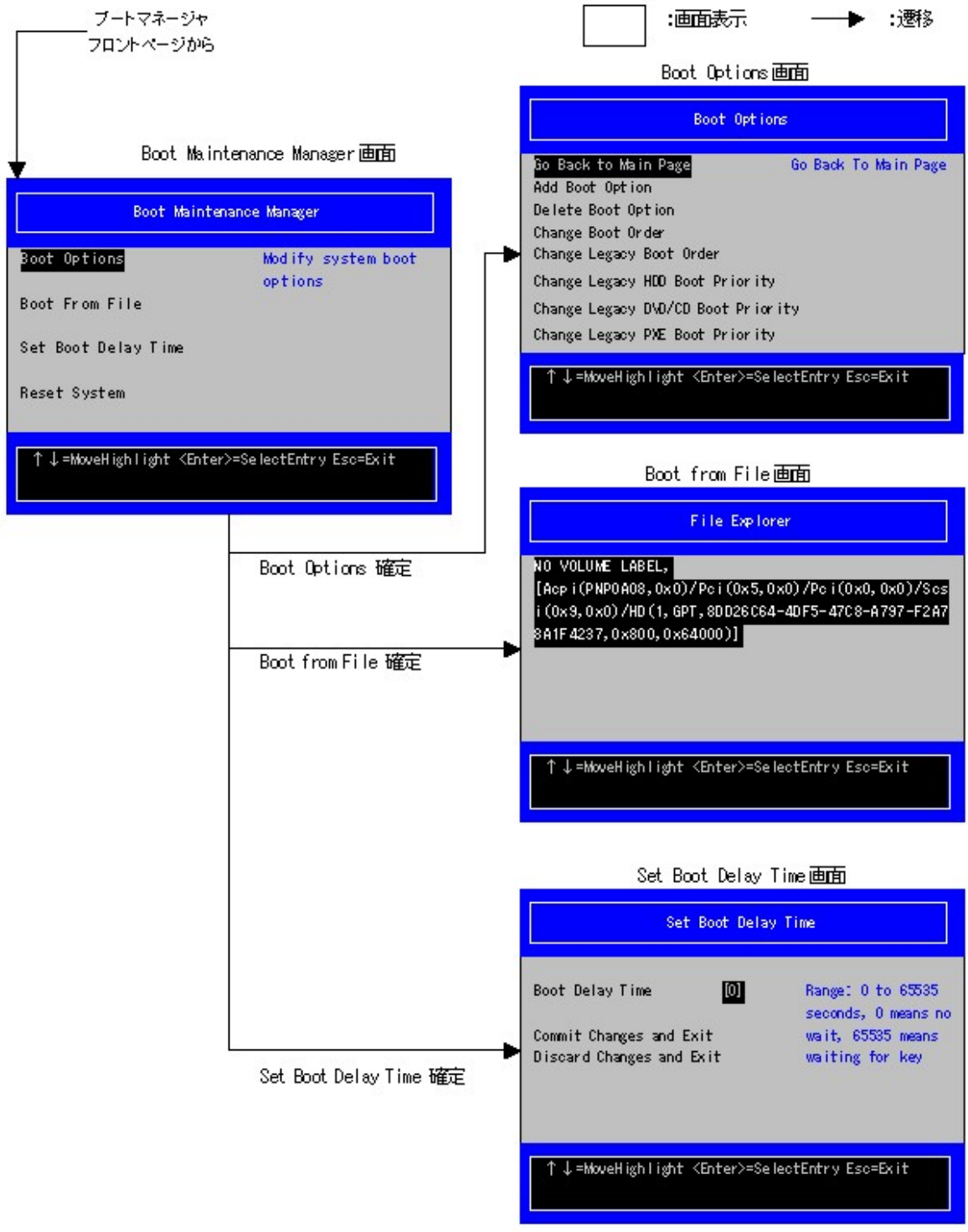


図 5.2 [Boot Maintenance Manager] メニューからの遷移

備考：

[Reset System] を選択した場合は、画面遷移せずに動作します。[Reset System] の動作について詳しくは、「表 5.38 メニュー選択部の表示内容」を参照してください。

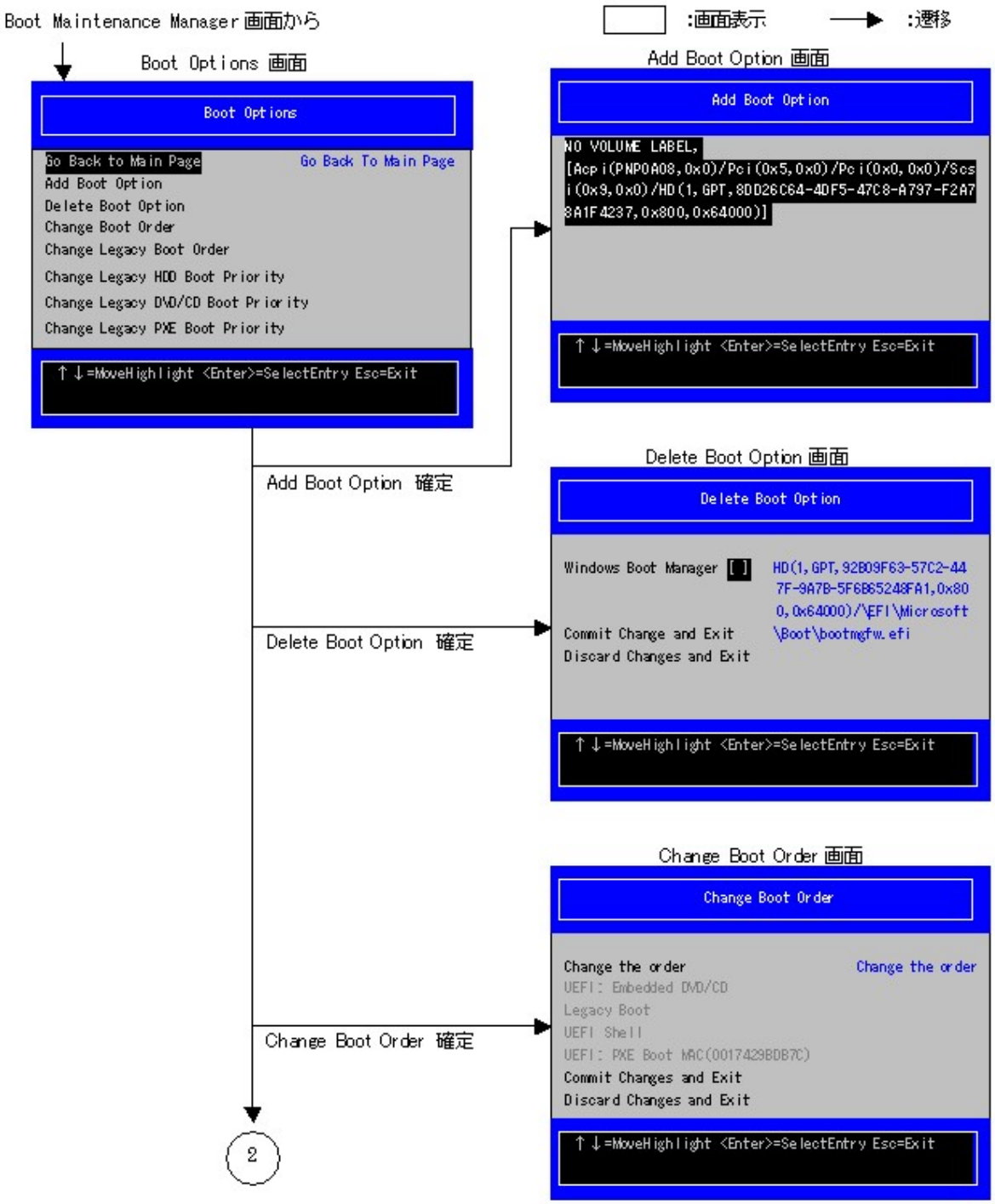


図 5.3 [Boot Options] メニューからの遷移 (1/3)

図 5.4 [Boot Options] メニューからの遷移 (2/3)

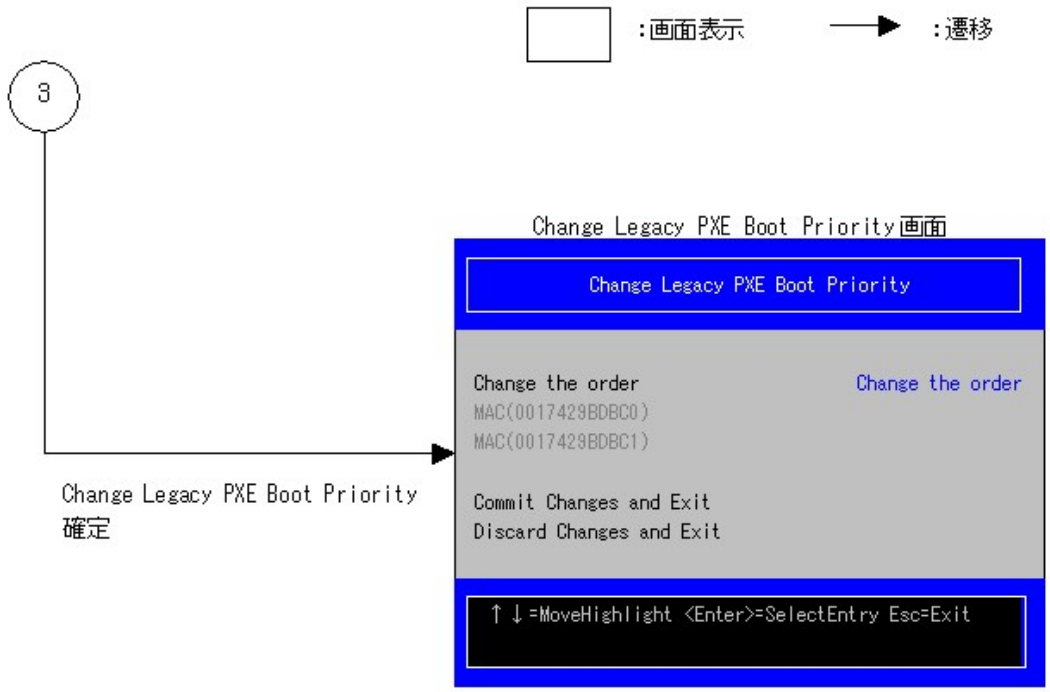


図 5.5 [Boot Options] メニューからの遷移 (3/3)

5.2 Boot Manager フロントページ

Boot Manager フロントページは、UEFI メニューのトップページです。この画面には、ブート処理への移行や、Boot Manager、Device Manager、および Boot Maintenance Manager へ移行するメニューがあります。

図 5.6 Boot Manager フロントページ表示例

5.2.1 画面領域

Boot Manager フロントページでは、画面が「図 5.7 Boot Manager フロントページの画面領域」に示す 4 つの領域に分かれます。

図 5.7 Boot Manager フロントページの画面領域

(1) システム情報表示部
UEFI のバージョンを表示します。
(2) メニュー選択部
「表 5.1 メニュー選択部の表示内容」に示す選択メニューが表示されます。

表 5.1 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Continue	Continue を選択すると、現在設定されているブート順にブート処理を実行する。
Boot Manager	「5.4 [Boot Manager] メニュー」を表示する。
Device Manager	「5.5 [Device Manager] メニュー」を表示する。
Boot Maintenance Manager	「5.6 [Boot Maintenance Manager] メニュー」を表示する。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソルが各メニューのそれぞれにあるとき、メニュー選択ヘルプの表示部には「表 5.2 メニュー選択ヘルプ表示の内容」に示す説明が表示されます。

表 5.2 メニュー選択ヘルプ表示の内容

カーソル位置	表示内容
Continue	This selection will direct the system to continue to booting process
Boot Manager	This selection will take you to the Boot Manager
Device Manager	This selection will take you to the Device Manager
Boot Maintenance Manager	This selection will take you to the Boot Maintenance Manager

(4) 操作ヘルプ表示部

「表 5.3 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す、このページを操作するためのヘルプが表示されます。

表 5.3 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。

5.3 [Continue] メニュー

[Continue] メニューは、OS 自動起動へ処理を移行し、現在設定されているブート順にブート処理を実行します。

5.4 [Boot Manager] メニュー

[Boot Manager] メニューでは、ブートするデバイスを指定できます。[Boot Manager] メニューは、「図 5.8 [Boot Manager] メニューの表示例」に示すようにブートデバイス一覧を表示します。メニューで表示している個々のブートデバイスをブートオプションと呼びます。

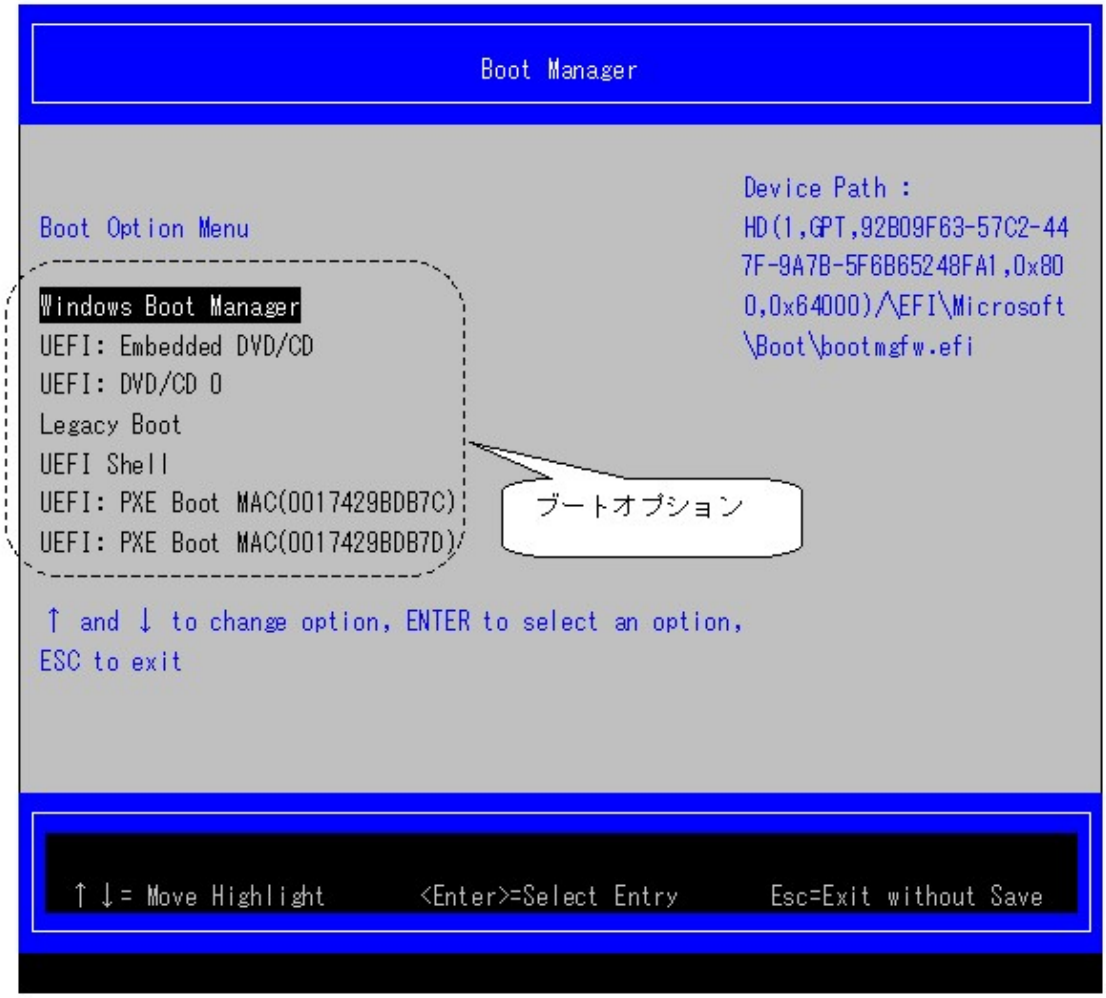


図 5.8 [Boot Manager] メニューの表示例

5.4.1 ブートオプション

ブートオプションには、以下の種類があります。

表 5.4 ブートオプションの種類

ブートオプション	説明
UEFI: Embedded DVD/CD	内蔵 DVD/CD ドライブのメディアから、UEFI Aware OS を起動する。 本ブートオプションは、システムに組み込まれていない場合も存在する。
UEFI: DVD/CD n (n=0, 1, 2・・・)	外付け DVD/CD メディアから、UEFI Aware OS を起動する。 “ UEFI: DVD/CD n ” の n には、DVD/CD 装置が認識された順に 0 から番号が割り当てられる。割り当てられた番号は、

ブートオプション	説明
	装置をシステムから取り外さない限り、接続位置情報に基づいて記憶される。 DVD/CD 装置の識別は、メニュー選択ヘルプ表示部に表示されるデバイスパスから確認すること。デバイスパスの識別方法は、「5.7.2 デバイスパスの識別」で詳述する。
Legacy Boot	レガシー OS を起動する。 このレガシーブートでは、DVD/CD ドライブからのレガシー OS 起動や、HDD からのレガシー OS 起動、ネットワークポートからレガシー OS を起動できる。 レガシーブート内のデフォルトの起動優先順位は DVD/CD → HDD → Network である。ただし、この優先順位は [Boot Maintenance Manager] メニューで変更できる。Legacy Boot を追加、削除設定することはできない。 また、HDD や DVD/CD ドライブが複数存在する場合やネットワークポートが複数存在する場合は、それぞれのドライブやネットワークポートの優先順位の設定、変更も [Boot Maintenance Manager] メニューで対処できる。「5.6 [Boot Maintenance Manager] メニュー」以降で詳述する。
UEFI Shell	UEFI Shell を起動する。
UEFI: PXE Boot MAC(*MAC Addr*)	ネットワークポートから、UEFI Aware OS のブートを実行する。 "UEFI: PXE Boot MAC(*MAC Addr*)" のかっこ内には、MAC アドレスを入れる。いったん認識したネットワークは、システムから取り外さない限り記憶される。デバイスの識別は、 MAC アドレスから行う。
上記は、デフォルトで存在するブートオプションである。また、UEFI Aware OS をインストールすると、インストールした OS のブートオプションも作成される。以下は、例として Windows Server 2008 (またはそれ以降) の Windows Server をインストールした場合のブートオプションである。	
Windows Boot Manager	HDD にインストールされた Windows Server 2008 (またはそれ以降) を起動する。このブートオプションは、Windows Server 2008 (またはそれ以降) をインストールした後に作成される。

■デフォルトの起動優先順位

下表に、初期状態でのブートオーダーを示します。

表 5.5 ブートオーダーの初期状態

優先順位	ブートオプション
1	UEFI: Embedded DVD/CD
2	UEFI: DVD/CD n (n=0, 1, 2・・・)

優先順位	ブートオプション
	ただし、追加したデバイスに対するブートオプションは、最後尾に追加する。
3	Legacy Boot
4	UEFI Shell
5	UEFI: PXE Boot MAC(*MAC Addr*) ただし、追加したデバイスに対するブートオプションは、最後尾に追加する。

ブートオプションには、UEFI Aware OS をブートするタイプと、レガシー OS をブートするタイプの 2 種類が存在します。この 2 つのタイプには、以下の違いがあります。

- ブート対象デバイスの指定方法
  UEFI Aware OS のブートデバイス指定は、UEFI 仕様に基づいたデバイスパス表現により実行ファイル単位まできめ細かく指定できます。それに対して、レガシー OS のブートデバイス指定は、デバイス単位までしか指定できません。
- ブート優先順位の指定方法
  UEFI Aware OS のブート優先順位の変更は、ブートオプションを並び替えることによって可能です。[Boot Options] メニューの [Change Boot Order] 画面によって変更できます。(「■[Change Boot Order] メニュー」を参照。)

5.4.2 UEFI のブート仕様について

[Boot Manager] メニューには、UEFI Aware OS のブート優先順位に従ってブートオプションが表示されます。一番上に表示されたブートオプションが最も優先順位が高く、最初にブートを試みます。「図 5.9 Boot Manager のブートオプション」に示す例で表示された [Windows Boot Manager] は、UEFI Aware OS である Windows Server 2008 (またはそれ以降) の Windows Server をインストールすると作成されるものです。この例では、UEFI Aware OS である Windows Server2008 (またはそれ以降) のブートを最初に試みます。

図 5.9 Boot Manager のブートオプション

ここでブートに成功すれば、その OS がブートされます。ブートに失敗した場合は、次のブートオプションがブート対象になります。「図 5.9 Boot Manager のブートオプション」の例では、UEFI: Embedded DVD/CD がブート対象になります。
UEFI Aware OS のブートの優先順位は、[Boot Options] メニューの [Change Boot Order] 画面によって変更できます。(「■[Change Boot Order] メニュー」を参照。)

「図 5.10 ブートオーダー変更後の Boot Manager」は、Windows Boot Manager と UEFI: Embedded DVD/CD の起動優先順位を入れ替えた後の [Boot Manager] メニューを示します。このときは、最初に UEFI:Embedded DVD/CD のブートを試み、ブートに失敗した場合は Windows Boot Manager のブートを試みます。

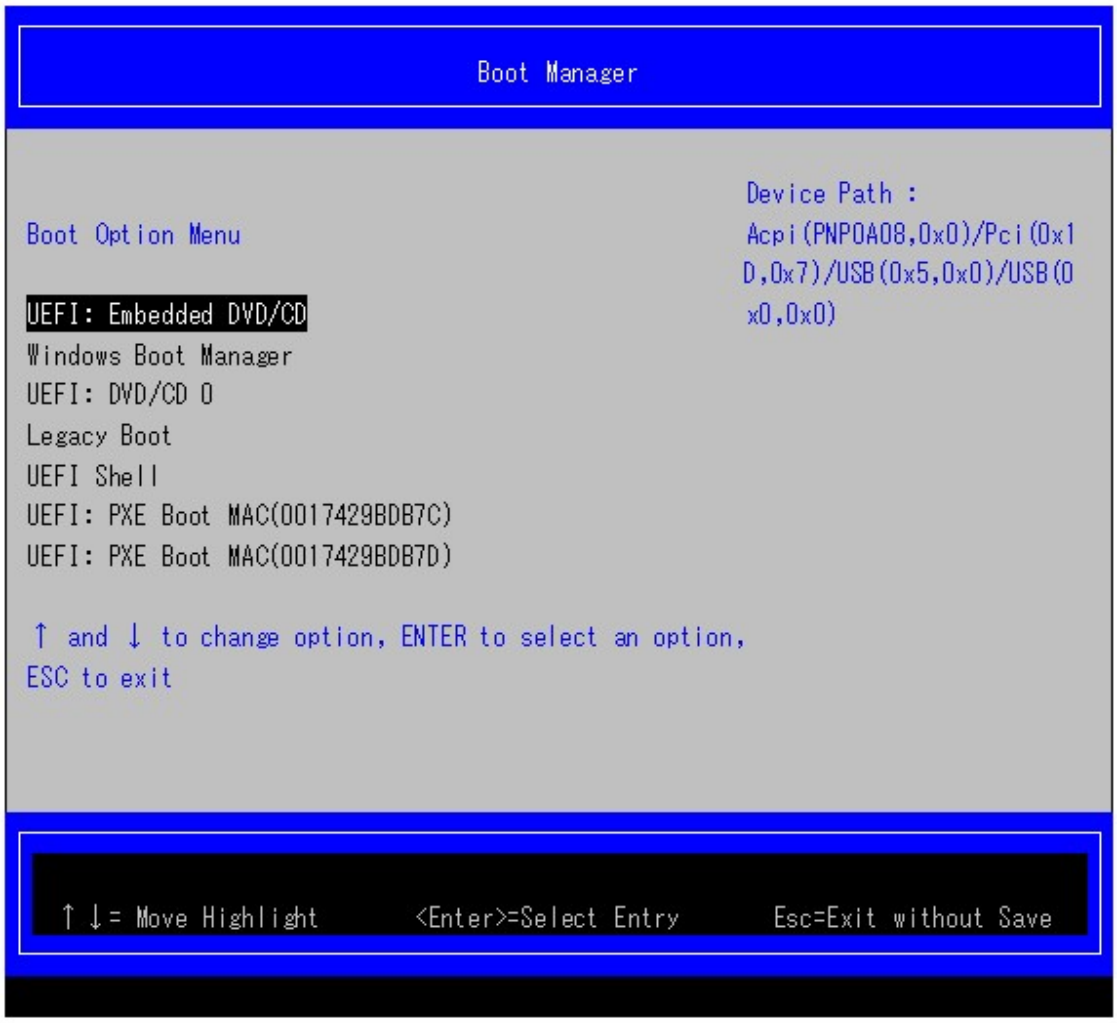


図 5.10 ブートオーダー変更後の Boot Manager

ブートオプションを追加、削除する場合には、[Boot Options] メニューの [Add Boot Option] メニュー (「■[Add Boot Option] メニュー」を参照) や [Delete Boot Option] メニュー (「■[Delete Boot Option] メニュー」を参照) を使用します。

ブートオプションを追加した例を、「図 5.11 ブートオプション追加後の Boot Manager」に示します。ここでは、「Test Boot Option 1」というブートオプションを追加した場合の例を示しています。

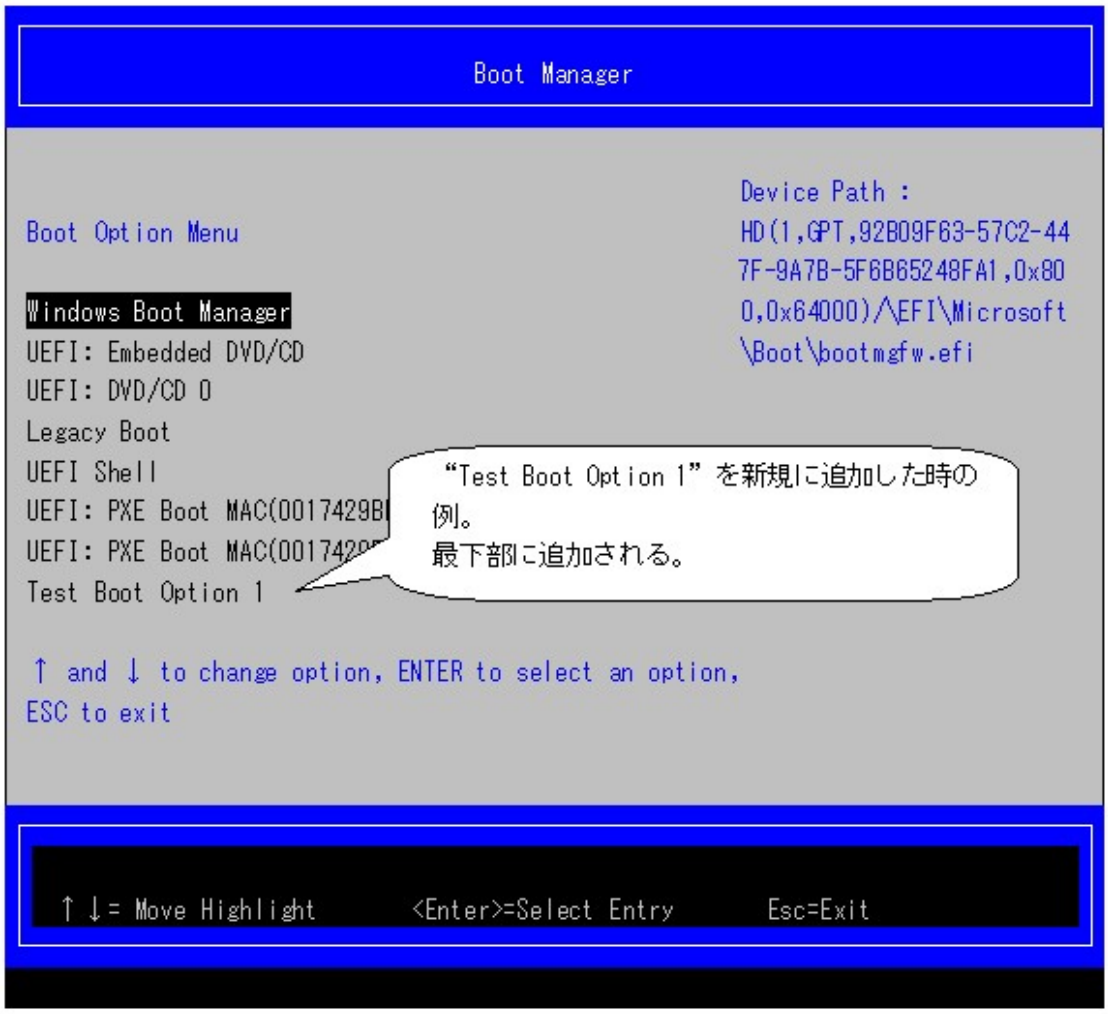


図 5.11 ブートオプション追加後の Boot Manager

ブートオプションを削除した例を、「図 5.12 ブートオプション削除後の Boot Manager」に示します。ここでは、[Windows Boot Manager] を削除した場合の例を示します。

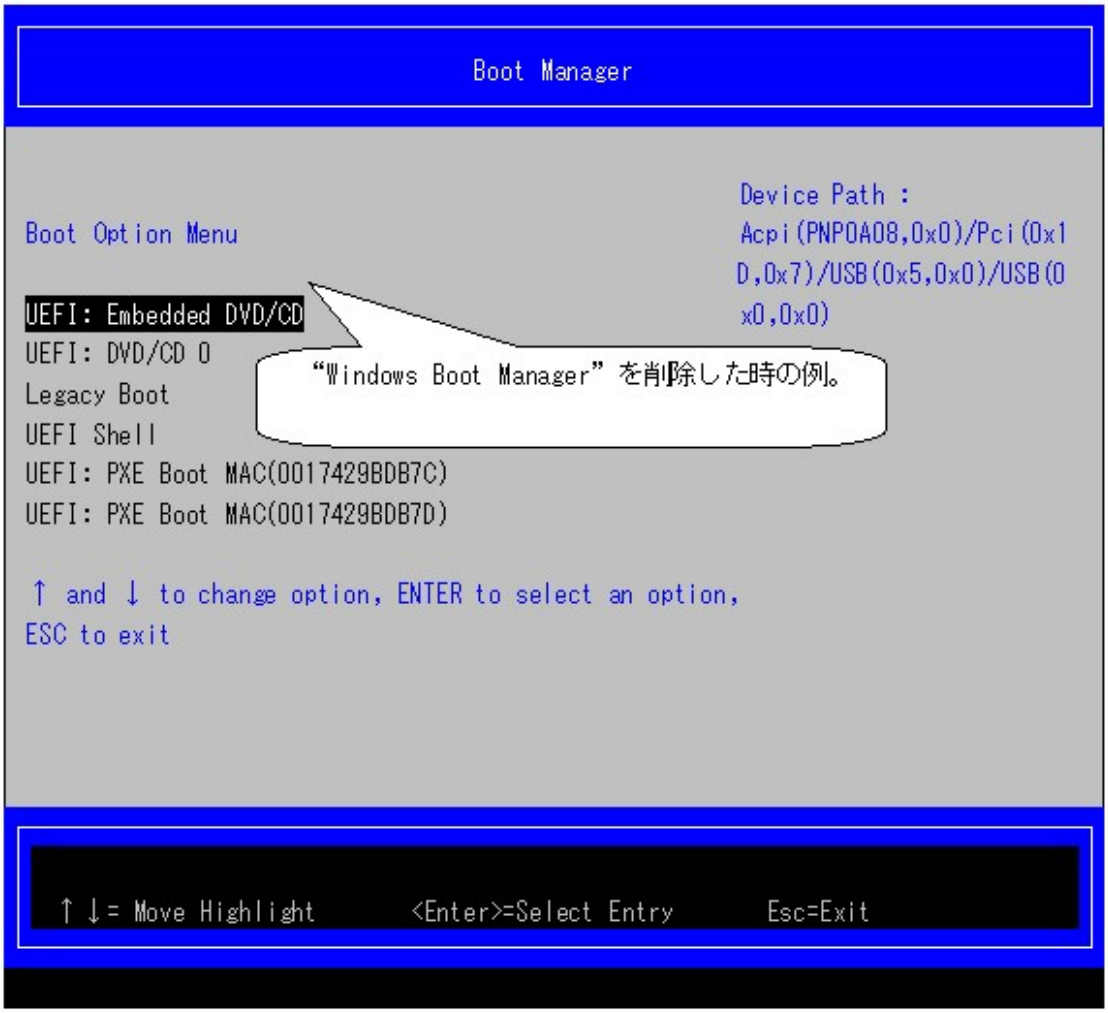


図 5.12 ブートオプション削除後の Boot Manager

■GSPB 交換後のブートオーダー

GSPB を交換すると、ネットワークポートの MAC アドレスが変わります。そのため、UEFI PXE のブートオプションはデフォルトに戻り、ブートオーダーが変わります。
ブートオーダーを戻すには、GSPB 交換後に [Change Boot Order] メニューを開き、UEFI PXE のブートオーダーを再設定する必要があります。

以下に GSPB 交換前後のブートオーダー例を示します。

例）GSPB 交換前の [Boot Manager] 画面：UEFI PXE ブートオプションがブートオーダーで最優先に設定されている

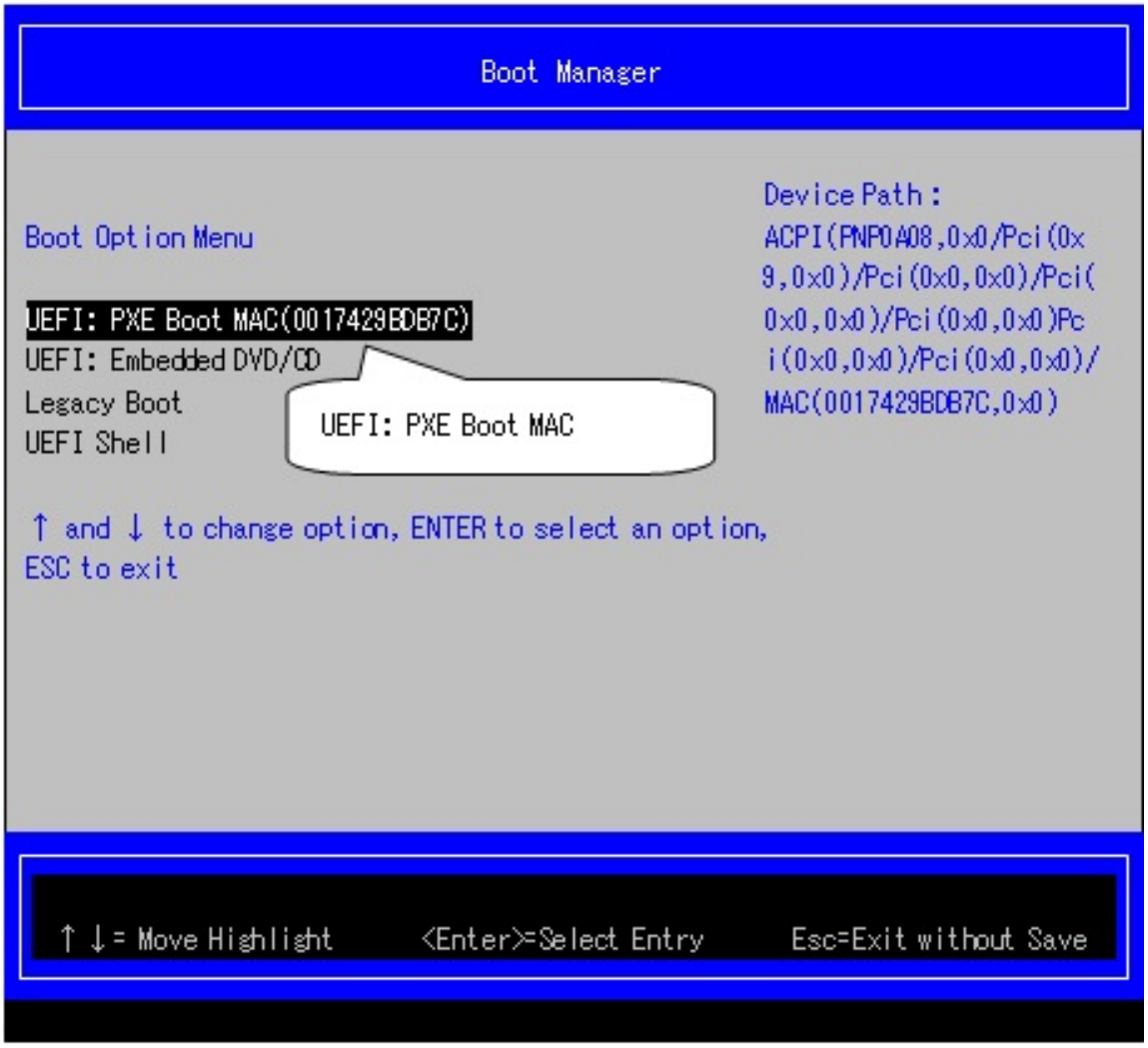


図 5.13 GSPB 交換前のブートオーダー

例）GSPB 交換後の [Boot Manager] 画面：GSPB 交換により MAC アドレスが変わり、起動優先順位が最下位となっている

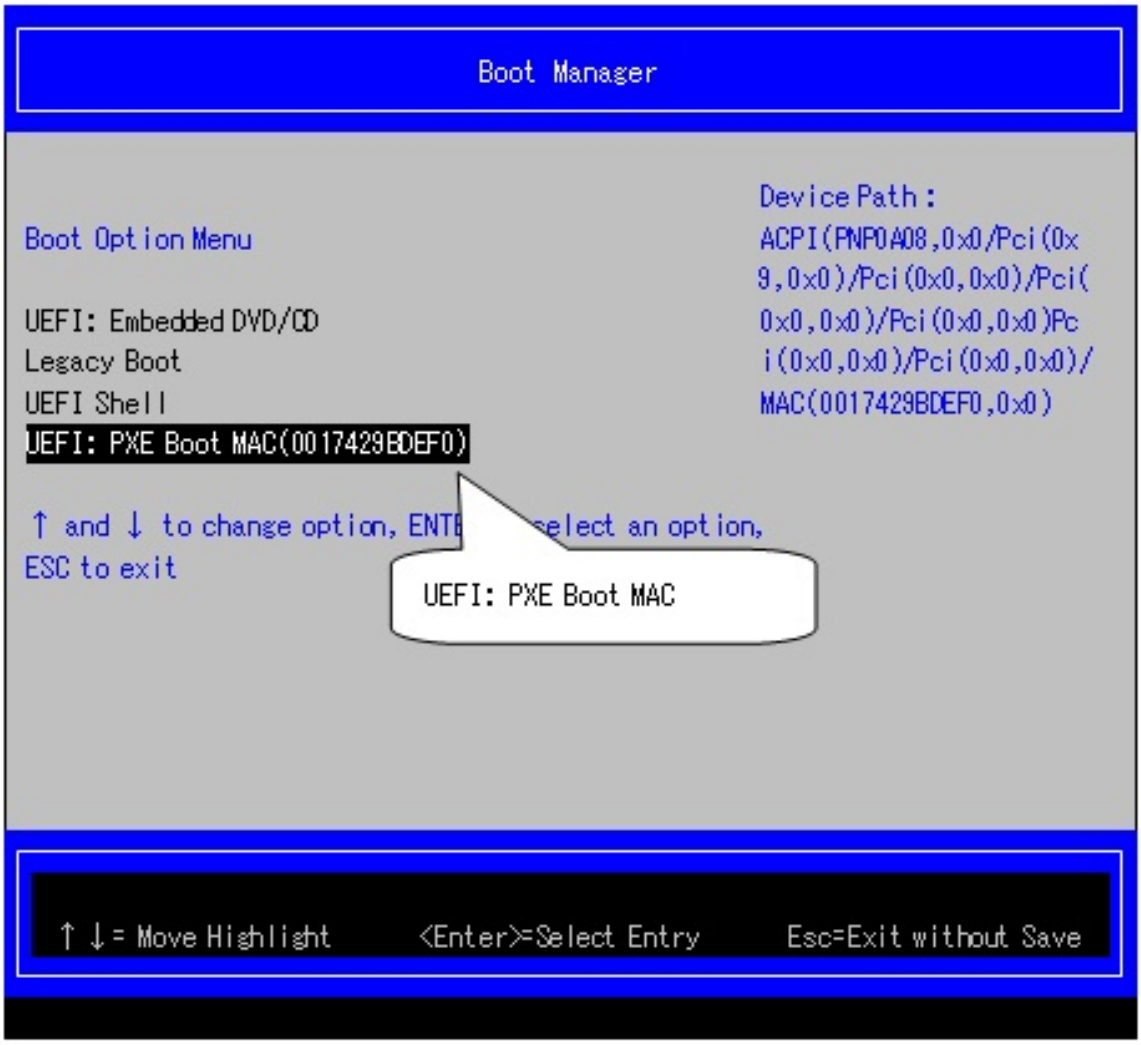


図 5.14 GSPB 交換後のブートオーダー

5.4.3 レガシー BIOS のブート仕様について

レガシー OS のブートは、[Boot Manager] メニューで [Legacy Boot] というブートオプションを指定することによって実施します。

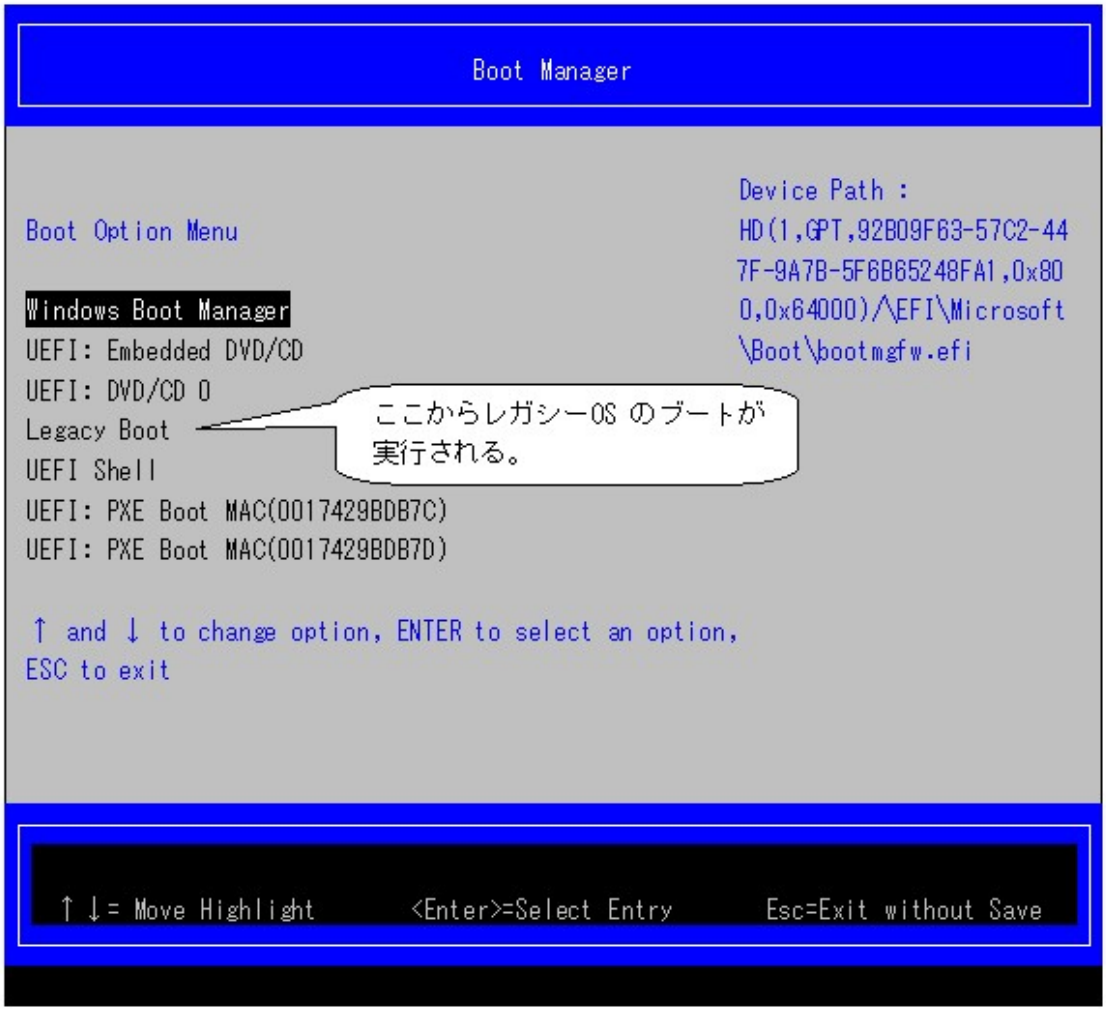


図 5.15 Legacy Boot オプションの実行

レガシー OS の起動優先順位の変更は、[Change Boot Order] メニューから実施します。たとえば、Legacy Boot を Windows Boot Manager より上に移動させると、Windows のブートより先にレガシー OS のブートを試みることができます。ひとたびレガシー OS のブート処理に移行すると、レガシー OS でのブート優先順位の指定は UEFI Aware OS のブート優先順位に従ったものでなく、レガシー BIOS のブート仕様に準拠したものとなります。具体的には以下の手順で設定します。

1. [Boot Options] メニューの [Change Legacy Boot Order] 画面によって、HDD、DVD/CD などのデバイスタイプ指定でブート優先順位を決定します。(「■[Change Legacy Boot Order] メニュー」を参照。) レガシー BIOS のブート仕様では、ブート対象は HDD、DVD/CD などのデバイス単位でしか指定できません。また、それらの間でのブート優先順位も、デバイスタイプごとに順番を変更ができるだけです。この画面では、その設定をします。
   以下の画面は、[Change Legacy Boot Order] メニューの表示例です。

図 5.16 [Change Legacy Boot Order] メニューの表示例

2. [Boot Options] メニューの [Change Legacy HDD Boot Priority] 画面で、複数の HDD の中から起動する HDD を設定します。(「■[Change Legacy HDD Boot Priority] メニュー」を参照。)
   以下の画面は、[Change Legacy HDD Boot Priority] メニューの表示例です。

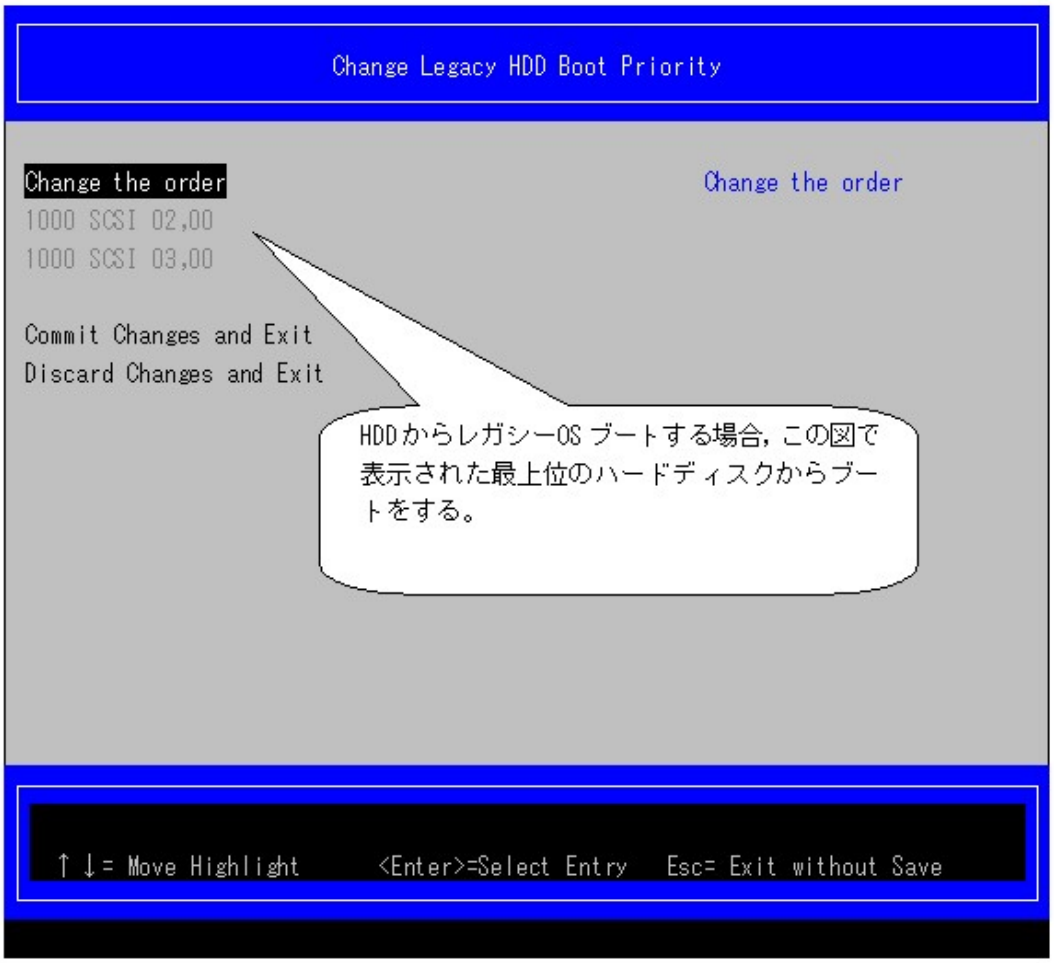


図 5.17 [Change Legacy HDD Boot Priority] メニューの表示例

3. [Boot Options] メニューの [Change Legacy DVD/CD Boot Priority] 画面によって、複数の DVD/CD 間での優先順位を決定します。(「■[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニュー」を参照。)
   レガシー BIOS のブート仕様では、DVD/CD タイプの中でさらに複数の DVD/CD 間の優先順位を設定できます。この画面では、その設定をします。
   以下の画面は、[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニューの表示例です。

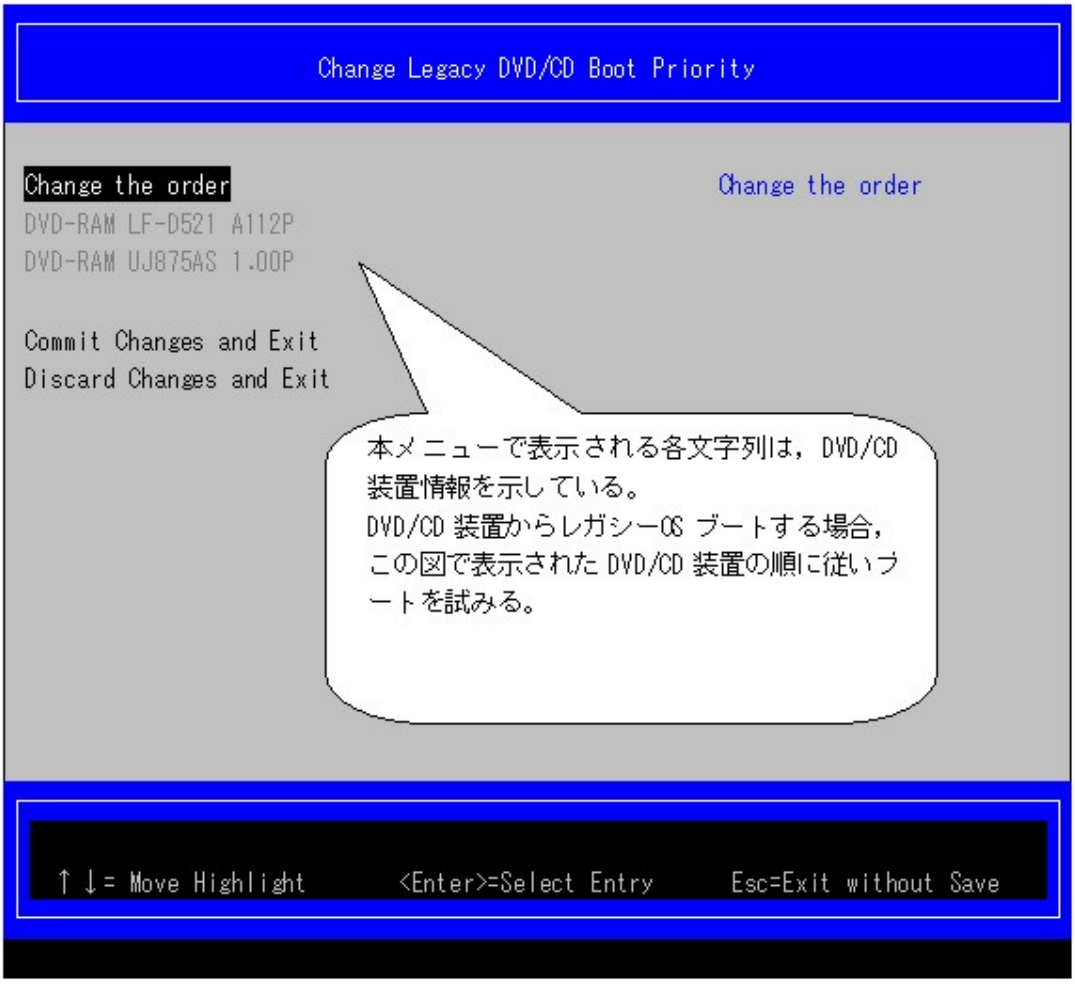


図 5.18 [Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニューの表示例

4. [Boot Options] メニューの [Change Legacy PXE Boot Priority] 画面によって、複数のネットワークポート間での優先順位を決定します。(「■[Change Legacy PXE Boot Priority] メニュー」を参照。) レガシー BIOS のブート仕様では、ネットワークポートタイプの中でさらに複数のネットワークポート間の優先順位を設定できます。この画面では、その設定をします。
以下の画面は、[Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例です。

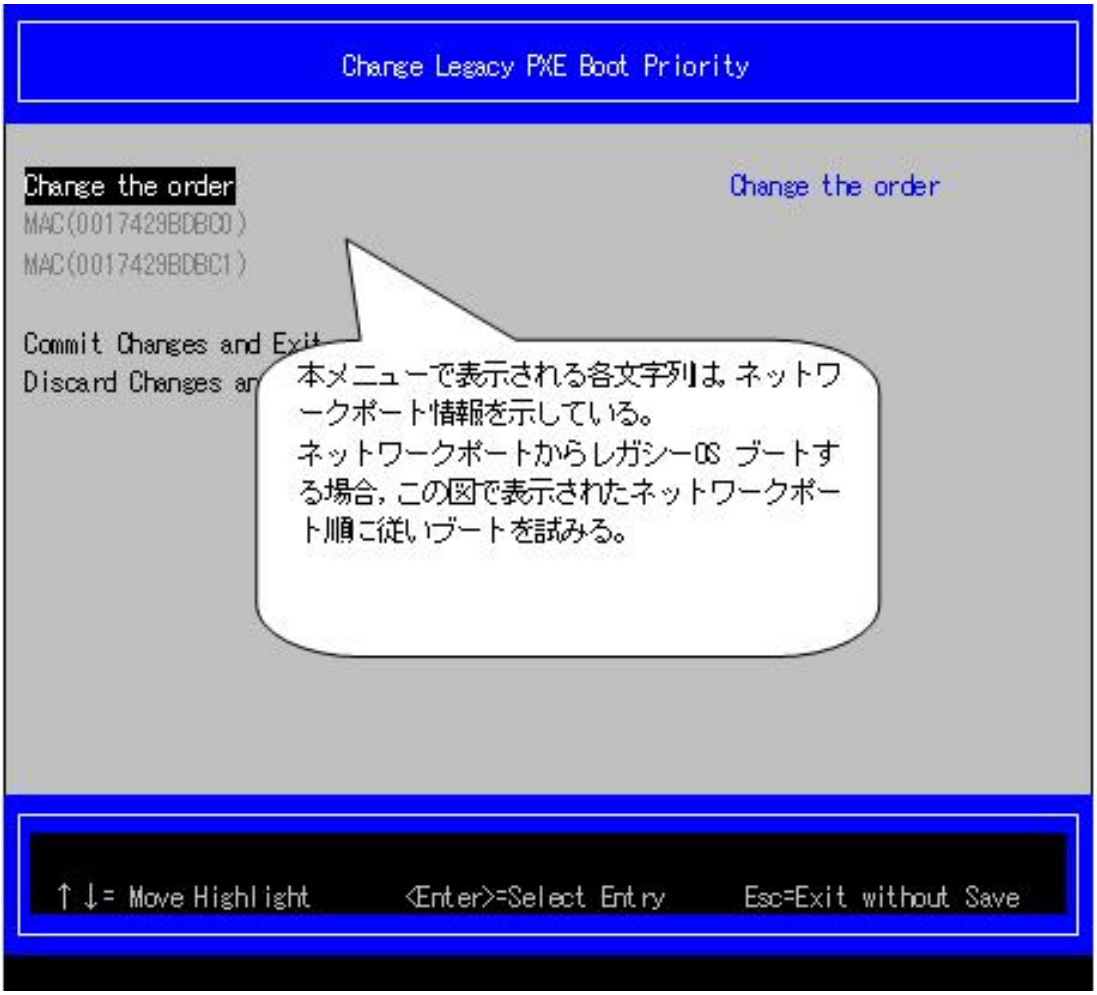


図 5.19 [Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例

5.4.4 ブート処理

1. ブート処理の起動の流れ
「表 5.6 UEFI のブート仕様とレガシー BIOS のブート仕様での起動の流れ」に、UEFI のブート仕様とレガシー BIOS のブート仕様での起動の流れを示します。

表 5.6 UEFI のブート仕様とレガシー BIOS のブート仕様での起動の流れ

UEFI ブート仕様	起動の流れ
＜ UEFI Aware OS のブート優先順位＞ Boot Order の並び順に UEFI Aware OS のブートを試みる	
1 Windows Boot Manager：Windows Boot Manager のブートを試みる	
2 UEFI: Embedded DVD/CD：内蔵 DVD/CD から UEFI Aware OS のブートを試みる	
3 UEFI: DVD/CD 0：DVD/CD0 から UEFI Aware OS のブートを試みる	
4 Legacy Boot	レガシー OS ブートを試みる ＜レガシー BIOS のブート仕様に準じたブート優先順位＞ (Legacy Boot Order の並び順にレガシー OS のブートを試みる)

UEFI ブート仕様	起動の流れ
	・DVD/CD：Legacy DVD/CD Boot Priority の高い順からブートを試みる ・HDD：Legacy HDD Boot Priority の最高位の HDD からのブートを試みる （以下続行）
5　UEFI Shell：UEFI Shell を起動する （以下続行）	

2. ブート処理に成功/失敗した場合の処理の流れ
   以下に、各 OS のブート処理に成功/失敗した場合の処理の流れを示します。

   ・ UEFI Aware OS である Windows Server 2008 のブートに成功した場合

   表 5.7 Windows Server 2008 のブート成功

UEFI ブート仕様	起動の流れ
1　Windows Boot Manager：Windows Boot Manager のブートを試みる	
	ブート成功　－　Windows ブート
2　UEFI: Embedded DVD/CD	
3　UEFI: DVD/CD 0	
4　Legacy Boot	
5　UEFI Shell：UEFI Shell を起動する	

   ・ UEFI Aware OS である Windows Server 2008 のブートに失敗し、DVD/CD 0 の UEFI ブートに成功した場合

   表 5.8 Windows Server 2008 のブート失敗 (DVD/CD 0 の UEFI ブート成功)

UEFI ブート仕様	起動の流れ
1　Windows Boot Manager：Windows Boot Manager のブートを試みる	
	－　ブート失敗
2　UEFI: Embedded DVD/CD	
	－　ブート成功　－　DVD/CD ブート
3　UEFI: DVD/CD 0	
4　Legacy Boot	
5　UEFI Shell：UEFI Shell を起動する	

・ Windows Boot Manager、UEFI: Embedded DVD/CD、UEFI: DVD/CD 0 のブートに失敗し、レガシーの HDD からのブートに成功した場合

表 5.9 Windows Boot Manager, UEFI: Embedded DVD/CD, UEFI: DVD/CD 0 のブートに失敗し、レガシーの HDD からのブートに成功した場合

UEFI ブート仕様	起動の流れ
1　Windows Boot Manager：Windows Boot Manager のブートを試みる	
	―　ブート失敗
2　UEFI: Embedded DVD/CD	
	―　ブート失敗
3　UEFI: DVD/CD 0	
	―　ブート失敗
4　Legacy Boot	レガシー OS ブートを試みる
	＜レガシー BIOS のブート仕様に準じたブート優先順位＞
	(Legacy Boot Order の並び順にレガシー OS のブートを試みる)
	DVD/CD：Legacy DVD/CD Boot Priority の高い順からブートを試みる
	―　ブート失敗
	HDD：Legacy HDD Boot Priority の高い順からブートを試みる
	―　ブート成功　―　レガシー HDD ブート
5　UEFI Shell：UEFI Shell を起動する	

・ レガシー OS ブートに失敗し、UEFI Shell 起動に成功した場合

表 5.10 レガシー OS ブートに失敗し、UEFI Shell 起動に成功した場合

UEFI ブート仕様	起動の流れ
1　Windows Boot Manager：Windows Boot Manager のブートを試みる	
	―　ブート失敗
2　UEFI: Embedded DVD/CD	
	―　ブート失敗
3　UEFI: DVD/CD 0	
	―　ブート失敗

UEFI ブート仕様	起動の流れ
4　Legacy Boot	レガシー OS ブートを試みる
	DVD/CD：Legacy DVD/CD Boot Priority の高い順からブートを試みる
	ー　ブート失敗
	HDD：Legacy HDD Boot Priority の高い順からブートを試みる
	ー　ブート失敗
5　UEFI Shell：UEFI Shell を起動する	ー　UEFI Shell 起動

3. ブート失敗の定義
   ブート処理の失敗には、以下の 2 つの種類があります。
   - 次のブートオプションへ処理が移行できる失敗
   - 次のブートオプションへ処理が移行できない失敗

■次のブートオプションへ処理が移行できる失敗

次のブートオプションへ処理が移行できる失敗とは、ブート対象が見つからないためにブート処理が失敗した場合のことです。具体的には、以下の失敗パターンが存在します。

- UEFI Aware OS（Windows Boot Manager など）のブート処理で、対象デバイスが接続されていなかった。
- UEFI Aware OS（Windows Boot Manager など）のブート処理で、対象デバイスが認識できなかった。
- UEFI Aware OS（Windows Boot Manager など）のブート処理で、対象デバイスに UEFI パーティションが存在しなかった。
- UEFI: Embedded DVD/CD、UEFI: DVD/CD n のブートで、該当 DVD/CD 装置に媒体が入っていなかった。
- UEFI: Embedded DVD/CD、UEFI: DVD/CD n のブートで、該当 DVD/CD 装置に搭載された媒体がブートできる媒体ではなかった。
- Legacy Boot の HDD ブートで、HDD が接続されていなかった。
- Legacy Boot の HDD ブートで、HDD が認識できなかった。
- Legacy Boot の HDD ブートで、HDD に何も書かれていなかった。
- Legacy Boot の DVD/CD ブートで、DVD/CD 装置が認識できなかった。
- Legacy Boot の DVD/CD ブートで、該当 DVD/CD 装置に媒体が入っていなかった。
- Legacy Boot の DVD/CD ブートで、該当 DVD/CD 装置に搭載された媒体がブートできる媒体ではなかった。
- Legacy Boot の PXE ブートで、LAN ケーブルが接続されていなかった。
- Legacy Boot の PXE ブートで、サーバ側の設定ができていなかった。
- UEFI: PXE Boot MAC(*MAC addr*) のブートで、LAN ケーブルが接続されていなかった。
- UEFI: PXE Boot MAC(*MAC addr*) のブートで、サーバ側の設定ができていなかった。

■次のブートオプションへ処理が移行できない失敗

次のブートオプションへ処理が移行できない失敗とは、OS に制御が渡ってしまった後にブート処理に失敗した場合のことです。たとえば、ブート対象デバイスに格納された OS プログラムが破壊されている場合が考えられます。

「図 5.20 [Boot Manager] メニューの表示例」は、[Boot Manager] メニューの起動直後の画面例です。

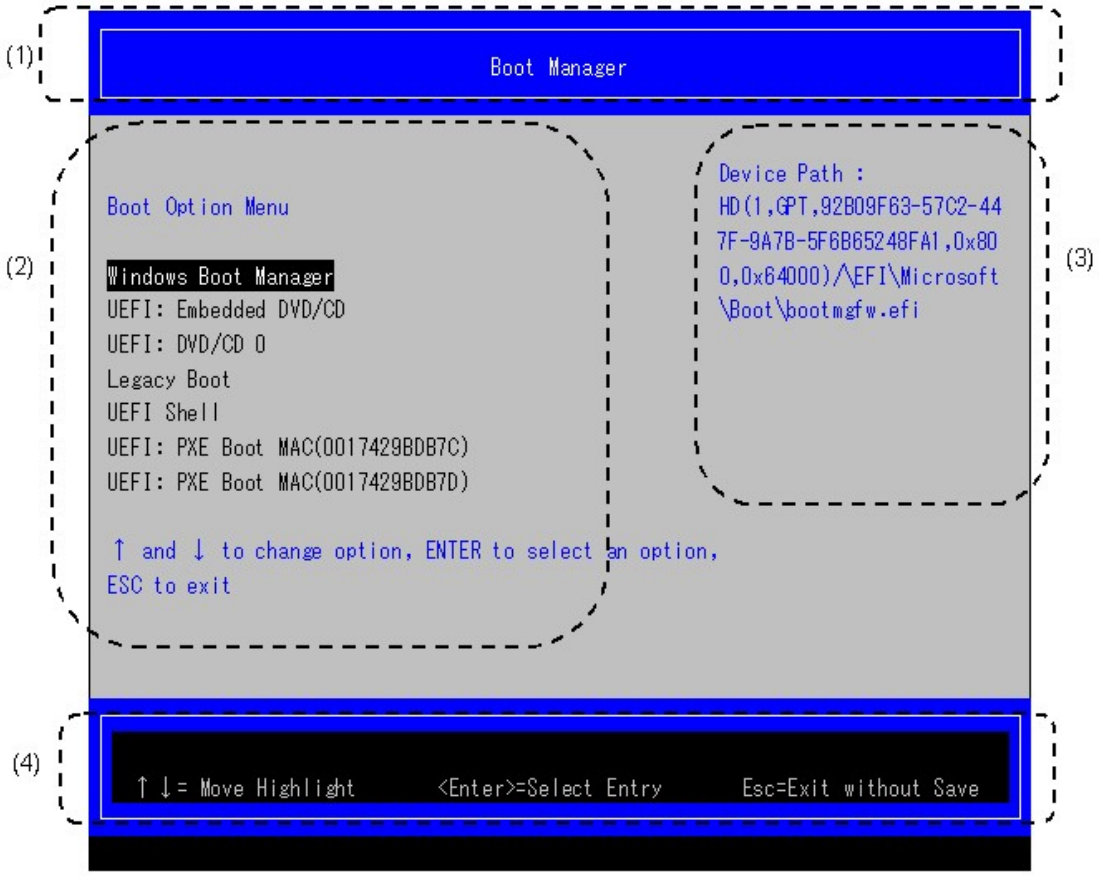


図 5.20 [Boot Manager] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Boot Manager] と表示されます。

(2) メニュー選択部
ブートデバイス一覧が、起動の優先順で表示されます。[↑] キーまたは [↓] キーでブートする OS、または UEFI Shell にカーソルを合わせて選択します。[Enter] キーを押すと、選択した UEFI Aware OS、またはレガシー OS ブート、UEFI シェルの起動を試みます。
ブートに失敗した場合は、Boot Manager フロントページへ戻ります。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソルで選択しているブートオプションのデバイスパスが表示されます。

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.11 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す、このページを操作するためのヘルプが表示されます。

表 5.11 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

5.5 [Device Manager] メニュー

[Device Manager] メニューでは、各 I/O デバイスに対して I/O 空間を割り当てるかどうかの設定や、PXE ブートを Enable にするかどうかなどの設定をします。以下の画面は、[Device Manager] メニューの起動直後の画面です。

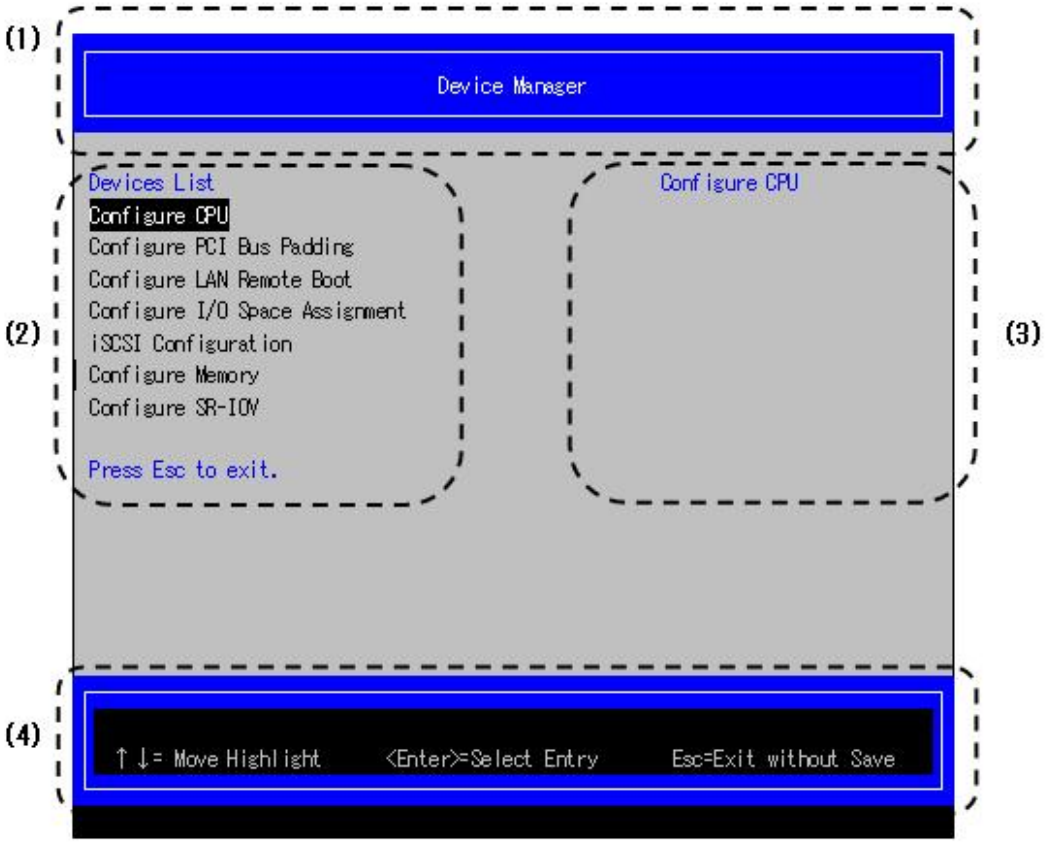


図 5.21 [Device Manager] メニューの表示例

備考

[Configure PCI Bus Padding] メニューは、ファームウェア総合版数 SA10082 (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) で追加された機能です。PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 では、標準でサポートしています。ファームウェア総合版数は、MMB Web-UI の [System] → [Firmware Information] 画面の [Unified Firmware Version] で確認できます。[Firmware Information] 画面について詳しくは、「1.2.6 [Firmware Information] 画面」を参照してください。

(1) ページ情報表示部
[Device Manager] と表示されます。

(2) メニュー選択部
「表 5.12 メニュー選択部の表示内容」に示すメニューが表示されます。

表 5.12 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Configure I/O Space Assignment	「5.5.1 [Configure I/O Space Assignment] メニュー」を表示する。
Configure LAN Remote Boot	「5.5.2 [Configure LAN Remote Boot] メニュー」を表示する。
Configure CPU	「5.5.3 [Configure CPU] メニュー」を表示する。
Configure PCI Bus Padding	「5.5.4 [Configure PCI Bus Padding] メニュー」を表示する。
iSCSI Configuration	「5.5.5 [iSCSI Configuration] メニュー」を表示する。
Configure Memory	「5.5.6 [Configure Memory] メニュー」を表示する。
Configure SR-IOV	「5.5.7 [Configure SR-IOV] メニュー」を表示する。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.13 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.13 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Configure I/O Space Assignment	Configure I/O Space Assignment
Configure LAN Remote Boot	Configure LAN Remote Boot
Configure CPU	Configure CPU
Configure PCI Bus Padding	Configure PCI Bus Padding for PCI-Express slots in the system.
iSCSI Configuration	Configure the iSCSI parameters.
Configure Memory	Configure Memory
Configure SR-IOV	Configure SR-IOV.

備考
メニューの並び順は、装置構成により変わることがあります。上記のメニュー以外にも、sadump メニューや搭載する I/O デバイスによって表示項目が増える場合があります。sadump メニューの操作方法について詳しくは、「第 7 章 sadump 環境の設定」を参照してください。また、I/O デバイスメニューの操作方法については、I/O デバイスのベンダーが提供するマニュアルを参照してください。

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.14 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.14 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑ ↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。

項目	説明
Esc=Exit without Save	「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

5.5.1 [Configure I/O Space Assignment] メニュー

[Configure I/O Space Assignment] メニューでは、システム内の各種 I/O デバイスの I/O 空間割当てについて設定できます。
UEFI はシステムリセット実行後、本メニューで [Auto] に設定されている I/O デバイスに対して、I/O 空間を割り当てます。
I/O 空間を割り当て可能なデバイス数は、15 個です。本メニューで 16 個以上のデバイスを [Auto] に設定すると、I/O 空間を割り当てられないデバイスが出てきます。確実に I/O 空間を割り当てるには、以下のようにします。

- 本メニューで [Auto] に設定するデバイスを 15 個以内にする
- 本メニューで I/O 空間割当てを設定してシステムリセットした後、再度、本メニューを開いて該当デバイスに I/O 空間が割り当てられていることを確認する

本メニューで変更した設定は、システムリセットした後に有効となります。
[Configure I/O Space Assignment] メニューの起動直後の画面表示例を、以下に示します。

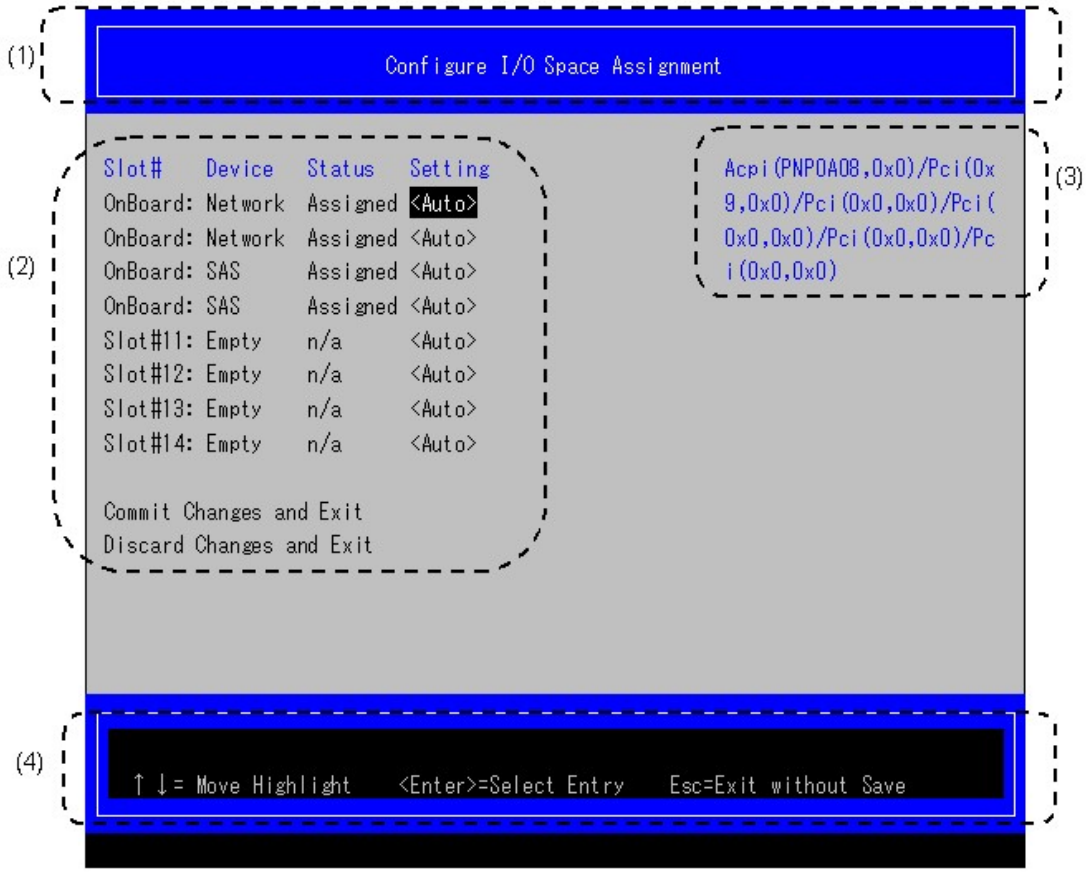


図 5.22 [Configure I/O Assignment] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Configure I/O Space Assignment] と表示されます。

(2) メニュー選択部
メニューには、「表 5.15 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.15 メニュー選択部の表示内容

項目		表示内容
(I/O デバイス情報)		
	Slot#	オンボードデバイスの場合は [OnBoard] と表示する。 Slot の場合は、PCI Slot 番号 (16 進数) を表示する。
	Device	デバイス種別を表示する。
	Status	現在 I/O 空間が割り当てられているかどうかの情報を表示する。 Assigned：I/O 空間が割り当てられている n/a：I/O 空間が割り当てられていない
	Setting	設定値情報を表示。設定項目は以下のとおり Auto：I/O 空間が不足しない限り、I/O 空間を割り当てる Disabled：I/O 空間を割り当てない。 デフォルト設定は Auto。
Commit Changes and Exit		設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit		設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.16 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.16 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
(I/O デバイス情報)	デバイスパスを表示。 (本メニューのデバイス特定は、デバイスパスで行う。 デバイスパスについては、「5.7 デバイスパス」 を参照。)
Commit Changes and Exit	Configure I/O Space Assignment
Discard Changes and Exit	Configure I/O Space Assignment

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.17 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.17 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑ ↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■I/O 空間の割当て設定

I/O デバイスに I/O 空間の割当てを変更する手順を以下に示します。

1. I/O 空間の割当て設定を変更したい I/O デバイスにカーソルを合わせます。

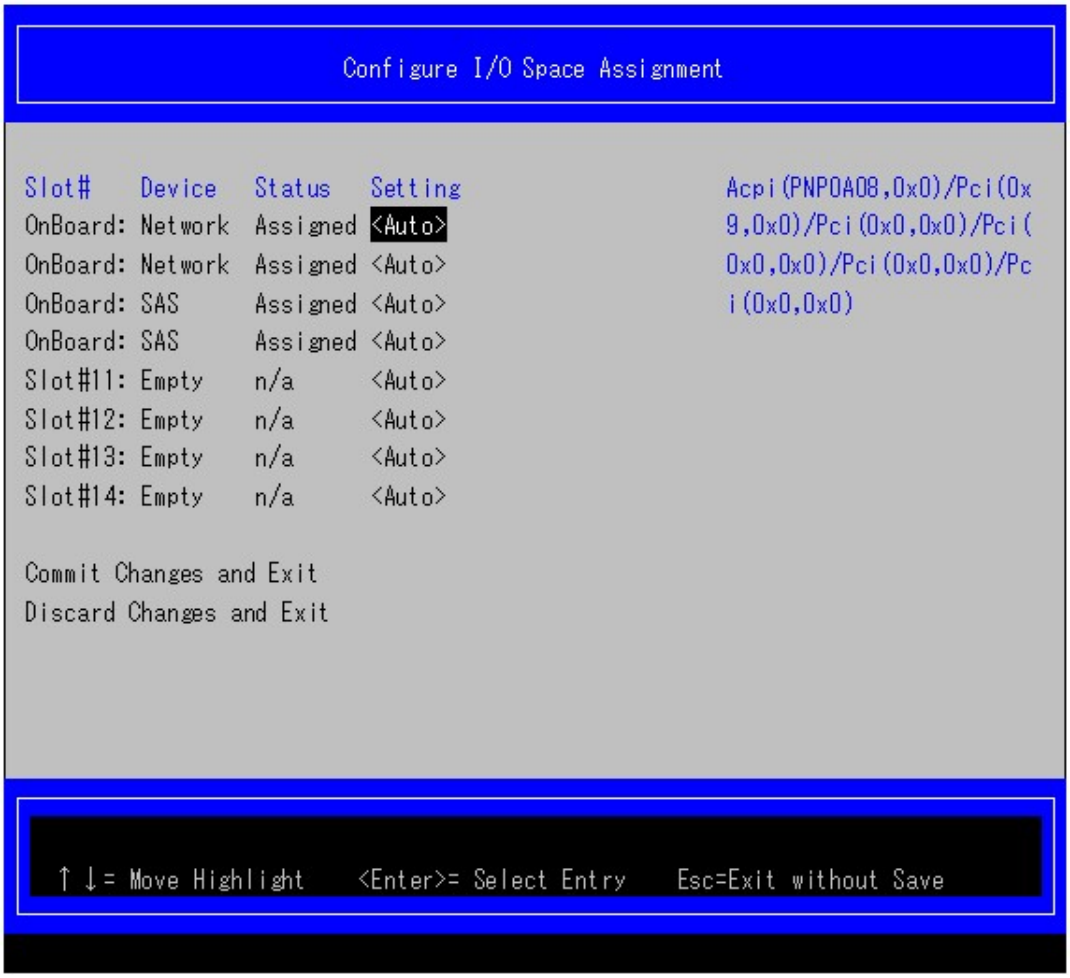


図 5.23 I/O 空間の割当て操作画面(1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.24 I/O 空間の割当て操作画面(2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

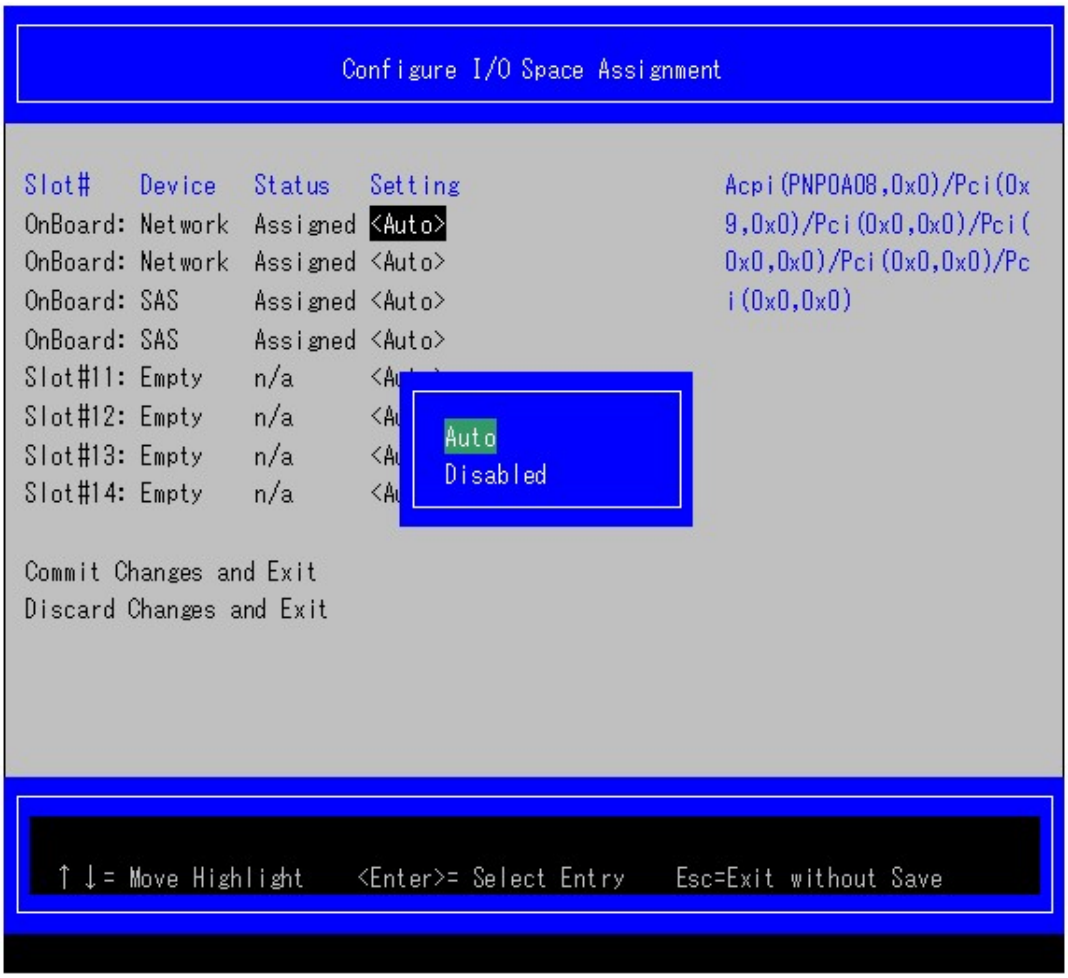


図 5.24 I/O 空間の割当て操作画面(2)

3. I/O 空間の割当てを設定します。
   I/O 空間割当てを自動設定にする場合は、[Auto] を選択します。
   I/O 空間を割り当てない場合は、[Disabled] を選択します。

4. [Enter] キーを押します。
   ポップアップが消え、変更した結果が表示されます。

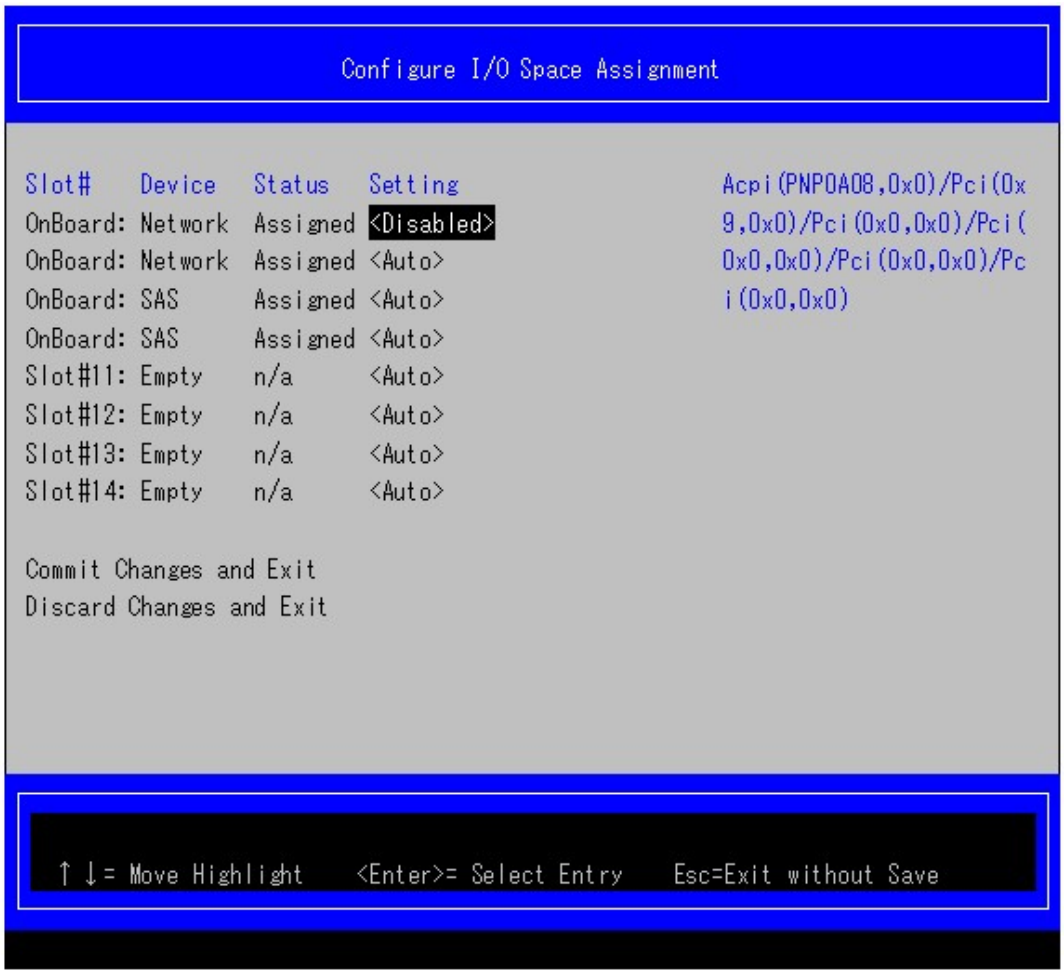


図 5.25 I/O 空間の割当て操作画面(3)

5. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

5.5.2 [Configure LAN Remote Boot] メニュー

[Configure LAN Remote Boot] メニューでは、PXE ブートを実行するネットワークポートを選択できます。メニューには、PXE ブートが可能なネットワークポートが表示されます。PXE ブートをさせるネットワークポートを選択し、Enable 設定することによって対象デバイスからの PXE ブートが可能となります。デフォルトは、全ネットワークポートとも PXE ブートを実施しない設定 (Disabled) です。

本メニューで変更した設定は、システムリセットした後に有効となります。本メニューで設定した内容については「表 5.18 [Configure LAN Remote Boot] メニューの反映」を参照してください。

表 5.18 [Configure LAN Remote Boot] メニューの反映

設定内容	反映内容
UEFI (PXE/iSCSI) (*2)	[Boot Manager] メニューに PXE ブートのブートオプションが追加される。(*1)

設定内容	反映内容
	また、[Device Manager] メニューの [iSCSI Configuration] メニュー (「5.5.5 [iSCSI Configuration] メニュー」参照) にネットワークポートが追加される。
Legacy PXE (*3)	[Boot Maintenance Manager] メニューの [Change Legacy PXE Boot Priority] メニュー (「5.6.1 [Boot Options] メニュー」の「■優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority)」参照) に PXE ブートのブートオプションが追加される。
Legacy iSCSI (*4)	iSCSI ブートはサポートしないので使用しない。
Disabled	[UEFI (PXE/iSCSI)]、 [Legacy PXE] または [Legacy iSCSI]を選択したさいに追加した項目が削除される。

*1: iSCSI ブートはサポートしない。
*2: UEFI Aware OS の PXE ブートを Enable にする設定。
*3: レガシー OS の PXE ブートを Enable にする設定。
*4: レガシー OS の iSCSI ブートを Enable にする設定（サポート外）。
[Legacy iSCSI] を Enable にした場合、GSPB の他のネットワークポートもすべて [Legacy iSCSI] に設定され、他の設定と混在できない。

[Configure LAN Remote Boot] メニューの表示例を、以下に示します。

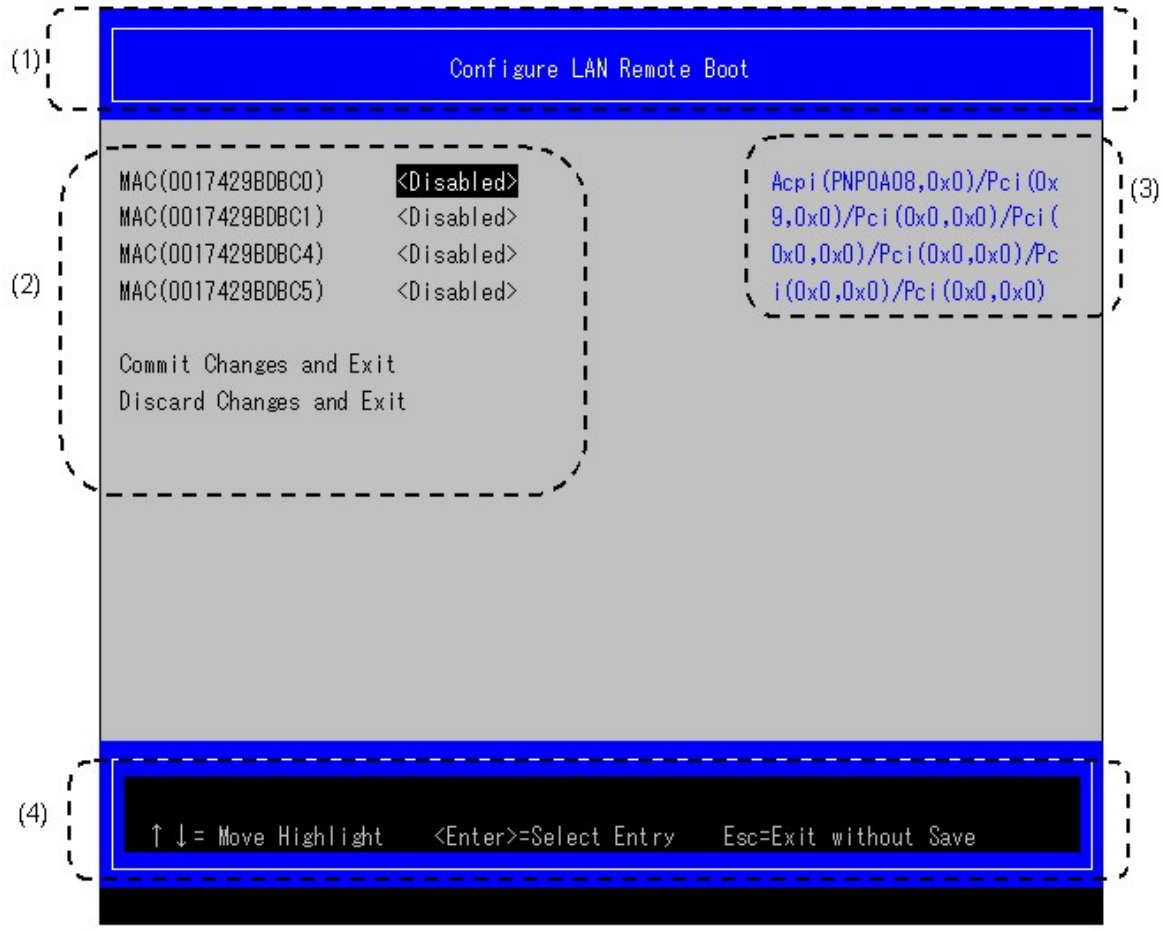


図 5.26 [Configure LAN Remote Boot] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Configure LAN Remote Boot] と表示されます。

(2) メニュー選択部
メニューには、「表 5.19 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.19 メニュー選択部の表示内容

項目	表示内容
(ネットワークポート情報)	以下のシステム内の各ネットワークポート情報と、PXE ブート設定情報が表示される。 ネットワークポート情報は、MAC アドレス形式で表示される。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.20 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.20 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
(ネットワークポート情報)	選択したポートのデバイスパス
Commit Changes and Exit	Configure LAN Remote Boot
Discard Changes and Exit	Configure LAN Remote Boot

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.21 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.21 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■PXE ブートの Enable/Disable 設定の変更
各ネットワークポートの PXE ブート設定の変更は、以下の手順で実施します。

1. 設定を変更するネットワークポートにカーソルを合わせます。

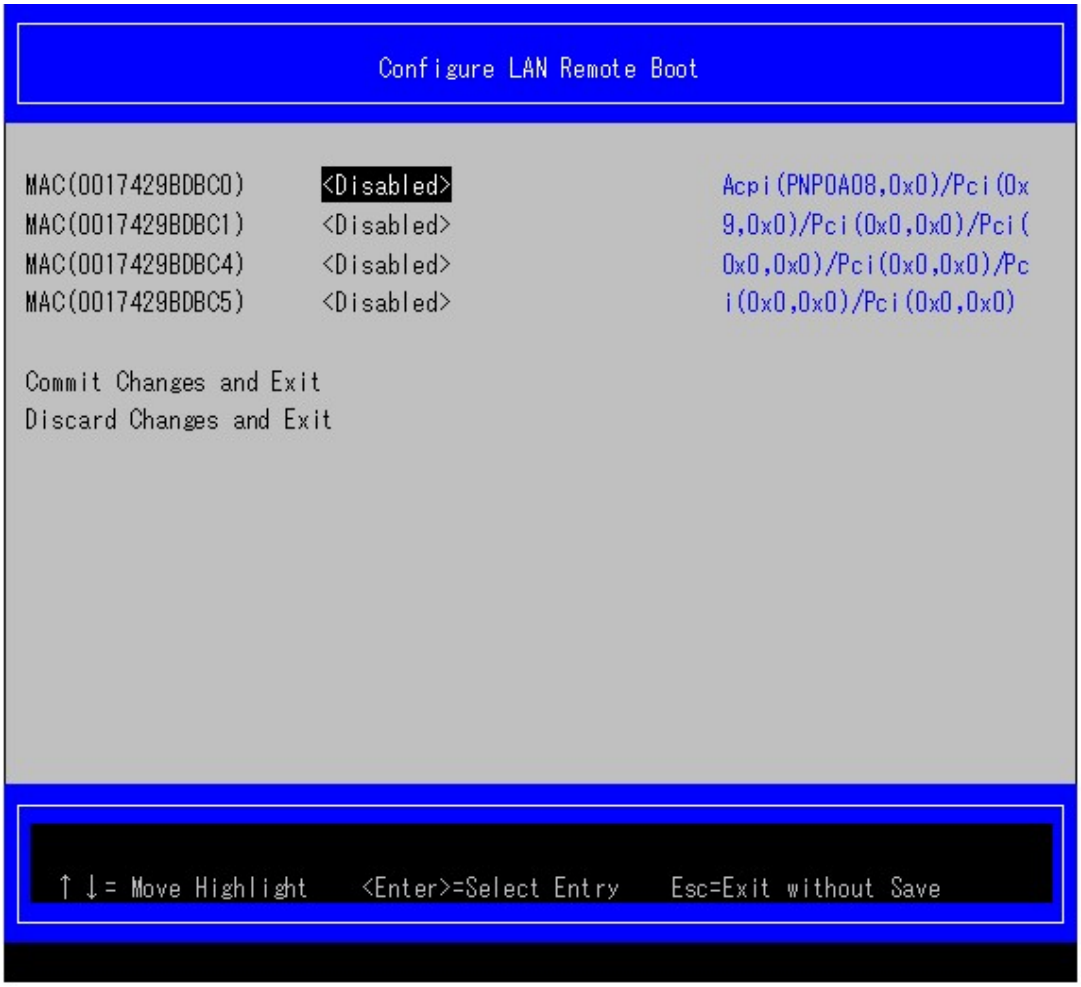


図 5.27 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.28 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

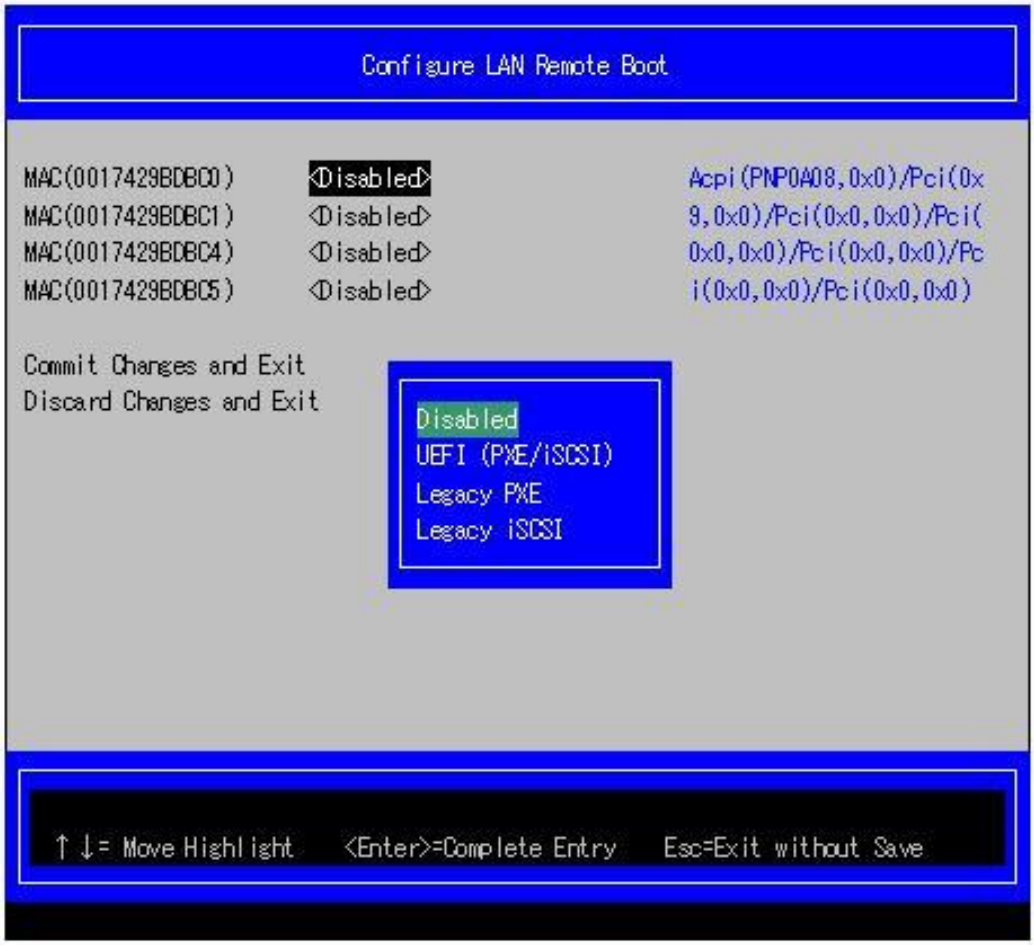


図 5.28 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (2)

3. PXE ブート Enable/Disable 設定をします。
   - UEFI Aware OS の PXE ブートを Enable にする場合は、[UEFI (PXE/iSCSI)] を選択する。
   - Legacy OS の PXE ブートを Enable にする場合は、[Legacy PXE] を選択する。
   - iSCSI ブートはサポートしないため、[Legacy iSCSI]　は使用しない。
   - PXE ブートを Disable にする場合は、[Disabled] を選択する。

   デフォルトは、すべて [Disabled] です。

4. [Enter] キーを押します。
   「図 5.29 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (3)」のように表示されます。

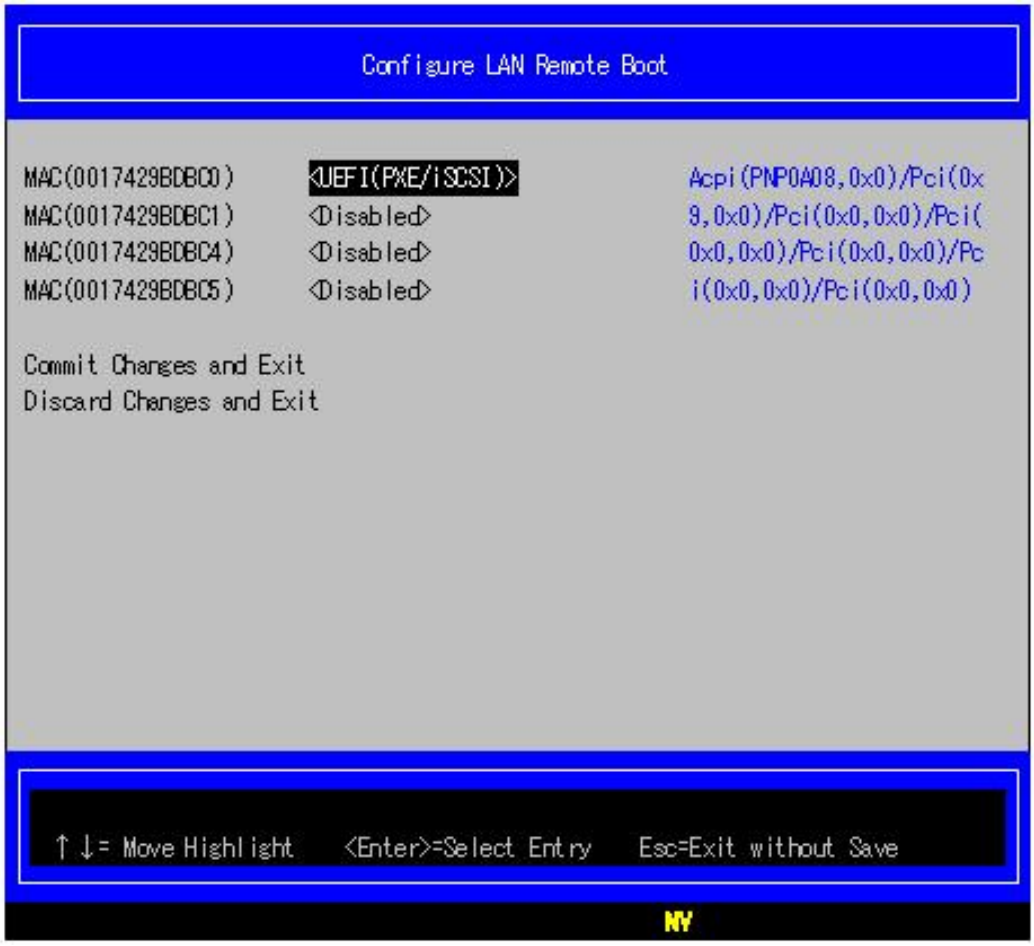


図 5.29 PXE ブート Enable 設定の操作画面 (3)

5. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。

6. 設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。
7. UEFI(PXE/iSCSI)を選択した場合、[Enable] の確認をするには、リセット後に [Boot Manager] メニューを起動します。
「図 5.30 [Boot Manager] メニューの表示例」のように、ブートオプションが追加されたことを確認します。

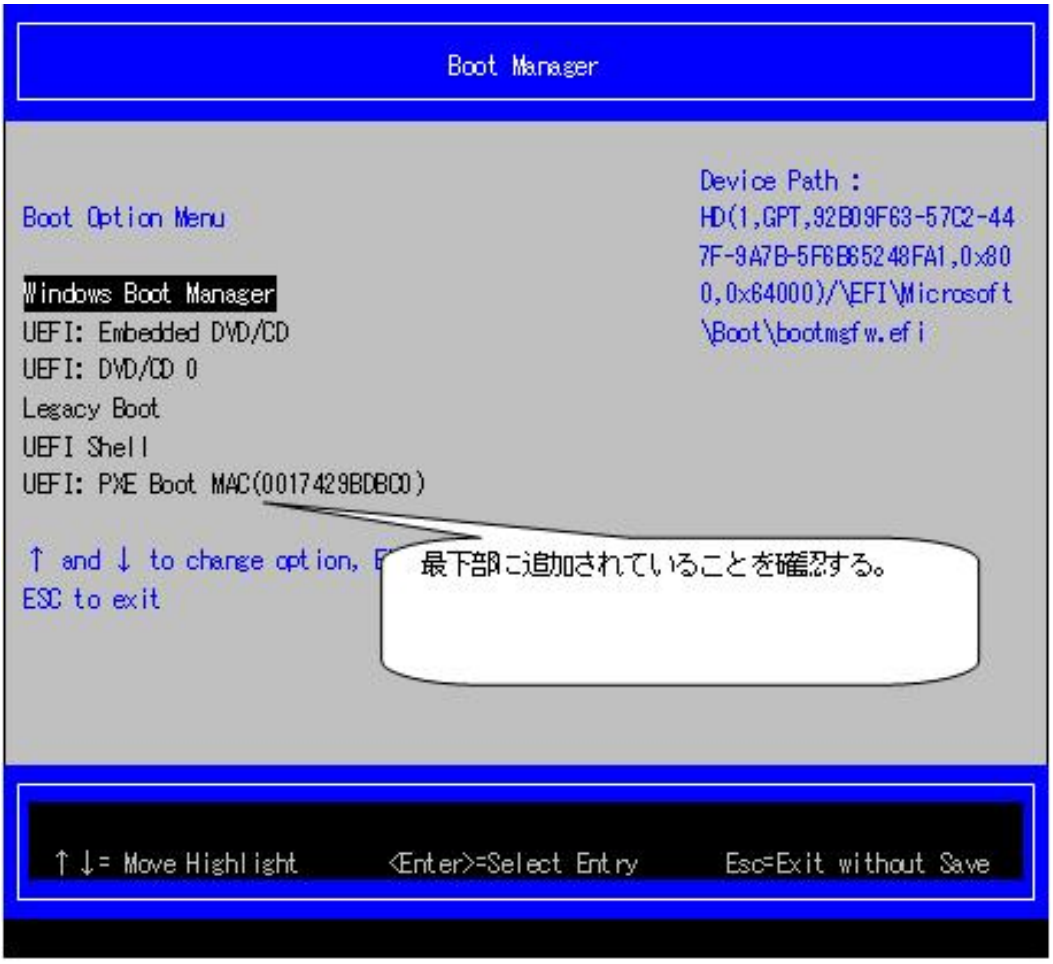


図 5.30 [Boot Manager] メニューの表示例

備考

[Device Manager] メニューの [iSCSI Configuration] メニューを起動すると、「図 5.31 [iSCSI Configuration] の表示例」 のようにネットワークポートが追加されています。

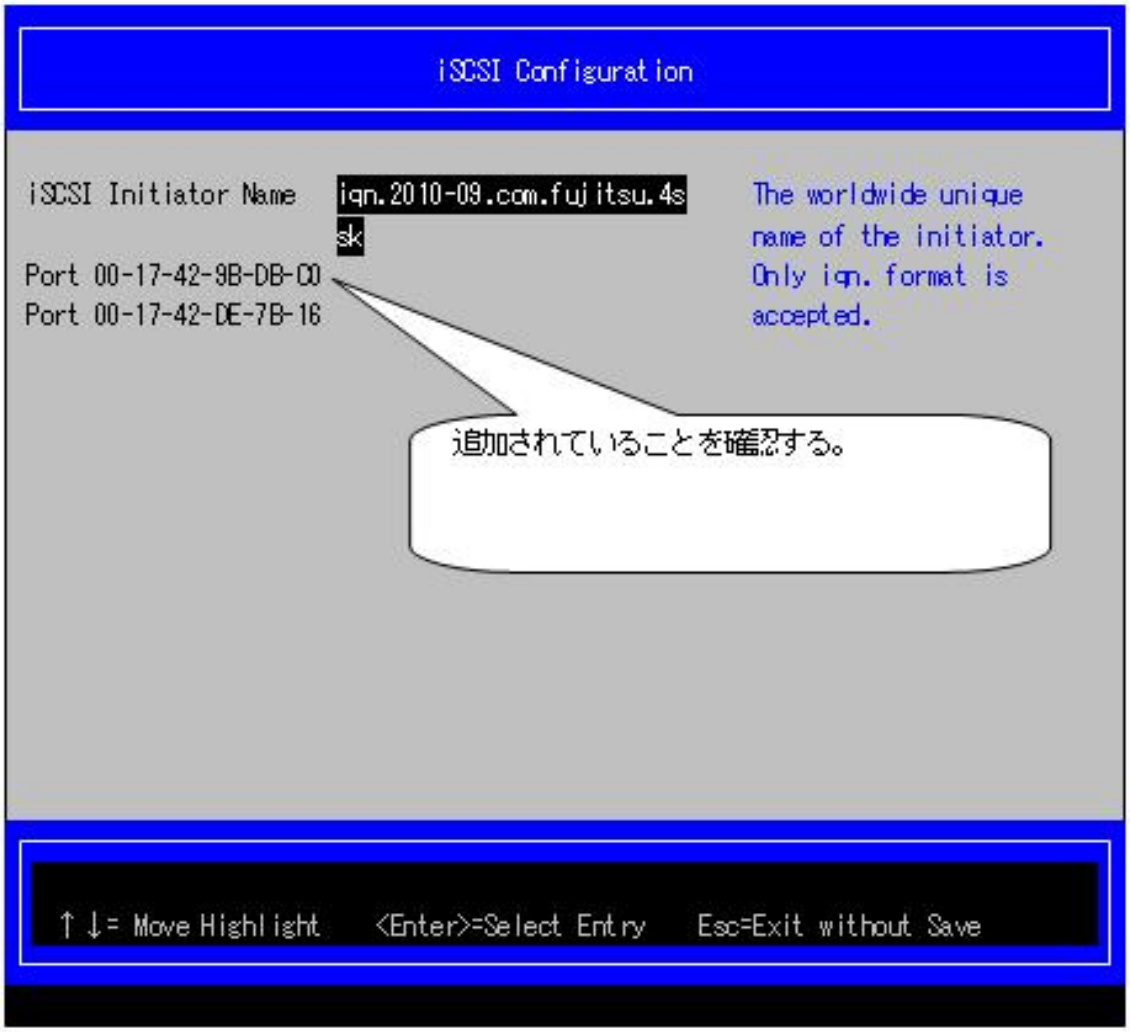


図 5.31 [iSCSI Configuration] の表示例

8. Legacy PXE を [Enable] にした場合、リセット後に [Boot Maintenance Manager] メニューの [Change Legacy PXE Boot Priority] メニューを起動すると、以下の図のようにネットワークポートが 1 つ表示されます (「■[Change Legacy PXE Boot Priority] メニュー」を参照)。

図 5.32 [Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例

5.5.3 [Configure CPU] メニュー

[Configure CPU] メニューでは、CPU の省電力機能やハイパースレッディング機能等の有効／無効が設定できます。

[Configure CPU] メニュー起動直後の画面表示例を以下に示します。

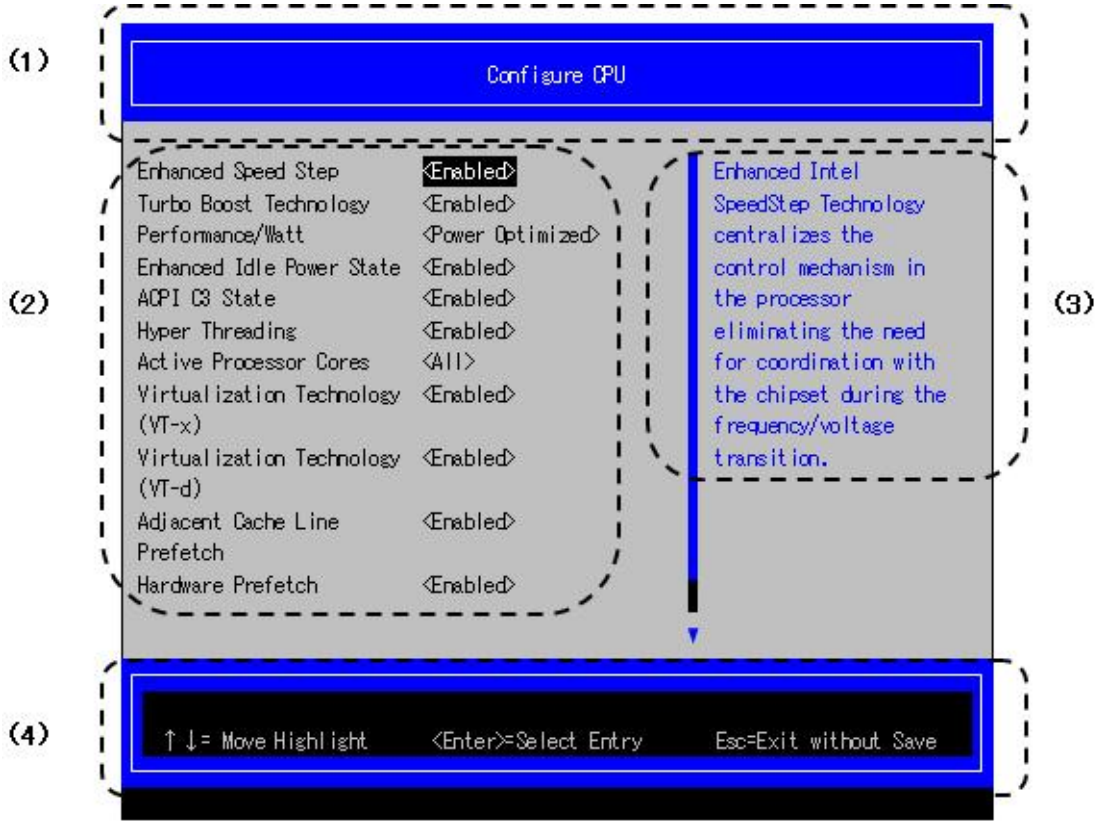


図 5.33 [Configure CPU] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Configure CPU] と表示されます。

(2) メニュー選択部
メニューには、「表 5.22 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.22 メニュー選択部の表示内容

項目	表示内容
Enhanced Speed Step	CPU の省電力機能の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
Turbo Boost Technology	インテル(R) ターボブーストテクノロジー機能の有効／無効を設定する。 Enhanced Speed Step が有効のときのみ、本項目は有効となる。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。 **備考** Enhanced Speed Step が Enabled の場合のみ本項目は指定可能。

項目	表示内容
Performance/Watt	OS がインテル(R) ターボブーストテクノロジー機能への移行を要求した後、実際に CPU がインテル(R) ターボブーストテクノロジー機能へと移行するタイミングを設定する。 ・ Traditional：OS の要求後、即移行する。 ・ Power Optimized：2 秒間 CPU の高負荷状態が続いたときのみ、移行する。 デフォルトは Power Optimized。 **備考** Enhanced Speed Step が Enabled、かつ Turbo Boost Technology が Enabled の場合のみ本項目は指定可能。
Enhanced Idle Power State	本機能を有効にすると CPU の省電力モードである C1 ステートより省電力のモードへの移行が可能となる。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
ACPI C3 State	CPU の省電力モードである C3 ステートへの移行を可能にするかを設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
Hyper Threading	ハイパースレッディング機能の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
Active Processor Cores	1CPU ソケットあたり、イネーブルにするコア数を設定する。 〔PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L のみ、SA11031 以前〕 ・ 1 ～ FF (16 進数) デフォルトは FF。 **注意** 設定は変更しないでください。 〔PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L の、SA11051 以降および PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2〕 ・ All ・ 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

項目	表示内容
	・ 9 デフォルトは ALL。 **備考** 設定項目で表示する最大数は、1CPU ソケットあたりのコア数−1 です。 **注意** PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L では設定を変更しないでください。
Virtualization Technology (VT-x)	CPU の仮想化支援機能の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
Virtualization Technology (VT-d)	チップセットの仮想化支援機能の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
Adjacent Cache Line Prefetch	メモリから L2 キャッシュラインへ対象データをフェッチするとき、隣接するデータもフェッチする機能の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
Hardware Prefetch	CPU がメモリの等間隔データの連続アクセスパターンを検出するとメモリから L2 キャッシュに連続データをプリフェッチする機能の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
x2APIC Mode	〔PRIMEQUEST 1800E2/1800L2 のみ〕 x2APIC Mode の有効／無効を設定する。 x2APIC をサポートする OS では [Enabled] に設定する。 x2APIC をサポートしない OS では [Disabled] に設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Disabled。 **備考** OS 別の x2APIC サポートについて詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「G.1 CPU」を参照。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.23 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.23 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Enhanced Speed Step	Enhanced Intel SpeedStep Technology centralizes the control mechanism in the processor eliminating the need for coordination with the chipset during the frequency/voltage transition.
Turbo Boost Technology	When 'Enabled', a processor has the ability to run at frequencies higher than the advertised frequency of the part when requested and when operating conditions allow higher frequency.
Performance/Watt	When 'Power Optimized' is selected Intel Turbo Boost Technology engages after performance state P0 is sustained for more than 2 seconds. When 'Traditional' is selected Intel Turbo Boost Technology is engaged even for P0 requests less than 2 seconds.
Enhanced Idle Power State	When 'Enabled', a processor consumes lower power than C1 state.
ACPI C3 State	Enables the C3 state.
Hyper Threading	When 'Disabled' only one thread per enabled core is enabled.
Active Processor Cores	〔PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L のみ、SA11031 以前〕 Each bit position represents a core to be enable in each processor package. 〔PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L の、SA11051 以降および PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2〕 Number of cores to enable in each processor package.
Virtualization Technology (VT-x)	When enabled, a VMM can utilize the additional hardware capabilities provided by Intel(R) Virtualization Technology.
Virtualization Technology (VT-d)	VT-d enables direct assignment of PCI devices to a virtual machines.
Adjacent Cache Line Prefetch	When enabled the processor fetches both cache lines that comprise a cache line pair (128 bytes) when it determines required data is not currently in its cache. When disabled the processor will only fetch the cache line (64 bytes) that contains the data currently required by the processor.
Hardware Prefetch	When enabled processor assumes that if line A and A+1 were required, then line A+2 also will be required. The data is prefetched into L2 from external memory.
x2APIC Mode	When Disabled, x2APIC mode is disabled.
Commit Changes and Exit	表示なし

カーソル位置	表示内容
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.24 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.24 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

5.5.4 [Configure PCI Bus Padding] メニュー

[Configure PCI Bus Padding] メニューでは、PCI Express スロットに割り当てる PCI バス数を変更できます。PCI Express スロットに割り当てるデフォルトのバス数は、1 です。本メニューで設定した変更は、システムリセット実施後に有効となります。

備考

[Configure PCI Bus Padding] メニューは、ファームウェア総合版数 SA10082 (PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L) で追加された機能です。
PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 では、標準でサポートしています。ファームウェア総合版数は、MMB Web-UI の [System] → [Firmware Information] 画面の [Unified Firmware Version] で確認できます。[Firmware Information] 画面について詳しくは、「1.2.6 [Firmware Information] 画面」を参照してください。

[Configure PCI Bus Padding] メニュー起動直後の画面表示例を、以下に示します。

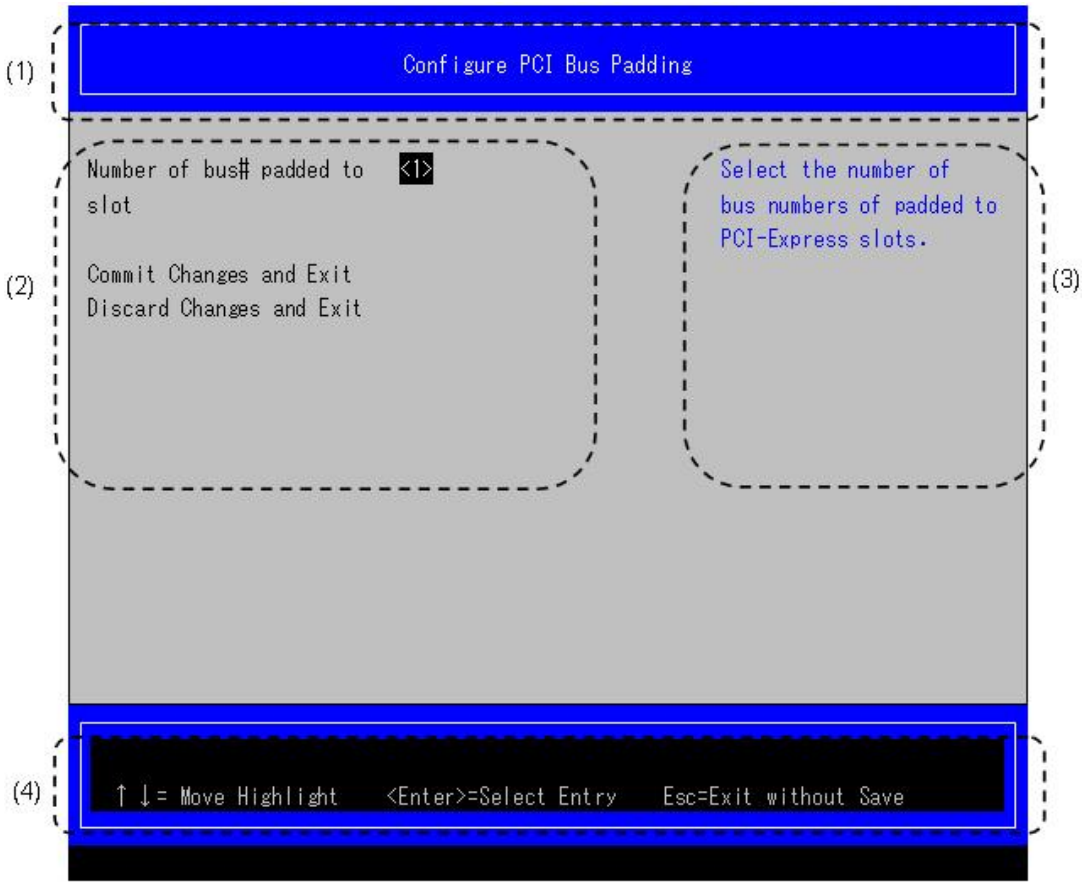


図 5.34 [Configure PCI Bus Padding] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Configure PCI Bus Padding] と表示されます。

(2) メニュー選択部
メニューには、「表 5.25 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.25 メニュー選択部の表示内容

項目	表示内容
(PCI バス数の割当て設定)	PCI Express スロットに割り当てるバス数を指定する。 デフォルトは 1。設定範囲は 1 ～ 4。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して「表 5.26 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.26 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Number of bus# padded to slot	Select the number of bus numbers padded to PCI-Express slots.

カーソル位置	表示内容
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部

「表 5.27 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.27 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■PCI Express スロットのバス数の設定

PCI Express スロットに割り当てるバス数の変更は、以下の手順で実施します。

1. 数字の位置にカーソルを合わせます。

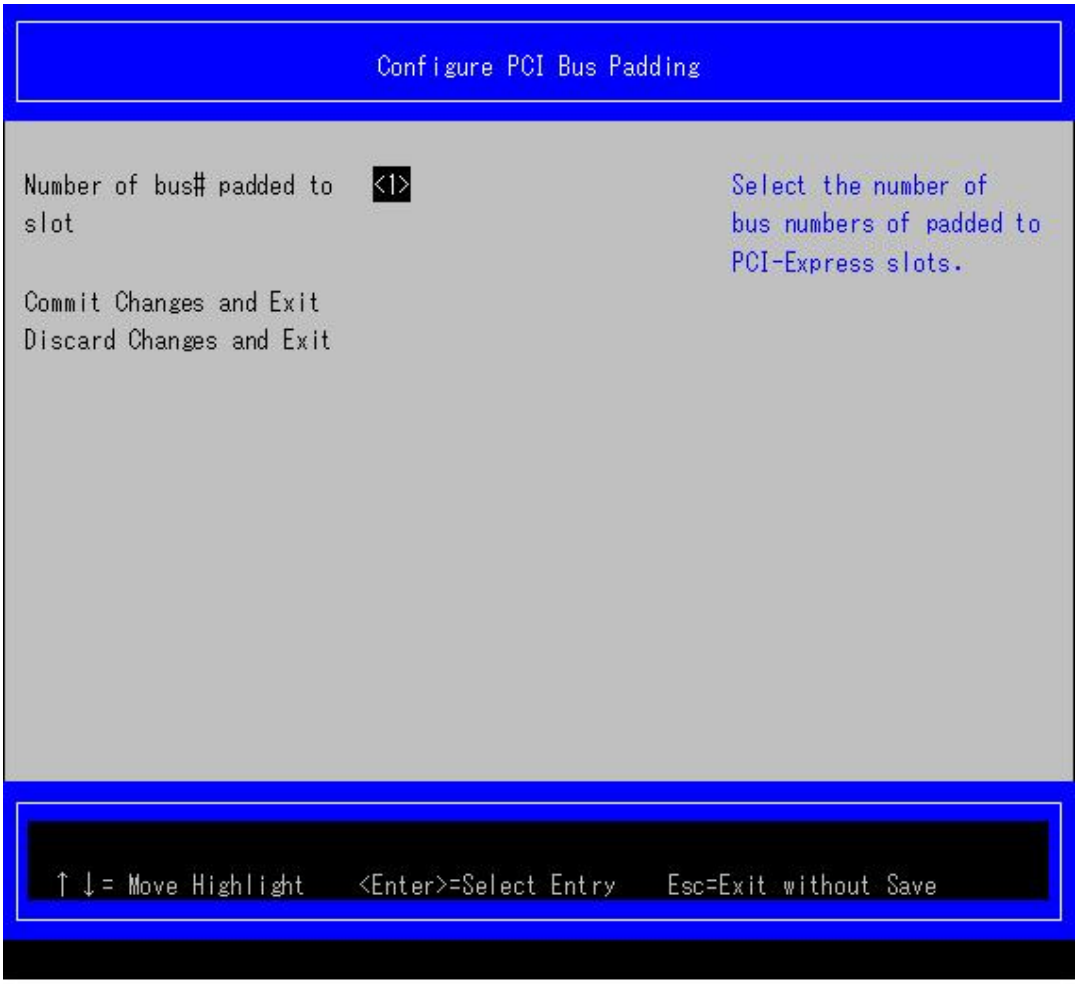


図 5.35 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.36 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

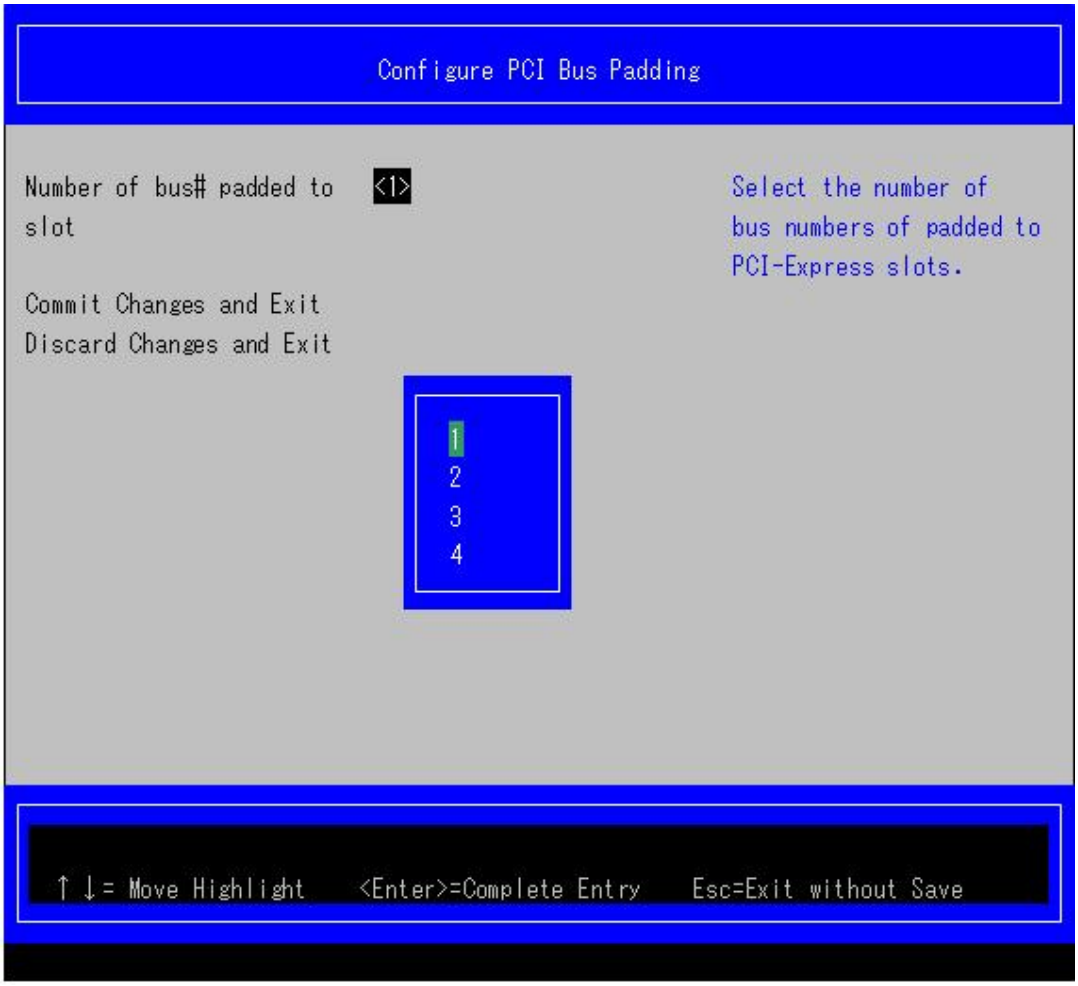


図 5.36 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (2)

3. 設定したいバス数を選択します。
   設定できる値は、1、2、3、4 です。

4. [Enter] キーを押します。
   「図 5.37 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (3)」のようにポップアップが消え、変更した値が表示されます。

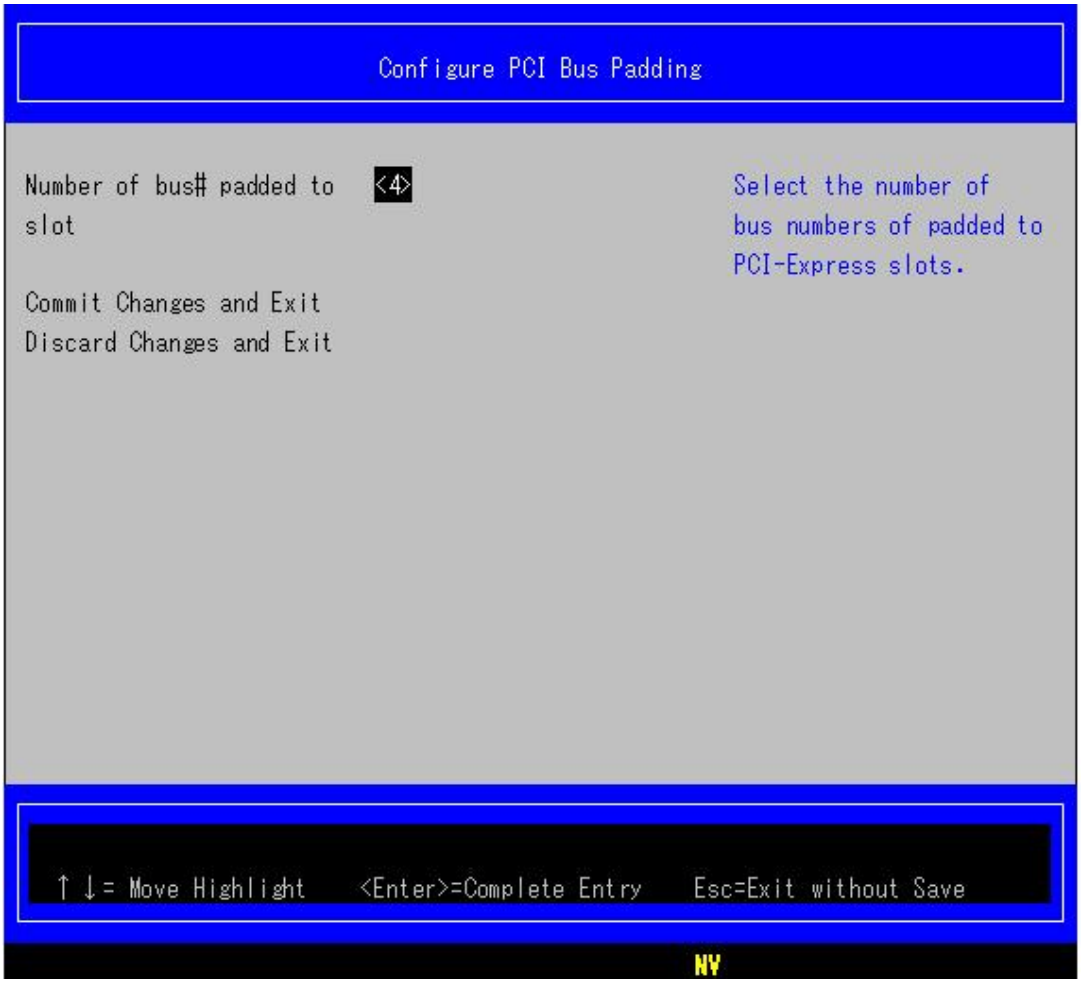


図 5.37 PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (3)

5. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。

6. 設定変更を保存せず本メニューを抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを押します。

5.5.5 [iSCSI Configuration] メニュー

iSCSI ブートはサポートしないため、使用しません。
[iSCSI Configuration] メニューでは、[Configure LAN Remote Boot] メニューで UEFI に設定した GSPB のネットワークポート、および拡張カードのネットワークポートに対して、UEFI Aware OS の iSCSI ブートの環境を設定できます。
PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 で表示します。メニューには、iSCSI ブートが可能なネットワークポートが表示されます。iSCSI ブートさせるネットワークポートを選択し、各種設定をすることで対象デバイスからの iSCSI ブートが可能となります。
本メニューで変更した設定は、システムリセットした後に有効となります。
[iSCSI Configuration] メニューの表示例を、以下に示します。

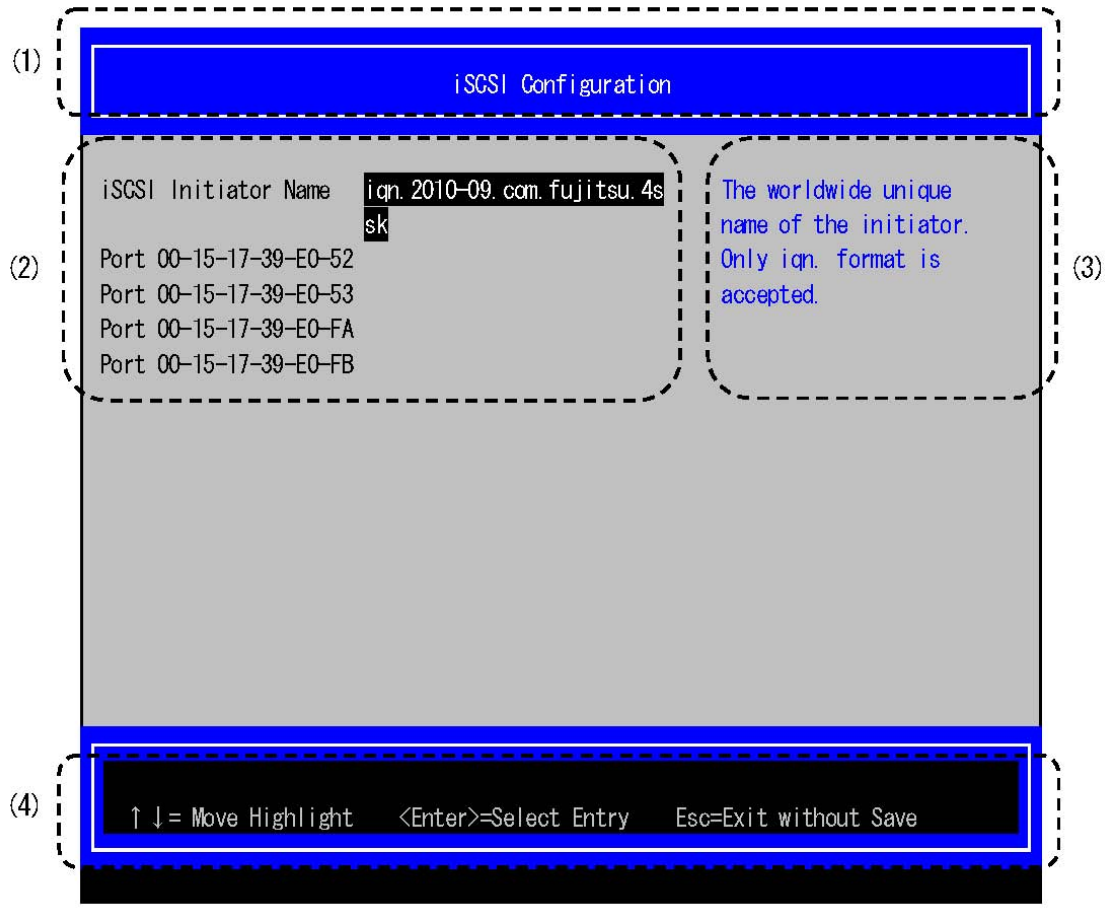


図 5.38 [iSCSI Configuration] メニュー画面表示例

(1) ページ情報表示部
[iSCSI Configuration] と表示されます。

(2) メニュー選択部
メニューには、「表 5.28 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.28 メニュー選択部の表示内容

項目	表示内容
iSCSI Initiator Name	iSCSI Initiator Name を設定する。
Port xx-xx-xx-xx-xx-xx	xx-xx-xx-xx-xx-xx は、MAC アドレス。 iSCSI 設定可能なデバイスは、MAC アドレス形式で表示される。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.29 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.29 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
iSCSI Initiator Name	The worldwide unique name of the initiator. Only iqn. format is accepted.
Port xx-xx-xx-xx-xx-xx	Set the iSCSI parameters on port xx-xx-xx-xx-xx-xx

(4) 操作ヘルプ表示部

「表 5.30 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.30 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■iSCSI 環境設定

iSCSI 環境の設定は、以下の手順で実施します。

1. Initiator Name を設定するには、[iSCSI Initiator Name] を選択します。
   入力できる文字数は 4 ～ 223 文字です。

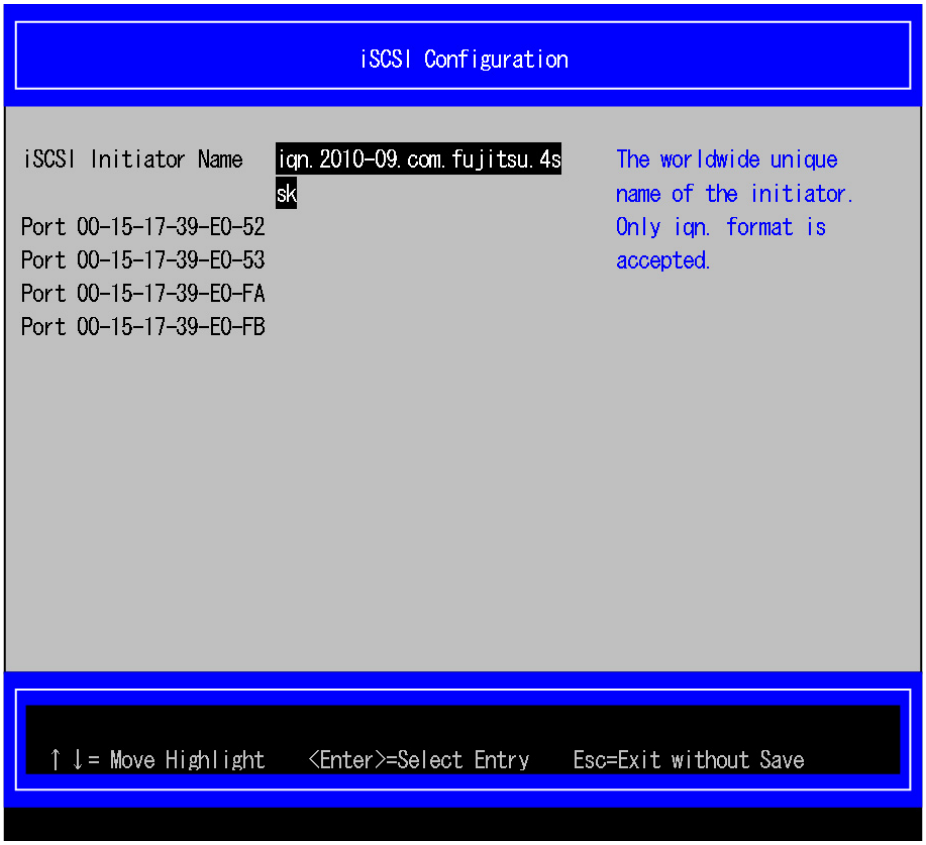


図 5.39 iSCSI 環境設定 操作画面 (1)

備考

- IQN 名と関係ない文字列を入力すると、[Invalid iSCSI Name!] というポップアップ画面が表示されます。
- 入力した文字数が足りない場合は、[Please enter enough characters Press ENTER to continue] というポップアップ画面が表示されます。
- ここでの入力可能文字種は、以下のとおり。
  0-9、A-Z、a-z、！" # $ % & ' ( ) * + 、 - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

2. 各ネットワークポートを設定するには、設定したい Port にカーソルを合わせ、[Enter] キーを押します。

3.「図 5.40 iSCSI 環境設定 操作画面 (2)」のように表示されます。

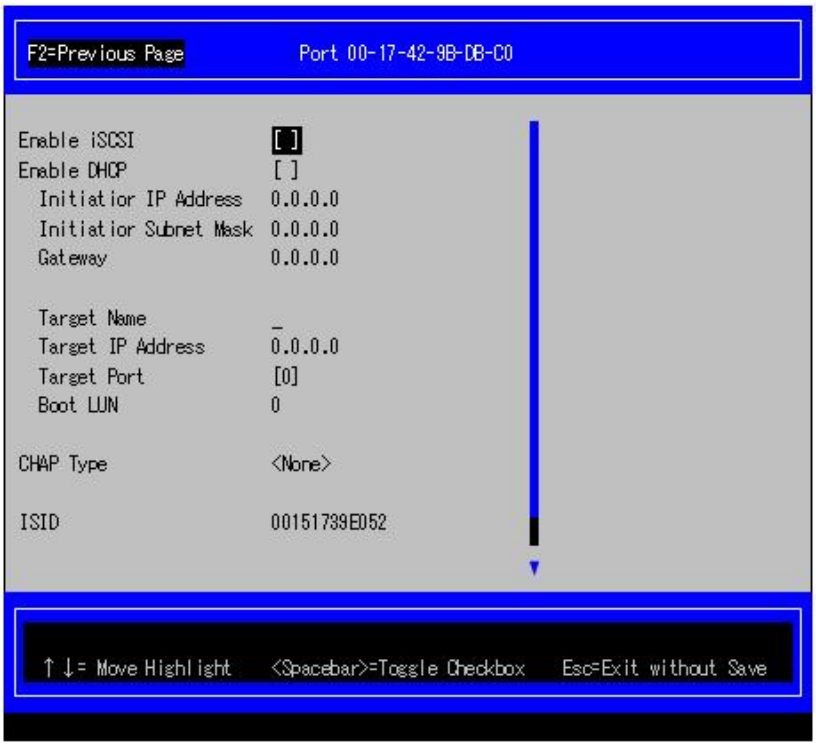


図 5.40 iSCSI 環境設定 操作画面 (2)

「図 5.40 iSCSI 環境設定 操作画面 (2)」には、「表 5.31 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。
設定したい項目にカーソル位置を合わせて、それぞれ設定します。

表 5.31 メニュー選択部の表示内容

項目	表示内容
Enable iSCSI	iSCSI boot 設定の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Disabled。 Enabled にすると [X] と表示される。
Enable DHCP	DHCP の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Disabled。 Enabled にすると [X] と表示される。
Initiator IP Address	iSCSI Initiator 側の IP アドレスを設定する。 DHCP が [Enabled] の場合は表示しない。DHCP が [Disabled] の場合に有効。 デフォルトは 0.0.0.0。 **備考**

項目	表示内容
	IP アドレス、サブネットマスクに不適切な値を入力すると、[Invalid IP Address!] というポップアップ画面が表示される。
Initiator Subnet Mask	iSCSI Initiator 側のサブネットマスクを設定する。 DHCP が [Enabled] の場合は表示しない。DHCP が [Disabled] の場合に有効。 デフォルトは 0.0.0.0。 **備考** IP アドレス、サブネットマスクに不適切な値を入力すると、[Invalid IP Address!] というポップアップ画面が表示される。
Gateway	ゲートウェイの IP アドレスを設定する。 DHCP が [Enabled] の場合は表示しない。DHCP が [Disabled] の場合に有効。 デフォルトは 0.0.0.0。 **備考** IP アドレス、サブネットマスクに不適切な値を入力すると、[Invalid IP Address!] というポップアップ画面が表示される。
Get Target info via DHCP	DHCP サーバから iSCSI Target の IP アドレス、ポートを取得するかどうかを決定する。 DHCP が [Enabled] の場合に有効。DHCP が [Disabled] の場合は表示しない。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Disabled。
Target Name	ターゲットの IQN 名を入力する。 入力できる文字数は 4 〜 223 文字。 [Get Target info via DHCP] が [Enabled] の場合は表示しない。DHCP が [Disabled] の場合や [Get Target info via DHCP] が [Disabled] の場合に有効。 **備考** ・ IQN 名と関係ない文字列を入力すると、[Invalid iSCSI Name!] というポップアップ画面が表示される。 ・ 入力した文字数が足りない場合は、[Please enter enough characters Press ENTER to continue] というポップアップ画面が表示される。 ・ ここでの入力可能文字種は、以下のとおり。 0-9、A-Z、a-z、! " # $ % & ' ( ) * + 、 - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | }

項目	表示内容
Target IP Address	ターゲットの IP アドレスを設定する。 [Get Target info via DHCP] が [Enabled] の場合は表示しない。DHCP が [Disabled] の場合や [Get Target info via DHCP] が[Disabled] の場合に有効。 デフォルトは 0.0.0.0。 **備考** IP アドレス、サブネットマスクに不適切な値を入力すると、[Invalid IP Address!] というポップアップ画面が表示される。
Target Port	ターゲットの TCP リスニングポートを設定する。 入力できる数値は 0 ～ 65535 (10 進数)。 [Get Target info via DHCP] が [Enabled] の場合は表示しない。DHCP が [Disabled] の場合や [Get Target info via DHCP] が [Disabled] の場合に有効。 デフォルトは 0。
Boot LUN	ターゲットの LUN 番号を設定する。 数値は、以下の形式で入力する。 x ～ xxxx-xxxx-xxxx-xxxx (16 進数) デフォルトは 0。
CHAP Type	CHAP タイプを設定する。 ・ None ・ One way ・ Mutual デフォルトは None。
CHAP Name	CHAP ユーザー名を入力する。 入力できる文字数は 125 文字。 **備考** ここでの入力可能文字種は、以下のとおり。 0-9、A-Z、a-z、! " # $ % & ' ( ) * + 、 - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~
CHAP Secret	CHAP パスワードを入力する。 入力できる文字数は 12 ～ 16 文字。 **備考** ・ 入力した文字数が足りない場合は、[Please enter enough characters Press ENTER to continue] というポップアップ画面が表示される。 ・ ここでの入力可能文字種は、以下のとおり。 0-9、A-Z、a-z、! " # $ % & ' ( ) * + 、 - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

項目	表示内容
ISID	ISID (イニシエータがターゲットとのセッションを確立するさいに使用する ID) の下 6 桁を必要に応じて入力する。 デフォルトは MAC アドレスから生成される。 **備考** ・ 入力した文字数が足りない場合は、[Please enter enough characters Press ENTER to continue] というポップアップ画面が表示される。 ・ ISID に 7 桁以上を入力すると、“ Error! Input is incorrect, please input 6 hex numbers! ” というポップアップ画面が表示される。桁数が 6 桁でも 16 進数値以外の値が含まれていると、その桁は 0 として入力される。 例）ABCXYZ -> ABC000

4. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Save Changes] を選択し、[Enter] キーを押します。

5. 設定変更を保存せず本メニューを抜けるには、[Back to Previous Page] を選択し、[Enter] キーを押します。

5.5.6 [Configure Memory] メニュー

[Configure Memory] メニューでは、DIMM Self Refresh 機能 (*1) および DDDC 機能 (*2) の設定を変更できます。
*1：インテル Xeon プロセッサ E7 が 1 ソケットに含まれる全コアにおいて、C-state が C3 または C6 になったときに DIMM が自動的にリフレッシュする拡張機能。
*2：Double Device Data Correction。メモリのエラーを検出時に、DIMM 上の故障した DRAM チップを無効化し、予備の DRAM チップに切り替えることでシステムを継続させる機能。

PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 で表示します。
本メニューで設定した変更は、システムリセット実施後に有効となります。

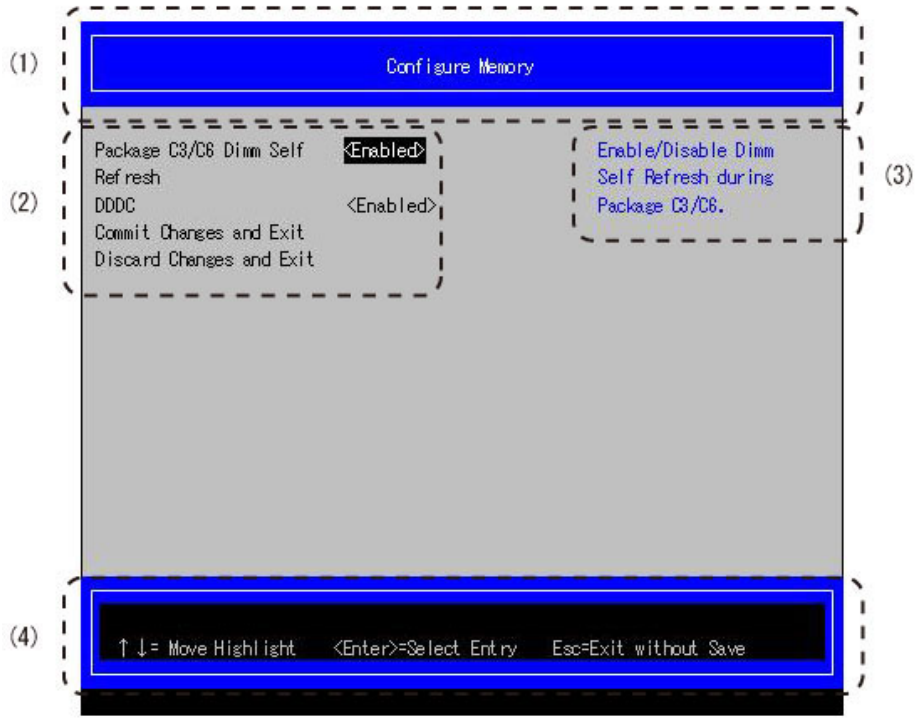


図 5.41 [Configure Memory] メニュー画面表示例

[Configure Memory] メニュー起動直後の画面表示例を、以下に示します。

(1) ページ情報表示部
[Configure Memory] と表示されます。

(2) メニュー選択部
メニューには、「表 5.32 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.32 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
DIMM Self Refresh	DIMM Self Refresh の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
DDDC	DDDC の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Enabled。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.33 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.33 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Package C3/C6 Dimm Self Refresh	Enable/Disable Dimm Self Refresh during Package C3/C6.
DDDC	Enable/Disable DDDC (Double Device Data Correction).
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.34 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.34 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■メモリ機能の設定

DIMM Self Refresh および DDDC ともに、以下の例の手順で設定します。
例）Package C3/C6 Dimm Self Refresh 設定を無効にする

1. [Package C3/C6 Dimm Self Refresh] にカーソルを合わせ、[Enter] キーを押します。

図 5.42 DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (1)

2.「図 5.43 DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

図 5.43 DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (2)

3. DIMM Self Refresh 機能の設定をします。
   DIMM Self Refresh 機能を有効にする場合は、[Enabled] を選択します。
   DIMM Self Refresh 機能を無効にする場合は、[Disabled] を選択します。

4. [Enter] キーを押します。
   ポップアップが消え、変更した結果が表示されます。

図 5.44 DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (3)

5. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

5.5.7 [Configure SR-IOV] メニュー

SR-IOV (Single Root I/O Virtualization) は、PCI デバイスの仮想化をハードウェアレベルでサポートして高速化するための規格です(*1)。[Configure SR-IOV] メニューでは、SR-IOV をサポートするデバイスのハードウェアアシスト機能を使用するための設定を変更できます(*2)。本メニューで設定した変更は、システムリセット実施後に有効となります。

*1：PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 のみで有効な規格です。
*2：[Configure SR-IOV] メニューは以下の版数で表示されますが、設定は変更しないでください。

- PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L の版数 SA12011 以降
- PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 の版数 SB11121 以降

図 5.45 [Configure SR-IOV] メニュー画面表示例

[Configure SR-IOV] メニュー起動直後の画面表示例を、以下に示します。

(1) ページ情報表示部
[Configure SR-IOV] と表示されます。

(2) メニュー選択部
メニューには、「表 5.35 メニュー選択部の表示内容 」に示す項目が表示されます。

表 5.35 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Configure SR-IOV	Configure SR-IOV の有効／無効を設定する。 ・ Enabled ・ Disabled デフォルトは Disabled。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部

カーソル位置に対応して、「表 5.36 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.36 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
SR-IOV	Enabled or Disabled SR-IOV.
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.37 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.37 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■SR-IOV 機能の設定

SR-IOV の設定は、以下の手順で実施します。

1. [SR-IOV] にカーソルを合わせ、[Enter] キーを押します。

図 5.46 SR-IOV の設定操作画面 (1)

2.「図 5.47 SR-IOV の設定操作画面 (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

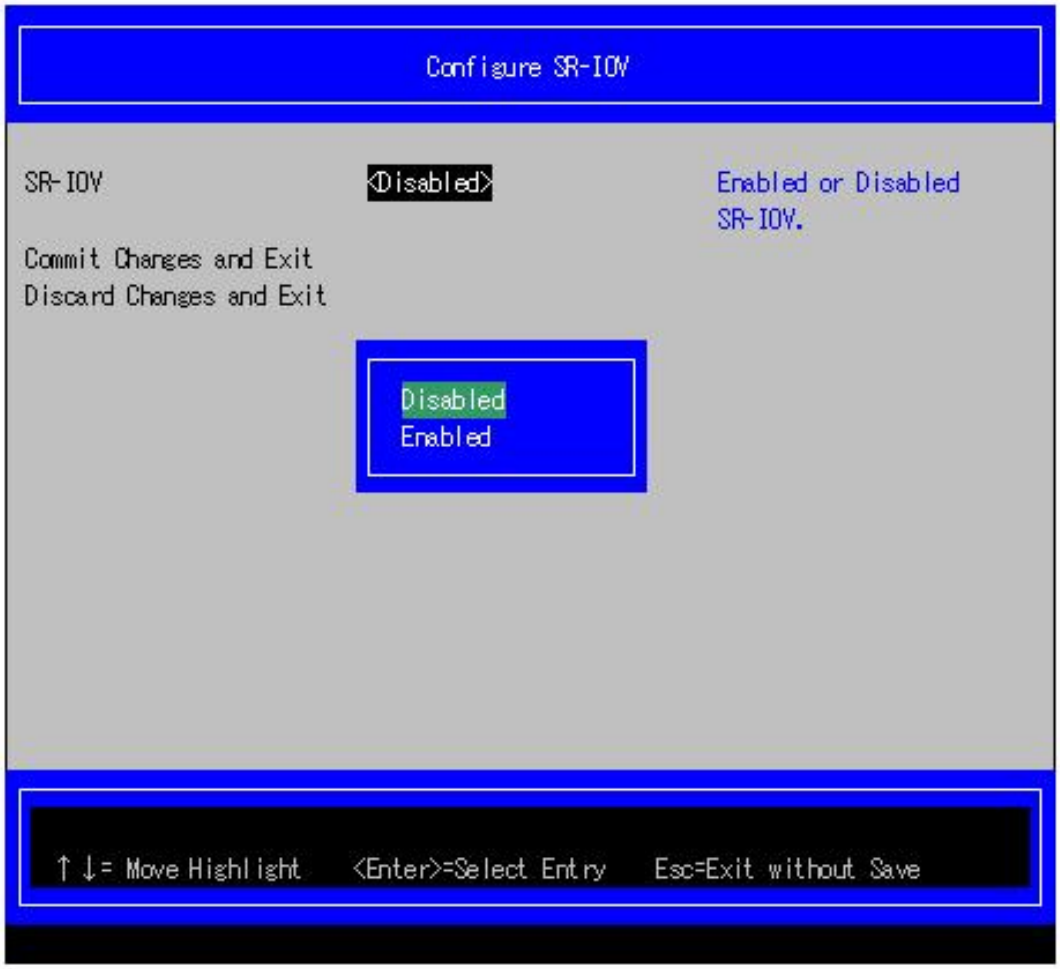


図 5.47 SR-IOV の設定操作画面 (2)

3. SR-IOV の設定をします。
   SR-IOV を有効にする場合は、[Enabled] を選択します。
   SR-IOV を無効にする場合は、[Disabled] を選択します。

4. [Enter] キーを押します。
   ポップアップが消え、変更した結果が表示されます。

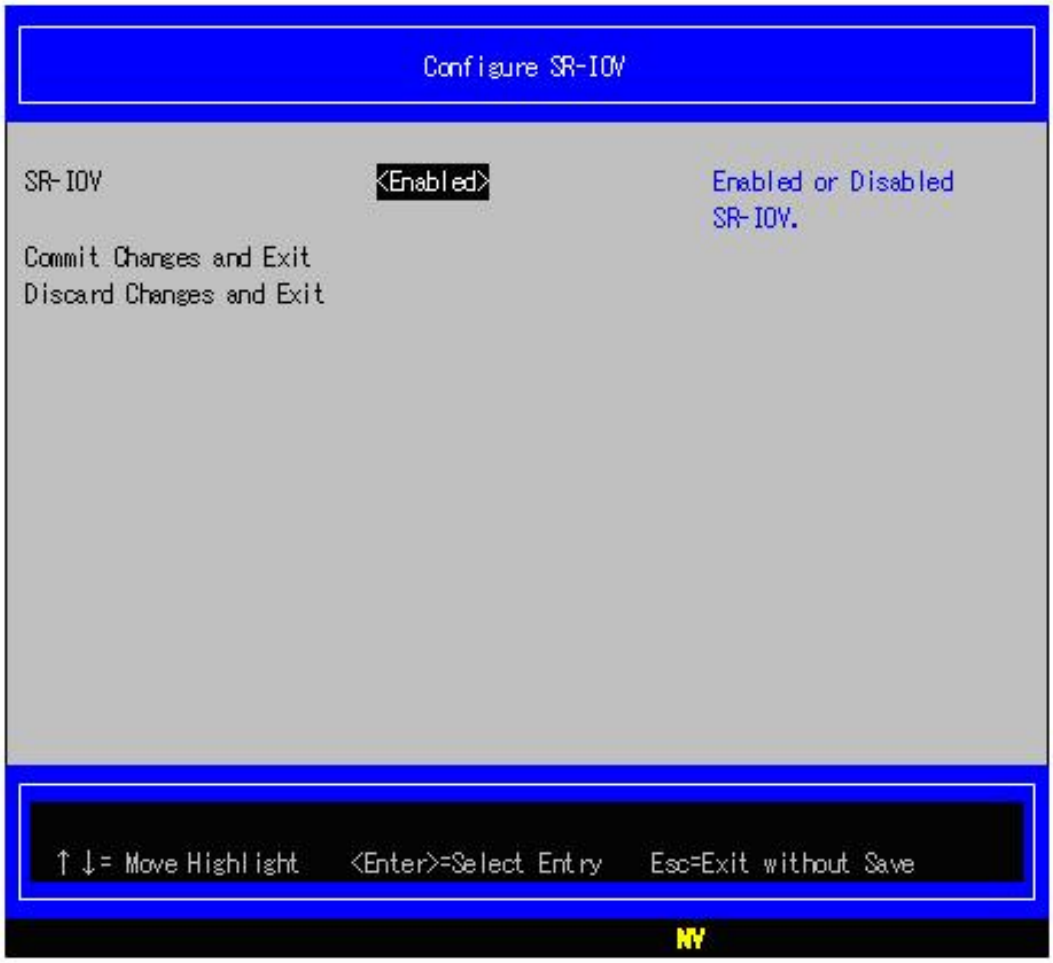


図 5.48 SR-IOV の設定操作画面 (3)

5. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

5.6 [Boot Maintenance Manager] メニュー

[Boot Maintenance Manager] メニューでは、ブートオプションの追加や削除、ブート優先順位の変更、ドライバオプションの変更などを実施できます。操作するメニューにカーソルを合わせて [Enter] キーを押すことによって、各メニューへ移行します。

以下の画面は、[Boot Maintenance Manager] メニューの起動直後の画面です。

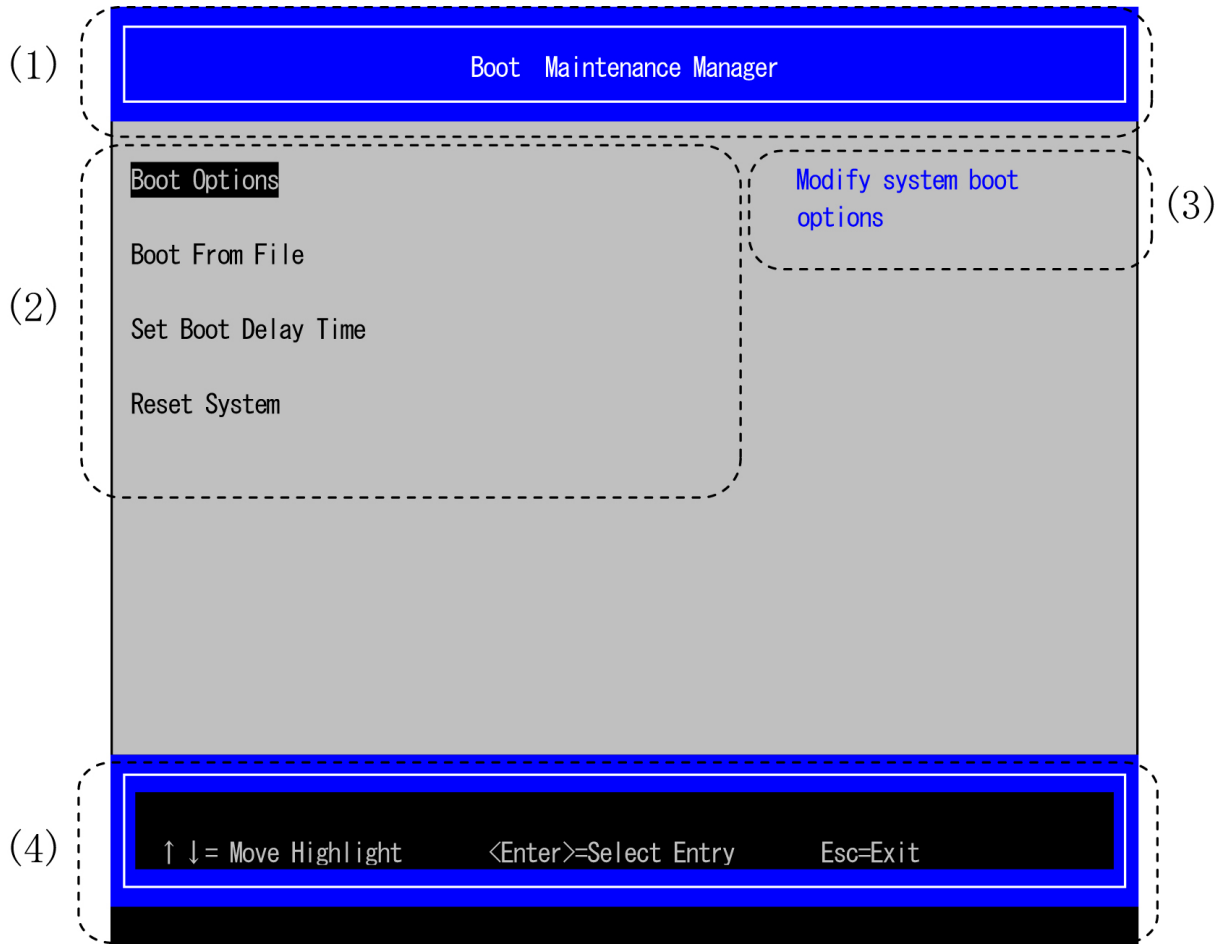


図 5.49 [Boot Maintenance Manager] メニュー

(1) ページ情報表示部
[Boot Maintenance Manager] と表示されます。

(2) メニュー選択部
「表 5.38 メニュー選択部の表示内容」に示すメニューが表示されます。

表 5.38 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Boot Options	「5.6.1 [Boot Options] メニュー」を表示する。
Boot From File	「5.6.2 [Boot From File] メニュー」を表示する。
Set Boot Delay Time	「5.6.3 [Set Boot Delay Time] メニュー」を表示する。

項目	説明
Reset System	システムをリセットする。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.39 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.39 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Boot Options	Modify system boot options
Boot From File	Boot system from a file or device
Set Boot Delay Time	Modify automatic boot time-out value
Reset System	Reset System

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.40 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.40 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

5.6.1 [Boot Options] メニュー

[Boot Options] メニューでは、ブートオプションの追加、削除、および優先順位の変更が可能です。操作するメニューへカーソルを合わせて [Enter] キーを押すことによって、各メニューを表示します。
以下の画面は、[Boot Options] メニューの起動時の画面です。

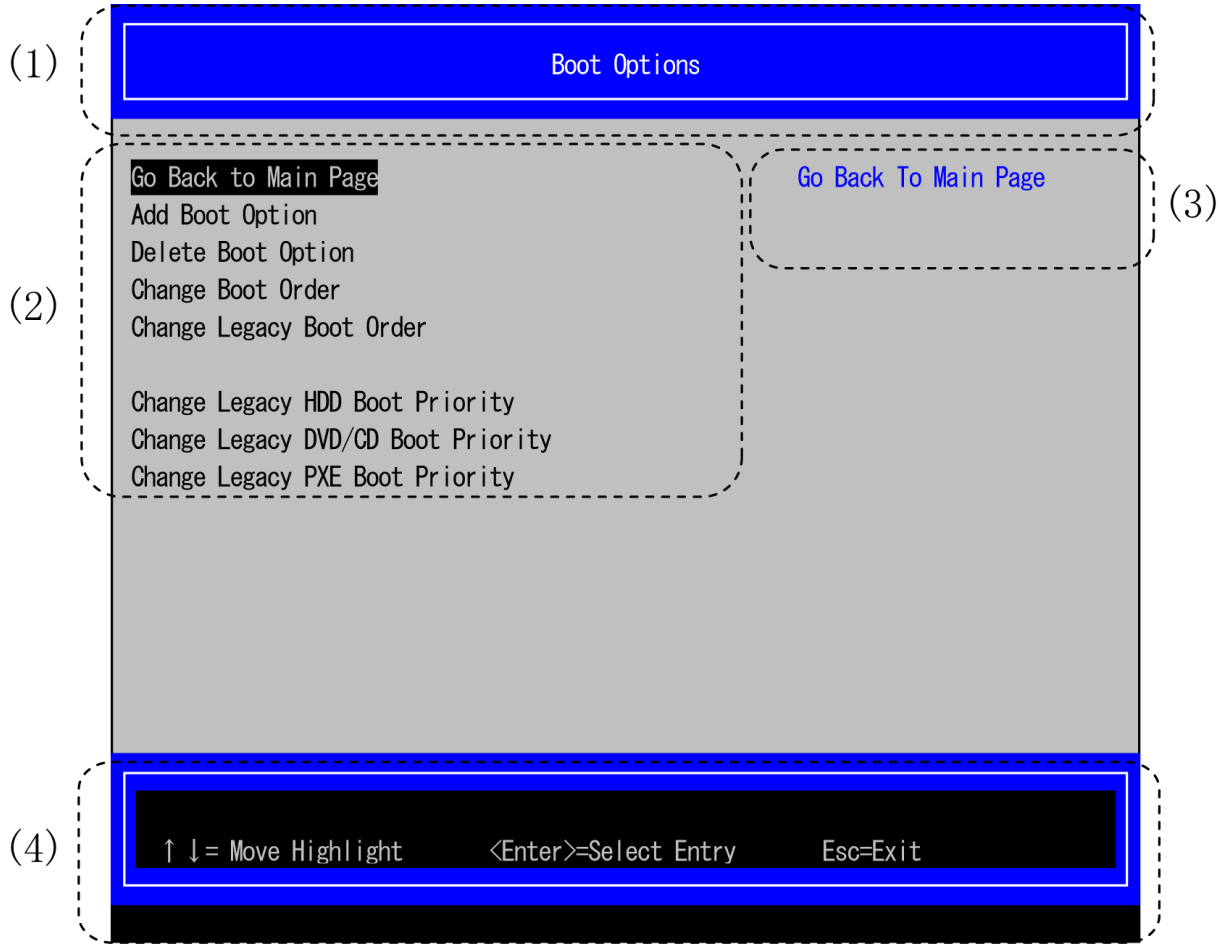


図 5.50 [Boot Options] メニュー

(1) ページ情報表示部
[Boot Options] と表示されます。

(2) メニュー選択部
「表 5.41 メニュー選択部の表示内容」に示すメニューが表示されます。

表 5.41 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Go Back To Main Page	「5.6 [Boot Maintenance Manager] メニュー」を表示する。
Add Boot Option	「■[Add Boot Option] メニュー」を表示する。
Delete Boot Option	「■[Delete Boot Option] メニュー」を表示する。
Change Boot Order	「■[Change Boot Order] メニュー」を表示する。
Change Legacy Boot Order	「■[Change Legacy Boot Order] メニュー」を表示する。
Change Legacy HDD Boot Priority	「■[Change Legacy HDD Boot Priority] メニュー」を表示する。
Change Legacy DVD/CD Boot Priority	「■[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニュー」を表示する。

項目	説明
Change Legacy PXE Boot Priority	「■[Change Legacy PXE Boot Priority] メニュー」を表示する。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.42 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.42 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Go Back to Main Page	Go Back To Main Page
Add Boot Option	Add UEFI Application or Removable Fs as Boot Option
Delete Boot Option	Will be valid on next boot
Change Boot Order	Will be valid on next boot
Change Legacy Boot Order	Change Legacy Boot Order
Change Legacy HDD Boot Priority	Change Legacy HDD Boot Priority
Change Legacy DVD/CD Boot Priority	Change Legacy DVD/CD Boot Priority
Change Legacy PXE Boot Priority	Change Legacy PXE Boot Priority

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.43 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.43 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■[Add Boot Option] メニュー

[Add Boot Option] は、新規ブートオプションを [Boot Manager] メニューに追加するためのものです。
ブートオプションとして追加する OS ブートローダを追加登録すると、以下の図に示すように [Boot Manager] メニューに登録したブートオプションが表示されるようになります。
新規に追加登録したブートオプションは、[Boot Manager] メニューの最後尾に追加されます。

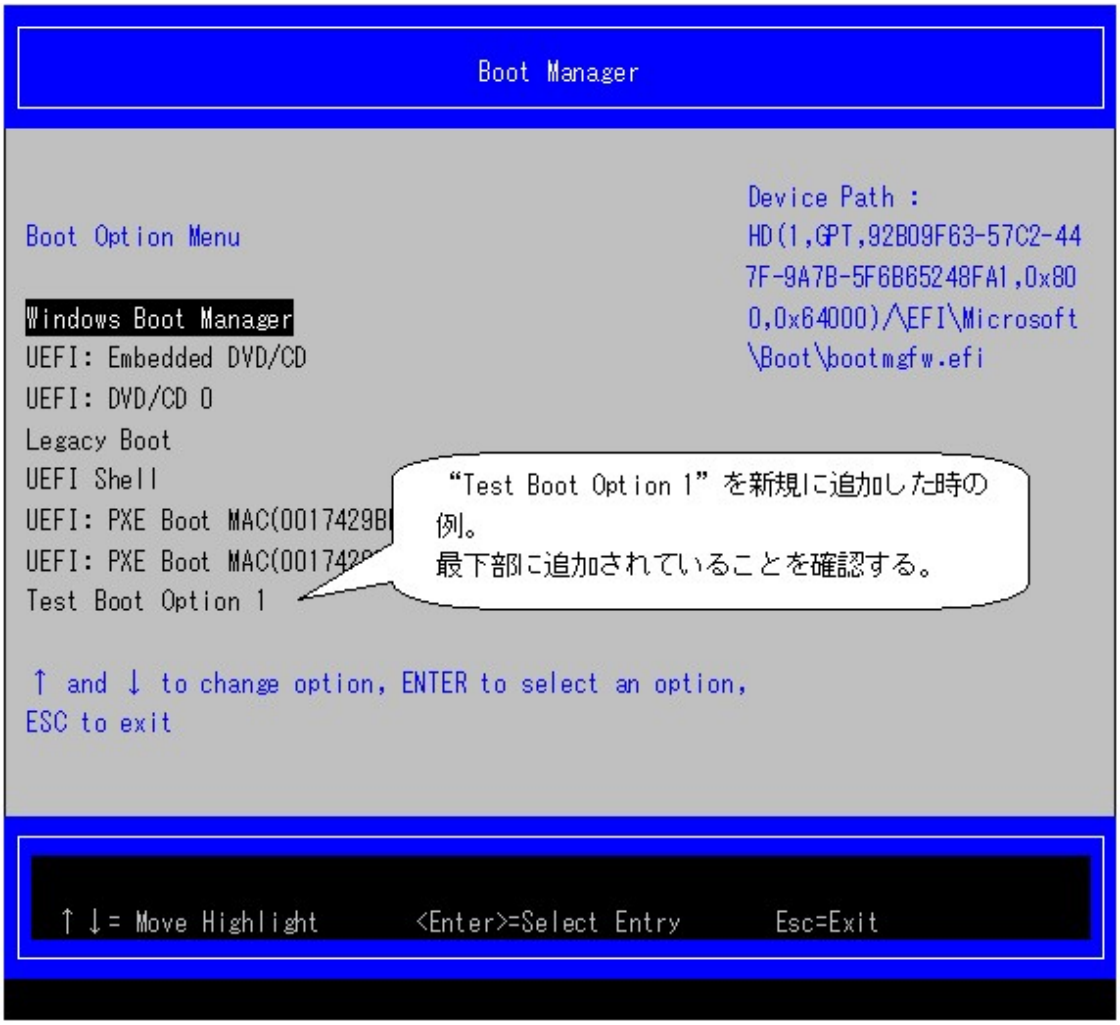


図 5.51 [Boot Manager] メニューの表示例

「図 5.52 [Add Boot Option] メニューの表示例」は、[Add Boot Option] の起動直後の画面です。この図のように、デバイスパス形式でデバイス一覧が表示されます。（デバイスパスについては、「5.7 デバイスパス」で詳述します。）

図 5.52 [Add Boot Option] メニューの表示例
(1) ページ情報表示部
[File Explorer] と表示されます。

(2) メニュー選択部
UEFI が認識したストレージデバイス一覧が表示されます。
(3) メニュー選択ヘルプ表示部
本画面では、この領域には何も表示されません。
(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.44 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.44 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑ ↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit	「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■ブートオプションの追加
ブートオプションの追加は、以下の手順で実施します。

1. 「図 5.53 デバイス一覧 」に示すデバイス一覧から、追加する起動ファイルが格納されているストレージデバイスにカーソルを合わせます。

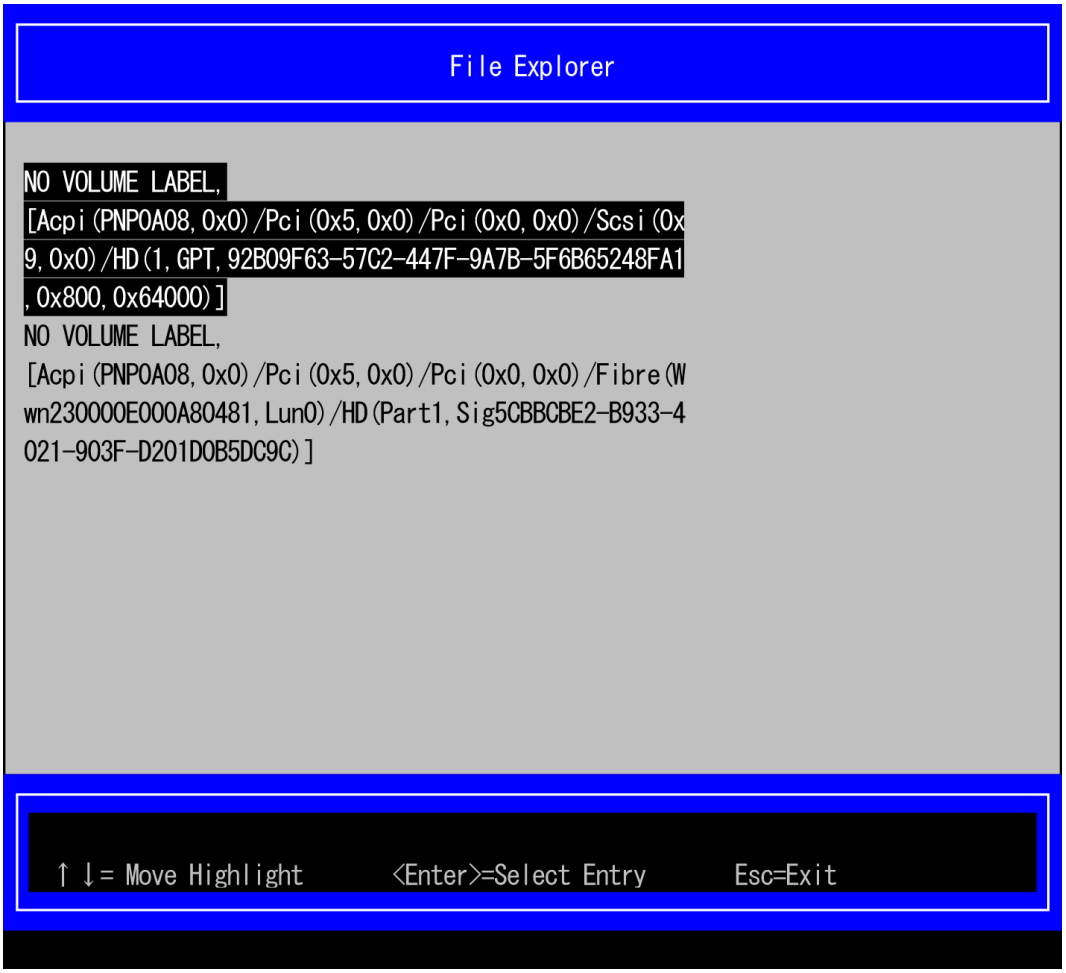


図 5.53 デバイス一覧

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.54 ファイル選択画面の表示例」に示すように、選択したストレージデバイス内のファイル一覧が表示されます。「<>」で囲まれたものは、ディレクトリです。以下は、Windows Server 2008 がインストールされたディスクを選択した場合の表示例です。
Windows Server 2008 の場合、[¥EFI¥Microsoft¥Boot¥bootmgfw.efi] というファイルが OS ブートローダです。

図 5.54 ファイル選択画面の表示例

以下に、このファイルを指定してブートオプションを作成する例を説明します。

備考

Windows Server 2008 がインストールされたディスクのディレクトリ構造

Windows Server 2008 がインストールされたディスクは、以下に示すディレクトリ構造を持っています。

<EFI>
　　<Microsoft>
　　<Boot>
　　<ja-JP>
　　<Fonts>
　　bootmgfw.efi　　OS ブートローダ
　　bootmgr.efi
　　memtest.efi

3. ディレクトリ構造をたどっていき、「図 5.55 Windows Server 2008 インストール済みディスクの画面」に示すように OS ブートローダである [bootmgfw.efi] を表示させます。

図 5.55 Windows Server 2008 インストール済みディスクの画面

4. [↑] キー、[↓] キーを押し、追加登録する OS ブートローダである [bootmgfw.efi] を選択します。

5. [Enter] キーを押します。
「図 5.56 ブートオプション名称変更画面の表示例(1)」に示す画面が表示されます。

図 5.56 ブートオプション名称変更画面の表示例(1)

6. ブートオプションの名称を設定します。
   a. [Input the description] にカーソルを合わせます。
   b. [Enter] キーを押します。
   「図 5.57 ブートオプション名称変更画面の表示例(2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

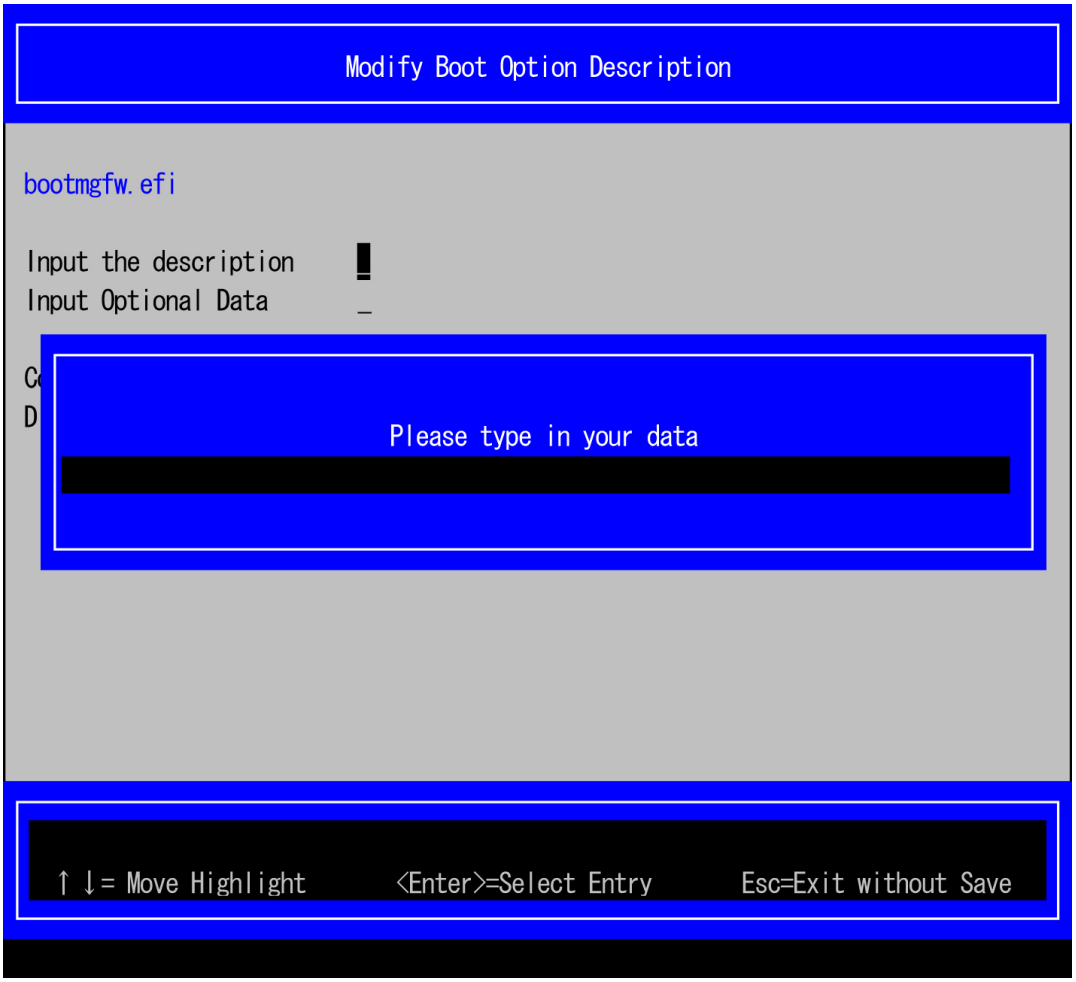


図 5.57 ブートオプション名称変更画面の表示例(2)

7. ポップアップ画面内に文字列を入力します。[Enter] キーを押して入力した文字列を確定し、ポップアップ画面から抜けます。ここでの入力可能文字数、文字種については、「■入力可能文字数、文字種」を参照してください。

8. ブート時のオプションを設定します。
   a. [Input Optional Data] にカーソルを合わせます。
   b. [Enter] キーを押します。
   「図 5.58 ブートオプション名称変更画面の表示例(3)」に示すポップアップ画面が表示されます。

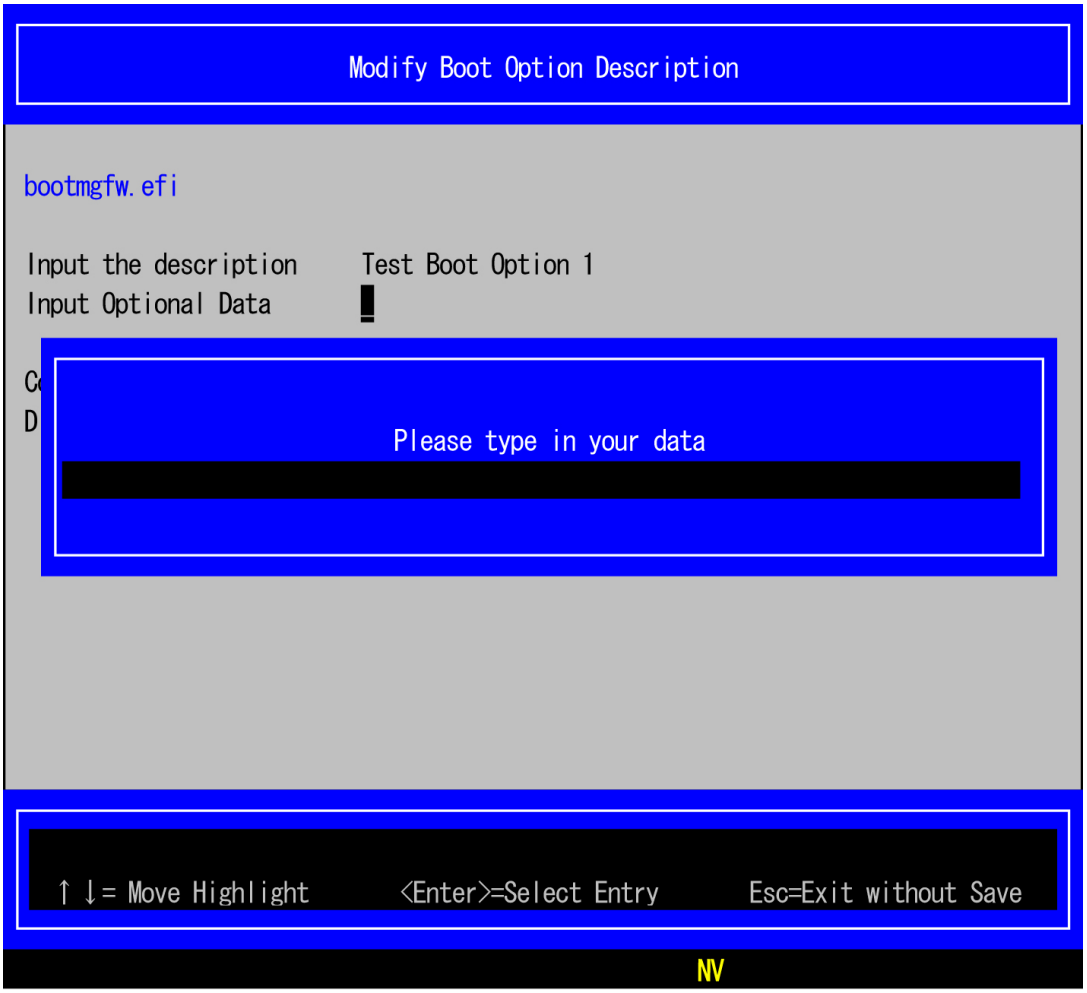


図 5.58 ブートオプション名称変更画面の表示例(3)

9. ポップアップ中に文字列を入力します。[Enter] キーを押して入力した文字列を確定し、ポップアップから抜けます。ここでの入力可能文字数、文字種については、「■入力可能文字数、文字種」を参照してください。

図 5.59 ブートオプション名称変更画面の表示例(4)

10. 次の操作によって、本メニューから抜けます。
    - 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
    - 設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

11. 以下の手順で、ブートオプションが正常に追加されたことを確認します。
    a. Boot Manager フロントページから、[Boot Manager] メニューを開きます。
    「図 5.60 [Boot Manager] メニューの表示例」に示すメニューが表示されます。
    b. 追加したブートオプションが、最下部に表示されていることを確認します。

図 5.60 [Boot Manager] メニューの表示例

■入力可能文字数、文字種

[Add Boot Option] メニューで入力できる文字数、文字種を「表 5.45 入力できる文字数、文字種」に示します。

表 5.45 入力できる文字数、文字種

項目	文字数	文字種
Input the description	6 - 75	0-9、A-Z、a-z、! " # $ % & ' ( ) * + 、 - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~
Input Optional Data	0 - 120	0-9、A-Z、a-z、! " # $ % & ' ( ) * + 、 - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

備考

- 文字数の制限値を超えた入力はできません。仮に制限値を超えてキー入力をしても、制限値以上のキー入力は無視され、画面には反映されません。
- 上記以外の文字種の入力はできません。仮に入力しようとしても無視され、画面には反映されません。
- [Input the description] で文字数が 0-5 のときは、「図 5.61 入力文字数が少ない場合の画面 」に示すポップアップ画面が表示されます。

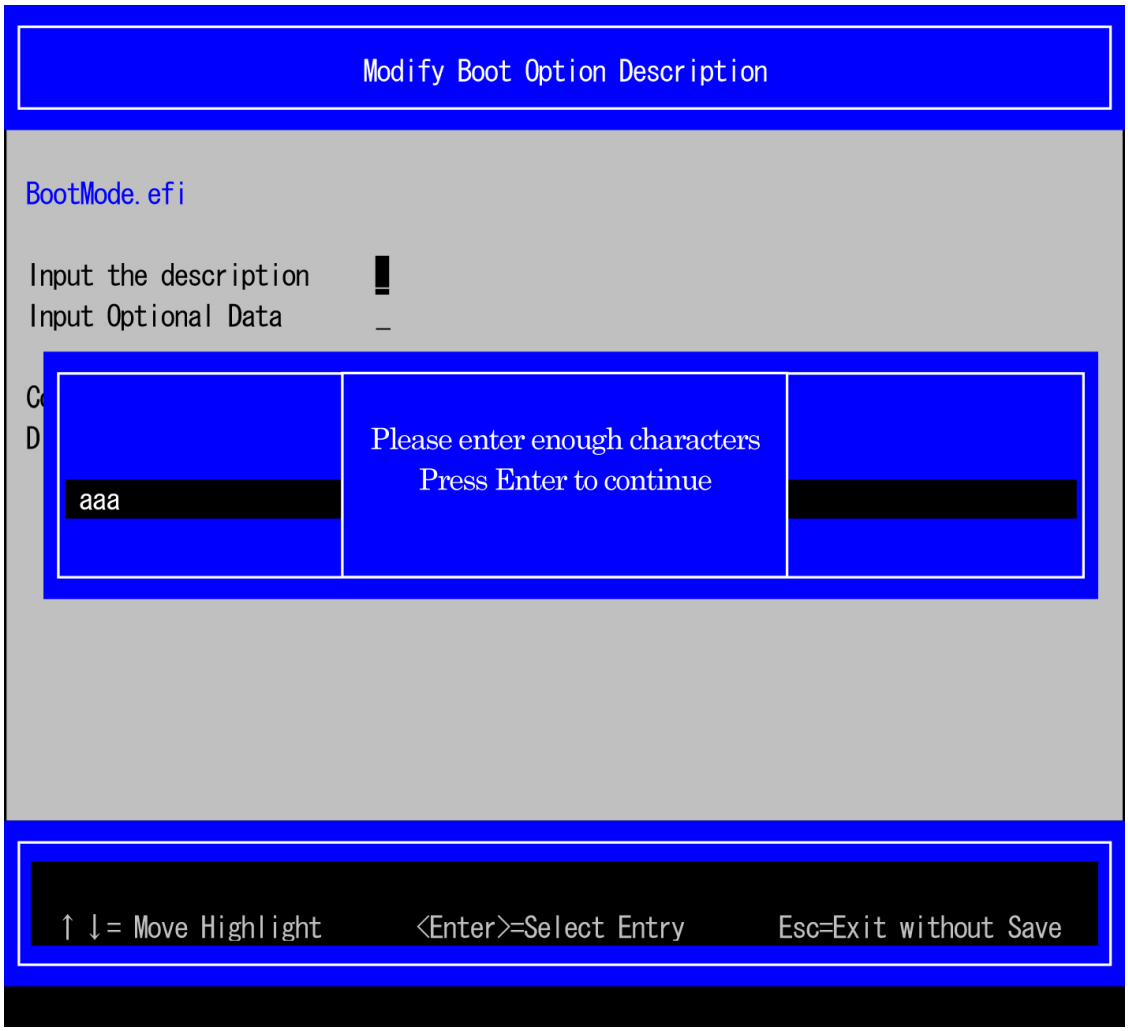


図 5.61 入力文字数が少ない場合の画面

■[Delete Boot Option] メニュー

[Delete Boot Option] メニューは、指定したブートオプションをブートオーダーから削除します。以下の画面は、[Delete Boot Option] メニューの起動直後の画面です。

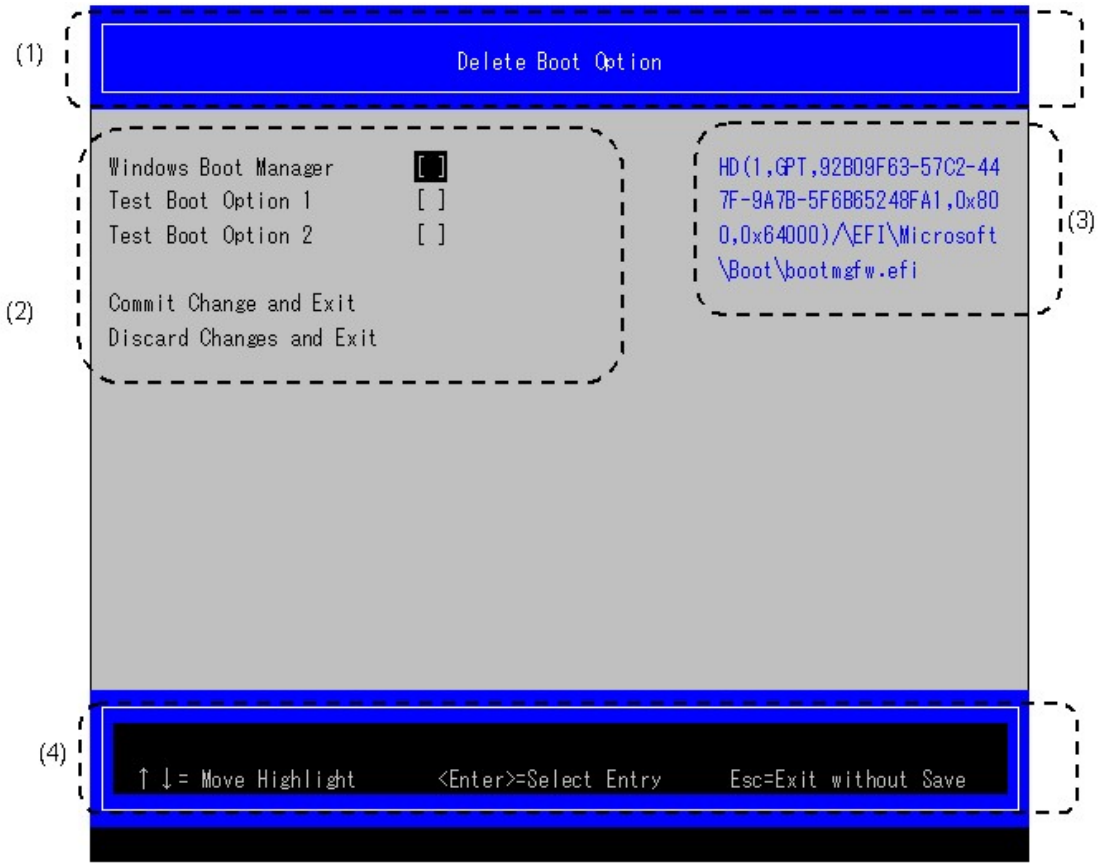


図 5.62 [Delete Boot Option] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Delete Boot Option] と表示されます。

(2) メニュー選択部
上から順に自動ブートの優先順位の高いブートオプションが表示されます。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.46 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.46 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
ブートオプション	ブートオプションのデバイスパス
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.47 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.47 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑ ↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■ブートオプション削除

ブートオプションの削除は、以下の手順に従って実施します。

1. 削除するブートオプションにカーソルを合わせます。

図 5.63 ブートオプションの削除画面(1)

2. [Space] キーを押します。
「図 5.64 ブートオプションの削除画面(2)」に示すように、[ ] が [X] に変わります。

図 5.64 ブートオプションの削除画面(2)

3. 削除をキャンセルする場合は、もう一度 [Space] キーを押します。
「図 5.65 ブートオプションの削除画面(3)」に示すように、[X] が [ ] に戻ります。

図 5.65 ブートオプションの削除画面(3)

4. 再度 [Space] キーを押します。
   再び [ ] が [X] に変わります。

図 5.66 ブートオプションの削除画面(4)

5. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

6. 以下の手順で、ブートオプションが正常に削除されたことを確認します。
   a. Boot Manager フロントページから [Boot Manager] メニューを開きます。
   「図 5.67 ブートオプションの削除画面(5)」に示すメニューが表示されます。
   b. 削除したブートオプションがないことを確認します。

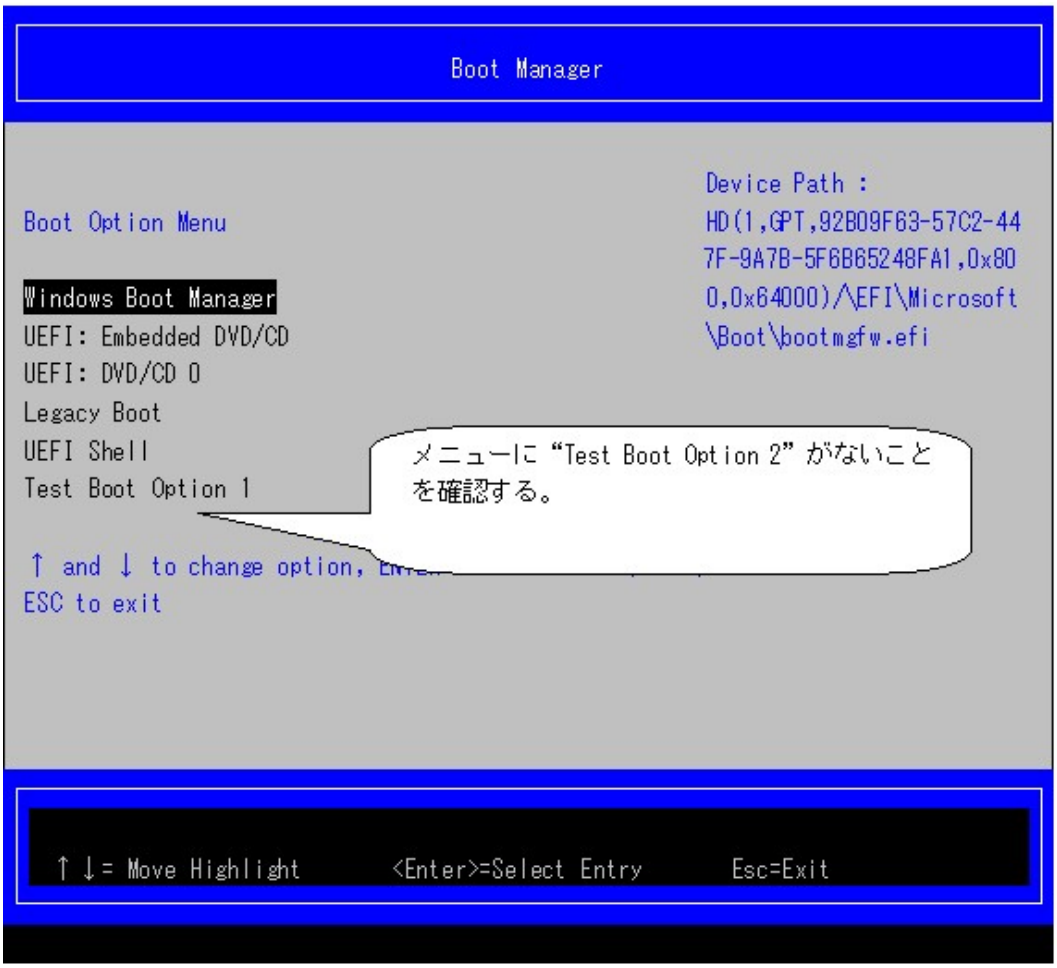


図 5.67 ブートオプションの削除画面(5)

■[Change Boot Order] メニュー

[Change Boot Order] メニューは、ブートオーダーを変更するものです。
以下の画面は、[Change Boot Order] メニューの起動直後の画面です。

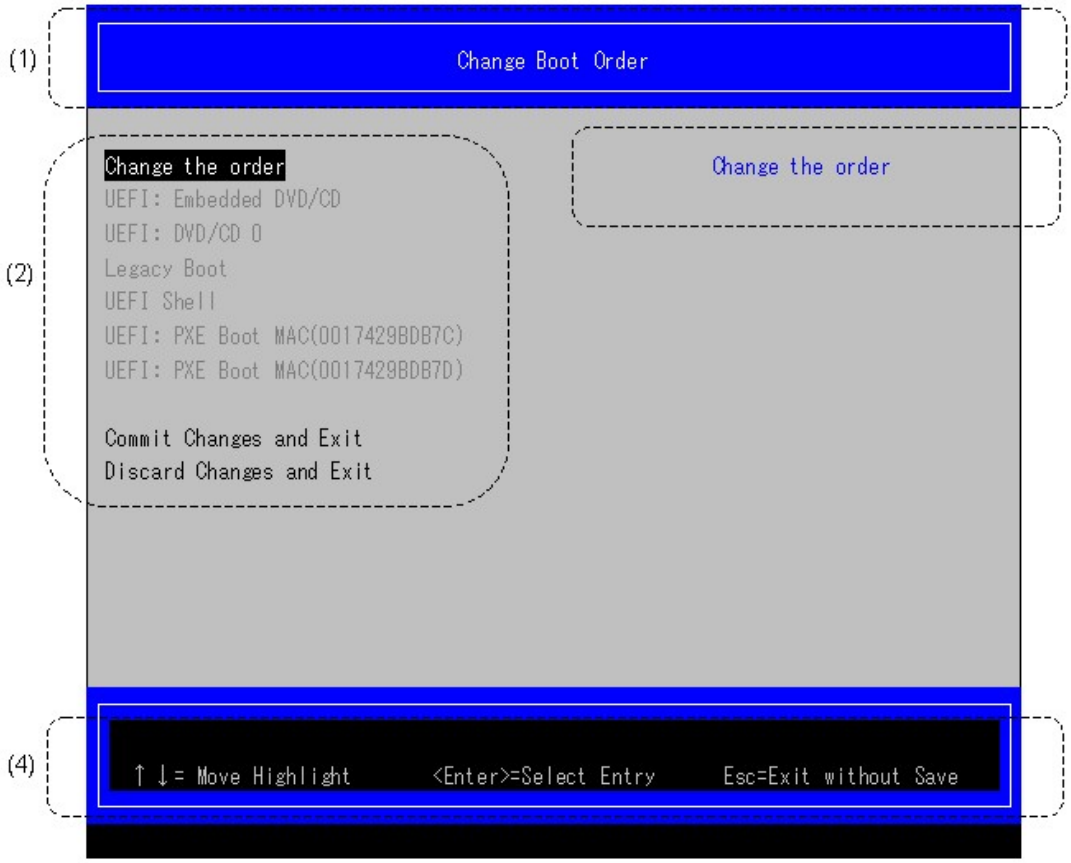


図 5.68 [Change Boot Order] メニュー

(1) ページ情報表示部
[Change Boot Order] と表示されます。

(2) メニュー選択部
「表 5.48 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.48 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Change the order	ブートオーダーの設定変更へ移行する。本項目を実行するとポップアップ画面が表示され、そこで設定変更ができる。変更方法は、このあとの「■優先順位の変更(Change Boot Order)」で詳述する。 また、選択できないがブートオプションも表示する。 ブートオプションの表示順は、ブートオーダーに従って表示される。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.49 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.49 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Change the order	Change the order
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.50 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.50 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

ポップアップ画面が表示された場合の表示内容を、「表 5.51 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容」に示します。

表 5.51 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
+ =Move Selection Up	ブートオプションのブート優先順位を 1 つ上げる。
- =Move Selection Down	ブートオプションのブート優先順位を 1 つ下げる。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit	ポップアップ画面から抜ける。

■優先順位の変更(Change Boot Order)

ブートオーダーの変更は、以下の手順に従って実施します。

1. 「図 5.69 優先順位の変更画面(Change Boot Order) (1) 」に示す [Change the order] にカーソルを合わせます。

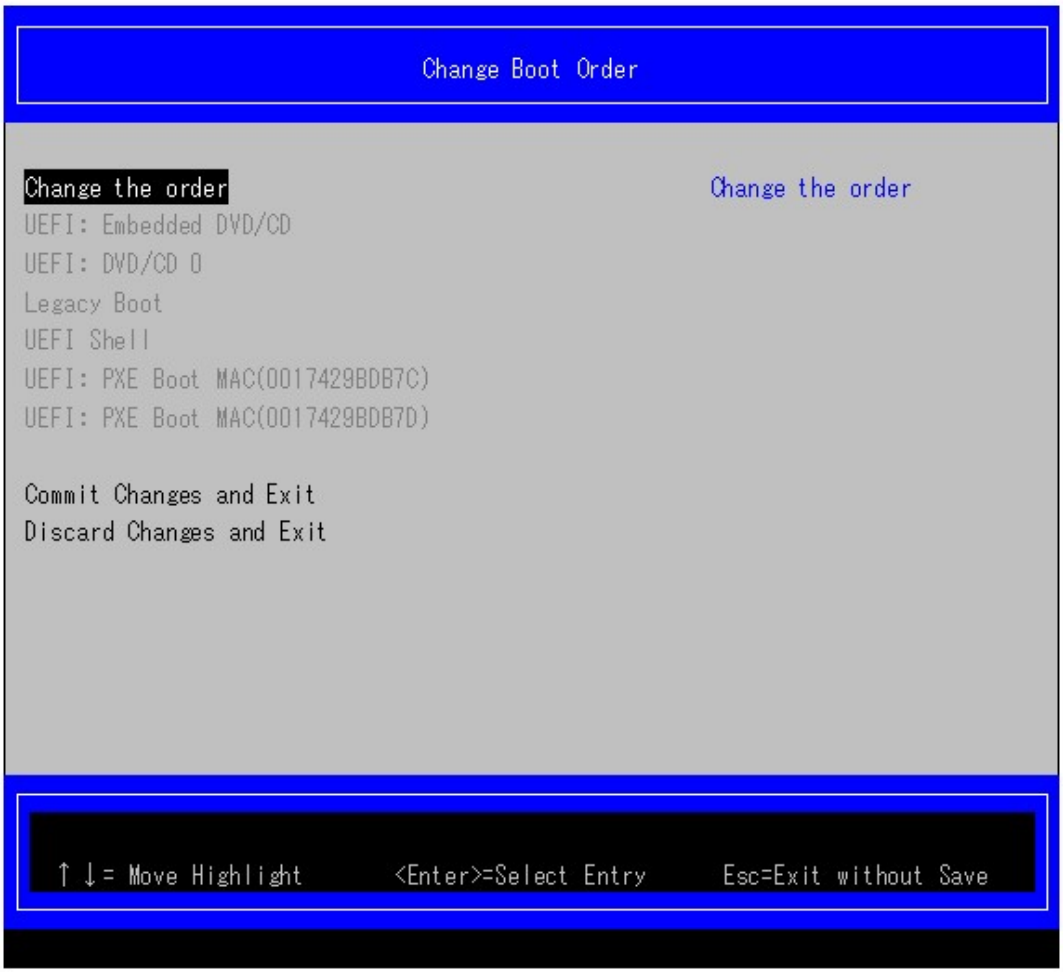


図 5.69 優先順位の変更画面(Change Boot Order) (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.70 優先順位の変更画面(Change Boot Order) (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

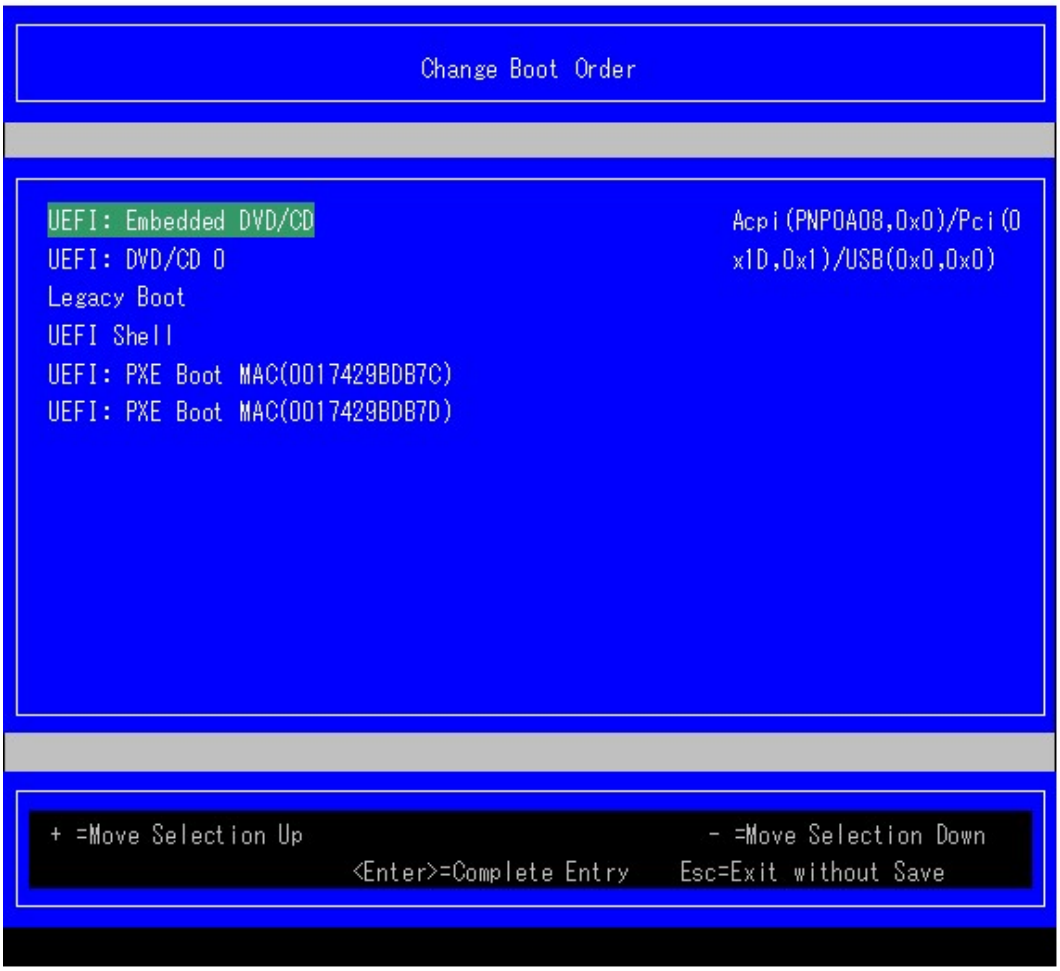


図 5.70 優先順位の変更画面(Change Boot Order) (2)

3. 順序を変更するブートオプションにカーソルを合わせます。

4. 優先順位を変更します。
   - 優先順位を上げる場合は、[＋] キーを押します。
   - 優先順位を下げる場合は、[－] キーを押します。

5. 変更完了後、ポップアップ画面から抜けます。
   - 設定変更を保持したまま抜ける場合は、[Enter] キーを押します。
   - 設定変更を破棄して抜ける場合は、[Esc] キーを押します。

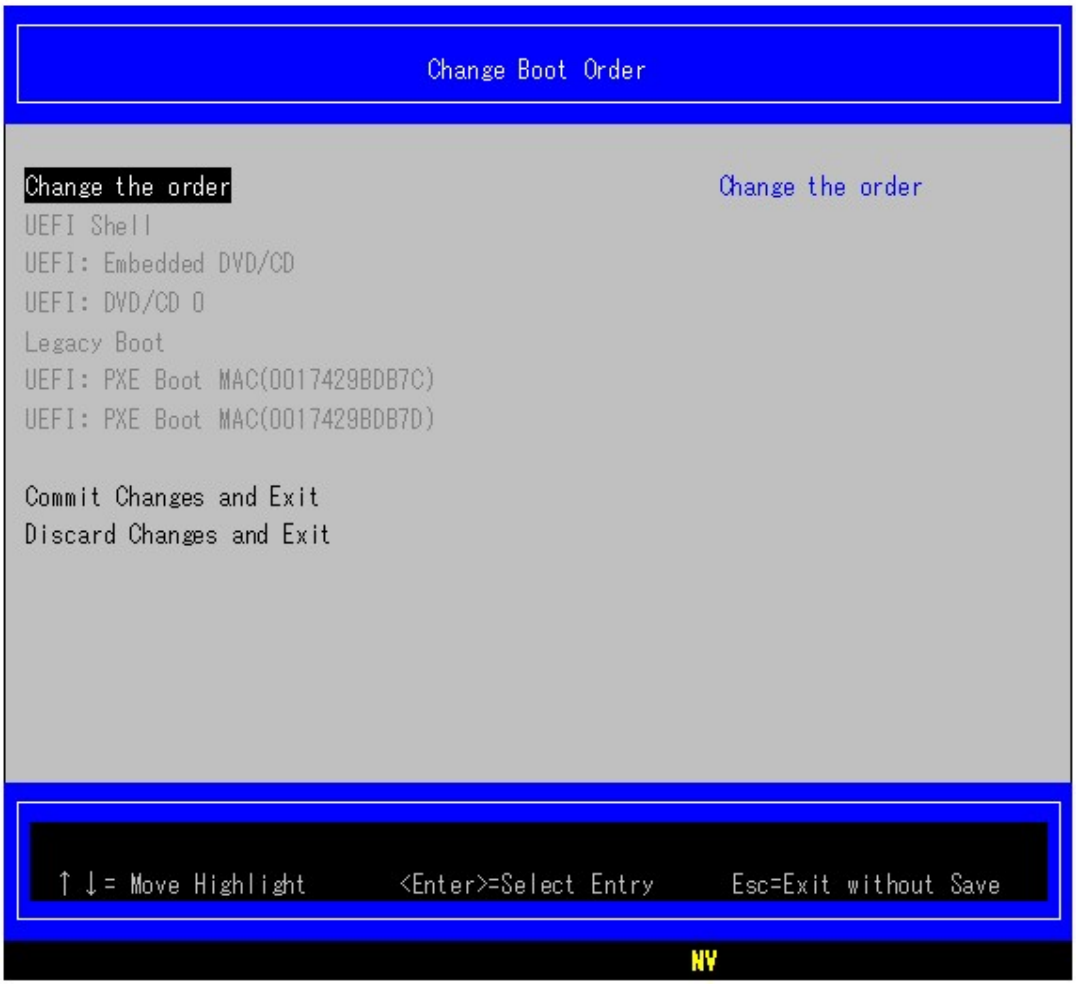


図 5.71 優先順位の設定変更後の画面(Change Boot Order)

6. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

■[Change Legacy Boot Order] メニュー

[Change Legacy Boot Order] メニューは、「Legacy Boot」からレガシーブートをするさいに、どのデバイスタイプからブートするかを決定するためのメニューです。デバイスタイプには、以下の種類があります。

- DVD/CD Device
- HDD Device
- Network Device

デフォルトの優先順位は、DVD/CD Device → HDD Device → Network Device です。
また、デバイスタイプの先頭に「//」が表示された場合は、対象デバイスタイプのブート機能が Disable であることを示します。デフォルトは、すべて Enable です。

以下の画面は、[Change Legacy Boot Order] メニューの例です。

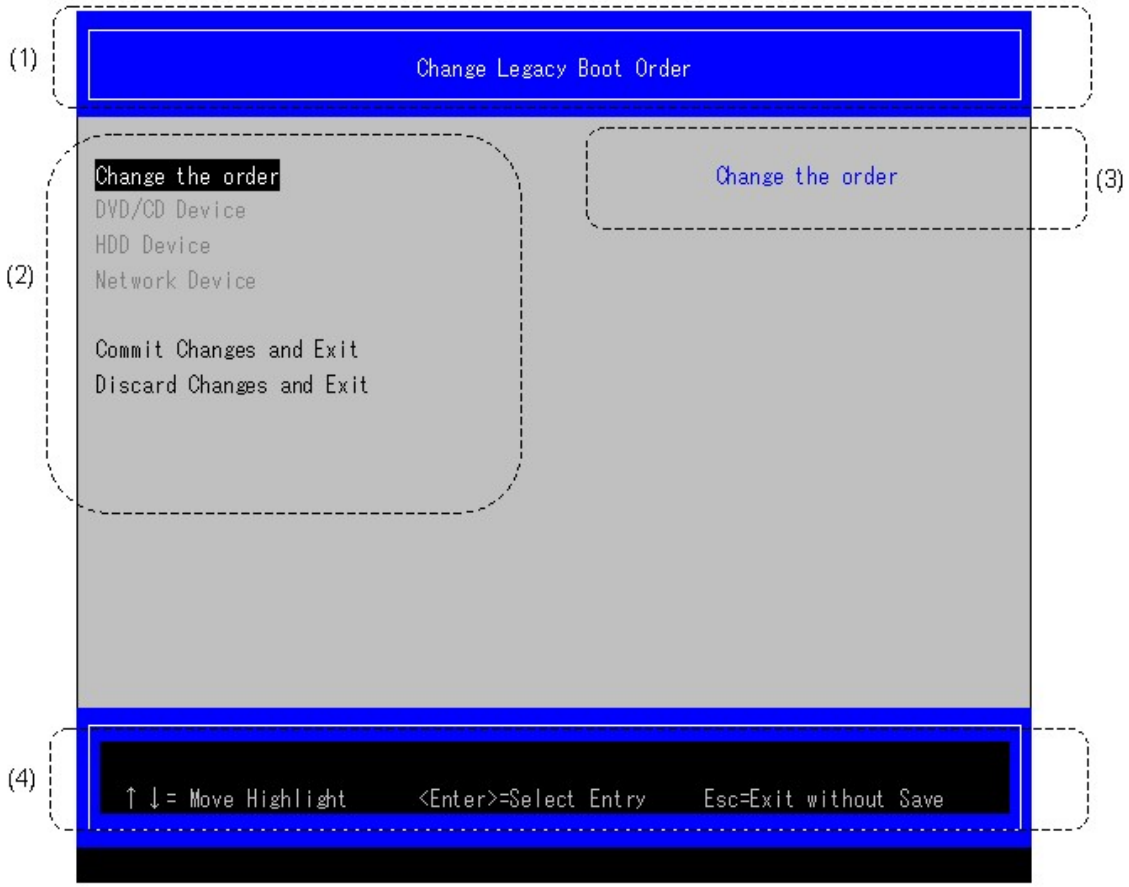


図 5.72 [Change Legacy Boot Order] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Change Legacy Boot Order] と表示されます。

(2) メニュー選択部
「表 5.52 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.52 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Change the order	優先順位の設定変更へ移行する。本項目を実行するとポップアップ画面が表示され、そこで設定変更ができる。変更方法は、このあとの「■優先順位の変更(Change Legacy Boot Order)」で詳述する。 また、選択できないがデバイスタイプも表示される。デバイスタイプの表示順は、起動の優先順に従って表示される。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.53 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.53 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Change the order	Change the order
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.54 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.54 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

ポップアップ画面が表示された場合の表示内容を、「表 5.55 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容」に示します。

表 5.55 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
+ =Move Selection Up	カーソル位置にあるデバイスタイプのブート優先順位を 1 つ上げる。
-=Move Selection Down	カーソル位置にあるデバイスタイプのブート優先順位を 1 つ下げる。
<Space>=Enable/Disable Device	カーソル位置にあるデバイスタイプを Enable/Disable にする。
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit	ポップアップ画面から抜ける。

■優先順位の変更(Change Legacy Boot Order)
デバイスタイプのブート優先順位の変更は、以下の手順に従って実施します。

1. 「図 5.73 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (1) 」に示す画面に表示された [Change the order] にカーソルを合わせます。

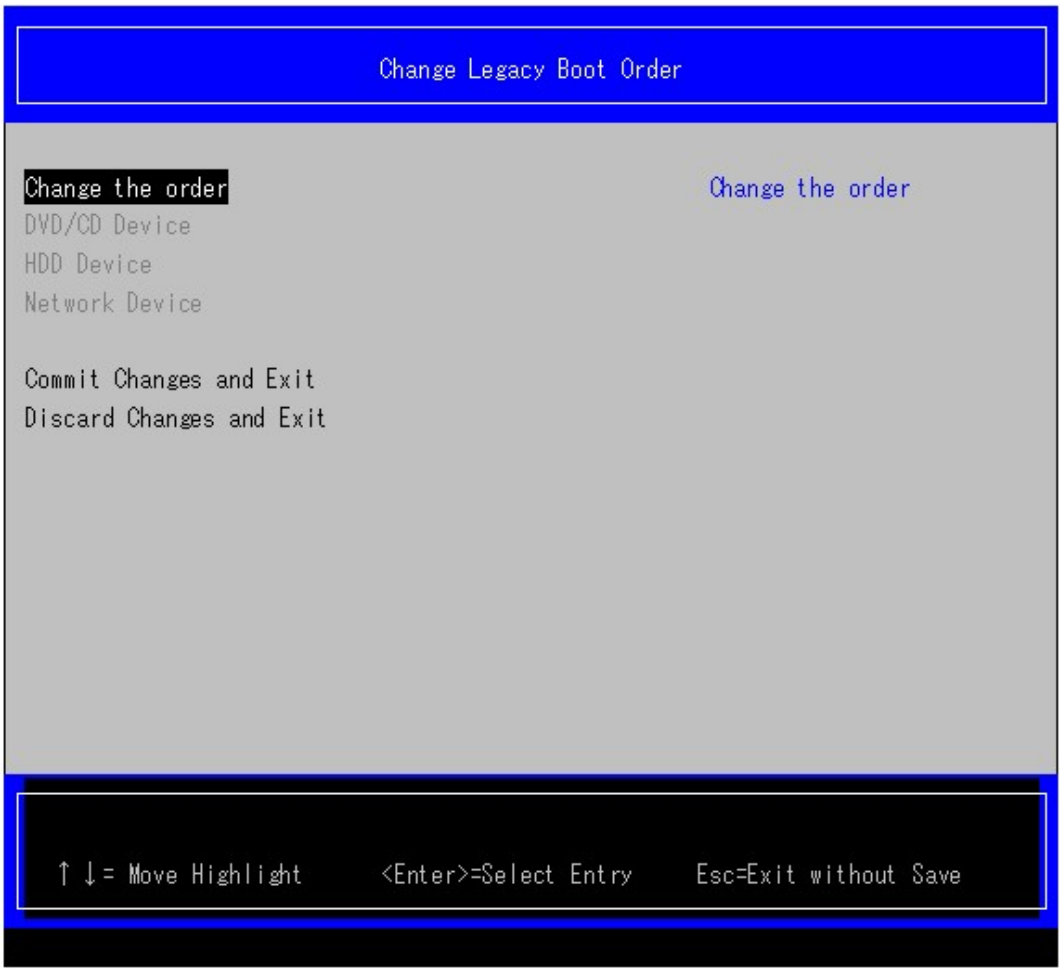


図 5.73 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.74 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

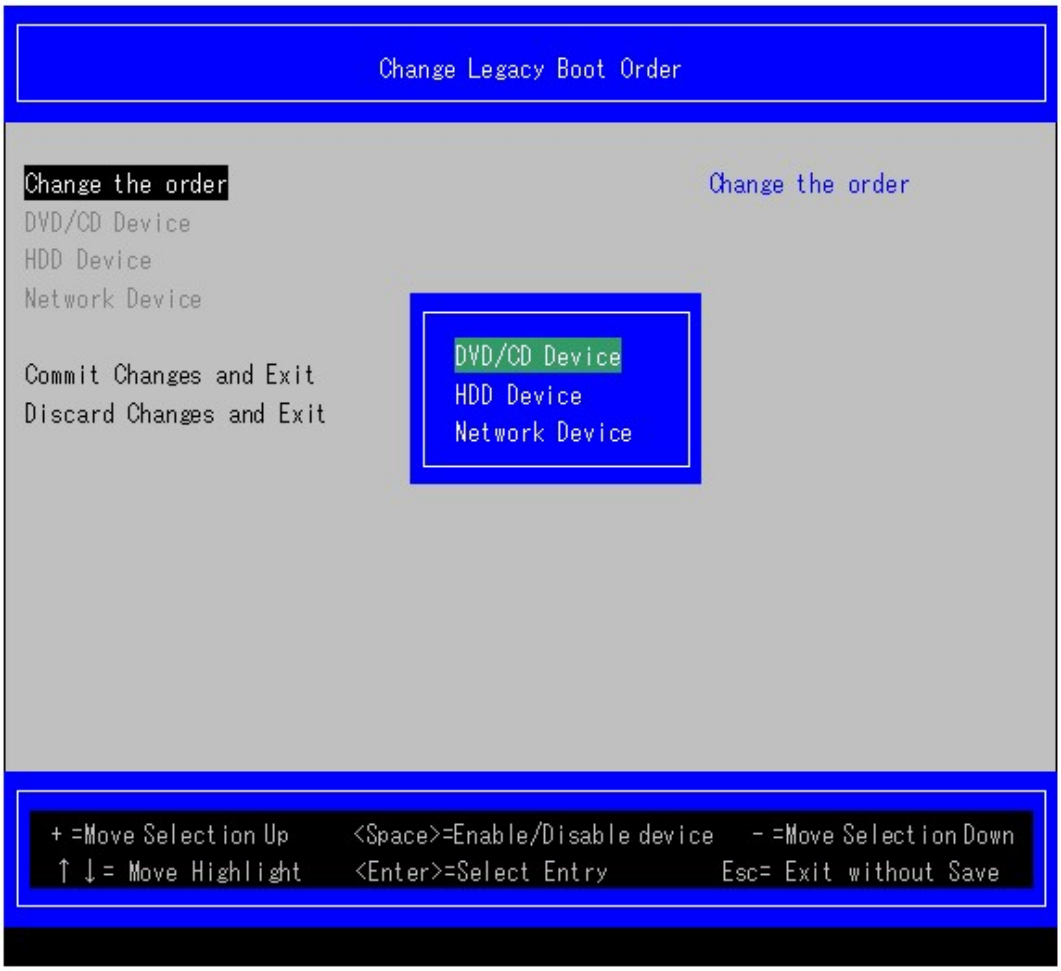


図 5.74 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (2)

3. 順序を変更するデバイスタイプにカーソルを合わせます。

4. 優先順位を変更します。
   - 優先順位を上げる場合は、[＋] キーを押します。
   - 優先順位を下げる場合は、[－] キーを押します。

「図 5.75 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (3)」に示す画面は、[DVD/CD Device] と [HDD Device] の優先順位を入れ替えた場合の画面例です。

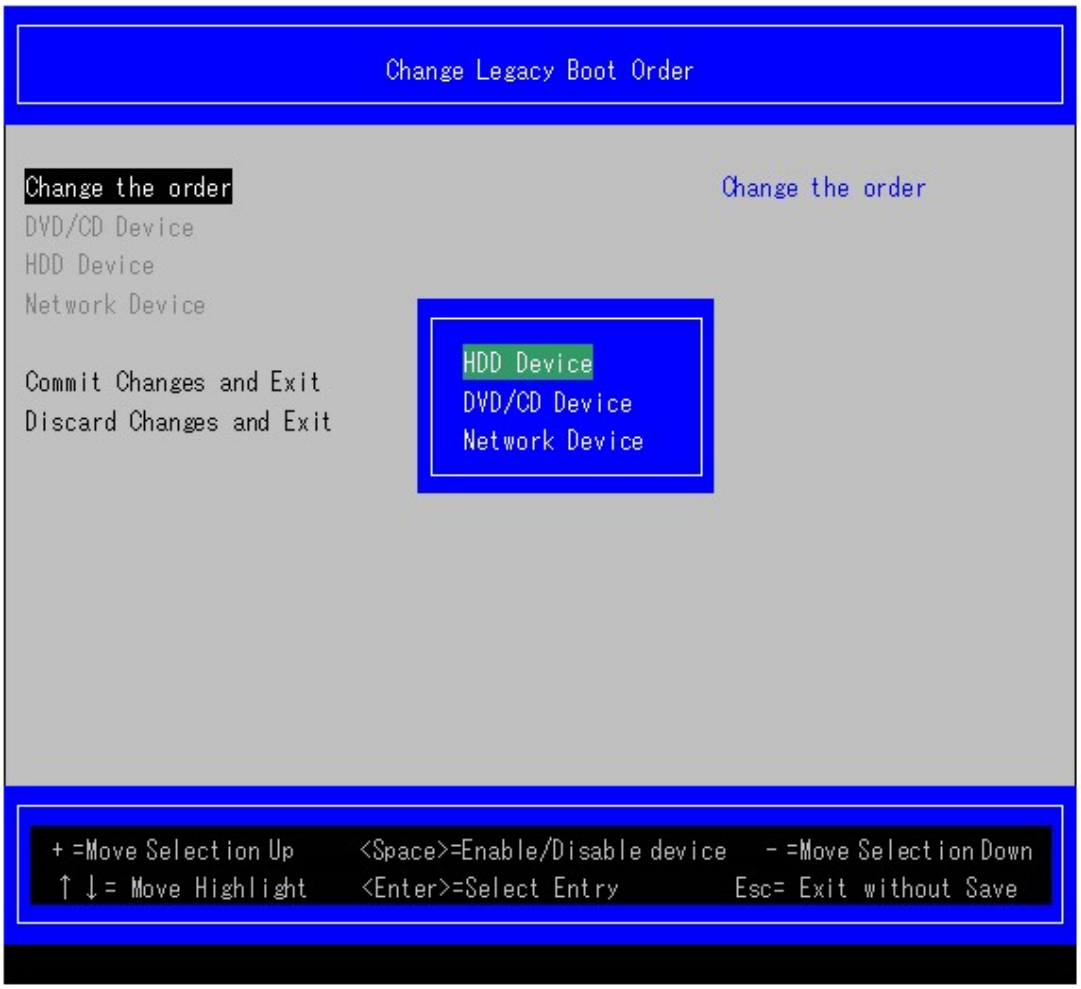


図 5.75 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (3)

5. Enable/Disable を設定します。
   - Disable に設定されているデバイスタイプを Enable に変更するには、[Space] キーを押します。
   - Enable に設定されているデバイスタイプを Disable に変更するには、[Space] キーを押します。

「図 5.76 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (4)」に示す画面は、Disable 設定になっているネットワークポートを、Enable に変更した場合の画面例です。

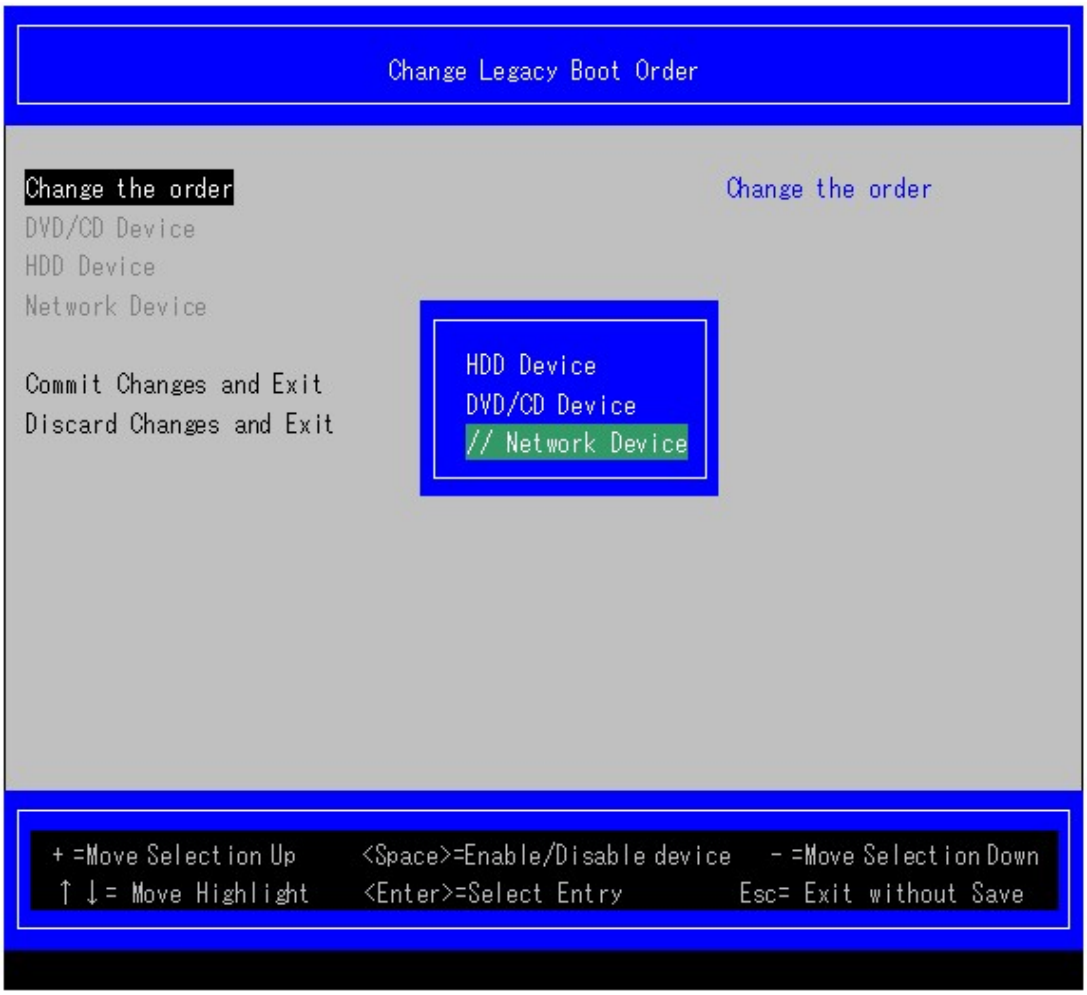


図 5.76 優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (4)

6. 変更完了後、ポップアップ画面から抜けます。
   - 設定変更を保持したまま抜ける場合は、[Enter] キーを押します。
   - 設定変更を破棄して抜ける場合は、[Esc] キーを押します。

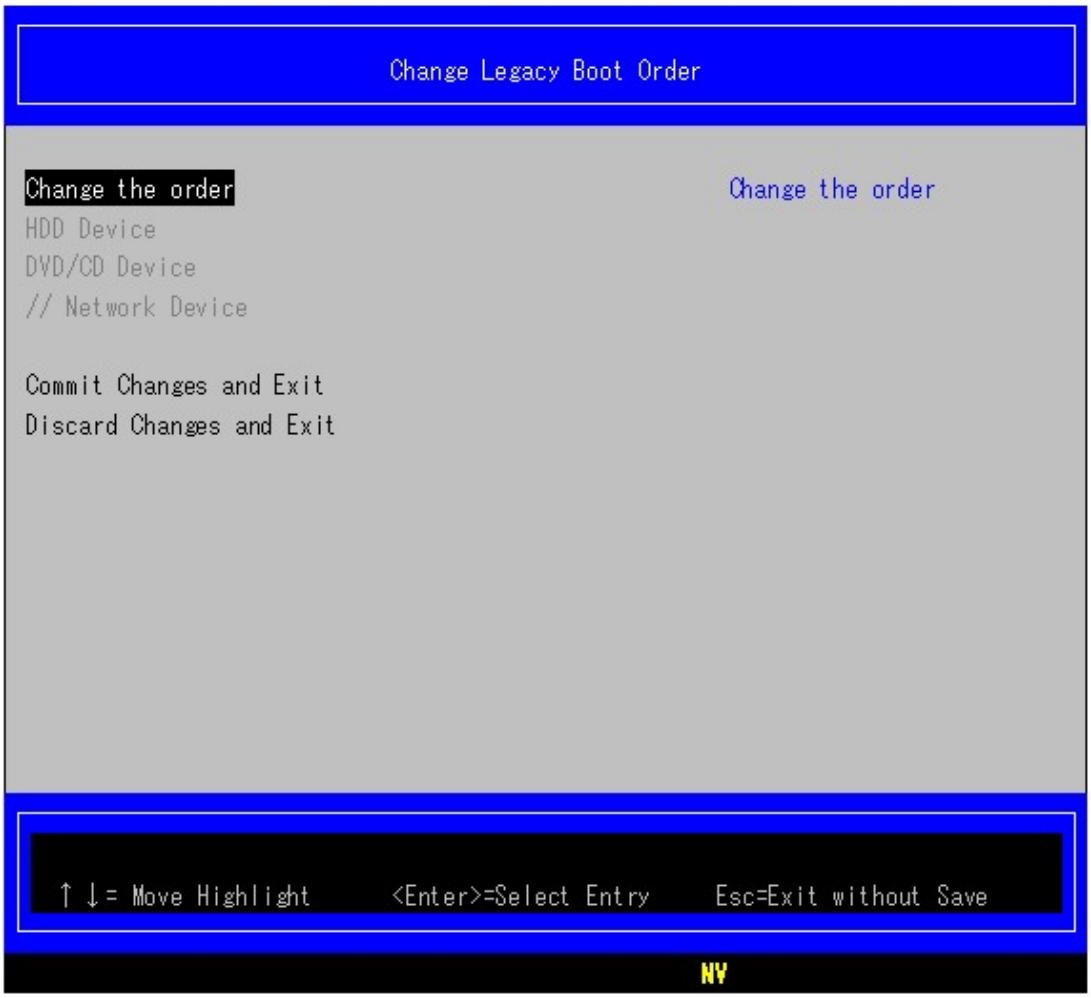


図 5.77 設定変更後の画面表示例(Change Legacy Boot Order)

7. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

■[Change Legacy HDD Boot Priority] メニュー

[Change Legacy HDD Boot Priority] メニューでは、レガシー OS で起動する HDD を設定します。
[Change Legacy HDD Boot Priority] メニュー起動時の画面を、以下に示します。
画面には、HDD の情報が表示されます。一番上に表示された HDD から起動されます。また、HDD 情報の先頭に「//」が表示された場合は、対象 HDD のブート機能が Disable であることを示します。

図 5.78 [Change Legacy HDD Boot Priority] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Change Legacy HDD Boot Priority] と表示されます。

(2) メニュー選択部
「表 5.56 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.56 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Change the order	電源投入後の初期化時に認識した HDD 情報を表示する。初期化以降に構成変更したデバイスは表示しない。そのため、デバイス構成変更後は、システムリセットが必要。なおデバイスの構成変更とは、以下の操作を実行した場合を示す。 ・ USB デバイスの挿抜 ・ ファイバチャネルまたは SAS RAID の設定表示および更新メニューの起動 変更方法は、このあとの「■ 起動対象の HDD の設定 (Change Legacy HDD Boot Priority)」で詳述する。

項目	説明
	また、選択できないが HDD のデバイス一覧も表示される。 HDD の表示順は、HDD ブートオーダーに従って表示される。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.57 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.57 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Change the order	Change the order
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.58 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.58 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

ポップアップ画面が表示された場合の表示内容を、「表 5.59 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容」に示します。

表 5.59 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
+ =Move Selection Up	カーソル位置にあるハードディスクの起動優先順位を 1 つ上げる。
- =Move Selection Down	カーソル位置にあるハードディスクの起動優先順位を 1 つ下げる。
<Space>=Enable/Disable Device	カーソル位置にあるハードディスクを Enable/Disable にする。
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。

項目	説明
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	変更を更新せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■ 起動対象の HDD の設定 (Change Legacy HDD Boot Priority)

起動対象の HDD は、以下の手順のように設定します。

1. 「図 5.79 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (1) 」に示す画面に表示された [Change the order] にカーソルを合わせます。

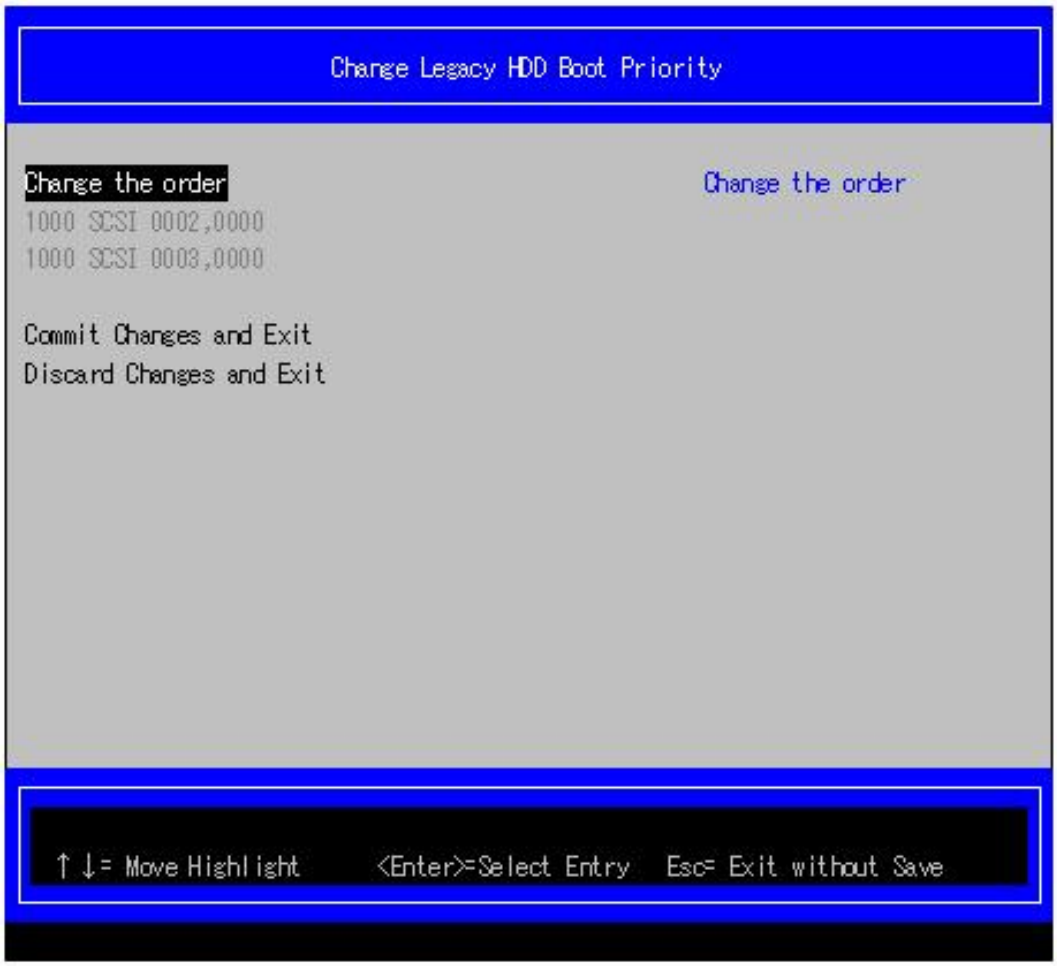


図 5.79 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.80 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

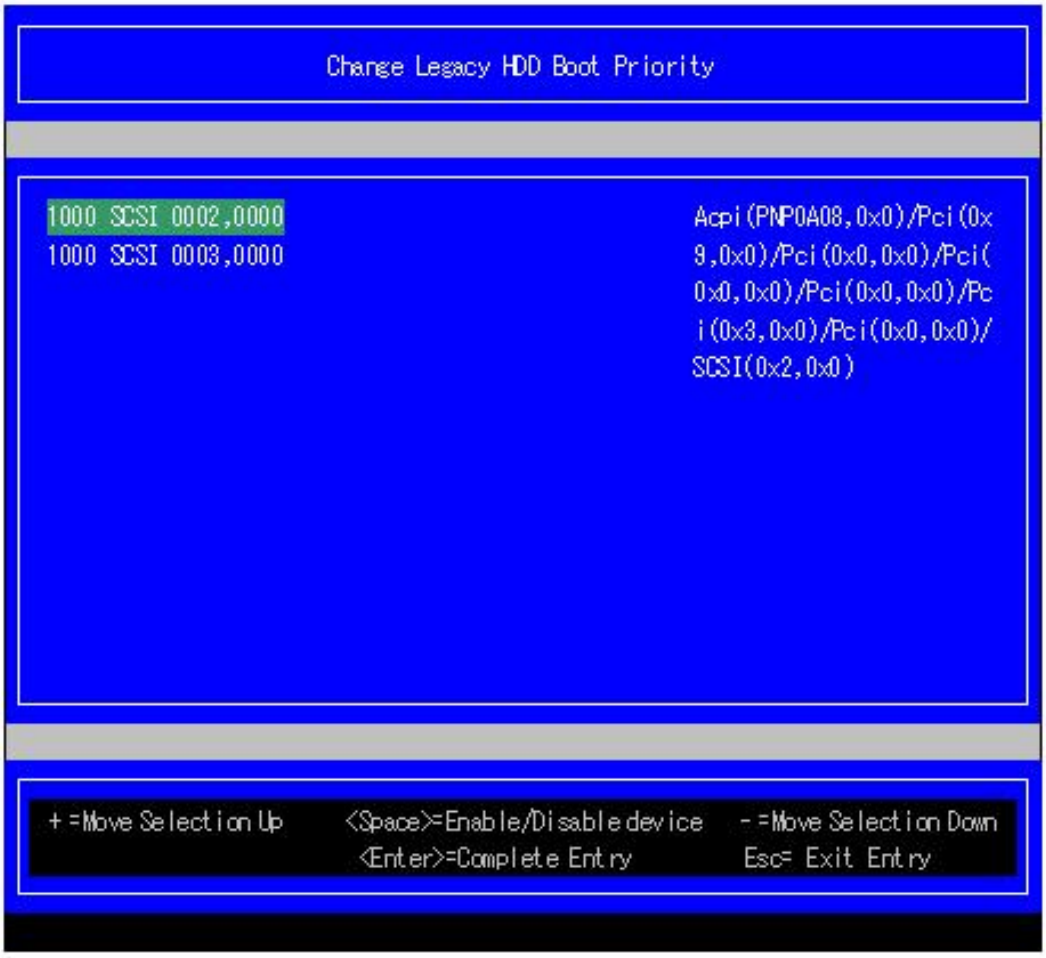


図 5.80 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (2)

3. 順序を変更するブートオプションにカーソルを合わせます。

4. 優先順位を変更します。
   - 優先順位を上げる場合は、[＋] キーを押します。
   - 優先順位を下げる場合は、[－] キーを押します。

「図 5.81 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (3)」は、HDD の優先順位を入れ替えた場合の画面例です。

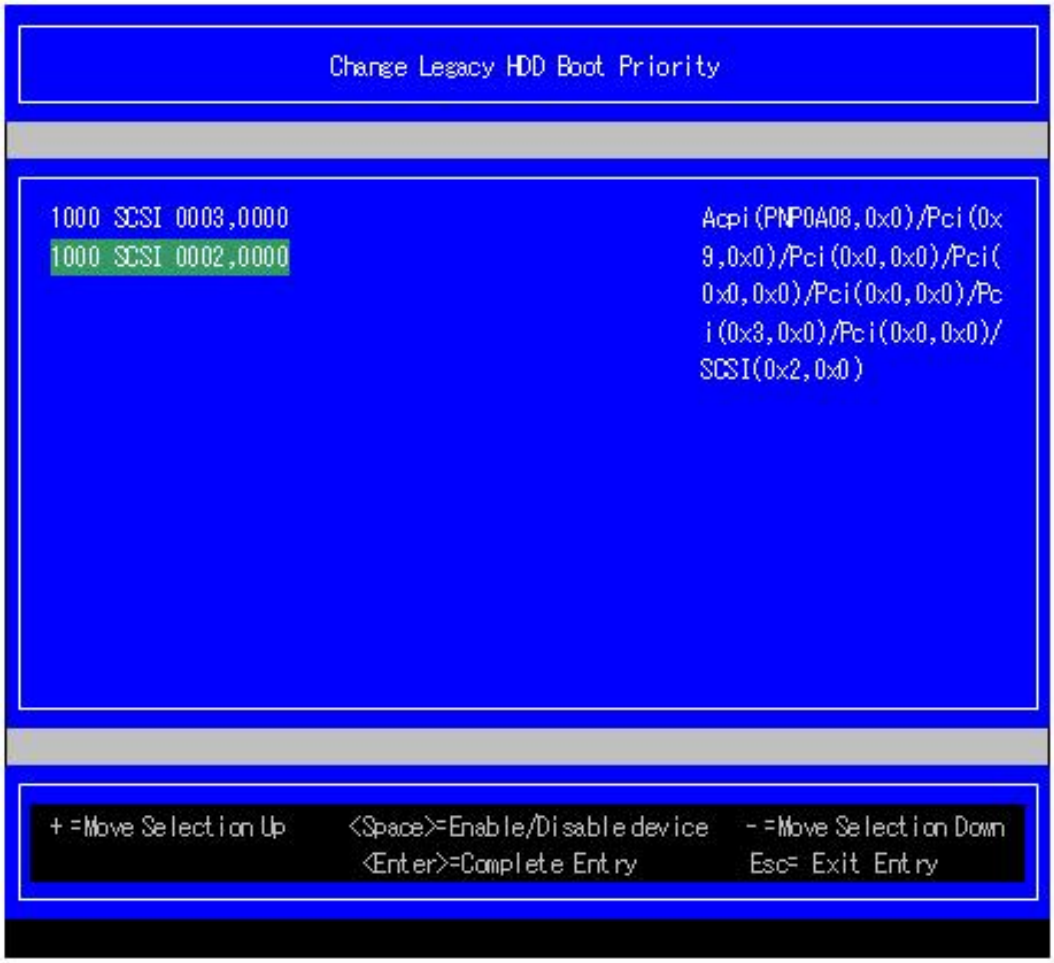


図 5.81 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (3)

5. Enable/Disable を設定します。
   - Disable に設定されている HDD を Enable に変更する場合は、[Space] キーを押します。
   - Enable に設定されている HDD を Disable に変更する場合は、[Space] キーを押します。

   「図 5.82 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (4)」は、Enable 設定になっている HDD を、Disable に変更した場合の画面例です。

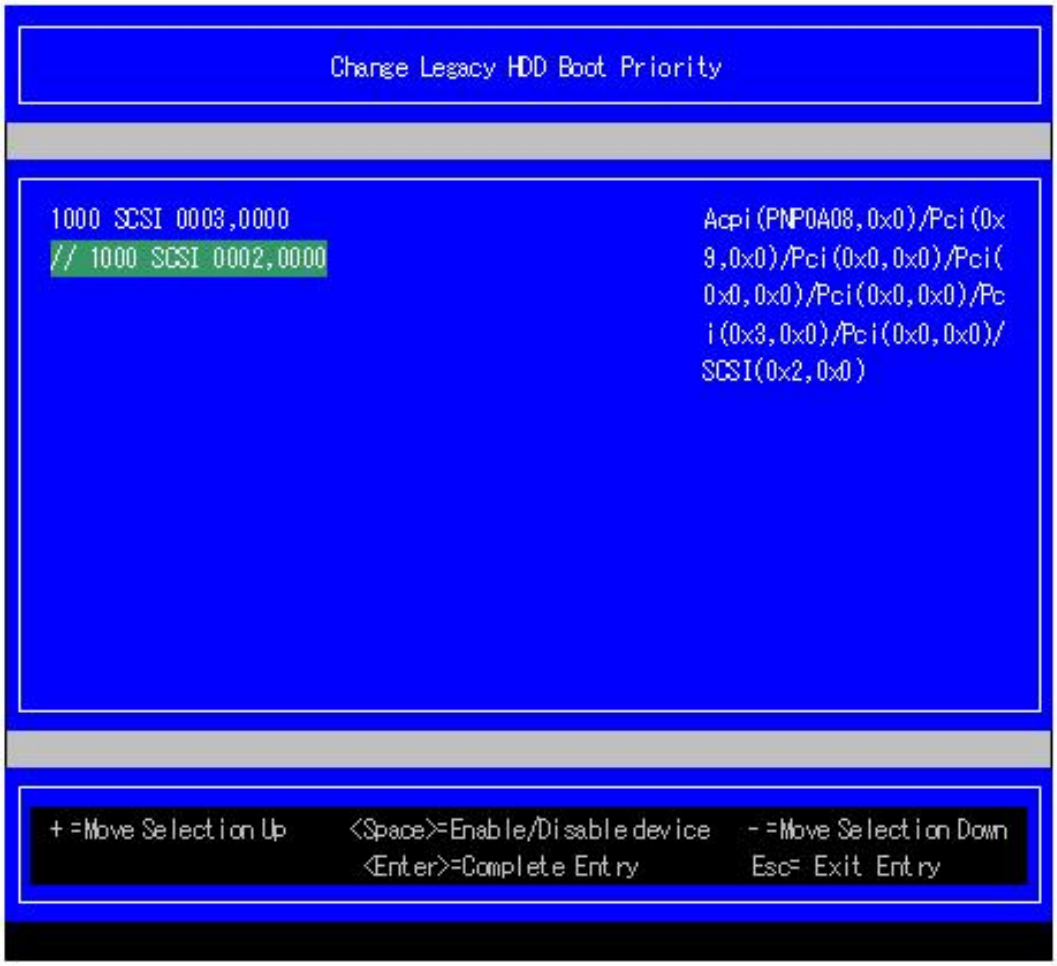


図 5.82 優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (4)

6. 変更完了後、ポップアップ画面から抜けます。
   - 設定変更を保持したまま抜ける場合は、[Enter] キーを押します。
   - 設定変更を破棄して抜ける場合は、[Esc] キーを押します。

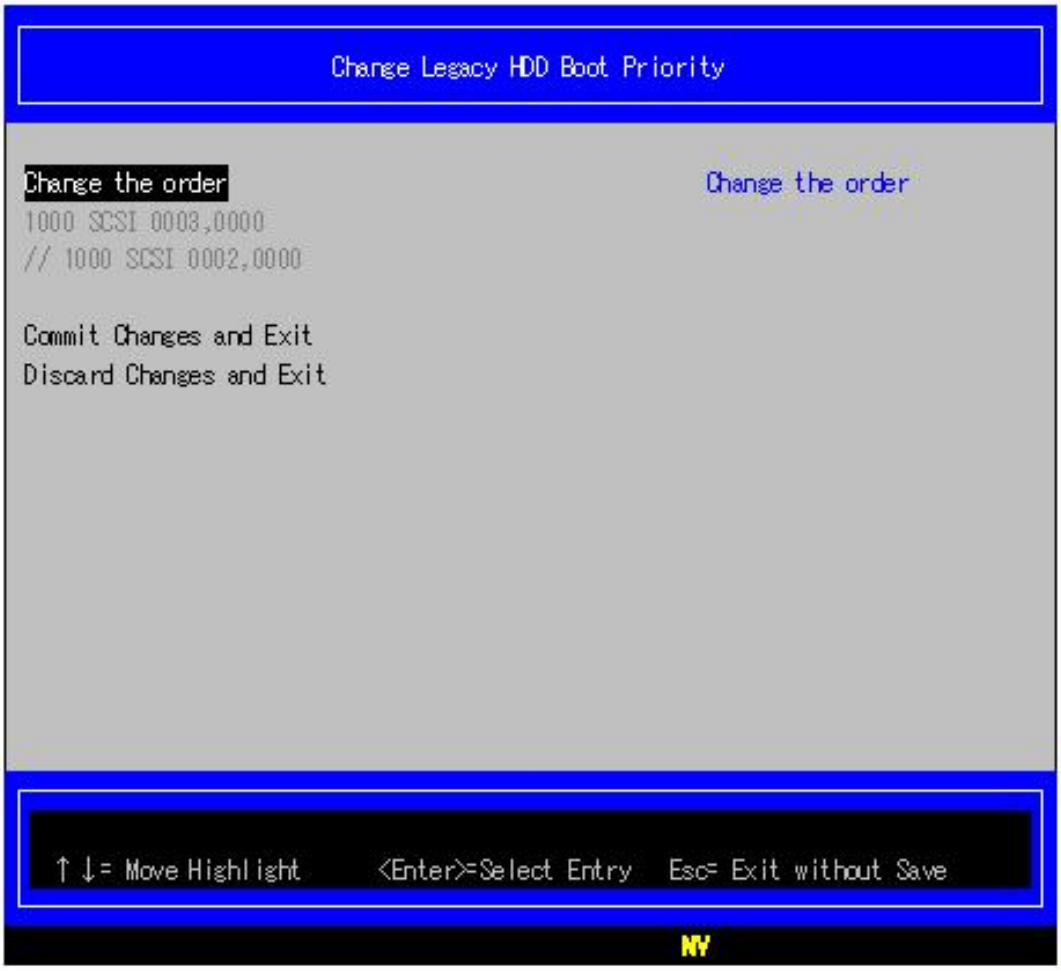


図 5.83 設定変更後の画面表示例(Change Legacy HDD Boot Priority)

7. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

■HDD の識別について

[Change Legacy HDD Boot Priority] メニューで表示する HDD 情報は、SAS/SAS RAID 経由のディスクと、ファイバーチャネル経由のディスクでは、「表 5.60 HDD の表示文字列」に示す表示となります。ファームウェア統合版数 SA11082、SB11071 以降より対応します。

表 5.60 HDD の表示文字列

デバイス	表示文字列
SAS/SAS RAID	xxxx SCSI yyyy,zzzz 説明 xxxx：SAS/SAS RAID コントローラの PCI バス番号、デバイス番号、 ファンクション番号を示す (16 進数) 内訳 xxxx (16 進数) → bbbbbbbb bbbbb bbb (2 進数) (1) (2) (3)

デバイス	表示文字列
	(1)：PCI バス番号 (2)：デバイス番号 (3)：ファンクション番号 SCSI：SAS/SAS RAID コントローラであることを示す yyyy：接続先ストレージの SCSI Target ID (16 進数) zzzz：接続先ストレージの Logical Unit Number (LUN) (16 進数)
Fibre	xxxx FC yyyyyyyyyyyyyyyy,zzzzzzzzzzzzzzzz 説明 xxxx：ファイバーチャネルコントローラの PCI バス番号、デバイス番号、 ファンクション番号を示す (16 進数) 内訳 xxxx (16 進数) → bbbbbbbb bbbbb bbb (2 進数) (1) (2) (3) (1)：PCI バス番号 (2)：デバイス番号 (3)：ファンクション番号 FC：ファイバーチャネルコントローラであることを示す yyyyyyyyyyyyyyyy：接続先ストレージの World Wide Name (WWN) (16 進数) zzzzzzzzzzzzzzzz：接続先ストレージの Logical Unit Number (LUN) (16 進数)

備考

SAS/SASRAID/ファイバーチャネル コントローラは、[Change Legacy HDD Boot Priority] メニューで表示する PCI バス番号、デバイス番号 (セグメント番号は 0 固定) と、MMB Web-UI の [Seg/Bus/Dev] 値が一致する位置に存在します。物理位置は、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「付録 B 物理実装位置、ポート番号」を参照してください。

■[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニュー

[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニューは、DVD/CD ドライブが複数存在する場合に起動デバイスの優先順位を設定するものです。ここで設定した優先順位に従って、Legacy Boot というブートオプションからブートします。

[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニュー起動時の画面を、以下に示します。

画面には、DVD/CD ドライブの情報が表示されます。また、DVD/CD ドライブ情報の先頭に「//」が表示された場合は、対象 DVD/CD ドライブのブート機能が Disable であることを示します。

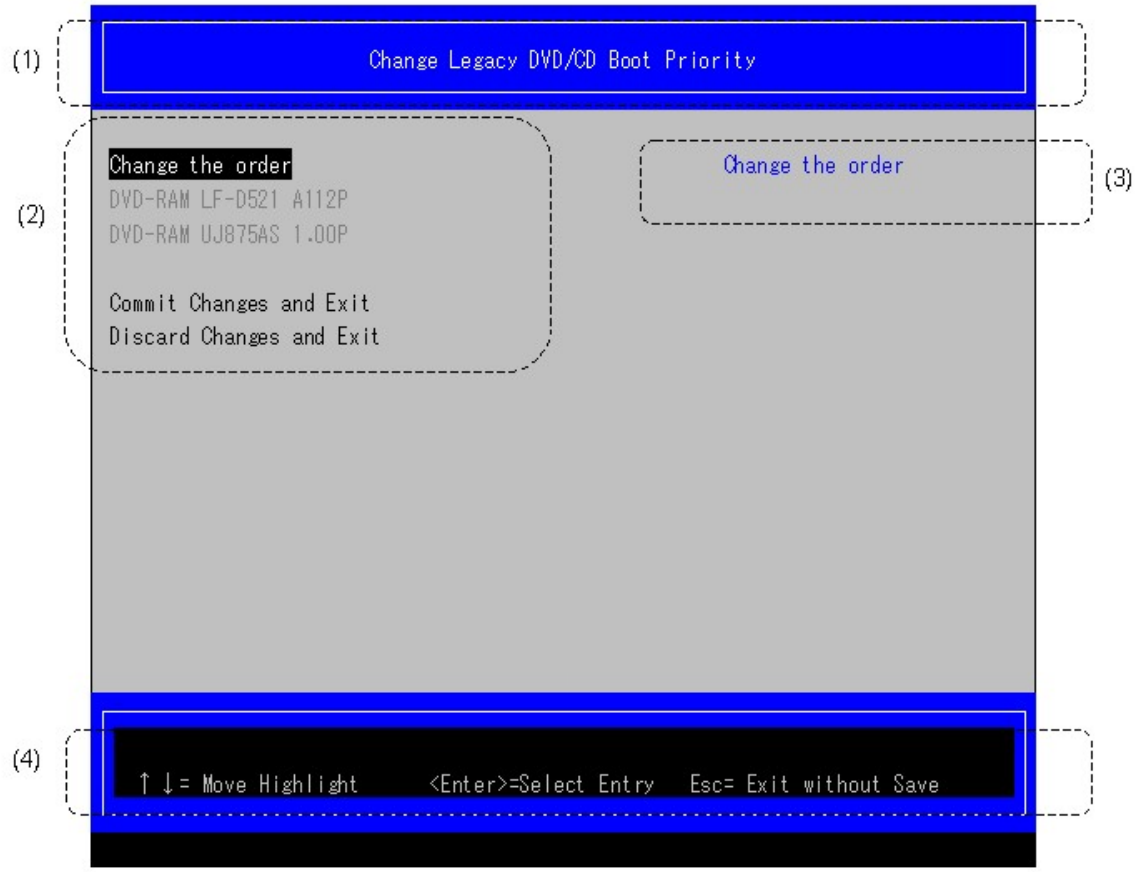


図 5.84 [Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] と表示されます。

(2) メニュー選択部
「表 5.61 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.61 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Change the order	DVD/CD ブートのオーダー変更へ移行する。本項目を実行するとポップアップ画面が表示され、そこで設定変更ができる。変更方法は、このあとの「■優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority)」で詳述する。 また、選択できないが DVD/CD のデバイス一覧も表示される。DVD/CD の表示順は、DVD/CD ブートの起動優先順位に従って表示される。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.62 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.62 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Change the order	Change the order
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.63 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.63 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

ポップアップ画面が表示された場合の表示内容を、「表 5.64 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容」に示します。

表 5.64 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
+ =Move Selection Up	カーソル位置にある DVD/CD 装置の起動優先順位を 1 つ上げる。
- =Move Selection Down	カーソル位置にある DVD/CD 装置の起動優先順位を 1 つ下げる。
<Space>=Enable/Disable Device	カーソル位置にある DVD/CD 装置を Enable/Disable にする。
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	変更を更新せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority)

ブートオーダーの変更は、以下の手順に従って実施します。

1. 「図 5.85 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (1)」に示す画面で表示された [Change the order] にカーソルを合わせます。

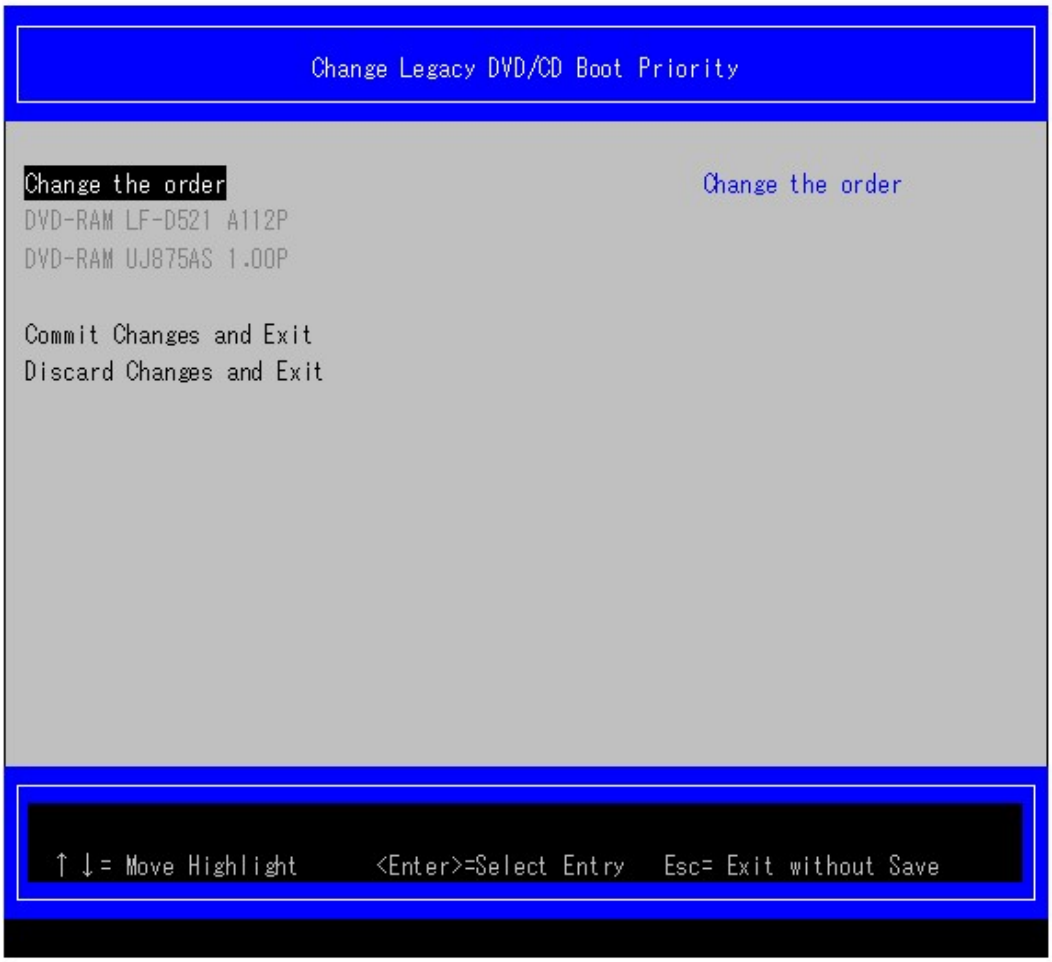


図 5.85 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.86 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

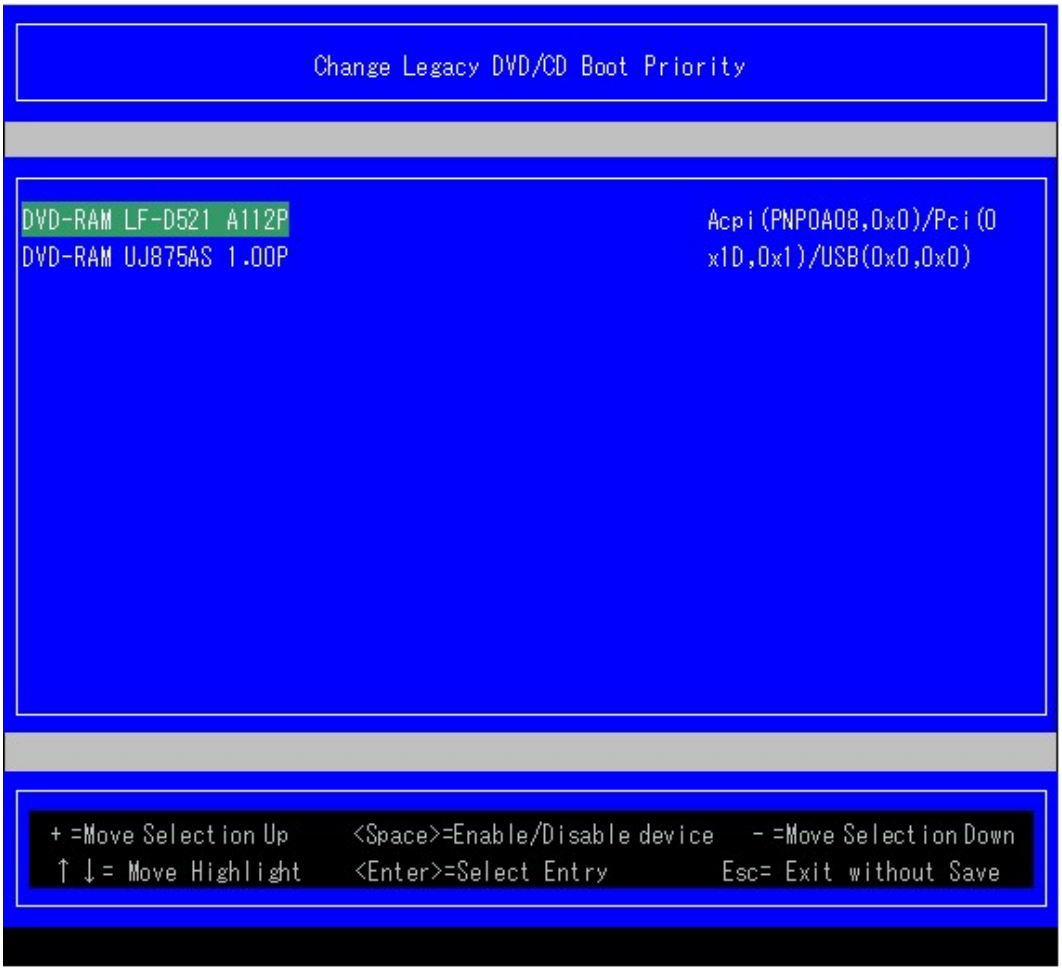


図 5.86 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (2)

3. 順序を変更するブートオプションにカーソルを合わせます。

4. 優先順位を変更します。
   - 優先順位を上げる場合は、[＋] キーを押します。
   - 優先順位を下げる場合は、[－] キーを押します。

「図 5.87 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (3)」は、DVD/CD ドライブの優先順位を入れ替えた場合の画面例です。

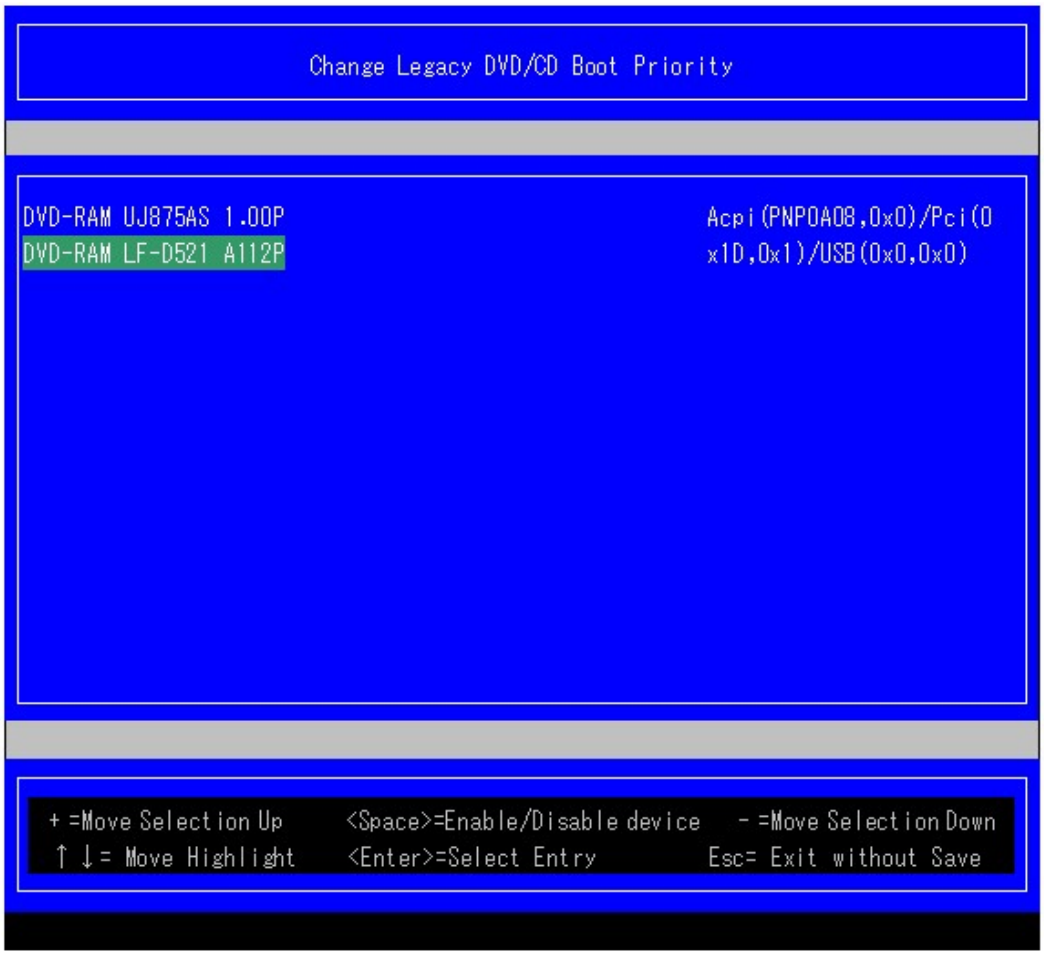


図 5.87 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (3)

5. Enable/Disable を設定します。
   - Disable に設定されている DVD/CD を Enable に変更する場合は、[Space] キーを押します。
   - Enable に設定されている DVD/CD を Disable に変更する場合は、[Space] キーを押します。

「図 5.88 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (4)」は、Enable に設定されている DVD/CD を、Disable に変更した場合の画面例です。

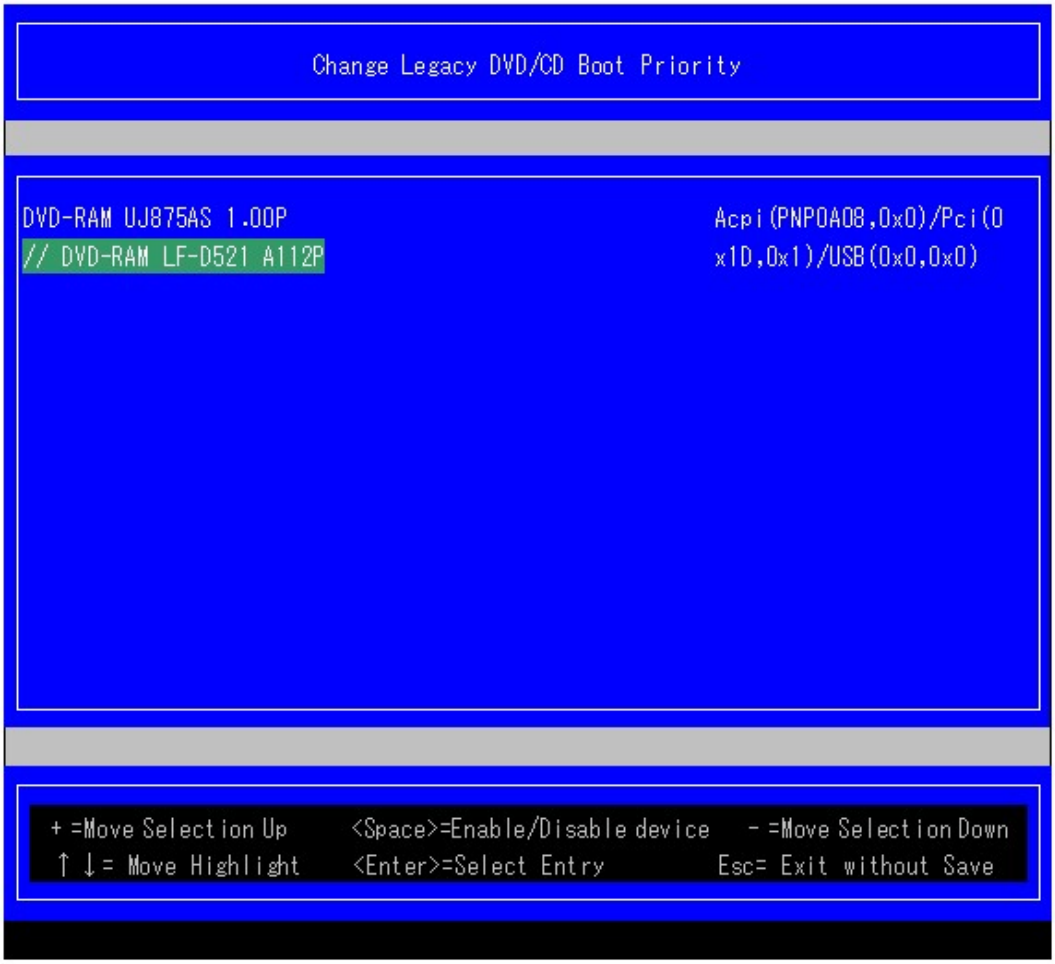


図 5.88 優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (4)

6. 変更完了後、ポップアップ画面から抜けます。
   - 設定変更を保持したまま抜ける場合は、[Enter] キーを押します。
   - 設定変更を破棄して抜ける場合は、[Esc] キーを押します。

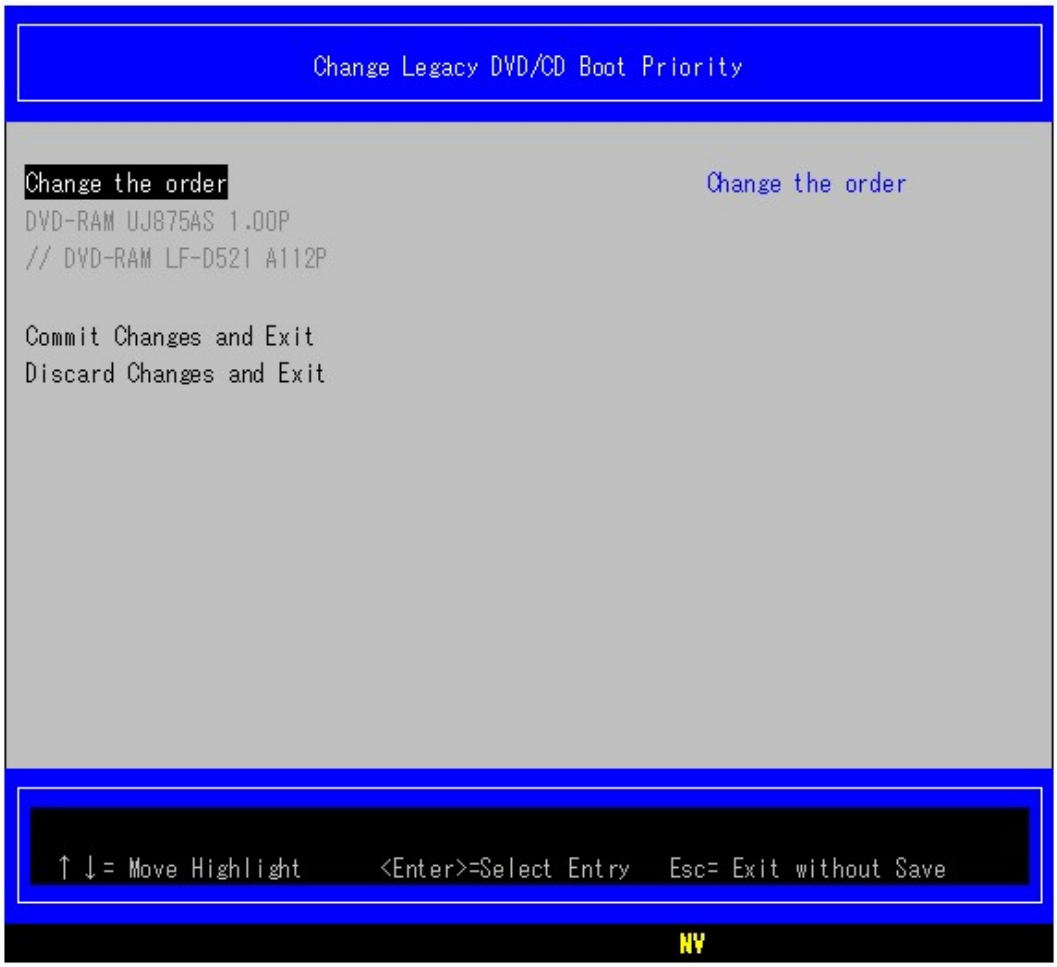


図 5.89 設定変更後の画面表示例(Change Legacy DVD/CD Boot Priority)

7. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

■[Change Legacy PXE Boot Priority] メニュー

[Change Legacy PXE Boot Priority] メニューは、ネットワークポートが複数存在する場合の起動デバイスの優先順位を設定するものです。ただし、PCI 拡張カードからの PXE ブートはサポート対象外であるため、設定対象デバイスはオンボードの LAN デバイスのみです。PXE ブートは、ここで設定した優先順位に従って Legacy Boot というブートオプションから実行します。

[Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの起動時の画面を、以下に示します。

以下に示す画面には、ネットワークポートの情報が表示されます。また、ネットワークポート情報の先頭に「//」が表示された場合は、対象ネットワークポートのブート機能が Disable であることを示します。

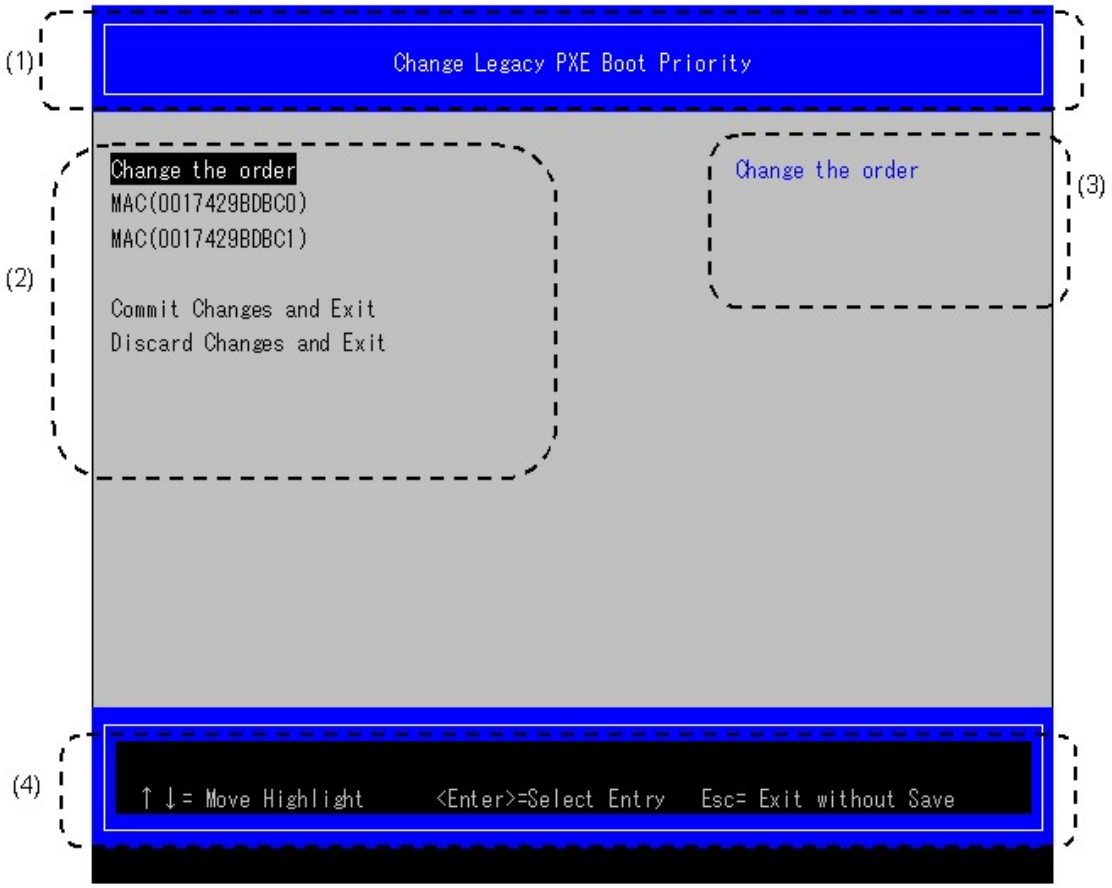


図 5.90 [Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[Change Legacy PXE Boot Priority] と表示されます。

(2)メニュー選択部
「表 5.65 メニュー選択部の表示内容」に示す項目が表示されます。

表 5.65 メニュー選択部の表示内容

項目	説明
Change the order	NET ブートのオーダー変更へ移行する。本項目を実行するとポップアップ画面が表示され、そこで設定変更ができる。変更方法は、このあとの「■優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority)」で詳述する。 また、選択できないがネットワークポート一覧も表示される。デバイスの表示順は、PXE ブートのオーダーに従って表示される。
Commit Changes and Exit	設定変更した内容を保存後、本メニューから抜ける。
Discard Changes and Exit	設定変更した内容をキャンセル後、本メニューから抜ける。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部

カーソル位置に対応して、「表 5.66 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.66 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Change the order	Change the order
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.67 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.67 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

ポップアップ画面が表示された場合の表示内容を、「表 5.68 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容」に示します。

表 5.68 ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
+ =Move Selection Up	カーソル位置にあるネットワークポートのブート優先順位を 1 つ上げる。
- =Move Selection Down	カーソル位置にあるネットワークポートのブート優先順位を 1 つ下げる。
<Space>=Enable/Disable Device	カーソル位置にあるネットワークポートを Enable/Disable にする。
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority)

ブートオーダーの変更は、以下の手順に従って実行します。

1. 「図 5.91 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (1) 」に示す画面に表示された、[Change the order] にカーソルを合わせます。

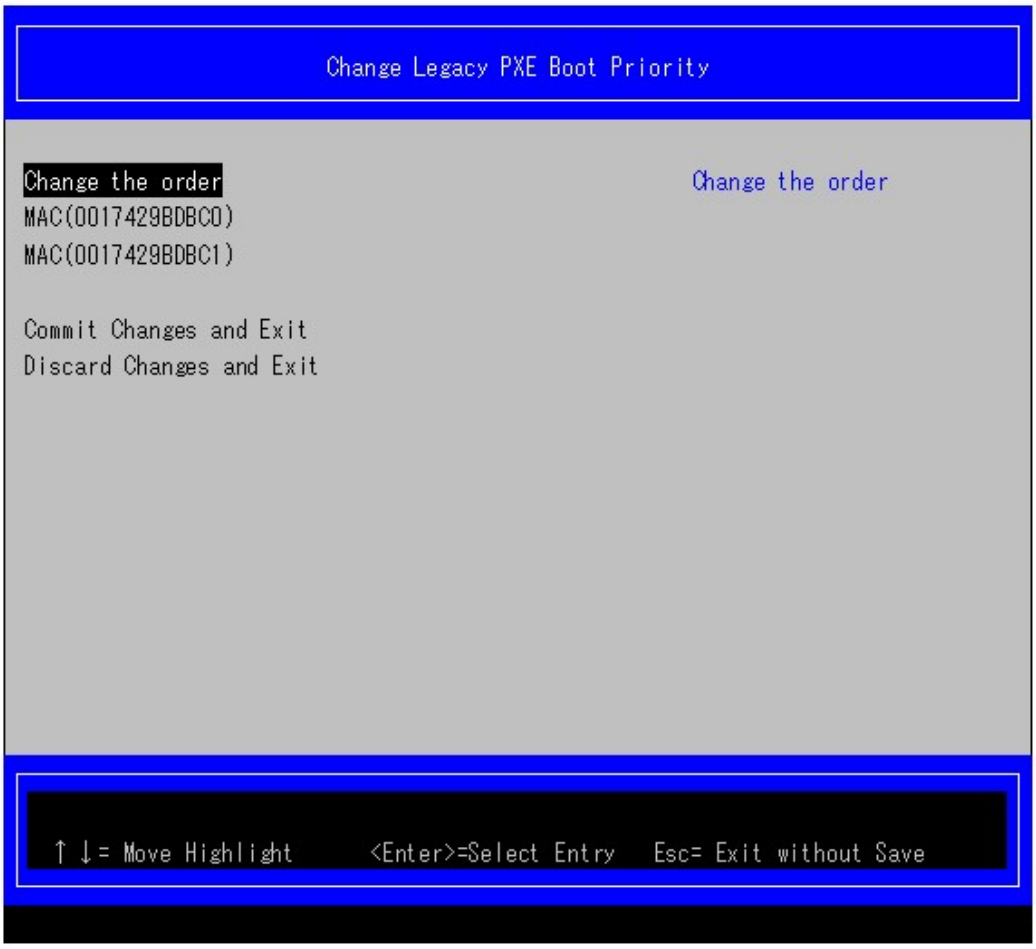


図 5.91 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.92 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (2)」に示すポップアップ画面が表示されます。

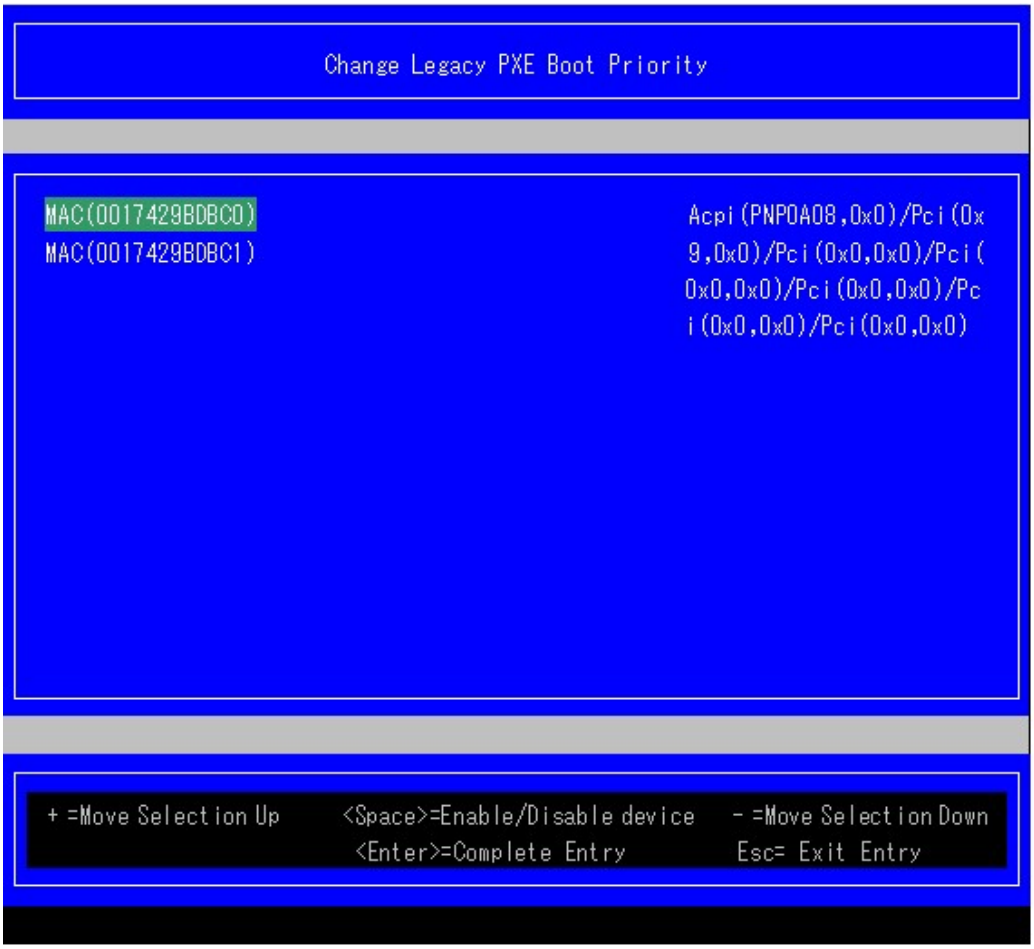


図 5.92 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (2)

3. 順序を変更するブートオプションにカーソルを合わせます。

4. 優先順位を変更します。
   - 優先順位を上げる場合は、[＋] キーを押します。
   - 優先順位を下げる場合は、[－] キーを押します。

   「図 5.93 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (3)」は、ネットワークポートの優先順位を入れ替えた場合の画面例です。

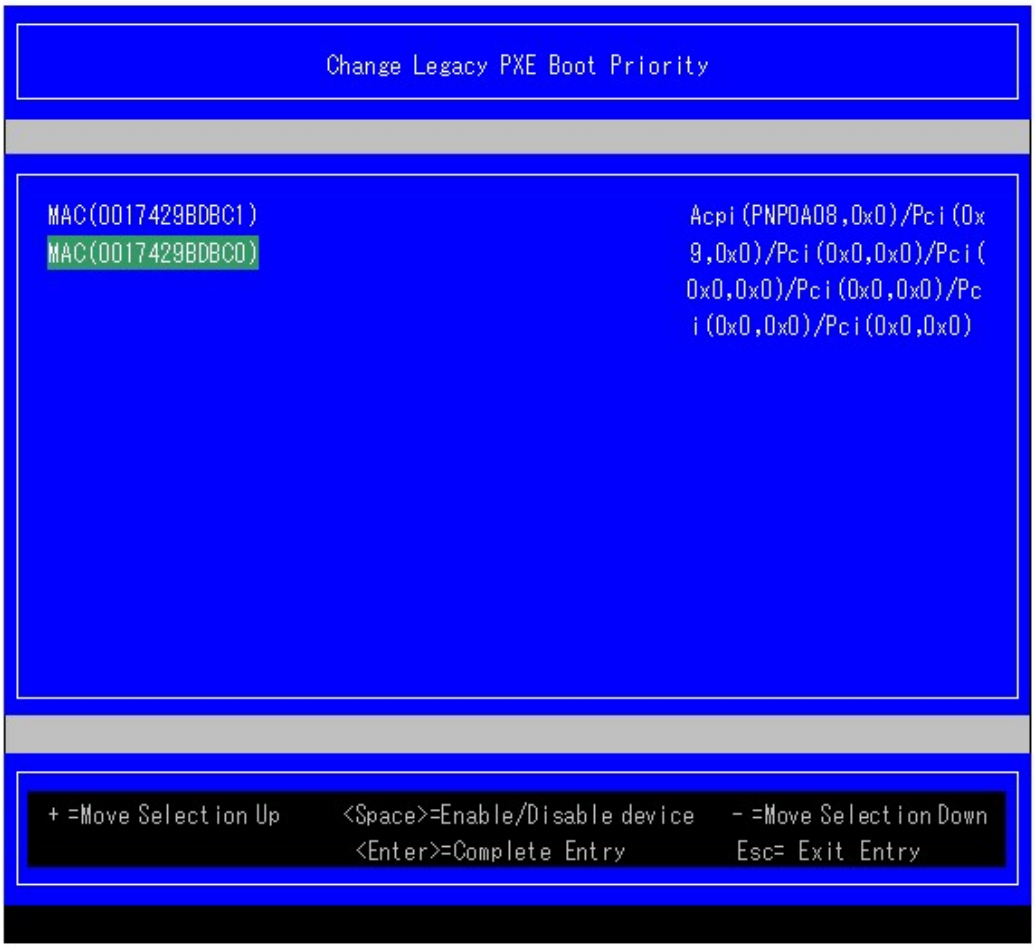


図 5.93 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (3)

5. Enable/Disable を設定します。
   - Disable に設定されているネットワークポートを Enable に変更する場合は、[Space] キーを押します。
   - Enable に設定されているネットワークポートを Disable に変更する場合は、[Space] キーを押します。

「図 5.94 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (4)」は、Enable に設定されているネットワークポートを、Disable に変更した場合の画面例です。

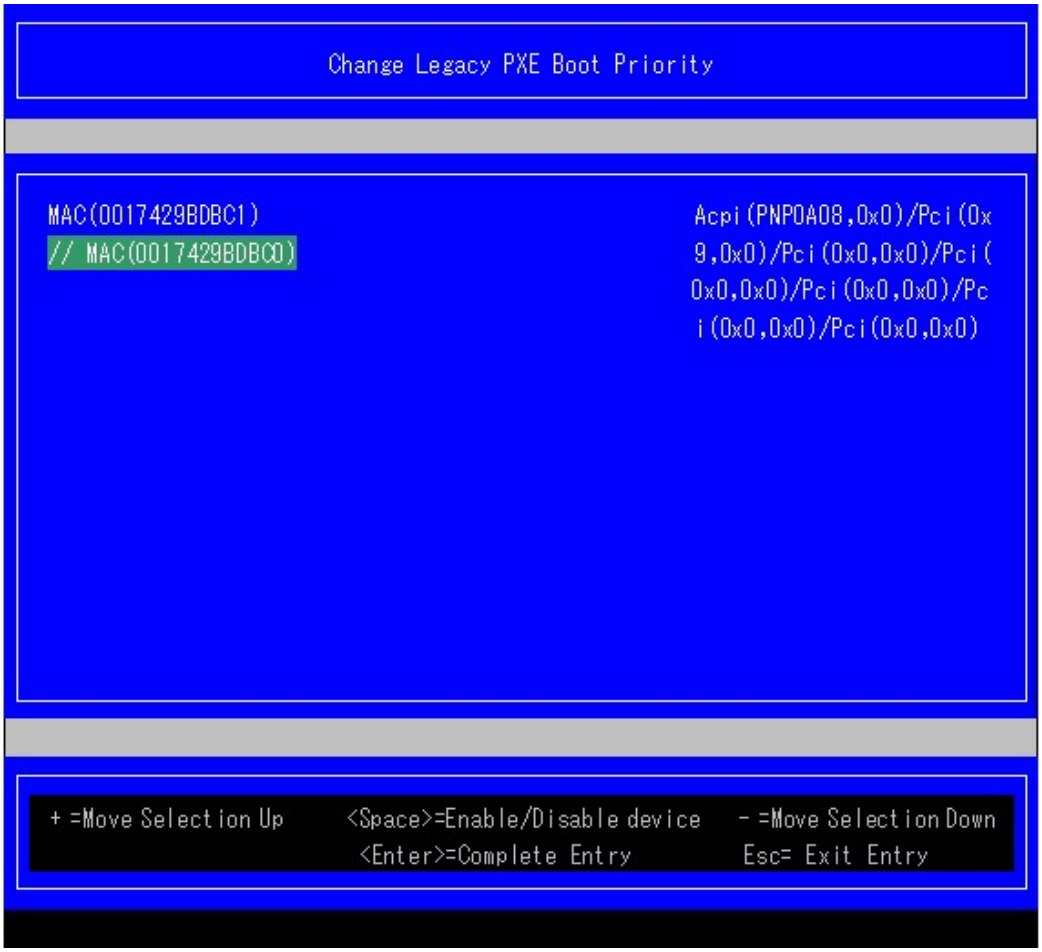


図 5.94 優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (4)

6. 変更完了後、ポップアップ画面から抜けます。
   - 設定変更を保持したまま抜ける場合は、[Enter] キーを押します。
   - 設定変更を破棄して抜ける場合は、[Esc] キーを押します。

「図 5.95 設定変更後の画面表示例(Change Legacy PXE Boot Priority)」に示す画面が表示されます。

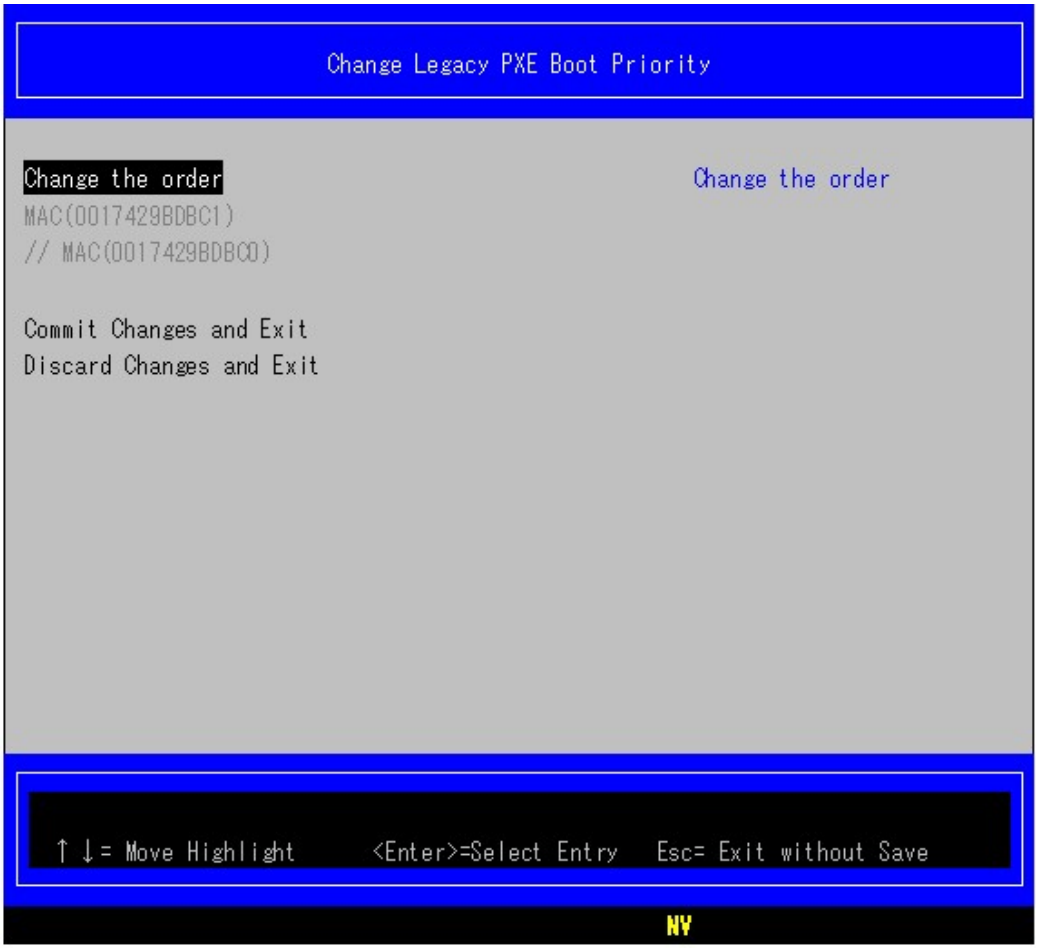


図 5.95 設定変更後の画面表示例(Change Legacy PXE Boot Priority)

7. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

5.6.2 [Boot From File] メニュー

[Boot From File] メニューは、UEFI が認識したストレージデバイス内の OS ブートローダファイルを指定して直接ブートするためのものです。
以下の画面は、[Boot From File] メニューの起動直後の画面です。UEFI が認識したストレージデバイス一覧が表示されます。

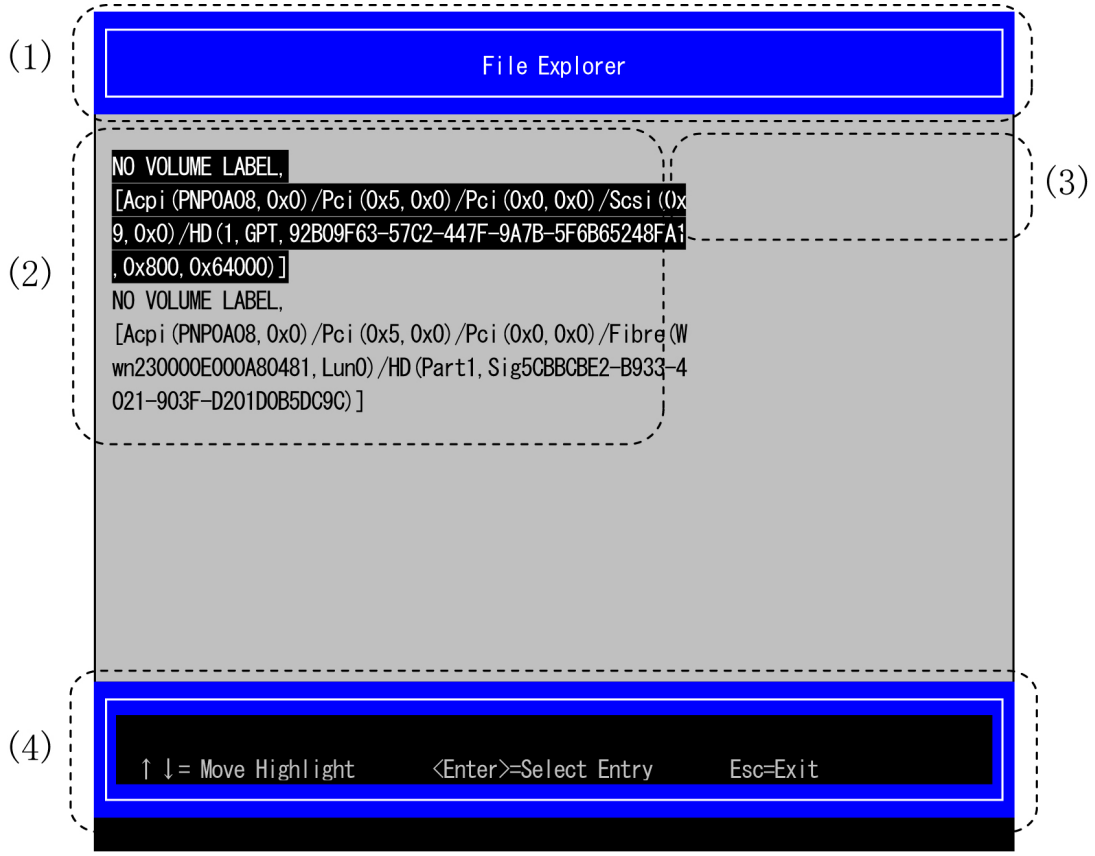


図 5.96 [Boot From File] メニューの表示例

(1) ページ情報表示部
[File Explorer] と表示されます。

(2) メニュー選択部
UEFI が認識したストレージデバイス一覧が表示されます。

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
本画面では、何も表示されません。

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.69 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.69 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit	「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■ブートファイルの指定(Boot From File)

1. 「図 5.97 ブートファイルの指定 (1)」に示す画面のデバイス一覧から、ブートする OS ブートローダファイルが格納されているストレージデバイスにカーソルを合わせます。

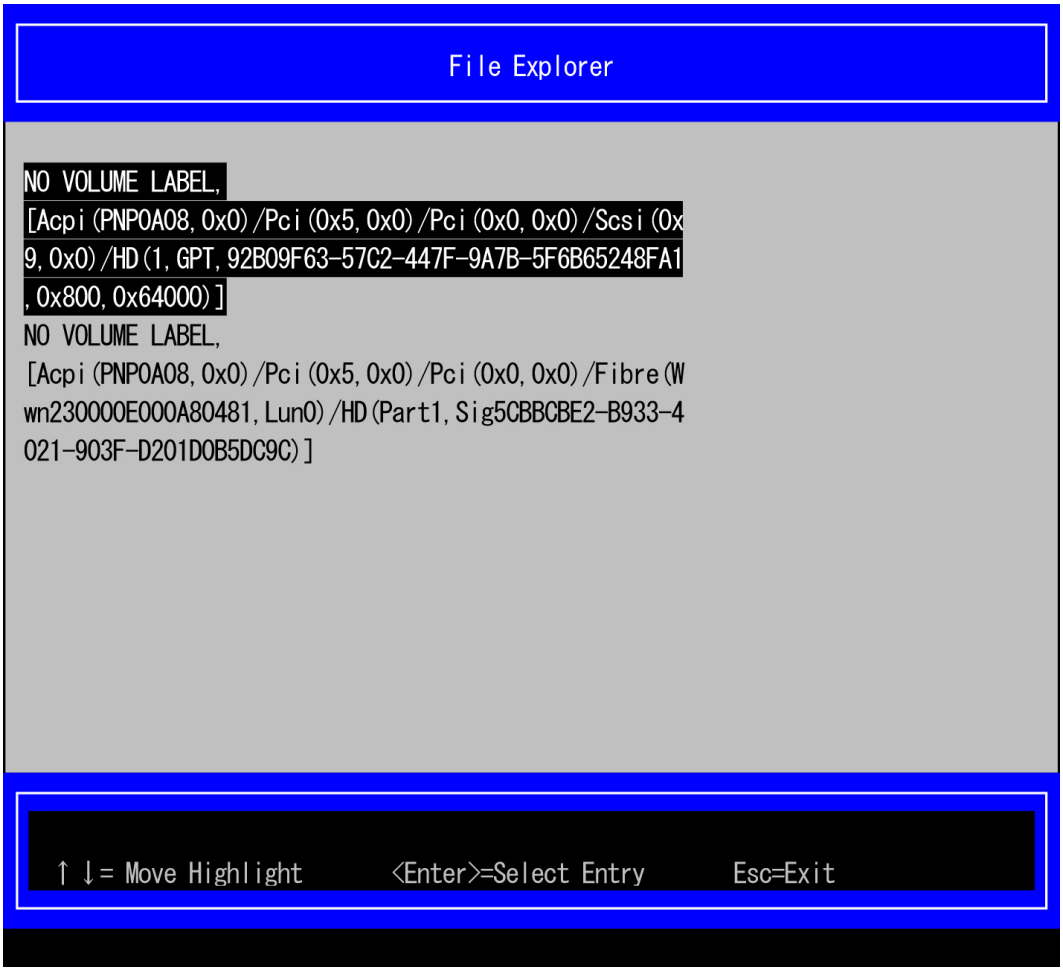


図 5.97 ブートファイルの指定 (1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.98 ブートファイルの指定 (2)」に示すように、ストレージデバイス内のファイル一覧が表示されます。
「<>」で囲まれたものは、ディレクトリです。以下に示す図は、Windows Server 2008 がインストールされたディスクを選択した場合の表示例です。

図 5.98 ブートファイルの指定 (2)

3. ディレクトリ構造をたどっていき、「図 5.99 ブートファイルの指定 (3) 」に示すようにブートする OS ローダファイルを表示させます。

図 5.99 ブートファイルの指定 (3)

4. [↑] キー、[↓] キーを押して、ブートする OS ローダファイルを選択します。

5. [Enter] キーを押します。
   ファイルがローディングされ、OS が起動されます。

5.6.3 [Set Boot Delay Time] メニュー

[Set Boot Delay Time] メニューは、UEFI の診断処理の完了時から OS 起動処理移行までの待ち時間を、秒単位で設定するものです。デフォルトは、10 秒の設定になっています。本メニューで設定した時間が、キー入力の待ち時間となります。このキー入力待ち時間中は、「図 5.100 ロゴ画面」に示すようにロゴ画面が表示されています。このキー入力の待ち時間中に、[Enter] キー以外のキー入力をすると Boot Manager フロントページに移行します。また、[Enter] キーを入力すると、ただちに OS 起動処理に移行します。

図 5.100 ロゴ画面

以下の画面は、[Set Boot Delay Time] メニューの画面例です。

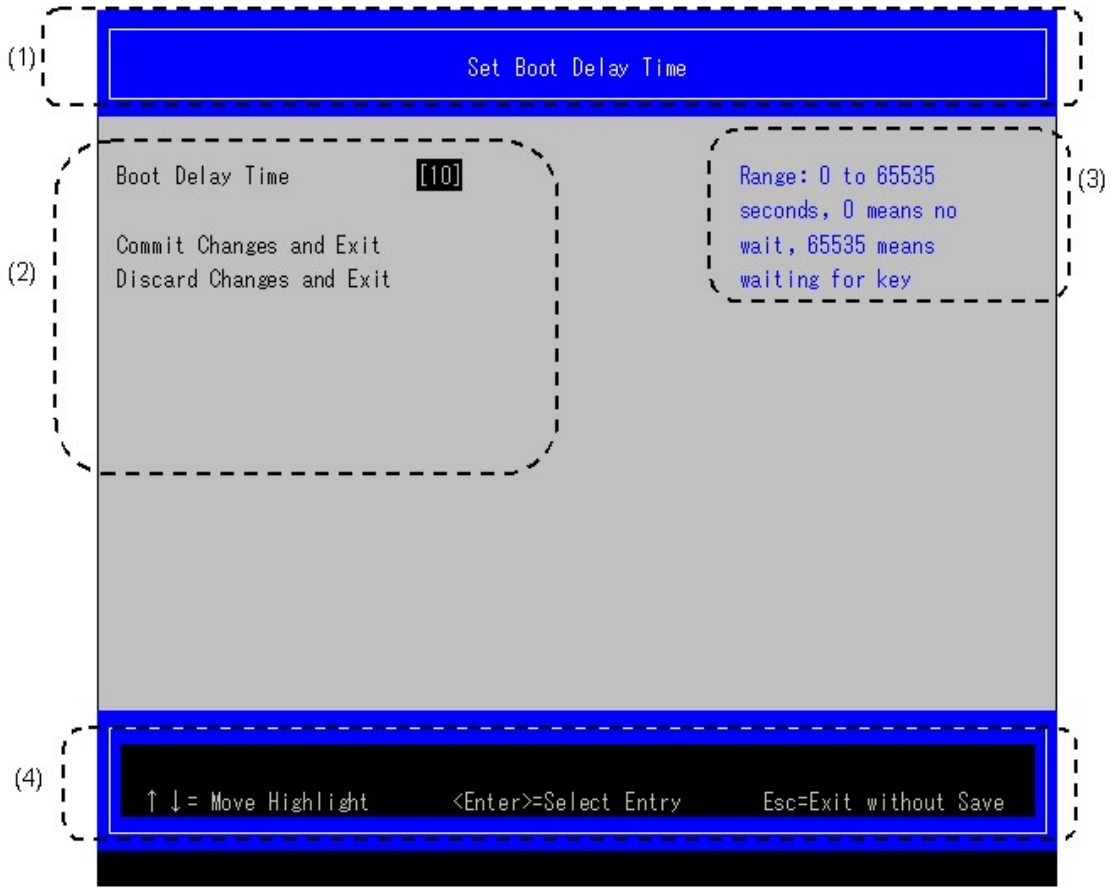


図 5.101 [Set Boot Delay Time] メニュー表示例

(1) ページ情報表示部
[Set Boot Delay Time] と表示されます。

(2) メニュー選択部
選択メニューが表示されます。デフォルトの設定値は 10 です。（単位は秒。10 進数）

(3) メニュー選択ヘルプ表示部
カーソル位置に対応して、「表 5.70 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容」に示す内容が表示されます。

表 5.70 メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容

カーソル位置	表示内容
Boot Delay Time	Range: 0 to 65535 seconds、 0 means no wait、 65535 means waiting for key
Commit Changes and Exit	表示なし
Discard Changes and Exit	表示なし

(4) 操作ヘルプ表示部
「表 5.71 操作ヘルプ表示部の表示内容」に示す操作キーの説明が表示されます。

表 5.71 操作ヘルプ表示部の表示内容

項目	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

また、「■ロゴ表示時間の変更」で説明する、タイムアウト変更時の表示内容を「表 5.72 Change Boot Order で使用するキーの表示内容」に示します。

表 5.72 Change Boot Order で使用するキーの表示内容

項目	説明
0123456789 are valid inputs	タイムアウト時間設定は、数字キーのみ有効である。
<Enter>=Select Entry	項目を選択する。
Esc=Exit without Save	本メニューの変更設定を保存せずに、「5.2 Boot Manager フロントページ」へ戻る。

■ロゴ表示時間の変更

ロゴ表示時間の変更は、以下の手順に従って実施します。

1. 「図 5.102 ロゴ表示時間の変更(1) 」に示す画面の [Boot Delay Time] にカーソルを合わせます。

図 5.102 ロゴ表示時間の変更(1)

2. [Enter] キーを押します。
「図 5.103 ロゴ表示時間の変更(2)」に示すようにカーソル部分が変化し、数値入力が可能になります。

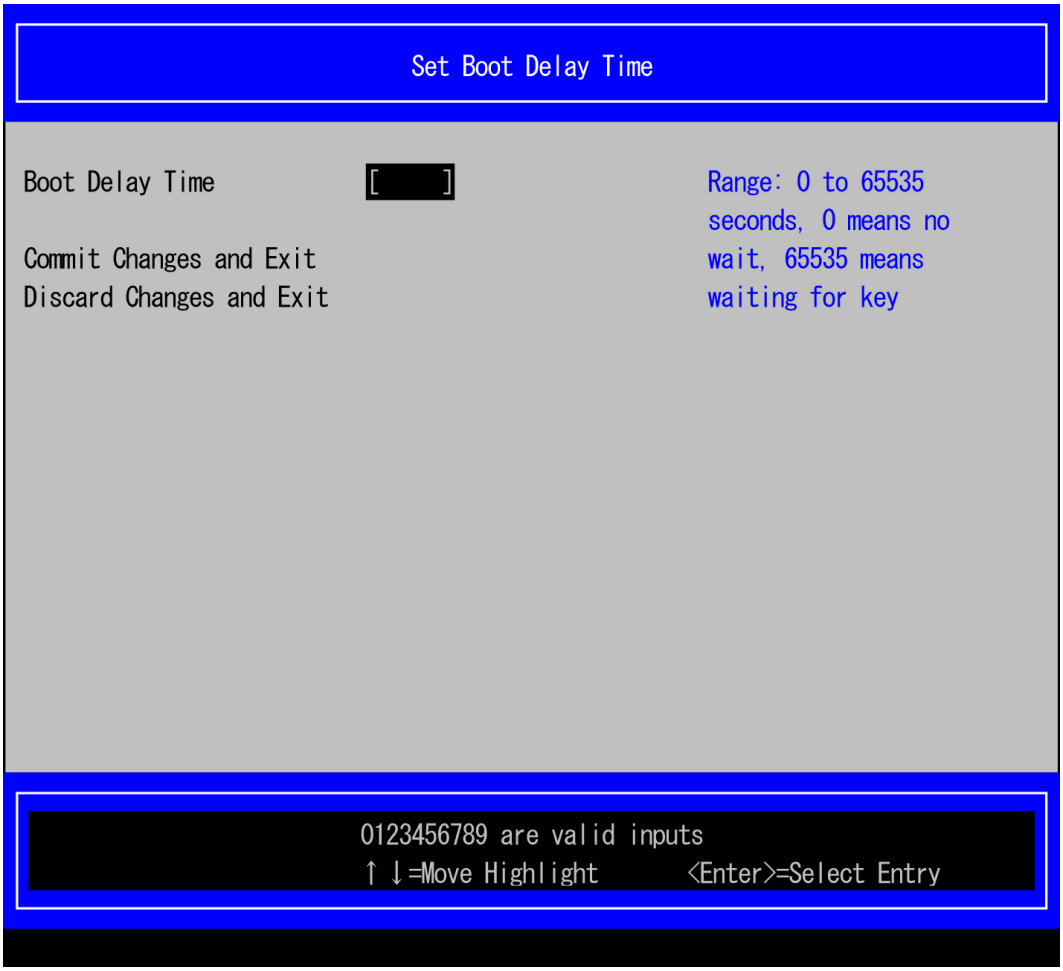


図 5.103 ロゴ表示時間の変更(2)

3. 数値を入力し、ロゴ表示時間を設定します。
   単位は秒、範囲は 0 から 65535 です。数字以外のキーまたは範囲外の値は、入力できません。このとき、エラーメッセージは表示されません。
   - 入力した数値を確定する場合は、[Enter] キーを押します。
   - 入力した数値をキャンセルする場合は、[Esc] キーを押します。

4. 設定変更を保存して本メニューから抜けるには、[Commit Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。
   設定変更を保存せずに本メニューから抜けるには、[Discard Changes and Exit] を選択して [Enter] キーを押します。

5.7 デバイスパス

デバイスパスとは、デバイスの物理的な接続を示すもので、PCI ルートブリッジからの接続関係を表しています。

5.7.1 デバイスパスのパラメーター

表示されるデバイスパスの各パラメーターは、「表 5.73 デバイスパスのパラメーター」に示すとおりです。

表 5.73 デバイスパスのパラメーター

表示	説明
Acpi(HID、UID)	ACPI デバイスパス HID とは、Hardware ID の略。ACPI 仕様に準拠した ID で、以下の ID がある。 PNP0A08：PCI Root Bridge を表す。 UID とは、Unique ID の略。(省略可)
Pci(Device、Function)	PCI デバイス Device とは、PCI デバイスのデバイス番号のこと。0-31 を 16 進数で表す。 Function とは、PCI デバイスのファンクション番号のこと。0-7 の数字で表す。
Scsi(PUN、LUN)	Scsi コントローラー PUN とは、Physical Unit Number の略。SCSI ID の意。0-65535 を 16 進数で表す。 LUN とは、Logical Unit Number の略。0-65535 を 16 進数で表す。
Fibre(WWN、LUN)	Fibre コントローラー WWN とは、World Wide Name の略。"Wwn" + 64bit 数値で表す。 LUN とは、Logical Unit Number の略。"Lun" + 64bit 数値で表す。
MAC(MacAddr、IfType)	Network MacAddr とは、Mac Address の略。 IfType とは、Interface Type の略。(省略可)　0-255 を 16 進数で表す。
HD(Partition、 Type 、 Signature、Start、Size)	Hard Drive Partition とは、パーティション番号を表す。 Type とは、パーティションタイプを表す。(省略可)　以下のタイプがある。 GPT：GUID Partition Table の略。 MBR：Master Boot Record の略。 Signature は、パーティションタイプにより以下のような意味を持つ。 GPT: GUID を表す。 MBR: 数値。 Start は、パーティションの先頭位置を示し、64bit 数値で表す。 Size は、パーティションのサイズを示し、64bit 数値で表す。
CDROM(Entry、Start、Size)	CD/DVD メディア Entry は、ブートエントリー番号を表す。(省略可)　通常は 0 を示す。

表示	説明
	Start は、ブートエントリーの先頭セクタを表し、64bit 数値で表す。 Size は、ブートエントリーのサイズを示し、64bit 数値で表す。
USB(Port、Interface)	USB Port は、USB のポート番号を示し、0-255 を 16 進数で表す。 Interface は、インターフェース番号を示し、0-255 を 16 進数で表す。

5.7.2 デバイスパスの識別

SAS ディスク、Fibre カードからのディスク、および GigaLAN のデバイスパスの識別方法について、以下に説明します。

■SAS ディスク

例として、SASU#0 に内蔵された SAS ディスクの特定方法について説明します。

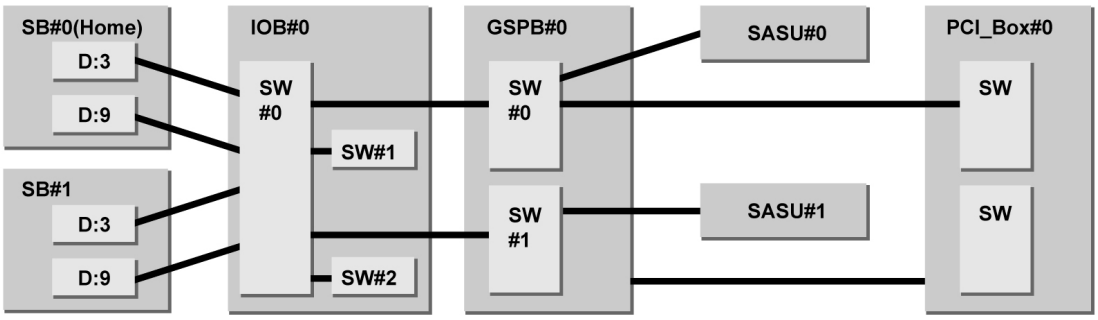


図 5.104 SAS ディスクの特定

SAS デバイスは、デバイスパス中に "Scsi" と表示されます。
SAS デバイスのデバイスパスは、以下のとおりです。
Acpi(PNP0A08、0x0)/Pci(0x3、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x2、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Scsi(0x0、0x0)/HD(1、GPT、92B09F63-57C2-447F-9A7B-5F6B65248FA1、0x800、0x64000)

IOH ～ SAS ディスクまでの詳細な接続関係を、「図 5.105 IOH ～ SAS ディスク接続関係」に示します。

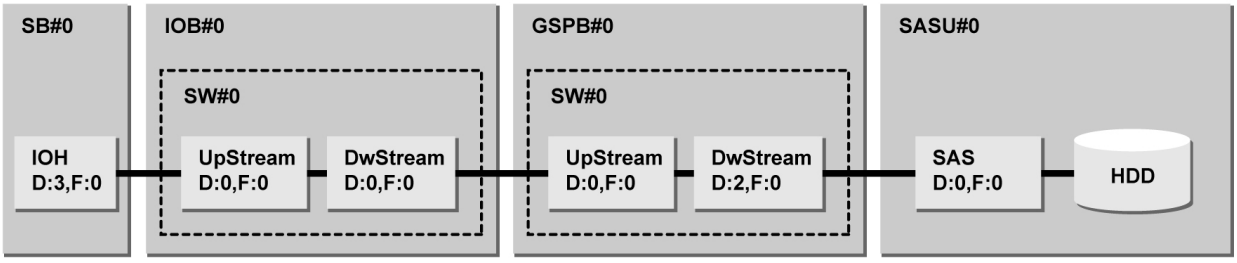


図 5.105 IOH ～ SAS ディスク接続関係

前述のデバイスパスと接続図の関係を、「図 5.106 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (1)」～「図 5.109 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (4)」に示します。

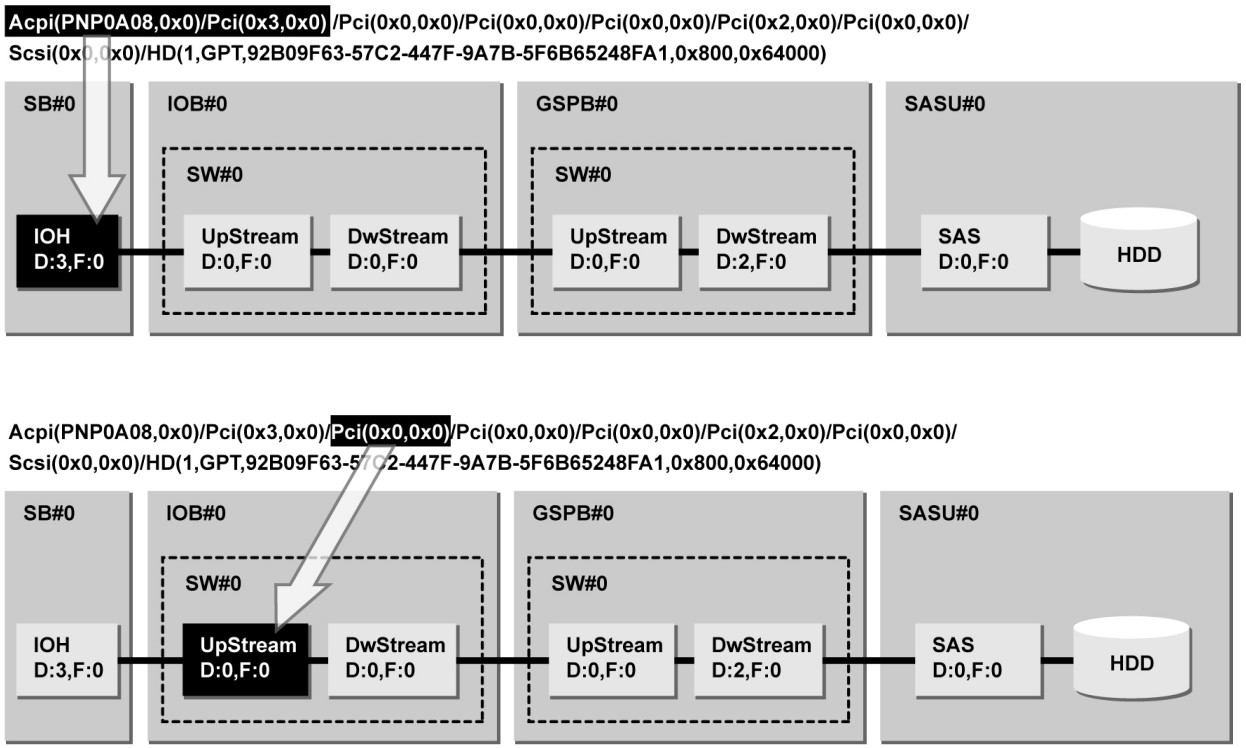


図 5.106 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (1)

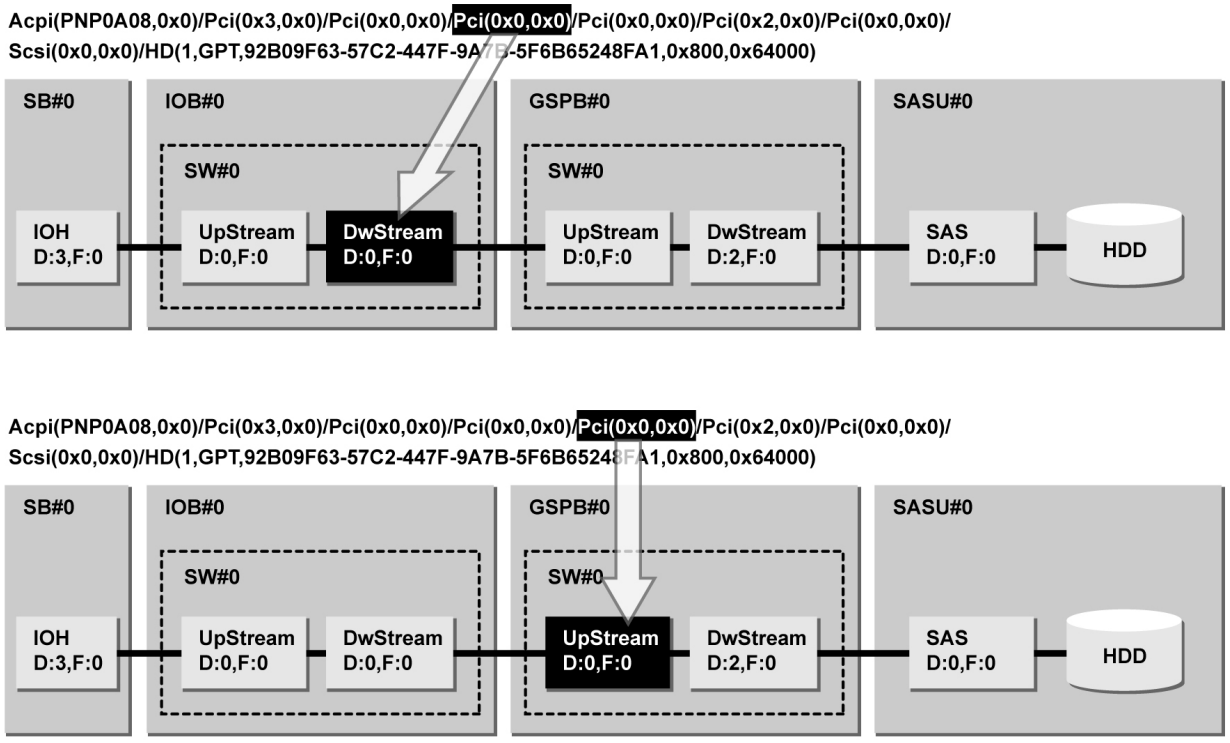


図 5.107 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (2)

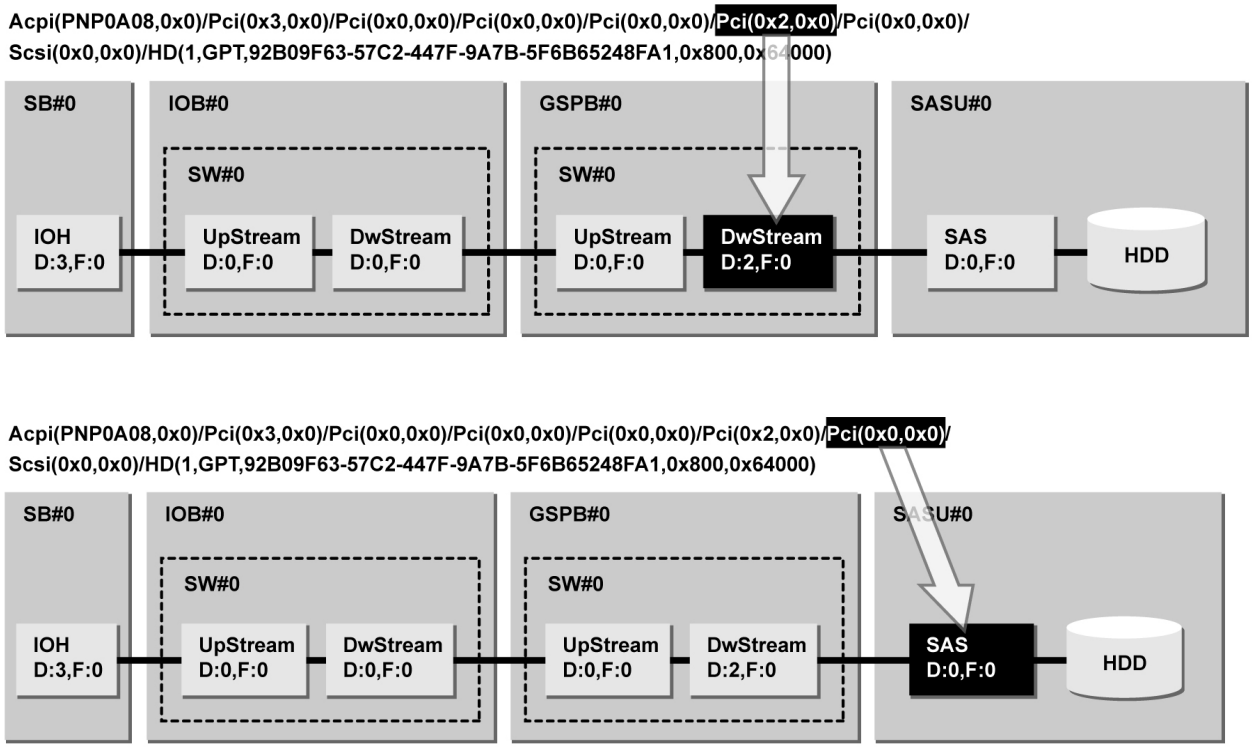


図 5.108 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (3)

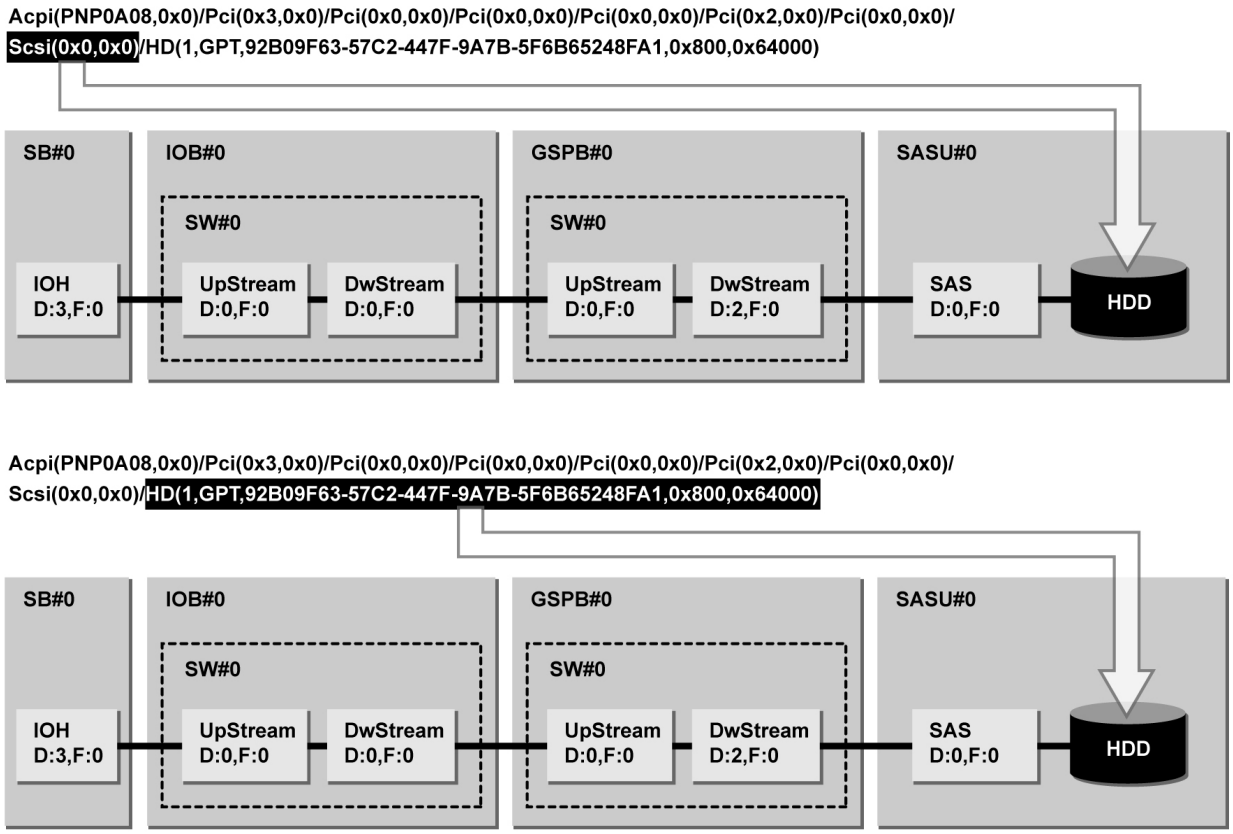


図 5.109 デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (4)

■Fibre カードからのディスク特定

例として IOB#0 の PCIe Slot#0 に Fibre カードを挿して、ETERNUS に接続した場合の特定方法について説明します。

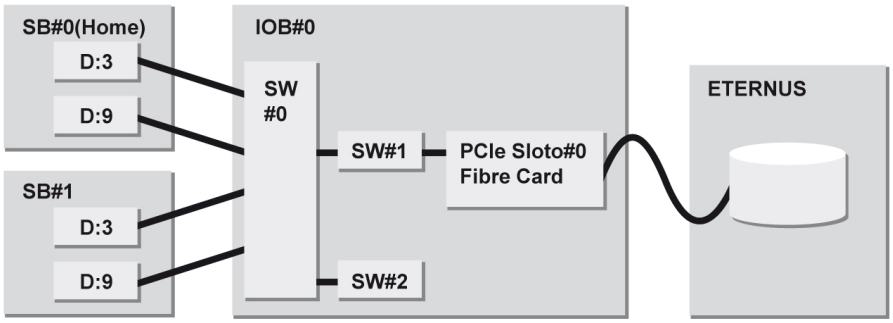


図 5.110 Fibre カードからのディスクの特定

Fibre カードのデバイスパスは、以下のとおりです。
Acpi(PNP0A08、0x0)/Pci(0x3、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x2、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/
Fibre(Wwn230000E000A80481、Lun0)/HD(1、GPT、
5CBBCBE2-B933-4021-903F-D201D0B5DC9C、0x400、0x40000)

IOH ～ Fibre カード先のディスクまでの詳細な接続関係を、「図 5.111 IOH ～ Fibre カード接続関係」に示します。

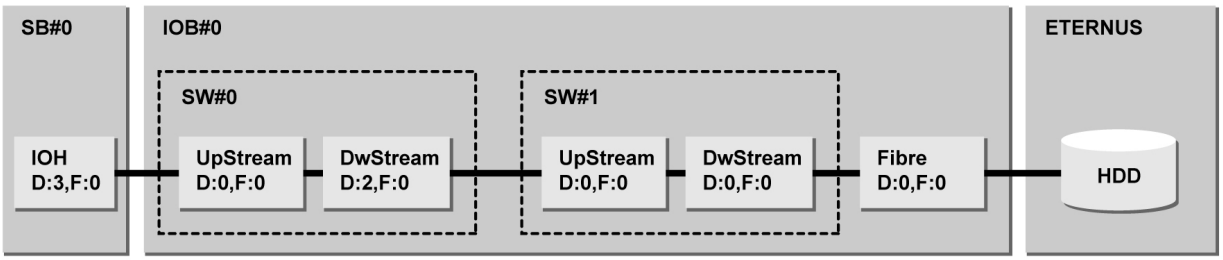
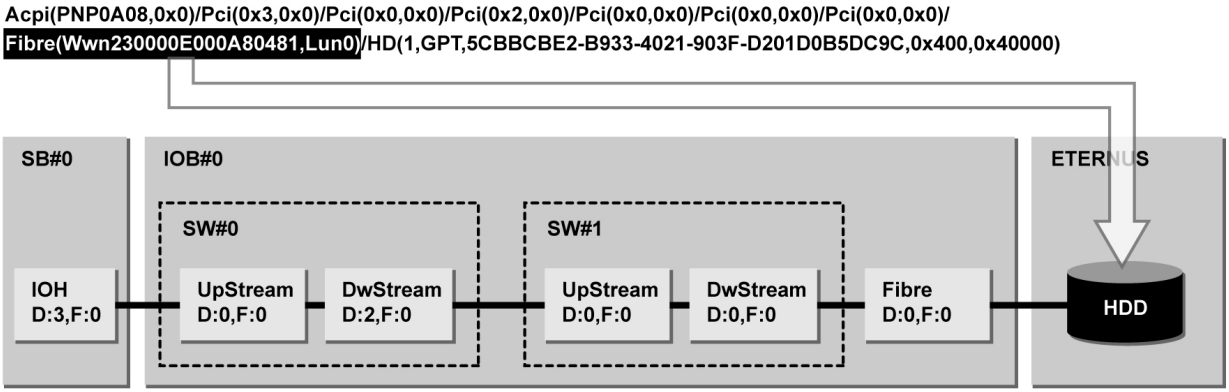


図 5.111 IOH ～ Fibre カード接続関係

IOH から Fibre カードまでのデバイスパスの考え方は SAS の場合と同様です。ディスク情報は、「図 5.112 デバイスパスと接続図の関係(Fibre カード)」に示すように見えます。



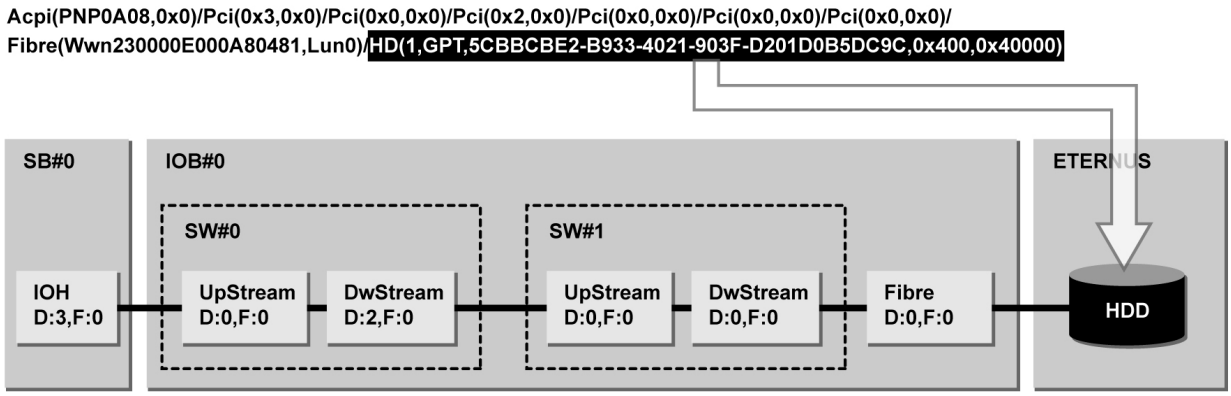


図 5.112 デバイスパスと接続図の関係(Fibre カード)

■GigaLAN

例として GSPB#0 に内蔵された GigaLAN の特定方法について説明します。

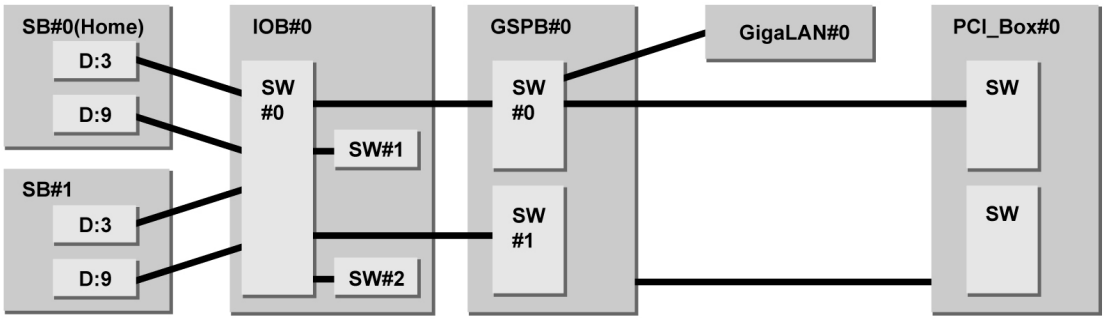


図 5.113 GigaLAN の特定

GigaLAN のデバイスパスは、以下のとおりです。
Acpi(PNP0A08、0x0)/Pci(0x3、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/Pci(0x0、0x0)/
MAC(001320F79BC3、0x0)

IOH ～ GigaLAN までの詳細な接続関係を、「図 5.114 IOH ～ GigaLAN 接続関係」に示します。

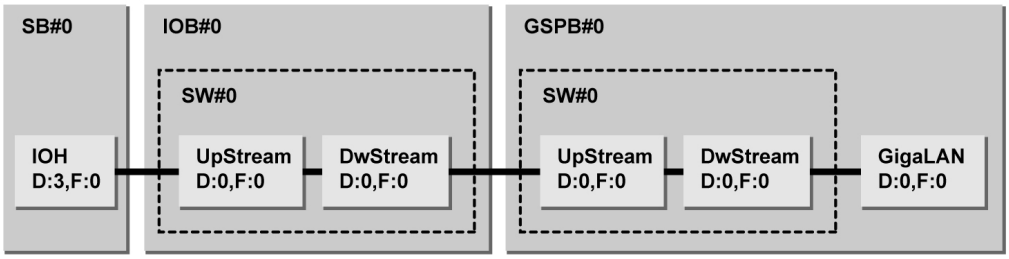


図 5.114 IOH ～ GigaLAN 接続関係

IOH から GigaLAN までのデバイスパスの考え方は SAS の場合と同様です。ディスク情報は、「図 5.115 デバイスパスと接続図の関係 (GigaLAN)」に示すように見えます。

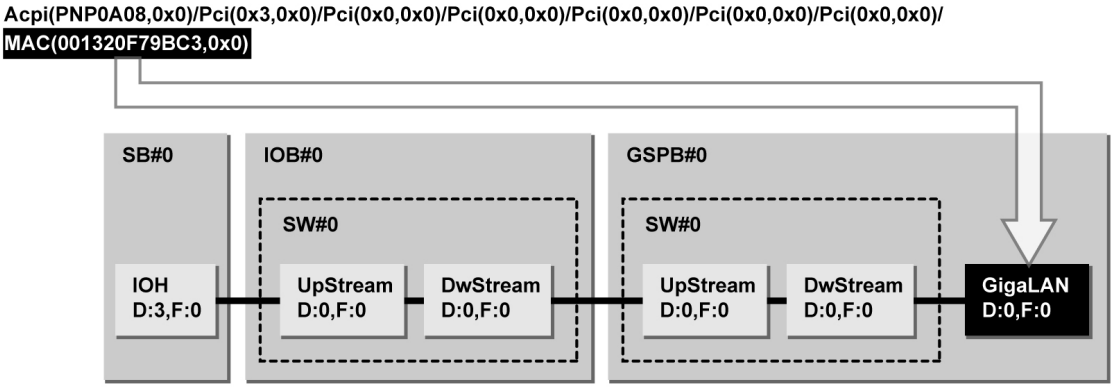


図 5.115 デバイスパスと接続図の関係 (GigaLAN)

第 6 章　UEFI のコマンド操作

本章では、UEFI のコマンド操作について説明します。

6.1 UEFI シェルと UEFI コマンド 523

6.1 UEFI シェルと UEFI コマンド

PRIMEQUEST 1000 シリーズの UEFI は、コンソールからのコマンドの実行が可能な UEFI シェル機能をサポートします。UEFI シェルが起動したときのイメージを、「図 6.1 UEFI Shell 起動直後の画面表示例」に示します。

図 6.1 UEFI Shell 起動直後の画面表示例

6.1.1 自動起動ファイル

UEFI シェルが起動すると、最初に、定義された実行パスに startup.nsh ファイルが存在するかをチェックします。
存在する場合には、このファイルに書き込まれたコマンドを実行した後、コンソールからのコマンド入力状態となります。ここでは、startup.nsh ファイルは特になくてもかまいません。

備考
実行パスとは、シェル環境変数の path 変数に設定されたディレクトリパスです。このディレクトリパスは、set コマンドで表示、変更できます。

6.1.2 UEFI シェルのコマンドシンタックス

シェルの環境変数は、set コマンドによって設定、または参照できます。

シェルコマンドへの引数として環境変数の値にアクセスするためには、以下に示すように変数名の前後に "%" の文字を付けることによって可能となります。

%myvariable%
シェルは、lasterror という特別な変数をもっています。この変数は、最後に実行したシェルコマンドの復帰値を保持しています。
"*"、"?"、"["、"]" の文字は、シェルコマンドに対するファイル名の引数の中で、ワイルドカードとして使います。

表 6.1 UEFI シェルのワイルドカード

文字列	意味
*	ファイル名で 0 個以上の文字にマッチする。
?	ファイル名で正確に 1 文字にマッチする。
[文字列]	[ ]の中に置かれた文字のいずれかとマッチする。例、[a-zA-Z]など。

6.1.3 出力リダイレクション

UEFI シェルコマンドの出力は、ファイルにリダイレクトできます。このシンタックスを以下に示します。

```
Command  >     unicode_output_file_pathname
Command  >a    ascii_output_file_pathname
Command  1>    unicode_output_file_pathname
Command  1>a   ascii_output_file_pathname
Command  2>    unicode_output_file_pathname
Command  2>a   ascii_output_file_pathname
Command  >>    unicode_output_file_pathname
Command  >>a   ascii_output_file_pathname
Command  1>>   unicode_output_file_pathname
Command  1>>a  ascii_output_file_pathname
```

「表 6.2 出力リダイレクション」に、出力リダイレクションやアペンドの種別を示します。

表 6.2 出力リダイレクション

文字列	意味
>	標準出力をユニコードファイルにリダイレクトする。
>a	標準出力をアスキーファイルにリダイレクトする。
1>	標準出力をユニコードファイルにリダイレクトする。
1>a	標準出力をアスキーファイルにリダイレクトする。
2>	標準エラー出力をユニコードファイルにリダイレクトする。
2>a	標準エラー出力をアスキーファイルにリダイレクトする。

文字列	意味
>>	標準出力をユニコードファイルにアペンドする。
>>a	標準出力をアスキーファイルにアペンドする。
1>>	標準出力をユニコードファイルにアペンドする。
1>>a	標準出力をアスキーファイルにアペンドする。

備考
標準出力、標準エラー出力を同じファイルにリダイレクトすることはできます。複数のファイルに、同時にリダイレクトすることはできません。

6.1.4 UEFI シェルコマンド一覧

PRIMEQUEST 1000 シリーズの UEFI では、「表 6.3 UEFI シェルコマンド一覧」に示す UEFI シェルコマンドをサポートしています。

表 6.3 UEFI シェルコマンド一覧

項番	コマンド名	説明
1	cd	カレントディレクトリの表示、変更をする。
2	connect	UEFI ドライバをデバイスにバインドし、ドライバを起動する。
3	cp	ひとつ、または複数のファイルやディレクトリを別の場所にコピーする。
4	date	システムの現在の日付の表示、または設定をする。
5	disconnect	デバイスからひとつ、またはそれ以上のドライバをディスコネクトする。
6	drvcfg	ドライバコンフィグレーションプロトコルを実行する。
7	echo	メッセージの表示、またはコマンドエコーのオン、オフの設定をする。
8	edit	フルスクリーンでアスキー、またはユニコードファイルの編集をする。
9	exit	UEFI シェルから抜ける。
10	help	コマンドリストの表示、またはコマンドのヘルプを表示する。
11	ls	ディレクトリ内のファイルとサブディレクトリを表示する。
12	map	マッピングを表示し定義する。
13	mkdir	ひとつ、または複数のディレクトリを作成する。
14	mount	ファイルシステムをブロックデバイスにマウントする。
15	mv	ひとつ、または複数のファイルを移動する。
16	pci	PCI デバイス、または PCI コンフィグレーション空間を表示する。
17	reconnect	ひとつ、または複数のドライバをリコネクトする。
18	reset	システムをリセットする。
19	rm	ひとつ、または複数のファイルまたはディレクトリを削除する。
20	set	UEFI 環境変数を表示、作成、変更、または削除する。

項番	コマンド名	説明
21	time	現在の時刻を表示する。またはシステム時刻を設定する。
22	type	ファイルの内容を表示する。
23	ver	バージョン情報を表示する。
24	vol	ファイルシステムのボリューム情報を表示する。

第 7 章　sadump 環境の設定

本章では、sadump 環境の設定方法について説明します。
sadump 環境の設定は、UEFI 構成情報に保存されます。このため、設定内容を復旧するためにバックアップを実施してください。UEFI 構成情報のバックアップ・リストアのについて詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理マニュアル』(C122-E108) の「8.1.1 UEFI 構成情報のバックアップ・リストア」を参照してください。

7.1 sadump 環境設定のメニュー構成 528
7.2 メインメニュー 532
7.3 sadump セットアップメニュー 533
7.4 ダンプデバイスメンテナンスメニュー 535
7.5 ダンプデバイス構築メニュー 537
7.6 ダンプデバイス選択メニュー 539
7.7 ダンプデバイス設定メニュー 541
7.8 ダンプデバイス一覧メニュー 543
7.9 破棄ダンプデバイス選択メニュー 545
7.10 マルチダンプデバイス選択メニュー 547
7.11 マルチダンプデバイス確認メニュー 549

7.1 sadump 環境設定のメニュー構成

sadump 環境を設定するには、UEFI の [Device Manager] メニューから sadump を設定するためのメインメニューを選択します。以下に説明するメインメニューおよびサブメニューでそれぞれ値を入力し、sadump の環境を設定します。メニュー構成は、以下のとおりです。

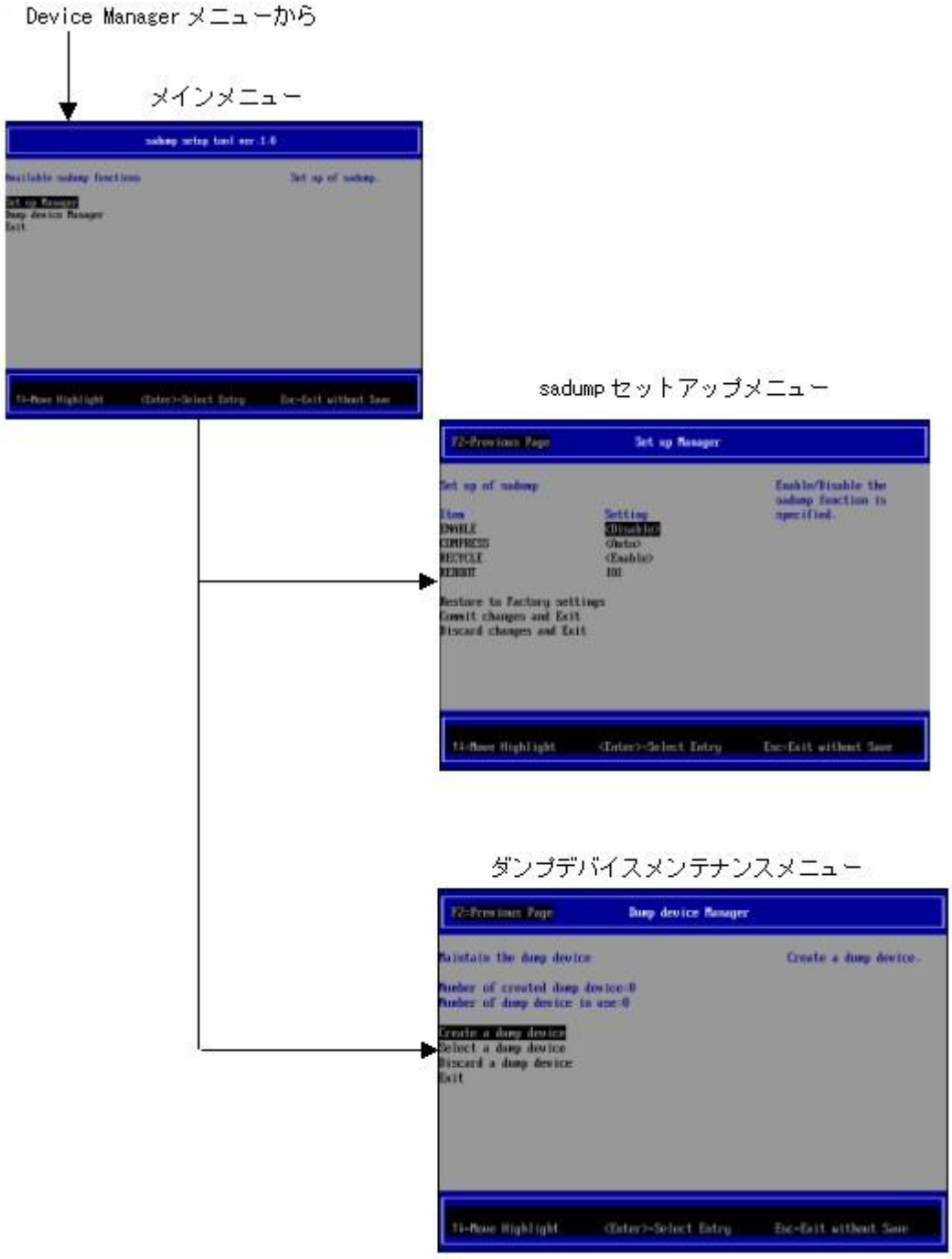


図 7.1 sadump 環境設定のメニュー構成 (1)

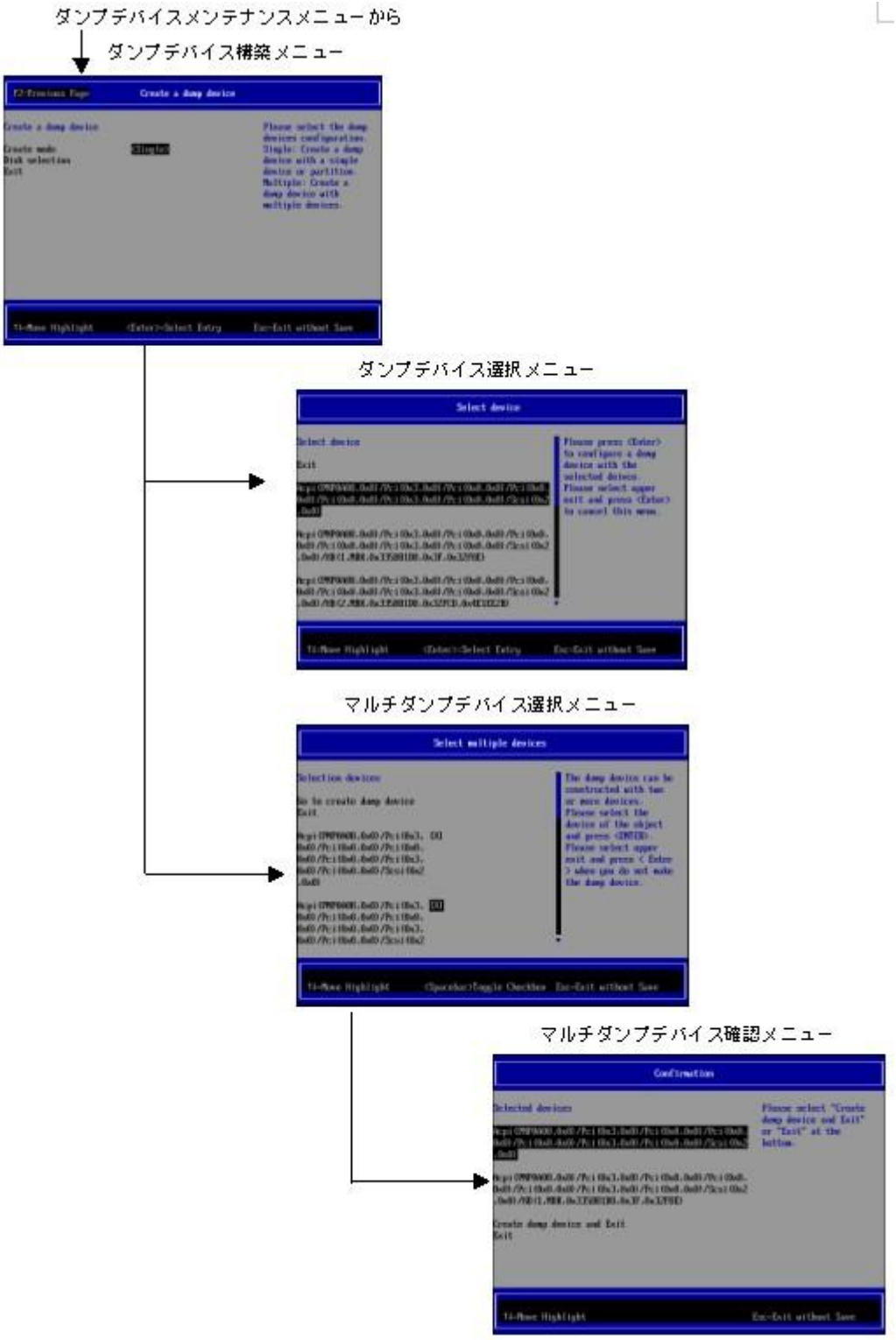


図 7.2 sadump 環境設定のメニュー構成 (2)

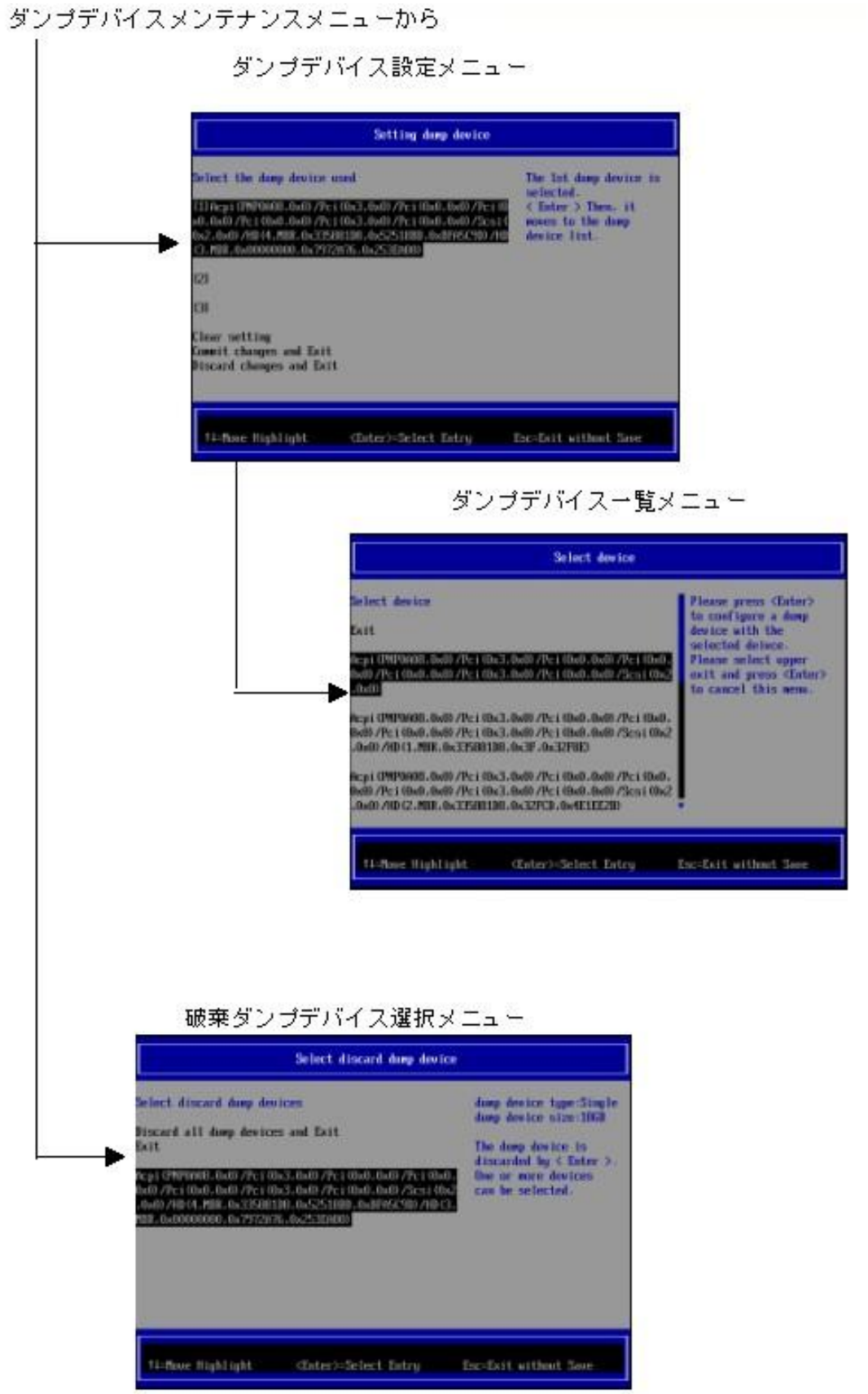
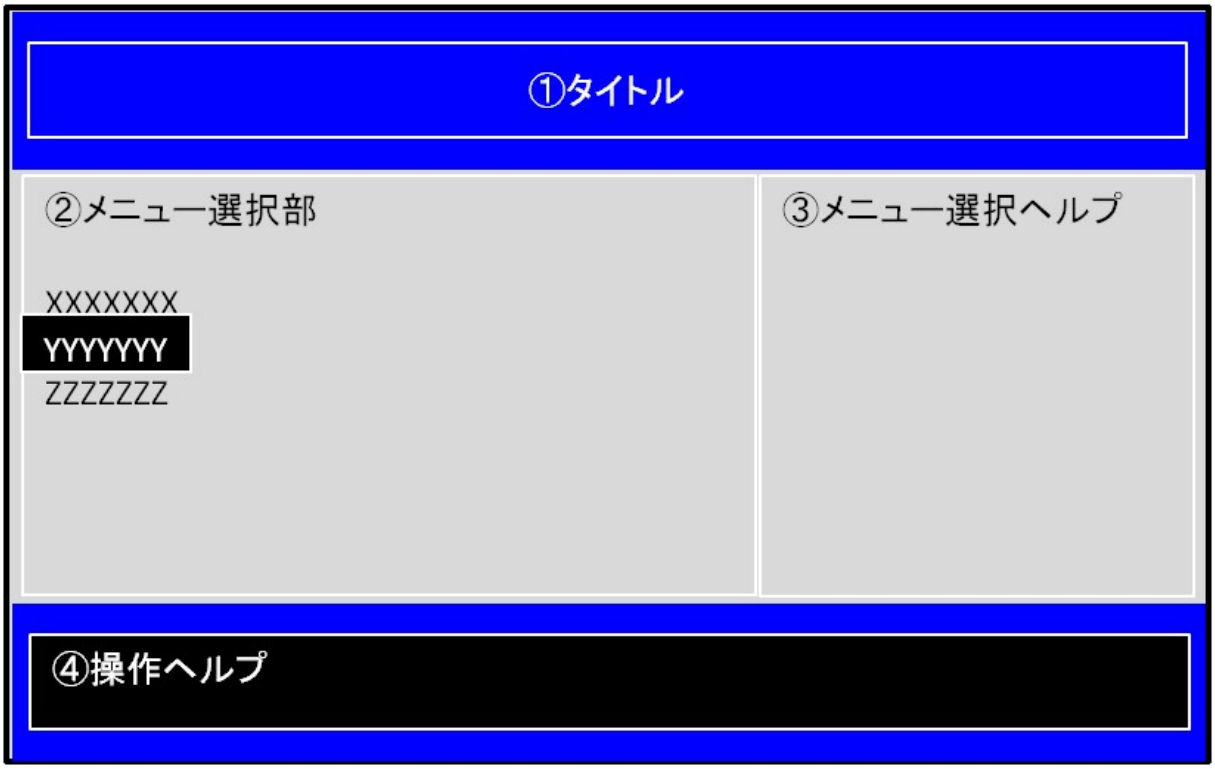


図 7.3 sadump 環境設定のメニュー構成 (3)

7.1.1 画面構成

sadump 環境を設定するメニューは、4 つの領域で構成されています。
以下に各領域を説明します。



番号	項目	意味
1	タイトル	メニューのタイトルが表示される。
2	メニュー選択部	操作を行うメニューが表示される。 [Enter] キーなどで操作する。選択した項目は反転表示される。
3	メニュー選択ヘルプ	メニュー選択部で選択しているメニューの詳細説明が表示される。
4	操作ヘルプ	画面を操作するためのヘルプ情報が表示される。

図 7.4 sadump 環境設定の画面構成

7.2 メインメニュー

[Device Manager] メニューで [Configure sadump] を選択すると、メインメニューが表示されます。このメニューから、sadump 環境またはダンプデバイスを設定できます。

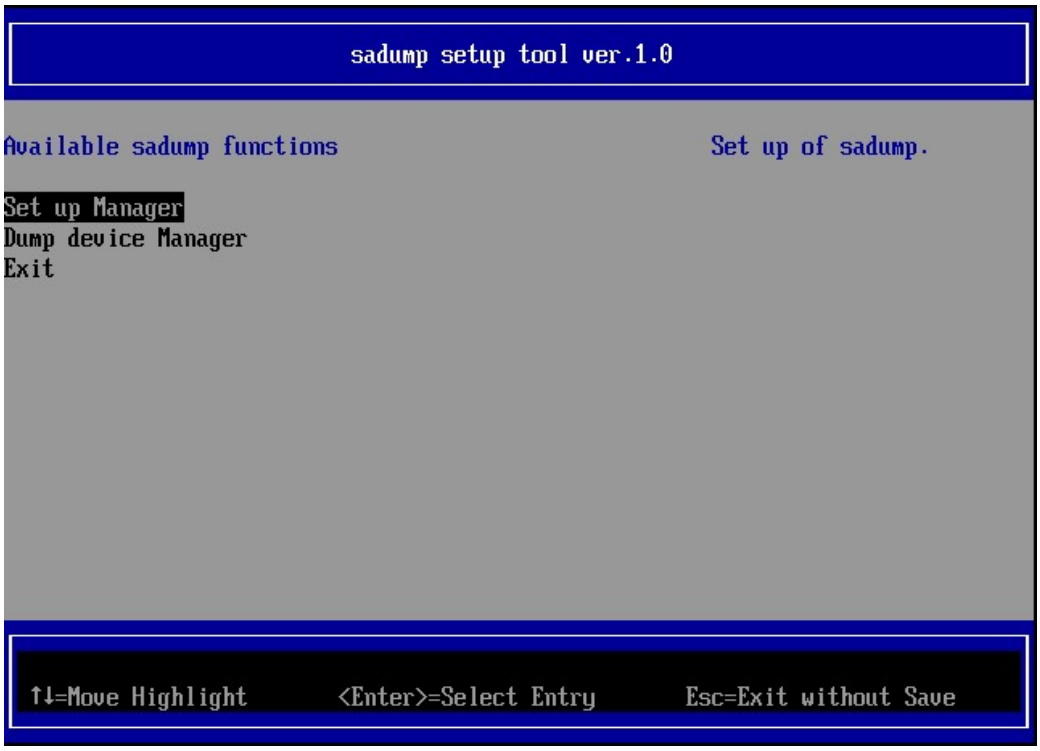


図 7.5 メインメニュー

表 7.1 メインメニューのメニュー項目

メニュー	説明
Set up Manager	sadump セットアップメニューに遷移する。
Dump device Manager	ダンプデバイスメンテナンスメニューに遷移する。
Exit	設定操作を終了する。

表 7.2 メインメニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択し実行する。

注意

[F2] キーは操作しないでください。[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

7.3 sadump セットアップメニュー

メインメニューで [Setup Manager] を選択すると、sadump セットアップメニューが表示されます。
このメニューには、sadump 環境構築のために設定する項目が一覧表示されます。sadump が設定されていないシステム導入初期状態では、以下のように表示されます。

図 7.6 sadump セットアップメニュー

表 7.3 sadump セットアップメニューのメニュー項目

メニュー	説明
ENABLE	sadump の有効・無効を選択する。 ・ Enable：有効 ・ Disable：無効 デフォルトは Disable。
COMPRESS	sadump ダンプ出力処理でダンプデバイスに書きこむ形式を指定する。 ・ Uncompress：圧縮しない
RECYCLE	ダンプデバイスを再利用するか否かを指定する。再利用する場合、一番古いダンプを破棄してダンプ出力する。 ・ Enable：有効 ・ Disable：無効 デフォルトは Enable。

メニュー	説明
REBOOT	sadump ダンプ出力処理後の動作を指定する。 ・ 0：HALT する ・ 1-3600：指定した秒後に再起動する。 デフォルトは 0。
Restore to factory settings	全項目をデフォルトに戻す。
Commit Changes and Exit	変更を更新してメイン画面へ戻る。
Discard Changes and Exit	変更を破棄してメイン画面へ戻る。

表 7.4 sadump セットアップメニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑ ↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択し実行する。 ENABLE、COMPRESS、RECYCLE の場合、選択項目がポップアップで表示される。 REBOOT の場合、指定値が入力可能となる。 指定値を設定し、 [Enter] キーで設定する。

注意

[F2] キーは操作しないでください。[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

7.4 ダンプデバイスメンテナンスメニュー

メインメニューで [Dump device Manager] を選択すると表示されます。
このメニューから、ダンプデバイスの構築、設定、破棄の操作を開始できます。

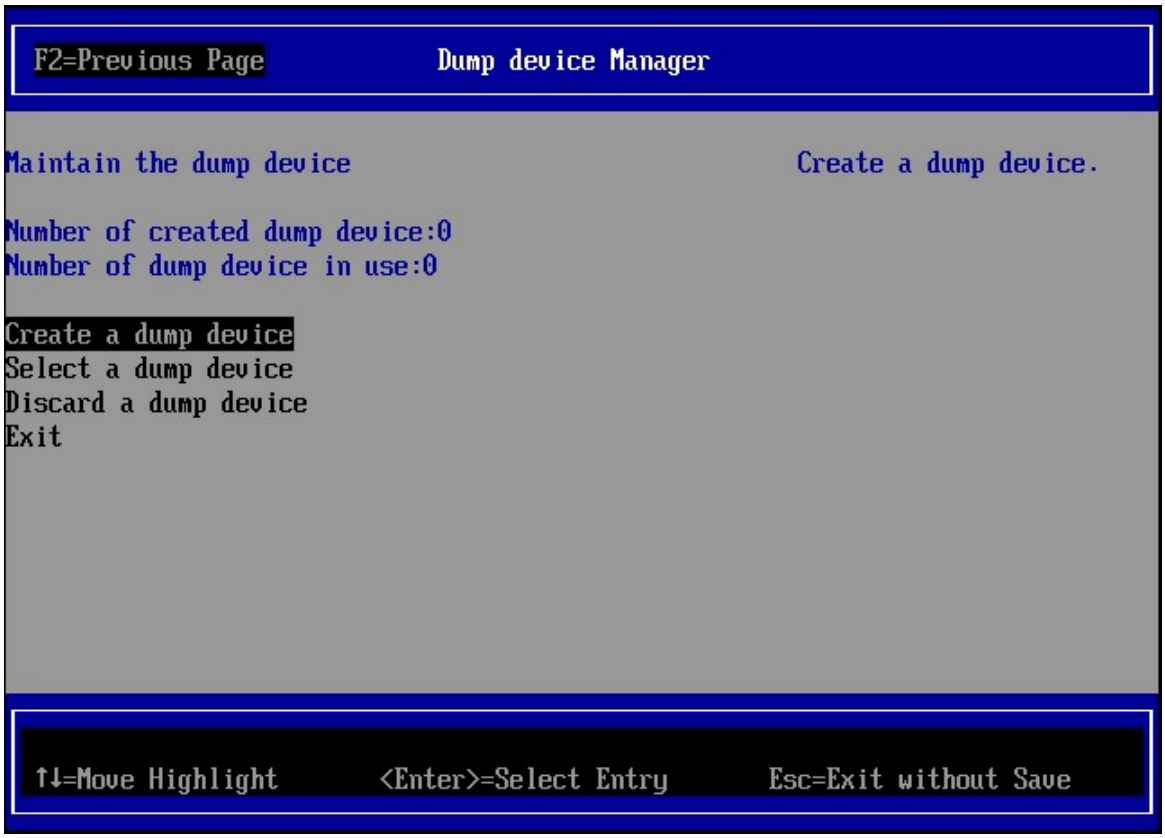


図 7.7 ダンプデバイスメンテナンスメニュー

表 7.5 ダンプデバイスメンテナンスメニューのメニュー項目

メニュー	説明
表示部分	現在の作成済みのダンプデバイスおよび設定済みのダンプデバイスの数を表示する。
Create a dump device	ダンプデバイス構築メニューに遷移する。
Select a dump device	ダンプデバイス設定メニューに遷移する。
Discard a dump device	破棄ダンプデバイス選択メニューに遷移する。
Exit	メインメニューへ遷移する。

表 7.6 ダンプデバイスメンテナンスメニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択し実行する。

注意

[F2] キーは操作しないでください。[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

7.5 ダンプデバイス構築メニュー

ダンプデバイスメンテナンスメニューで [Create a dump device] を指定すると表示されます。
ダンプデバイスを作成するか、作成したダンプデバイスを選択するかいずれかの操作を指定します。

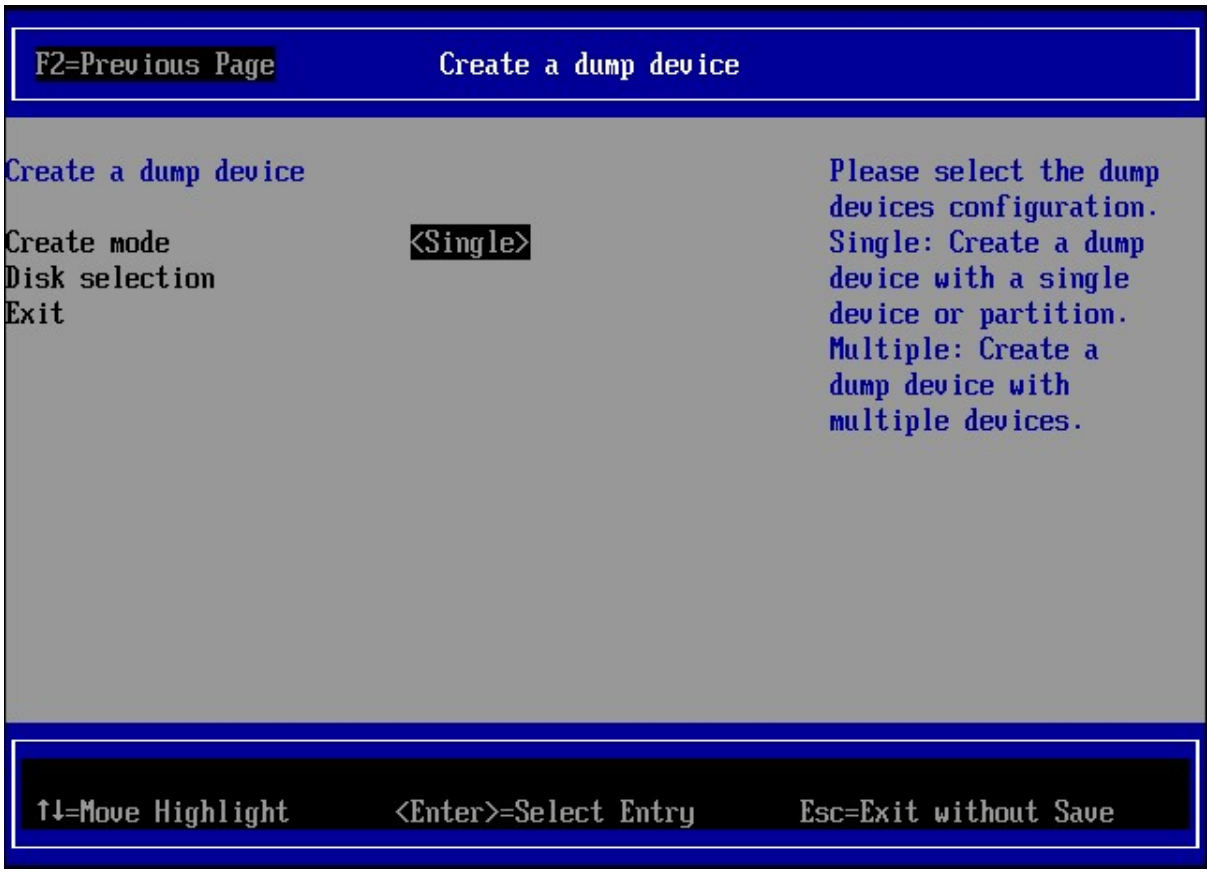


図 7.8 ダンプデバイス構築メニュー

表 7.7 ダンプデバイス構築メニューのメニュー項目

メニュー	説明
Create mode	ダンプデバイスの作成モードを選択する。 ・ Single：単一のディスクまたはパーティションで作成する。 冗長化構成をとる場合は"Single"で複数の sadump デバイスを作成する。 ・ Multiple:複数のディスクで作成する。 大容量メモリでディスクが 1 つでは足りない場合に使用する。 デフォルトは Single。
Disk selection	ダンプデバイス選択メニューに遷移する。
Exit	ダンプデバイスメンテナンスニューまたはマルチダンプデバイス選択メニューへ戻る。

表 7.8 ダンプデバイス構築メニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>=Select Entry	項目を選択し実行する。

注意

[F2] キーは操作しないでください。[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

7.6 ダンプデバイス選択メニュー

ダンプデバイス構築メニューで [Create Mode] に [Single] を指定すると表示されます。
ダンプデバイスを構築するディスクまたはディスクパーティションを選択して、ダンプデバイスを作成します。

⚠注意

(データ破壊)
ダンプデバイスを選択するさい、ディスクの選択が正しいか、再確認してください。選択を誤ったまま実行すると、データが破壊されます。

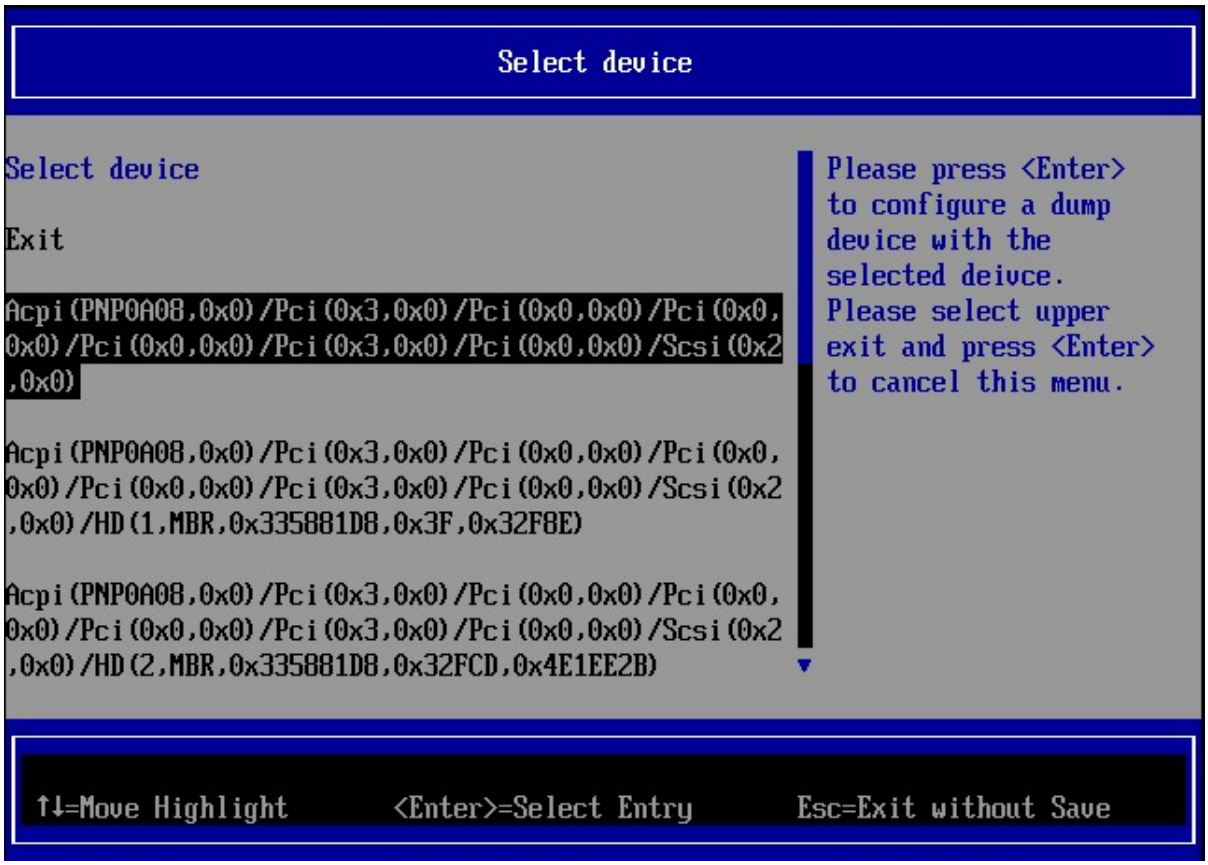


図 7.9 ダンプデバイス選択メニュー

表 7.9 ダンプデバイス選択メニューのメニュー項目

メニュー	説明
Exit	ダンプデバイス構築メニューへ戻る。
ディスク／ディスクパーティションの ACPI 名	ダンプデバイスを作成するディスクまたはディスクパーティションを指定する。

備考

- ディスクまたはディスクパーティションを表す ACPI 名については、「5.7 デバイスパス 」を参照してください。

- ETERNUS 上のデバイスをダンプデバイスに設定する場合、事前に UEFI ドライバの設定を実施する必要があります。設定手順について詳しくは、『PRIMEQUEST 1000 シリーズ SAN ブート環境構築マニュアル』(C122-E155)を参照してください。

表 7.10 ダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>= Select Entry	選択したディスクまたはディスクパーティションでダンプデバイスを構築し、ダンプデバイス構築メニューに遷移する。Exit を選択した場合、ダンプデバイスを構築せずにダンプデバイス構築メニューに戻る。

注意

- [Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。
- ダンプデバイスを作成するさい、ダンプデバイスが初期化されます。選択したディスクまたはディスクパーティションの大きさに応じて、初期化に必要な時間は異なります。場合によっては、初期化に時間がかかり、次の画面へ切り替わるのに数分以上かかることがあります。

7.7 ダンプデバイス設定メニュー

ダンプデバイスメンテナンスメニューで [Select a dump device] を指定すると表示されます。
構築したダンプデバイスから sadump で使用するものを設定します。

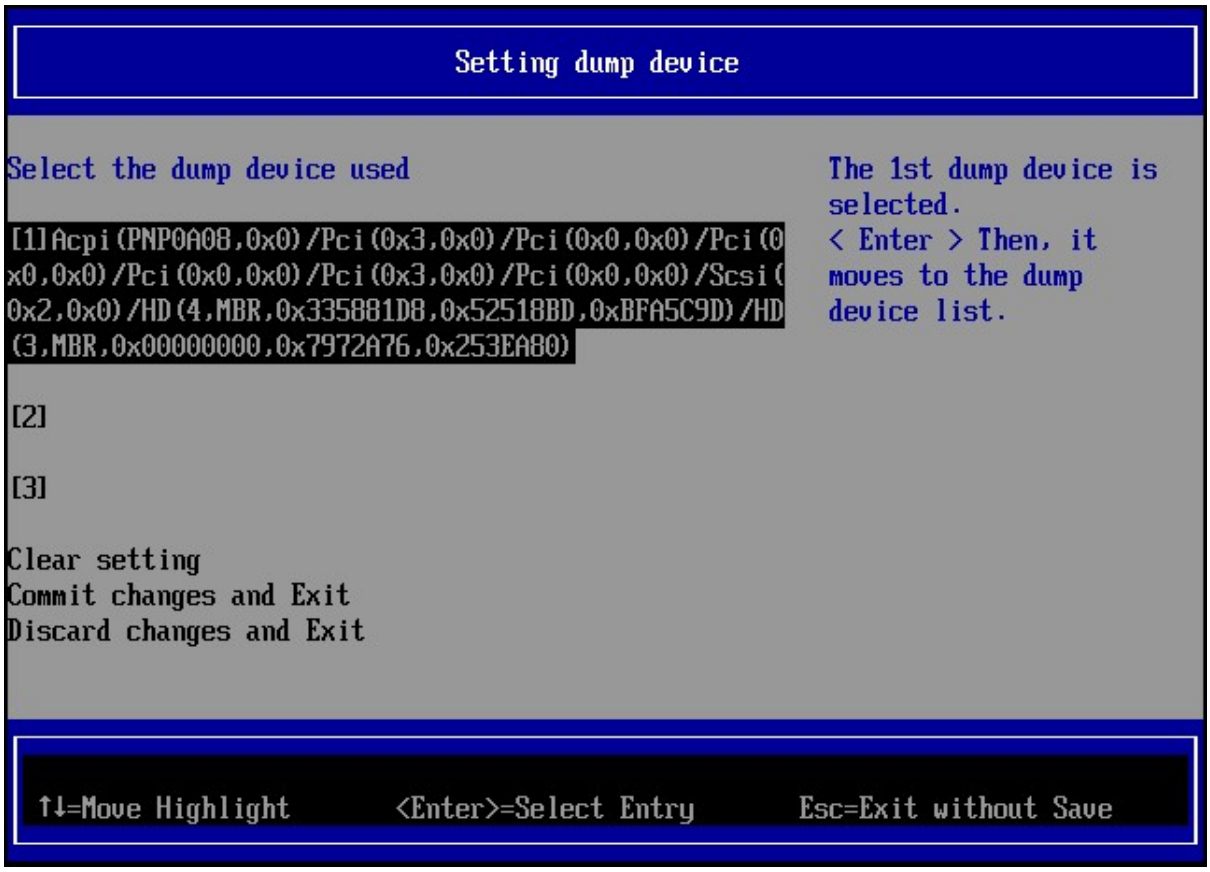


図 7.10 ダンプデバイス設定メニュー

表 7.11 ダンプデバイス設定メニューのメニュー項目

メニュー	説明
1 番目のダンプデバイス	1 番目のダンプデバイスを指定する。 指定がない場合は、[1] のみ表示される。
2 番目のダンプデバイス	2 番目のダンプデバイスを指定する。 指定がない場合は、[2] のみ表示される。
3 番目のダンプデバイス	3 番目のダンプデバイスを指定する。 指定がない場合は、[3] のみ表示される。
Clear setting	すべてのダンプデバイスの指定をクリアする。
Commit Changes and Exit	設定を更新して、ダンプデバイスメンテナンスメニューに戻る。
Discard Changes and Exit	設定を破棄して、ダンプデバイスメンテナンスメニューに戻る。

表 7.12 ダンプデバイス設定メニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>= Select Entry	[1] ～ [3]を指定した場合、ダンプデバイス一覧メニューに遷移する。 その他の項目を選択した場合、その処理を実行する。

注意

- [F2] キーは操作しないでください。[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。
- [Commit Changes and Exit] を実行すると、すでに指定しているデバイスを含めて、指定されているすべてのデバイスのチェックが行われます。そのさい、指定しているデバイスが存在しない場合は、そのデバイスの指定は自動的にクリアされます。

7.8 ダンプデバイス一覧メニュー

ダンプデバイス設定メニューで [1]、[2]、または [3] を指定すると表示されます。
自システムのダンプデバイスの一覧が表示されます。ダンプデバイスを設定できます。
複数のディスクでダンプデバイスを構築している場合、先頭のディスクを指定します。

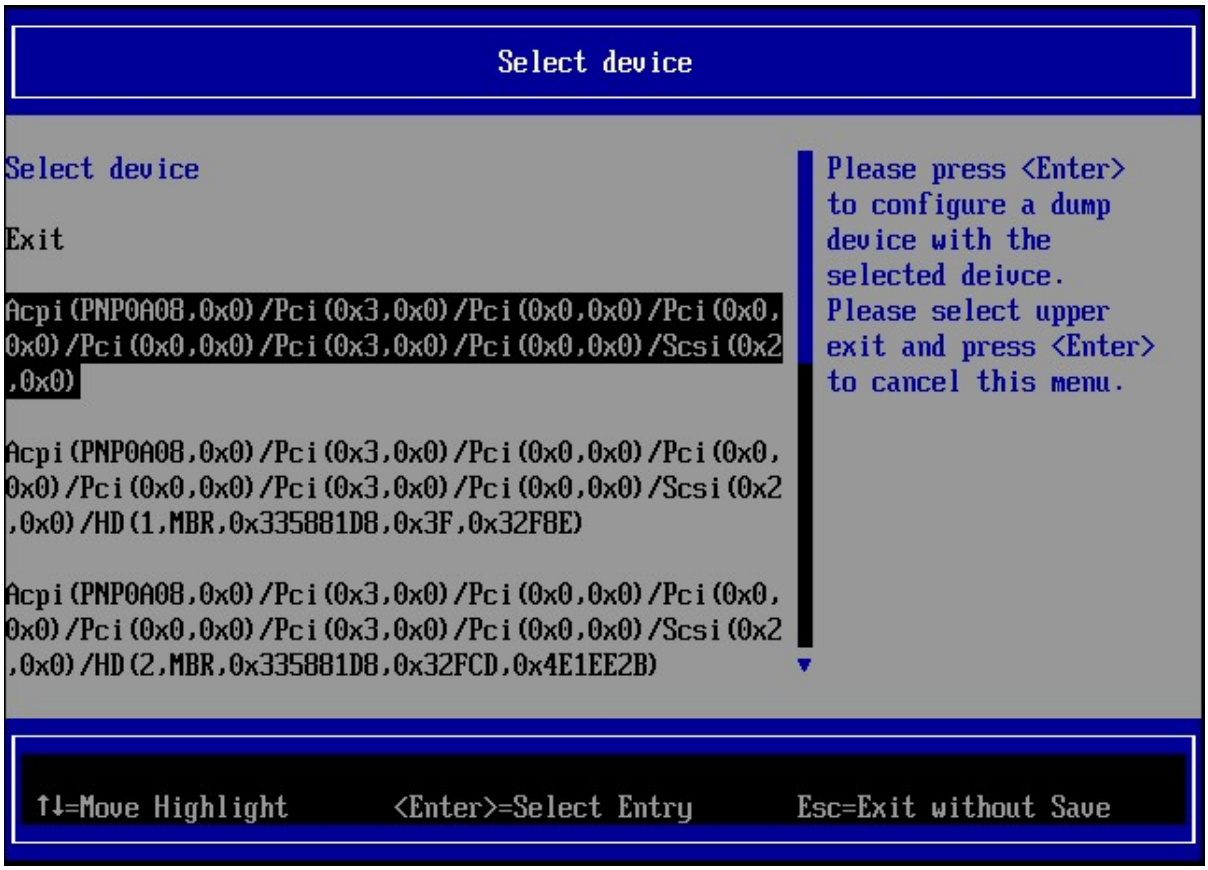


図 7.11 ダンプデバイス一覧メニュー

表 7.13 ダンプデバイス一覧メニューのメニュー項目

メニュー	説明
ダンプデバイスの ACPI 名	ダンプデバイスを構築したディスクまたはディスクパーティションの ACPI 名が表示される。 選択したダンプデバイスは反転される。

表 7.14 ダンプデバイス一覧メニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>= Select Entry	選択したダンプデバイスを確定し、使用ダンプデバイス設定メニューに遷移する。

注意

[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

7.9 破棄ダンプデバイス選択メニュー

ダンプデバイスメンテナンスメニューで [Discard a dump device] を指定すると表示されます。
不要となったダンプデバイスを破棄します。以下のメニューで破棄したいダンプデバイスを指定します。
複数のディスクでダンプデバイスを構築している場合、先頭のディスクを指定してすべてのディスクをダンプデバイスから破棄します。

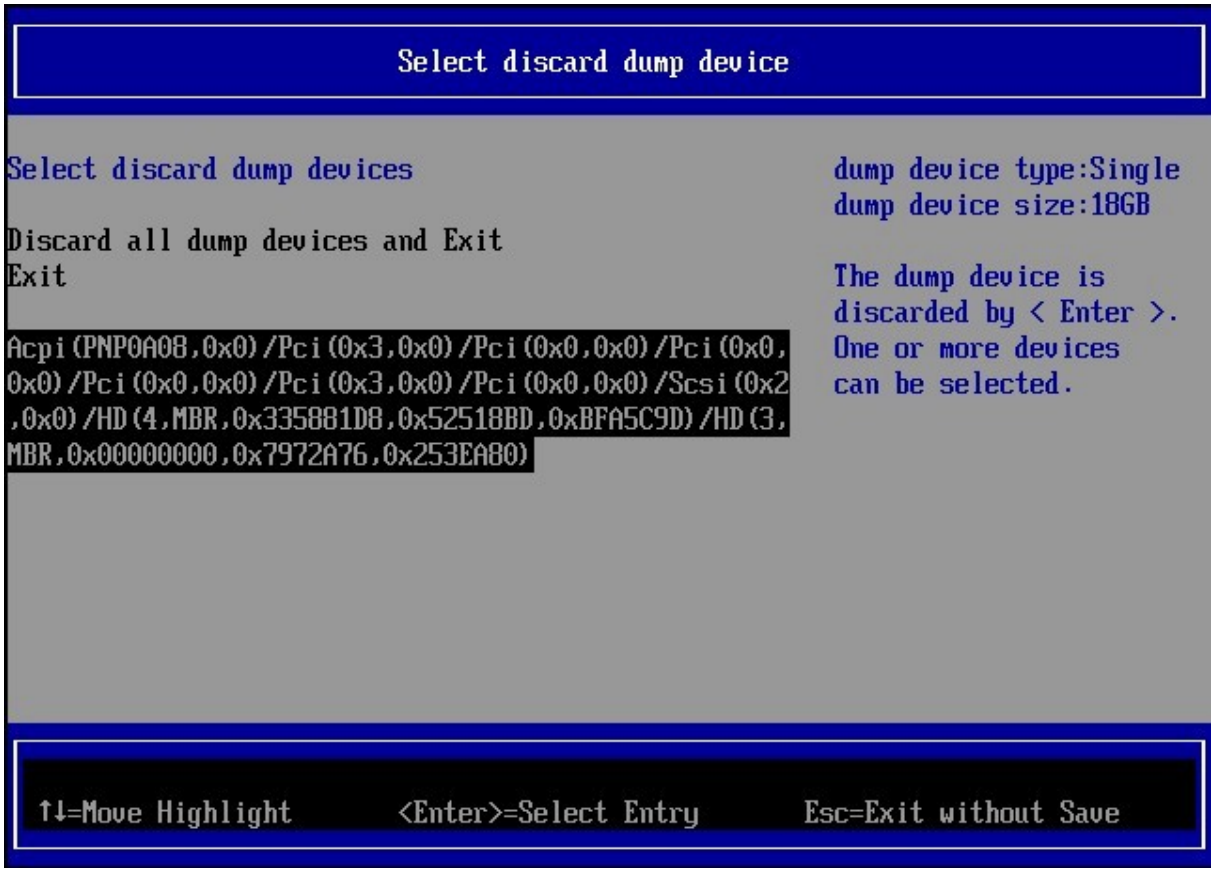


図 7.12 破棄ダンプデバイス選択メニュー

表 7.15 破棄ダンプデバイス選択メニューのメニュー項目

メニュー	説明
Discard all dump device and Exit	すべてのダンプデバイスを破棄し、ダンプデバイスメンテナンスメニューへ遷移する。
Exit	ダンプデバイスを破棄せず、ダンプデバイスメンテナンスメニューへ遷移する。
ダンプデバイスの ACPI 名	ダンプデバイスを選択する。

表 7.16 破棄ダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑ ↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。

操作	説明
<Enter>= Select Entry	ダンプデバイスを指定した場合、選択したダンプデバイスを破棄する。 その他の場合、項目を選択し実行する。

注意

[F2] キーは操作しないでください。[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

7.10　マルチダンプデバイス選択メニュー

ダンプデバイス構築メニューで [Create mode] に [Multiple] を指定すると表示されます。
ダンプデバイスを構成するディスクを複数選択します。

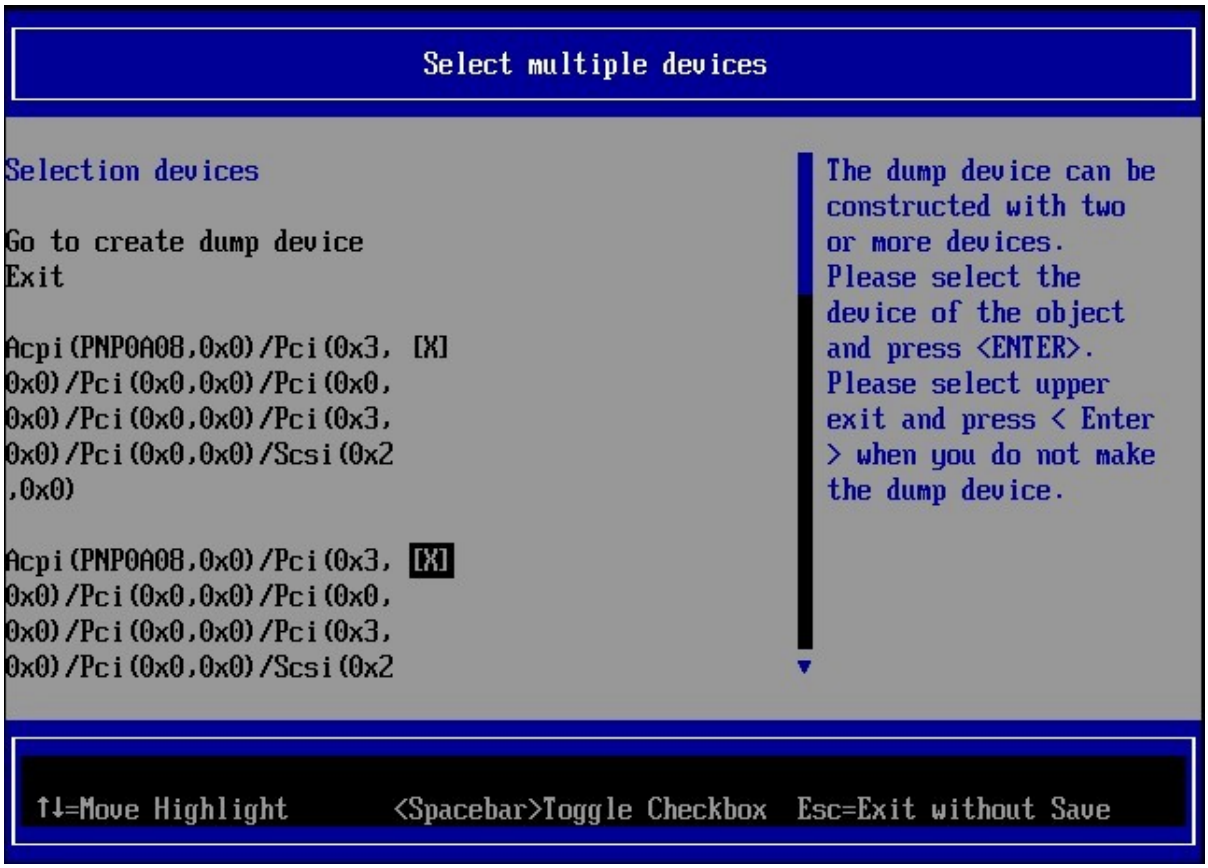


図 7.13 マルチダンプデバイス選択メニュー

表 7.17 マルチダンプデバイス選択メニューのメニュー項目

メニュー	説明
Go to create dump device	マルチダンプデバイス確認メニューへ遷移する。
Exit	ダンプデバイスを構築せずに、ダンプデバイス構築メニューへ戻る。
ダンプデバイスの ACPI 名	ダンプデバイスを作成するディスクの ACPI 名が表示される。[Space] キーで選択すると、ACPI 名の [ ] が [X] となる。

備考

ディスクを表す ACPI 名については、「5.7 デバイスパス」を参照してください。

表 7.18 マルチダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑ ↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。

操作	説明
<spacebar>= Toggle checkbox	ディスクを選択する。 選択したディスクには、[x]が表示される。再度[Space] キーを操作すると選択が解除される。

注意

[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

7.11　マルチダンプデバイス確認メニュー

マルチダンプデバイス選択メニューでダンプデバイスを指定し、 [Enter] キーを押すと表示されます。
複数指定したディスクを確認し、ダンプデバイスを構築します。

図 7.14 マルチダンプデバイス確認メニュー

表 7.19 マルチダンプデバイス確認メニューのメニュー項目

メニュー	説明
Create dump device and Exit	ダンプデバイスを構築し、ダンプデバイス構築画面へ遷移する。
Exit	ダンプデバイスを構築せずに、ダンプデバイス構築画面へ遷移する。
表示部分	マルチダンプデバイス選択メニューで選択したディスクが表示される。

表 7.20 マルチダンプデバイス確認メニューの操作ヘルプ

操作	説明
↑↓=Move Highlight	カーソルを上下に移動する。
<Enter>= Select Entry	項目を選択し、実行する。

注意

[Esc] キーは画面に表示されますが、操作しないでください。

付録 A　設定項目の一覧

設定項目の初期値および設定可能値一覧で示します。

A.1 MMB Web-UI の設定項目 552
A.2 PSA の設定項目 570
A.3 UEFI の設定項目 571
A.4 BMC の設定項目 573

A.1 MMB Web-UI の設定項目

MMB Web-UI の設定項目の初期値と設定可能値を、画面ごとに一覧で示します。

- A.1.1 [System Event Log Filtering Condition] 画面の設定項目
- A.1.2 [Operation Log Filtering Condition] 画面の設定項目
- A.1.3 [System Information] 画面の設定項目
- A.1.4 [System Setup] 画面の設定項目
- A.1.5 [System Power Control] 画面の設定項目
- A.1.6 [Power Control] 画面の設定項目
- A.1.7 [Schedule Control] 画面の設定項目
- A.1.8 [Add Schedule]／[Edit Schedule] 画面の設定項目
- A.1.9 [Partition Configuration] 画面の設定項目
- A.1.10 [Console Redirection Setup] 画面の設定項目
- A.1.11 [ASR Control] 画面の設定項目
- A.1.12 [Console Redirection] 画面の設定項目
- A.1.13 [Mode] 画面の設定項目
- A.1.14 [Add User]／[Edit User] 画面の設定項目
- A.1.15 [Date/Time] 画面の設定項目
- A.1.16 [Network Interface] 画面の設定項目
- A.1.17 [Management LAN Port Configuration] 画面の設定項目
- A.1.18 [Network Protocols] 画面の設定項目
- A.1.19 [Refresh Rate] 画面の設定項目
- A.1.20 [SNMP Community] 画面の設定項目
- A.1.21 [SNMP Trap] 画面の設定項目
- A.1.22 [SNMP v3 Configuration] 画面の設定項目
- A.1.23 [Create CSR] 画面の設定項目
- A.1.24 [Create Selfsigned Certificate] 画面の設定項目
- A.1.25 [Edit User] 画面の設定項目
- A.1.26 [Add Filter]／[Edit Filter] 画面の設定項目
- A.1.27 [Alarm E-Mail] 画面の設定項目
- A.1.28 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の設定項目

A.1.1 [System Event Log Filtering Condition] 画面の設定項目

[System Event Log Filtering Condition] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.1 [System Event Log Filtering Condition] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Severity	すべてオン	・ Error ・ Warning ・ Info ・ Monitor (複数選択可)	Monitor は、CE 権限でログインした場合のみ表示。

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Partition	・ Partition Operator 以外の場合：All ・ Partition Operator の場合：Specified (管理対象のパーティションが選択)	・ All ・ Specified	All、Specified の切替えで、Specified 側のチェックボックスの選択データは保持。
Unit	All	・ All ・ Specified	All、Specified の切替えで、Specified 側のチェックボックスの選択データは保持。
Source	All	・ All ・ Specified	All、Specified の切替えで、Specified 側のチェックボックスの選択データは保持。
Sort by Date/Time	New event first	・ New event first ・ Old event first	
Start Date/Time	First event	・ First event ・ Specified Time	Specified Time を選択した場合、開始時間を入力できる。 First event、Specified Time の切替えで、Specified Time 側の時間データは保持。
End Date/Time	Last event	・ Last event ・ Specified Time	Specified Time を選択した場合、終了時間を入力できる。 Last event、Specified Time の切替えで、Specified Time 側の時間データは保持。
Number of events to display	100 件	0 以上、表示されている分数の分母部分の数以下の整数 (最大 3000 件)	表示されている分数の分母は、記録されているイベントの総数。

A.1.2 [Operation Log Filtering Condition] 画面の設定項目

[Operation Log Filtering Condition] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.2 [Operation Log Filtering Condition] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Operation	All	・ All ・ Specified	All、Specified の切替えで、Specified 側のチェックボックスの選択データは保持。
Sort by Date/Time	New event first	・ New event first	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
		・ Old event first	
Start Date/Time	First event	・ First event ・ Specified Time	Specified Time を選択した場合、開始時間を入力できる。 First event、Specified Time の切替えで、Specified Time 側の時間データは保持。
End Date/Time	Last event	・ Last event ・ Specified Time	Specified Time を選択した場合、終了時間を入力できる。 Last event、Specified Time の切替えで、Specified Time 側の時間データは保持。
Number of events to display	100 件	0 以上、表示されている分数の分母部分の数以下の整数 (最大 3000 件)	表示されている分数の分母は、記録されているイベントの総数。

A.1.3 [System Information] 画面の設定項目

[System Information] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.3 [System Information] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
System Name	"PRIMEQUEST" ＋ Product Serial Number	最大 64 文字入力可能 [0-9]、[a-z]、[A-Z]、 ! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : ; * + ? < > . / _ |	SNMP の System Name としても使用。
Asset Tag	なし	最大 32 文字入力可能 (Administrator 権限のみ)	

A.1.4 [System Setup] 画面の設定項目

[System Setup] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.4 [System Setup] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Power Feed Mode	Single	・ Single ・ Dual	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Power Restoration Policy	Restore	・ Always off ・ Always on ・ Restore ・ Schedule Sync	
Shutdown Delay after UPS detected AC Failure	5 秒	0 ～ 9999 秒	
Partition Power On Delay	0 秒	0 ～ 9999 秒	
Altitude	Altitude ＜= 500 m	・ Altitude ＜= 500 m ・ 500 m ＜ Altitude ＜= 1000 m ・ 1000 m ＜ Altitude ＜= 1500 m ・ 1500 m ＜ Altitude	高度条件の設定誤差は、±100 m まで可能。
PSU Redundancy Mode	Non-Redundant (Power Feed Mode が Single の場合)	・ Redundant ・ Non-redundant	Power Feed Mode が Dual の場合、Redundant で固定。
Reserved SB Force Power Off Wait	10 分	0 ～ 99 分	

A.1.5 [System Power Control] 画面の設定項目

[System Power Control] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.5 [System Power Control] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
System Power Control	なし	・ Power On all partition(s) ・ Power Off all partition(s) (all partitions(s) will be automatically shutdown) ・ Force Power Off	

A.1.6 [Power Control] 画面の設定項目

[Power Control] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.6 [Power Control] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Power Control	なし	・ Power On ・ Power Off ・ Power Cycle ・ Reset ・ NMI ・ Force Power Off ・ sadump ・ (Not Specified)	
Force Power Off Delay	オフ	オンの場合は、時間指定 (1 ～ 9 分) が可能	
Boot Selector	No Override	・ No Override ・ Force boot into EFI Boot Manager ・ Force PXE ・ Force boot from DVD	

A.1.7 [Schedule Control] 画面の設定項目

[Schedule Control] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.7 [Schedule Control] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Schedule Control	Off	・ On ・ Off	

A.1.8 [Add Schedule]／[Edit Schedule] 画面の設定項目

[Add Schedule]／[Edit Schedule] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.8 [Add Schedule]／[Edit User] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Partition	定義されている最も小さい番号のパーティション		
Type	未選択	・ Daily ・ Weekly ・ Monthly	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
		・ Special	
Pattern	Weekly：未選択 Monthly：From 1 to 1 Special：Jan/1	・ Weekly：Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat ・ Monthly：Jan ～ Dec ・ Special：Jan/1 ～ Dec/31	
Term	・ Daily：From：Jan/1 To：Jan/1 ・ Weekly：From：Jan To：Jan ・ Monthly：From：Jan To：Jan	・ Daily：Jan/1 ～ Dec/31 ・ Weekly：Jan ～ Dec ・ Monthly：Jan ～ Dec	
On Time	Hour：0 Min：0	Hour：24 時間指定 Time：10 分単位で指定	
Off Time	Hour：0 Min：0	Hour：24 時間指定 Time：10 分単位で指定	

A.1.9 [Partition Configuration] 画面の設定項目

[Partition Configuration] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.9 [Partition Configuration] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Partition Name	なし	最大 16 文字入力可能。 英数字、半角スペース、 # _ -	

A.1.10 [Console Redirection Setup] 画面の設定項目

[Console Redirection Setup] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.10 [Console Redirection Setup] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
IP Address	0.0.0.0	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Subnet Mask	255.255.255.255	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
Video Redirection	Disable	・ Enable ・ Disable	
Remote Storage	Disable	・ Enable ・ Disable	
Text Console Redirection	Disable	・ Enable ・ Disable	

A.1.11 [ASR Control] 画面の設定項目

[ASR Control] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.11 [ASR Control] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Number of Restart Tries	5 回	1 ～ 10 回 0：リトライしない	
Action after exceeding Restart tries	Stop rebooting and Power Off	・ Stop rebooting and Power Off ・ Stop rebooting ・ Diagnostic Interrupt assert	
Cancel Boot Watchdog	オフ	・ オン：Boot Watchdog を解除 ・ オフ：Boot Watchdog を解除しない	

A.1.12 [Console Redirection] 画面の設定項目

[Console Redirection] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.12 [Console Redirection] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Operation	なし	・ Video Redirection ・ Text Console Redirection	[Console Redirection Setup] 画面で [Video Redirection] または [Text Console Redirection] が [Enable] の場合にのみ、選択可能。

A.1.13 [Mode] 画面の設定項目

[Mode] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.13 [Mode] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Mirror Mode (setting)	Disable	・ Enable ・ Disable	
POST	Standard Diagnosis	・ Fast Boot ・ Standard Diagnosis ・ Full Diagnosis	

A.1.14 [Add User]／[Edit User] 画面の設定項目

[Add User]／[Edit User] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.14 [Add User]／[Edit User] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
User Name	なし	8 文字以上 32 文字以下。 [0-9]、[a-z]、[A-Z]、 「-」、「_」 ただし、最初の 1 文字は [a-z] [A-Z] であること。	
Password	なし	8 文字以上、32 文字以下。 [0-9]、[a-z]、[A-Z]、 特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ `[ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	
Privilege	Add User の場合： Admin Edit User の場合：現在の Privilege	・ Admin ・ Operator ・ User ・ CE ・ Partition Operator	
Status	Add User の場合： Enable Edit User の場合：現在の Status	・ Enabled ・ Disabled	
Full Name	なし	最大 32 文字入力可能。	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Operable Partition (for Partition Operator)	なし	・ オン：操作可能 ・ オフ：操作不可	Privilege が Partition Operator 以外の場合は、グレーアウト表示。

A.1.15 [Date/Time] 画面の設定項目

[Date/Time] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.15 [Date/Time] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Date	サーバの時計での時刻を表示	YYYY-MM-DD ・ YYYY：西暦 ・ MM：月 ・ DD：日	
Time	サーバの時計での時刻を表示	・ Modify the Time がオン：時刻を設定する。 時：分：秒：24 時間形式 ・ Modify the Time がオフ：時刻を設定しない	
Time zone	なし	プルダウンメニューから選択	
NTP	Disable	・ Enable ・ Disable	
NTP Time Correction Mode	Step	・ Step ・ Slew	
NTP Server1	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	NTP が Enable の場合のみ、設定可能。
NTP Server2	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	NTP が Enable の場合のみ、設定可能。
NTP Server3	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	NTP が Enable の場合のみ、設定可能。

A.1.16 [Network Interface] 画面の設定項目

[Network Interface] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.16 [Network Interface] 画面の設定項目

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
Virtual IP Address	Hostname	"PRIMEQUEST" ＋ Product Serial Number	FQDN 形式でホスト名を設定。 [a-z], [A-Z], [0-9],「-」(ハイフン),「.」(ドット)	・ 先頭文字は英字でなければならない。 ・ - (ハイフン)、. (ドット) を先頭文字、末尾文字として指定することはできない。
	IP Address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Subnet Mask	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Gateway address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
MMB#0 IP Address	Interface	Disable	・ Enable ・ Disable	
	Hostname (optional)	なし	FQDN 形式でホスト名を設定。 [a-z], [A-Z], [0-9],「-」(ハイフン),「.」(ドット)	・ 先頭文字は英字でなければならない。 ・ - (ハイフン)、. (ドット) を先頭文字、末尾文字として指定することはできない。
	IP Address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Subnet Mask	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Gateway address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
MMB#1 IP Address	Interface	Disable	・ Enable ・ Disable	
	Hostname (optional)	なし	FQDN 形式でホスト名を設定。 [a-z], [A-Z], [0-9],「-」(ハイフン),「.」(ドット)	・ 先頭文字は英字でなければならない。 ・ - (ハイフン)、. (ドット) を先頭文字、末尾文字として指定することはできない。
	IP Address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
	Subnet Mask	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Gateway address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
DNS (optional)	DNS	Disable	・ Enable ・ Disable	
	DNS Server1	なし	Primary DNS サーバの IP アドレスを設定。	
	DNS Server2	なし	Secondary DNS サーバの IP アドレスを設定。	
	DNS Server3	なし	Third DNS サーバの IP アドレスを設定	
Management LAN	Dualization	Disable	・ Enable ・ Disable	
Maintenance IP Address	Interface	Disable	・ Enable ・ Disable	
	IP Address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Subnet Mask	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Gateway address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	SMTP address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
MMB-PSA IP Address	Interface	Disable	・ Enable ・ Disable	
	IP Address	172.30.0.1	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	Subnet Mask	255.255.255.0	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	

A.1.17 [Management LAN Port Configuration] 画面の設定項目

[Management LAN Port Configuration] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.17 [Management LAN Port Configuration] 画面の設定項目

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
Speed/Duplex for MMB#0	User port	Auto	・ Auto	1G/Full は、User Port のみ設定が可能。

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
	Maintenance port REMCS port		・ 1G/Full ・ 100M/Full ・ 100M/Half ・ 10M/Full ・ 10M/Half	
Speed/Duplex for MMB#1	User port Maintenance port REMCS port	Auto	・ Auto ・ 1G/Full ・ 100M/Full ・ 100M/Half ・ 10M/Full ・ 10M/Half	1G/Full は、User Port のみ設定が可能。

A.1.18 [Network Protocols] 画面の設定項目

[Network Protocols] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.18 [Network Protocols] 画面の設定項目

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
Web (HTTPS)	HTTP	Disable	・ Enable ・ Disable	
	HTTP Port#	8081	1024 ～ 65535	
	HTTPS	Disable	・ Enable ・ Disable	
	HTTPS Port#	432	432、1024 ～ 65535	
	Timeout (sec)	600 秒	60 ～ 9999 秒 0：タイムアウトなし	
Telnet	Telnet	Disable	・ Enable ・ Disable	
	Telnet Port#	23	23、1024 ～ 65535	
	Timeout	600 秒	60 ～ 9999 秒 0：タイムアウトなし	
SSH	SSH	Disable	・ Enable ・ Disable	
	SSH Port#	22	22、1024 ～ 65535	
	Timeout	600 秒	60 ～ 9999 秒 0：タイムアウトなし	
SNMP	SNMP Agent	Disable	・ Enable ・ Disable	

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
	Agent Port#	161	161、1024 ～ 65535	
	SNMP Trap	Disable	・ Enable ・ Disable	
	Trap Port#	162	162、1024 ～ 65535	

A.1.19 [Refresh Rate] 画面の設定項目

[Refresh Rate] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.19 [Refresh Rate] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Refresh Rate	Disable	・ Enable - 秒：5 ～ 999 秒 ・ Disable	

A.1.20 [SNMP Community] 画面の設定項目

[SNMP Community] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.20 [SNMP Community] 画面の設定項目

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
System Information	System Location	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	・ #と半角スペースは先頭文字として使用できない。 ・ 半角スペースは最後の文字として使用できない。
	System Contact	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	・ #と半角スペースは先頭文字として使用できない。 ・ 半角スペースは最後の文字として使用できない。
Community	Community/User	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	" # ' 'は、先頭文字として使用できない。

大項目	設定項目	初期値	設定可能値	備考
	IP Address/MASK	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
	SNMP Version	1	・ 1 ・ 2 ・ 3	
	Access	Read Only	・ Read Only ・ Read Write	
	Auth	なし	・ noauth ・ auth ・ priv	

A.1.21 [SNMP Trap] 画面の設定項目

[SNMP Trap] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.21 [SNMP Trap] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Community/User	なし	SNMP v1、v2 の場合は、SNMP Community ストリングを設定。 SNMP v3 の場合は、User 名を指定。	
IP Address	0.0.0.0	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
SNMP Version	1	・ 1 ・ 2 ・ 3	
Auth	なし	・ noauth ・ auth ・ priv	
Auth Type	なし	・ MD5 ・ SHA	
Auth passphrase	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	
Priv passphrase	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
		特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	

A.1.22 [SNMP v3 Configuration] 画面の設定項目

[SNMP v3 Configuration] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.22 [SNMP v3 Configuration] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Engine ID	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	
User Name	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	
Auth Type	MD5	・ MD5 ・ SHA	
Auth passphrase	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	
Priv passphrase	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、特殊文字：! " # $ % & ' ( ) = - ^ ~ ¥ @ ` [ ] { } : * ; + ? < . > , / _ |	

A.1.23 [Create CSR] 画面の設定項目

[Create SCR] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.23 [Create CSR] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Key length	1024	・ 1024 ・ 2048	
Country Name	なし	ISO 国コード (英字 2 文字)	例：日本「JP」 USA「US」

設定項目	初期値	設定可能値	備考
State or Province Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Locality Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Organization Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Organization Unit Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Common Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
E-Mail Address	なし	E-Mail アドレス。 最大 40 文字入力可能	

A.1.24 [Create Selfsigned Certificate] 画面の設定項目

[Create Selfsigned Certificate] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.24 [Create Selfsigned Certificate] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Key length	1024	・ 1024 ・ 2048	
Term	なし	1 ～ 4095 日	
Country Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
State or Province Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Locality Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Organization Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Organization Unit Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
Common Name	なし	最大 56 文字入力可能。	
E-Mail Address	なし	E-Mail アドレス。 最大 40 文字入力可能	

A.1.25 [Edit User] 画面の設定項目

[Edit User] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.25 [Edit User] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
User Name	なし	8 文字以上、16 文字以下。 [0-9]、[a-z]、[A-Z]	
Password	なし	8 文字以上、16 文字以下。 [0-9]、[a-z]、[A-Z]	
Privilege	Add User の場合：Admin Edit User の場合：現在の Privilege	・ Admin ・ Operator ・ User ・ CE ・ No Access	
Status	Disabled	・ Enabled ・ Disabled	

A.1.26 [Add Filter]／[Edit Filter] 画面の設定項目

[Add Filter]／[Edit Filter] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.26 [Add Filter]／[Edit Filter] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Protocol	SSH	・ HTTP ・ HTTPS ・ Telnet ・ SSH ・ SNMP	
Access Control	Disable	・ Enable ・ Disable	
IP Address	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	
Subnet Mask	なし	0-255, 0-255, 0-255, 0-255	

A.1.27 [Alarm E-Mail] 画面の設定項目

[Alarm E-Mail] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.27 [Alarm E-Mail] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Alarm E-Mail	Disable	・ Enable ・ Disable	
From	なし	E-Mail アドレス	[Use envelope "from" address] チェックボックスをオンにすると、[From:] のアドレスを送信元の E-Mail アドレスとして設定し、メールを送信する。デフォルトはオフ。
To	なし	E-Mail アドレス	複数指定する場合は「,」(カンマ)で区切る。
SMTP Server	なし	SMTP サーバの IP アドレスまたは FQDN1	
Subject	なし	[0-9]、[a-z]、[A-Z]、 特殊文字：! # " $ % & ' ( ) * + - . / _ ~ スペース	

A.1.28 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の設定項目

[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.28 [Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Severity	すべてオン	・ Error ・ Warning ・ Info (複数選択可)	
Partition	すべてオン	パーティションを選択 (複数選択可)	
Unit	All	・ All ・ Specified	Specified を選択した場合は、表示する Unit をオンにする。
Source	All	・ All ・ Specified	Specified を選択した場合は、表示する Source をオンにする。

A.2 PSA の設定項目

PSA の設定項目の初期値と設定可能値を一覧で示します。
PSA は、PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L のみ提供します。

・ A.2.1 [Agent Log Filtering Condition] 画面の設定項目

A.2.1 [Agent Log Filtering Condition] 画面の設定項目

[Agent Log Filtering Condition] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.29 [Agent Log Filtering Condition] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Severity	すべてオン	・ Error ・ Warning ・ Info (複数選択可)	
Unit	Select Unit - All	・ Select Unit (ユニット種別をプルダウンで選択) ・ Input Unit (Unit 名を直接入力)	
Sort by Date/Time	New event first	・ New event first ・ Old event first	
Start Date/Time	First event	・ First event ・ Specified Time	
End Date/Time	End event	・ End event ・ Specified Time	
Number of events to display	1000 件	・ 100 ・ 200 ・ 300 ・ 400 ・ 500 ・ 1000	

A.3 UEFI の設定項目

UEFI の設定項目の初期値と設定可能値を一覧で示します。

- A.3.1 [Configure I/O Space Assignment] 画面の設定項目
- A.3.2 [Configure LAN Remote Boot] 画面の設定項目
- A.3.3 [Configure CPU] 画面の設定項目

A.3.1 [Configure I/O Space Assignment] 画面の設定項目

[Configure I/O Space Assignment] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.30 [Configure I/O Space Assignment] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
I/O 空間割り当て	Auto	・ Auto ・ Disabled	

A.3.2 [Configure LAN Remote Boot] 画面の設定項目

[Configure LAN Remote Boot] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.31 [Configure LAN Remote Boot] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
PXE ブート	Disabled	・ Disabled ・ UEFI ・ Legacy	

A.3.3 [Configure CPU] 画面の設定項目

[Configure CPU] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.32 [Configure CPU] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Enhanced Speed Step	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	
Turbo Boost Technology	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	
Performance/Watt	Power Optimized	・ Power Optimized ・ Traditional	
Enhanced Idle Power State	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
ACPI C3 State	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	
Hyper Threading	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	
Active Processor Cores	FF (16 進数)	1 ～ FF (16 進数)	**注意** ユーザーは絶対に変更しないでください。
Virtualization Technology (VT-x)	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	
Virtualization Technology (VT-d)	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	
Adjacent Cache Line Prefetch	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	
Hardware Prefetch	Enabled	・ Enabled ・ Disabled	

A.4 BMC の設定項目

BMC の設定項目の初期値と設定可能値を、画面ごとに一覧で示します。

- A.4.1 [Languages] 画面の設定項目
- A.4.2 [Preferences] 画面の設定項目

A.4.1 [Languages] 画面の設定項目

[Languages] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.33 [Languages] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Languages	English	・ English ・ Deutsch ・ Japanese	

A.4.2 [Preferences] 画面の設定項目

[Preferences] 画面の設定項目の初期値と設定可能値を、一覧で示します。

表 A.34 [Preferences] 画面の設定項目

設定項目	初期値	設定可能値	備考
Mouse (*1) または Mouse Mode (*2)	Relative Mode (*1) または Absolute Mode (*2)	・ Hide Mode (Relative) ・ Absolute Mode ・ Relative Mode	
Keyboard (*1) または Keyboard Layout (*2)	English (US)	・ English (US) ・ United Kingdom (EN) ・ German (DE) ・ German (Swiss) ・ French (FR) ・ French Belgium (FR) ・ Italian (IT) ・ Dutch (NL) ・ Dutch Belgium (NL) ・ Danish (Danish) ・ Swedish (SV) ・ Finnish (FI) ・ Norwegian (NO)	

設定項目	初期値	設定可能値	備考
		・ Portuguese (PT) ・ Spanish (ES) ・ Turkish - F (TR) ・ Turkish - Q (TR) ・ Japan (JP)	
Logging (*1) または Global Logging (*2)	None	・ None ・ Console ・ Log File ・ Console and Log File	
Misc (*1)	Hardware Compression		未サポート
Low Bandwidth (*2)	None	・ None ・ 3 bpp ・ 8 bpp	
Internal TCP Port (*2)	5901	1 ～ 65535	

*1:SA11071 以前および SB11062 以前の場合
*2:SA11081 以降および SB11071 以降の場合

索　引

[A]

[Access Control] 画面..... 199
[Access Control] 画面の表示・設定項目..... 199
[Access Control] 画面のボタン..... 200
[Add Boot Option] メニューの表示例..... 456
[Add Filter]／[Edit Filter] 画面の設定項目..... 568
[Add Filter] 画面..... 201
[Add Filter] 画面の表示・設定項目..... 202
[Add Filter] 画面のボタン..... 202
[Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面..... 133
[Add SB/IOB/GSPB to Partition] 画面の表示・設定項目
..... 134
[Add Schedule]／[Edit User] 画面の設定項目..... 556
[Add Schedule] 画面..... 126
[Add Schedule] 画面の表示・設定項目..... 126
[Add Schedule] 画面のボタン..... 127
[Add User]／[Edit User] 画面の設定項目..... 559
[Add User]／[Edit User] 画面の表示・設定項目..... 156
[Add User]／[Edit User] 画面のボタン..... 157
[Add User] 画面..... 155
[Agent Log Filtering Condition] 画面..... 339
[Agent Log Filtering Condition] 画面の設定項目..... 570
[Agent Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目....
339
[Agent Log Filtering Condition] 画面のボタン..... 340
[Agent Log] 画面..... 336
[Agent Log] 画面の表示・設定項目..... 337
[Agent Log] 画面のボタン..... 337
[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面..... 207
[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の設定項目....
569
[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面の表示・設定項目
..... 207
[Alarm E-Mail Filtering Condition] 画面のボタン..... 208
[Alarm E-Mail] 画面..... 204
[Alarm E-Mail] 画面の設定項目..... 569
[Alarm E-Mail] 画面の表示・設定項目..... 204
[Alarm E-Mail] 画面のボタン..... 205
[ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面..... 147
[ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面の表示・設
定項目..... 147
[ASR (Automatic Server Restart) Control] 画面のボタン...
148
[ASR Control] 画面の設定項目..... 558

[B]

[Backup/Restore MMB Configuration] 画面..... 211
[Backup BIOS Configuration] 画面..... 212
[Backup BIOS Configuration] 画面のボタン..... 212
BMC の設定項目..... 573
[Boot From File] メニューの表示例..... 506
[Boot Maintenance Manager] メニュー..... 451
[Boot Maintenance Manager] メニューからの遷移....
382
Boot Manager のブートオプション..... 393
Boot Manager フロントページ..... 386
Boot Manager フロントページからの遷移..... 381
Boot Manager フロントページの画面領域..... 387
Boot Manager フロントページ表示例..... 386
[Boot Manager] メニュー..... 390
[Boot Manager] メニューの表示例.... 390 , 407 , 421 ,
455 , 464
[Boot Options] メニュー..... 453
[Boot Options] メニューからの遷移 (1/3)..... 383
[Boot Options] メニューからの遷移 (2/3)..... 384
[Boot Options] メニューからの遷移 (3/3)..... 385

[C]

Change Boot Order で使用するキーの表示内容..... 512
[Change Boot Order] メニュー..... 472
[Change Legacy Boot Order] メニューの表示例.... 400 ,
477
[Change Legacy DVD/CD Boot Priority] メニューの表示
例..... 402 , 492
[Change Legacy HDD Boot Priority] メニューの表示例....
401 , 484
[Change Legacy PXE Boot Priority] メニューの表示例....
403 , 423 , 499
[Change Password] 画面..... 158
[Change Password] 画面のボタン..... 158
CLI の基本操作..... 217 , 354
[Configure CPU] 画面の設定項目..... 571
[Configure CPU] メニューの表示例..... 424
[Configure I/O Assignment] メニューの表示例..... 411
[Configure I/O Space Assignment] 画面の設定項目....
571
[Configure LAN Remote Boot] 画面の設定項目..... 571
[Configure LAN Remote Boot] メニューの反映..... 415
[Configure LAN Remote Boot] メニューの表示例..... 416
[Configure Memory] メニュー画面表示例..... 441
[Configure PCI Bus Padding] メニューの表示例..... 429
[Configure SR-IOV] メニュー画面表示例 446
[Console Redirection Setup] 画面の設定項目..... 557
[Console Redirection] 画面..... 149
[Console Redirection] 画面の設定項目..... 558
[Console Redirection] 画面の表示・設定項目..... 149
[Continue] メニュー..... 389
[CPUs] 画面..... 305
[CPUs] 画面の表示項目..... 305
[Create CSR] 画面..... 187
[Create CSR] 画面の設定項目..... 566
[Create CSR] 画面の表示・設定項目..... 187
[Create CSR] 画面のボタン..... 188
[Create Selfsigned Certificate] 画面..... 192
[Create Selfsigned Certificate] 画面の設定項目..... 567
[Create Selfsigned Certificate] 画面の表示項目..... 192
[Create Selfsigned Certificate] 画面のボタン..... 193
[Create SSH Server Key] 画面..... 194
[Create SSH Server Key] 画面のボタン..... 194

[D]

[Date/Time] 画面..... 161

[Date/Time] 画面の設定項目..... 560
[Date/Time] 画面の表示・設定項目..... 161
[Date/Time] 画面のボタン..... 162
[Delete Boot Option] メニューの表示例..... 466
[Device Manager] メニュー..... 409
[Device Manager] メニューの表示例..... 409
DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (1)..... 443
DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (2)..... 444
DIMM Self Refresh 機能の設定操作画面 (3)..... 445
[DIMMs] 画面..... 306
[DIMMs] 画面の表示項目..... 306
[DVDB] 画面..... 111
[DVDB] 画面の表示項目..... 112
[DVDB] 画面のボタン..... 112
[DVD Switch] 画面..... 128
[DVD Switch] 画面の表示・設定項目..... 128
[DVD Switch] 画面のボタン..... 130

[E]

[Edit User] 画面..... 156 , 197
[Edit User] 画面の設定項目..... 568
[Edit User] 画面の表示・設定項目..... 197
[Edit User] 画面のボタン..... 198
[Ethernet Controller] 画面..... 309
[Ethernet Controller] 画面 (プログレスバー表示)..... 310
[Ethernet Controller] 画面の表示・設定項目..... 310
[Ethernet Controller] 画面のボタン..... 313
[Export Key/CSR] 画面..... 189
[Export Key/CSR] 画面のボタン..... 190
[Export List] 画面..... 342
[Export List] 画面の表示・設定項目..... 342
[Export List] 画面のボタン..... 343
[Export] 画面..... 345
[Export] 画面の表示・設定項目..... 345
[Export] 画面のボタン..... 345

[F]

[Fans] 画面..... 83
[Fans] 画面の表示項目..... 83
[Fans] 画面のボタン..... 84
[Fibre Channel] 画面..... 322
[Fibre Channel] 画面の表示・設定項目..... 322
[Fibre Channel] 画面のボタン..... 324
Fibre カードからのディスクの特定..... 519
[Firmware Information] 画面..... 73
[Firmware Information] 画面の表示項目..... 73
fjpciswap コマンド中断時の現象..... 372

[G]

GigaLAN の特定..... 520
[GSPB#x] 画面 (1)..... 99
[GSPB#x] 画面 (2)..... 100
[GSPB#x] 画面の表示・設定項目..... 100
[GSPB#x] 画面のボタン..... 102
GSPB 交換後のブートオーダー..... 398
GSPB 交換前のブートオーダー..... 397

[H]

[Hard Disks] 画面..... 332 , 333
[Hard Disks] 画面の表示項目..... 333
[Hardware Inventory] 画面..... 334
[Hardware Inventory] 画面の項目に表示される内容.... 334
[Hardware Inventory] 画面の表示項目..... 334
HDD の表示文字列..... 490

[I]

I/O 空間の割当て操作画面(1)..... 413
I/O 空間の割当て操作画面(2)..... 414
I/O 空間の割当て操作画面(3)..... 415
[Import Certificate] 画面..... 191
[Import Certificate] 画面のボタン..... 191
[Information] 画面..... 145
[Information] 画面の表示項目..... 145
[IOB#x] 画面 (1)..... 96
[IOB#x] 画面 (2)..... 96
[IOB#x] 画面の表示・設定項目..... 97
[IOB#x] 画面のボタン..... 98
IOH ～ Fibre カード接続関係..... 519
IOH ～ GigaLAN 接続関係..... 520
IOH ～ SAS ディスク接続関係..... 516
[IPv4 Console Redirection Setup] 画面..... 141
[IPv4 Console Redirection Setup] 画面の表示・設定項目..... 141
[IPv4 Console Redirection Setup] 画面のボタン..... 142
[IPv4 Interfaces] 画面..... 326
[IPv4 Interfaces] 画面 (プログレスバー表示)..... 327
[IPv4 Interfaces] 画面の表示項目..... 327
[IPv4 Interface] 画面 (1)..... 165
[IPv4 Interface] 画面 (2)..... 165
[IPv4 Interface] 画面の表示・設定項目..... 166
[IPv4 Interface] 画面のボタン..... 168
[IPv6 Console Redirection Setup] 画面..... 143
[IPv6 Console Redirection Setup] 画面の表示・設定項目..... 143
[IPv6 Console Redirection Setup] 画面のボタン..... 144
[IPv6 Interfaces] 画面..... 329
[IPv6 Interfaces] 画面 (プログレスバー表示)..... 330
[IPv6 Interfaces] 画面の表示項目..... 330
[IPv6 Interface] 画面 (1)..... 169
[IPv6 Interface] 画面 (2)..... 170
[IPv6 Interface] 画面の表示・設定項目..... 170
[IPv6 Interface] 画面のボタン..... 172
[iSCSI Configuration] の表示例..... 422
[iSCSI Configuration] メニュー画面表示例..... 434
iSCSI 環境設定 操作画面 (1)..... 436
iSCSI 環境設定 操作画面 (2)..... 437

[L]

[Languages] 画面の設定項目..... 573
[LEDs] 画面..... 80
[LEDs] 画面の表示・設定項目..... 80
[LEDs] 画面のボタン..... 80
Legacy Boot オプションの実行..... 399

[M]

[Maintenance] メニュー..... 209
[Management LAN Port Configuration] 画面..... 173
[Management LAN Port Configuration] 画面の設定項目.... 562
[Management LAN Port Configuration] 画面の表示・設定項目..... 173
[Management LAN Port Configuration] 画面のボタン.... 174
[MMB#x] 画面..... 113
[MMB#x] 画面の表示・設定項目..... 113
[MMB#x] 画面のボタン..... 115
MMB CLI コマンド一覧 (Administrator)..... 218
MMB CLI コマンド一覧 (CE)..... 228
MMB CLI コマンド一覧 (Operator)..... 220
MMB CLI コマンド一覧 (Partition Operator)..... 223
MMB CLI コマンド一覧 (User)..... 225
MMB Web-UI の設定項目..... 552
MMB の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作..... 216
MMB の Web-UI (Web ユーザーインターフェース) 操作..... 1
[Mode] 画面..... 150
[Mode] 画面の設定項目..... 559
[Mode] 画面の表示・設定項目..... 150

[N]

[Network Configuration]メニュー..... 161
[Network Interface] 画面の設定項目..... 561
[Network Protocols] 画面..... 175
[Network Protocols] 画面の設定項目..... 563
[Network Protocols] 画面の表示・設定項目..... 175
[Network Protocols] 画面のボタン..... 176
[Network] メニュー..... 326
nmi..... 240

[O]

[Operation Log Filtering Condition] 画面の設定項目.... 553
[Operation Log Filtering Condition] 画面のボタン..... 66
[Operation Log Filtering Condition] 画面..... 65
[Operation Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目..... 65
[Operation Log] 画面..... 63
[Operation Log] 画面の表示項目..... 64
[Operation Log] 画面のボタン..... 64

[P]

[Partition Configuration] 画面..... 131
[Partition Configuration] 画面の設定項目..... 557
[Partition Configuration] 画面の表示・設定項目..... 131
[Partition Configuration] 画面のボタン..... 132
[Partition Event Log Filtering Condition] 画面..... 69
[Partition Event Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目..... 69
[Partition Event Log Filtering Condition] 画面のボタン.... 70
[Partition Event Log] 画面..... 67
[Partition Event Log] 画面の表示項目..... 67
[Partition Event Log] 画面のボタン..... 68
[Partition Home] 画面..... 137
[Partition Information] 画面..... 302
[Partition Information] 画面 (Linux)..... 302
[Partition Information] 画面 (Windows)..... 303
[Partition Information] 画面の表示項目..... 303
[Partition] メニュー..... 116
[PCI_Box#x] 画面 (1)..... 106
[PCI_Box#x] 画面 (2)..... 106
[PCI_Box#x] 画面 (3)..... 107
[PCI_Box#x] 画面の表示項目..... 107
[PCI_Box#x] 画面のボタン..... 110
[PCI Devices] 画面..... 307
[PCI Devices] 画面の表示項目..... 307
PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (1).... 431
PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (2).... 432
PCI Express スロットのバス数割当て操作画面 (3).... 433
PCI カード操作コマンド(fjpciswap)..... 372
[Power Control] 画面..... 116
[Power Control] 画面 (グレーアウト表示)..... 117
[Power Control] 画面のエラー表示..... 120
[Power Control] 画面の設定項目..... 556
[Power Control] 画面の表示・設定項目..... 117
[Power Control] 画面のボタン..... 119
[Power Supply] 画面..... 81
[Power Supply] 画面の表示項目..... 81
[Power Supply] 画面のボタン..... 82
[Preferences] 画面の設定項目..... 573
[PSA Logs Download－Result－] 画面（Linux）..... 351
[PSA Logs Download－Status－] 画面（Linux）..... 350
[PSA Logs Download－Status－] 画面の表示項目.... 350
[PSA Logs Download－Status－] 画面のボタン..... 351
[PSA Logs Download] 画面 347
[PSA Logs Download] 画面（Linux）..... 348
[PSA Logs Download] 画面（Windows）..... 349
[PSA Logs Download] 画面のボタン..... 349
PSA-MMB 通信 LAN 設定コマンド (setpsalan)..... 379
PSA 起動／停止コマンド (y30FJSVpsa)..... 361
PSA 調査資料収集コマンド (getopsa)..... 363
PSA の CLI (コマンドラインインターフェース) 操作.... 353
PSA の Web-UI (ウェブユーザーインターフェース) 操作..... 291
PSA の Web-UI メニュー一覧..... 294
PSA の Web-UI メニュー一覧 (Administrator)..... 294
PSA の Web-UI メニュー一覧 (CE)..... 300
PSA の Web-UI メニュー一覧 (Operator)..... 295
PSA の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator).... 297
PSA の Web-UI メニュー一覧 (User)..... 298
PSA の基本操作..... 292
PSA の設定項目..... 570
PXE ブート Enable 設定の操作画面 (1)..... 418

PXE ブート Enable 設定の操作画面 (2)..... 419
PXE ブート Enable 設定の操作画面 (3)..... 420

[R]

[RAID Controller] 画面..... 319
[RAID Controller] 画面の表示・設定項目..... 319
[RAID Controller] 画面のボタン..... 320
[Refresh Rate] 画面..... 178
[Refresh Rate] 画面の設定項目..... 564
[Refresh Rate] 画面の表示・設定項目..... 178
[Refresh Rate] 画面のボタン..... 178
[Remote Server Management] 画面..... 195
[Remote Server Management] 画面の表示・設定項目.... 196
[Remote Server Management] 画面のボタン..... 196
[Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面..... 135
[Remove SB/IOB/GSPB from Partition] 画面の表示・設定項目..... 135
[Reserved SB Configuration] 画面..... 138
[Reserved SB Configuration] 画面の表示・設定項目.... 139
[Reserved SB Configuration] 画面のボタン..... 139
[Restore BIOS Configuration] 画面 (1)..... 213
[Restore BIOS Configuration] 画面 (2)..... 214
[Restore BIOS Configuration] 画面 (2) の表示・設定項目..... 214
[Restore BIOS Configuration] 画面 (2) のボタン..... 214

[S]

sadump 環境設定の画面構成..... 531
sadump 環境設定のメニュー構成..... 528
sadump 環境設定のメニュー構成 (1)..... 528
sadump 環境設定のメニュー構成 (2)..... 529
sadump 環境設定のメニュー構成 (3)..... 530
sadump 環境の設定..... 527
sadump セットアップメニュー..... 533
sadump セットアップメニューの操作ヘルプ..... 534
sadump セットアップメニューのメニュー項目..... 533
[SASU#x] 画面..... 103
[SASU#x] 画面の表示・設定項目..... 103
[SASU#x] 画面のボタン..... 104
SAS ディスクの特定..... 516
[SB#x Status Clear] 画面 (メッセージ表示)..... 94
[SB#x] 画面 (1)..... 86
[SB#x] 画面 (2)..... 87
[SB#x] 画面 (3)..... 88
[SB#x] 画面 (CPU/DIMM なしの場合)..... 95
[SB#x] 画面の表示・設定項目..... 88
[SB#x] 画面のボタン..... 93
[Schedule Control] 画面..... 122
[Schedule Control] 画面の設定項目..... 556
[Schedule Control] 画面の表示・設定項目..... 122
[Schedule Control] 画面のボタン..... 123
[Schedule List] 画面..... 123
[Schedule List] 画面の表示・設定項目..... 124
[Schedule List] 画面のボタン..... 125
[Set Boot Delay Time] メニュー表示例..... 511
SGPIO コントローラーとスロットの状態 (Linux).... 358
SGPIO コントローラーとスロットの状態 (Windows).... 359
show ntpq の出力項目..... 274
[SNMP Community] 画面..... 180
[SNMP Community] 画面の設定項目..... 564
[SNMP Community] 画面の表示・設定項目..... 180
[SNMP Community] 画面のボタン..... 181
[SNMP Trap] 画面..... 182
[SNMP Trap] 画面の設定項目..... 565
[SNMP Trap] 画面の表示・設定項目..... 183
[SNMP Trap] 画面のボタン..... 183
[SNMP v3 Configuration] 画面..... 185
[SNMP v3 Configuration] 画面の設定項目..... 566
[SNMP v3 Configuration] 画面の表示・設定項目..... 185
[SNMP v3 Configuration] 画面のボタン..... 185
SNMP セキュリティ設定コマンド (setsnmpsec)..... 369
SR-IOV の設定操作画面 (1)..... 448
SR-IOV の設定操作画面 (2)..... 449
SR-IOV の設定操作画面 (3)..... 450
[Storage Controller] 画面..... 315
[Storage Controller] 画面の表示・設定項目..... 315
[Storage Controller] 画面のボタン..... 317
[System Event Log (Collect)] 画面..... 60
[System Event Log Filtering Condition] 画面のボタン.... 62
[System Event Log Filtering Condition] 画面の設定項目... 552
[System Event Log Filtering Condition] 画面..... 61
[System Event Log Filtering Condition] 画面の表示・設定項目..... 61
[System Event Log] 画面..... 57
[System Event Log] 画面の表示項目..... 58
[System Event Log] 画面のボタン..... 58
[System Information] 画面..... 71
[System Information] 画面の設定項目..... 554
[System Information] 画面の表示・設定項目..... 71
[System Information] 画面のボタン..... 72
[System Power Control] 画面..... 78
[System Power Control] 画面の設定項目..... 555
[System Power Control] 画面の表示・設定項目..... 78
[System Power Control] 画面のボタン..... 78
[System Setup] 画面..... 75
[System Setup] 画面の設定項目..... 554
[System Setup] 画面の表示・設定項目..... 75
[System Setup] 画面のボタン..... 76
[System Status] 画面..... 55
[System Status] 画面の表示項目..... 56
System メニュー..... 55

[T]

[Temperature] 画面..... 85
[Temperature] 画面の表示項目..... 85

[U]

UEFI Shell 起動直後の画面表示例..... 523

UEFI シェルコマンド一覧..... 525
UEFI シェルと UEFI コマンド..... 523
UEFI シェルのワイルドカード..... 524
UEFI のコマンド操作..... 522
UEFI の設定項目..... 571
UEFI のブート仕様とレガシー BIOS のブート仕様での起動の流れ..... 403
UEFI のメニュー操作..... 380
[Unified Firmware Update] 画面..... 209
[User Administration] メニュー..... 153
[User List] 画面..... 153
[User List] 画面の表示項目..... 153
[User List] 画面のボタン..... 154

[W]
Web-UI のメニュー一覧 (Operator)..... 9
Web-UI のメニュー一覧..... 2
Web-UI のメニュー一覧 (Administrator)..... 3
Web-UI のメニュー一覧 (CE)..... 28
Web-UI のメニュー一覧 (Partition Operator)..... 15
Web-UI のメニュー一覧 (User)..... 22
[Who] 画面..... 159
[Who] 画面の表示項目..... 159
Windows Boot Manager, UEFI: Embedded DVD/CD, UEFI: DVD/CD 0 のブートに失敗し、レガシーの HDD からのブートに成功した場合..... 405
Windows Server 2008 インストール済みディスクの画面..... 459
Windows Server 2008 のブート失敗 (DVD/CD 0 の UEFI ブート成功)..... 404
Windows Server 2008 のブート成功..... 404

[あ]
アップデート用コマンド..... 285

[か]
確認ダイアログボックス..... 188
画面遷移（Boot Manager フロントページ以降）.... 381
管理 LAN 用インターフェース向けファイアーウォール設定コマンド (setmlanfw.sh)..... 375
コマンド一覧..... 354
コンポーネントの状態と背景色..... 292

[さ]
自パーティション番号取得コマンド (getpartid)..... 367
収集されるログ情報..... 347
出力ファイル形式..... 371
出力リダイレクション..... 524
シリアル番号取得コマンド (getserialno)..... 368
設定項目の一覧..... 551
設定変更後の画面表示例(Change Legacy Boot Order).... 483
設定変更後の画面表示例(Change Legacy DVD/CD Boot Priority)..... 498
設定変更後の画面表示例(Change Legacy HDD Boot Priority)..... 490
設定変更後の画面表示例(Change Legacy PXE Boot Priority)..... 505
設定用コマンド..... 232
操作ヘルプ表示部の表示内容.... 388 , 408 , 410 , 413 , 417 , 428 , 430 , 435 , 442 , 447 , 452 , 454 , 456 , 467 , 473 , 478 , 485 , 493 , 500 , 506 , 512
その他のコマンド..... 288

[た]
ターミナルソフトウェアの設定値..... 217
ダンプデバイス一覧メニュー..... 543
ダンプデバイス一覧メニューの操作ヘルプ..... 543
ダンプデバイス一覧メニューのメニュー項目..... 543
ダンプデバイス構築メニュー..... 537
ダンプデバイス構築メニューの操作ヘルプ..... 538
ダンプデバイス構築メニューのメニュー項目..... 537
ダンプデバイス設定メニュー..... 541
ダンプデバイス設定メニューの操作ヘルプ..... 542
ダンプデバイス設定メニューのメニュー項目..... 541
ダンプデバイス選択メニュー..... 539
ダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ..... 540
ダンプデバイス選択メニューのメニュー項目..... 539
ダンプデバイスメンテナンスメニュー..... 535
ダンプデバイスメンテナンスメニューの操作ヘルプ.... 535
ダンプデバイスメンテナンスメニューのメニュー項目..... 535
ディスク操作コマンド (diskctrl)..... 356
デバイス一覧..... 457
デバイスパス..... 515
デバイスパスと接続図の関係(Fibre カード)..... 520
デバイスパスと接続図の関係 (GigaLAN)..... 521
デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (1).... 517
デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (2).... 517
デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (3).... 518
デバイスパスと接続図の関係(SAS ディスク) (4).... 518
デバイスパスのパラメーター..... 515

[な]
入力できる文字数、文字種..... 464
入力文字数が少ない場合の画面..... 465

[は]
破棄ダンプデバイス選択メニュー..... 545
破棄ダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ.... 545
破棄ダンプデバイス選択メニューのメニュー項目.... 545
パラメーターの指定範囲..... 231
表示用コマンド..... 259
ファームウェア情報取得コマンド (getfwinfo)..... 370
ファイル選択画面の表示例..... 458
フィルタ定義更新コマンド (fltcpy,fltupdate)..... 364
ブートオーダーの初期状態..... 391

ブートオーダー変更後の Boot Manager..... 394
ブートオプション削除後の Boot Manager..... 396
ブートオプション追加後の Boot Manager..... 395
ブートオプションの削除画面(1)..... 467
ブートオプションの削除画面(2)..... 468
ブートオプションの削除画面(3)..... 469
ブートオプションの削除画面(4)..... 470
ブートオプションの削除画面(5)..... 471
ブートオプションの種類..... 390
ブートオプション名称変更画面の表示例(1)..... 460
ブートオプション名称変更画面の表示例(2)..... 461
ブートオプション名称変更画面の表示例(3)..... 462
ブートオプション名称変更画面の表示例(4)..... 463
ブートファイルの指定 (1)..... 507
ブートファイルの指定 (2)..... 508
ブートファイルの指定 (3)..... 509
保守モード時の Web-UI のメニュー一覧 (Administrator) 35
保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (CE)..... 48
保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Operator)..... 38
保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (Partition Operator)..... 41
保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (User)..... 45
保守モード時の Web-UI メニュー一覧 (保守者)..... 51
保守モード時の確認メッセージの表示・非表示.... 129
保守モードの種類..... 34
ポップアップ画面が表示された場合の操作ヘルプ表示部の表示内容..... 473 , 478 , 485 , 493 , 500

[ま]

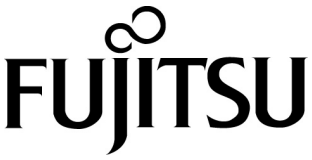
マルチダンプデバイス確認メニュー..... 549
マルチダンプデバイス確認メニューの操作ヘルプ.... 549
マルチダンプデバイス確認メニューのメニュー項目.... 549
マルチダンプデバイス選択メニュー..... 547
マルチダンプデバイス選択メニューの操作ヘルプ.... 547
マルチダンプデバイス選択メニューのメニュー項目.... 547
メインメニュー..... 532
メインメニューの操作ヘルプ..... 532
メインメニューのメニュー項目..... 532
メニュー選択部の表示内容.... 387 , 410 , 412 , 417 , 424 , 429 , 434 , 437 , 441 , 451 , 453 , 472 , 477 , 484 , 492 , 499
メニュー選択部の表示内容 446
メニュー選択ヘルプ表示の内容..... 388
メニュー選択ヘルプ表示部の表示内容.... 410 , 412 , 417 , 427 , 429 , 435 , 442 , 447 , 452 , 454 , 466 , 473 , 478 , 485 , 493 , 500 , 511

[や]

ユーザー権限..... 2
優先順位の設定変更後の画面(Change Boot Order).... 476
優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (1)..... 494
優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (2)..... 495
優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (3)..... 496
優先順位の変更(Change Legacy DVD/CD Boot Priority) (4)..... 497
優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (1)… 486
優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (2)… 487
優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (3)… 488
優先順位の変更(Change Legacy HDD Boot Priority) (4)… 489
優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (1).… 501
優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (2).… 502
優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (3).… 503
優先順位の変更(Change Legacy PXE Boot Priority) (4).… 504
優先順位の変更画面(Change Boot Order) (1)..... 474
優先順位の変更画面(Change Boot Order) (2)..... 475
優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (1).… 479
優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (2).… 480
優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (3).… 481
優先順位の変更画面(Change Legacy Boot Order) (4).… 482
ユニットの状態とアイコン..... 56

[ら]

レガシー OS ブートに失敗し、UEFI Shell 起動に成功した場合..... 405
ロゴ画面..... 510
ロゴ表示時間の変更(1)..... 513
ロゴ表示時間の変更(2)..... 514


FUJITSU